

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第3分冊)

宇津宮辻子幕府跡

覚園寺旧境内遺跡

勝長寿院遺跡

横小路周辺遺跡

平成30年3月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第3分冊)

宇津宮辻子幕府跡

覚園寺旧境内遺跡

勝長寿院遺跡

横小路周辺遺跡

平成30年3月

鎌倉市教育委員会

ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

そのため、家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多く、毎日、市内数ヶ所で発掘調査が行われている状況です。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18～21年、23年、27～29年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査27ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成30年3月30日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成29年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書(第3分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施し、報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第3分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成18・19・20年度発掘調査地点一覧	IV
調査地点位置図	V

10 宇津宮辻子幕府跡 (No.239) 小町二丁目388番2の一部地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	7
第二章 堆積土層	13
第三章 発見された遺構と遺物	15
第四章 宇津宮辻子幕府跡出土の動物遺体	87
第五章 まとめ	95

11 覚園寺旧境内遺跡 (No.435) 二階堂字会下330番9地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	183
第二章 堆積土層	188
第三章 発見された遺構と遺物	189
第四章 まとめ	234

12 勝長寿院遺跡 (No.133) 雪ノ下四丁目520番6外地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	283
第二章 堆積土層	289
第三章 発見された遺構と遺物	290
第四章 まとめ	309

13 横小路周辺遺跡 (No.259) 二階堂字向荏柄875番4地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	331
第二章 堆積土層	337
第三章 発見された遺構と遺物	338
第四章 まとめ	362

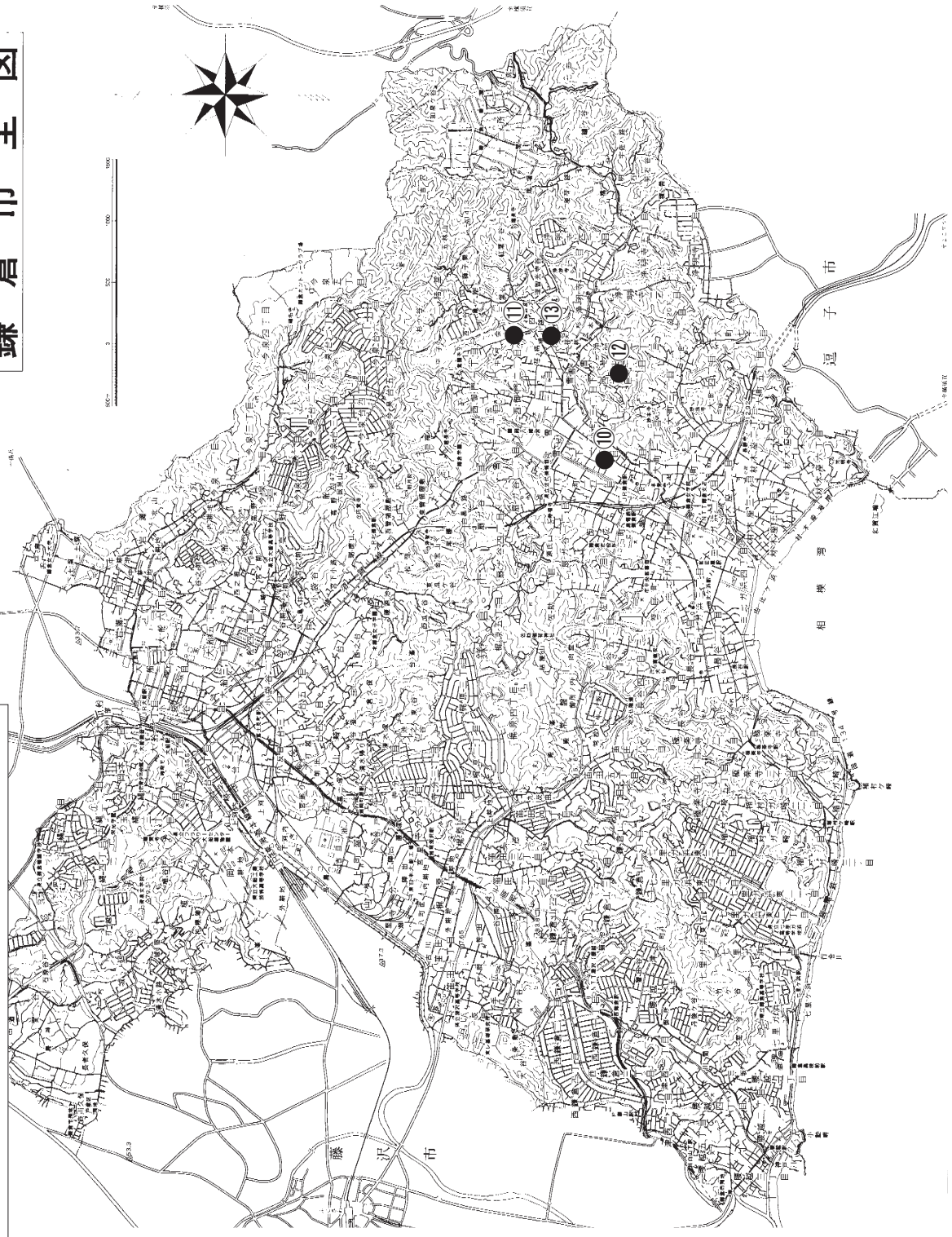
本誌掲載の平成18・19・20年度発掘調査地点一覧

第3分冊

	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積(㎡)	調 査 期 間
10	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目388番2の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	官 衙	63	平成18年8月23日 ～平成18年11月2日
11	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下330番9	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	寺 院	64	平成19年11月29日 ～平成20年2月1日
12	勝長寿院遺跡 (No.133)	雪ノ下四丁目520番6外	個人専用住宅 (地盤改良工事)	寺 院	20	平成19年11月9日 ～平成19年12月7日
13	横小路周辺遺跡 (No.259)	二階堂字向荏柄875番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	42	平成20年5月29日 ～平成20年8月1日

鎌倉市全図

本書掲載の平成18・19・20年度発掘調査地点(⑩～⑬)
※遺跡名は一覧表を参照



宇津宮辻子幕府跡 (No.239)






小町二丁目388番2の一部地点

例 言

1. 本報は「宇津宮辻子幕府跡」(神奈川県遺跡台帳No.239)内、鎌倉市小町二丁目388番2の一部地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成18年8月23日～同年11月2日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約63㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者	熊谷 満
調査員	伊藤博邦
調査補助員	村松彩美
作業員	奥山利平・中須洋二・川島仁司・金丸義一・伴 一明・永井隆三郎

(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 第四章の出土動物遺体の鑑定・執筆は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を熊谷 満、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系(座標系AREA9)を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「Uズシ」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺構・遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：	 整地・地業範囲
	 炭分布範囲
遺物：	 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
	 墨書跡
	 黒色漆髹漆遺存範囲

 - ・手描き施文が施される漆器は、文様を濃色、地を白で示した。
 - ・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：	鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬 戸：	愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：	愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：	太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである(順不同)。

熊谷 満・加藤千尋・降矢順子(鎌倉市教育委員会)
河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・深澤繁美・山田浩介(玉川文化財研究所)
14. 報告書作成にあたっては、松尾宣方氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	7
第1節 調査に至る経緯と経過	7
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	7
第3節 周辺の考古学的調査	8
第二章 堆積土層	13
第三章 発見された遺構と遺物	15
第1節 第1面の遺構と遺物	16
第2節 第2面の遺構と遺物	22
第3節 第3面の遺構と遺物	38
第4節 第4面の遺構と遺物	48
第5節 第5面の遺構と遺物	62
第6節 第6面の遺構と遺物	68
第四章 宇津宮辻子幕府跡出土の動物遺体	87
第五章 まとめ	95

挿図目次

図1 遺跡位置図	9	図16 第2面 地業1 出土遺物	23
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	10	図17 第2面 地業1・溝状遺構2	24
図3 調査区位置図	12	図18 第2面 溝状遺構2 出土遺物	25
図4 調査区配置図	12	図19 第2面 土坑3～9	27
図5 調査区土層断面図	14	図20 第2面 土坑3 出土遺物	28
図6 第1面 遺構分布図	15	図21 第2面 土坑4 出土遺物(1)	28
図7 第1面 溝状遺構1	16	図22 第2面 土坑4 出土遺物(2)	29
図8 第1面 溝状遺構1 出土遺物	16	図23 第2面 土坑5 出土遺物	31
図9 第1面 土坑1・2	17	図24 第2面 土坑7 出土遺物(1)	31
図10 第1面 土坑2 出土遺物	17	図25 第2面 土坑7 出土遺物(2)	32
図11 第1面 遺構外出土遺物(1)	18	図26 第2面 土坑7 出土遺物(3)	33
図12 第1面 遺構外出土遺物(2)	19	図27 第2面 土坑7 出土遺物(4)	34
図13 第1面 遺構外出土遺物(3)	20	図28 第2面 土坑8 出土遺物	34
図14 攪乱出土遺物	21	図29 第2面 土坑9 出土遺物	34
図15 第2面 遺構分布図	22	図30 第2面 遺構外出土遺物(1)	35

図31	第2面 遺構外出土遺物(2) ……	36	図60	第4面 土坑26出土遺物 ……	58
図32	第2面 遺構外出土遺物(3) ……	37	図61	第4面 遺構外出土遺物(1) ……	59
図33	第2面 遺構外出土遺物(4) ……	38	図62	第4面 遺構外出土遺物(2) ……	60
図34	第3面 遺構分布図 ……	39	図63	第4面 遺構外出土遺物(3) ……	61
図35	第3面 礎石建物1 ……	40	図64	第5面 遺構分布図 ……	62
図36	第3面 地業2 ……	41	図65	第5面 板組遺構1 ……	63
図37	第3面 竪穴状遺構1 ……	42	図66	第5面 板組遺構1出土遺物 ……	64
図38	第3面 竪穴状遺構1出土遺物 ……	42	図67	第5面 杭列1 ……	65
図39	第3面 土坑10~15 ……	44	図68	第5面 土坑27~29 ……	66
図40	第3面 土坑10出土遺物 ……	45	図69	第5面 土坑28出土遺物 ……	66
図41	第3面 土坑11出土遺物 ……	45	図70	第5面 遺構外出土遺物 ……	67
図42	第3面 土坑15出土遺物 ……	45	図71	第6面 遺構分布図 ……	68
図43	第3面 ピット1出土遺物 ……	45	図72	第6面 溝状遺構4出土遺物 ……	69
図44	第3面 遺構外出土遺物(1) ……	46	図73	第6面 溝状遺構4 ……	69
図45	第3面 遺構外出土遺物(2) ……	47	図74	第6面 土坑30~40 ……	71
図46	第3面 遺構外出土遺物(3) ……	48	図75	第6面 土坑31出土遺物 ……	72
図47	第4面 遺構分布図 ……	49	図76	第6面 土坑32出土遺物 ……	72
図48	第4面 溝状遺構3 ……	50	図77	第6面 土坑37出土遺物 ……	74
図49	第4面 柵列1 ……	51	図78	第6面 土坑41~47 ……	76
図50	第4面 柵列1出土遺物 ……	51	図79	第6面 土坑43出土遺物 ……	77
図51	第4面 土坑16~22 ……	53	図80	第6面 土坑46出土遺物 ……	77
図52	第4面 土坑23~26 ……	55	図81	第6面 ピット14~17・29・33・35・41・ 48・49・57・87~89・109・126・127 ……	80
図53	第4面 土坑16出土遺物 ……	56	図82	第6面 ピット出土遺物(1) ……	82
図54	第4面 土坑19出土遺物 ……	56	図83	第6面 ピット出土遺物(2) ……	83
図55	第4面 土坑20出土遺物 ……	56	図84	第6面 遺構外出土遺物(1) ……	84
図56	第4面 土坑21出土遺物 ……	57	図85	第6面 遺構外出土遺物(2) ……	85
図57	第4面 土坑22出土遺物 ……	57	図86	第6面 遺構外出土遺物(3) ……	86
図58	第4面 土坑23出土遺物 ……	58			
図59	第4面 土坑25出土遺物 ……	58			

表 目 次

表1	宇津宮辻子幕府跡 調査地点一覧 ……	11	表6	第5面 出土遺物観察表 ……	119
表2	第1面 出土遺物観察表 ……	98	表7	第6面 出土遺物観察表 ……	121
表3	第2面 出土遺物観察表 ……	101	表8	遺構計測表 ……	124
表4	第3面 出土遺物観察表 ……	110	表9	出土遺物一覧表 ……	125
表5	第4面 出土遺物観察表 ……	114			

図 版 目 次

<p>図版 1 1. 北区西壁土層断面(南東から)・・・133 2. 南区西壁土層断面(南東から)・・・133</p> <p>図版 2 1. 北区第1面全景(北西から)・・・134 2. 南区第1面全景(北西から)・・・134</p> <p>図版 3 1. 北区第2面全景(北西から)・・・135 2. 南区第2面全景(北西から)・・・135</p> <p>図版 4 1. 第1面溝状遺構1、第2面地業1 (南西から)・・・136 2. 第2面溝状遺構2(北東から)・・・136 3. 第2面土坑3(南西から)・・・136 4. 第2面土坑4北側(南東から)・・・136 5. 第2面土坑4南側(北西から)・・・136 6. 第2面土坑7(南西から)・・・136 7. 第2面土坑7下層遺物出土状態 (北東から)・・・136 8. 第2面土坑9(南から)・・・136</p> <p>図版 5 1. 北区第3面全景(北西から)・・・137 2. 南区第3面全景(北西から)・・・137</p> <p>図版 6 1. 第3面地業2西側(北西から)・・・138 2. 第3面地業2ピット(北東から)・・・138 3. 第3面土坑10(南東から)・・・138 4. 第3面土坑11(南西から)・・・138 5. 第3面土坑13(北西から)・・・138 6. 第3面土坑15(西から)・・・138 7. 第3面北区南西部遺構外遺物出土 状態(東から)・・・138 8. 第3面北区南東部遺構外遺物出土 状態(南西から)・・・138</p> <p>図版 7 1. 北区第4面全景(北西から)・・・139 2. 南区第4面全景(北西から)・・・139</p> <p>図版 8 1. 第4面溝状遺構3(北東から)・・・140 2. 第4面柵列1(南から)・・・140 3. 第4面柵列1杭出土状態 (南から)・・・140 4. 第4面土坑16遺物出土状態 (北東から)・・・140 5. 第4面土坑19(北西から)・・・140</p>	<p>6. 第4面土坑23(北東から)・・・140 7. 第4面土坑23・25上層遺物出土状態 (南から)・・・140 8. 第4面土坑25下層遺物出土状態 (北西から)・・・140</p> <p>図版 9 1. 北区第5面全景(北西から)・・・141 2. 南区第5面全景(北西から)・・・141</p> <p>図版10 1. 第5面板組遺構1(北東から)・・・142 2. 第5面板組遺構1中央部 (北西から)・・・142 3. 第5面杭列1(西から)・・・142</p> <p>図版11 1. 北区第6面全景(北西から)・・・143 2. 南区第6面全景(北西から)・・・143</p> <p>図版12 1. 第6面溝状遺構4北側(南から)・・・144 2. 第6面土坑31(南西から)・・・144 3. 第6面土坑33(北西から)・・・144 4. 第6面土坑36～38(東から)・・・144 5. 第6面土坑43(南西から)・・・144 6. 第6面土坑46(北東から)・・・144 7. 第6面ピット95漆器椀出土状態 (北東から)・・・144 8. 第6面遺構外下駄出土状態 (北西から)・・・144</p> <p>図版13 1. 第1面溝状遺構1出土遺物・・・145 2. 第1面土坑2出土遺物・・・145 3. 第1面遺構外出土遺物(1)・・・145</p> <p>図版14 1. 第1面遺構外出土遺物(2)・・・146</p> <p>図版15 1. 第1面遺構外出土遺物(3)・・・147</p> <p>図版16 1. 第1面遺構外出土遺物(4)・・・148 2. 攪乱出土遺物(1)・・・148</p> <p>図版17 1. 攪乱出土遺物(2)・・・149 2. 第2面地業1出土遺物・・・149 3. 第2面溝状遺構2出土遺物・・・149</p> <p>図版18 1. 第2面土坑出土遺物(1)・・・150</p> <p>図版19 1. 第2面土坑出土遺物(2)・・・151</p> <p>図版20 1. 第2面土坑出土遺物(3)・・・152</p> <p>図版21 1. 第2面土坑出土遺物(4)・・・153</p>
---	---

図版22	1. 第2面 土坑出土遺物(5)……………	154	図版32	1. 第4面 土坑出土遺物(2)……………	164
図版23	1. 第2面 土坑出土遺物(6)……………	155	図版33	1. 第4面 土坑出土遺物(3)……………	165
図版24	1. 第2面 土坑出土遺物(7)……………	156	図版34	1. 第4面 遺構外出土遺物(1)………	166
	2. 第2面 遺構外出土遺物(1)………	156	図版35	1. 第4面 遺構外出土遺物(2)………	167
図版25	1. 第2面 遺構外出土遺物(2)………	157	図版36	1. 第4面 遺構外出土遺物(3)………	168
図版26	1. 第2面 遺構外出土遺物(3)………	158	図版37	1. 第5面 板組遺構1出土遺物………	169
図版27	1. 第2面 遺構外出土遺物(4)………	159		2. 第5面 土坑28出土遺物……………	169
	2. 第3面 竪穴状遺構1出土遺物		図版38	1. 第5面 遺構外出土遺物……………	170
	(1)……………	159	図版39	1. 第6面 溝状遺構4出土遺物………	171
図版28	1. 第3面 竪穴状遺構1出土遺物			2. 第6面 土坑出土遺物(1)……………	171
	(2)……………	160	図版40	1. 第6面 土坑出土遺物(2)……………	172
	2. 第3面 土坑・ピット出土遺物………	160	図版41	1. 第6面 ピット出土遺物(1)………	173
	3. 第3面 遺構外出土遺物(1)………	160	図版42	1. 第6面 ピット出土遺物(2)………	174
図版29	1. 第3面 遺構外出土遺物(2)………	161		2. 第6面 遺構外出土遺物(1)………	174
図版30	1. 第3面 遺構外出土遺物(3)………	162	図版43	1. 第6面 遺構外出土遺物(2)………	175
図版31	1. 第4面 柵列1出土遺物……………	163	図版44	1. 第6面 遺構外出土遺物(3)………	176
	2. 第4面 土坑出土遺物(1)……………	163			

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市小町二丁目388番2の一部地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である宇津宮辻子幕府跡（神奈川県遺跡台帳No239）の範囲内にあたり、建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査を実施することになり、平成18年4月18日～同年4月19日に約6㎡の試掘調査区を設定して調査を行った。その結果、中世の遺構が開発予定地に広がっていることが判明し、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議した。その結果、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される範囲の約63㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、熊谷満が現地調査を担当した。調査期間は平成18年8月23日～同年11月2日である。

発掘調査は掘削に伴う残土を場内処理する都合から調査区を南北に区分し、便宜上南側を南区、北側を北区と呼称した。調査は南区から実施することとし、まず重機により30～60cmほどの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、中世に属する第1～6面の6面にわたる遺構確認面が検出され、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。南区の調査終了後に重機による埋め戻しを行い、その後同様の手順で北区の調査を実施した。この際に南区の残土が崩壊して北区へ流入することを防ぐため、北区と南区の間を50cmほど掘り残して山留めとした。また北区では第6面の調査終了後にトレンチを設定し、基盤層以下の土層堆積状況を確認した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系AREA 9）に準じた、鎌倉市四級基準点2点（ $X = -75761.102$ 、 $Y = -25154.951$ ）、（ $X = -75790.526$ 、 $Y = -25169.923$ ）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No53222（標高13.890m）を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

本遺跡名である「宇津宮辻子幕府跡」（No239）は、旧鎌倉市街地のほぼ中心地区に位置し、鶴岡八幡宮の二ノ鳥居から本殿へと続く、若宮大路東側の歩道に面して所在している。また、幕府が置かれたことに由来する遺跡名でもある。遺跡に隣接する若宮大路は由比ヶ浜へと一直線に延び、参道の延長は約1.8kmに及ぶ。この大路は、源頼朝が平安京の朱雀大路を参考にして鎌倉の都市計画の第一歩としたものとされ、本遺跡に隣接する二ノ鳥居と三ノ鳥居の間に残る段葛は頼朝が寿永元（1182）年に妻政子の安産祈願のために造営・整備し、新たな南北ラインの幹線道路を誕生させた。この道路幅は30m前後、両側には木組みの護岸構造をもつ幅約3mの側溝が設けられていたことが近年の発掘調査で明らかにされた（石井・大三輪編 1989、河野 1995）。

遺跡範囲は、若宮大路に面する西辺が二ノ鳥居のやや北から段葛を進んだ角地までの約250m間、北辺は角地にあたる清川病院の北側路地で小町大路に至るまでの約190m間、東辺は小町大路を南下した約230m間、南辺は若宮大路と小町大路間を東西に結んだ路地で宇津宮辻子と推定される小路である。これら四辺を結んだ台形の範囲が県遺跡台帳に記載されている「宇津宮辻子幕府跡」（No239）である。

本調査地点は、この広範囲な地区の南辺寄りにあたり、すぐ北側には宇津宮稲荷神社が鎮座し、辻子幕府跡の石碑がその面影を残す。地番表記では鎌倉市小町2丁目388番2の一部に所在し、現地表面の標高は約8.3mである。また、小町大路の東側には十二所の朝比奈峠付近を源流とする滑川が流下して、由比ヶ浜と材木座海岸の間で相模湾に注ぐ。

遺跡名称ともなった「宇津宮辻子御所(幕府)」の位置や規模については、『吾妻鏡』記載の史料をもとに原廣志氏(原・小林ほか 1996・1997、須佐・原ほか 1997)や佐藤仁彦氏(原・佐藤 1996)、宇都洋平氏(宇都 2010)などが本遺跡別地点の報告の中で先学の研究成果(石井・大三輪編 1989、伊藤 1991、河野 1995など)を踏まえて紹介している。ここでは源頼朝の開府以降、御所の変遷について簡単に触れておきたい。

源頼朝は、治承4(1180)年12月に鎌倉へ入り、幕府を設置して本格的な御所を構えた。この場所が鎌倉郷の地に造営された「大倉御所」である。現在の鶴岡八幡宮の東方、頼朝墓所の南側に位置し、嘉禄元(1225)年に宇津宮辻子に將軍御所が移されるまで、源氏三代(頼朝・頼家・実朝)の幕政の中心として機能していた。承久元(1219)年、3代將軍源実朝が暗殺され、源氏の正統が絶えたため頼朝の遠縁にあたる藤原頼経が鎌倉に迎えられた。頼経は同じ大倉にあった北条義時邸内に新造された御所へ入るが、その後、嘉禄元(1225)年に元服、翌年に征夷大將軍に任ぜられ、執権北条泰時が新將軍の御所として「宇津宮辻子御所(幕府)」を造営するが、わずか11年の短期間で幕を閉じ、嘉禎2(1236)年には「若宮大路幕府」へ移転される。その後、幕府滅亡の元弘3(1333)年までの98年間、鎌倉幕府將軍の御所とされた。遺跡名称ともなった「宇津宮辻子御所(幕府)」の位置や規模については不明な点が多いが、政治的な事象を踏まえると、これらの移転は極めて象徴的な出来事であるといえよう。

第3節 周辺の考古学的調査

本調査地点周辺の発掘調査例は、鎌倉市内では他地域の様相と比べると、特に際立った存在といえる。宇津宮辻子幕府跡の範囲内では10例程度であるが、隣接する若宮大路を中軸としてその東西両側を含んだ「若宮大路周辺遺跡群」(No.242)は100例近い調査事例を数え、調査内容や成果はまさに「中世都市鎌倉」と称すべき都市構造、都市景観を呈している。特に近年の鎌倉駅周辺および若宮大路周辺地域の再開発に伴う発掘調査は、地中に埋没していた往時の姿を彷彿とさせる空間が姿を現しつつある。本遺跡の北側には「北条小町邸跡(泰時・時頼邸)」(No.282)が接し、若宮大路を挟んで北西側には「北条時房・顕時邸跡」(No.278)が広がっている。紙幅の関係から個々の概要にまでは踏み込むことはできないが、本遺跡を中心に主な調査地点について簡単に触れておきたい。

当遺跡では本地点以外に、若宮大路沿いに5地点(①・③・⑤・⑥・⑨)、そのやや内側に1地点(②)、小町大路沿いに2地点(④・⑦)、宇津宮辻子と推定される小路に面する南端に1地点(⑧)の調査が行われている。

若宮大路沿いの地点である①小町二丁目366番1他地点(田畑 1991)では、中世の遺構面は近世の掘削によって失われたと考えられるが、地山面からは調査地点の西端で若宮大路の東側溝とそれに直交する溝、掘立柱建物、柵列、井戸などが検出され、出土した遺物から13世紀初頭から15世紀初頭の年代が示されている。⑤小町二丁目361番1地点(原・小林ほか 1997、須佐・原ほか 1997)でも中世の遺構面は失われていたが、若宮大路の東側溝や井戸、土坑などが検出された。近接する⑨小町二丁目360番1地点、⑥小町二丁目354番2地点も若宮大路の東側溝に関連する遺跡と考えられる。やや内側の調査地点となる②小町二丁目354番12外地点(熊谷・浜野ほか 1993)では2面の遺構面が確認され、掘立柱建物や柱穴、



図1 遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字は表1の番号に対応する。

図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

道路、溝、土坑などが重複して検出された。調査区の中央部では若宮大路に直交する布掘りの柵列が確認され、この柵列の南北方向に建物や土坑が密集していた。これらの時期は13世紀前葉から中葉と推定された。③小町二丁目354番2地点(継 1993)では、柱間が5間を越す掘立柱建物や、長期間の重複関係を想起させる多数の柱穴群、渡廊を想起させる柱穴列など、明らかに町屋とは異なる密度の高い格式のある遺構群の存在がうかがわれる。本地点では、若宮大路に直交する溝や関連する地業、礎石建物、柱穴などが重複して検出された。遺構面は6面に及び、最下層の第6面の時期は13世紀初頭から前葉、最上面の第1面は大卒14～15世紀代である。

一方、小町大路に面した④小町二丁目389番1地点(原・佐藤 1996)では5面の遺構面が確認され、掘立柱建物や柱穴列、多数の柱穴、井戸、土坑などが遺物とともにまとまって確認されている。これらのうち中世の遺構は13世紀前葉から15世紀前葉と推定される。13世紀前葉から中葉にあたる第4面からは小町大路と若宮大路にそれぞれ平行する掘立柱建物が検出され、このような建物配置は第3面でもみられ、また往時の道筋に関する調査成果として、小町大路の路肩かと思われる溝状の落ち込みも確認されている。同様の調査である⑦小町二丁目374番1地点(原 1998)では、小町大路西側の木組み側溝および若宮大路と平行する木組み溝が検出されており、これらの溝は町割復原の資料に供されると推定される。

宇津宮辻子に面すると推定される⑧小町二丁目390番2外地点(宇都 2010)では、建物と推定される遺構は検出されず、井戸や土坑などが多く検出されたことから、屋敷地の中でも裏手であったと推測されている。

表1 宇津宮辻子幕府跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目388番2の一部地点	
①	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目366番1他地点	田畑 1991
②	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目354番12外地点	熊谷・浜野ほか 1993
③	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目354番2地点	継 1993
④	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目389番1地点	原・佐藤 1996
⑤	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目361番1地点	原・小林ほか 1996・1997、須佐・原ほか 1997
⑥	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目354番2地点	
⑦	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目374番1地点	原 1998
⑧	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目390番2外地点	宇都 2010
⑨	宇津宮辻子幕府跡 (No.239)	小町二丁目360番1地点	

※遺跡No.は神奈川県遺跡台帳による。

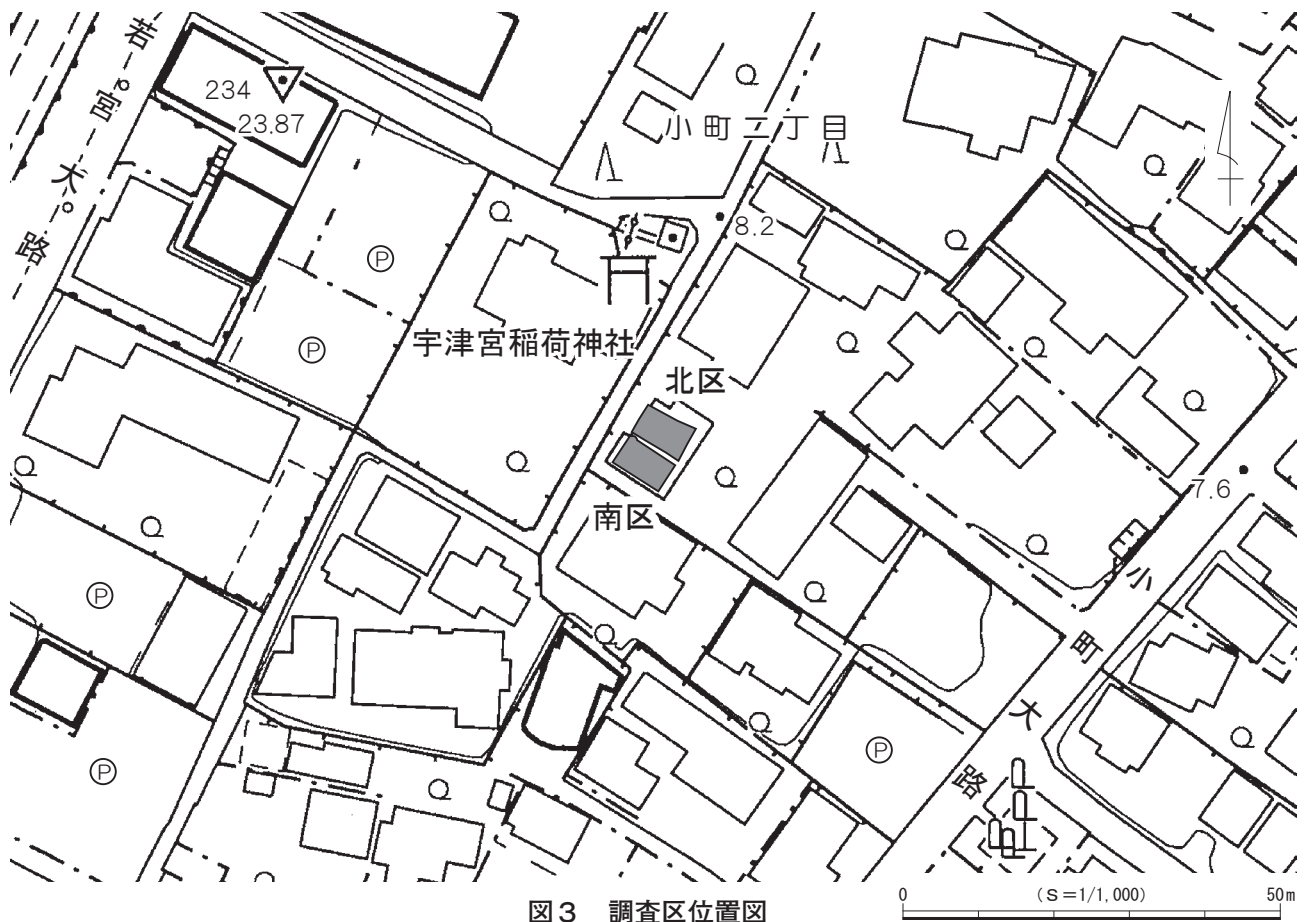


図3 調査区位置図

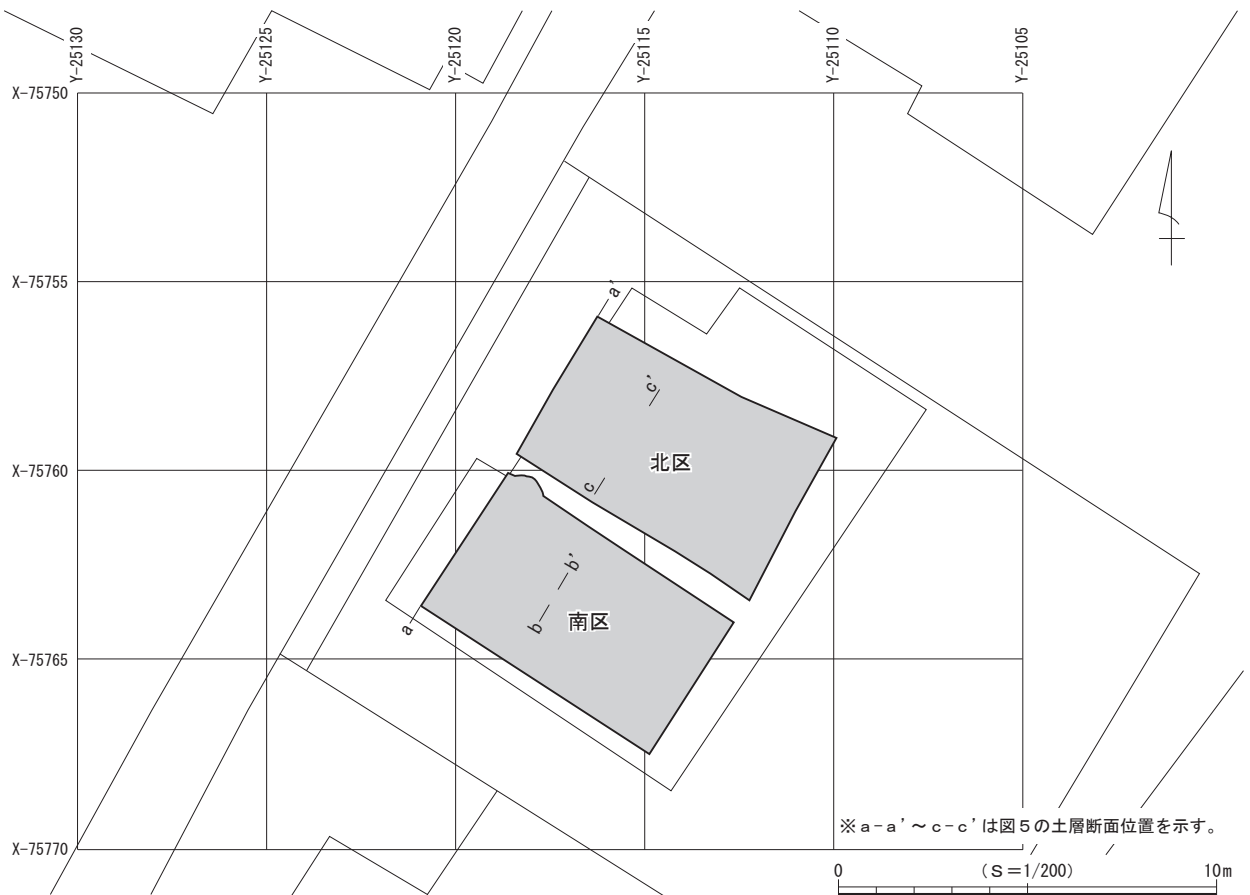


図4 調査区配置図

第二章 堆積土層

今回の調査では、第1～6面までの合計6面にわたる遺構確認面が認められた。ここでは調査区西壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構、また、平面で確認されたが土層断面では不明瞭であった遺構がいくつか認められた。

表土層は厚さ約30～60cmを測り、均一な厚さではない。住民の話によれば、かつて敷地の西側に接する道路の排水溝を掘削した際にその残土を用いて敷地内に盛り土したといい、表土層中には中世の遺物も多く混入していた。

表土層を除去すると、標高約7.9mで2層とした泥岩と中世の遺物を含む暗褐色土が現れ、この上面を第1面とした。層厚は10～50cm前後である。近世以降、現代にかけて削平を受けており、上面は荒れている。

第2面の遺構は3層上面で確認した。3層は調査区北端部では標高約7.7m、調査区南端部では標高約7.4mで露出し、層厚は10～30cm前後である。泥岩粒・小泥岩ブロックを少量含む暗褐色土で、上面は部分的に締まりが強い。

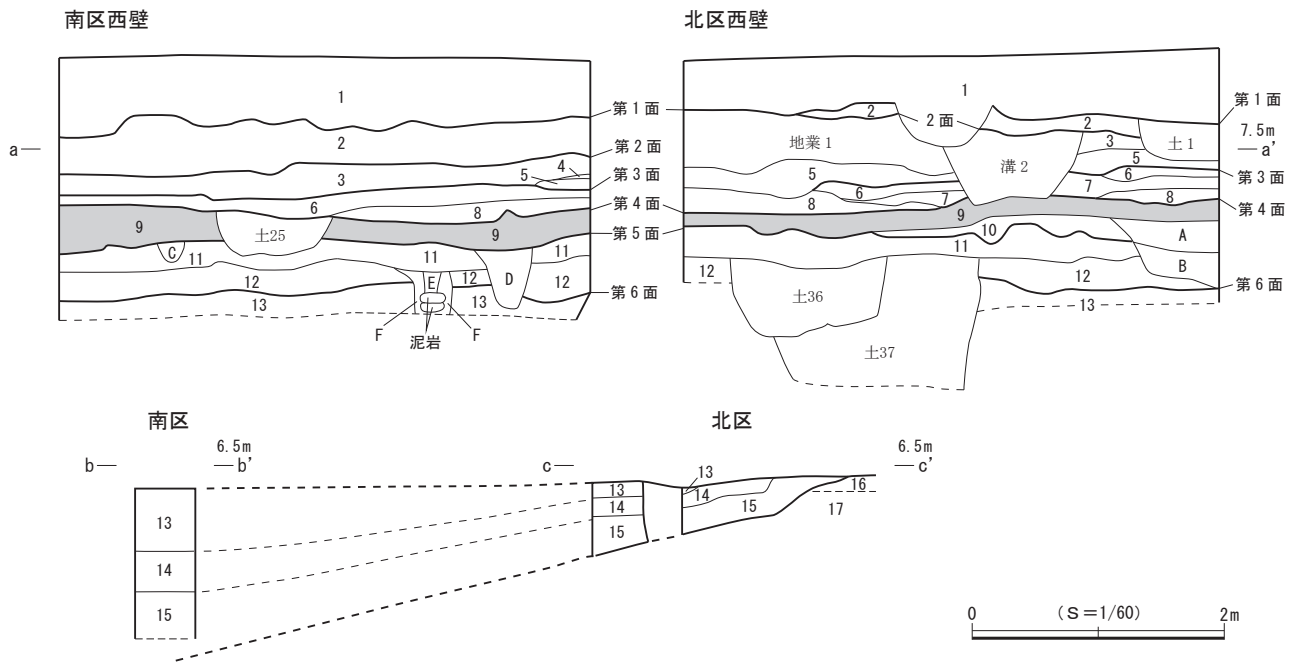
第3面の遺構は6層上面で確認した。確認面の標高は約7.3mで、層厚は10～15cm前後である。泥岩粒を少量含み砂が混入する暗褐色土で、上面には部分的に灰褐色砂が堆積している。調査区北半部ではこの上層に炭をやや多く含む黒褐色土が堆積している。

第4面の遺構は9層上面で確認した。確認面の標高は約7.0～7.1mで、層厚は15～40cm前後である。泥岩を多く含む黒灰色粘質土で、上面は泥岩による整地面となっている。面直上には部分的に薄く炭層が堆積する。

第5面の遺構は11層上面で確認した。確認面の標高は約6.9mで、層厚は15～30cm前後である。小泥岩ブロックを少量含む黒灰色粘質土で、粘性が強い。上面は部分的に泥岩整地面となっている。

第6面の遺構は13層上面で確認した。確認面の標高は約6.5mで、層厚は約25cmを確認した。締まりが強く混入物を含まない青黒色粘質土であり、中世基盤層となる自然堆積層である。この上層には、本層と茶褐色有機質土との互層が約20cmの厚さで堆積しており、第6面で検出した遺構の多くがこの層の上面から掘り込まれたものであることが堆積土層の観察から確認されている。

また第6面では、北区北西部で締まりの強い黄褐色細粒砂層が露出するため、トレンチを設定して基盤層以下の土層堆積状況を確認している。この黄褐色細粒砂層の下層には泥岩粒が混入する締まりの強い青灰色細粒砂層が堆積していることが確認され、この2枚の砂層の上に粘質土が堆積していた。砂層は南へ下る傾斜を呈するため、この粘質土も南側ほど厚く堆積している。南区で遺構の壁面を利用して堆積土の観察を行ったところ、粘土層は少なくとも1.2m以上の深さを測り、北区でみられた砂層は確認されなかった。



- 1層 表土
- 2層 暗褐色土 泥岩粒・泥岩ブロックをやや多く含む。かわらけ細片をやや多く含む
中世遺物包含層。(第1面)
- 3層 暗褐色土 泥岩粒・泥岩ブロックを少量含む。上面は部分的に締まり強い。(第2面)
- 4層 暗褐色土 3層に近似。炭化物・泥岩粒をやや多く含む。
- 5層 黒褐色土 炭をやや多く、泥岩粒をわずかに含む。
- 6層 暗褐色土 泥岩粒を少量含む。細砂粒が少量混入する。上面には部分的に灰褐色砂が堆積する。(第3面)
- 7層 暗褐色土 小泥岩ブロックを少量含む。炭化物をやや多く含む。細砂粒が少量混入する。
- 8層 暗褐色土 泥岩粒・小泥岩ブロックを多く含む。上位は部分的に泥岩を密に含む整地層となる。
- 9層 黒灰色粘質土 8層に近似する泥岩整地層。上面には部分的に薄く炭層が堆積する。(第4面)
- 10層 黒褐色粘質土 小泥岩ブロック少量、炭化物多く含む。
- 11層 黒灰色粘質土 小泥岩ブロックを少量含み粘性強い。上位は泥岩粒を密に含む部分が認められる。(第5面)
- 12層 青黑色粘質土 地山土と腐植土質の茶褐色土が互層状に堆積する。炭を少量含む。締まりあり。
- 13層 青黑色粘質土 粘性強い。締まり強い。(第6面)
- 14層 黒褐色土 青白色シルト粒を含む。締まり強い。
- 15層 暗褐色粘質土 白色シルト粒を含む。締まり強い。
- 16層 黄褐色砂 細砂粒。締まり強い。
- 17層 青灰色砂 細砂粒。泥岩粒混入。締まり強い。
- 〔遺構〕
- A層 黒褐色土 炭化物層。茶褐色有機質土を含む。
- B層 茶褐色有機質土 黒褐色粘質土混入。
- C層 黒灰色粘質土 小泥岩ブロック・かわらけ細片を少量含む。
- D層 黒灰色粘質土 上層に泥岩ブロックを1点含む。締まりやや弱い。
- E層 黒色土 炭層。柱が立ち腐れたか、あるいは柱の抜き取り穴に炭が流れ込んだものか。締まり弱い。
- F層 黒灰色粘質土 炭化物が混入する粘性の強い土。E層直下に泥岩が重ねられ、礎石として使用された可能性が考えられる。

図5 調査区土層断面図

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、残土処理の都合から調査区を南北に分けて北区・南区と呼称し、その調査区の間には崩落防止のため幅50~70cmほどの未調査部分を設けている。

両調査区では遺構確認面が6面捉えられた。検出した遺構は、礎石建物1棟、溝状遺構4条、地業2カ所、竪穴状遺構1基、柵列1列、板組遺構1基、杭列1列、土坑47基、ピット142基である(図6)。遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して82箱が出土した。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1~6面)に説明する。

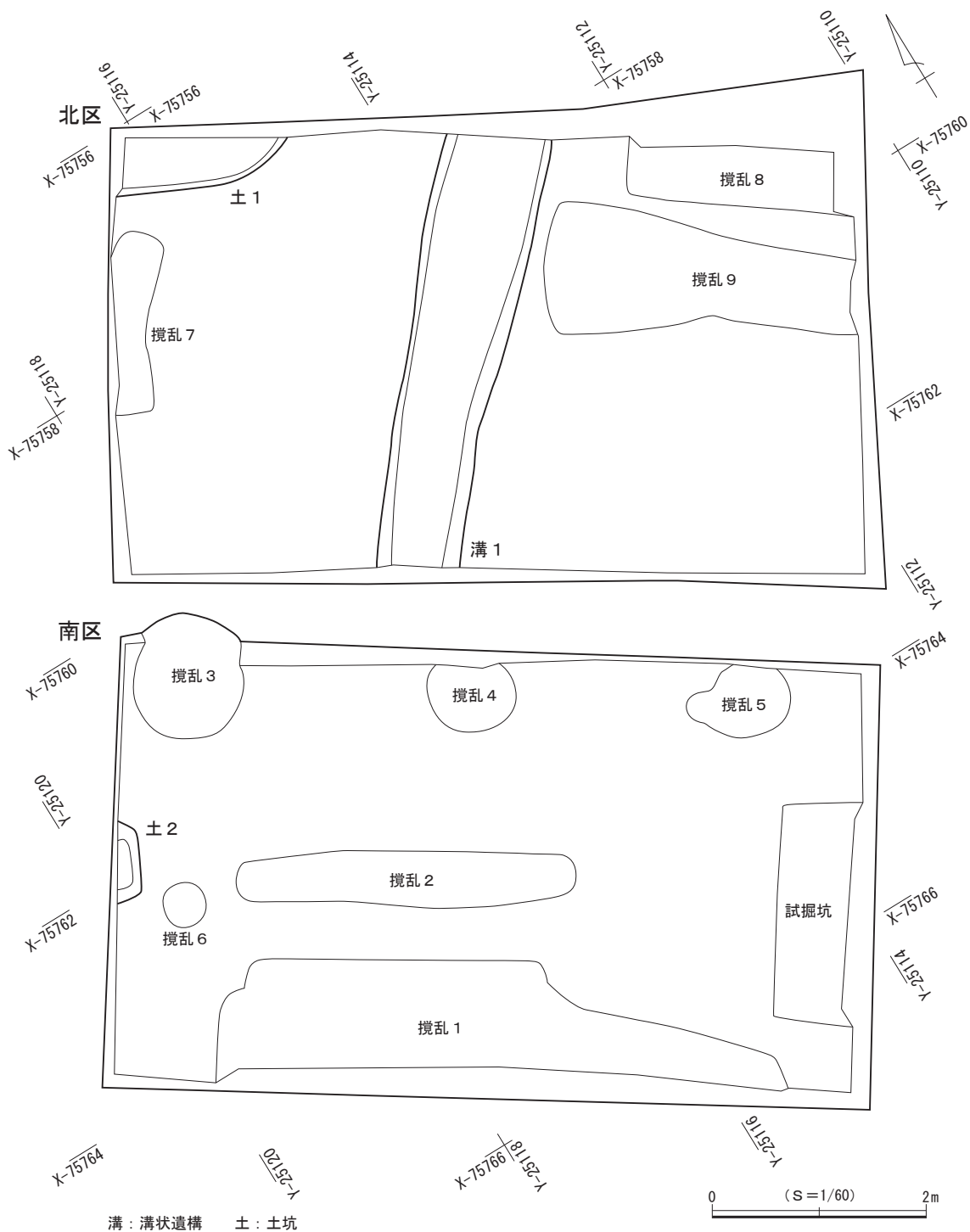


図6 第1面 遺構分布図

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の2層上面で確認し、確認面の標高は約7.9mである。2層は泥岩粒・泥岩ブロックをやや多く含む暗褐色土で、この層を掘り込んで遺構が構築されている。表土直下であることから上面は凹凸があり、現代の攪乱が多い。溝状遺構1条、土坑2基を検出したが、遺構の分布は散漫である。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土している。遺物量が少なく、本面の詳細な年代を特定することは困難であるが、大枠として14～15世紀代に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第1面では、北区で1条を検出した。北区中央を直線的に縦断し、両端は調査区外に延びている。南区では検出されておらず、全容は把握できていない。

溝状遺構1 (図7)

北区中央に位置し、直線状に北東-南西方向に延びる。第2面で検出したが、調査区北壁の土層断面を観察したところ、第1面に帰属することが確認された。両端が調査区外に及んでいるが、南区では検出されていない。調査時に本址南側の延長部分について、南区で第2面を検出した標高が本址底面の標高より低いことから検出できなかったと考えたが、南区北壁の土層断面では本址が確認されていないことから、北区と南区の間で本址が途切れていた可能性も考えられる。規模は現存長4.07m、幅0.77～1.01m、深さ50cmを測り、主軸方位はN-41°-Eを指す。壁はわずかに外傾して立ち上がり、断面形は逆台形に近い。底面の標高は北端で7.36m、中央で7.41m、南端で7.34mを測り、ほぼ平坦である。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色土である。

出土遺物 (図8)

遺物はかわらけ72点、陶器18点、土器2点、金属製品1点が出土し、このうち3点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。



図7 第1面 溝状遺構1

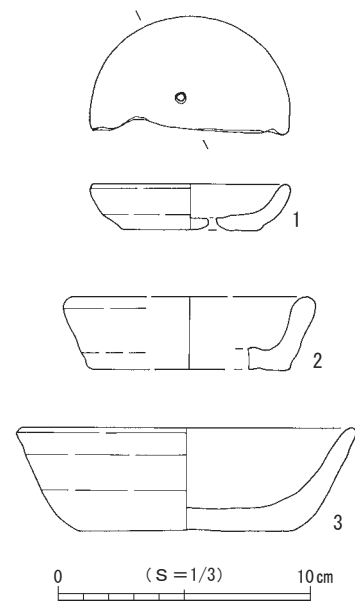


図8 第1面 溝状遺構1 出土遺物

(2) 土 坑

第1面では、北区で1基、南区で1基の合計2基を検出した。いずれも調査区西壁際に位置し、大部分が調査区外に及んでいるとみられ、全容は把握できていない。

土坑1 (図9)

北区北西隅に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと推定される。規模は長軸現存長1.52m、短軸現存長54cm、深さ21cmを測り、坑底面の標高は7.34mである。覆土は泥岩粒・小泥岩ブロックを少量含む締まりの弱い暗褐色土である。

遺物は出土しなかった。

土坑2 (図9)

南区西壁の中央に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は隅丸方形に近く、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと推定される。規模は長軸現存長77cm、短軸現存長23cm、深さ23cmを測り、坑底面の標高は7.47mである。

出土遺物 (図10)

遺物はかわらけ2点、陶器1点、石製品1点が出土し、すべて図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけ、3は常滑窯産の甕、4は砥石である。

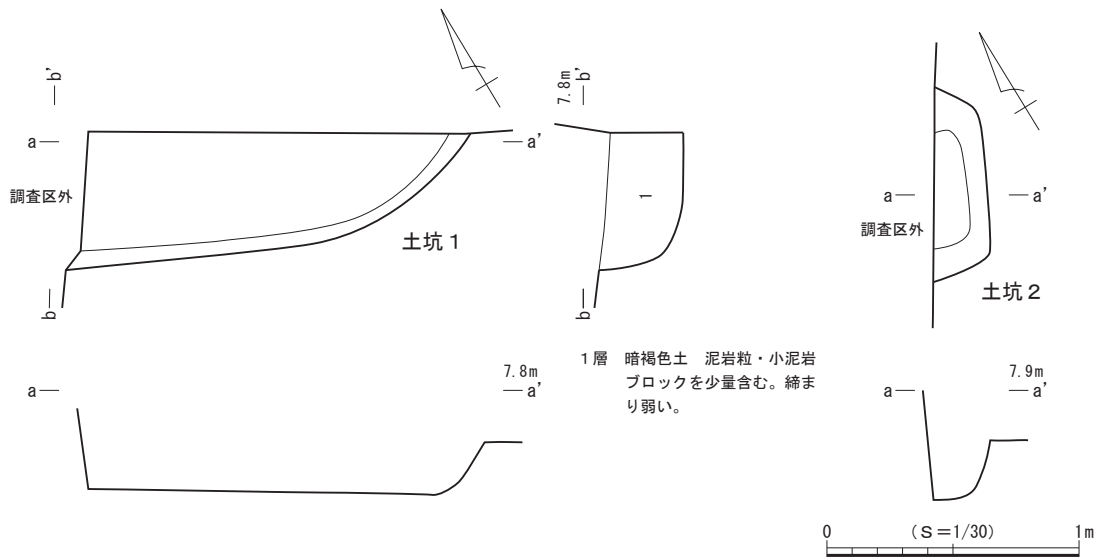


図9 第1面 土坑1・2

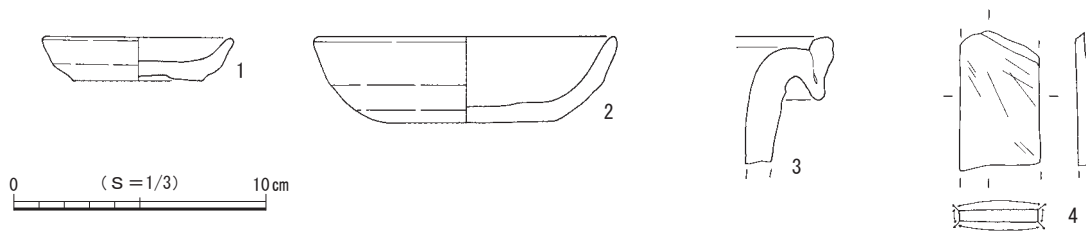


図10 第1面 土坑2 出土遺物

(3) 遺構外出土遺物 (図11~13)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち94点を図示した。

1は白かわらけ、2~73はロクロ成形によるかわらけである。1・35・46・50・56・60・63には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。11には焼成後穿孔が施されている。また、73は口縁部を打ち欠き使用されている。74~77は舶載磁器類で、いずれも龍泉窯系青磁である。74は碗Ⅱ類、75は小碗、76は皿、77は瓶である。78~89は陶器類である。78~81は瀬戸窯産の製品で、78が片口鉢、79が鉢と思われる製品、80が卸皿、81が花瓶である。82~88は常滑窯産の製品で、82~85が甕、86が片口鉢Ⅰ類、87・88が片口鉢Ⅱ類である。89は山茶碗窯系の片口鉢である。90~93は石製品で、いずれも砥石である。94は平瓦である。

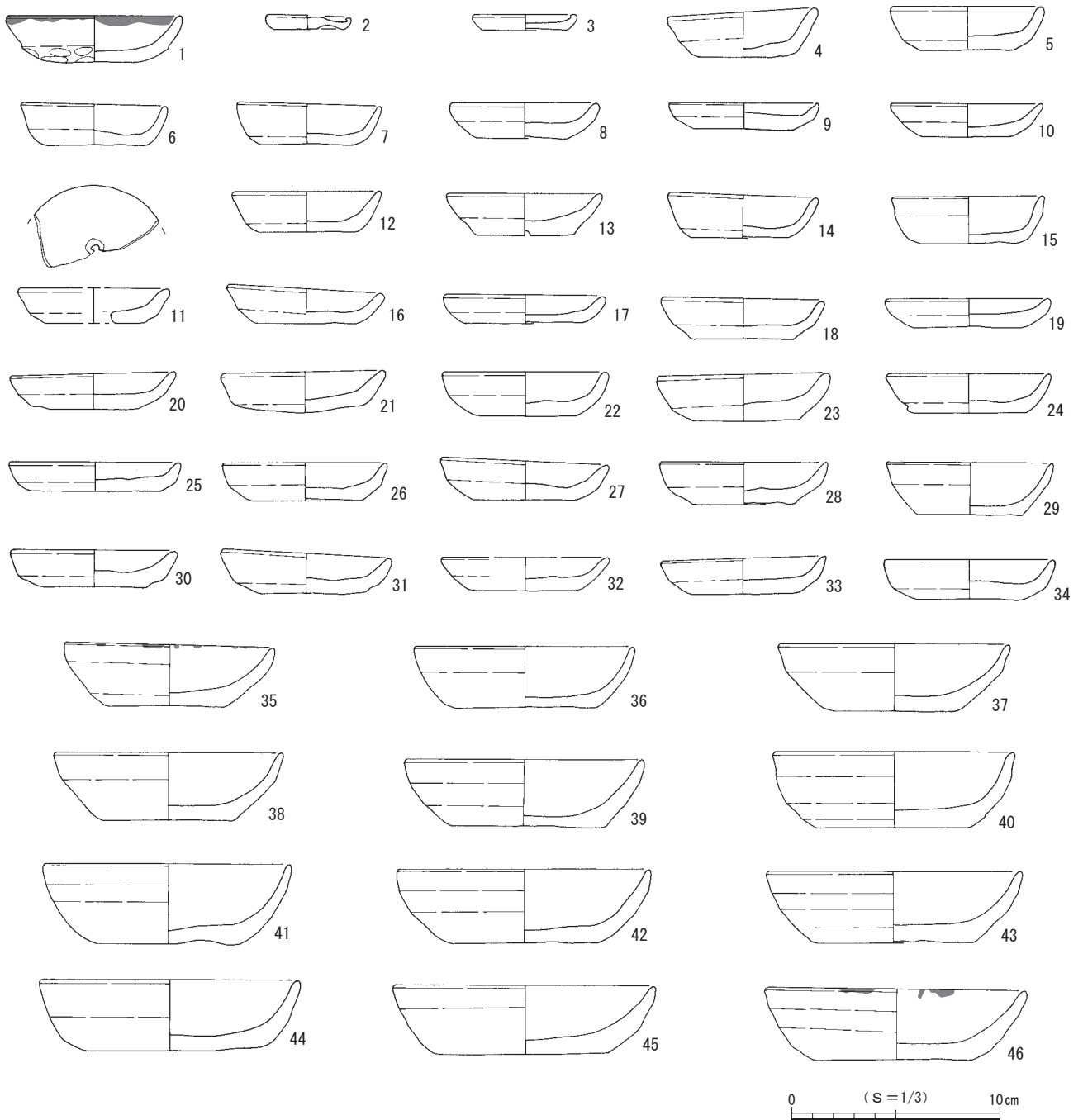


図11 第1面 遺構外出土遺物 (1)

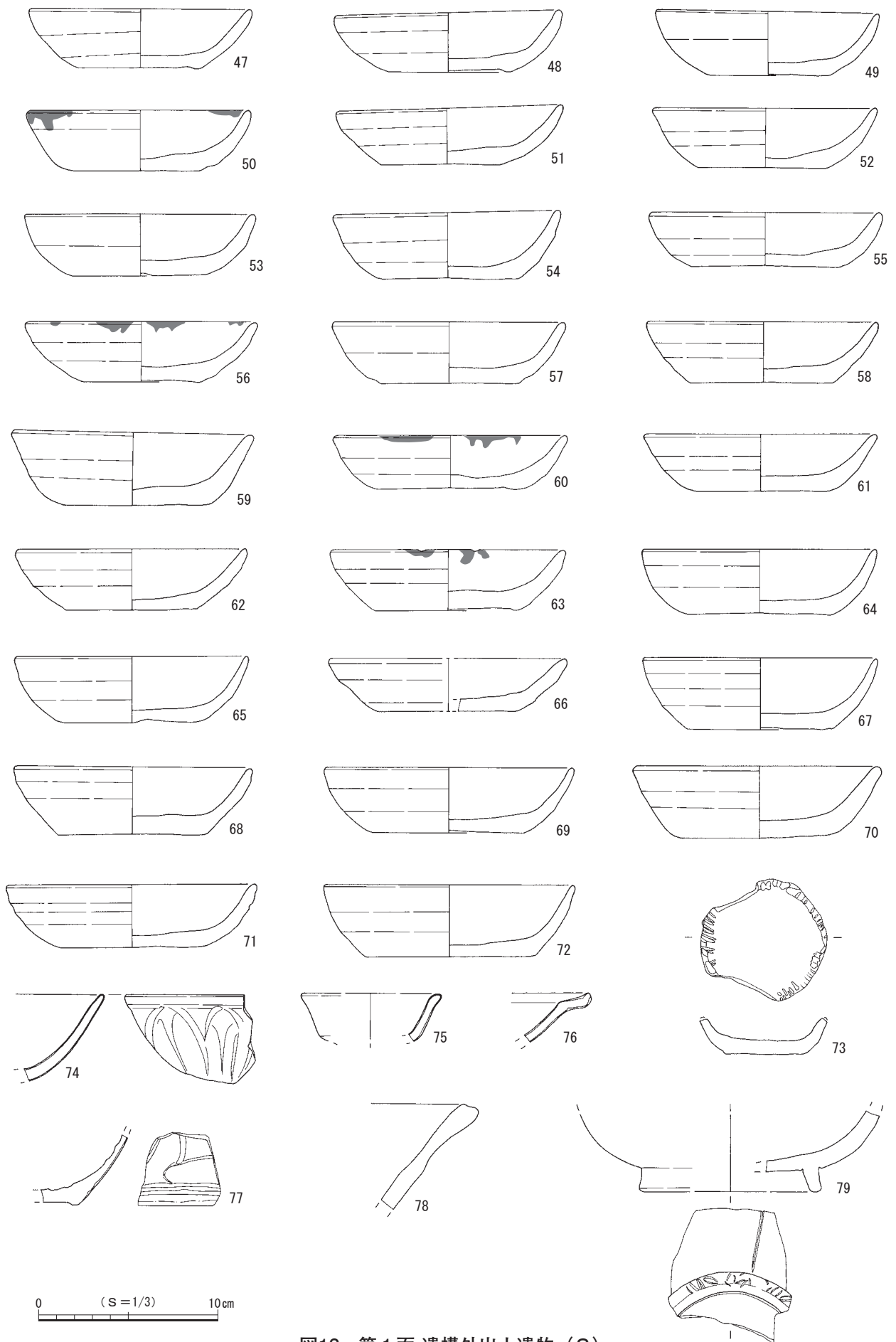


图12 第1面 遺構外出土遺物 (2)

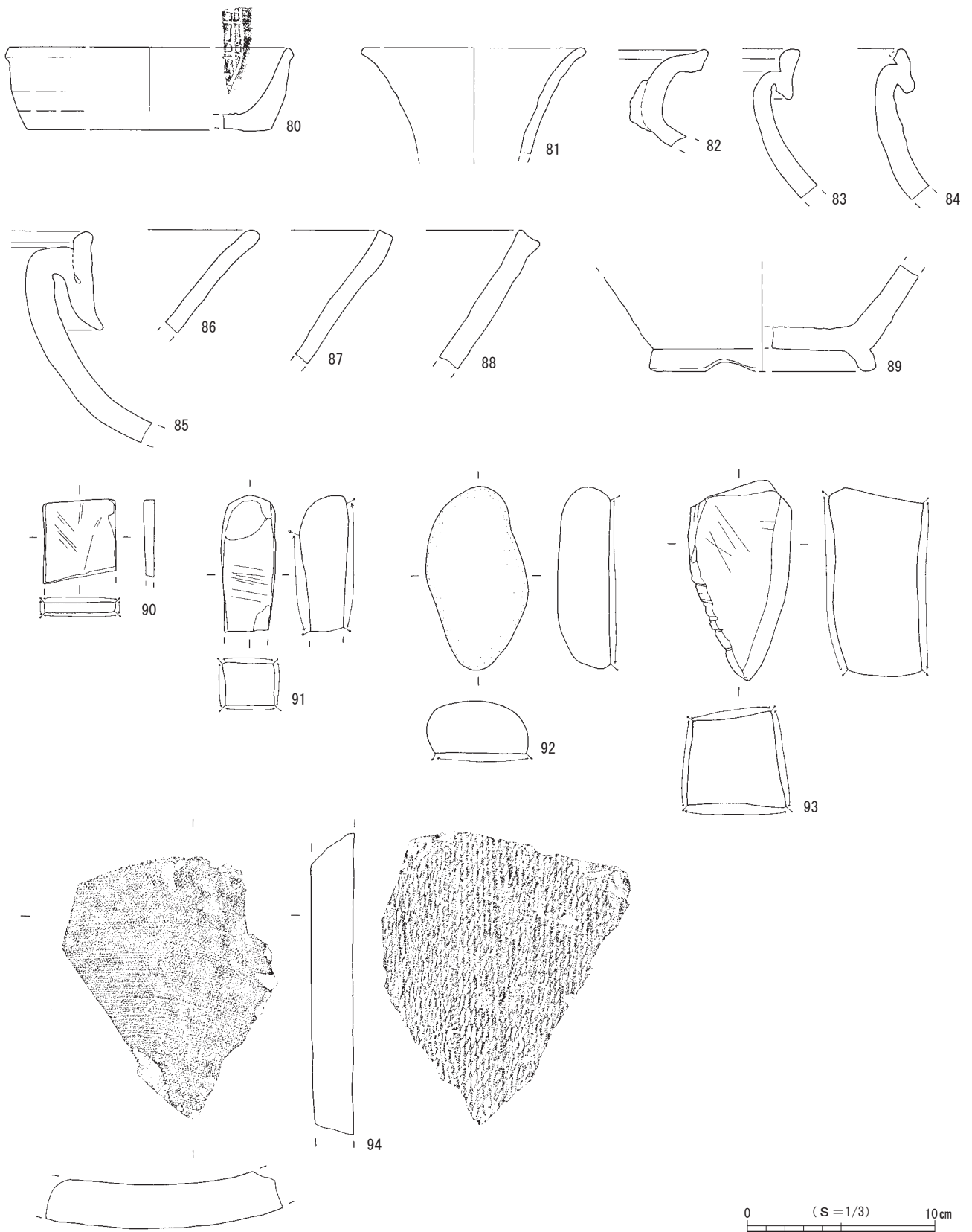


图13 第1面 遺構外出土遺物 (3)

(4) 攪乱出土遺物 (図14)

本遺跡では、現代の攪乱からも多くの遺物が採集されており、このうち30点を図示した。

1～20はロクロ成形によるかわらけである。17には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。21は舶載磁器で、龍泉窯系青磁の小椀Ⅱ類である。22～26は陶器類である。22は瀬戸窯産の製品で、洗である。23～26は常滑窯産の製品で、23が甕、24が玉縁壺、25・26が片口鉢Ⅱ類である。27～29は骨角製品である。27は用途不明で、28・29は何らかの装飾具と思われる。30は鉄製の釘である。

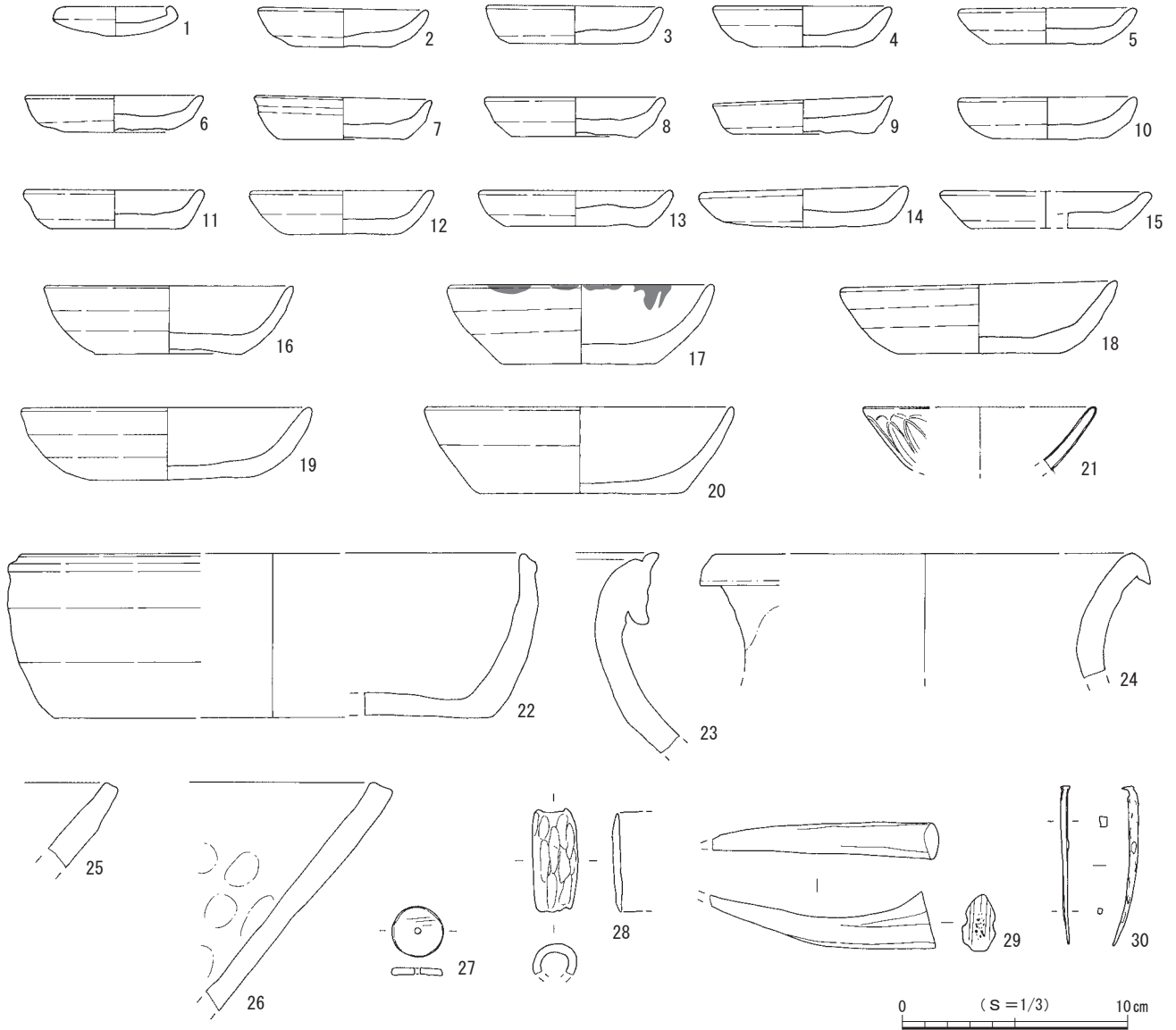


図14 攪乱出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の3層上面で確認した。上面が部分的に締まり、泥岩粒や泥岩ブロックを少量含む暗褐色土である。第1面でみられた現代の攪乱が達している部分がある。遺構は地業1カ所、溝状遺構1条、土坑7基を検出した(図15)。北区で検出した地業1と溝状遺構2は並行して配されており、両遺構の関連がうかがわれる。溝状遺構1より北側は面の標高が約7.7m、南側が約7.4mを測り、高低差が認められる。土坑の大半は南区の東側に分布している。また、掘り込みを伴わずにかわりが散布している状況が認められた。

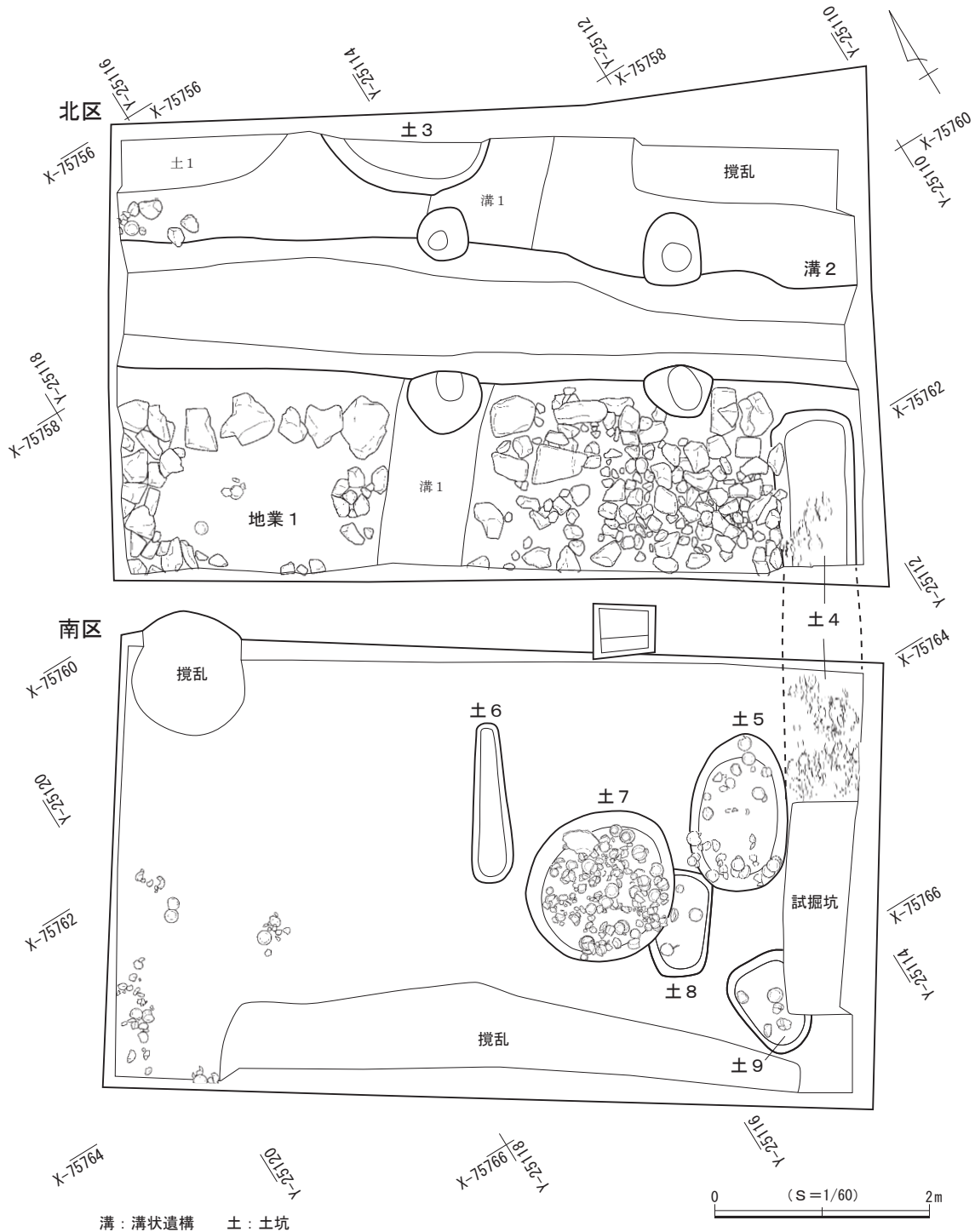


図15 第2面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉～14世紀前葉に属すると考えられる。

(1) 地業

第2面では、北区の南半部で泥岩を用いた地業層が認められ、帯状を呈することから、ここでは遺構として取り扱う。

地業1 (図17)

北区南半部に位置し、泥岩が密に敷かれた状態で検出された。中央に第1面の溝状遺構1、東側に土坑4が重複しており、本址が古い。東西両端は調査区外に及ぶ。南側は調査区外に及ぶが南区では検出されていないことから、両区間で本址の南限を確認するためのトレンチ調査を行い、幅約2.2mの規模であることを確認した。地業上面の標高は約7.7～7.8mを測り、調査区西壁の土層断面では、溝状遺構1を挟んで本址北側の第2面の確認面より約15～20cm、南区の第2面の確認面より約50～60cm高い。敷かれた泥岩の厚さは最大で50cmを測り、上面は凹凸が激しい。北縁および調査区西壁際に30～60cm大の大形の泥岩が配置され、特に北縁は直線的に整えられている。これより内側には15cm大を中心とした小形の泥岩が暗褐色土とともに充填されており、本址東側では密で、凝灰質砂岩の大形切石も含まれ、中央ではやや希薄である。西側では泥岩がほとんど検出されていない。北縁に敷かれた大形泥岩の列を基準にすると、主軸方位はN-60°-Wを指す。本址の北端に沿って溝状遺構2が検出されていることから、両者は何らかの関連をもつ可能性が考えられる。

出土遺物 (図16)

遺物はかわらけ96点、磁器8点、陶器20点、瓦質土器2点、石製品2点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1は瀬戸窯産の袴腰香炉、2は用途不明の円弧状の鉄製品である。

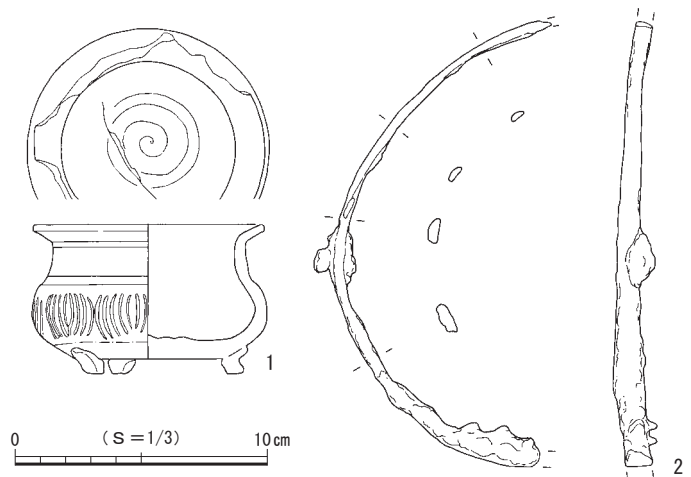


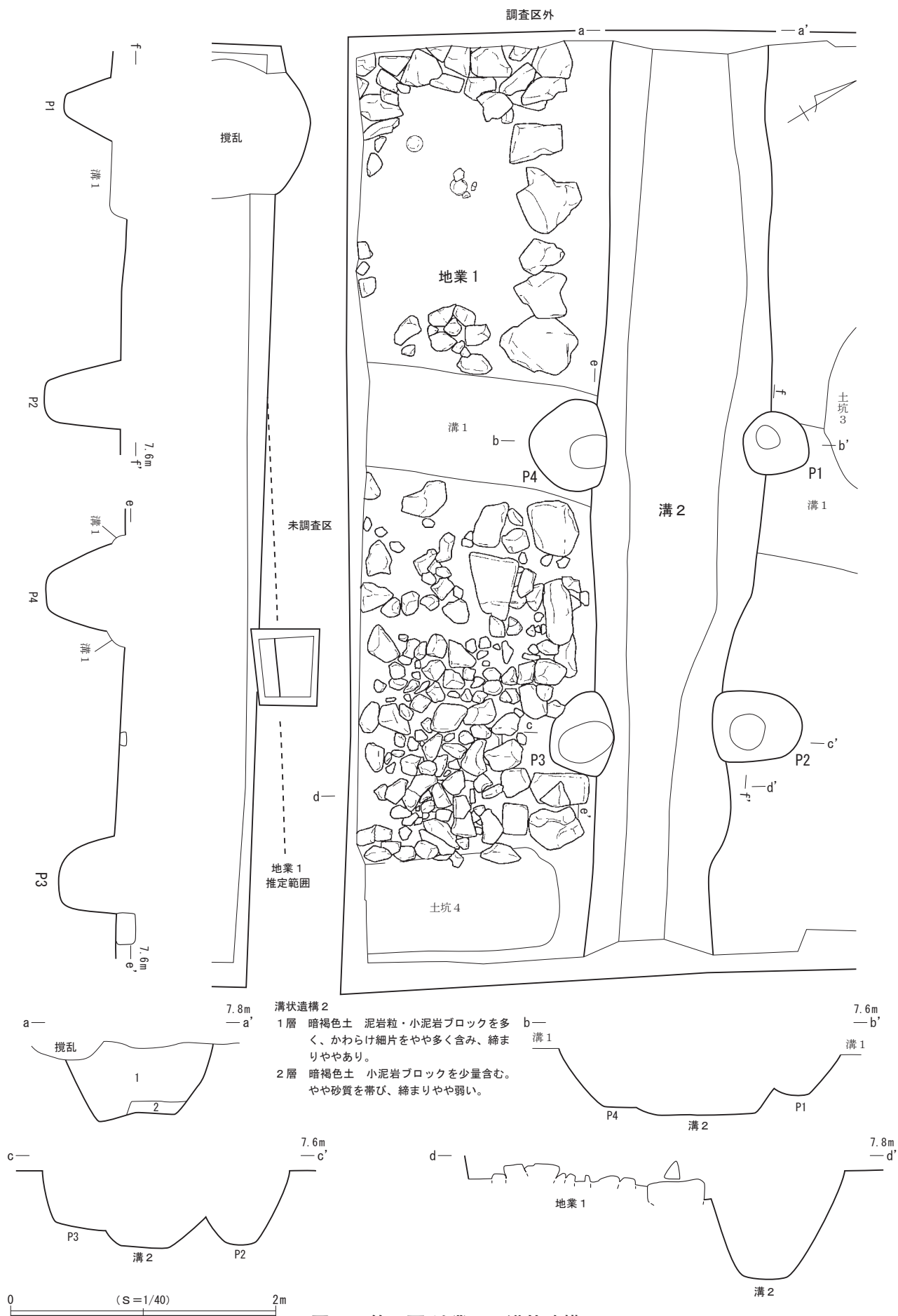
図16 第2面 地業1 出土遺物

(2) 溝状遺構

第2面では、北区で1条を検出した。調査区を東西方向に横断し、両端は調査区外に及んでいる。ピットを伴うことから何らかの施設が付随したことが想定され、並走する地業1とも関連すると考えられる。

溝状遺構2 (図17)

北区中央に位置する。北西-南東方向に直線的に延び、東西端は調査区外に及んでいる。中央で第1面の溝状遺構1と重複しており、本址が古い。第2面を約20cm掘り下げた段階で検出されているが、東西壁の土層断面を観察したところ第2面に帰属することが確認されたため、第2面の遺構として取り扱う。西壁の土層断面をもとに計測すると、規模は現存長6.92m、幅0.87～1.30m、深さ70cmを測り、主軸



溝状遺構2
 1層 暗褐色土 泥岩粒・小泥岩ブロックを多く、かわらけ細片をやや多く含み、締まりややあり。
 2層 暗褐色土 小泥岩ブロックを少量含む。やや砂質を帯び、締まりやや弱い。

図17 第2面 地業1・溝状遺構2

方位はN-57°-Wを指す。壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は西端で6.91m、中央で6.94m、東端で6.90mを測り、ほぼ平坦である。覆土は泥岩粒・小泥岩ブロックを多量、かわらけ細片をやや多く含む暗褐色土を主体とし、底面北側に砂を含み締まりが弱い暗褐色土が堆積していた。本址は地業1の北縁に並行しており、土層断面および掘り込み面の観察から両者は同時期ないし近い時期の遺構であると考えられる。

また、本址の中央付近において、矩形に配された4基のピット(P1~P4)を検出した。溝状遺構2と同様に第2面を約20cm掘り下げた段階で検出したが、地業1と重複するP3の範囲内には泥岩が敷かれていないことから、地業1より新しいか、あるいは同時期のピットであると推測される。また、P1~P4は規模や覆土が類似し、矩形の配置を呈することから一連の遺構であると考えられ、さらに本址の上端に沿って配置されている点を考慮すると、本址と関連する遺構であると考えられる。P1~P4は平面形は楕円形、断面形は逆台形ないしU字形を呈し、規模は長軸51~69cm、短軸47~58cm、深さ35~61cmを測る。覆土は小泥岩ブロックを多く含む暗褐色土である。溝を渡るための橋脚穴であった可能性が考えられ、その点を考慮し周辺を精査したが、通路などの痕跡は検出されなかった。

出土遺物(図18)

遺物はかわらけ159点、磁器14点、陶器124点、土器6点、瓦質土器3点、石製品4点、金属製品8点が出土し、このうち11点を図示した。

1~5はロクロ成形によるかわらけである。6・7は土器類で、6は碗と思われる。7は釜型土製品である。8は舶載磁器で、青白磁の小皿あるいは合子の身である。9~11は陶器類である。9・10は常滑窯産の片口鉢I・II類、11は山茶碗窯産の片口鉢である。

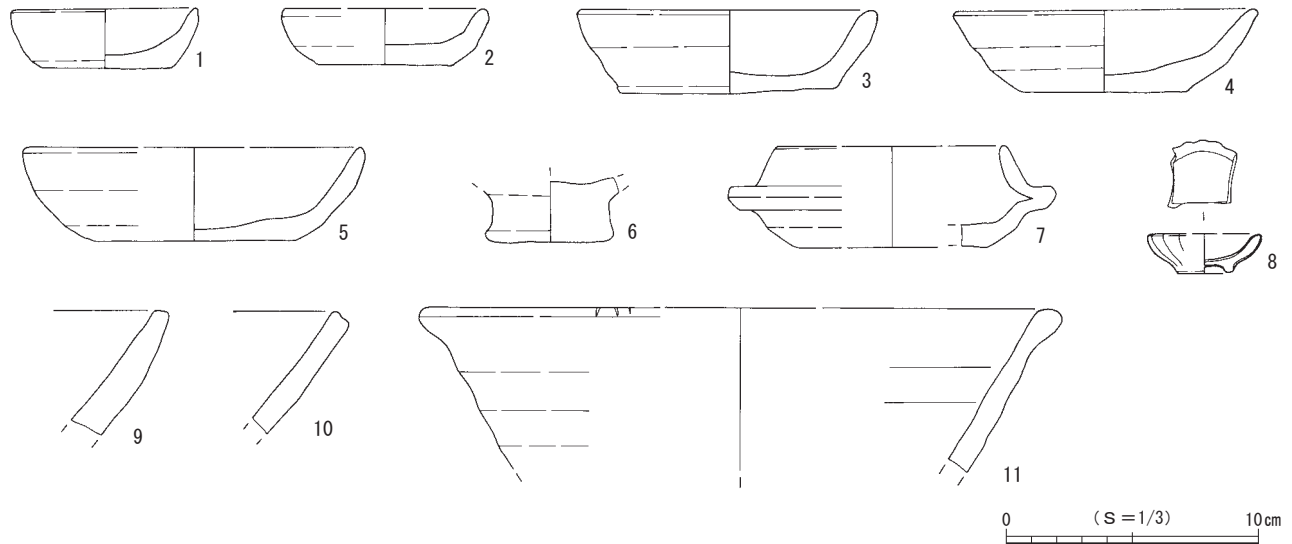


図18 第2面 溝状遺構2出土遺物

(3) 土 坑

第2面では、北区で1基、南区で5基、両調査区にまたがるもの1基の合計7基を検出した。特に南区東側に集中している。平面形は略円形、楕円形、隅丸長方形など多様な形態が認められ、現状では規模は長軸で最小93cm、最大3.67m、深さ8～65cmと幅がある。覆土中から多量のかわけや炭が出土したのものもある。

土坑3 (図19)

北区北壁の中央西側に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は円形に近いものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長1.56m、南北現存長48cm、深さ35cmを測り、坑底面の標高は7.20mである。覆土は泥岩粒を多く、かわらけ細片を多量に含む暗褐色土である。

出土遺物 (図20)

遺物のかわけ169点、磁器1点、陶器3点、瓦1点、石製品1点が出土し、このうち3点を図示した。1・2はロクロ成形によるかわらけ、3は常滑窯産の甕である。

土坑4 (図19)

北区南東隅から南区北東隅にわたって検出した。南東側の壁は調査区外に及んでおり、南端は試掘坑によって失われている。北区では第2面を約20cm掘り下げた段階で多量のかわけと掘り込みを検出したが、地業1と本址が重複する範囲には泥岩が存在しなかったことから、本址はこれを掘り込んで作られたもの、あるいは同時期のものと推測される。また、南区では掘り込みが検出されていないが、北区からの延長上に収まる範囲に遺物が帯状に集中し、その出土レベルが北区と南区でほぼ一致することから同一の遺構である可能性が高いと考えられ、ここでは1基の土坑として記述する。

平面形は北区では長方形を呈し、南区では遺物と覆土に含まれる炭の範囲が帯状を呈することから、北東-南西方向に延びる北区と同一の溝の一部と推測される。壁は底面付近ではやや外傾して立ち上がり、地業1の泥岩の空白部と検出された掘り込みの上端がほぼ一致することから壁はほぼ垂直になると推測され、断面形は箱形であったと考えられる。規模は長軸現存長3.67m、短軸75cm、深さは地業1の上面から復元すると約65cmを測り、坑底面の標高は7.05～7.15mほどである。主軸方位はN-30°-Eを指す。覆土は北区では小泥岩ブロックを多く含む暗褐色土で構成されており、底面付近で多量のかわけが出土している。南区では標高約7.4mでほぼ水平に堆積する薄い炭層が認められ、この層の上下から多量のかわけが出土しており、数回にわたり廃棄された様相が捉えられる。

出土遺物 (図21・22)

遺物のかわけ418点、磁器14点、陶器18点、石製品1点、金属製品6点が出土し、このうち82点を図示した。

1～80はロクロ成形によるかわらけである。13・14・21・26・40の口縁部には煤が付着し、灯明具としての使用が認められる。81は舶載磁器の口元白磁皿、82は瀬戸窯産の洗である。

土坑5 (図19)

南区東側に位置する。南西側が土坑8とわずかに重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈する。底面は丸みを帯びて北東側に緩やかな段が形成され、壁はなだらかに開いて断面形はU

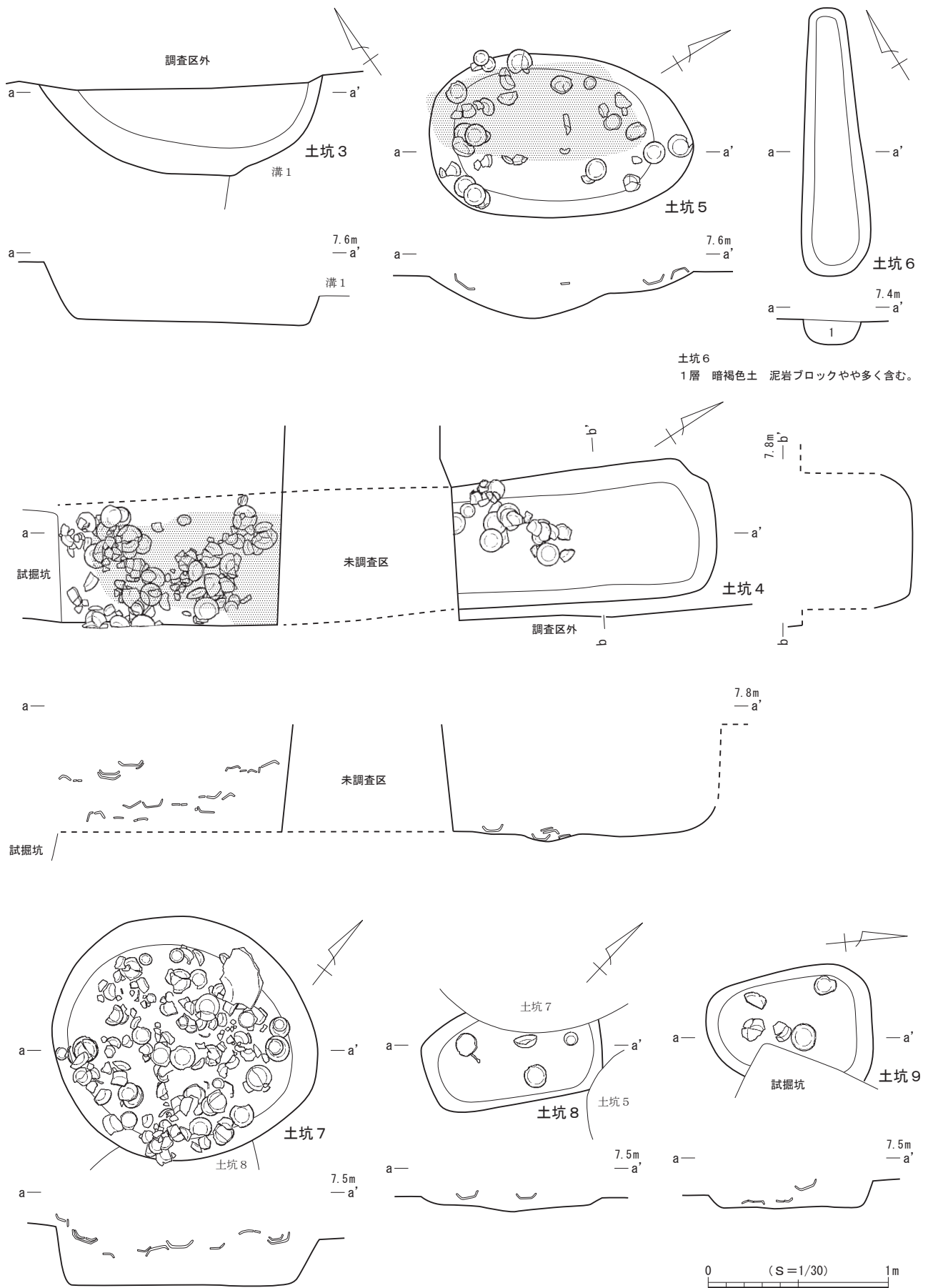


図19 第2面 土坑3～9

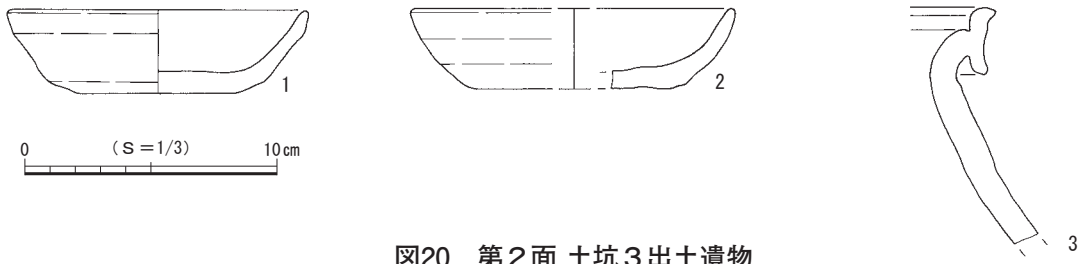


图20 第2面 土坑3出土遺物

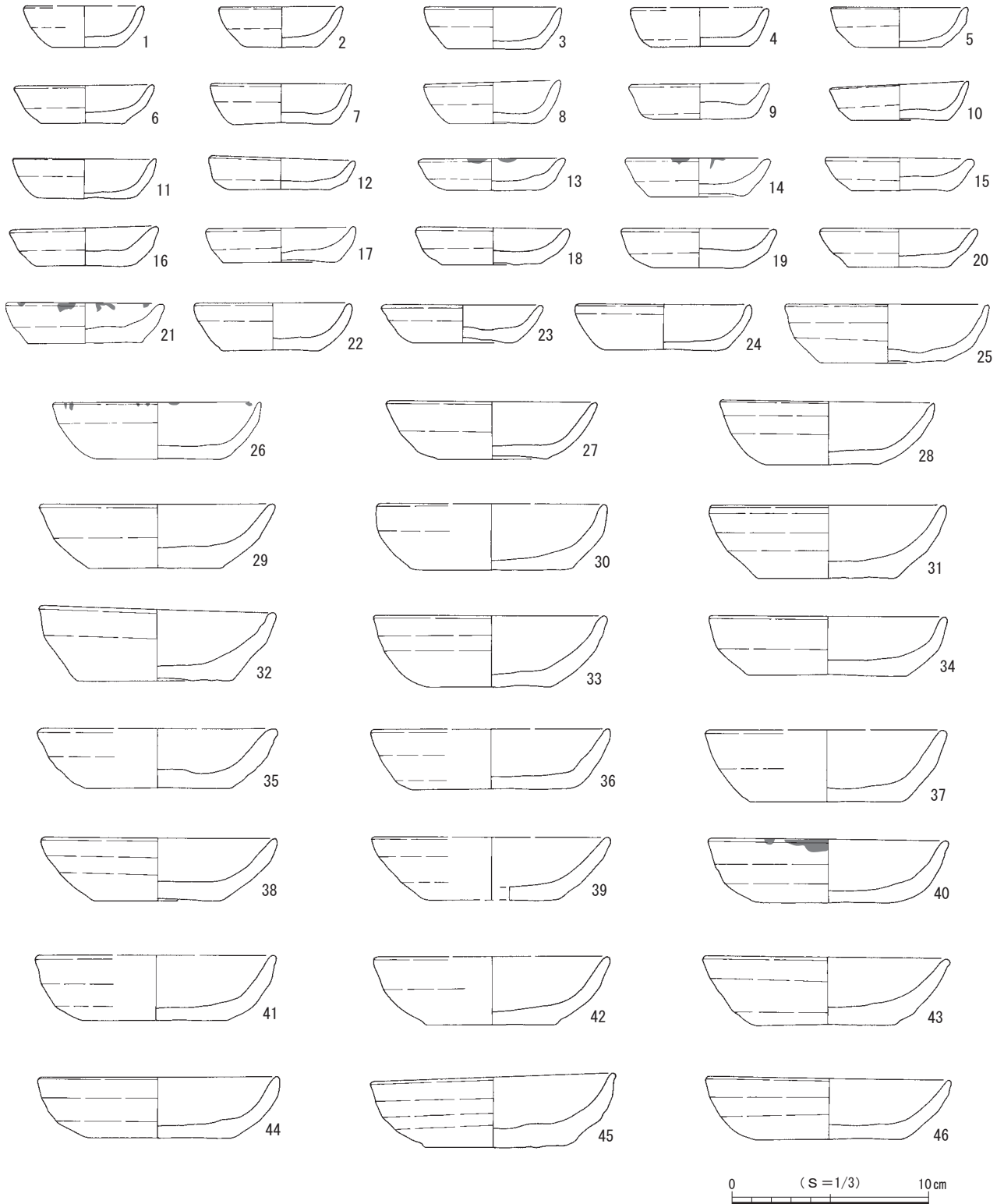


图21 第2面 土坑4出土遺物 (1)

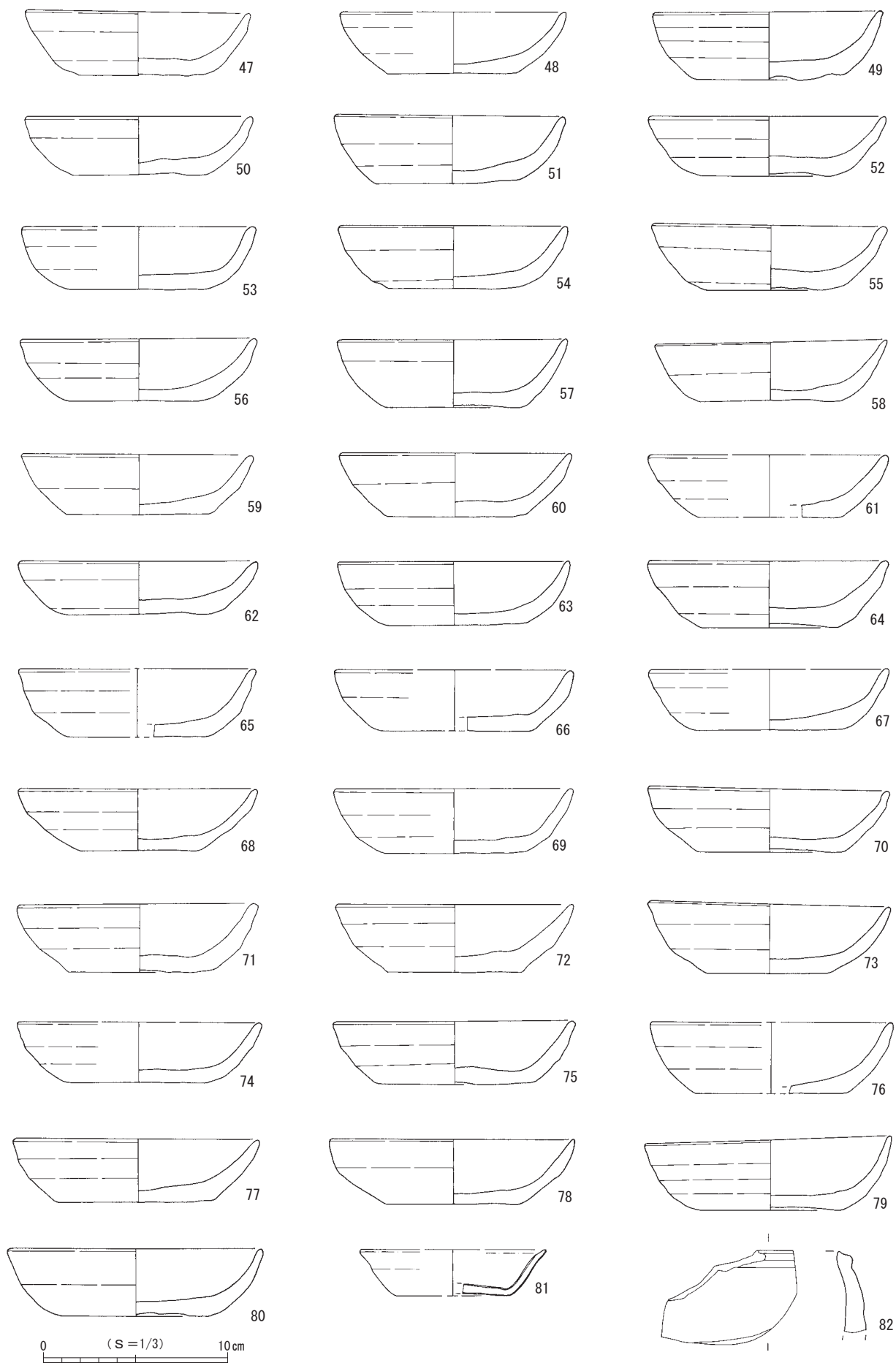


图22 第2面 土坑4出土遺物 (2)

字状を呈する。規模は長軸1.46m、短軸1.00m、深さ24cmを測り、坑底面の標高は7.26mである。主軸方位はN-31°-Eを指す。覆土は泥岩粒を少量含む暗褐色土で形成され、薄い炭層が堆積しており、この炭層の上から多量のかかわらけが出土している。

出土遺物 (図23)

遺物はかわらけ24点、陶器2点、金属製品1点が出土し、このうち17点を図示した。

1～16はロクロ成形によるかわらけ、17は鉄製の釘である。

土坑6 (図19)

南区中央に位置する。平面形は溝状を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形はU字形を呈する。規模は長軸1.50m、短軸37cm、深さ14cmを測り、坑底面の標高は7.19mである。主軸方位はN-28°-Eを指す。覆土は泥岩ブロックをやや多く含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ6点、陶器3点、金属製品1点が出土した。

土坑7 (図19)

南区中央東側に位置する。南東側が土坑8と重複しており、遺物の出土状態から本址が新しいと推測される。平面形は略円形を呈する。壁はやや外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.49m、短軸1.35m、深さ33cmを測り、坑底面の標高は7.03mである。覆土は小泥岩ブロックをやや多く含み、山砂が少量混入する暗褐色土である。完形品を含む多量のかかわらけがレンズ状に密集した状態で出土している。

出土遺物 (図24～27)

遺物はかわらけ1,212点、磁器18点、陶器67点、土器1点、瓦1点、石製品4点、金属製品16点に加えて、貝類や獣骨も出土し、このうち125点を図示した。

1～123はロクロ成形によるかわらけである。12・27・36・40・49・56の口縁部には煤が付着し、灯明具としての使用が認められる。また、34は体部を打ち欠き使用されており、46・47の底面には焼成後穿孔がなされている。124は鉄製の火打金、125は銭貨で、淳化元寶(北宋・990)である。

土坑8 (図19)

南区東側に位置する。北西側が土坑7と重複しており、土坑7の遺物の出土状態から本址が古いと推測される。平面形は隅丸長方形を呈する。底面はなだらかな凹凸があり、壁は緩やかに開いて、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.00m、短軸現存長55cm、深さ8cmを測り、坑底面の標高は7.27mである。主軸方位はN-33°-Eを指す。覆土はかわらけ小片をやや多く含む暗褐色土である。

出土遺物 (図28)

遺物はかわらけ28点、磁器1点、陶器3点の他に獣骨も出土し、このうち4点を図示した。

1～4はロクロ成形のかかわらけである。

土坑9 (図19)

南区南東隅に位置する。北東側が試掘坑によって失われている。平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。壁はやや外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸93cm、短軸現存長66cm、深さ14cmを測り、坑底面の標高は7.24mである。主軸方位はほぼ南北正方位を指す。覆土は中小の泥

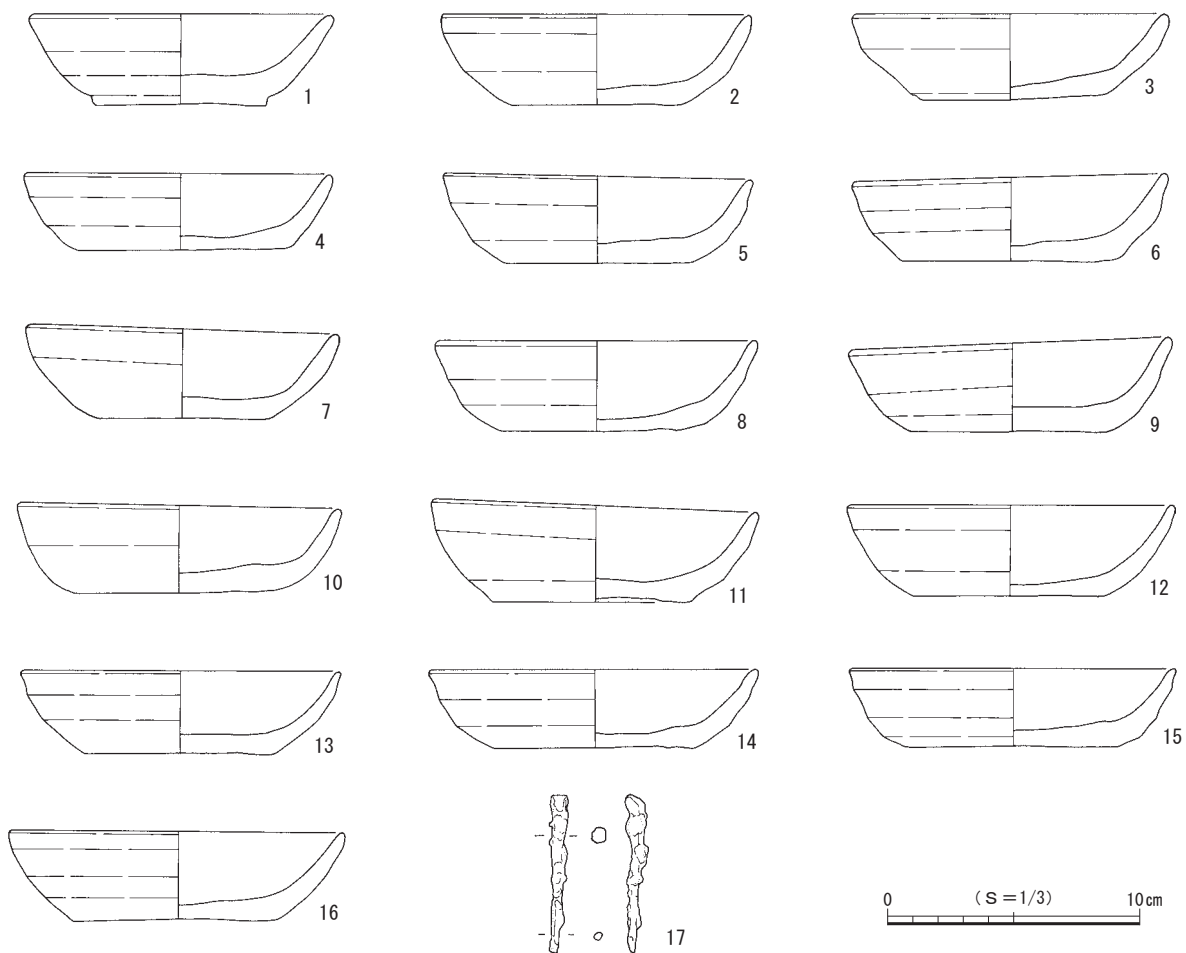


图23 第2面 土坑5出土遺物

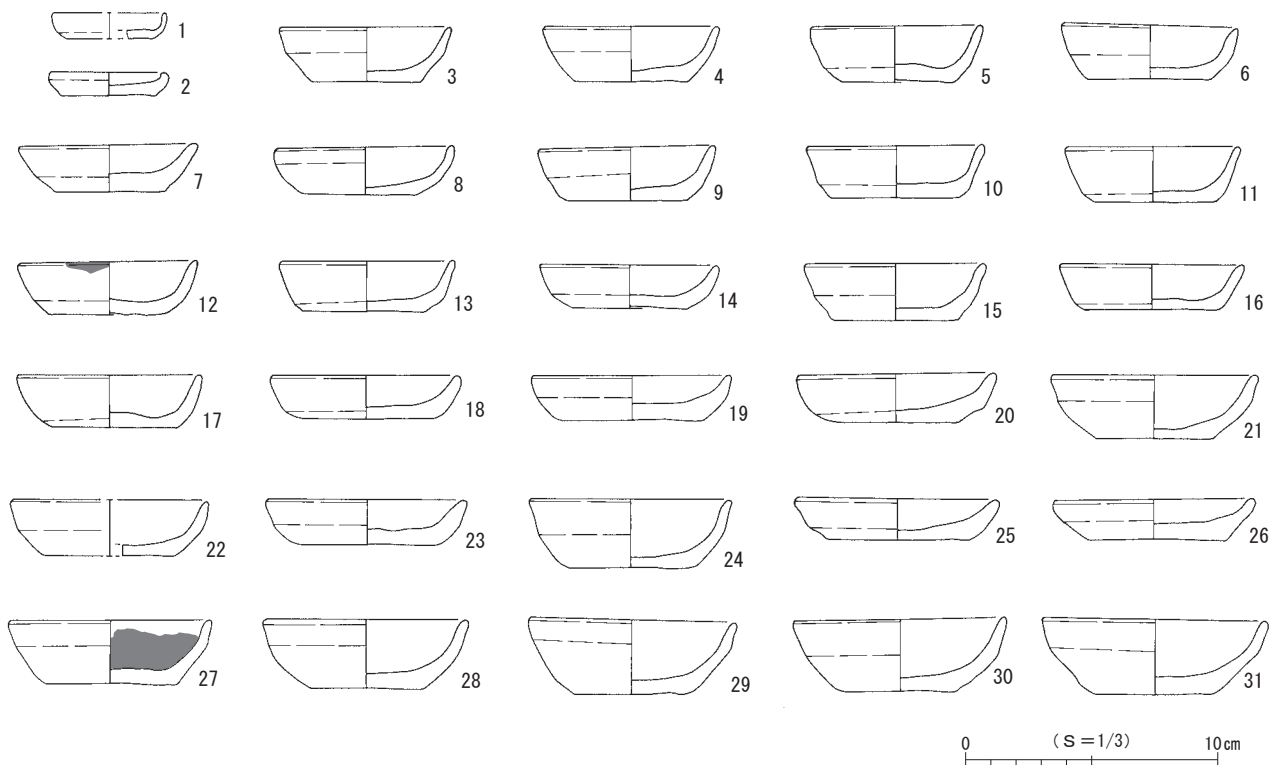


图24 第2面 土坑7出土遺物 (1)

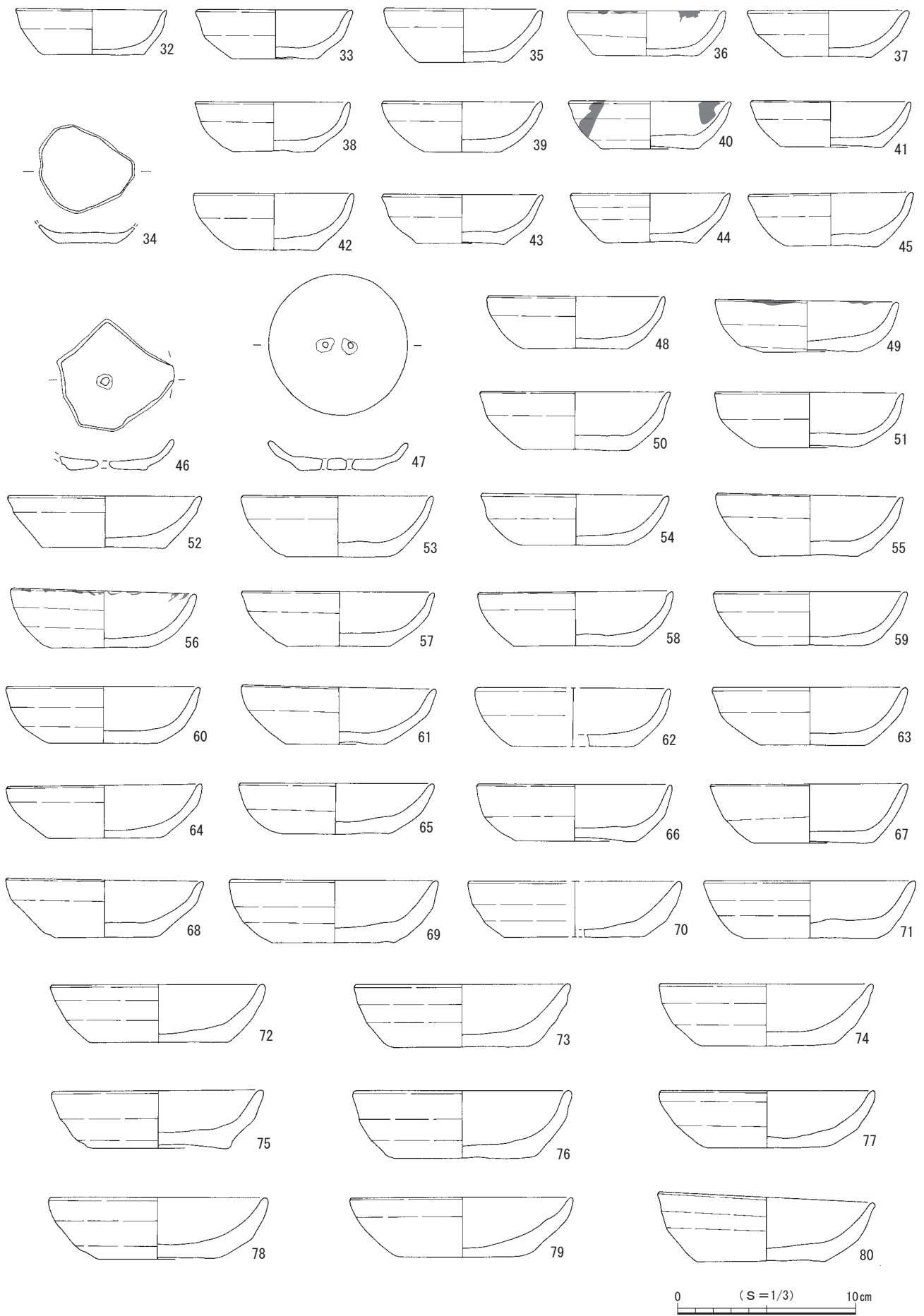


图25 第2面 土坑7出土遗物 (2)

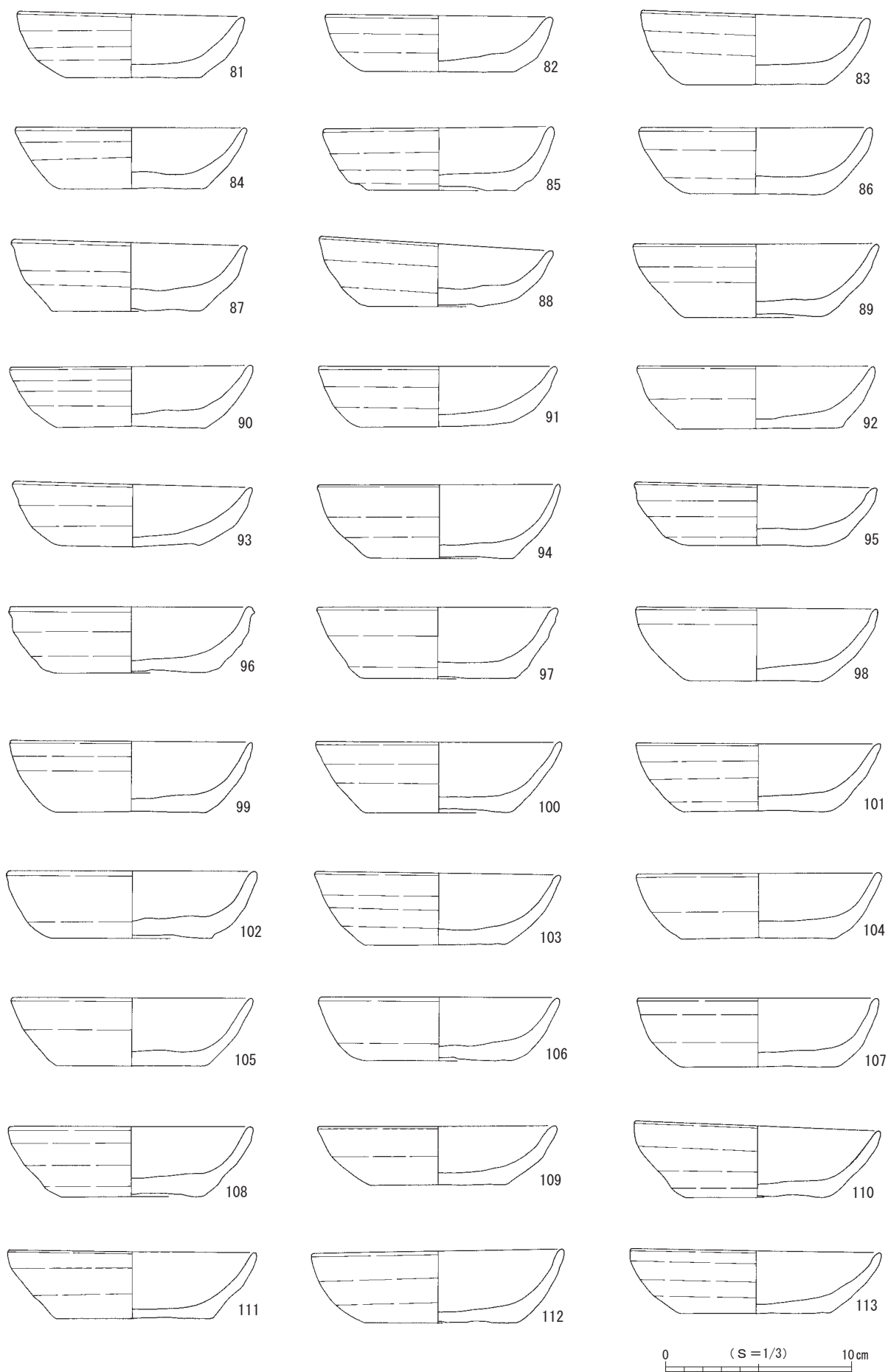


图26 第2面 土坑7出土遗物(3)

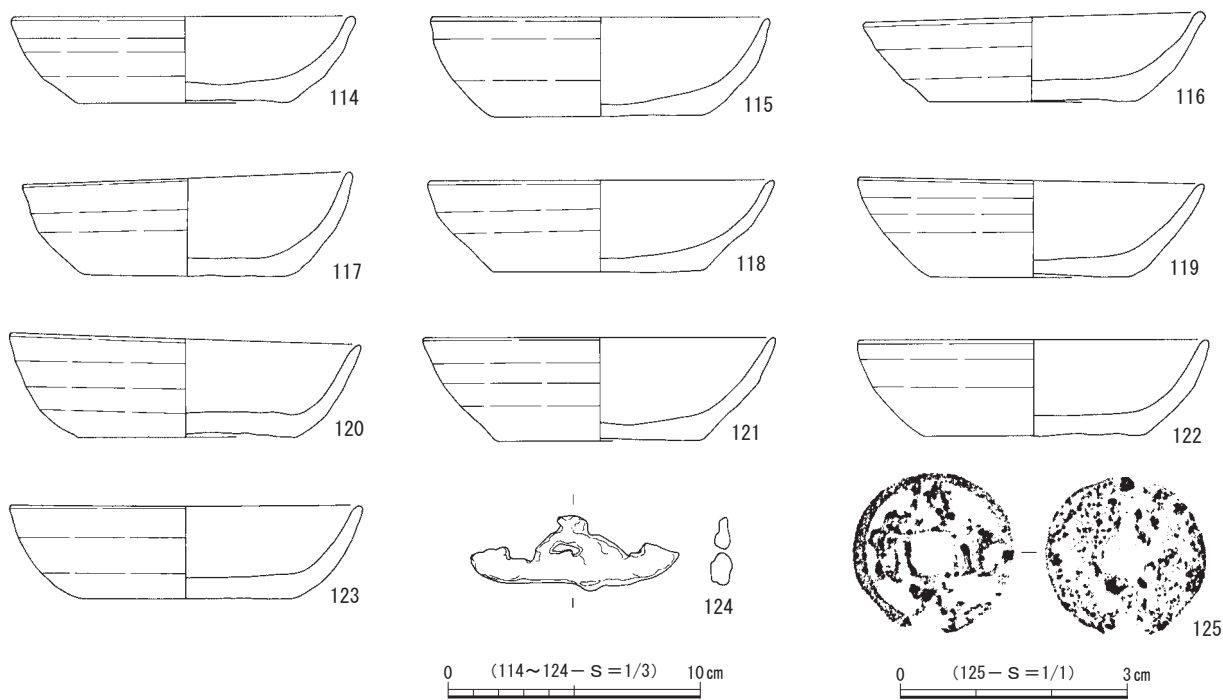


図27 第2面 土坑7出土遺物 (4)

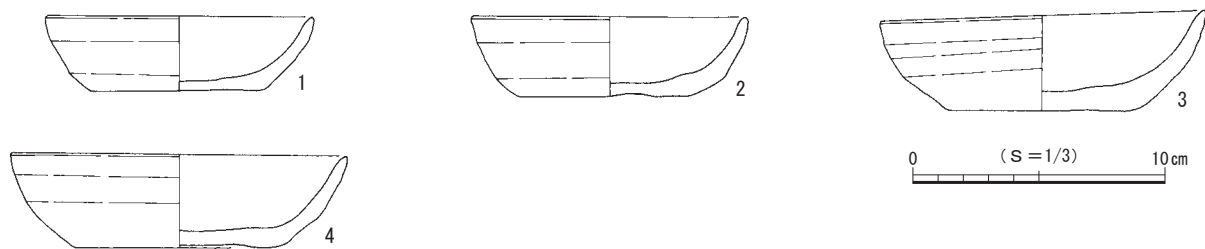


図28 第2面 土坑8出土遺物

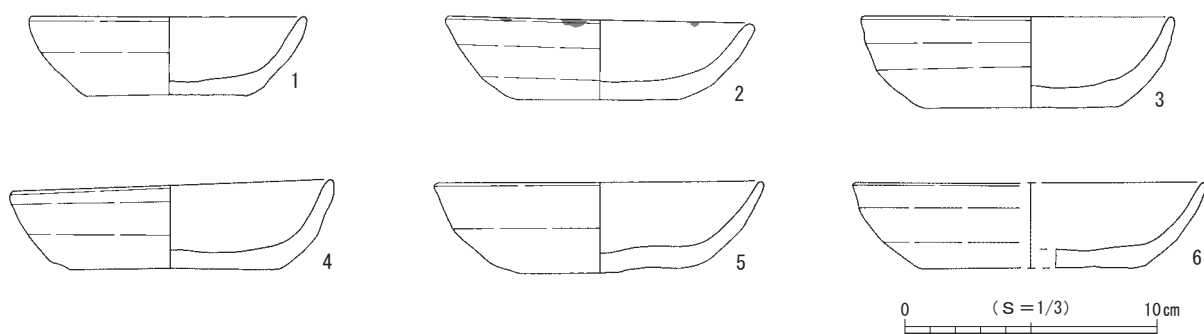


図29 第2面 土坑9出土遺物

岩ブロックを少量含む暗褐色土である。

出土遺物 (図29)

遺物はかわらけ51点、磁器2点、陶器3点が出土し、このうち6点を図示した。

1～6はロクロ成形のかわらけで、2は口縁部に煤が付着し、灯明具としての使用が認められる。

(4) 遺構外出土遺物 (図30~33)

第2面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち107点を図示した。

1・2は白かわらけ、3~40・42~72はロクロ成形によるかわらけである。2・12・32・35・42には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。41は手づくね成形によるかわらけである。73~75は舶載磁器類で、いずれも龍泉窯系青磁である。73は椀Ⅱ類、74は袋物、75は合子蓋である。76~93は陶器類である。76・77は瀬戸窯産の製品で、76が花瓶、77が片口鉢である。78~88は常滑窯産の製品で、78~83が甕、84が広口壺小、85~87が三筋壺、88が片口鉢と思われる製品である。89~93は山茶碗窯系の片口鉢である。94は瓦質土器の火鉢、95は軒平瓦、96・97は平瓦である。98~102は石製品で、98・99が滑石製石鍋、100が硯、101・102が砥石、103が滑石製石鍋の転用と思われる用途不明の石製品である。104は鉄製の刀子である。105~107は銭貨で、105が開元通寶(南唐・960)、106・107が景德元寶(北宋・1004)である。

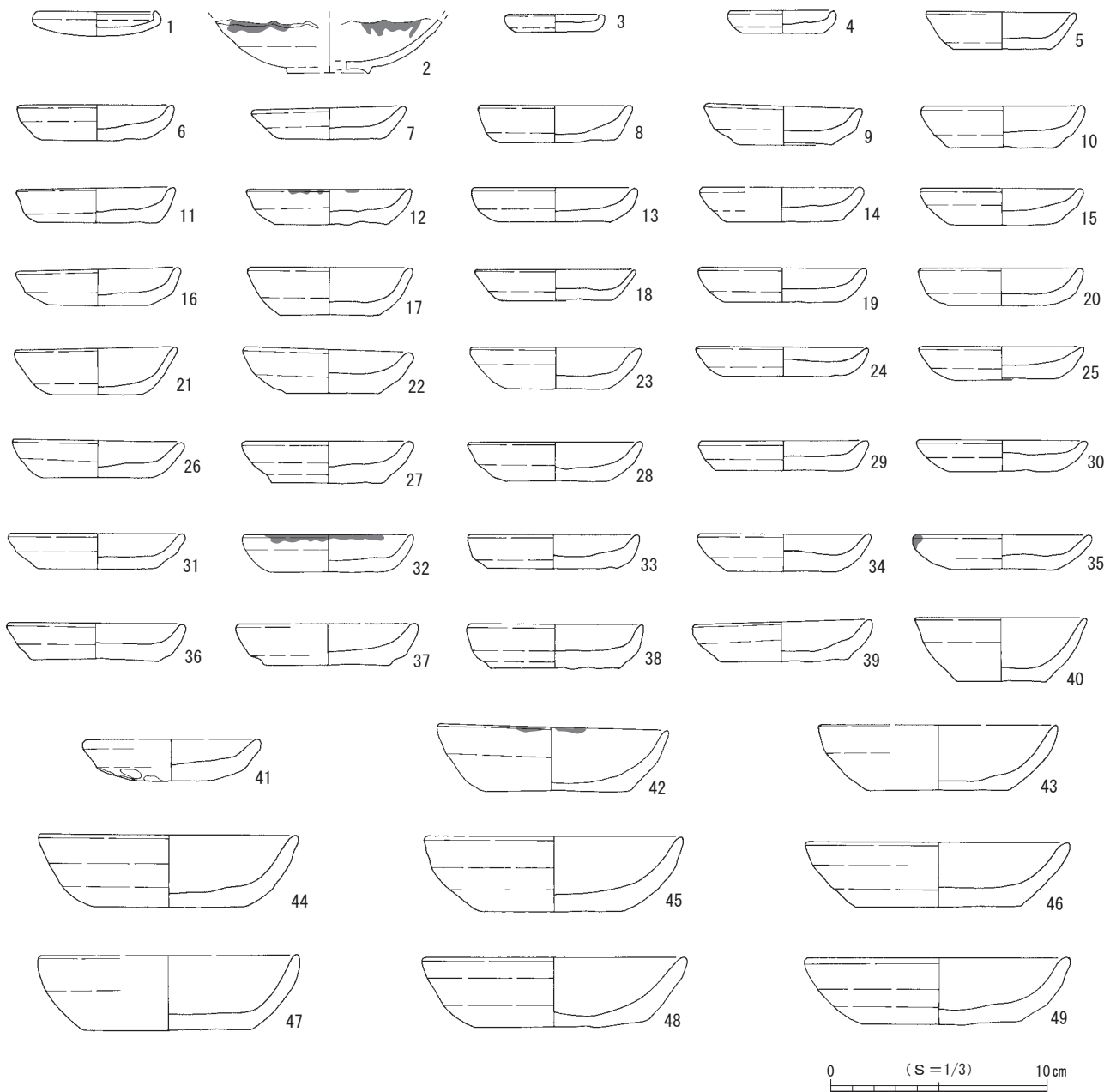


図30 第2面 遺構外出土遺物 (1)

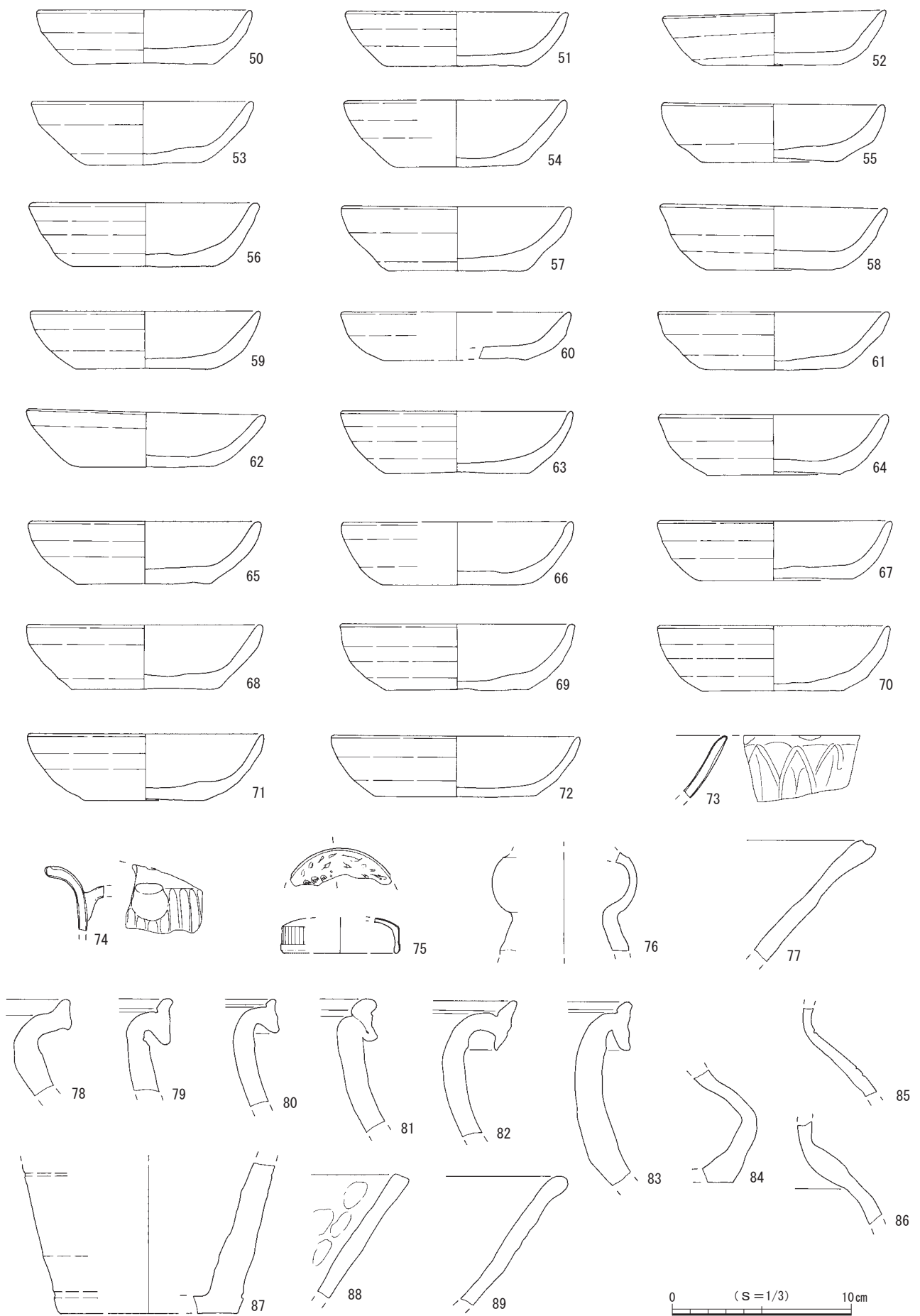


图31 第2面 遺構外出土遺物 (2)

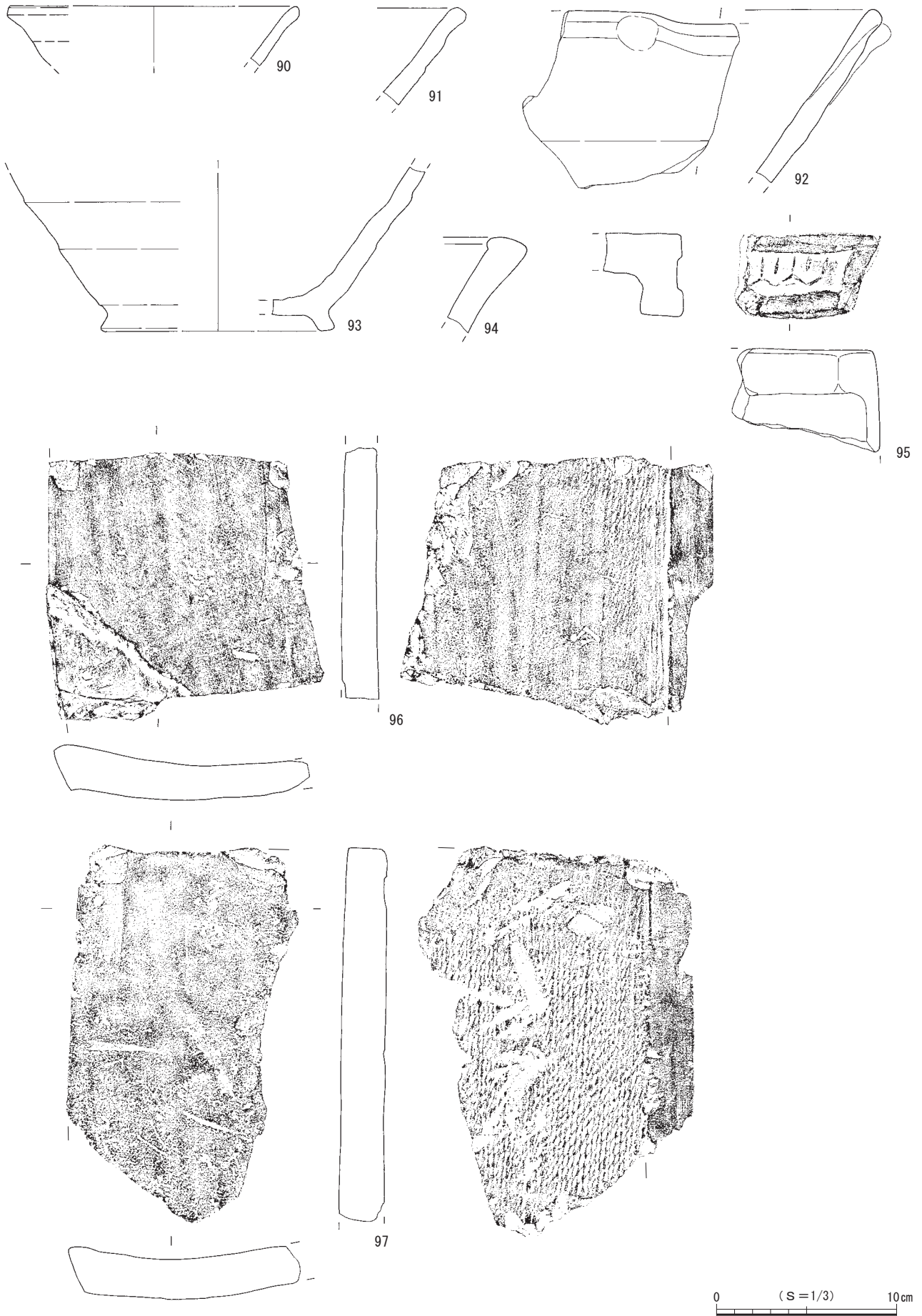


图32 第2面 遺構外出土遺物 (3)

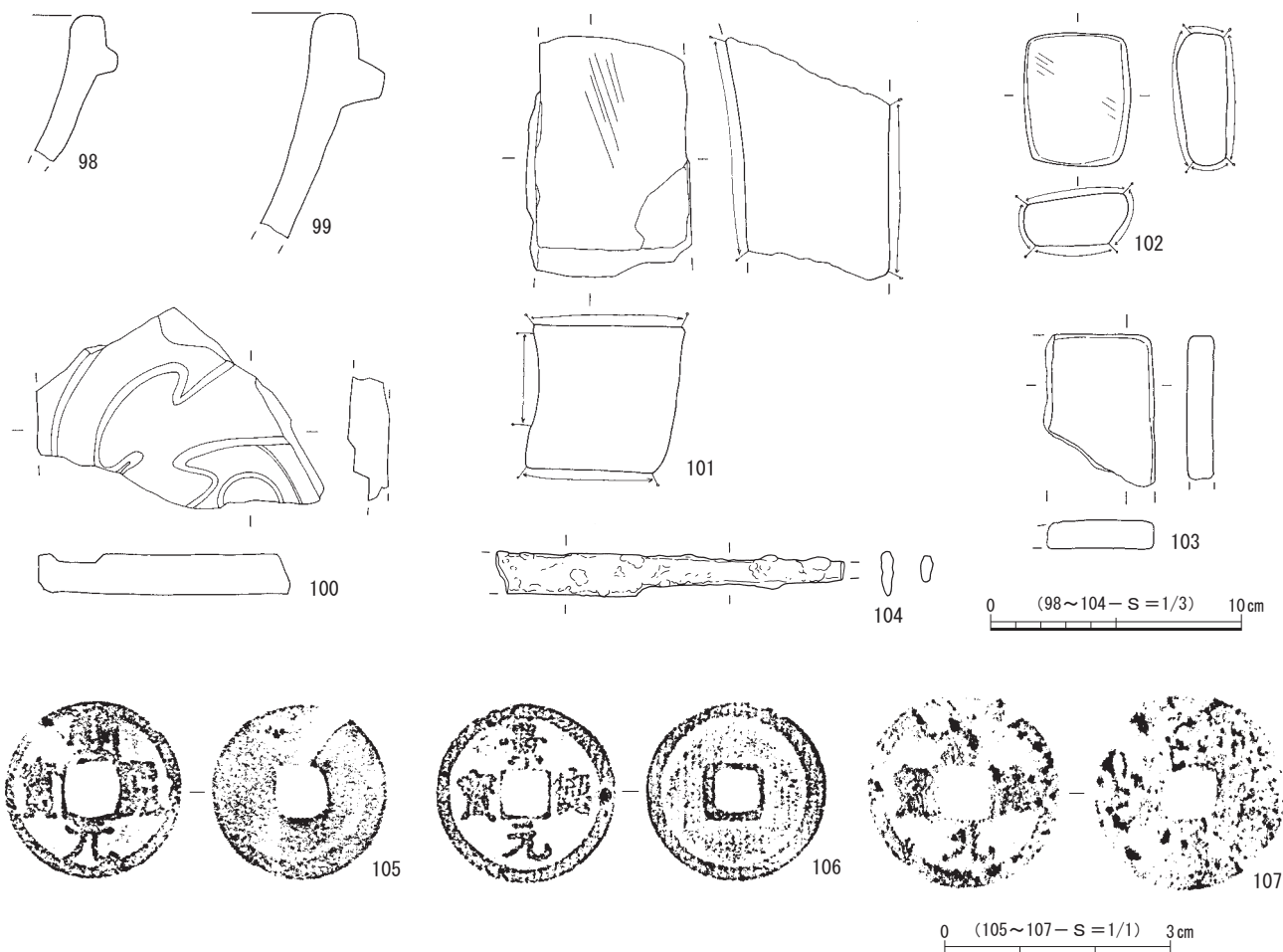


図33 第2面 遺構外出土遺物（4）

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の6層上面で確認し、確認面の標高は約7.3mである。部分的に現代の攪乱が残存している。砂と泥岩粒を少量含む暗褐色土で構成され、上面には部分的に灰褐色砂が敷かれており、北半部ではこの上に炭をやや多く含む黒褐色土が堆積している。遺構は礎石建物1棟、地業1カ所、竪穴状遺構1基、土坑6基、ピット4基を検出した(図34)。このうち礎石建物のみ北区中央から南区の北端にまたがり、その他の遺構はすべて南区に分布している。礎石建物は地業2と軸が揃い、地業2は下層に存在する第4面の溝状遺構3の縁辺と重なることから、前段階の区画を一部踏襲していると考えられる。また、本面においても北区南半部で掘り込みを伴わずにかかわりが散布する状況が認められ、特に北区南東隅付近からややまとまって出土している。

遺物は主にかかわり、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

(1) 礎石建物

第3面では、1棟を検出した。礎石を伴うピットの配置が北区で認められ、その延長が南区にまたがることを確認されたが、調査区の制約から全容は捉え切れていない。

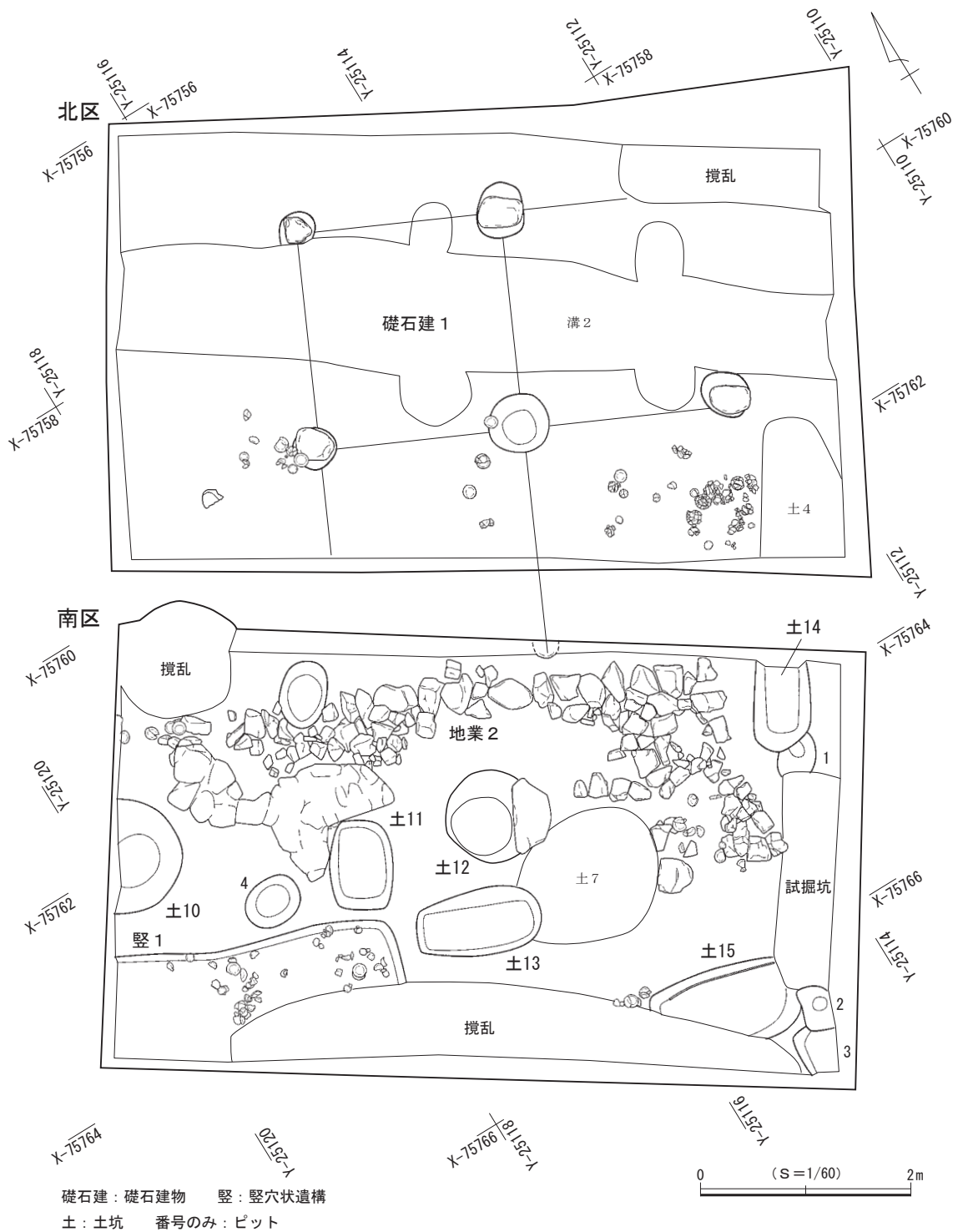


図34 第3面 遺構分布図

礎石建物 1 (図35)

北区中央から南区北壁中央にかけて位置する。礎石を伴うものを含め5基のピット(P1~P5)と礎石のみのもの1基(P6)の計6基で構成され、現状では東西2間、南北2間の配置が確認された。さらに東西および北方向へ延びる可能性が考えられるが、調査区の範囲を越えるため全容は捉えられていない。P1は第2面の溝状遺構2によって一部が壊されている。柱間寸法は東西・南北とも約2.0m等間である。建物の主軸方位は不明だが、P3-P4-P5の柱筋が地業2と並行しており、これを基準にするとN-66°-Wを指す。P1~P5の掘り方の平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸32~59

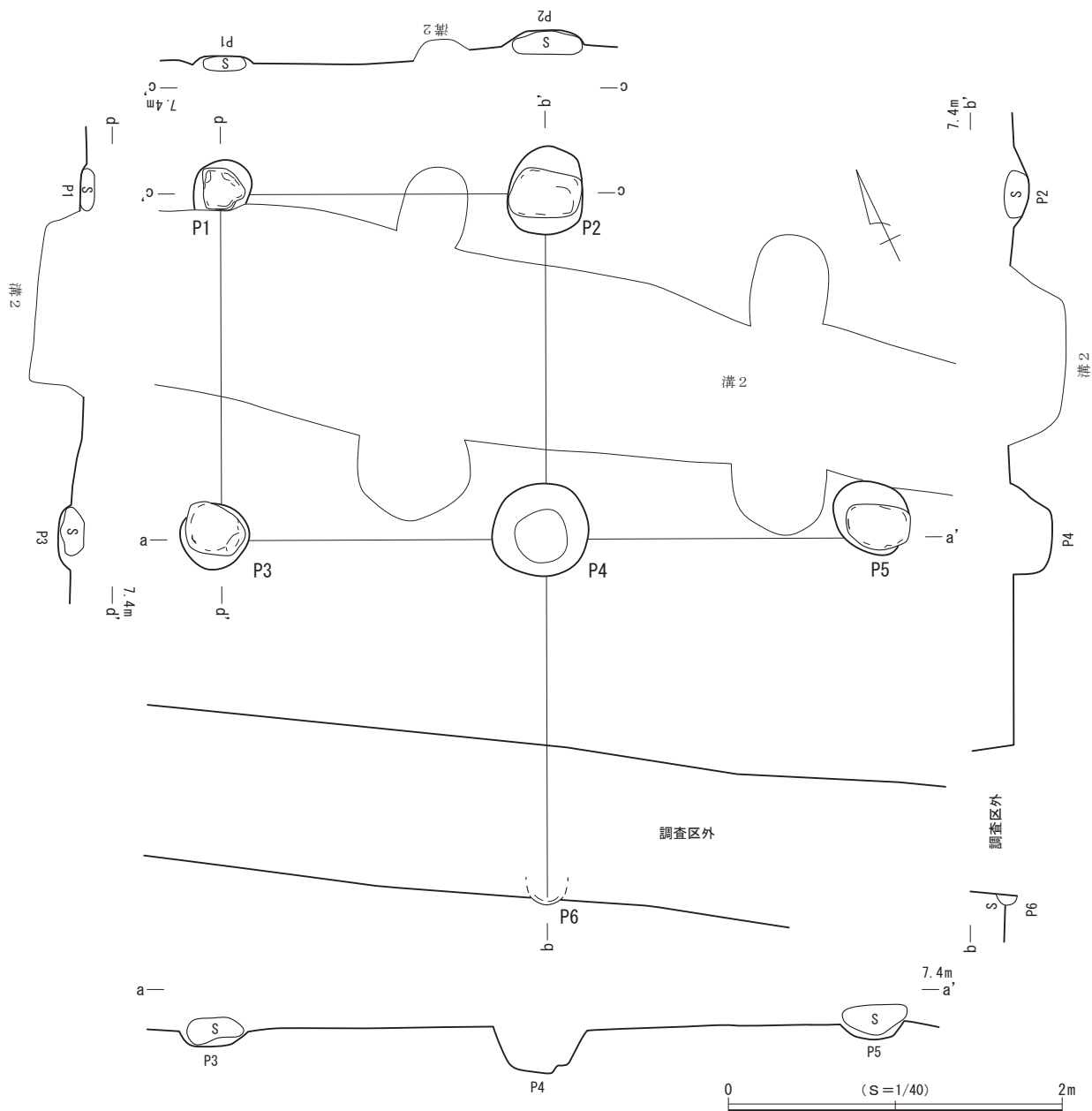


図35 第3面 礎石建物1

cm、短軸33~57cm、深さ9~27cmを測る。P4のみ礎石が検出されていないが、それ以外はすべて安山岩が据えられている。礎石の大きさは長さ26~41cm、幅24~29cm、高さ7~18cmを測り、礎石上面の標高は7.20~7.31mである。

遺物は出土しなかった。

(2) 地業

第2面では、南区の北半部で泥岩を用いた帯状の地業が認められ、隣接する礎石建物1に沿うことから、ここでは遺構として取り扱う。

地業2 (図36)

南区北半部に位置し、泥岩が帯状に敷かれた状態で検出された。北西-南東方向約5.6m、北東-南西

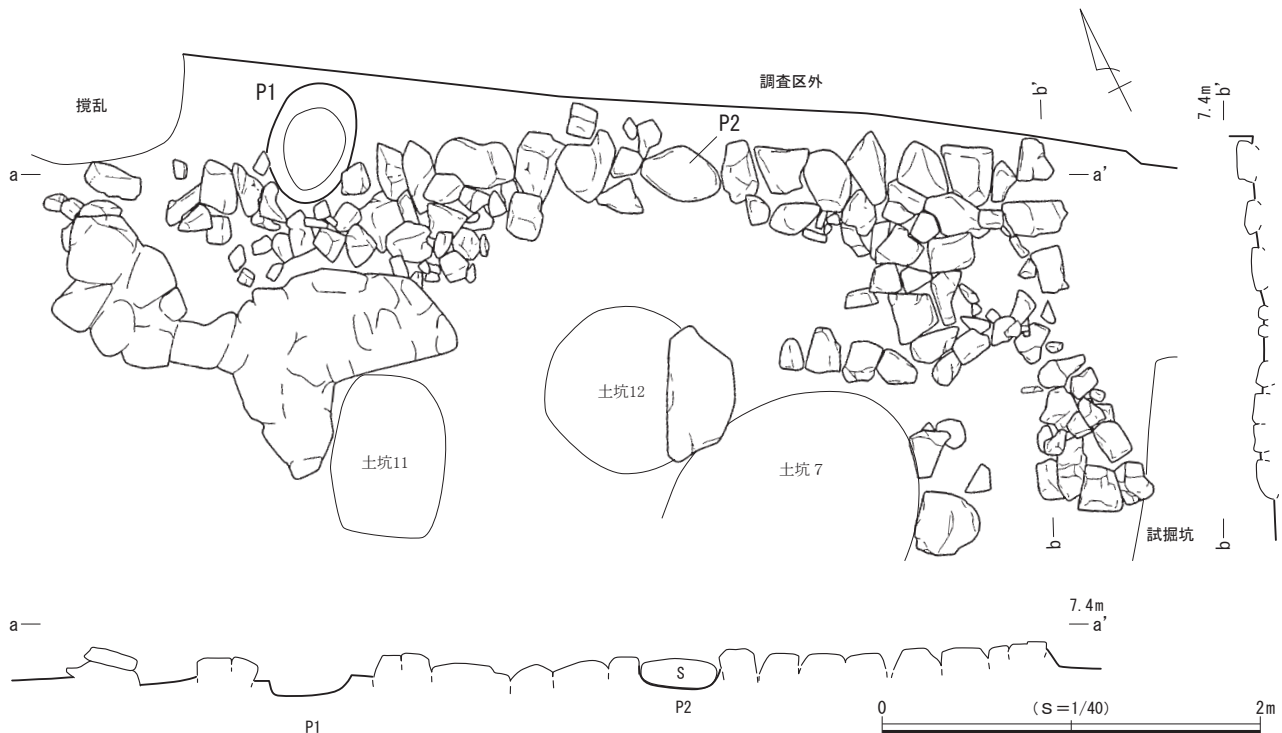


図36 第3面 地業2

方向約2.2mの範囲に泥岩が敷かれている。北縁が直線的に整えられているが、泥岩の分布には粗密があり、部分的に疎らで中央では検出されていない。この空白部に同じ面で検出された土坑11・12が存在するが、重複関係などは不明である。10~40cm大の泥岩が15~20cm前後の厚さで敷かれ、泥岩上面の標高は7.2~7.3m前後で凹凸がある。泥岩を据えるための掘り込みは明瞭ではない。泥岩の北縁を基準にする主軸方位はN-66°-Wを指しており、これは北東側に隣接する礎石建物1の東西柱筋と一致し、建物に沿うような位置関係であることから、両者は関連する遺構である可能性が考えられる。また、本址北縁が第4面で検出した溝状遺構3の上端と位置が重なることから、溝状遺構3による区画を踏襲したものと考えられる。泥岩の他に北縁の西側で浅いピット(P1)、中央で安山岩を用いた礎石(P2)を検出しており、礎石建物1の南北柱筋から西へ30~40cm外れることから、これらは建物を構成するものではないと判断した。P2の礎石の大きさは長さ43cm、幅27cm、高さ15cm、P1の規模は長軸63cm、短軸43cm、深さ12cmを測り、この間の距離は2.0mである。礎石建物1に伴う塀などの可能性が考えられるが、柱筋が建物にかなり接近した位置であり、本址北縁の東側では礎石やピットが検出されていないため、現状では明確ではない。

遺物はかわらけ6点、陶器1点、金属製品1点が出土した。

(3) 竪穴状遺構

第3面では、南区で1基を検出した。調査区外に及んでおり、攪乱で壊される部分もあることから、全容は把握できていない。

竪穴状遺構1 (図37)

南区南西隅に位置する。西側が調査区外に及んでおり、南東側は攪乱によって失われていることから、遺構の全容は明らかでない。平面形は方形ないし長方形を基調としているものと推定される。底面は直

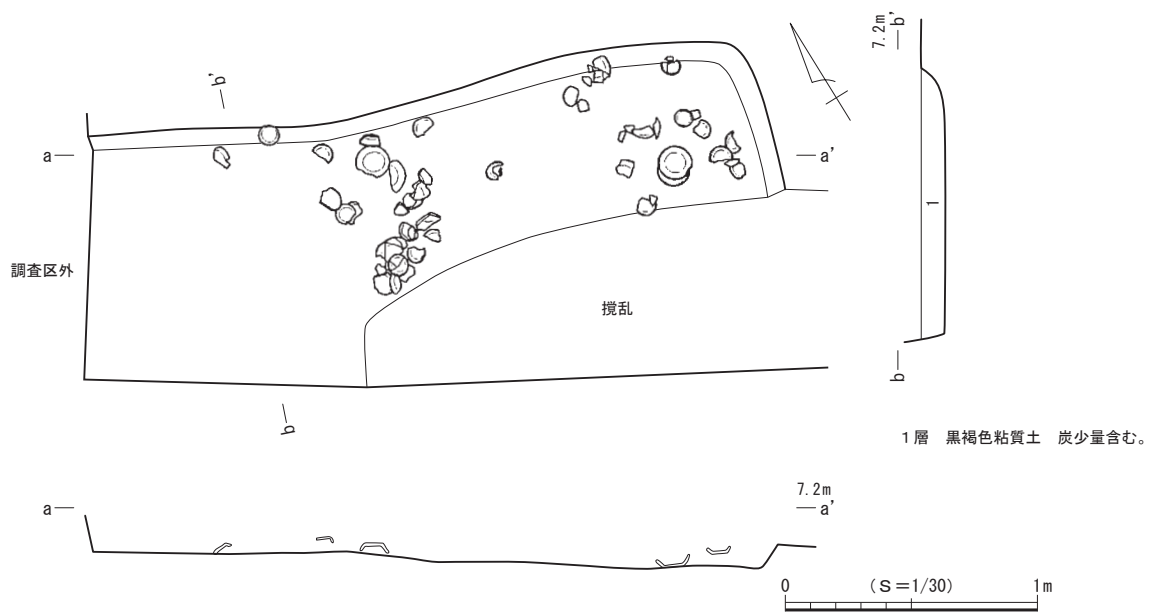


図37 第3面 竪穴状遺構 1

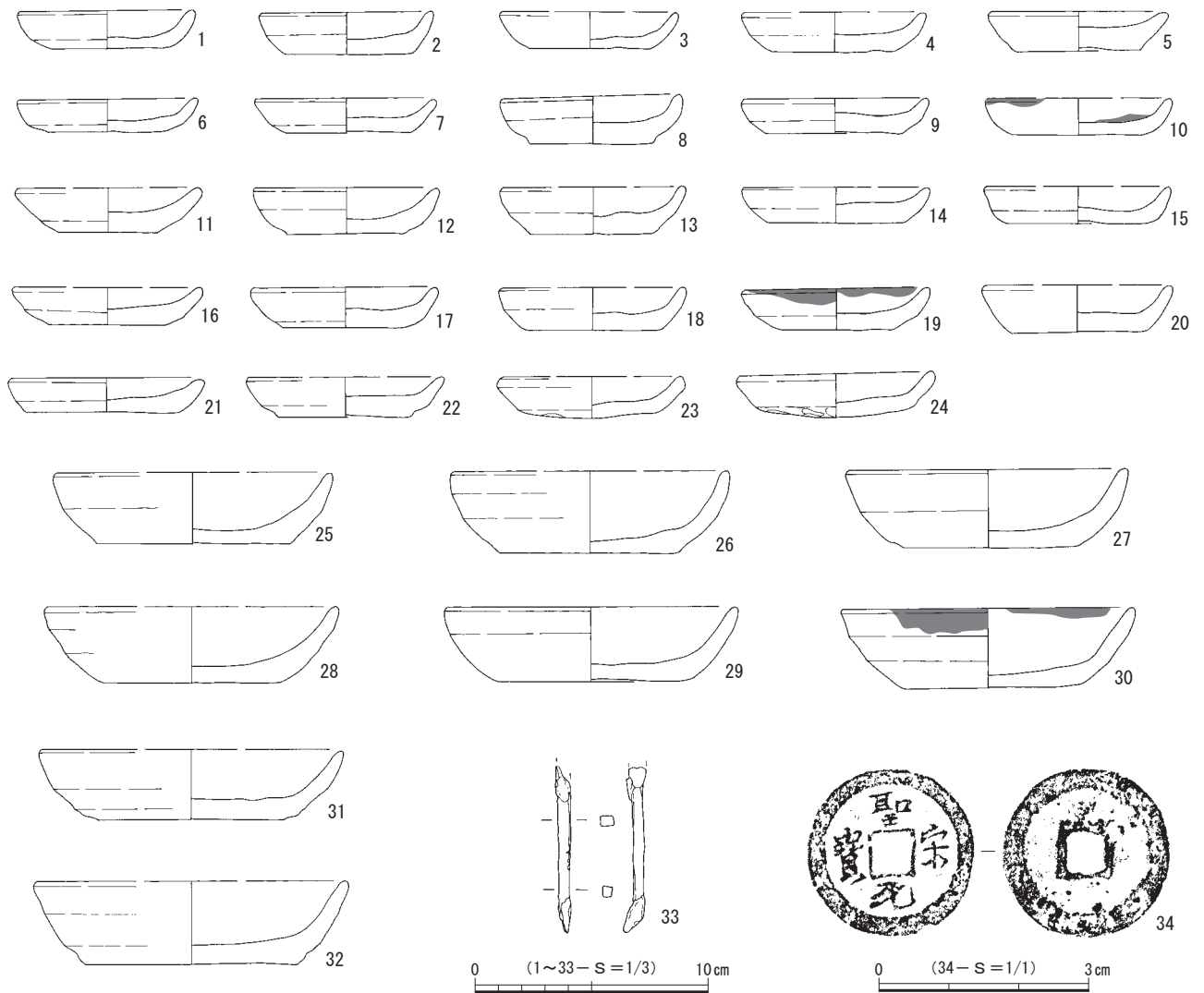


図38 第3面 竪穴状遺構 1 出土遺物

床式の構造でほぼ平坦だが東側が低く、壁はやや開いて立ち上がる。規模は東西現存長2.81m、南北現存長1.25m、壁高9cmを測り、底面の標高は6.97～7.06mである。北壁を基準にすると、主軸方位はN-70°-Wを指す。覆土は炭を少量含む黒褐色粘質土である。中央から東側を中心に、かわらけが多く出土している。

出土遺物(図38)

遺物はかわらけ193点、磁器3点、陶器16点、金属製品3点が出土し、このうち34点を図示した。

1～22・25～32はロクロ成形によるかわらけ、23・24は手づくね成形によるかわらけである。10・19・30には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。33は鉄製の釘、34は銭貨で、聖宋元寶(北宋・1101)である。

(4)土坑

第3面では、南区で6基を検出した。南区全域にわたって分布し、調査区外に及ぶものや攪乱で壊されたものもあり、全容が把握できたのは3基である。平面形は略円形あるいは隅丸長方形と推定され、現状では規模は長軸で最小85cm、最大1.36mを測り、深さ8～15cmでいずれも浅い。

土坑10(図39)

南区西壁の中央に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は円形を基調とするものと推定され、壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長1.08m、短軸現存長63cm、深さ12cmを測り、坑底面の標高は6.99mである。覆土は炭を多く含む暗褐色粘質土である。

出土遺物(図40)

遺物はかわらけ1点が出土し、それを図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

土坑11(図39)

南区中央西側に位置する。地業2と接するが重複関係は明瞭でない。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸85cm、短軸61cm、深さ8cmを測り、坑底面の標高は6.98mである。主軸方位はN-30°-Eを指す。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色粘質土である。

出土遺物(図41)

遺物はかわらけ23点、磁器1点、陶器3点が出土し、このうち3点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。

土坑12(図39)

南区中央に位置する。地業2の範囲内に位置するとみられるが重複関係などは明瞭でない。平面形は円形を呈する。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は径86cm、深さ9cmを測り、坑底面の標高は7.01mである。覆土は炭を多く含む暗褐色粘質土である。

遺物はかわらけ23点、磁器2点、陶器3点が出土した。

土坑13 (図39)

南区中央に位置する。南東側が第2面の土坑7と重複しており、本址が古い。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.20m、短軸63cm、深さ11cmを測り、坑底面の標高は6.95mである。主軸方位はN-67°-Wを指す。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑14 (図39)

南区北東隅に位置する。南東側がピット1と重複しており、新旧関係は不明である。また、北側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は隅丸長方形を基調とするものと推定される。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長85cm、短軸54cm、深さ15cmを測り、坑底面の標高は7.14mである。主軸方位はN-31°-Eを指す。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

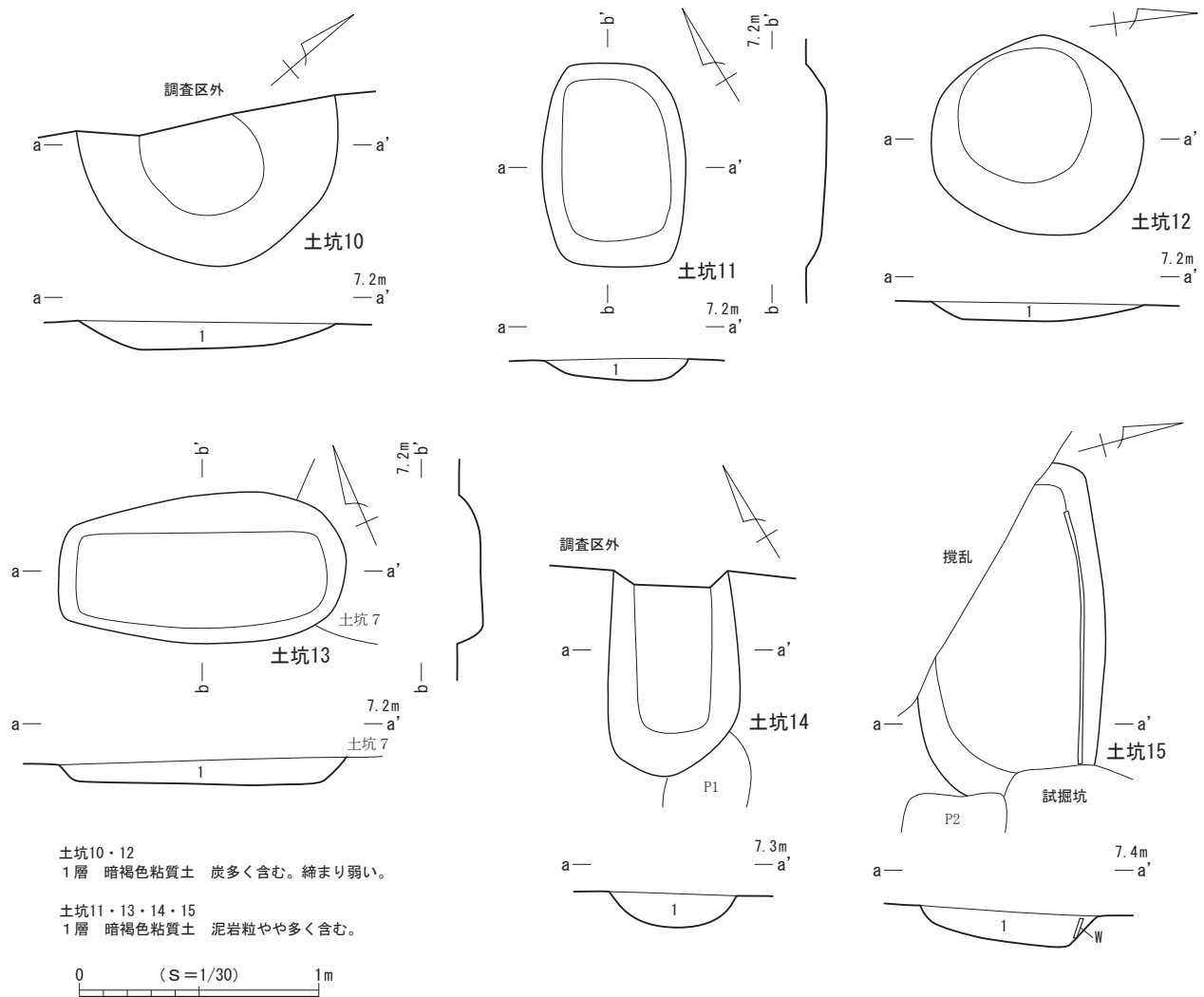


図39 第3面 土坑10~15

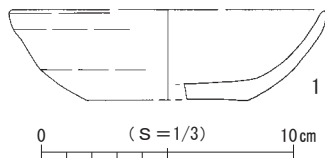


図40 第3面 土坑10出土遺物

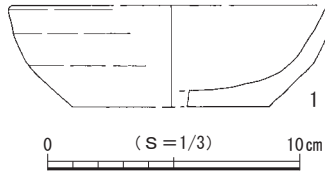


図43 第3面 ピット1出土遺物

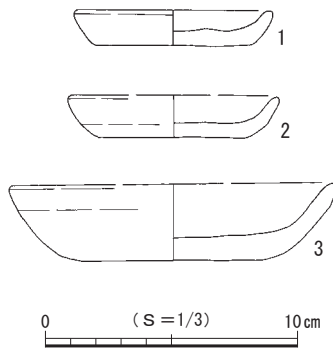


図41 第3面 土坑11出土遺物

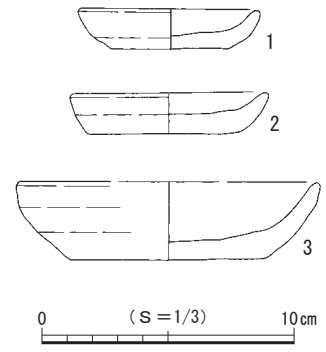


図42 第3面 土坑15出土遺物

土坑15 (図39)

南区南東隅に位置する。東側がピット2と重複しており、新旧関係は不明である。また、東西両端の大半は試掘坑および攪乱によって失われている。平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.36m、短軸77cm、深さ13cmを測り、坑底面の標高は6.88mである。主軸方位はN-75°-Wを指す。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色粘質土である。幅約8cm前後の板材が北壁に並行して底面に立てられた状態で出土しているが、炭化が著しく遺存状態は不良である。

出土遺物 (図42)

遺物はかわらけ10点、磁器1点、陶器2点、金属製品1点が出土し、このうち3点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。

(5) ピット (図34)

第3面では、南区で4基を検出した。南区北東隅にピット1、南東隅にピット2・3、中央西側にピット4が位置する。調査区外に及んでいるピット3は、柱穴ではなく土坑となる可能性もある。建物などの施設を構成するような配置は認められていない。平面形は楕円形を主とし、規模は長軸43～56cm、深さ9～22cmを測る。覆土は泥岩粒をやや多く含む暗褐色粘質土を主体とする。

出土遺物 (図43)

ピット1・3・4から遺物が出土し、このうち1点を図示した。

1はピット1より出土したロクロ成形によるかわらけである。

(6) 遺構外出土遺物 (図44～46)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち104点を図示した。

1は白かわらけである。2～77はロクロ成形によるかわらけで、13・21・29・41・45・49・56・57・64・66・68・69・75には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、76には焼成後穿孔が施され、77は体部を打ち欠き使用されている。78～80は手づくね成形によるかわらけで、79には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。81・82は舶載磁器である。81は白磁椀Ⅸ類、82は龍泉窯系青磁椀Ⅲ類である。83～95は陶器類である。83は瀬戸窯産の入子と思われる製品である。84～92は常滑窯産の製品である。84は壺と思われる製品、85～89は甕、90は広口壺小、91は片口鉢Ⅰ類、92

は片口鉢Ⅱ類である。93~95は山茶碗窯系の片口鉢である。96は瓦質土器の燭台の脚部、97は土器で火鉢である。98・99は石製品で、98が硯、99が用途不明の石製品である。100~102は刀子である。103・104は銭貨で、103が皇宋通寶(北宋・1038)、104が紹聖元寶(北宋・1094)である。

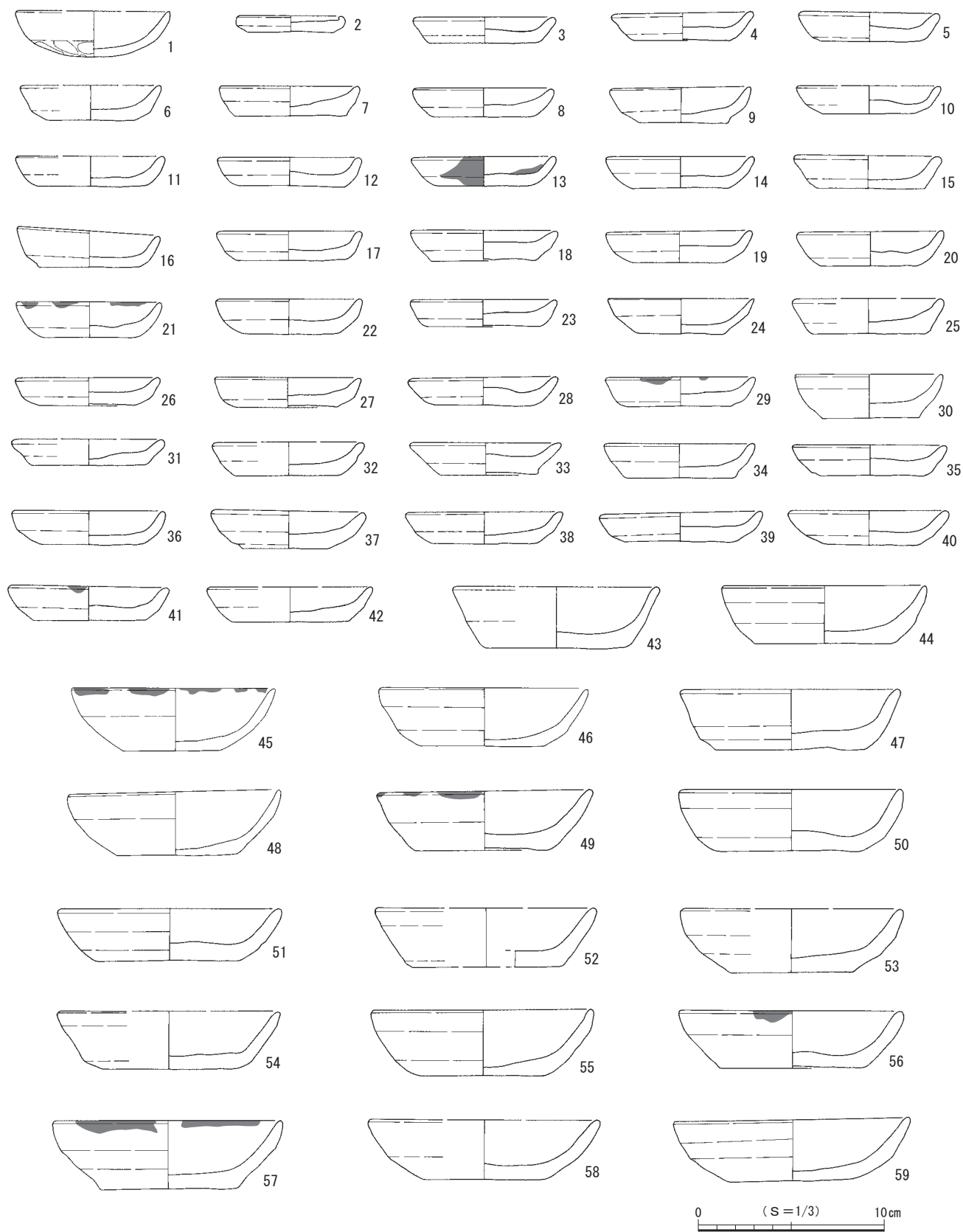


図44 第3面 遺構外出土遺物(1)

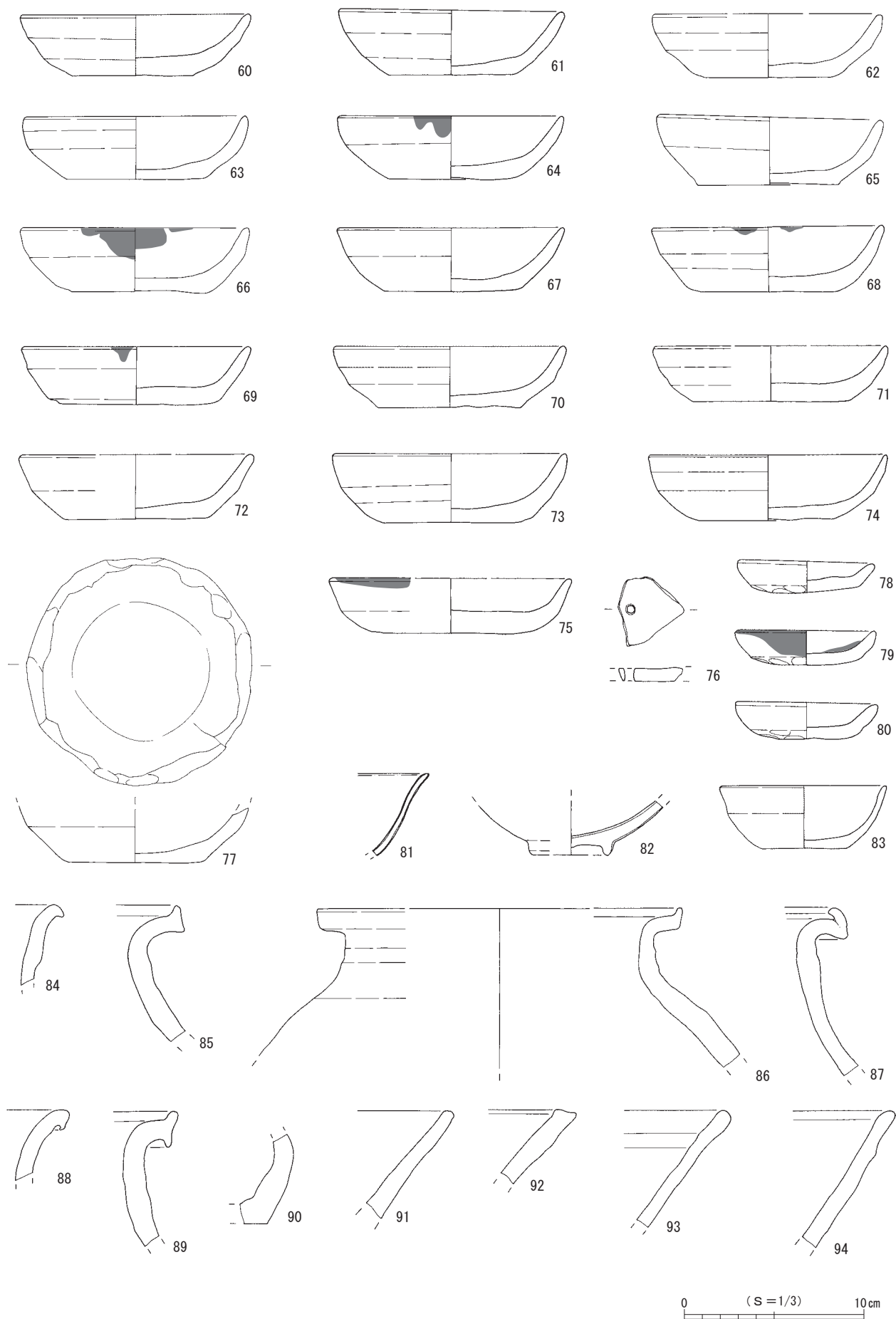


图45 第3面 遺構外出土遺物 (2)

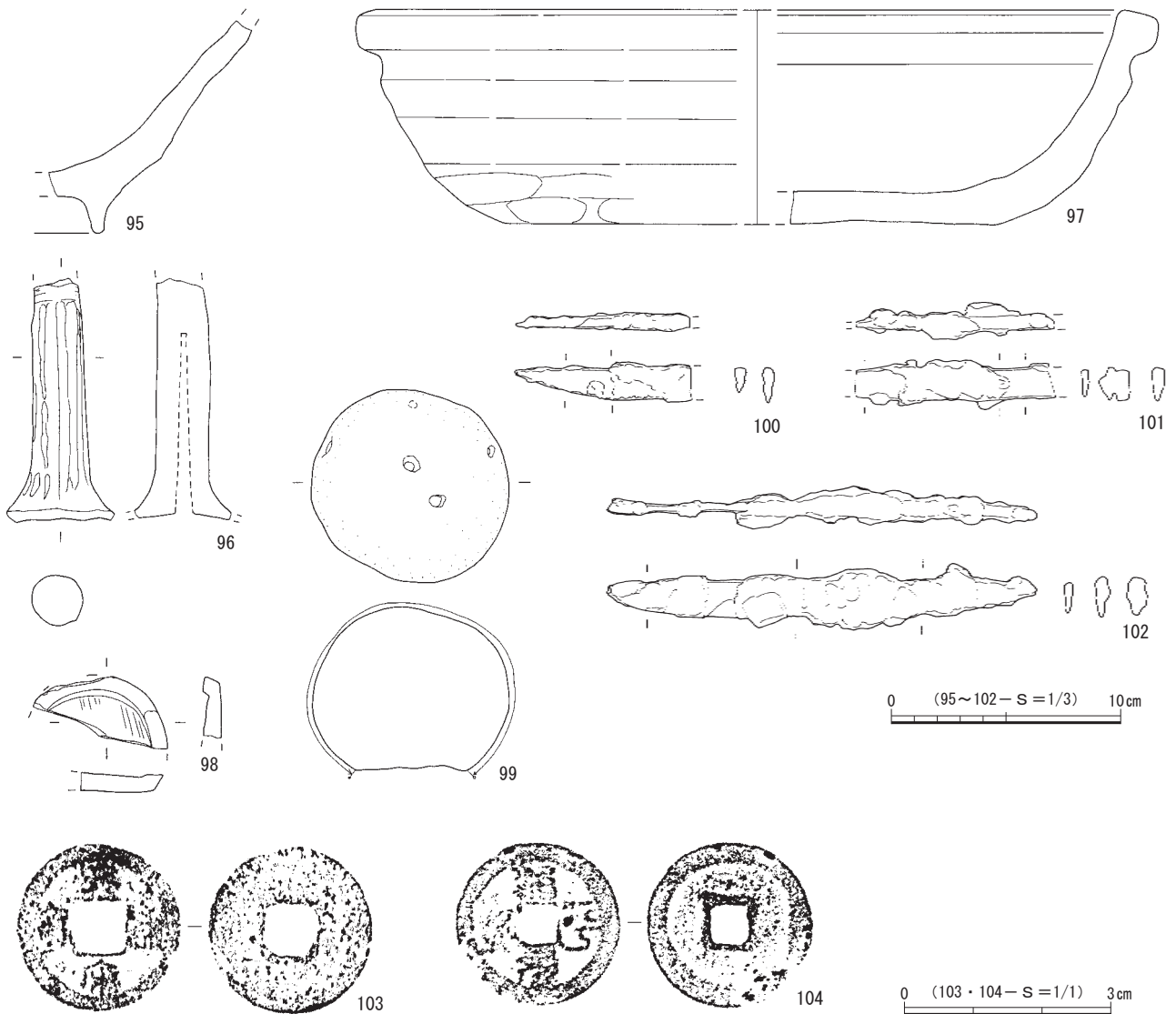


図46 第3面 遺構外出土遺物 (3)

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面の遺構は堆積土層の9層上面で確認し、確認面の標高は約7.0~7.1mである。北区の北東隅に現代の攪乱が残存する。泥岩を多く含む黒灰色粘質土で構成され、上面は泥岩で整地されており、直上に薄い炭層が部分的に堆積している。遺構は溝状遺構1条、柵列1列、土坑11基、ピット3基を検出した(図47)。溝状遺構3は北区から南区にかけてL字状の区画を構成するものと考えられ、これ以外の遺構は大半が溝状遺構以南に分布している。溝状遺構および柵列は、第5面で検出された板組遺構1および杭列1と位置や主軸が揃うことから、前段階の区画に倣ったものと考えられる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第4面では、北区から南区にかけて1条を検出した。直線的でL字状に屈曲している。

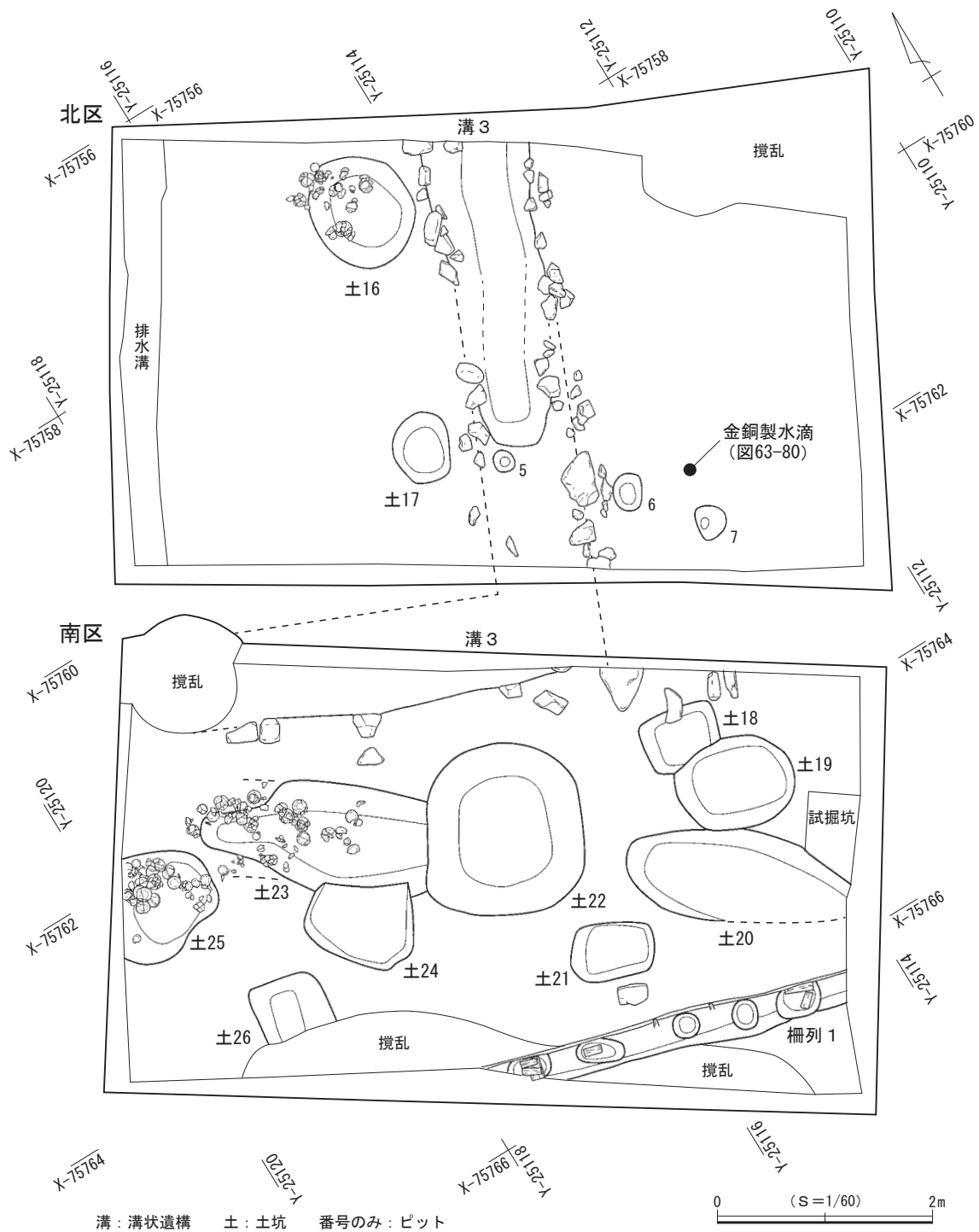


図47 第4面 遺構分布図

溝状遺構3 (図48)

北区中央から南区北端西側にかけて位置する。北区で第2面の溝状遺構2と重複しており、本址が古い。北端および西端は調査区外に及んでいる。北区中央を南北方向に縦断する浅い溝状の掘り込みが認められ、護岸の痕跡とみられる泥岩が上端に沿って疎らに残存している。掘り込みは北区中央付近で確認できなくなるが、延長上に同様の泥岩の列が認められ、北区南壁まで直線的に続いている。南区ではそれに直交する直線的な浅い落ち込みを確認し、ごく疎らではあるが落ち込みの縁辺に泥岩の分布が認められたことから、北区からの延長部分が南北調査区間の未調査部分でL字状に屈曲し、西へ延びているも

のと考えられる。南区の泥岩の分布は東側へ点々と続いており、両調査区間でT字状に屈曲していた可能性も考えられる。掘り込みの規模は現存長2.88m、幅0.67~1.01m、深さ12cmを測り、北区での主軸方位はN-24°-E、南区ではN-66°-Wを指す。壁はごく緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面の標高は北区北端で6.89m、北区南端で7.05mである。覆土は小泥岩ブロックを少量含み、砂が混入する暗褐色土である。

遺物はかわらけ3点、陶器10点、木製品3点が出土した。

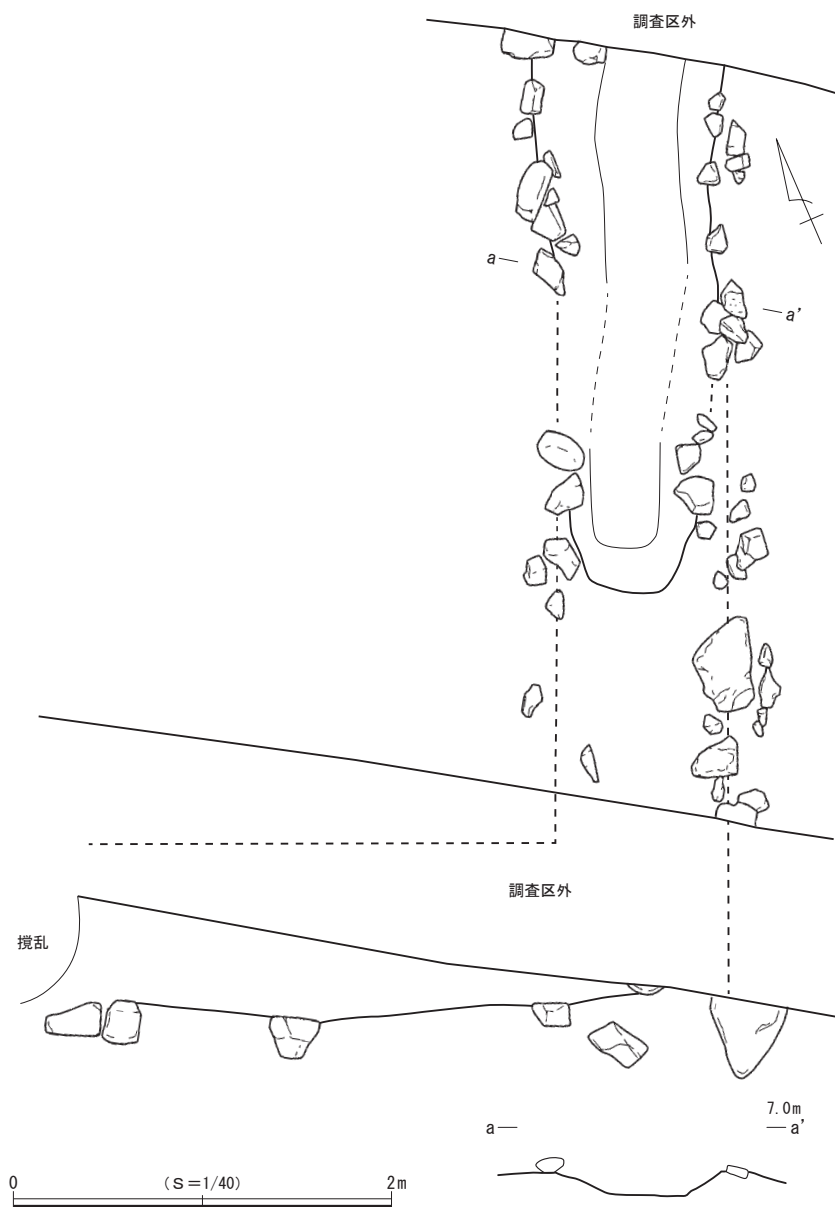


図48 第4面 溝状遺構3

(2) 柵 列

第4面では、南区南東隅で1列を検出した。両端は調査区外に及んでいる。溝状遺構の底面に小ピットが穿たれたもので、ここでは柵列とした。

柵列1 (図49)

南区南東隅に位置する。東西両端が調査区外に及んでおり、全容は不明である。北西-南東方向に延びる直線的な溝状遺構の底面に5基の小ピット(P1~P5)が並んで掘り込まれている。溝状遺構は現存長3.50m、幅30~39cm、深さ14cmを測り、主軸方位はN-75°-Wを指す。北側の壁に沿って幅9cm前後の板材が立った状態で検出されたもので、壁に密着させるため杭で押さえている状況がP2-P3間、P3-P4間で認められた。底面に掘り込まれたP1~P5の柱間寸法は、P1から60cm-60cm-90cm-60cmを測り、P3-P4間のみ広がっている。ピットの規模は長軸27~43cm、短軸21~29cm、深さ3~12cmを測る。P1・P4・P5から礎板が出土しており、礎板上面の標高は6.68~6.75mである。覆土は炭と砂を少量含む粘性の強い黒褐色土で、ピット内は締まりが弱い。本址を境として北側は泥岩による整地面が広がり、南側は締まりのある黒色土により面が形成されていることから、本址は柵あるいは塀などの区画性をもつ施設である可能性が考えられる。なお、第5面の杭列1と位置が重なることから、その区画を踏襲したものと推測される。

出土遺物 (図50)

遺物はかわらけ81点、磁器3点、陶器33点、石製品2点、金属製品1点が出土し、このうち9点を図示した。

1は手づくね成形によるかわらけである。2~6はロクロ成形によるかわらけで、2・3には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。7は常滑窯産の甕、8も常滑窯産の広口壺と思われる製品である。9は砥石である。

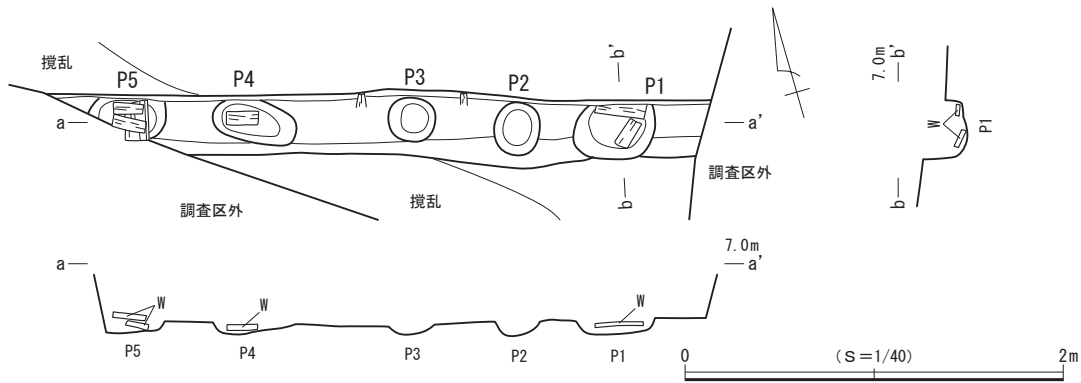


図49 第4面 柵列1

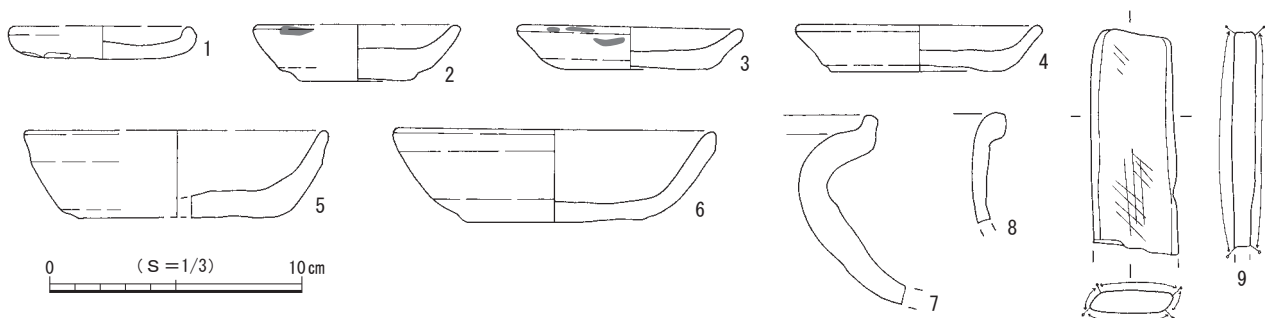


図50 第4面 柵列1 出土遺物

(3) 土 坑

第4面では、北区で2基、南区で9基の合計11基を検出した。北区では溝状遺構3の西側、南区では溝状遺構3と柵列1の間に分布する。平面形は略円形、楕円形、隅丸方形など比較的整ったものと、歪な不整形なものがあり、現状では規模は長軸で最小64cm、最大2.13m、深さ11～55cmと幅がある。多量のかかわらけが出土し、廃棄土坑と考えられる遺構も含まれる。

土坑16 (図51)

北区北西側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は径1.09m、深さ14cmを測り、坑底面の標高は6.90mである。覆土は炭と泥岩を少量含む黒褐色土である。覆土中から完形を含む多量のかかわらけが出土している。

出土遺物 (図53)

遺物はかわらけ153点、陶器3点、金属製品1点が出土し、このうち24点を図示した。

1は白かわらけ、2～23はロクロ成形によるかわらけ、24は手づくね成形によるかわらけである。19には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑17 (図51)

北区中央南側に位置する。平面形は楕円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64cm、短軸52cm、深さ22cmを測り、坑底面の標高は6.80mである。主軸方位はN-14°-Eを指す。

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器1点が出土した。

土坑18 (図51)

南区北東側に位置する。南東側が土坑19と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸72cm、短軸現存長55cm、深さ14cmを測り、坑底面の標高は6.95mである。主軸方位はN-78°-Wを指す。覆土は泥岩粒を少量、かわらけ細片を多量含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ52点、陶器1点が出土した。

土坑19 (図51)

南区北東側に位置する。北西側が土坑18、南西側が土坑20とわずかに重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.10m、短軸85cm、深さ25cmを測り、坑底面の標高は6.86mである。主軸方位はN-72°-Wを指す。覆土は泥岩粒を少量含む暗褐色土である。

出土遺物 (図54)

遺物はかわらけ78点、磁器2点、陶器13点が出土し、このうち5点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。1には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑20 (図51)

南区東側に位置する。北東側が土坑19とわずかに重複しており、新旧関係は不明である。南東側が調査区外に及ぶが大半は検出したものと考えられる。平面形は長楕円形を呈する。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長2.13m、短軸現存長93cm、深さ17cmを測り、坑底面の標高は6.78mである。主軸方位はN-44°-Wを指す。覆土は泥岩粒を少量含む暗褐色土である。

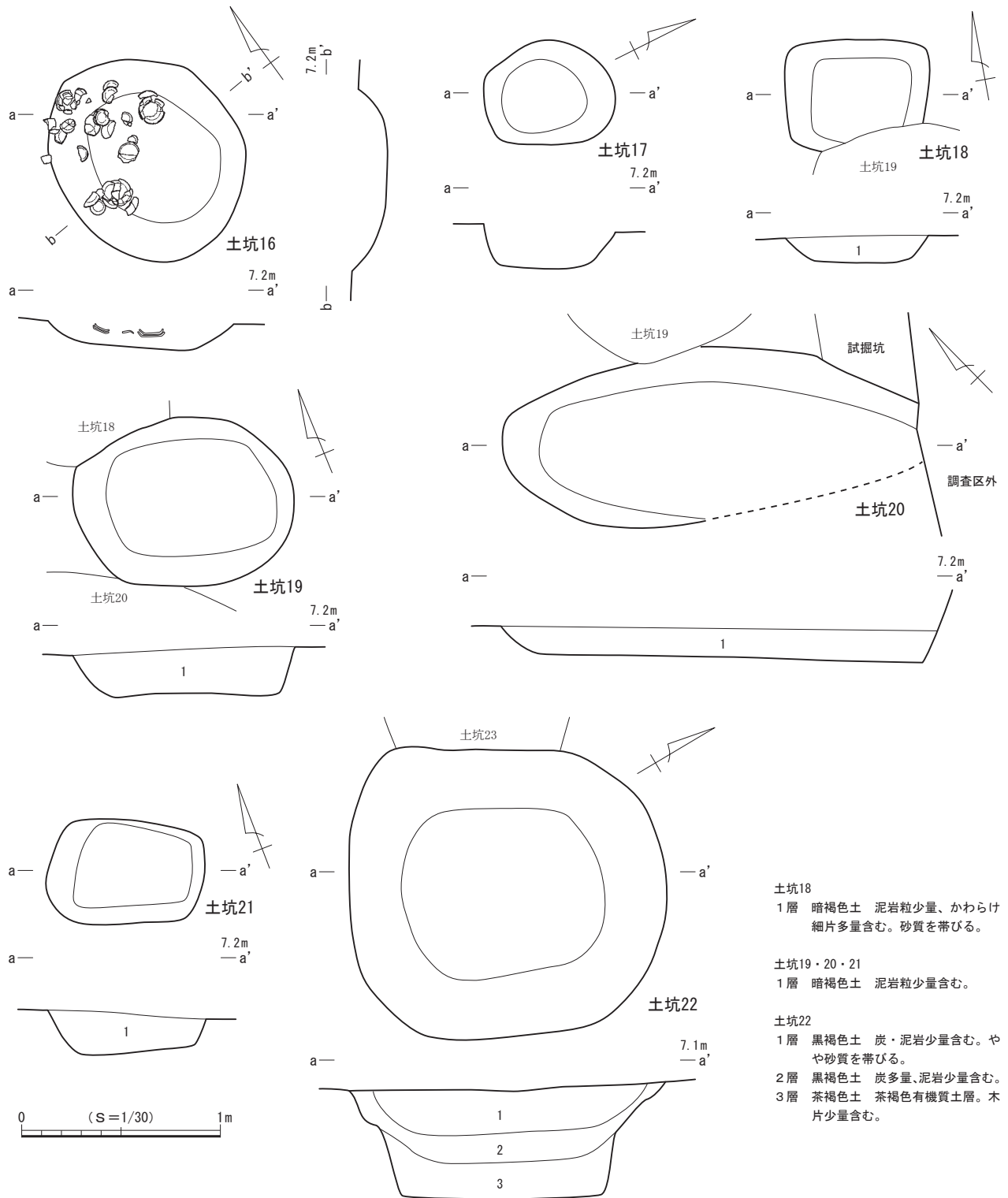


図51 第4面 土坑16~22

出土遺物 (図55)

遺物はかわらけ97点、陶器30点、骨製品1点が出土し、このうち10点を図示した。

1～3は手づくね成形によるかわらけ、4～8はロクロ成形によるかわらけである。6には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。9は山茶碗窯系の片口鉢である。10は鹿角製の性格不明の製品である。

土坑21 (図51)

南区中央南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80cm、短軸53cm、深さ22cmを測り、坑底面の標高は7.72～7.76mで東側がやや高い。主軸方位はN-70°-Wを指す。覆土は泥岩粒を少量含む暗褐色土である。

出土遺物 (図56)

遺物はかわらけ25点、磁器2点、陶器11点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

土坑22 (図51)

南区中央に位置する。西側が土坑23と重複しており、本址が新しい。平面形は隅丸方形を呈し、東西壁は直線的で、北壁はやや丸みを帯びる。壁はやや外傾して立ち上がり、中位付近で大きく開き、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.60m、短軸1.45m、深さ55cmを測り、坑底面の標高は6.40mである。主軸方位はN-30°-Eを指す。覆土は上～中層は炭と泥岩を少量含む黒褐色土を主体として中位に炭を多量に含み、下層に木片を少量含む茶褐色有機質土が堆積していた。また、覆土中から獣骨片とともに人骨片が2点出土した。

出土遺物 (図57)

遺物はかわらけ333点、磁器8点、陶器16点が出土し、このうち46点を図示した。

1～46はロクロ成形によるかわらけである。10・11・19・29・33には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑23 (図52)

南区西側に位置する。東側が土坑22と重複しており本址が古く、南西側では土坑24が重複しており本址が新しい。記録された平面形は北西側が細く括れる歪な長楕円形を呈しているが、検出した時点で掘り込みが浅かったこと、遺物が掘り込みの範囲を越えて広がることから、本来の平面形は括れない長楕円形であったと推定される。壁は底面から丸みを帯びてなだらかに開き、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長2.12m、短軸1.01m、深さ15cmを測り、坑底面の標高は6.70mである。主軸方位はN-54°-Wを指す。覆土は炭と泥岩を少量、砂を微量含む粘性の強い暗褐色粘質土である。中央から北西側を中心に、覆土中から多量のかわらけが出土している。

出土遺物 (図58)

遺物はかわらけ154点、陶器4点、瓦質土器1点、金属製品2点が出土し、このうち11点を図示した。

1～9はロクロ成形によるかわらけ、10は山茶碗窯系の片口鉢、11は馬具と思われる鉄製品である。

土坑24 (図52)

南区中央西側に位置する。北側に土坑23が重複しており、本址が古い。平面形は隅丸長方形を基調とするものと推定され、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.03m、短軸現存長86cm、深さ12cmを測り、坑底面の標高は6.82mである。南西側の壁を基準にすると、主軸方位はN-40°-Wを指す。覆土は炭をやや多く含む砂質を帯びた暗褐色粘質土である。

遺物はかわらけ20点、陶器4点、石製品1点が出土した。

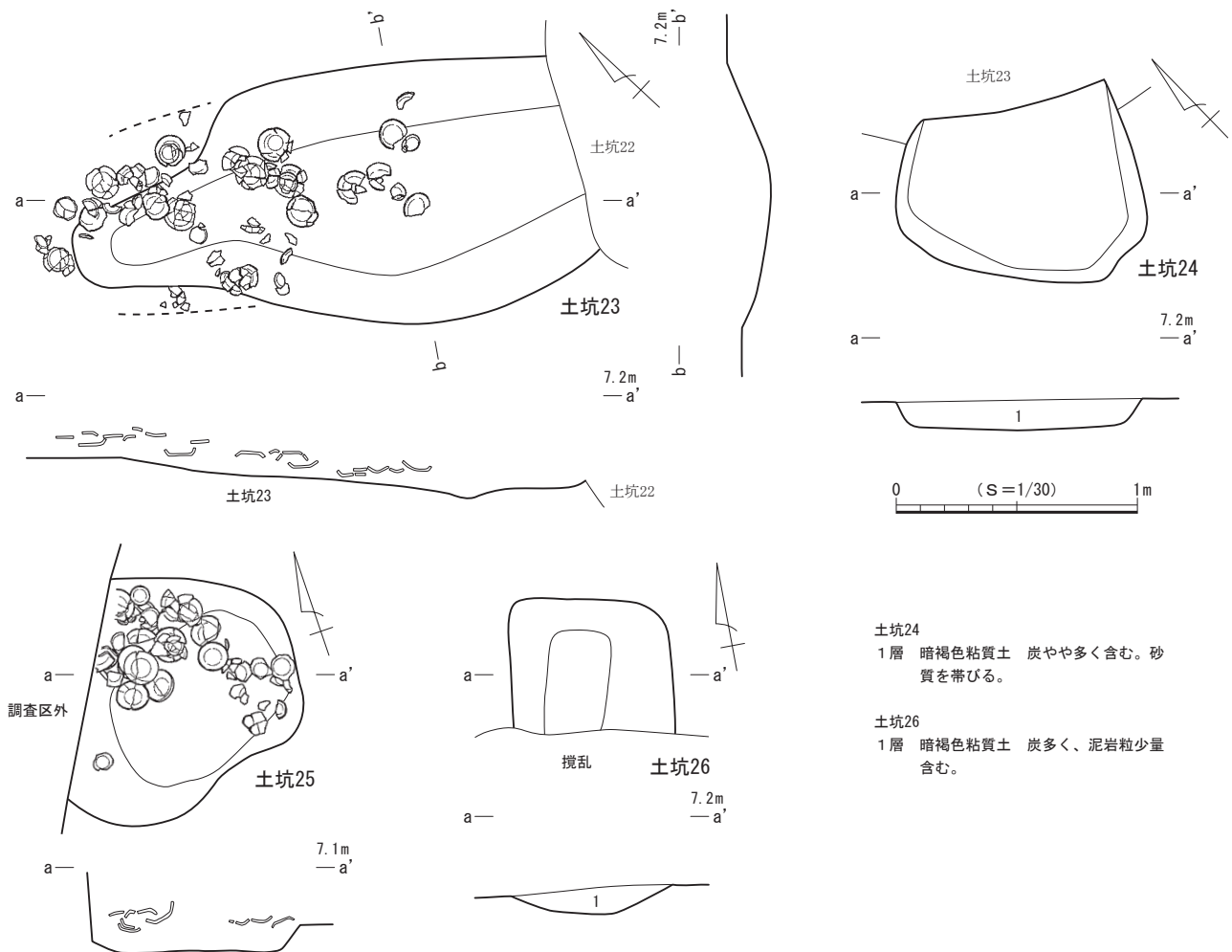
土坑25 (図52)

南区西壁の中央に位置する。西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。平面形は、上端は不整楕円形を呈するものと推定され、坑底面は隅丸長方形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.05m、短軸1.02m、深さ11cmを測り、坑底面の標高は6.74mである。坑底面の形状を基準にすると、主軸方位はN-70°-Eを指す。覆土は砂礫を多く含む粘性の強い暗褐色粘質土である。覆土中から多量のかかわらけが出土している。

出土遺物 (図59)

遺物はかわらけ63点、磁器1点、陶器5点が出土し、このうち12点を図示した。

1~3・6~12はロクロ成形によるかわらけ、4・5は手づくね成形によるかわらけである。7・9には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。



土坑24
1層 暗褐色粘質土 炭やや多く含む。砂質を帯びる。

土坑26
1層 暗褐色粘質土 炭多く、泥岩粒少量含む。

図52 第4面 土坑23~26

土坑26 (図52)

南区南西側に位置する。南側が攪乱により失われている。遺存する部分から平面形は隅丸長方形を呈するものと推定され、壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸68cm、短軸現存長56cm、深さ12cmを測り、坑底面の標高は6.80mである。西壁を基準にすると、主軸方位はN-9°-Eを指す。覆土は炭を多く、泥岩粒を少量含む暗褐色粘質土である。

出土遺物 (図60)

遺物はかわらけ18点、磁器1点、陶器7点、金属製品1点が出土し、このうち3点を図示した。

1~3はロクロ成形によるかわらけである。

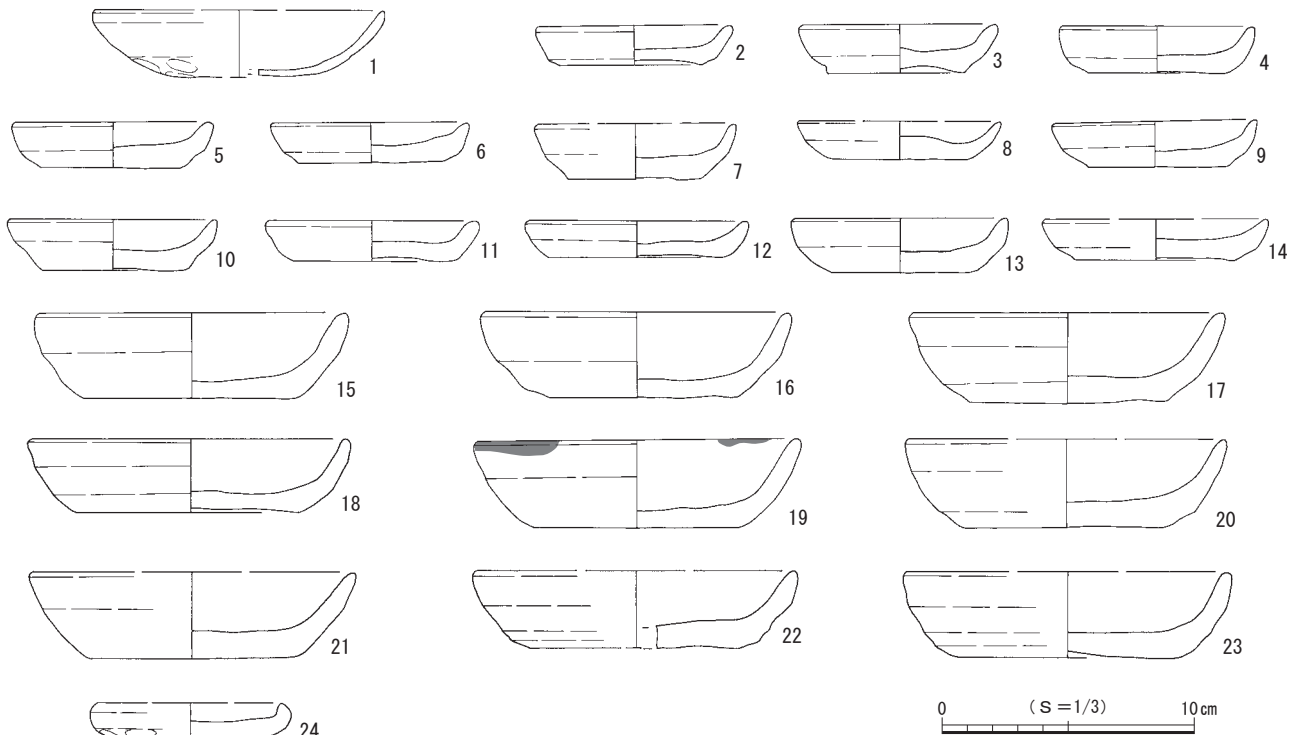


図53 第4面 土坑16出土遺物

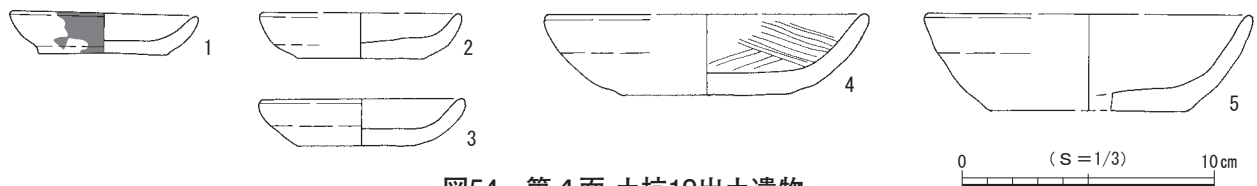


図54 第4面 土坑19出土遺物

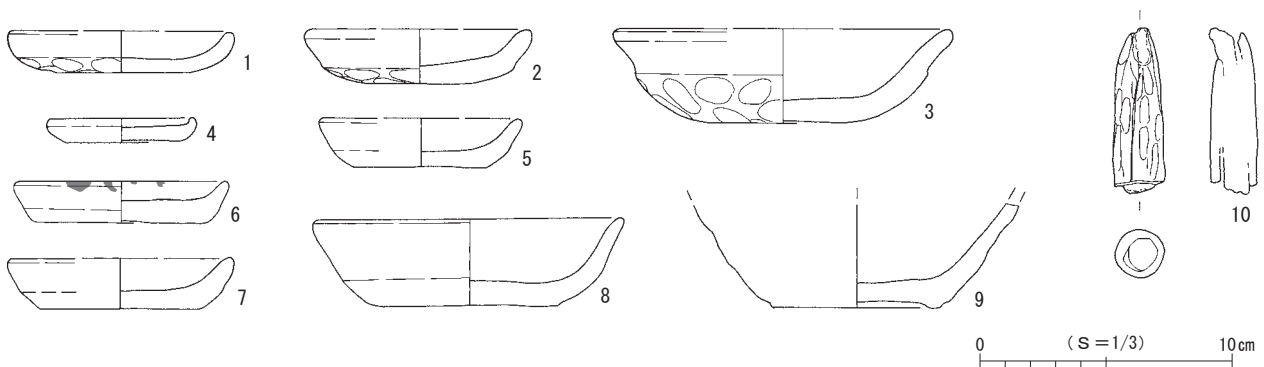


図55 第4面 土坑20出土遺物

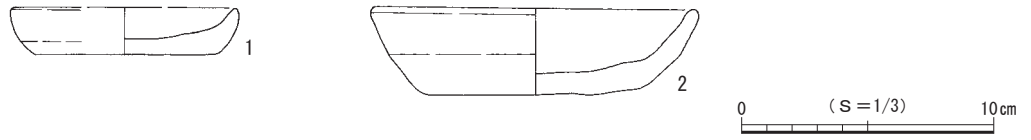


图56 第4面 土坑21出土遺物

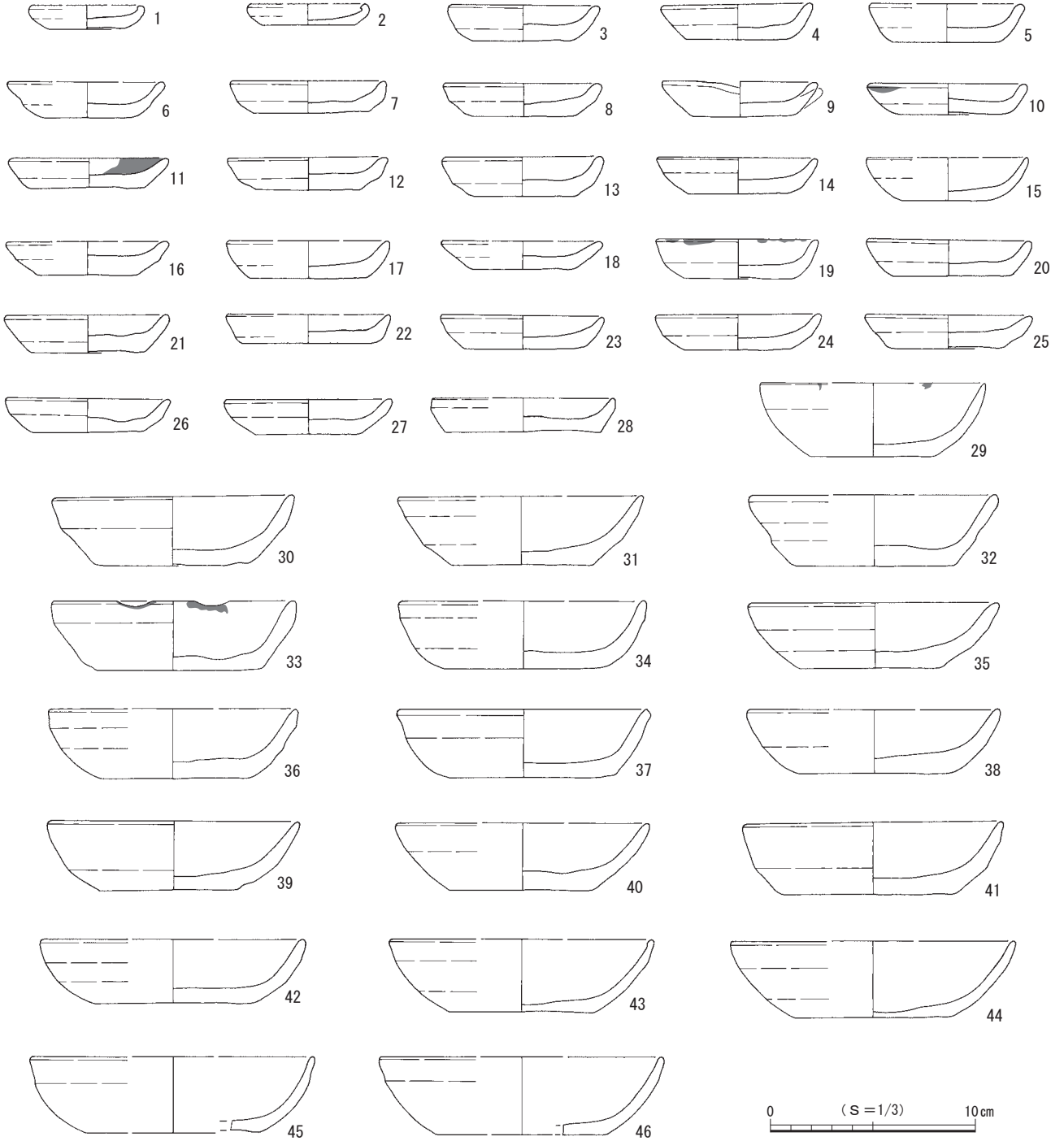


图57 第4面 土坑22出土遺物

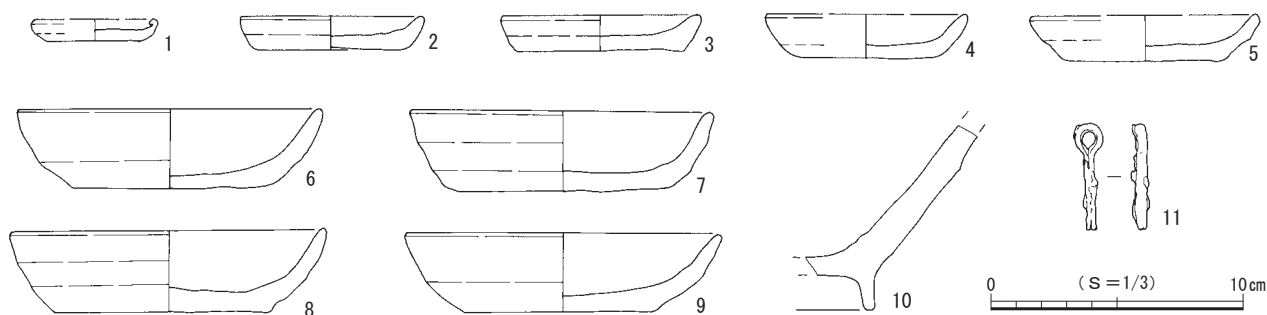


図58 第4面 土坑23出土遺物

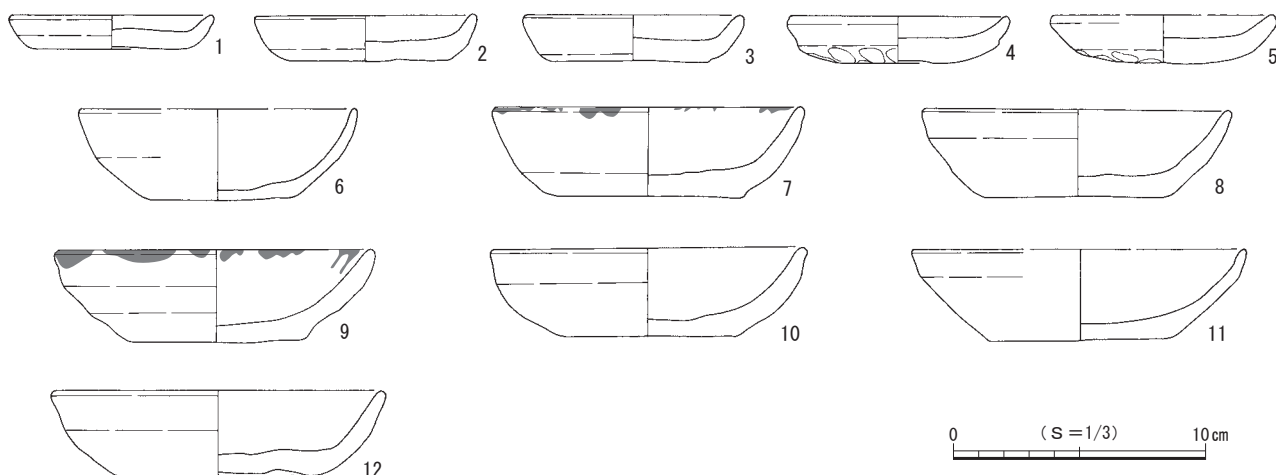


図59 第4面 土坑25出土遺物

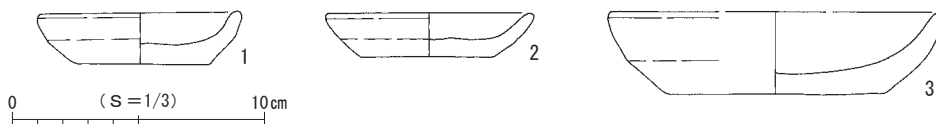


図60 第4面 土坑26出土遺物

(4) ピット (図47)

第4面では、北区で3基を検出した。北区南東側にピット5～7が位置する。一列に並ぶが等間隔ではない。平面形は略円形ないし楕円形で、規模は長軸・径22～35cm、深さ19～29cmを測る。

遺物は出土しなかった。

(5) 遺構外出土遺物 (図61～63)

第4面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち81点を図示した。

1は白かわらけである。2～35はロクロ成形によるかわらけで、21・23・29・35には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。36～42は手づくね成形によるかわらけである。36には焼成後穿孔が施されている。

43～47は舶載磁器である。43・44は白磁壺、45は白磁合子身、46は龍泉窯系青磁碗I類、47も龍泉窯系青磁で合子の蓋である。48～69は陶器類である。48は瀬戸窯産の折縁小皿である。49・50は渥美窯産の製品で、49が広口壺、50が片口碗である。51～63は常滑窯産の製品で、51・52・54～63が甕、53が壺である。64は東濃型の山茶碗、65～69は山茶碗窯系の片口鉢である。70・71は土器の片口鉢である。72

~76は瓦類で、72が軒丸瓦、73が丸瓦、74~76が平瓦である。77~79は石製品で、すべて砥石である。80は金銅製の水滴、81は漆製品で、烏帽子である。

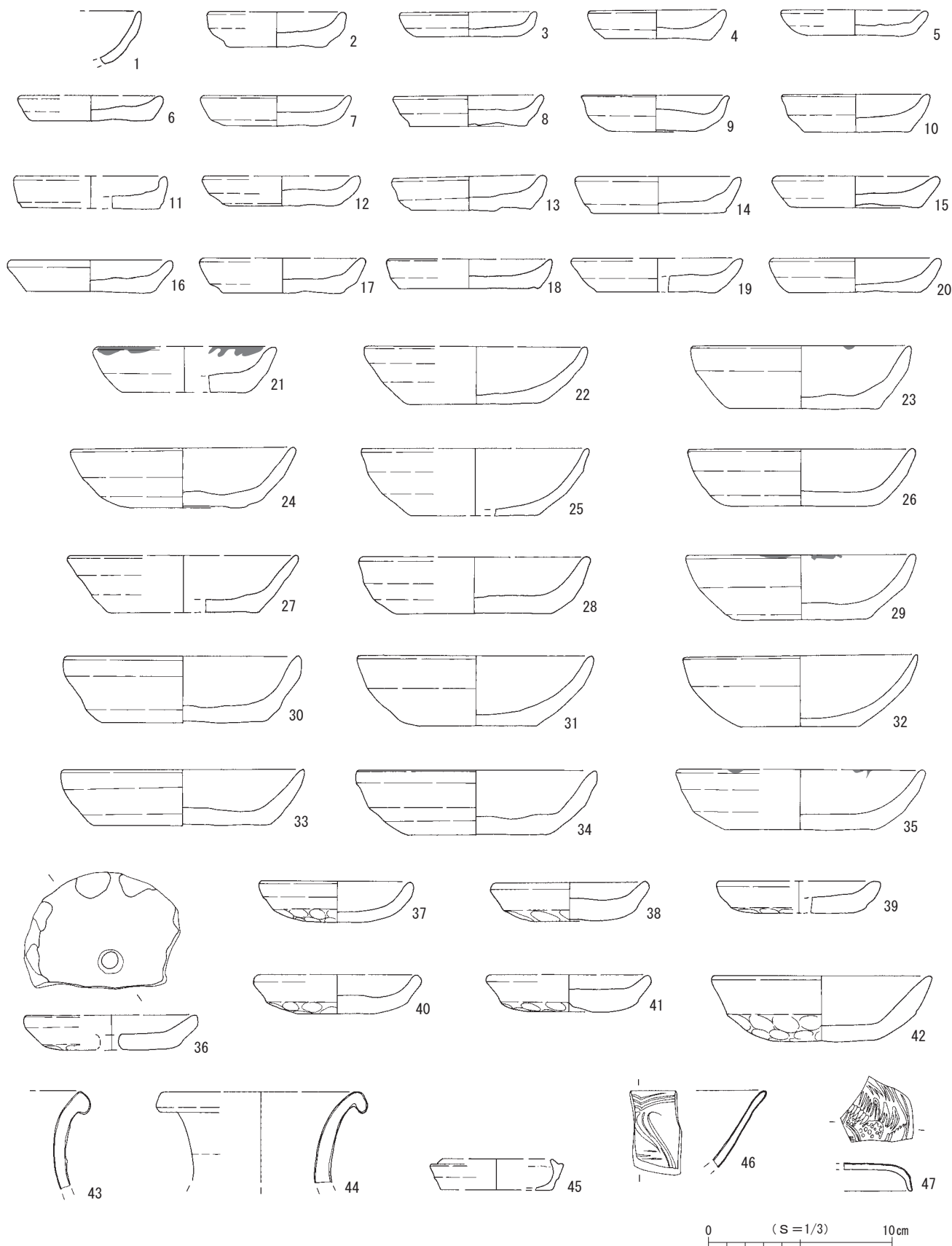


図61 第4面 遺構外出土遺物 (1)

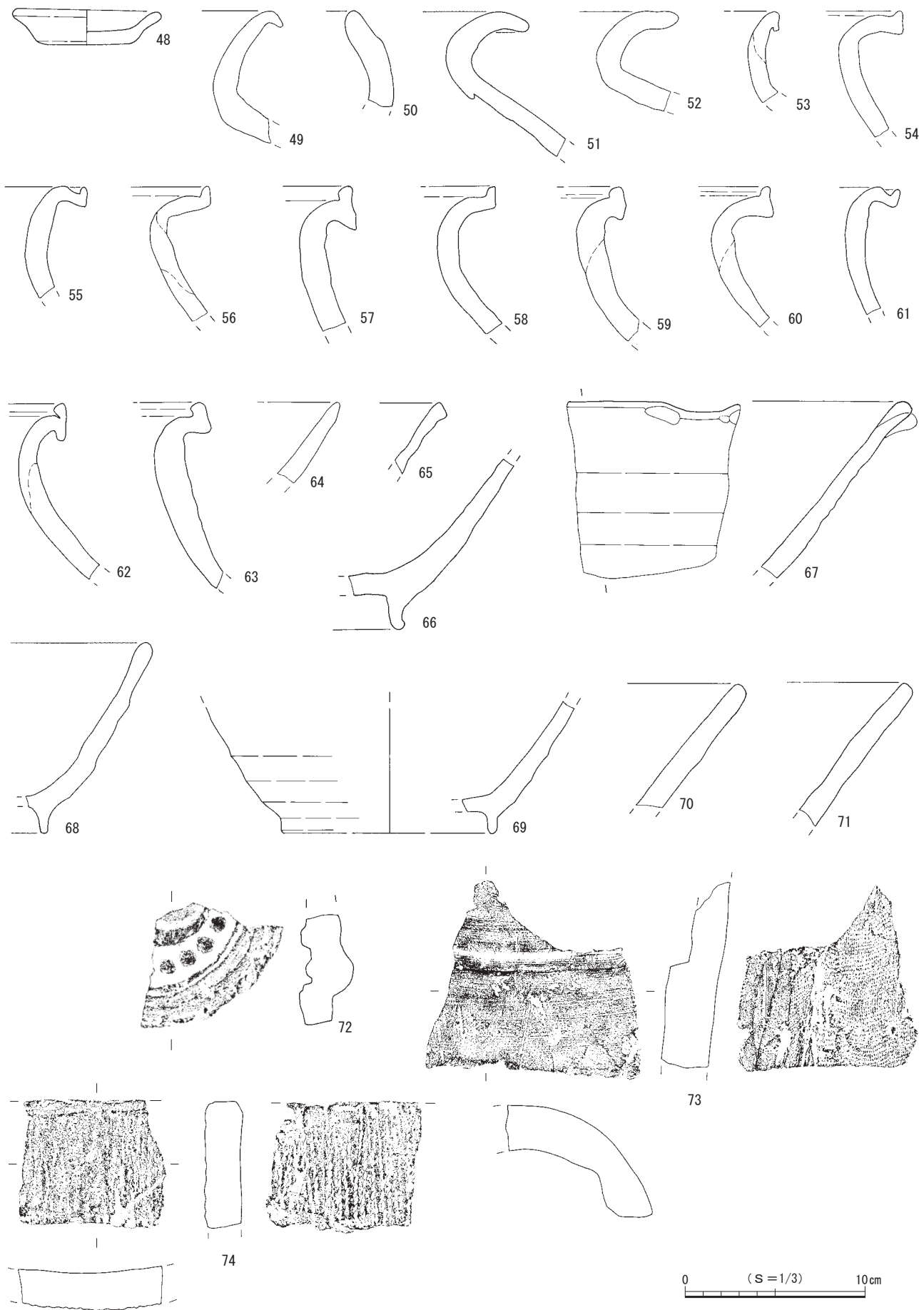


图62 第4面 遺構外出土遺物 (2)

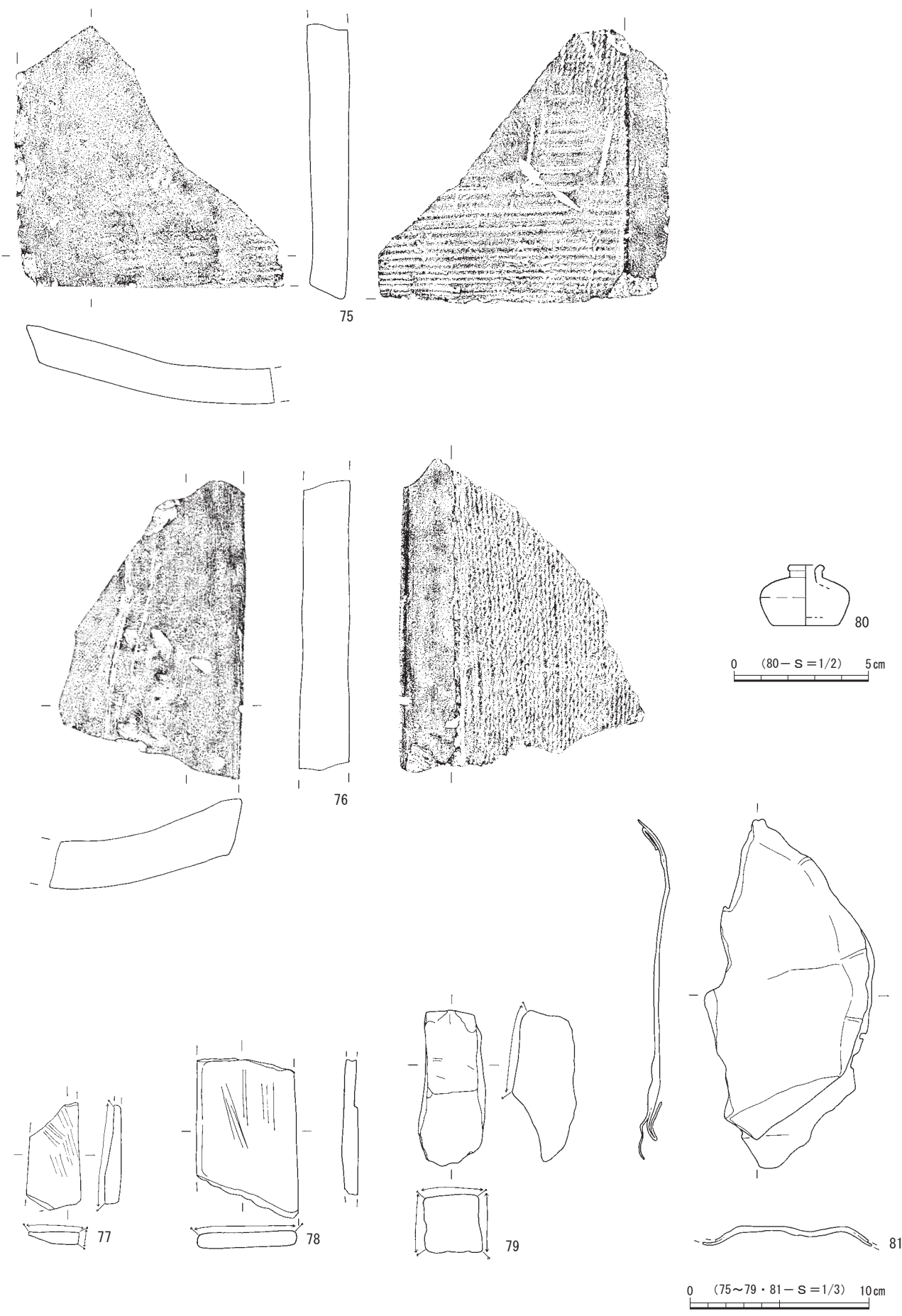


图63 第4面 遺構外出土遺物 (3)

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面の遺構は11層上面で確認し、確認面の標高は約6.9mである。崩落防止の安全対策上、北区北東隅は一部掘り残している。小泥岩ブロックを少量含む粘性の強い黒灰色粘質土で構成されており、北区では上面が部分的に泥岩による整地面となっている。遺構は板組遺構1基、杭列1列、土坑3基、ピット1基を検出した(図64)。他の面と比較して遺構の密度は低い。これら以外に掘り方を伴わない礎板が11枚出土しており、本面より新しい面に伴うものである可能性が考えられるが、一括して本面の全体図

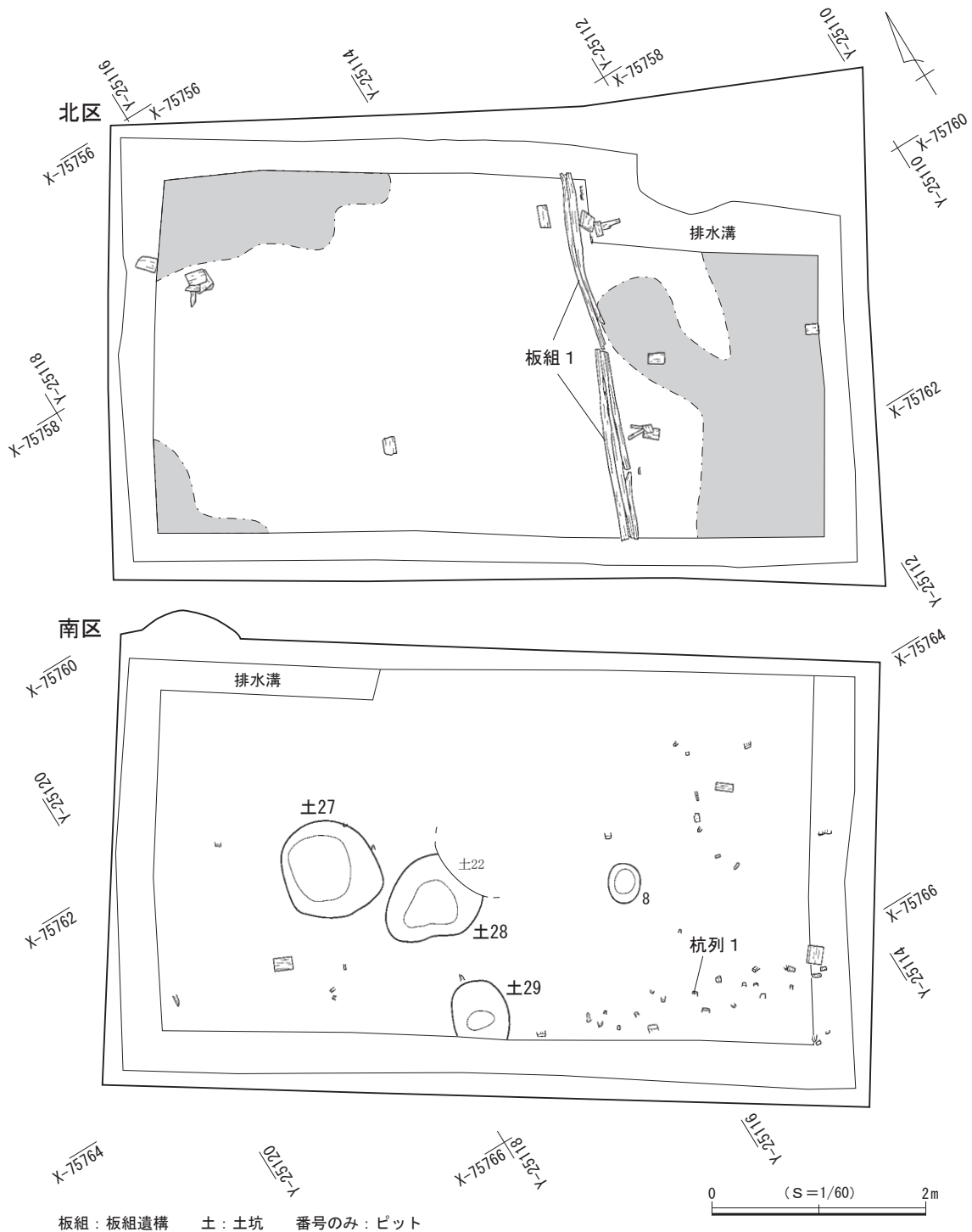


図64 第5面 遺構分布図

に示した。建物などの配置は確認されていない。また、南区で杭列1の他にも杭が出土したが、配列や用途は不明である。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

(1) 板組遺構

第5面では、北区で1基を検出した。板が列をなして配置されているもので、ここでは板組遺構とした。

板組遺構1 (図65)

北区東側に位置する。南北方向に板が連なった状態で出土し、両端は調査時に設けられた排水溝によって失われ、南区では検出されていない。この横板の東側約10cmの位置で、垂直方向に打ち込まれた板が4枚出土しており、横板の押さえなどとして関連するものと考えられる。主軸方位はN-21°-Eを指す。横板は中央付近で南北に分かれるが、端がほぼ接している。北側は長さ約1.7m、厚さ約1cm、幅約13cmと約7cmの2枚によって構成され、下位の板がやや西側に傾いたところに上位の板が落ち込んだような状態で出土した。南側は長さ約1.8m、厚さ約1cm、幅約7cm・8cm・5cmの3枚によって構成されており、3枚の板が積み上げられた状態で西下がり傾斜した状態で検出した。縦方向の板4枚は、いずれも西側に傾斜したような出土状態である。板組を境とした東西において、面の構成土や標高の違いは認められない。南区では本址の延長とみられる板は検出されていないが、延長上に相当する位置に垂直方向の板や杭などが出土していることから、本遺構に関連する施設が南区まで延びていた可能性が考えられる。

出土遺物 (図66)

遺物はかわらけ35点、磁器1点、陶器26点、土器1点、木製品32点、金属製品1点が出土し、このうち23点を図示した。

1～23は木製品である。1は曲物、2・3は用途不明の製品、4～23は箸状である。

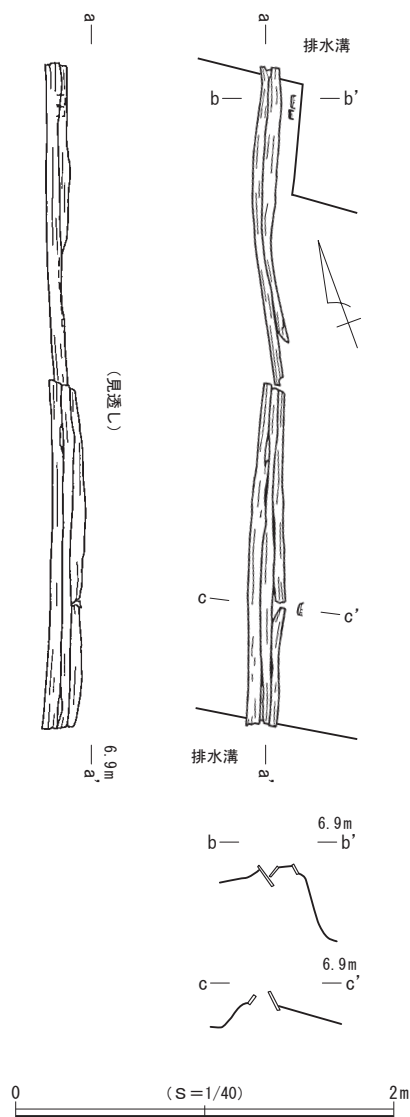


図65 第5面 板組遺構1

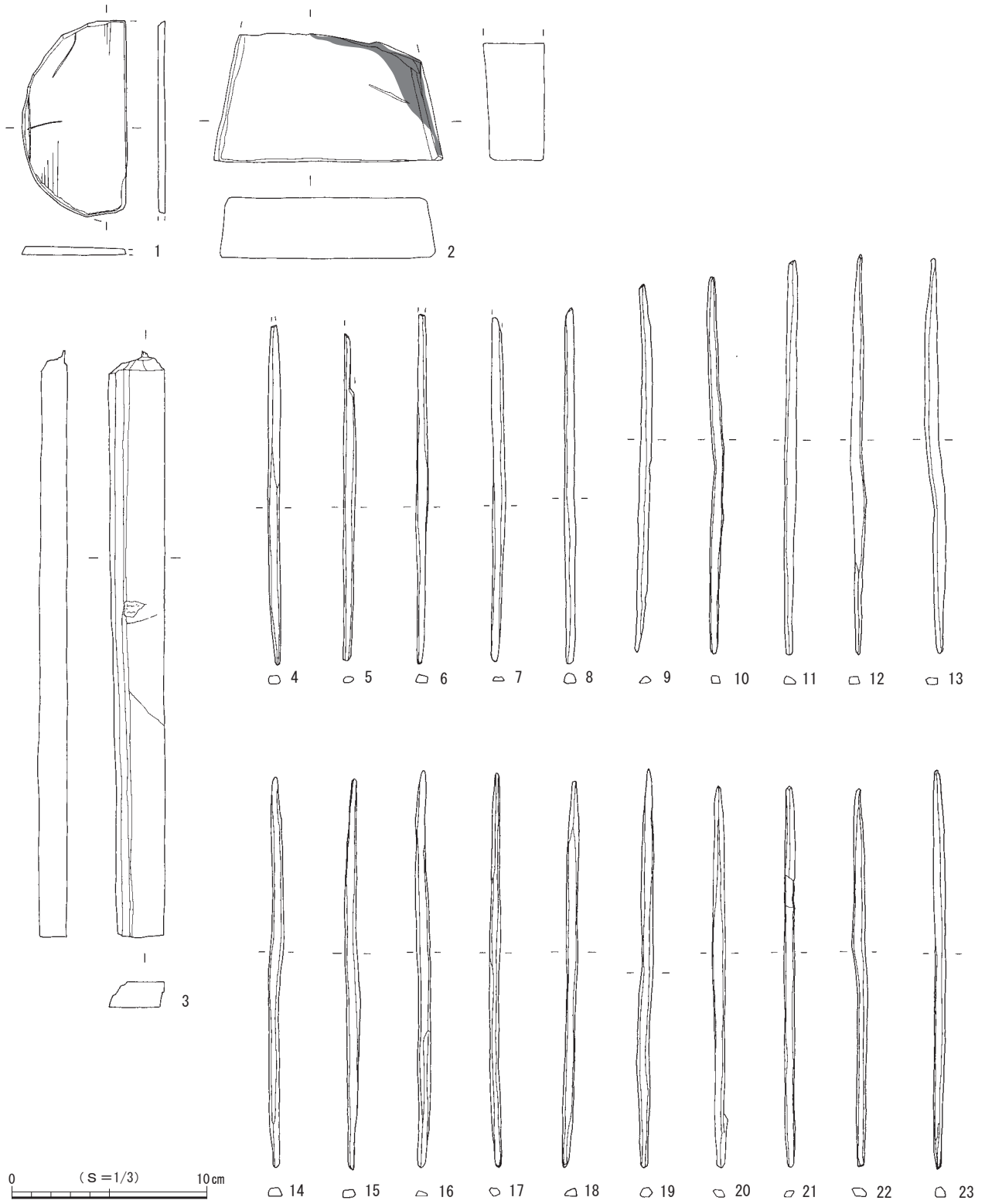


图66 第5面板组遗构1出土遗物

(2) 杭 列

第5面では、南区で1列を検出した。南東隅に位置し、部分的な検出にとどまるが、杭が直線的に配置されている。

杭列1 (図67)

南区南東隅に位置する。北西-南東方向の杭列を約20cmの間隔を空けておおよそ2列検出したが、この列を外れた位置からも数本の杭を検出している。板材などは出土していない。東西両端は調査時に設けられた排水溝によって失われているが、調査区外に及んでいるものと考えられる。検出した範囲では約2.8mの距離にわたり21本の杭が打ち込まれている。杭の長さは最大約40cm、太さは3~7cmである。杭上端の標高は約6.6~6.7mを測り、主軸方位はN-73°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

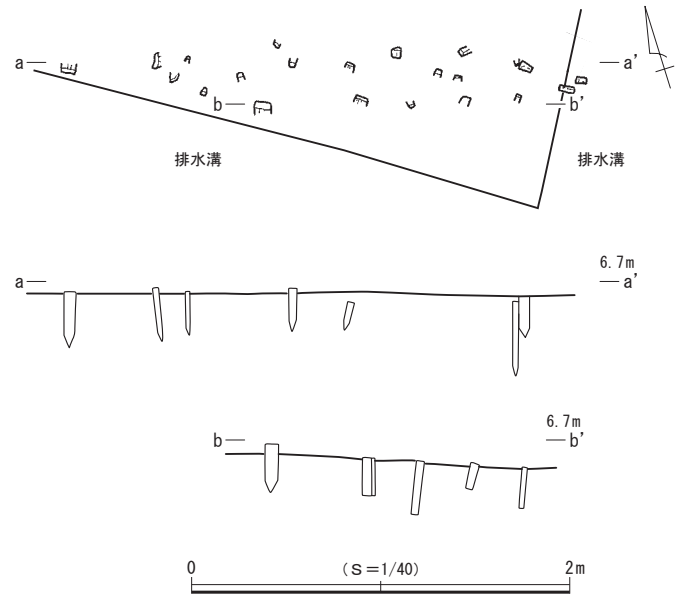


図67 第5面 杭列1

(3) 土 坑

第5面では、南区で3基を検出した。南区南西側に隣接して分布している。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、現状では規模は長軸で最小64cm、最大93cm、深さ10~21cmを測る。

土坑27 (図68)

南区西側に位置する。平面形は不整円形を呈する。壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径93cm、深さ15cmを測り、坑底面の標高は6.38mである。覆土は木片を少量含み、締まりの弱い茶褐色有機質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑28 (図68)

南区のほぼ中央に位置する。東側が第4面の土坑22と重複しており、本址が古い。平面形は不整楕円形を呈すると推定される。壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長82cm、短軸79cm、深さ10cmを測り、坑底面の標高は6.56mである。主軸方位はN-85°-Eを指す。覆土は炭と灰が混入し、締まりの弱い茶褐色有機質土である。

出土遺物 (図69)

遺物はかわらけ21点、陶器3点、金属製品1点が出土し、このうち6点を図示した。

1~4はロクロ成形によるかわらけである。1~4には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。5は常滑窯産の甕、6は山茶碗窯系の片口鉢である。

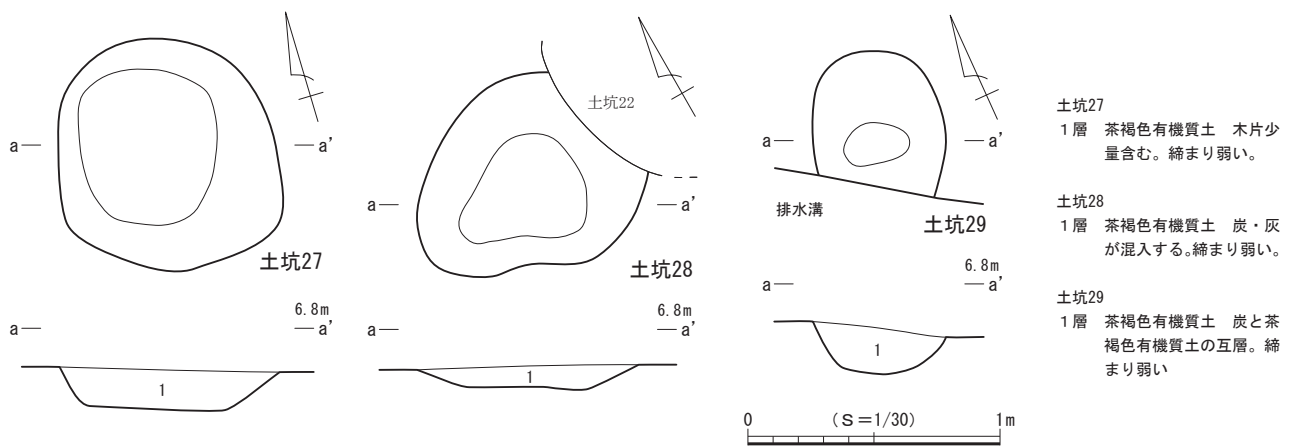


図68 第5面 土坑27～29

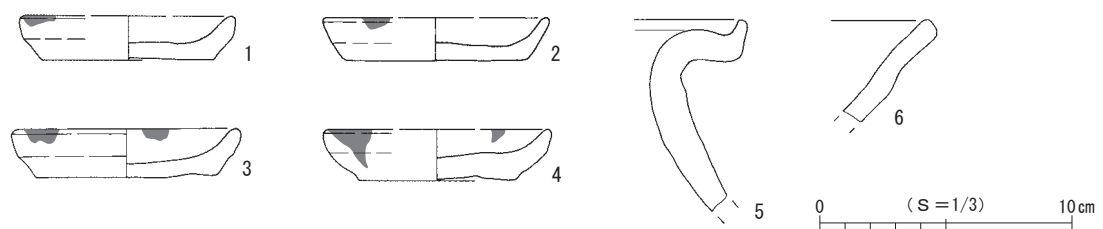


図69 第5面 土坑28出土遺物

土坑29 (図68)

南区南壁の中央に位置する。調査時に設けられた排水溝によって南側の一部が失われている。遺存する部分から平面形は楕円形を呈するものと推定され、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長64cm、短軸52cm、深さ21cmを測り、坑底面の標高は6.44mである。主軸方位はN-23°-Eを指す。覆土は炭と茶褐色有機質土が互層を呈する茶褐色土である。

遺物はかわらけが17点出土した。

(4) ピット (図64)

第5面では、南区で1基を検出した。ピット8が南区中央東側に位置する。平面形は略円形を呈し、規模は長軸37cm、短軸30cm、深さ15cmを測る。覆土は泥岩を多量に含む暗褐色土である。

遺物は出土しなかった。

(5) 遺構外出土遺物 (図70)

第5面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち31点を図示した。

1～8はロクロ成形によるかわらけである。9～14は手づくね成形によるかわらけである。12～14には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。15・16は舶載磁器である。15は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、16は同安窯系青磁皿Ⅰ類である。17～26は陶器類である。17・18は渥美窯産の製品で、17が壺、18が鉢と思われる製品である。19～23は常滑窯産の甕である。24・25は山茶碗窯系の片口鉢、26は山茶碗である。27は丸瓦である。28～30は金属製品で、28が鉄製の釘、29が用途不明の製品、30が刀子である。31は木製品で、素地碗と思われる。

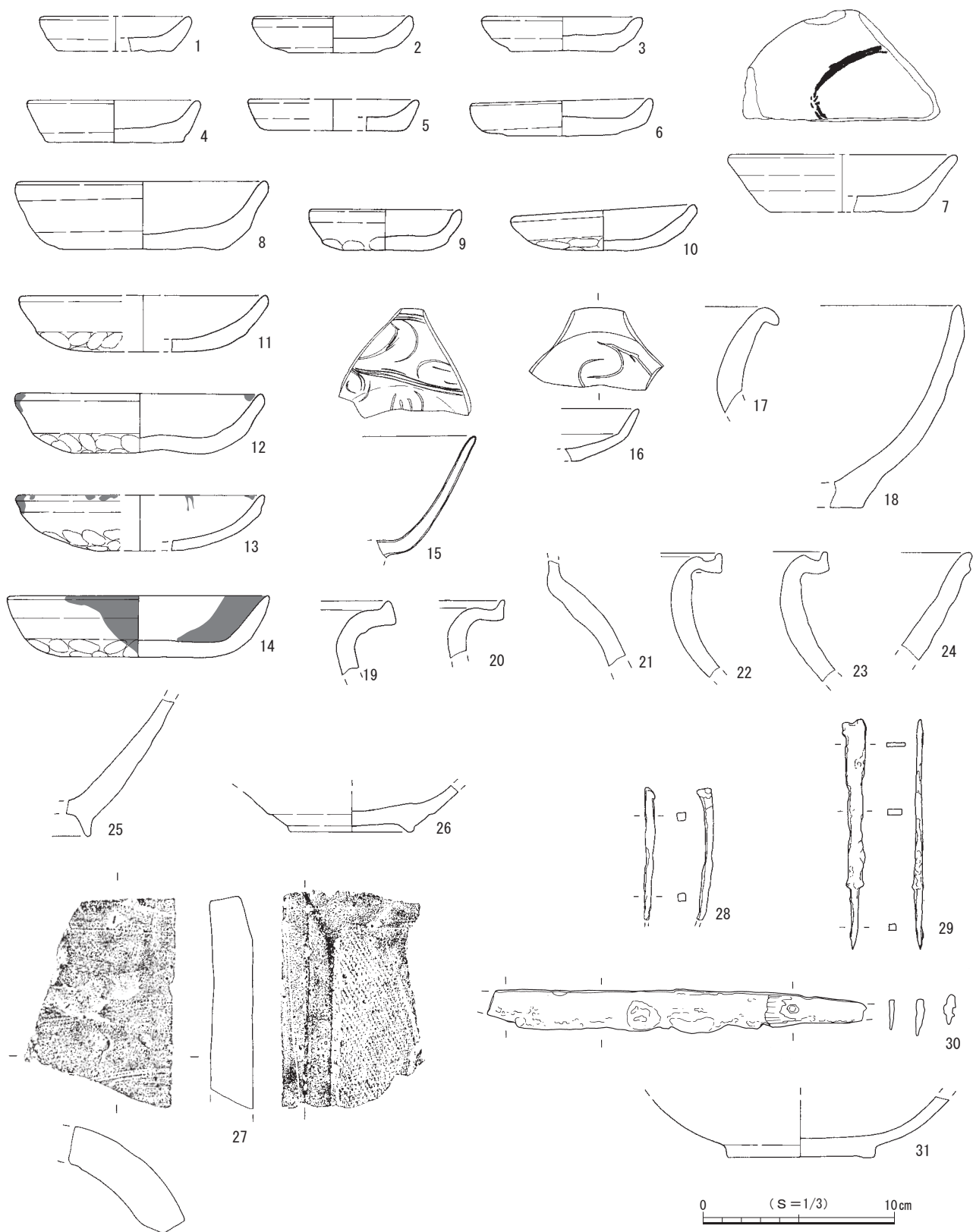


图70 第5面 遺構外出土遺物

第6節 第6面の遺構と遺物

第6面の遺構は13層上面で確認し、確認面の標高は約6.5mである。北区北東隅は、崩落防止の安全対策上第5面から掘り残されている。本調査地点における中世基盤層に相当する、締まりの強い青黒色粘質土に遺構が掘り込まれている。また、本面の上層には青黒色粘質土と茶褐色有機質土が互層をなして10~30cmほど堆積しており(図5-12層)、この層の上面から掘り込まれた遺構が多数あることが調査区壁の土層断面観察により確認された。しかし、遺構覆土から帰属する面を分離することは困難であることから、第6面の遺構として一括して取り扱うこととする。遺構は溝状遺構1条、土坑18基、ピット134

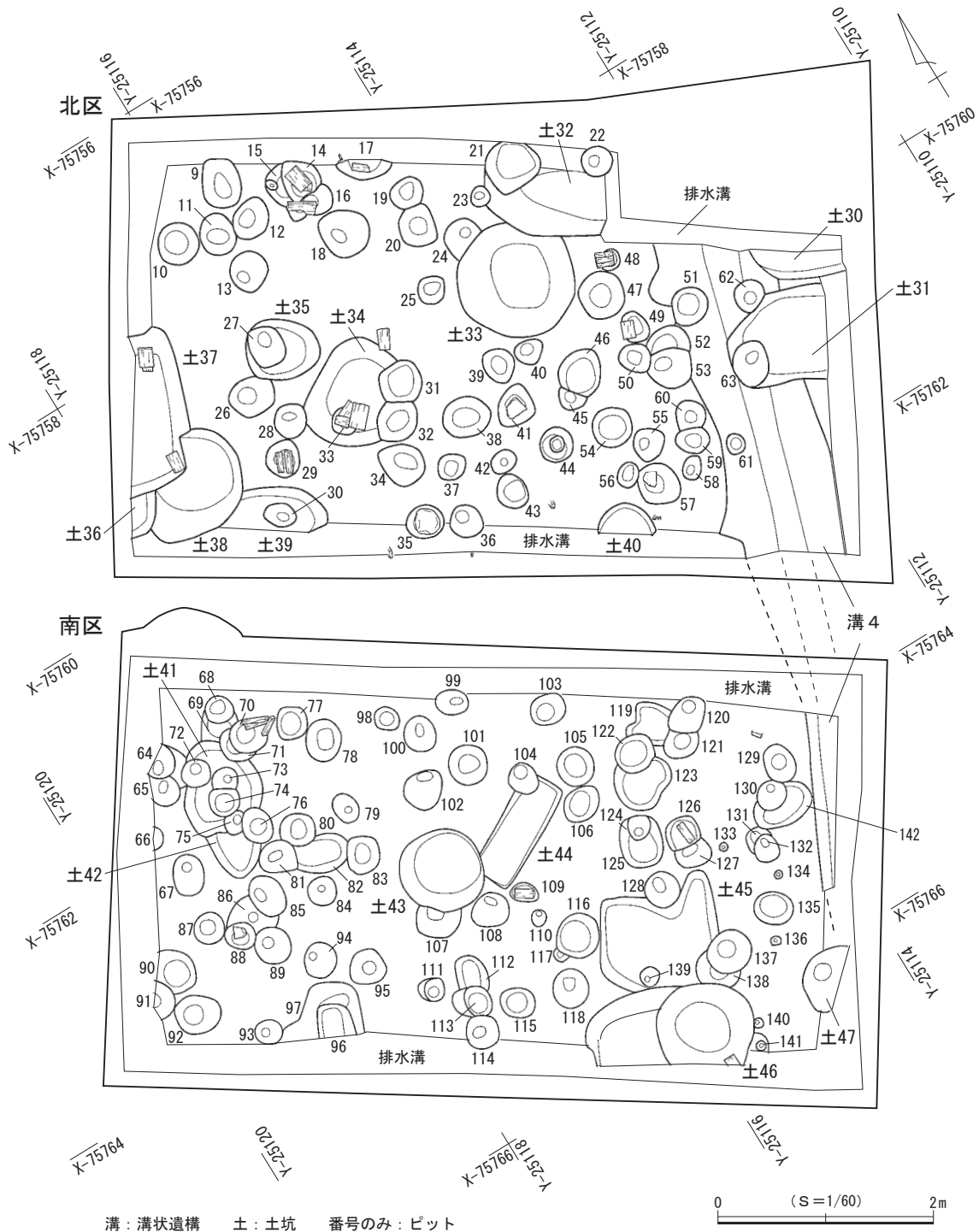


図71 第6面 遺構分布図

基を検出した(図71)。調査区全体に遺構が分布しており、その密度は非常に高く、重複するものが多数ある。また、土坑の底面から浮いた状態で覆土中から出土した礎板があるが、重複するピットの掘り込みが明瞭に捉えられなかったものと推測され、土坑には伴わないものと考えられる。遺構外出土の礎板も同様であり、施設を構成するピットや礎板の配列は認められなかった。なお、北区南側および南区北東側で杭が検出されているが、用途などは明らかでない。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀初頭～前葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第6面では、北区から南区にかけて1条を検出した。調査区東端に直線的に延びており、両端は調査区外に及んでいる。

溝状遺構4(図73)

北区東端から南区東端に位置する。両調査区を南北方向に縦断し、南区では西壁のみ検出した。北区で土坑30・31と重複しており、本址が古い。また、ピット51～53・61～63と重複しており、新旧関係は不明である。北端および南端は調査区外に及び、南区では西壁のみを確認した。規模は現存長6.23m、幅0.92～1.00m、深さ37cmを測り、主軸方位はN-18°-Eを指す。壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は北区北端で6.14m、北区南端で6.07m、南区北端で5.98mを測り、南側へやや下がっている。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

出土遺物(図72)

遺物はかわらけ3点、陶器10点、木製品3点が出土し、このうち2点を図示した。

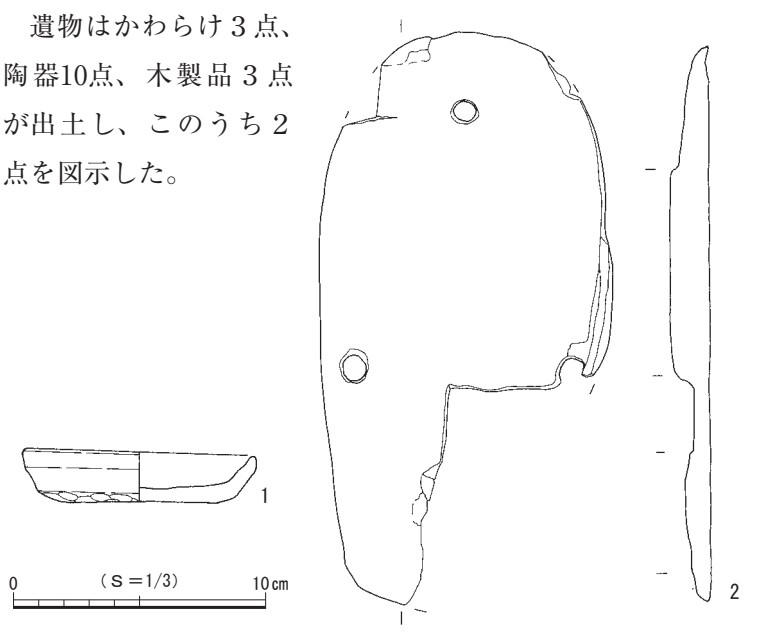


図72 第6面 溝状遺構4出土遺物

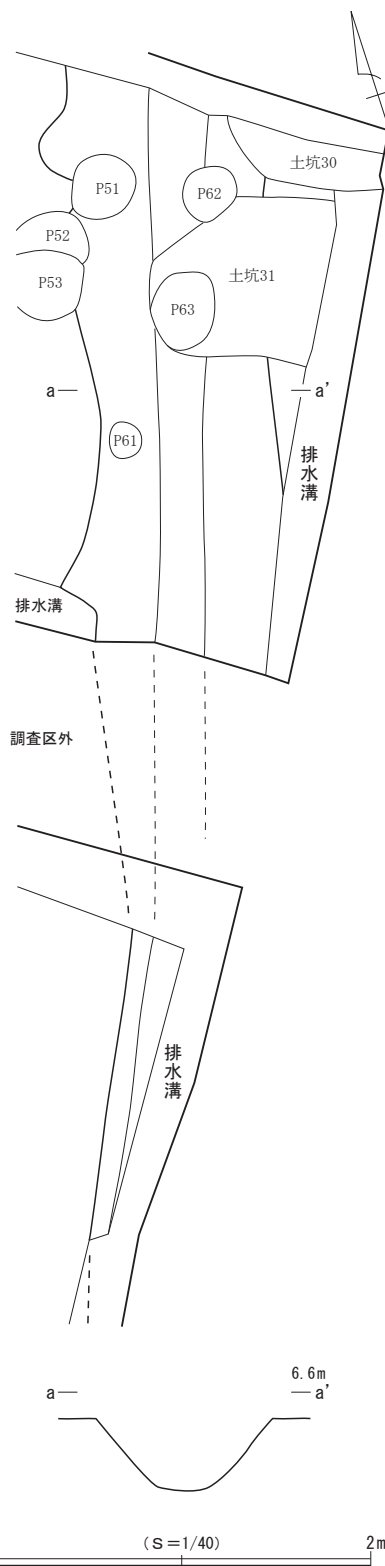


図73 第6面 溝状遺構4

1は手づくね成形によるかわらけ、2は木製品で、下駄である。

(2) 土 坑

第6面では、北区で11基、南区で7基の合計18基を検出した。調査区全体に分布し、調査区外に及ぶものや遺構の重複により壊されるものが多く、全容を把握できたものは少ない。平面形は略円形、楕円形、隅丸方形などバラエティに富み、現状では規模は長軸で最小52cm、最大1.56mと幅があり、深さも8～119cmでばらつきがある。

土坑30 (図74)

北区北東側に位置する。東側は調査区外に及んでいることから本址の大部分が未調査であると考えられ、遺構の全容は明らかでない。溝状遺構4と重複しており、本址が新しい。検出した範囲では、平面形は丸みを帯び、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長91cm、短軸現存長20cm、深さ34cmを測り、坑底面の標高は6.13mである。覆土は泥岩粒をわずかに含む粘性の強い黒灰色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑31 (図74)

北区北東側に位置する。調査時に設けた排水溝によって東側が失われており、遺構の全容は明らかでない。溝状遺構4と重複しており、本址が新しい。また、ピット62・63と重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲では、平面形は楕円形を基調とするものと推定され、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は中央がわずかに低い逆台形を呈する。規模は長軸現存長96cm、短軸89cm、深さ22cmを測り、坑底面の標高は6.24mである。東西方向を主軸と仮定した場合、主軸方位はN-69°-Wを指す。覆土は茶褐色有機質土である。

出土遺物 (図75)

遺物はかわらけ2点、磁器1点、木製品5点が出土し、このうち3点を図示した。

1～3は木製品である。1・2は杭、3は用途不明の製品である。

土坑32 (図74)

北区北壁の中央に位置する。北側は調査区外に及んでいることから、本址は部分的に未調査であり、遺構の全容は明らかでない。南西側に土坑33、この他にピット21～23が重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲では、平面形は楕円形を基調とするものと推定され、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.13m、短軸現存長59cm、深さ22cmを測り、坑底面の標高は6.23mである。東西方向を主軸と仮定した場合、主軸方位はN-58°-Wを指す。覆土は茶褐色有機質土である。

出土遺物 (図76)

遺物はかわらけ5点、木製品3点が出土し、このうち4点を図示した。

1は手づくね成形によるかわらけである。2～4は木製品で、2・3は串状、4は草履芯である。

土坑33 (図74)

北区中央北側に位置する。北東側が土坑32、北側がピット24と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は略円形を呈する。底面はやや丸みを帯びて壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形はU字状を

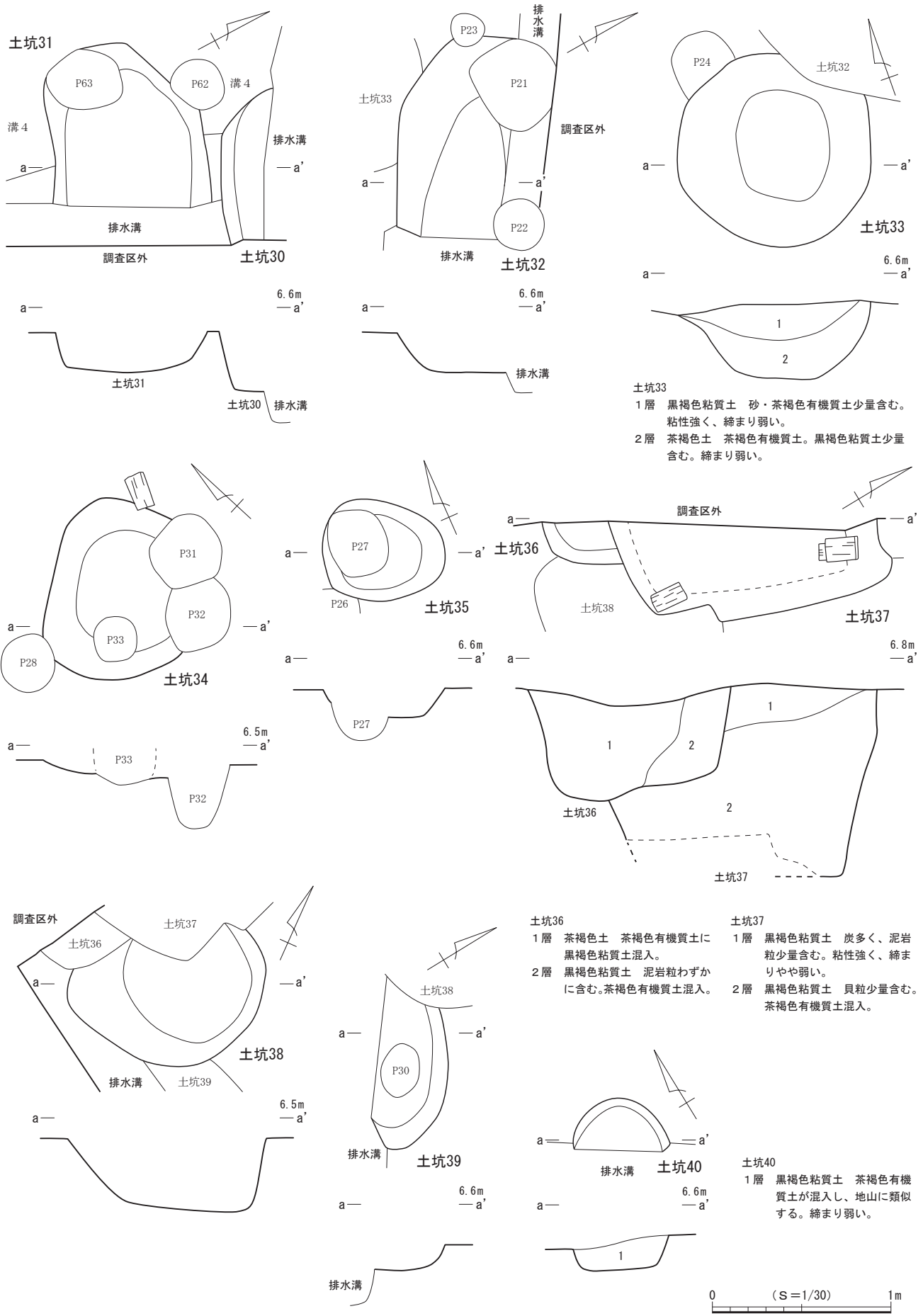


図74 第6面 土坑30~40

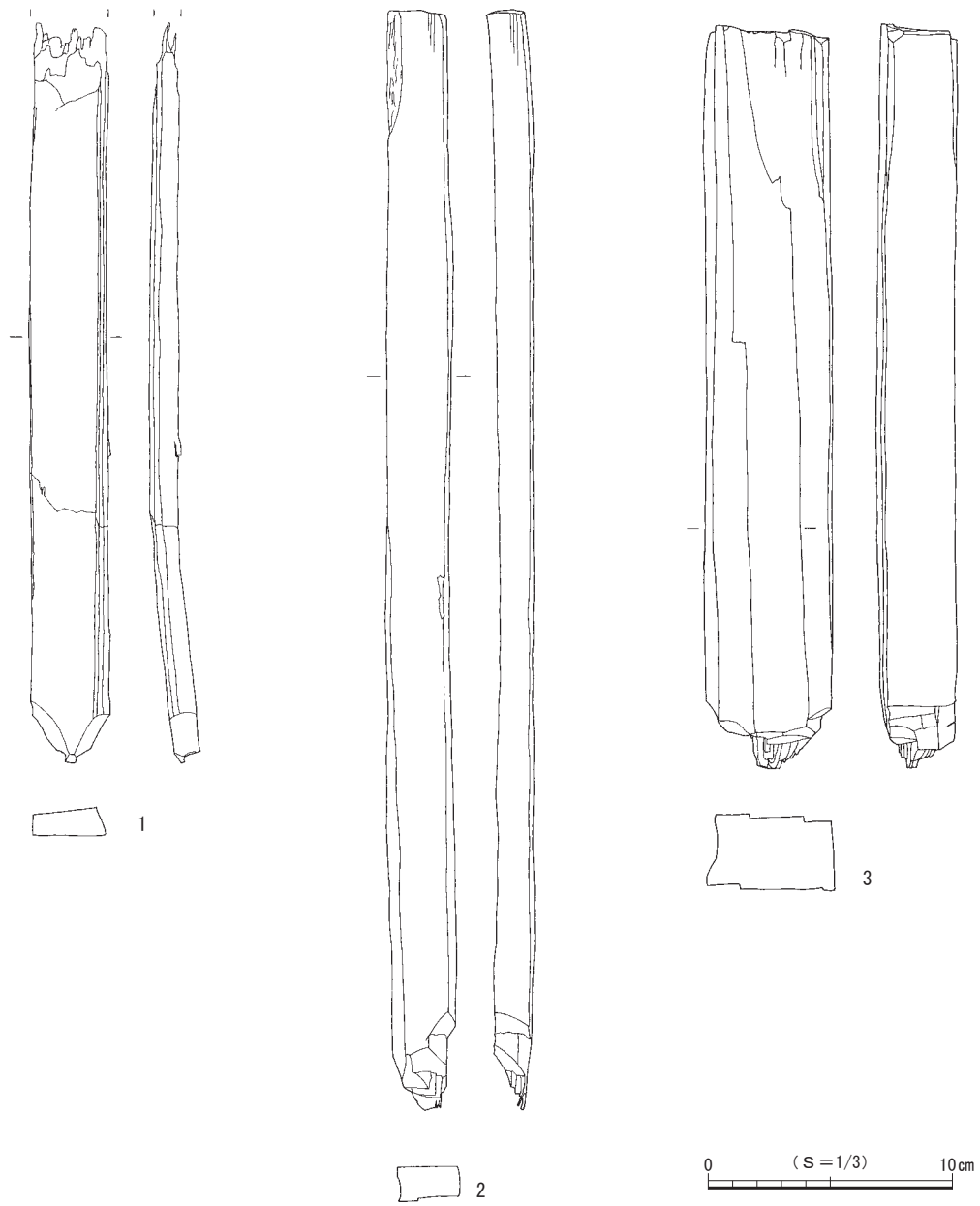


图75 第6面 土坑31出土遺物

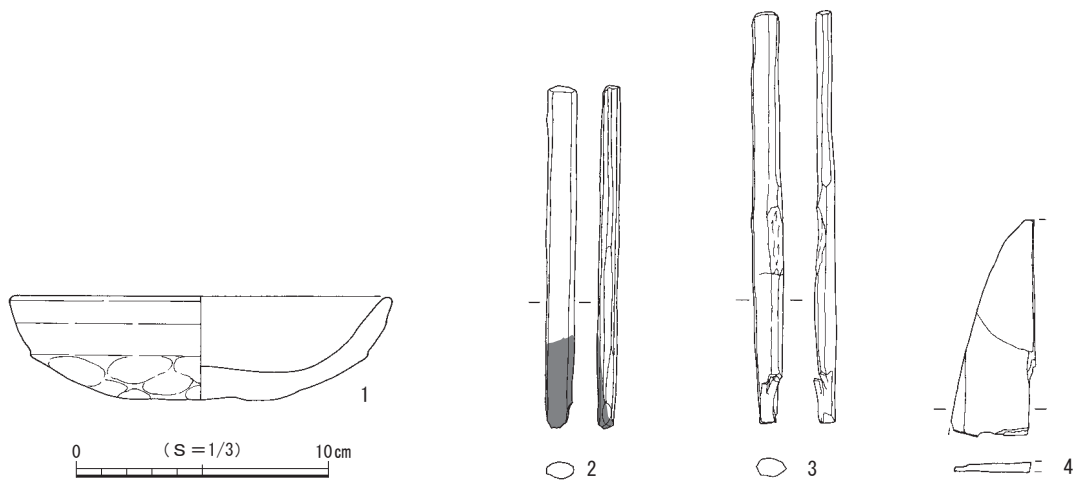


图76 第6面 土坑32出土遺物

呈する。規模は径1.12m、深さ42cmを測り、坑底面の標高は6.02mである。覆土は上層が砂と茶褐色有機質土を含む締まりの弱い黒褐色粘質土、下層が黒褐色粘質土を少量含む締まりの弱い茶褐色有機質土である。

遺物は磁器1点、陶器1点が出土した。

土坑34 (図74)

北区西側に位置する。ピット28・31～33と重複しており、本址はピット33より古い、他の遺構との新旧関係は不明である。平面形は不整形円形を呈するものと推定される。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.00m、短軸現存長81cm、深さ8cmを測り、坑底面の標高は6.34mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑35 (図74)

北区中央西側に位置する。南西側にピット26、底面西側にピット27が重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸56cm、深さ16cmを測り、坑底面の標高は6.28mである。主軸方位はN-67°-Wを指す。覆土は粘性が強く、泥岩粒をわずかに含む黒灰色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑36 (図74)

北区南西隅に位置する。北東側が土坑37と重複しており、西壁の土層断面の記録から本址が新しいと判断される。南東側に重複する土坑38との新旧関係は不明である。また、西側が調査区外に及んでいるため、遺構の全容は明らかでない。西壁の土層断面をもとに計測すると、断面形は底面に緩やかな凹凸があり南側がやや深い逆台形を呈する。規模は北東-南西で1.13m、深さ64cmを測り、坑底面の標高は6.00mである。覆土は茶褐色有機質土を主として黒褐色粘質土が混入する茶褐色有機質土が大半を占め、北東の壁側に泥岩粒と茶褐色有機質土を含む黒褐色粘質土が堆積している。

遺物は出土しなかった。

土坑37 (図74)

北区西壁の南側に位置する。掘り込みが深く壁が崩落する恐れがあることから、北側の一部で底面を確認した時点で掘削を終了し、部分的に掘り残している。南西側が土坑36と重複しており、本址が古い。南側に重複する土坑38との新旧関係は不明である。また、西側が調査区外に及んでいるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は方形ないし長方形を呈するものと推定される。壁はやや外傾して立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.56m、短軸現存長55cm、深さ1.02mを測り、坑底面の標高は5.58mである。東壁を基準にすると、主軸方位はN-21°-Eを指す。覆土は貝粒と茶褐色有機質土を含む黒褐色粘質土を主体とし、上層に多量の炭と少量の泥岩を含む。

出土遺物 (図77)

遺物はかわらけ1点、陶器5点、木製品12点が出土し、このうち8点を図示した。

1～8は木製品である。1は形代、2～4は用途不明の製品、5・6は棒状、7・8は箸状である。

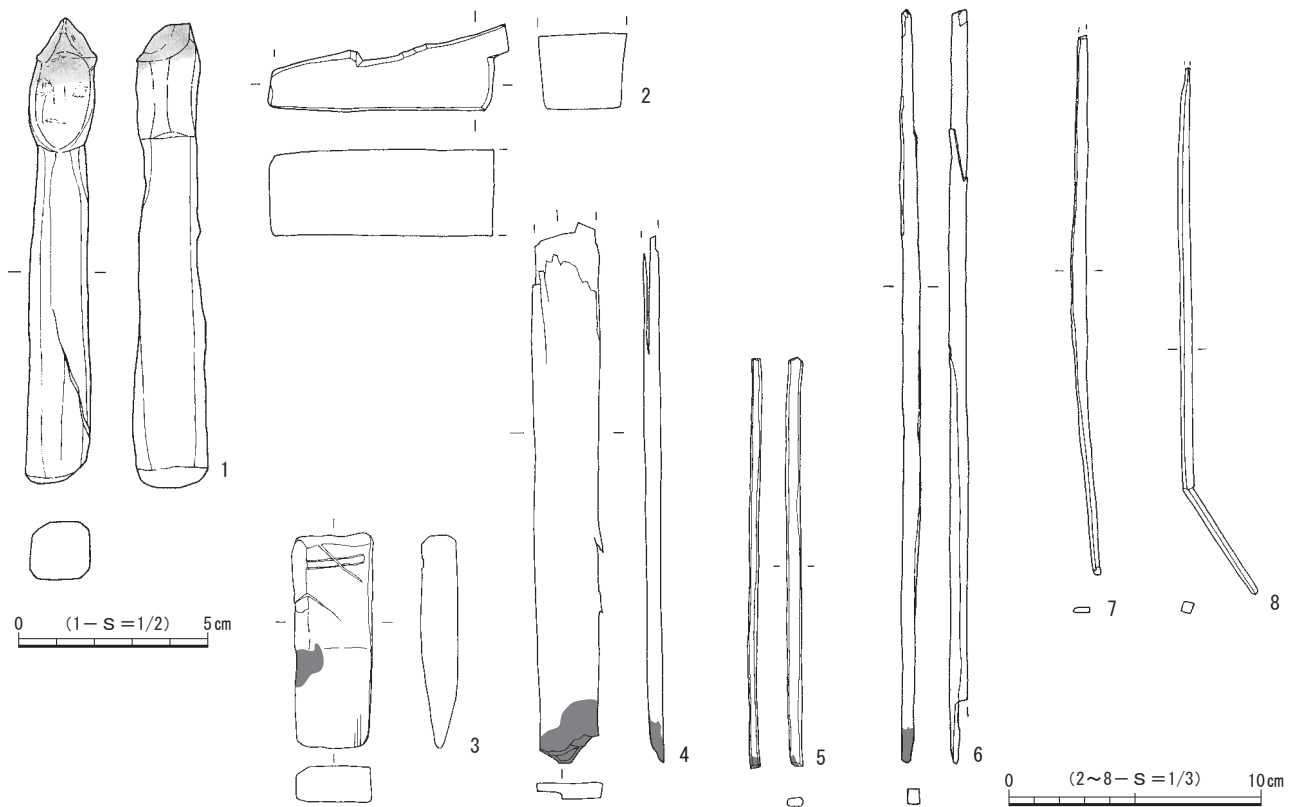


図77 第6面 土坑37出土遺物

土坑38 (図74)

北区南西隅に位置する。北側が土坑36・37、南東側が土坑39と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は円形を基調とするものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.10m、短軸現存長78cm、深さ40cmを測り、坑底面の標高は5.99mである。覆土は締まりの弱い茶褐色有機質土である。

遺物は陶器4点が出土した。

土坑39 (図74)

北区南西隅に位置する。北西側に土坑38、底面中央にピット30が重複しており、新旧関係は不明である。このうちピット30は調査時点では本址と同一の遺構番号が付されていたが、ここでは別の遺構として取り扱うこととする。調査時に設けられた排水溝によって南西側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形は楕円形を基調とするものと推定され、壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長1.03m、短軸現存長41cm、深さ14cmを測り、坑底面の標高は6.24mである。覆土は茶褐色有機質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑40 (図74)

北区南壁の東側に位置する。調査時に設けられた排水溝によって南西側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲から平面形は円形を基調とするものと推定され、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長52cm、短軸現存長34cm、深さ20cmを測り、坑底面の

標高は6.24mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物はかわらけが10点出土した。

土坑41 (図78)

南区北西側に位置する。南西側に土坑42、その他にピット71～76が重複しており、新旧関係は不明である。平面形は不整形円形を呈する。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は径88cm、深さ19cmを測り、坑底面の標高は6.22mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑42 (図78)

南区北西側に位置する。北東側に土坑41、ピット75・76が重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を基調とするものと推定され、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長45cm、南北現存長44cm、深さ12cmを測り、坑底面の標高は6.24mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑43 (図78)

南区中央に位置する。東側が土坑44、南西側がピット107と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は略円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈する。規模は径78cm、深さ1.19mを測り、坑底面の標高は5.12mである。覆土は締まりの弱い茶褐色有機質土を主体とし、底面から50～60cm上層に腐食した有機物が大量に堆積していた。

出土遺物 (図79)

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器5点、骨製品1点、木製品15点、金属製品2点が出土し、このうち2点を図示した。

1は鏡である。2は獣骨製の筭である。

土坑44 (図78)

南区中央に位置する。北西隅に土坑43、北東隅にピット104が重複しており、新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.06m、短軸42cm、深さ11cmを測り、坑底面の標高は6.24mである。主軸方位はN-62°-Eを指す。覆土は粘性が強く、泥岩粒をわずかに含む黒灰色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑45 (図78)

南区南東側に位置する。南西側に土坑46、この他ピット128・137～139が重複しており、新旧関係は不明である。平面形は北東側が突出し、南西側が丸みを帯びる歪な不整形台形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は北西-南東1.08m、北東-南西現存長1.05m、深さ8cmを測り、坑

底面の標高は6.24mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物はかわらけ1点が出土した。

土坑46 (図78)

南区南壁の東側に位置する。北東側が土坑45とピット138、南東側がピット140・141と重複しており、新旧関係は不明である。また、南西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。北西側が平坦なテラス状の段となり、南東側に円筒形の深い掘り込みを伴う。平面形は全体として隅丸長方形を呈するものと推定される。北西側のテラス部分は壁が外傾して断面形は逆台形を呈し、南東側の円筒形の掘り込み部分は壁がほぼ垂直で断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は長軸1.56m、短軸現存長76cm、円筒形の掘り込み部分は径90cm、深さは北西側が25cm、南東側が1.09mを測る。坑底面の標高は北西側が6.00m、南西側が5.15mで、比高差は約85cmである。北東側の壁を基準にすると、主軸方位はN-65°

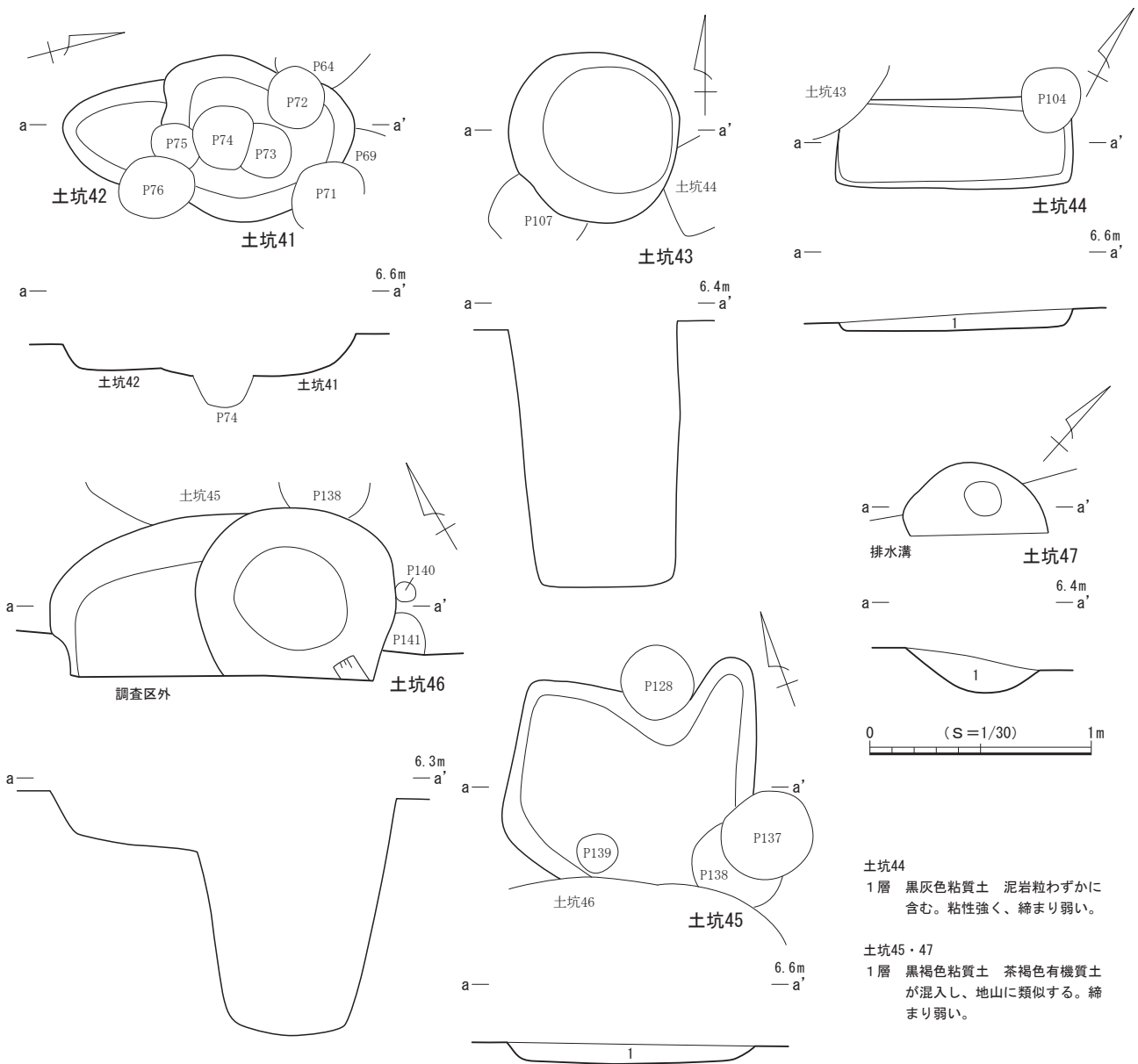


図78 第6面 土坑41~47

-Wを指す。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土を主体とする。

出土遺物 (図80)

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器1点、木製品15点が出土し、このうち13点を図示した。

1～13は木製品である。1・2は草履芯、3は火鑽棒、4は曲物の部品、5～7は用途不明の製品、8～13は箸状である。

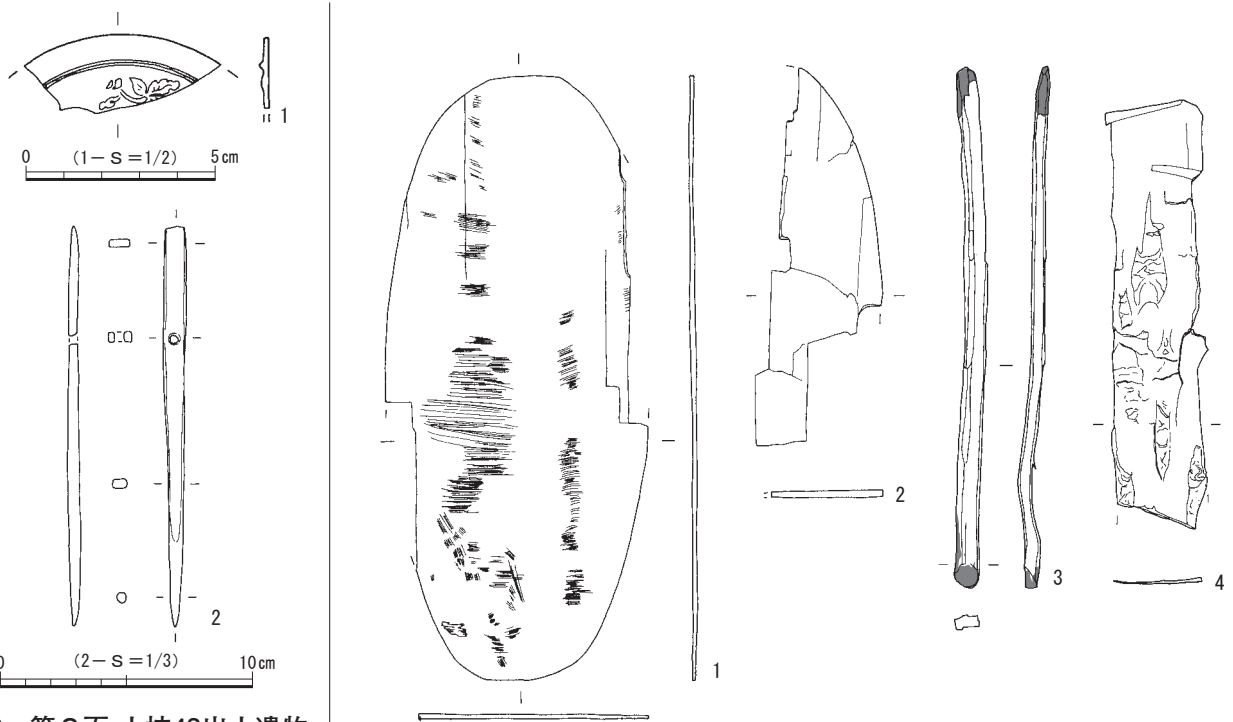


図79 第6面 土坑43出土遺物

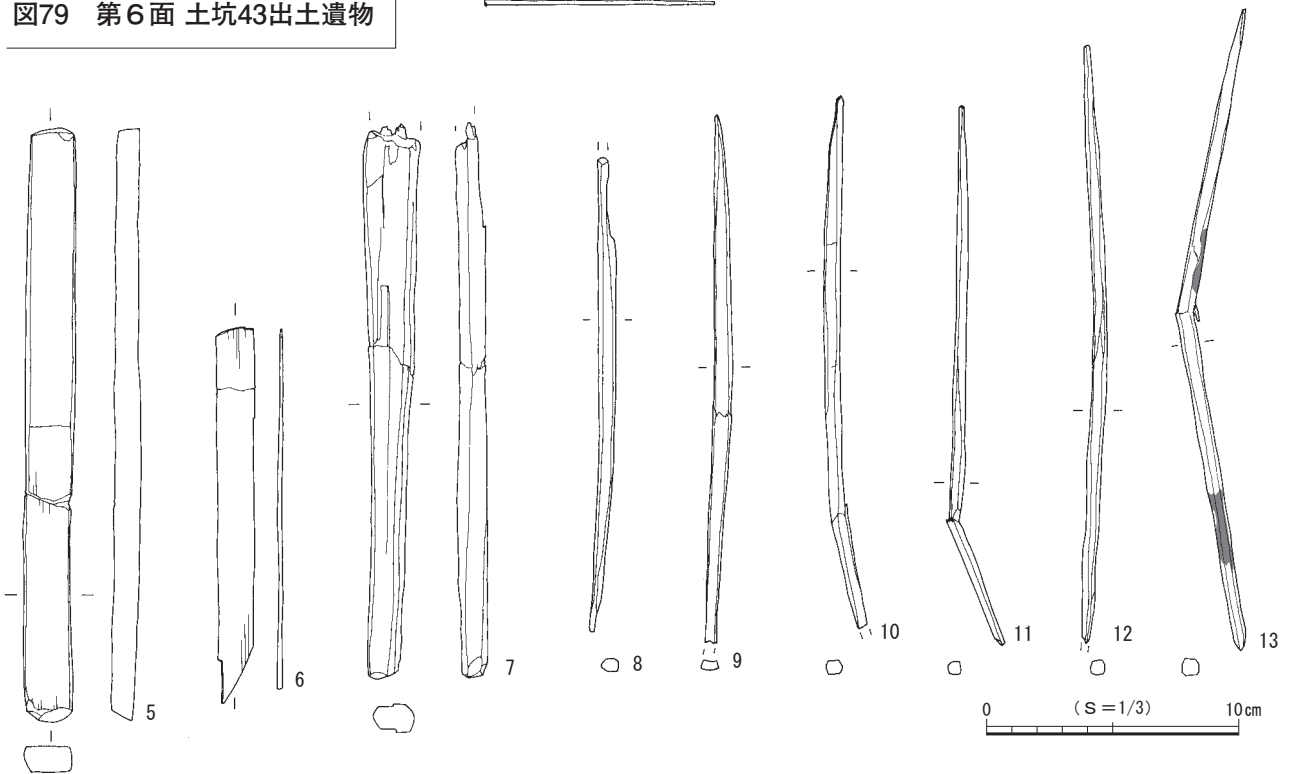


図80 第6面 土坑46出土遺物

土坑47 (図78)

南区南東隅に位置する。調査時に設けられた排水溝によって南東側の一部が失われていることから、遺構の全容は明らかでない。遺存する部分から平面形は円形を基調とするものと推定され、壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長65cm、短軸現存長32cm、深さ20cmを測り、坑底面の標高は6.20mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

(3)ピット (図71)

第6面では、北区で55基、南区で79基の合計134基を検出した。北区にピット9～63、南区にピット64～142が位置する。調査区全面に濃密に分布しており、他の遺構と重複するものも多い。礎板あるいは礎石をもつピットも存在するが、建物などの施設を構成する明確な配置は見出せなかった。各ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とするが、不整形なものもある。規模は長軸・径8～57cm、深さ4～57cmで、1基のみ深さ1.00mを測るものがある。覆土は粘性が強く泥岩粒をわずかに含む黒灰色粘質土、もしくは茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。礎板が据えられたピットのうちピット14・17・29・33・48・49・109・126、礎石が据えられたピット35・41・57・88を図示し、説明する。

ピット14 (図81)

北区北壁西側に位置する。調査時に設けられた排水溝によって北東側の一部が失われているが、ほぼ全容を確認できた。ピット15・16と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径40cm、深さ24cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から2枚出土しており、うち上方の1枚の大きさは長さ21cm、幅15cm、厚さ3cmを測る。礎板上面の標高は6.30mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット17 (図81)

北区北壁西側に位置する。調査時に設けられた排水溝によって北側の一部が失われており、検出されたのは一部である。断面形は逆台形を呈し、規模は径50cmほどと推定され、深さ14cmを測る。礎板はピット南壁寄りの底面からやや浮いた位置で出土しており、大きさは長さ19cm、幅6cm、厚さ5cmを測る。礎板上面の標高は6.43mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット29 (図81)

北区西側に位置する。平面形は略円形、断面形は逆台形を呈し、規模は径34cm、深さ10cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から出土しており、本来1枚であったものが2枚に割れたものと考えられ、合わせた大きさは長さ18cm、幅14cm、厚さ3cmを測る。礎板上面の標高は6.33mである。覆土は粘性が強く泥岩粒をわずかに含む黒灰色粘質土である。

ピット33 (図81)

北区中央南西側に位置する。土坑34と重複しており、同時に掘削されピット底面がわずかに遺存したものと考えられるが、礎板が残存していることから本址が新しいと推測される。平面形は円形、断面形は皿状を呈し、規模は径26cm、深さ6cmを測る。礎板はピットの底面からやや浮いた位置で3枚出土しており、大きさは上方から長さ22cm、幅14cm、厚さ3cm、長さ16cm、幅9cm、厚さ3cm、長さ22cm、幅14cm、厚さ3cmを測る。礎板上面の標高は6.40mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット35 (図81)

北区南壁のほぼ中央に位置する。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径35cm、深さ32cmを測る。礎石はピット中央から出土しており、大きさは径25cm程度である。礎石上面の標高は6.12mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット41 (図81)

北区中央に位置する。平面形は不整楕円形、断面形はU字形を呈し、規模は長軸41cm、短軸33cm、深さ12cmを測る。礎石はピット中央から出土しており、大きさは径17cm程度である。礎石上面の標高は6.38mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット48 (図81)

北区北東側に位置する。平面形は略円形、断面形は逆台形を呈し、規模は径21cm、深さ9cmを測る。礎板はピットの底面直上から出土しており、大きさは長さ17cm、幅12cm、厚さ3cmを測る。礎板上面の標高は6.47mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット49 (図81)

北区北東側に位置する。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は長軸30cm、短軸25cm、深さ10cmを測る。礎板はピット西壁寄りの底面からやや浮いた位置から出土しており、大きさは長さ16cm、幅11cm、厚さ4cmを測る。礎板上面の標高は6.50mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット57 (図81)

北区南東側に位置する。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径43cm、深さ33cmを測る。礎石はピット北壁寄りから出土しており、大きさは径28cm程度である。礎石上面の標高は6.20mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット88 (図81)

南区南西側に位置する。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径28cm、深さ32cmを測る。礎石は北壁寄りから出土しており、大きさは径22cm程度である。礎石上面の標高は6.17mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

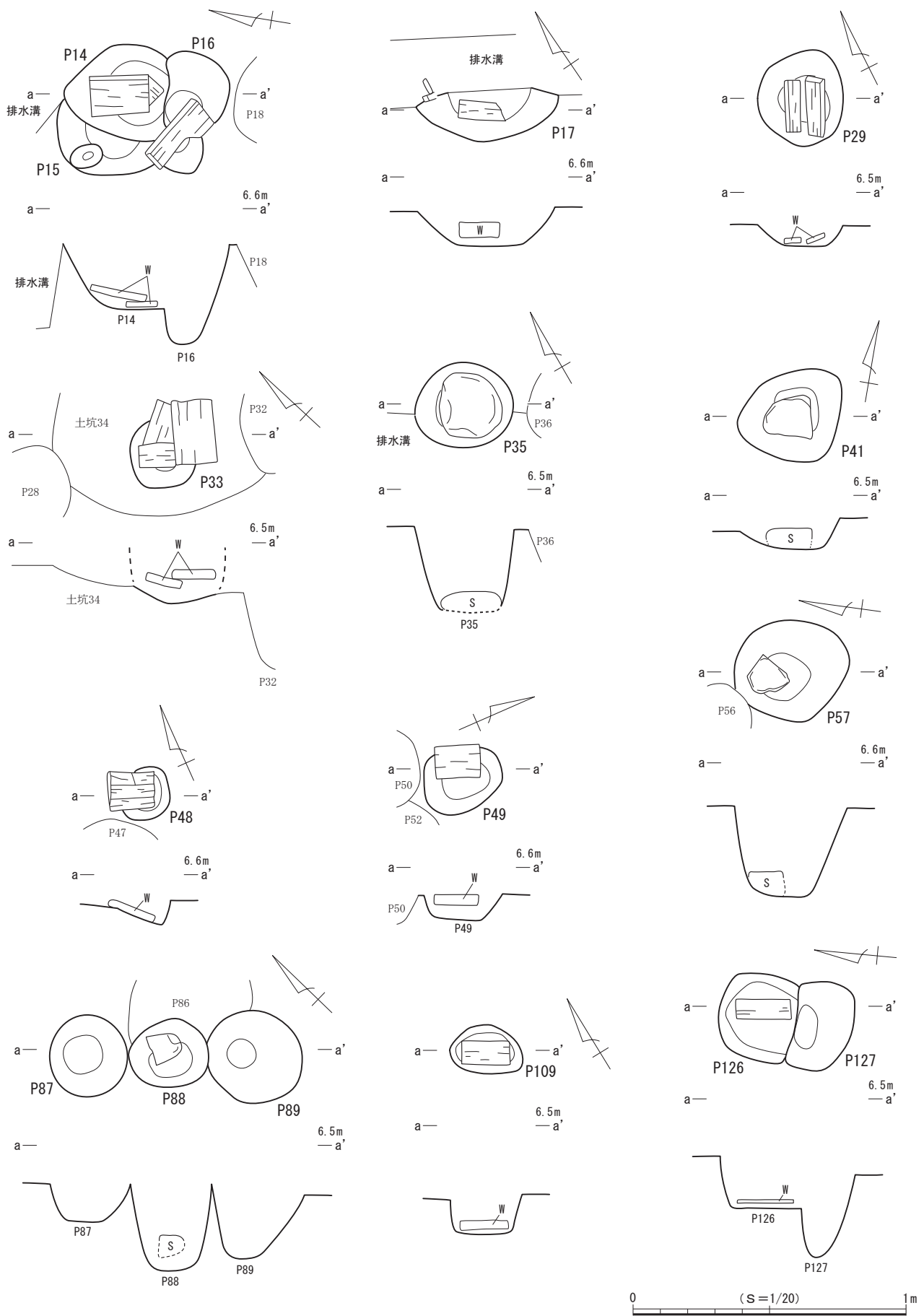


図81 第6面 ピット14~17・29・33・35・41・48・49・57・87~89・109・126・127

ピット109 (図81)

南区中央に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字形を呈し、規模は長軸27cm、短軸19cm、深さ15cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から出土しており、大きさは長さ18cm、幅8cm、厚さ3cmを測る。礎板上面の標高は6.16mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット126 (図81)

南区東側に位置する。ピット127と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径31cm、深さ19cmを測る。礎板はピットほぼ中央の底面からやや浮いた位置から出土しており、大きさは長さ21cm、幅7cm、厚さ1cmを測る。礎板上面の標高は6.13mである。覆土は茶褐色有機質土が混入し、基盤層である青黒色粘質土に類似する黒褐色粘質土である。

ピット出土遺物 (図82・83)

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたいが、このうち20点を図示した。

1はピット10から出土した手づくね成形によるかわらけである。

2～10はピット14・16から出土した。2・3は丸瓦である。4～10は木製品で、4・5が草履芯、6が漆器椀、7～10が用途不明の製品である。

11はピット27から出土した手づくね成形によるかわらけである。煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

12はピット32から出土した用途不明の木製品である。

13はピット36から出土した手づくね成形によるかわらけである。

14はピット39から出土した平瓦である。

15・16はピット80から出土した、手づくね成形によるかわらけである。15には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

17～19はピット95から出土した。17・18は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類である。19は漆器椀である。

20はピット126から出土した用途不明の木製品である。

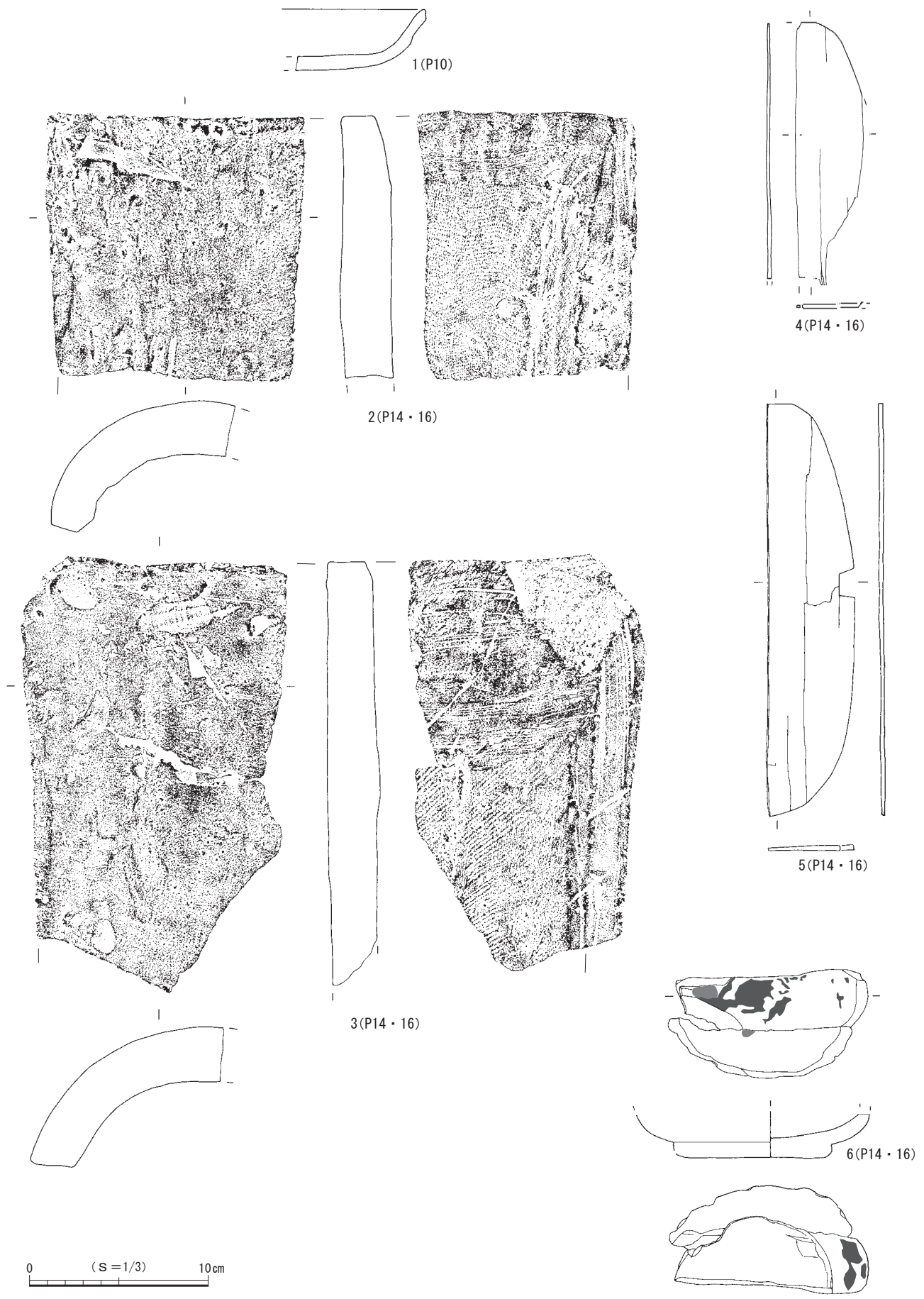


図82 第6面 ピット出土遺物 (1)

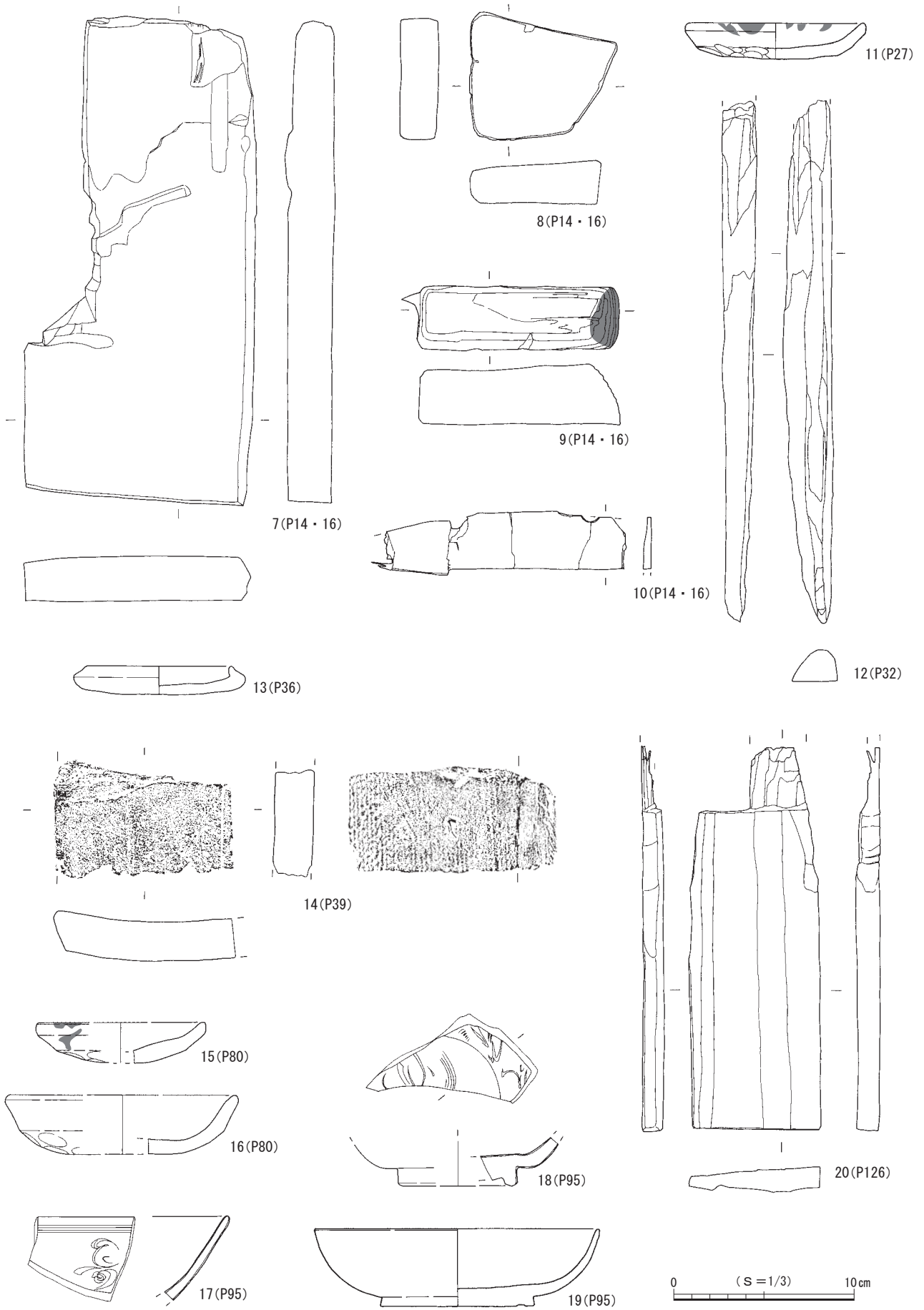


図83 第6面 ピット出土遺物 (2)

(4) 遺構外出土遺物 (図84~86)

第6面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち51点を図示した。

1~7はロクロ成形によるかわらけ、8~16は手づくね成形によるかわらけである。13には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。17~22は舶載磁器である。17は白磁碗、18は青白磁碗、19は青白磁合子蓋、20は龍泉窯系青磁の椀Ⅰ類、21も龍泉窯系青磁の花瓶と思われる。22は同安窯系青磁の皿Ⅰ類である。23~32は陶器類である。23・24は渥美窯産の甕である。25~28は常滑窯産の製品で、25~27が甕、28が広口壺小である。29は北部系の山茶碗、30~32は山茶碗窯系の片口鉢である。33~35は瓦類で、いずれも丸瓦である。36~51は木製品である。36は漆器椀、37は曲物、38は杓子、39は籠状、40は糸車、41は下駄、42~46は草履芯、47~51は用途不明の木製品である。

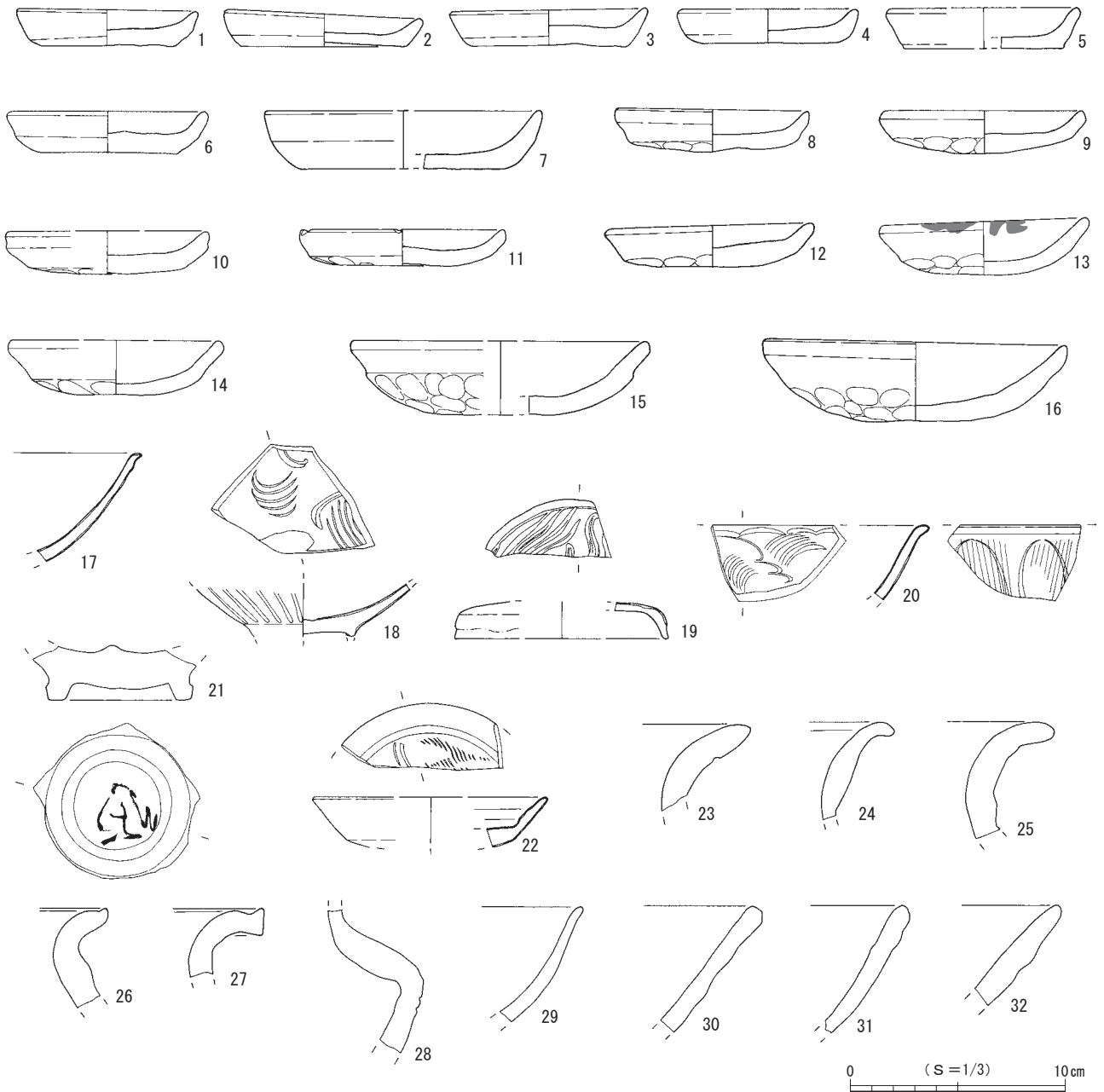


図84 第6面 遺構外出土遺物 (1)

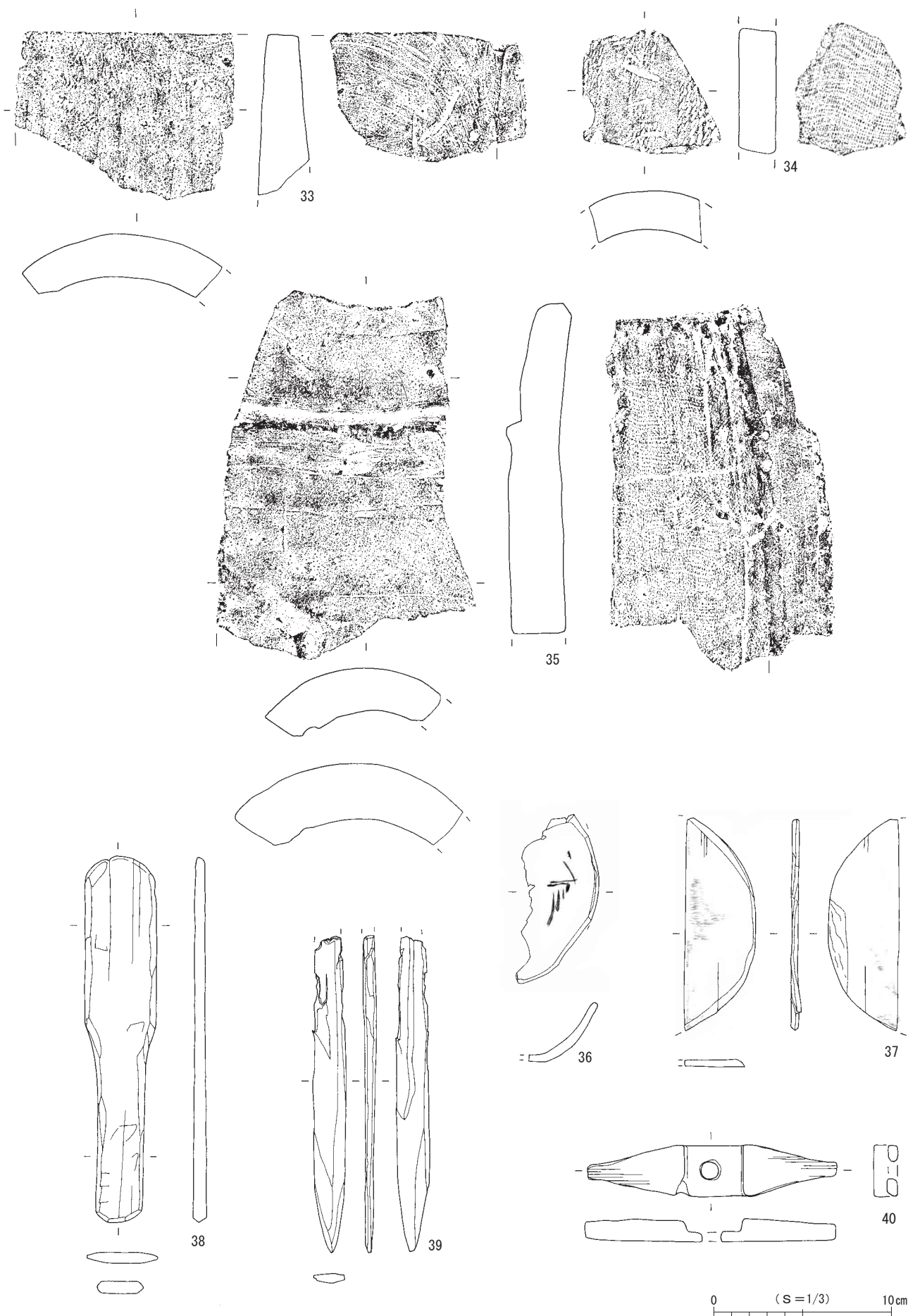


图85 第6面 遺構外出土遺物 (2)

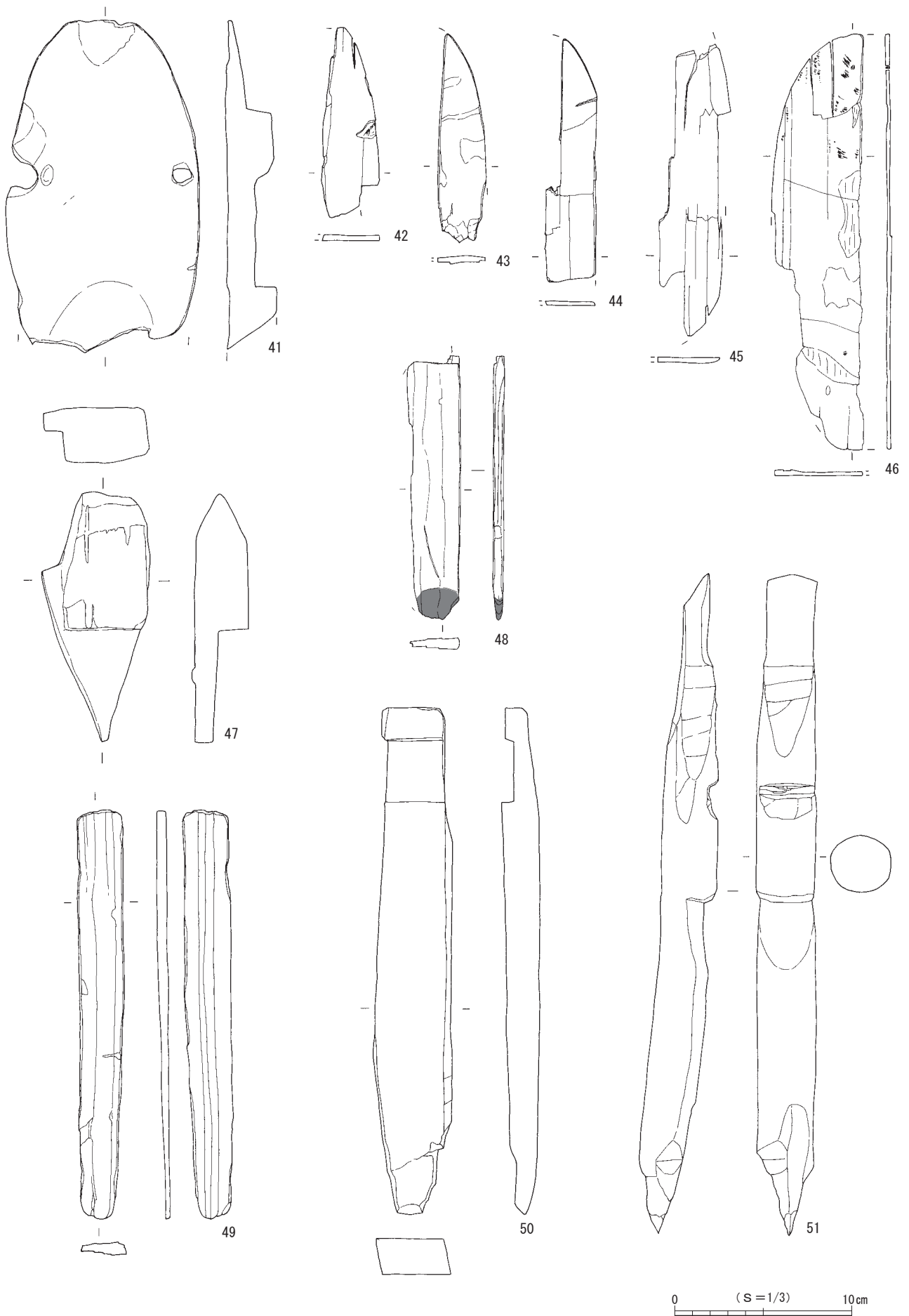


图86 第6面 遺構外出土遺物 (3)

第四章 宇津宮辻子幕府跡出土の動物遺体

東京国立博物館客員研究員

金子 浩昌

付表1 検出された動物遺体の種名表

軟体動物門	鳥綱
腹足綱	ガンガモ目
前鰓亜綱	ガンガモ科
古腹足目	カモ類
ミミガイ科	ハクチョウ類
アワビ類	チドリ目
ニシキウズガイ科	ウミスズメ科
ダンベイキサゴ	ウミスズメ
クボガイ	キジ目
サザエ科	キジ科
サザエ	キジ
新腹足目	カツオドリ目
アッキガイ科	ウ科
アカニシ	ヒメウ
二枚貝綱	哺乳綱
マルスダレガイ目	クジラ目
マルスダレガイ科	マイルカ科
ハマグリ	マイルカ
チョウセンハマグリ	ネコ目
脊椎動物門	イヌ科
軟骨魚綱	イヌ
ネズミザメ目	タヌキ
メジロザメ科	アナグマ
メジロザメ類	ウマ目
ネズミザメ科	ウマ科
ネズミザメ (モウカザメ)	ウマ
骨魚綱	ウシ目
スズキ目	イノシシ科
スズキ科	イノシシ
スズキ	ブタ
タイ科	シカ科
クロダイ	ニホンジカ
マダイ	ウシ科
メカジキ科	ウシ
メカジキ	ウサギ目
フグ目	ウサギ科
マフグ科	ノウサギ
フグ類	
ボラ目	
ボラ科	
ボラ	

貝類

巻貝類

サザエは大型殻とふたがあり、味の良い貝種として珍重されたであろう。アカニシよりも少ないのは獲りにくかったことによるのであろう。ダンバイキサゴがやや多かった。外海産の貝であり、大量には獲れなかったかも知れない。

クボガイ1点は意図的な採取品ではなかったと思われる。アカニシが主体で大小の殻が採集されている。いずれの殻も丁寧に打ち割られていた。別地点でみたのと同様である。

二枚貝類

ハマグリとチョウセンハマグリがあった。大型のチョウセンハマグリが好まれたが、外海種でもあり獲りにくいために数は少なかった。

魚類

大型の魚種としてモウカザメ、メカジキがあったが椎骨が各1点で少ない。切り身などとして食べられていたことも考えられる。

クロダイ、マダイ、スズキ、ボラなど、いずれも骨の出土は少なかったが、好まれた魚であったろう。獣骨に比べて椎骨が少ない。切身にして分けられたと思われる。

フグの上顎骨1点があった。顎骨の出土はマダイ、クロダイなどと同様であることも注目される。

鳥類

ウミスズメ、ヒメウなどの海鳥、ハクチョウ、カモ類、キジがあり、捕獲できる機会があれば利用していたと考えられる。ハクチョウが当時の鎌倉の入り江まで飛来していた。自然の入り江が広く残されていたのである。

獣類

ノウサギ、タヌキ、アナグマなどの中型獣、シカ、イノシシなどの大型獣は狩りの獲物だったのであろう。分配された一部であろう。

唯一のブタはイノシシよりも大きい。同時期のものとするにはなお精査する必要がある。

イヌは下顎骨と軸椎を残すもので小型犬で、在来のイヌであろう。

ウマは下顎骨と四肢骨が出土している。中型の在来ウマのサイズである。

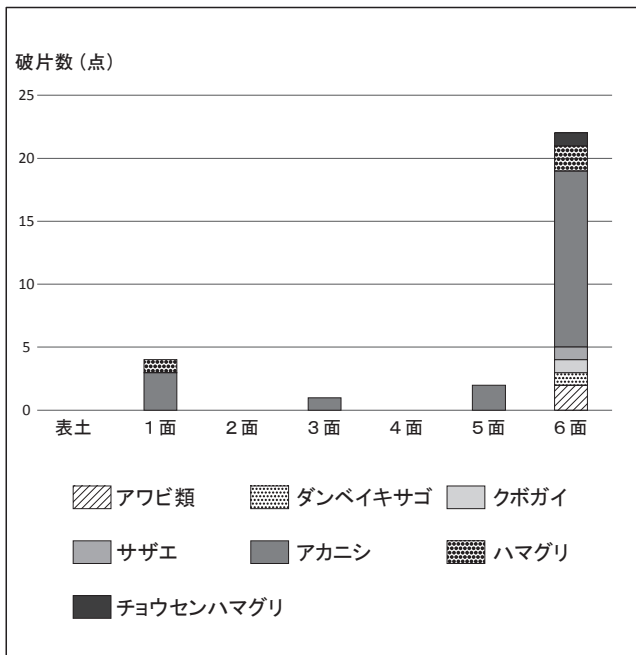
ウシは基節骨1点があったのみで、小型の在来牛のサイズである。

これらのウマ・ウシの骨には解体時に付いたと思われる切痕がみられ、遺体の利用されたことが推定される。

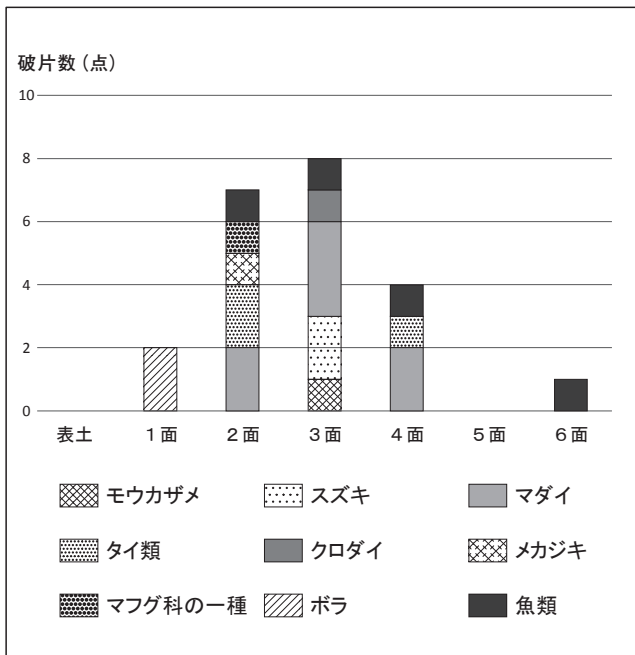
付表2 出土動物遺体一覧

出土遺構	区	面	種別	部位	左右	計測値 (mm)	写真番号	備考
攪乱	北	1面	ハマグリ		左			2点、中～大型
攪乱	北	1面	アカニシ	頂～殻柱部		殻高：106.0 ± 殻高：90.0 ± 殻高：89.0		3点
攪乱	北	1面	アカニシ	主部片				3点、中～大型
攪乱	北	1面	アカニシ	殻片				4点
攪乱	北	1面	ボラ	主鰓蓋骨	右	全長：43.0	22	
攪乱	北	1面	ボラ	前鰓蓋骨	左	長さ：19.0	21	
攪乱	北	1面	ブタ	上腕骨	右	遠位幅：49.72	58	三面近位端欠
土坑4	北	2面	マダイ	前上顎骨	左	推定長：40.0	12	
土坑4	北	2面	キジ	上腕骨	左	全長：72.0 ±	28	
土坑4	北	2面	ウマ	肩甲骨	右	最狭部：59.79	48	打ち割っている。
土坑4	北	2面	ノウサギ	大腿骨	左		40	遠位欠、浅い切痕が全面にみられる。
土坑4	北	2面	アナグマ	尺骨	右	全長：93.70	38	
土坑7	南	2面	タイ類	尾椎骨		長さ：12.77 径：11.54	17	
土坑7	南	2面	サカナ	破片				
土坑7	南	2面	タイ類	鰭棘片				3点
土坑7	南	2面	獣骨片					3点
土坑8	南	2面	タヌキ	大腿骨	左	全長：91.10	37	
遺構外	北	2面	イヌ	腰椎骨				
遺構外	南	2面	マフグ科の一種	上顎骨	右	全長：27.0 ±	20	体長 40cm
遺構外	南	2面	マダイ	歯骨	左	全長：35.0 ±	13	体長 37cm前後
遺構外	南	2面	メカジキ	椎骨		椎体長：35.35	19	
遺構外	南	2面	ニホンジカ	踵骨	右		57	近位端咬じられる。
遺構外	南	2面	ウシ	基節骨	右		59	両端の周囲に咬み痕が顕著。 全長5430cm、現生する在来牛のなかでもっとも小型の鹿児島県口之島に生息する牛に一致する。
堅穴状遺構1	南	3面	スズキ	舌顎骨	右		9	
地業2ピット1	南	3面	獣骨片					
土坑12	南	3面	イルカ類	肋骨片				
土坑14	南	3面	スズキ	主鰓蓋骨	左			
土坑15	南	3面	キジ	尺骨	右	現長：61.62	30	近位端切断
遺構外	北	3面	マダイ	歯骨	右			大型
遺構外	北	3面	マダイ	上後頭骨		最大厚：14.45	10	
遺構外	北	3面	モウカザメ	椎骨		径：31.67	8	2点
遺構外	北	3面	サカナ	鰭棘				破片
遺構外	北	3面	ハクチョウ類	上腕骨	左		24	遠位
遺構外	北	3面	ハクチョウ類	鎖骨片			23	
遺構外	北	3面	トリ類	破片				
遺構外	北	3面	ウミスズメ	上腕骨	右		26	
遺構外	北	3面	カモ類	足根中足骨	左		27	
遺構外	北	3面	ウマ	下顎骨	右			破片
遺構外	北	3面	ウマ	下顎骨	右			
遺構外	北	3面	ウマ	下顎歯M1・2	右		45	
遺構外	北	3面	ニホンジカ	肋骨				破片
遺構外	北	3面	ニホンジカ	上腕骨	右	遠位端幅：39.41	54	遠位端打割する。
遺構外	北	3面	ニホンジカ	腰椎骨				横突起をきれいに切断。
遺構外	北	3面	イヌ	軸椎		全長：45.42	36	
遺構外	北	3面	イヌ	下顎骨P3・4、M1~3	右		35	摩耗なし。
遺構外	北	3面	ウマ	下顎白歯M1	左	高：38.8	46	
遺構外	北	3面	ノウサギ	上腕骨	左		39	近位骨端外れ。
遺構外	北	3面	ノウサギ	頸骨			41	遠位端欠
遺構外	北	3面	ノウサギ	第4中足骨	右		44	
遺構外	北	3面	獣骨片					
遺構外	北	3面	獣骨片					
遺構外	北	3面	獣骨片					
遺構外	北	3面	アカニシ			殻高：106.0 ±	5	
遺構外	南	3面	マダイ	前上顎骨	左		11	
遺構外	南	3面	クロダイ	歯骨	右	全長：4.5 ±	16	
遺構外	南	3面	キジ	大腿骨中間部	左		31	
遺構外	南	3面	キジ	肋骨片				
遺構外	南	3面	キジ	尺骨		全長：72.07		
欄列1	南	4面	マダイ	歯骨	左	全長：31.0	14	体長 37cm前後
欄列1	南	4面	トリ類	仙骨			33	腹面
土坑17	北	4面	イノシシ	肋骨				
土坑17	北	4面	イノシシ	肋骨片	右		53	
土坑19	南	4面	サカナ	破片				
土坑21	南	4面	イノシシ	上腕骨	左		51	縦に割っている。当時の解体、骨髄利用の様子をみる。
土坑22	南	4面	ニホンジカ	鹿角		長さ：49.02 幅：11.78	61	加工品(器種不明)
土坑22	南	4面	ニホンジカ	肋骨				破片
土坑22	南	4面	シカ/イノシシ	骨片				

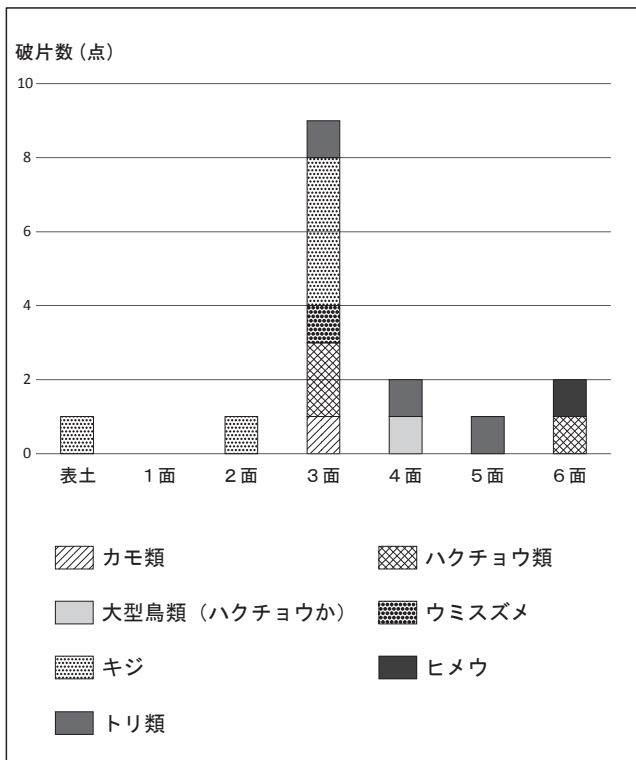
出土遺構	区	面	種別	部位	左右	計測値 (mm)	写真番号	備考
土坑22	南	4面	ウマ	下顎臼歯 M ₁	左			
土坑22	南	4面	人骨					破片
土坑22	南	4面	人骨	腓骨片				
土坑23	南	4面	マダイ	角骨	左		15	
土坑23	南	4面	ノウサギ	頸骨	右	遠位幅：13.33	42	遠位
土坑25	南	4面	ニホンジカ	肢骨片				打割した破片
土坑25	南	4面	ニホンジカ	脛骨近位	右	近位幅：50.33	56	若い雌シカ、上端囲り切痕、打割
土坑26	南	4面	タイ類	尾椎骨		長さ：10.11 径：12.46	18	
遺構外	北	4面	イルカ類	肋骨片				
遺構外	北	4面	ニホンジカ	上腕骨	左			破片、割っている。
遺構外	北	4面	ニホンジカ	肋骨	右		55	
遺構外	北	4面	イノシシ	肋骨片				2点
遺構外	北	4面	イノシシ	肋骨片				
遺構外	南	4面	大型鳥類 (ハクチョウか)	上腕骨				2点
遺構外	南	4面	ニホンジカ	肋骨片				
土坑29	南	5面	アカニシ			殻高：71.0		
遺構外	北	5面	トリ類	頸骨				破片
遺構外	北	5面	イルカ類	椎骨				3点
遺構外	北	5面	イルカ類	肋骨			34	切断
遺構外	北	5面	ニホンジカ	上腕骨	左			破片、遠位部、割っている。
遺構外	北	5面	ニホンジカ	上腕骨	左			破片、遠位部、割っている。
遺構外	北	5面	イノシシ	上腕骨	右	遠位幅：32.08	52	遠位、骨端は咬まれている。解体して棄てられた骨、イヌなどが咬じたのではないかと。割っている。
遺構外	南	5面	アカニシ	殻柱部片				殻の割られている痕をみる。
遺構外	南	5面	ウマ	下顎骨P ₂₋₄ 、M ₁₋₃	左		47	11~12才、切歯は無く吻端は損傷していた。
遺構外	南	5面	ノウサギ	脛骨	右		43	破損、打割
遺構外	南	5面	ニホンジカ	鹿角加工品			60	うすく削平した加工品
溝状遺構 4	北	6面	アカニシ			殻高：93.0 ±		
溝状遺構 4	北	6面	ハマグリ	破片	左			
溝状遺構 4	北	6面	アワビ類	破片				
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部		殻柱部高：126.0 ±	6-4	殻を割っている。大形殻が目される。
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部		殻柱部高：110.0 ±	6-5	
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部		殻柱部高：127.0 ±	6-6	
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部		殻柱部高：90.0 ±	6-10	
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部		殻柱部高：57.0 ±	6-11	
遺構外	南	6面	アカニシ	殻柱部片				4点
遺構外	南	6面	アカニシ	破片				4点
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：133.0 ±	6-1	
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：135.0 ±	6-2	末端欠
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：113.0	6-3	
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：119.0 ±	6-7	
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：118.0 ±	6-8	
遺構外	南	6面	アカニシ			殻高：105.0 ±	6-9	
遺構外	南	6面	ダンベイキサゴ			径：33.0~29.0 ±	2	8点
遺構外	南	6面	サザエ	フタ			3・4	2点
遺構外	南	6面	クボガイ				1	
遺構外	南	6面	ハマグリ	破片				破損
遺構外	南	6面	チョウセンハマグリ	破片			7	破損
遺構外	南	6面	アワビ類	破片				
遺構外	南	6面	魚類	骨片				
遺構外	南	6面	ヒメウ	上腕骨	左	全長：127.90	32	
遺構外	南	6面	ハクチョウ類	上腕骨		神経孔位置径： 14.74×12.13	25	
遺構外	南	6面	ウマ	基節骨第3指	右	全長：84.70mm 近位端幅：53.22		
遺構外	南	6面	ウマ	橈骨		近位端幅：80.95	50	切痕(加工痕)あり。中型在来馬、木曾馬のサイズである。
遺構外	南	6面	ニホンジカ	肋骨片	左			
遺構外	南	6面	ニホンジカ	肋骨片	左			
遺構外	南	6面	獣骨					破片
表土	北		ウマ	寛骨	左		49	白部分を平らに切断、打痕あり。
表土			キジ	上腕骨	右		29	中間部



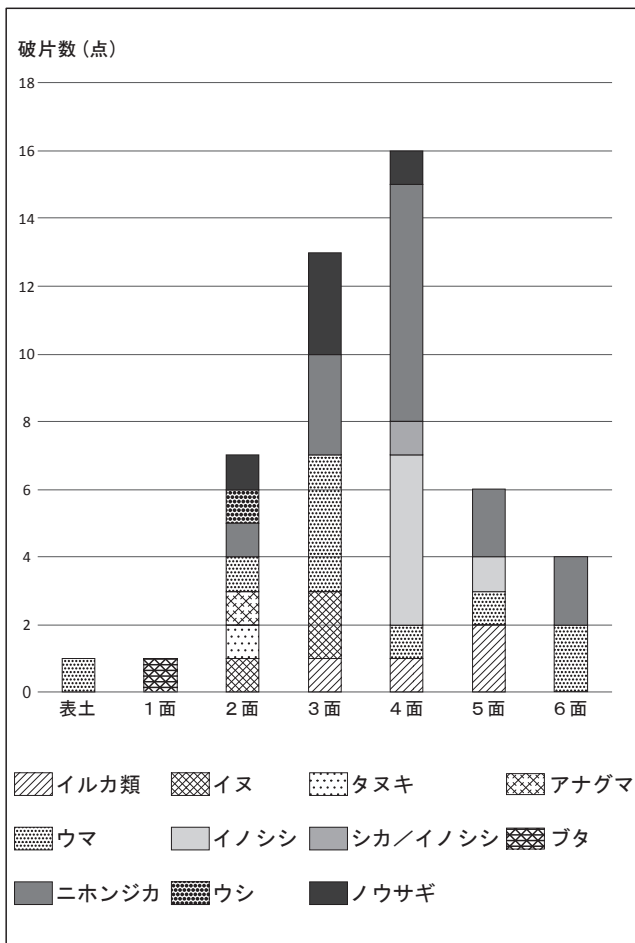
付表3 層位別貝類出土点数



付表4 層位別魚類出土点数



付表5 層位別鳥類出土点数



付表6 層位別獣類出土点数

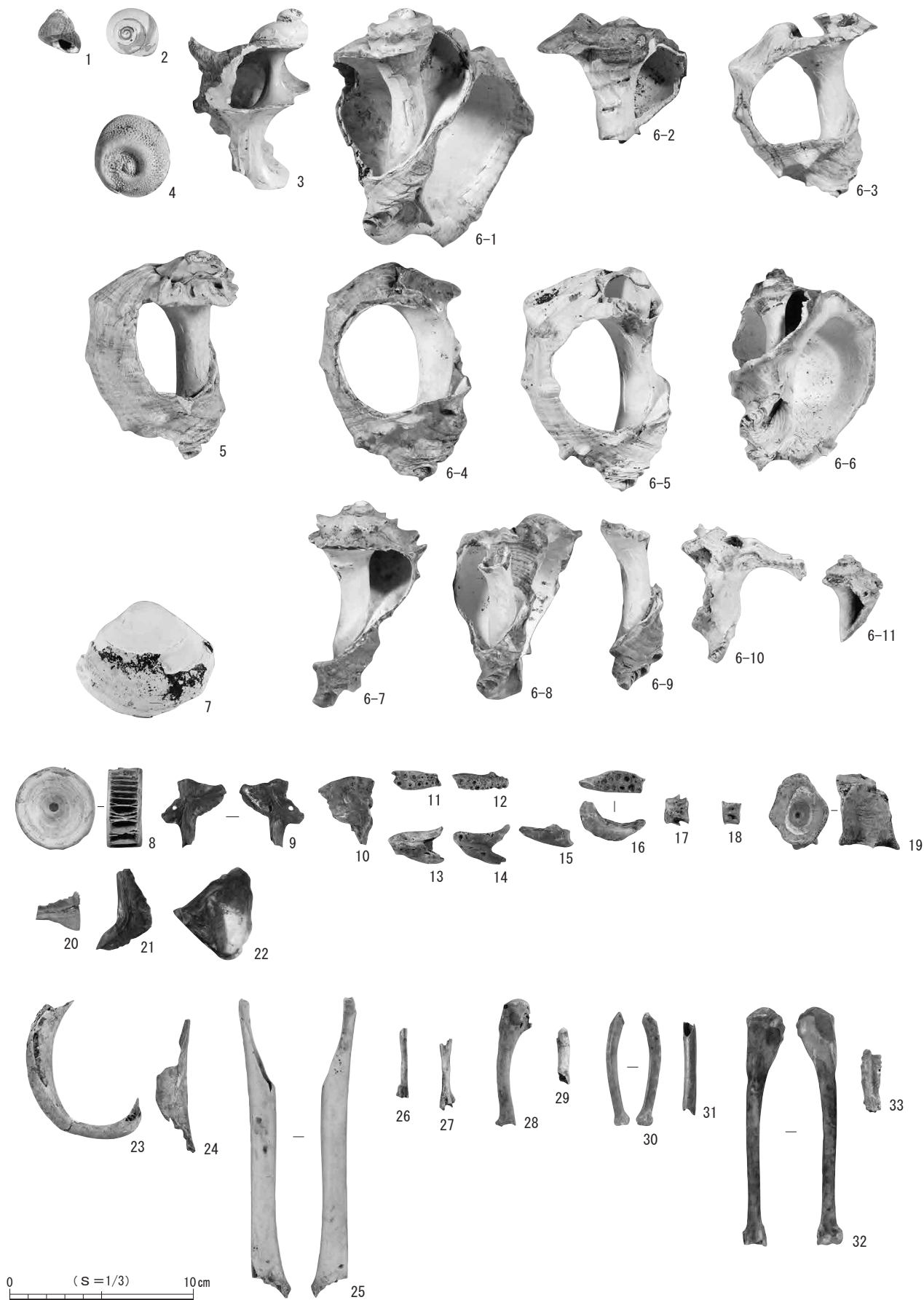


写真1 出土動物遺体(1)

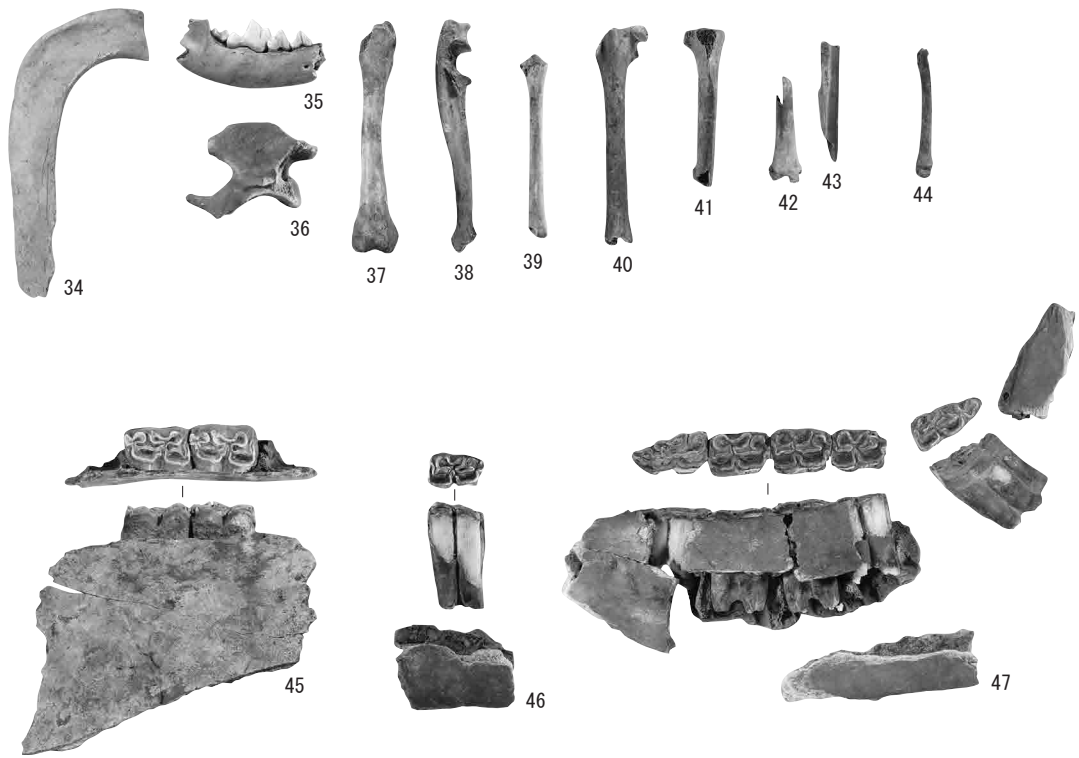


写真2 出土動物遺体(2)

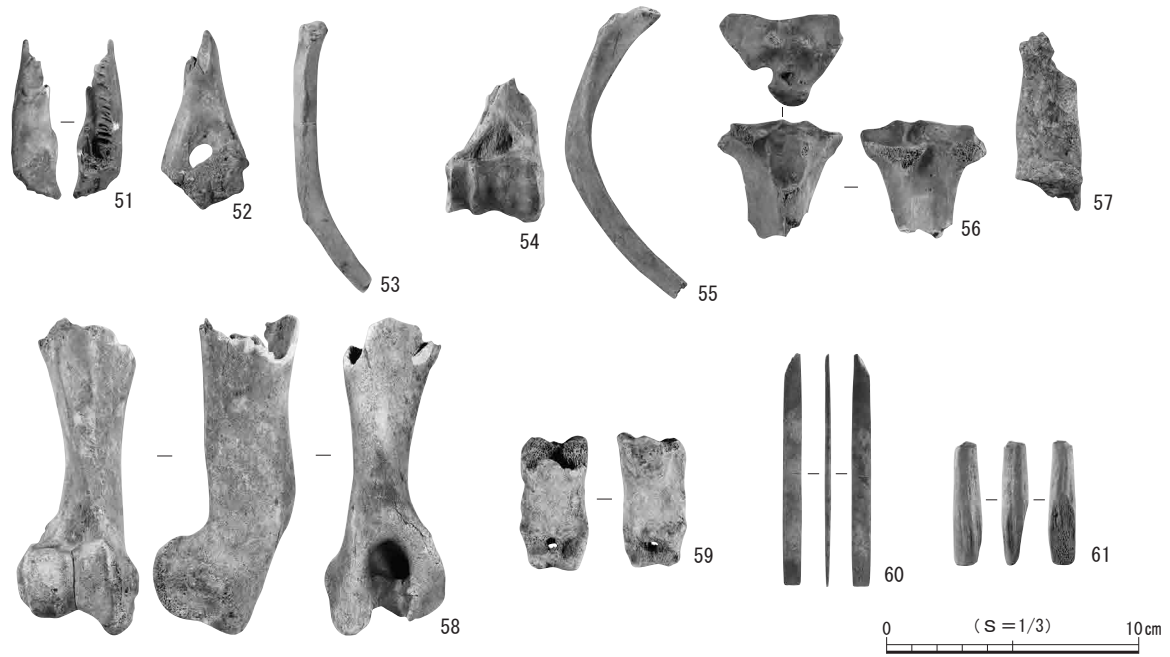


写真3 出土動物遺体(3)

付表8 出土動物遺体写真図版対応表(写真1~3)

番号	出土遺構	種別	部位	左右
1	南区第6面	クボガイ		
2	南区第6面	ダンベイキサゴ		
3・4	南区第6面	サザエ		
5	南区第3面	アカニシ		
6-1~11	南区第6面	アカニシ		
7	南区第6面	チョウセンハマグリ		
8	北区第3面	モウカザメ	椎骨	
9	堅穴状遺構1	スズキ	舌顎骨	右
10	北区第3面	マダイ	上後頭骨	
11	南区第3面	マダイ	前上顎骨	左
12	土坑4	マダイ	前上顎骨	左
13	南区第2面	マダイ	歯骨	左
14	柵列1	マダイ	歯骨	左
15	土坑23	マダイ	角骨	左
16	南区第3面	クロダイ	歯骨	右
18	土坑26	タイ類	尾椎骨	
17	土坑7	タイ類	尾椎骨	
19	南区第2面	メカジキ	椎骨	
20	南区第2面	マフグ科の一種	上顎骨	右
21	北区攪乱	ボラ	前鰓蓋骨	左
22	北区攪乱	ボラ	主鰓蓋骨	右
23	北区第3面	ハクチョウ類	鎖骨片	
24	北区第3面	ハクチョウ類	上腕骨	左
25	南区第6面	ハクチョウ類	上腕骨	
26	北区第3面	ウミスズメ	上腕骨	右
27	北区第3面	カモ類	足根中足骨	左
28	土坑4	キジ	上腕骨	左
29	表土	キジ	上腕骨	右
30	土坑15	キジ	尺骨	右
31	南区第3面	キジ	大腿骨中間部	左
32	南区第6面	ヒメウ	上腕骨	左
33	柵列1	トリ類	仙骨	

番号	出土遺構	種別	部位	左右
34	北区第5面	イルカ類	肋骨	
35	北区第3面	イヌ	下顎骨P ₃₋₄ , M ₁₋₃	右
36	北区第3面	イヌ	軸椎	
37	土坑8	タヌキ	大腿骨	左
38	土坑4	アナグマ	尺骨	右
39	北区第3面	ノウサギ	上腕骨	左
40	土坑4	ノウサギ	大腿骨	左
41	北区第3面	ノウサギ	顎骨	
42	土坑23	ノウサギ	顎骨	右
43	南区第5面	ノウサギ	脛骨	右
44	北区第3面	ノウサギ	第4中足骨	右
45	北区第3面	ウマ	下顎歯M ₁₋₂	右
46	北区第3面	ウマ	下顎臼歯M ₁	左
47	南区第5面	ウマ	下顎歯P ₂₋₄ , M ₁₋₃	左
48	土坑4	ウマ	肩甲骨	右
49	表土	ウマ	寛骨	左
50	南区第6面	ウマ	橈骨	
51	土坑21	イノシシ	上腕骨	左
52	北区第5面	イノシシ	上腕骨	右
53	土坑17	イノシシ	肋骨片	右
54	北区第3面	ニホンジカ	上腕骨	右
55	北区第4面	ニホンジカ	肋骨	右
56	土坑25	ニホンジカ	脛骨近位	右
57	南区第2面	ニホンジカ	踵骨	右
58	北区攪乱	ブタ	上腕骨	右
59	南区第2面	ウシ	基節骨	右
60	南区第5面	ニホンジカ	鹿角加工品	
61	土坑22	ニホンジカ	鹿角加工品	

第五章 まとめ

今回報告する小町二丁目388番2の一部地点は、宇津宮稲荷の南東側に所在し、宇津宮辻子幕府跡の遺跡範囲の南端に近い位置に該当する。これまでに宇津宮辻子幕府跡では合わせて9地点の調査が行われており、今回が10地点目の調査となった。

遺構確認面は6面に及び、検出した遺構総数は礎石建物1棟、溝状遺構4条、地業2ヵ所、竪穴状遺構1基、柵列1列、板組遺構1基、杭列1列、土坑47基、ピット142基である。遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して82箱が出土した。

検出した遺構種には溝状遺構、柵列、杭列といった区画としての機能を伴うものが多く、それらを境として南北で遺構の内容が明瞭に異なる点が特徴であり、本調査区が屋敷地の裏手や境界に近い区域に該当するものと考えられる。また、各面の遺構群の様相もかなり異なっており、土地利用のあり方があまり間を置かずに変化していた状況も読み取れる。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は標高約7.9mで確認した。検出した遺構は溝状遺構1条、土坑2基である。現代の攪乱による破壊のため、遺構の有無が不明な範囲があるものの、遺構密度は低いといえる。このうち溝状遺構1は、本調査地点の東側を走る小町大路与同じ主軸方位を示している。第2～6面の遺構群は若宮大路に即した主軸方位を踏襲していることから、第1面の遺構群形成までの期間に当該地区の地割りが変更されたものと考えられる(注)。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土している。遺物量が少ないために第1面の詳細な時期を特定することは難しいが、大卒14～15世紀代に属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は北区で検出した地業2および溝状遺構2を境として、北側が標高約7.7m、南側が標高約7.4mで確認しており、南北で約30cmほどの高低差が認められた。検出した遺構は地業1ヵ所、溝状遺構1条、土坑7基である。南区西側は遺物が散布するのみで遺構は希薄だが、南区東側では土坑がまとまって分布していた。北区は溝状遺構2と地業1で調査区の大半を占めている。このうち溝状遺構2は矩形に配された4基のピットを伴っており、人頭大の泥岩を敷き詰めて整地された地業1に軸を揃えて隣接するため、両者は関連する遺構であると考えられる。また、付随するピットは溝状遺構を渡るための橋脚穴としての機能が推測される。これらの遺構は本調査地点の西側を走る若宮大路と主軸方位が直交しており、若宮大路と有機的な関係にあったものと考えられる。土坑は多量のかわらけや炭を伴っているものが大半を占めており、廃棄土坑として使われたものと考えられる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から第2面の時期は13世紀後葉～14世紀前葉に属すると考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は標高約7.3mで確認した。検出した遺構は礎石建物1棟、地業1ヵ所、竪穴状遺構1基、土坑6基、ピット4基である。北区では礎石建物のみが検出され、その他の遺構は南区の地業2以南に集中する傾向が認められる。地業2は大小の泥岩が敷かれ北縁にピットおよび礎石を伴うもので、これ

らを結ぶラインは北側に隣接する礎石建物1と軸が揃い、若宮大路に直交する。礎石建物1と地業2は近接しているために両者の同時性が問題となるが、調査範囲の制約により解明するには至らなかった。しかしながら北側に礎石建物、南側に土坑や竪穴状遺構が集中する状況からみると、地業2は南北の区画を意図して構築されたものと推定される。なお、この地業2の北縁のラインが第4面の溝状遺構3の上端と重複することから、溝状遺構3の区画が一部踏襲されているものと考えられる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から第3面の時期は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面の遺構は標高約7.1mで確認した。検出した遺構は溝状遺構1条、柵列1列、土坑11基、ピット3基である。北区から南区にわたって溝状遺構1条がL字状に展開しており、土坑2基とピット3基が北区に位置する他は、すべての遺構が南区に集中している。遺構の分布状況は溝状遺構3を境として南北で変化しており、第3面と類似している。調査区南東隅で検出した柵列1は、溝状遺構3の東西に走行する部分に平行し、その間には土坑が多く存在している。土坑の規模や形状は様々で、かわらけが廃棄されたものもあり、多様な用途が想定される。なお、柵列1は第5面の杭列1とほぼ重複する位置関係にあることから、前段階の区画を踏襲したものと推測される。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などの他に、金銅製の水滴(図63-80)が出土しており、これらの年代観から第4面の時期は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

〈第5面〉

第5面の遺構は標高約6.9mで確認した。検出した遺構は板組遺構1基、杭列1列、土坑3基、ピット1基である。遺構の密度は他の面と比較して希薄である。北区で検出した板組遺構1は若宮大路に平行する主軸方位を示しているが、南区では検出されなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から第5面の時期は13世紀前葉～中葉頃と考えられる。

〈第6面〉

第6面の遺構は標高約6.5mで確認した。検出した遺構は溝状遺構1条、土坑18基、ピット134基であり、遺構数・密度ともに最も高い遺構確認面である。土坑とピットは調査区全面に分布しているが、調査範囲の制約もあり、配置の規則性や建物の柱筋などは見出せなかった。また、調査区の東端で検出した溝状遺構4は、若宮大路と主軸方位が揃っている。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第6面の時期は13世紀初頭～前葉頃に属すると考えられる。

(注) 本調査地点の南東約180mに位置する小町二丁目389番1地点では、13世紀後半～14世紀前半頃の遺構群は若宮大路、15世紀前半の遺構群は小町大路が遺構軸線の基準とされていると考えられ、軸の変化とともに遺構の内容もその前後で変化している状況が確認されている。

引用・参考文献（著者50音順）

- 石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 伊藤正義 1991「鎌倉・大倉幕府から宇津宮辻子幕府へ 御所の破却と政権の再生」『「吾妻鏡」の総合的研究』
- 宇都洋平 2010「宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目390番2外」『平成21年度発掘調査報告（第1分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26 鎌倉市教育委員会
- 河野真知郎 1995『中世都市鎌倉 遺跡が語る武士の都』講談社選書 講談社
- 熊谷洋一・浜野洋一ほか 1993「6. 宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目345番12外地点」『平成4年度発掘調査報告（第3分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9 鎌倉市教育委員会
- 須佐直子・原 廣志ほか 1997『宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書』宇津宮辻子幕府跡発掘調査団
- 田畑佐和子 1991「4. 宇津宮辻子幕府跡の調査」『第1回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉市考古学研究所 中世都市研究会
- 継 実 1993「宇津宮辻子幕府跡遺跡の調査」『第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉考古学研究所 中世都市研究会
- 原 廣志 1998「鎌倉市宇津宮辻子幕府跡」『第22回神奈川県遺跡調査・研究会 発表要旨』神奈川県考古学会
- 原 廣志・小林重子ほか 1996『神奈川県鎌倉市 宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書 小町二丁目361番1地点』宇津宮辻子幕府跡発掘調査団
- 原 廣志・小林重子ほか 1997「宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目361番1地点」『平成8年度発掘調査報告（第2分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13 鎌倉市教育委員会
- 原 廣志・佐藤仁彦 1996「宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目389番1地点」『平成7年度発掘調査報告（第1分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 鎌倉市教育委員会
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

表2 第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構 1 出土遺物 (図8)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	(5.2)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕、焼成後穿孔(径0.3cm) 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(8.0)	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	1/6
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.4)	4.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
土坑 2 出土遺物 (図10)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.2	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(6.6)	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/4
3	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.0	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6a 型式	口縁部 小破片
4	石製品	砥石	現長 5.5	短 3.2	厚 0.5	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩	
第1面 遺構外出土遺物 (図11~13)							
1	土器	白かわらけ	8.2	-	2.3	口唇部に煤付着 底面-指頭痕 内底-ナデ 胎土: きめ細かい、良土 色調: やや赤みがかる乳白色 焼成: 良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	3.6	3.2	0.8	コースター形 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.6	4.0	0.8	コースター形 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	4.7	2.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(4.4)	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.6	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	3/4
7	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.6	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	6.7	4.4	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	4.8	1.3	底面一回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.2	1.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.8)	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕、焼成後穿孔(径0.8cm) 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.6)	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	4.8	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	5/6
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.7	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	4.8	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	1/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.8	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.8	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 褐色 焼成: 良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	1/2
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.4	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.4	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	5/6
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.4	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	略完形
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.8	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	2.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.6	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	2/3
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	2/3
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.4	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	1/2
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	5/6
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	略完形
29	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 赤褐色 焼成: 良好	1/3
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	1/2

31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	略完形
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、	1/3
33	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色	1/3
35	土器	ロクロ かわらけ・中	10.0	5.7	3.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色	略完形
36	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	7.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色	略完形
37	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	6.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼	1/3
38	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:	1/3
39	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	7.5	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色	2/3
40	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(7.4)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼	1/3
41	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.0)	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4
42	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.0)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4
43	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:	1/2
44	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	8.5	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼	1/3
45	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼	3/4
46	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	7.5	3.5	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 色調:赤橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	3/4
47	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	6.8	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 調:褐色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	略完形
48	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	4/5
49	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	略完形
50	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.2	3.4	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
51	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.0	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 調:明黄褐色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	2/3
52	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.3	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	5/6
53	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 調:明褐色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/2
54	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色	略完形
55	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.4	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	完形
56	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(6.4)	3.3	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
57	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.6)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:	1/3
58	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.0)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/3
59	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.2	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	2/3
60	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/3
61	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.2)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4
62	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.4)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼	1/3
63	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.4	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
64	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色	1/3
65	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	7.4	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼	1/2
66	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.6)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 調:明黄褐色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/3
67	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	8.0	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:	1/2
68	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.2)	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/3
69	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(8.4)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 調:橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/2
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	9.0	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 橙色 焼成:良好		胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:	1/2
71	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	8.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 調:薄橙色 焼成:良好	内底-ナデ	胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4

72	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(9.2)	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/3
73	土器	ロクロ かわらけ・小	現 7.1	4.3	現 2.0	口縁部を打ち欠く 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
74	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.8	外面-鑄蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
75	磁器	青磁 小碗	(7.2)	-	現 2.7	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	口縁部 小破片
76	磁器	青磁 皿	-	-	現 2.8	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	口縁部 小破片
77	磁器	青磁 瓶類	-	-	現 4.1	外面-劃花文 内面-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	底部 小破片
78	陶器	瀬戸 片口鉢	-	-	現 5.9	胎土:緻密 色調:灰色	口縁部 小破片
79	陶器	瀬戸 鉢?	-	(9.9)	現 4.5	暈付-粉殻圧痕 胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色	体部下半~高 台小破片
80	陶器	瀬戸 御皿	(14.8)	(13.0)	4.4	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色 備考:古瀬戸前期様式Ⅱ期	口縁~底部 小破片
81	陶器	瀬戸 花瓶Ⅲ類?	(11.2)	-	現 5.6	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色	口縁~頸部 小破片
82	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:4型式	口縁部 小破片
83	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
84	陶器	常滑 甕	-	-	現 8.0	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
85	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7~8型式	口縁部 小破片
86	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.5	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	口縁部 小破片
87	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 7.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
88	陶器	常滑 片口鉢Ⅲ類	-	-	現 7.4	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
89	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	11.2	現 5.7	胎土:粗 色調:灰褐色	高台部 破片
90	石製品	砥石	現長 4.5	幅 3.8	厚 0.6	4面に使用痕跡 石材-粘板岩	1/3?
91	石製品	砥石	現長 7.2	幅 2.9	厚 2.6	4面に使用痕跡 石材-砂岩	2/3
92	石製品	砥石	長 9.8	幅 5.4	厚 2.8	円盤の1面を平面加工している 石材-花崗岩	完形
93	石製品	砥石	長 10.5	幅 5.5	厚 5.3	4面に使用痕跡 刻み状の研ぎ溝 石材-凝灰岩	完形
94	瓦	平瓦	現長 16.0	現幅 13.2	厚 2.3	凹面-布目、糸切り 凸面-縄目敲き	1/6?

攪乱出土遺物(図14)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.8	-	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土位置:攪乱9	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.6)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.7	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	5/6
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.4	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	5/6
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	5/6
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	7.4	1.8	底面-回転糸切+指押し痕+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.6	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土位置:攪乱3	1/3

17	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	6.8	3.5	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好 出土位置：攪乱3	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.5	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好 出土位置：攪乱3	5/6
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明褐色 焼成：良好 出土位置：攪乱3	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	9.2	3.8	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好 出土位置：攪乱3	1/3
21	磁器	青磁 小碗	(9.8)	-	現 2.7	外面-鎔蓮弁文 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁小碗Ⅱ類 出土位置：攪乱3	口縁部 小破片
22	陶器	瀬戸 洗	22.2	19.7	7.3	胎土：緻密 色調：胎土-灰色、釉-淡灰黄色 備考：古瀬戸前期様式Ⅱ期 出土位 置：攪乱3	2/3
23	陶器	常滑 壺	-	-	現 8.9	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式 出土位置：攪乱8	口縁部 小破片
24	陶器	常滑 玉縁壺	18.4	-	現 5.5	胎土：粗 色調：暗褐色 備考：6a~6b型式 出土位置：攪乱8	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 3.8	二次焼成 胎土：粗 色調：黒褐色 出土位置：攪乱8	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 10.1	胎土：粗 色調：茶褐色 出土位置：攪乱8	口縁部 小破片
27	骨製品	用途不明	径 2.3	孔径 0.3	厚 0.3	武器？ 出土位置：攪乱8	完形？
28	骨製品	装飾具？	長 4.5	幅 2.1	現 0.4	シカ中足骨製 出土位置：攪乱8	2/3
29	鹿角 製品	装飾具？	長 10.1	幅 0.5~2.5	厚 1.1~1.4	鹿角製 出土位置：攪乱8	略完形
30	鉄製品	釘	現長 7.1	幅 0.2	厚 0.2~0.4	鍛造 出土位置：攪乱8	完形

表3 第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

地業1 出土遺物 (図16)

1	陶器	瀬戸 袴腰香炉	8.8	6	5.9	外面-沈線による蓮弁文？ 外面・内面下半-鉄釉 内面下半・底面-無釉 胎土： 緻密 色調：胎土-明黄褐色、釉-暗褐色 備考：古瀬戸中期様式Ⅱ期	略完形
2	鉄製品	用途不明	径 27.5	幅 0.6~1.2	厚 0.3~0.6	円弧状	

溝状遺構2 出土遺物 (図18)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.1	2.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調： 薄橙色 焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	8.6	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：橙色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	6.6	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、 粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(7.6)	3.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、 粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
6	土器	碗？	-	4.6	現 2.5	中実高台 底面一回転糸切 胎土：微砂、赤色粒、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	高台部 破片
7	土器	釜型土製品	(8.8)	(7.4)	4.0	底面一回転糸切 胎土：微砂、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
8	磁器	青白磁 小皿か合子身	3.6	2.2	1.6	輪花形 色調：胎土-乳白色、釉-淡青色	1/4
9	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.0	胎土：粗 色調：茶褐色	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.8	胎土：粗 色調：暗褐色	口縁部 小破片
11	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	24.0	-	現 6.5	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：明灰褐色	口縁部 小破片

土坑3 出土遺物 (図20)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	6.4	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 橙色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.0)	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
3	陶器	常滑 壺	-	-	現 9.4	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a~6b型式	口縁部 小破片

土坑4 出土遺物 (図21・22)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(5.8)	3.4	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	3.6	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	4.5	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(5.0)	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.7	4.6	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	完形

6	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.2	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	4.8	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.3	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	5.0	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：暗灰褐色 焼成：良好	3/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.8)	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.1	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.6	1.8	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.6	2.0	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.9	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	5/6
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.8	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	完形
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	4/5
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	略完形
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.8	2.1	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	完形
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	2.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.0)	2.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
25	土器	ロクロ かわらけ・中	10.2	6.4	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
26	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.4	2.9	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
27	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	5.6	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.0	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
29	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	7.0	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/3
30	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	8.0	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
31	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.4	3.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
32	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	8.0	3.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
33	土器	ロクロ かわらけ・中	11.5	6.2	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	8.2	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
35	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.4)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
36	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(8.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
37	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	8.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
38	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	6.7	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	2/3
39	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(6.8)	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/4
40	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.3	3.3	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
41	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.4	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
42	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	6.6	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
43	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	4/5
44	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.5	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
45	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.5	3.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙褐色 焼成：良好	1/2
46	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.7	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形

5	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.2	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	4/5
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.5	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	4/5
10	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.5	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	4.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	3/4
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.5)	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	7.4	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/3
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	4/5
17	鉄製品	釘	現長 6.2	幅 0.3~0.6	厚 0.2~0.7	筈が多く詳細不明	4/5

土坑7出土遺物(図24~27)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.4)	(3.2)	1.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.6)	(3.7)	0.9	コースター形 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.4)	(4.4)	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	4.5	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.5	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	6.7	4.9	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.4	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.5	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.8	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	5.0	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.7	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	4/5
12	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.9	2.2	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	略完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.9	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.6)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(5.0)	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	5.3	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	4.9	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.0)	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.6)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	4.8	2.5	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.0	2.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.4	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	2.6	内面に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2

28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.5)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.7	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
30	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.4	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
32	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.6	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、	3/4
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	4.8	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
34	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	4.6	2.8	体部周囲を打ち欠く 底面- 泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色	回転糸切+板状圧痕 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、	略完形
35	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.0	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.8	2.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、	完形	
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	5.0	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、	1/3	
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	4.6	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	完形
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(4.3)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
40	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	5.5	2.7	口唇部~体部内外面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微	1/2	
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	5.6	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3	
42	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	4.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
43	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	5.0	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
44	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(5.2)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 調: 橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/3	
45	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	5.0	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形	
46	土器	ロクロ かわらけ・小	-	4.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕、 泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	焼成後穿孔(径0.5cm) 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、	2/3	
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.4	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕、 赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	焼成後穿孔2カ所(径0.3cm) 内底-ナデ 胎土: 微砂、	完形	
48	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	5.8	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 調: 橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/3	
49	土器	ロクロ かわらけ・中	10.0	6.4	3.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥	略完形	
50	土器	ロクロ かわらけ・中	10.2	6.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	7/8
51	土器	ロクロ かわらけ・中	10.2	5.5	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	2/3
52	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	7.0	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
53	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.9)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
54	土器	ロクロ かわらけ・中	10.4	6.0	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	略完形	
55	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	5.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	5/6
56	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	5.5	3.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、	略完形	
57	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	5.9	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/2	
58	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(6.8)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	内底-強いナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、	1/2	
59	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(6.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
60	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	6.2	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 調: 橙色 焼成: 良好	内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4	
61	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	5.6	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
62	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(7.0)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/4	
63	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	6.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 色調: 橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	略完形	
64	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	6.5	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	5/6
65	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	6.0	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	3/4
66	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	6.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調: 橙色	内底-ナデ 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	3/4
67	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.8	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 色調: 薄橙色 焼成: 良好	胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	2/3	

108	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
109	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.6)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
110	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
111	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	8.5	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	略完形
112	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.2	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：淡黄色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
113	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	4/5
114	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	8.4	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：薄橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/3
115	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	8.6	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 調：橙色 焼成：良好	内底-ナデ	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/4
116	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.3	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：薄橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	4/5
117	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.0	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 成：良好		胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼	略完形
118	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.2	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	4/5
119	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.0	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	4/5
120	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.6	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
121	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	8.0	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/4
122	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	9.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	2/3
123	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	8.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：橙色 焼成：良好		胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/3
124	鉄製品	火打金	現長 8.2	幅 3.0	厚 1.0	山形			略完形
125	銅製品	銭貨	直径 2.1	孔径 0.6	厚 0.1	銭名-淳化元寶(北宋・990)			略完形

土坑8出土遺物(図28)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	10.4	6.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.4	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	4/5

土坑9出土遺物(図29)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	6.5	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.5	3.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.5	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.4	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	7.2	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 調：明黄褐色 焼成：良好	内底-ナデ	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.6)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3

第2面 遺構外出土遺物(図30~33)

1	土器	白かわらけ	5.2	-	1.2	コースター形 内底-ナデ	胎土：きめ細かい、良土 色調：乳白色 焼成：良好		1/3
2	土器	白かわらけ	現 (10.1)	(3.6)	現 2.3	体部を打ち欠く、煤付着 底面-回転糸切	内底-ナデ 胎土：きめ細かい、良土 色調：明灰色 焼成：良好		1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.0)	(3.4)	0.8	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.6)	3.8	1.1	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	4.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：灰褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	5.1	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：灰褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	3/4
8	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	5.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	5/6
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.5	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	5.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調：薄橙色	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好		1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：薄橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	4/5

12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.2	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.8)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.6	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.0	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	2/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.3	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	4/5
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	完形
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.2	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：赤褐色 焼成：良好	1/2
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.6	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.3	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.4	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.7	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.2	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.8)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
31	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.0)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
35	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.1	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：灰褐色 焼成：良好	4/5
36	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.6	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
38	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.9)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
40	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	6.0	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
41	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、良土 色調：赤褐色 焼成：良好	1/4
42	土器	ロクロ かわらけ・中	10.4	6.6	3.1	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
43	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	(6.5)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/4
44	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	7.2	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
45	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	6.8	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
46	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
47	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.8	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
48	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.0)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
49	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
50	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.8	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
51	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.0	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
52	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.6	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形

53	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(6.4)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
54	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	7.2	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
55	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.5	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
56	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	8.2	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
57	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.8)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
58	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
59	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
60	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.0)	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/4
61	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	7.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
62	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.2	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/5
63	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.4	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	略完形
64	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.6	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	略完形
65	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	7.6	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
66	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.2)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
67	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
68	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	8.0	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
69	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(6.4)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/2
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	8.2	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
71	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/2
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.0)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/4
73	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.7	外面-鎚蓮弁文 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
74	磁器	青磁 袋物	-	-	3.2	外面-縦位の沈線、把手1カ所遺存 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁	口縁～肩部 小破片
75	磁器	青磁 合子蓋	(6.2)	-	現 2.0	外面-縦位の沈線 上面-意匠不明の文様 口唇部-釉剥ぎ 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁	口縁部 小破片
76	陶器	瀬戸 花瓶Ⅲ類	-	-	現 5.5	胎土：緻密 色調：胎土-明灰色、釉-緑灰色 備考：古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	胴部 小破片
77	陶器	瀬戸 片口鉢	-	-	現 6.7	胎土：緻密 色調：胎土-灰褐色、釉-灰黄色	口縁部 小破片
78	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.3	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5型式	口縁部 小破片
79	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.1	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a～6b型式	口縁部 小破片
80	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.1	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
81	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
82	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.6	胎土：粗 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
83	陶器	常滑 甕	-	-	現 10.2	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6b型式	口縁部 小破片
84	陶器	常滑 広口壺小	-	-	現 6.2	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5～6b型式	肩～底部 小破片
85	陶器	常滑 三筋壺	-	-	現 4.9	外面-沈線3条 胎土：粗 色調：暗褐色 備考：3～5型式	肩部 小破片
86	陶器	常滑 三筋壺?	-	-	現 5.7	胎土：粗 色調：暗褐色 備考：85と同一個体?	肩部 小破片
87	陶器	常滑 三筋壺	-	(10.0)	現 8.4	胎土：粗、白色粒 色調：灰褐色	底部 小破片
88	陶器	常滑 片口鉢?	-	-	現 6.9	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
89	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 7.2	胎土：粗、白色粒 色調：灰色	口縁部 小破片
90	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	(15.6)	-	現 3.3	胎土：黒色微粒 色調：灰褐色	口縁部 小破片
91	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.4	胎土：粗 色調：暗褐色	口縁部 小破片
92	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.4	外面-指頭痕 胎土：粗 色調：灰褐色	口縁部 小破片
93	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(13.0)	現 9.1	胎土：黒色微粒、小石粒 色調：灰褐色	底部 小破片

94	瓦質土器	火鉢	-	-	現9.9	胎土：緻密 色調：灰褐色 焼成：良好	口縁部小破片
95	瓦	軒平瓦	現長5.6	現幅8.2	厚2.0~2.4	瓦当-剣先文 胎土：密 色調：灰褐色	軒平部小破片
96	瓦	平瓦	現長15.0	現幅15.0	厚2.3	凹面-布目、糸切り 凸面-縄目敲き 胎土：粗 色調：灰褐色	1/6?
97	瓦	平瓦	現長21.4	現幅14.0	厚2.5	凹面-布目、糸切り 凸面-縄目敲き 胎土：粗 色調：灰褐色	1/6?
98	石製品	滑石製石鍋	-	-	現5.8	色調：暗褐色	口縁部小破片
99	石製品	滑石製石鍋	-	-	現9.0	色調：灰褐色	口縁部小破片
100	石製品	硯	現長8.0	現幅10.1	厚1.6	上面-意匠不明の文様 石材-凝灰岩	小破片
101	石製品	砥石	長9.6	短6.6	厚6.7	3面に使用痕跡 石材-凝灰岩	1/2?
102	石製品	砥石	長5.3	短4.3	厚2.0	6面に使用痕跡 石材-凝灰岩	完形
103	石製品	用途不明	長6.0	幅4.4	厚1.1	滑石製石鍋の転用?	
104	鉄製品	刀子	現長14.0	幅1.8	刃部厚0.5	鍛造	1/2?
105	銅製品	銭貨	直径2.3	孔径0.7	厚0.1	銭名-開元通寶(南唐・960)	完形
106	銅製品	銭貨	直径2.3	孔径0.6	厚0.1	銭名-景德元寶(北宋・1004)	完形
107	銅製品	銭貨	直径2.5	孔径0.6	厚0.1	銭名-景德元寶(北宋・1004)	略完形

表4 第3面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

竪穴状遺構1 出土遺物(図38)

1	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	5.4	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・小	(7.4)	(5.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.4	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	4/5
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.4	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.6)	1.6	口唇部-内面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/4
11	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	4.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
12	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	5.2	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
16	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/2
19	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.8	1.8	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	略完形
20	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	5.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.4	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
22	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	5.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
23	土器	手づくねかわらけ・小	7.6	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、良土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
24	土器	手づくねかわらけ・小	8.1	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、良土 色調：明褐色 焼成：良好	2/3

25	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(8.2)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
26	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.8)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.5	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.5)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
29	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	4/5
30	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.6	3.4	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	8.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.0)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
33	鉄製品	釘	現長 7.1	幅 0.4~0.6	厚 0.4~0.8	鍛造			
34	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-聖宋元寶(北宋・1101)			完形

土坑10出土遺物(図40)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(6.4)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
---	----	---------------	--------	-------	-----	------------------------------	----------------	---------------------	-----

土坑11出土遺物(図41)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.0	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明黄褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：明黄褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/2

土坑15出土遺物(図42)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	4.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：赤褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.9	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：赤褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.8)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3

ピット1出土遺物(図43)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.8)	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海	1/3
---	----	---------------	--------	-------	-----	------------------------------	----------------	---------------------	-----

第3面 遺構外出土遺物(図44~46)

1	土器	白かわらけ	(7.8)	-	2.4	底面-指頭痕	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：きめ細かい、良土 色調：乳白色	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.4	4.6	0.9	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：橙色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.8	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：黄褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 粗土 色調：明黄褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	5/6
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.8	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 明黄褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 調：明褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄褐色	4/5
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 針、粗土 色調：明黄褐色	内底-強いナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 調：明褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色	5/6
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	1.6	体部~内底に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 綿骨針、粗土 色調：褐色	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 調：橙色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄褐色	1/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 調：明黄褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄褐色	5/6
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.7	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 明黄褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	5/6
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色	1/2
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 薄褐色 焼成：良好	内底-ナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄褐色	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 針、粗土 色調：黄褐色	内底-強いナデ 焼成：良好	胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土	略完形

21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	5/6
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	5/6
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	4/5
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:良好	略完形
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
31	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/2
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/2
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
35	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	3/4
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.3	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	5/6
37	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.6	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
39	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.1	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
40	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	4/5
41	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.0	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
42	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
43	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	7.6	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	1/4
44	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(7.4)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
45	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	5.4	3.4	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	4/5
46	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	6.7	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
47	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	8.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/3
48	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.4	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
49	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	7.3	3.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	略完形
50	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	7.4	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
51	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	8.0	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/3
52	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(8.0)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/4
53	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.6)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
54	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.0)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/4
55	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.6)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/3
56	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.8	3.1	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
57	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.6	3.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
58	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(6.6)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/4
59	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
60	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	6.8	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色・橙色 焼成:良好	4/5
61	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:薄褐色 焼成:良好	略完形

62	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	7.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	3/4
63	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.7	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
64	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.2	3.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
65	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	完形
66	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.5	3.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
67	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.5	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
68	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.8	3.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
69	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.5	3.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
70	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	8.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色 焼成:良好	1/2
71	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.8)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/3
72	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色 焼成:良好	1/3
73	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	7.6	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色 焼成:良好	完形
74	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.5	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色・褐色 焼成:良好	1/2
75	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.6)	3.1	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色 焼成:良好	1/3
76	土器	ロクロ かわらけ	-	-	現 0.8	底面-回転糸切+板状圧痕、焼成後穿孔(径0.4cm) 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:褐色 焼成:良好	底部 小破片
77	土器	ロクロ かわらけ・中~大	-	7.6	現 3.1	体部周囲を打ち欠く 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	完形
78	土器	手づくね かわらけ・小	7.3	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	4/5
79	土器	手づくね かわらけ・小	7.5	-	2.0	口唇部~内底に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:灰褐色 焼成:良好	略完形
80	土器	手づくね かわらけ・小	7.6	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	完形
81	磁器	白磁 碗	-	-	現 4.6	色調:胎土-白色、釉-白色 備考:白磁碗Ⅸ類	口縁部 小破片
82	磁器	青磁 碗	-	4.2	現 3.0	高台端部周辺-釉掻き取り 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅲ類	底部 小破片
83	陶器	瀬戸 入子?	9.0	4.6	3.5	胎土:緻密 色調:灰白色 備考:古瀬戸前期様式Ⅱ期	1/3
84	陶器	常滑 壺?	-	-	現 4.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
85	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.6	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
86	陶器	常滑 甕	(19.8)	-	現 8.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁~肩部 小破片
87	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
88	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5~6a型式	口縁部 小破片
89	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.5	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
90	陶器	常滑 広口壺小	-	-	現 5.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5~6b型式	底部 小破片
91	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.0	胎土:粗 色調:暗褐色	口縁部 小破片
92	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
93	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 6.5	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	口縁部 小破片
94	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 7.6	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	口縁部 小破片
95	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 9.3	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	底部 小破片
96	瓦質 土器	燭台	径 4.8	孔径 0.7	現高 10.7	底面-焼成前穿孔(径0.2~0.6cm) 外面-ヘラミガキ、ヘラナデ 胎土:良土 色調:乳白色 焼成:良好	脚部遺存
97	土器	火鉢	(31.8)	(21.0)	9.3	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、良土 色調:薄褐色 焼成:良好	底部 小破片
98	石製品	硯	現長 3.2	現幅 6.1	厚 0.8	海部 石材-粘板岩	海部 小破片
99	石製品	用途不明	径 8.4~8.6	底面径 4.8	7.1	円盤の底面を平坦に加工 石材-多孔質安山岩	完形
100	鉄製品	刀子	現長 7.6	幅 1.7	刃部厚 0.8	錆が多く詳細不明	
101	鉄製品	刀子	現長 8.7	幅 1.8	刃部厚 0.3~0.6	錆が多く詳細不明	

102	鉄製品	刀子	長 18.7	幅 2.7	刃部厚 0.4~0.6	錆が多く詳細不明	略完形
103	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名- 皇宋通寶 (北宋・1038)	完形
104	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名- 紹聖元寶 (北宋・1094)	完形

表5 第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

柵列1 出土遺物 (図50)

1	土器	手づくね かわらけ・小	(6.6)	-	1.3	コースター形 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、海綿骨針、良土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	4.4	2.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.0	1.8	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.8)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色・褐色 焼成: 良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色・褐色 焼成: 良好	3/4
7	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.6	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 5型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 広口壺?	-	-	現 4.3	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 5型式?	口縁部 小破片
9	石製品	砥石	長 8.8	短 3.5	厚 0.9	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩	1/2

土坑16出土遺物 (図53)

1	土器	白かわらけ	(11.4)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土: きめ細かい、良土 色調: 乳白色 焼成: 良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明褐色 焼成: 良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 薄橙色 焼成: 良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.0	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.4	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	6.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	略完形
15	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.5	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 明黄褐色 焼成: 良好	3/4
18	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.8	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.2	3.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色~灰褐色 焼成: 良好	略完形
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/4
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.4)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.4)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/3
24	土器	手づくね かわらけ・小	(7.2)	-	1.5	コースター形 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3

土坑19出土遺物 (図54)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.1	1.7	口唇部～体部下半に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	6.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内面-ハケメ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.8)	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/4

土坑20出土遺物 (図55)

1	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
2	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
3	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.8	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.4	4.7	1.0	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：淡黄色 焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.8	1.7	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.4)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.2	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	5/6
9	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	7.0	現 4.2	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	底部 小破片
10	鹿角 製品	用途不明	長 6.5	幅 2.0	厚 2.0	未製品？	

土坑21出土遺物 (図56)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.4	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形

土坑22出土遺物 (図57)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(5.2)	3.8	1.1	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	(5.6)	(4.4)	1.0	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明灰褐色 焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.4)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.8	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.8	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	1.8	片口形 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.5	口唇部～内底に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	4/5
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	4.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.8)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	1/4
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明灰褐色 焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：褐色 焼成：良好	略完形

22	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	4/5
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	5/6
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.6)	1.6	底面-静止糸切 内底-強いナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明灰褐色 焼成：良好	1/3
29	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	(6.0)	3.6	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、小石粒、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
30	土器	ロクロ かわらけ・中	11.5	7.5	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.8)	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
32	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	8.0	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
33	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	8.0	3.4	口唇部の欠け部分に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.0)	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/6
35	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
36	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.0)	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/6
37	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.0	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	2/3
38	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	7.6	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：赤褐色 焼成：良好	1/3
39	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.0	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
40	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	7.0	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
41	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.4	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
42	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.8)	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
43	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	7.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：きめ細かい、やや良土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
44	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(7.8)	3.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：きめ細かい、やや良土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4
45	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.4)	3.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：きめ細かい、やや良土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/6
46	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.4)	3.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：きめ細かい、やや良土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/6

土坑23出土遺物(図58)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.6)	(3.8)	0.9	コースター形 底面一回転糸切+板状圧痕、内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.8	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.5	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	8.0	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	8.3	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.5	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：灰色~橙色 焼成：良好	4/5
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.5	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
10	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 7.2	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	底部 小破片
11	鉄製品	馬具?	現長 4.2	幅 0.4~1.1	厚 0.4~0.5	帯状の部品を折り曲げて環状に製作	

土坑25出土遺物(図59)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.2	1.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.3	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.3	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	5/6

4	土器	手づくね かわらけ・小	8.4	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、良土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
5	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、良土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	5.8	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色 調：灰色～明黄褐色 焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.7	3.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥 岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.3	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色 調：橙色 焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.0	3.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥 岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色 調：橙色 焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	7.3	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	8.0	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	略完形

土坑26出土遺物 (図60)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	5/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.6)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/4

第4面 遺構外出土遺物 (図61～63)

1	土器	白かわらけ	-	-	現 2.8	底部-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：きめ細かい、良土 色調：乳白色 焼成： 良好	口縁部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	5.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.6	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	5/6
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.4)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.4)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	7.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：橙色 焼成：良好	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.3)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：赤褐色 焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	4/5
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明褐色 焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	7.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明褐色 焼成：良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	6.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：褐色 焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.5)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.6)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.5)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明黄褐色 焼成：良好	1/4
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色 調：明褐色 焼成：良好	1/3
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.7)	(6.6)	2.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、 粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/4
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	7.2	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	8.2	3.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥 岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色 焼成：良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	6.6	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、 海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
25	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.0)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
26	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	8.1	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海 綿骨針、粗土 色調：暗灰褐色 焼成：良好	2/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.2)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色 調：明褐色 焼成：良好	1/4

28	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.4)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:薄褐色 焼成:良好	1/2
29	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.4	3.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
30	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	8.6	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/4
31	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	7.4	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	6.4	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
33	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	9.4	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	7.6	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/2
35	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	8.0	3.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
36	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し、焼成後穿孔(径0.9cm) 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明褐色 焼成:良好	1/2
37	土器	手づくね かわらけ・小	(7.8)	-	2.2	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/2
38	土器	手づくね かわらけ・小	8.1	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
39	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや良土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
40	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや良土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
41	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや良土 色調:薄褐色 焼成:良好	1/2
42	土器	手づくね かわらけ・中	(11.4)	-	3.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、やや良土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
43	磁器	白磁壺	-	-	現5.3	玉縁口縁 色調:胎土-白色、釉-明灰色	口縁部 小破片
44	磁器	白磁壺	(10.4)	-	現4.9	玉縁口縁 色調:胎土-灰色、釉-薄灰白色	口縁~頸部 小破片
45	磁器	白磁 合子身	(5.8)	(6.0)	現1.7	色調:胎土-白色、釉-明灰色	小破片
46	磁器	青磁碗	-	-	現4.5	内面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部 小破片
47	磁器	青磁 合子蓋	-	-	現1.6	上面-意匠不明の文様 口唇部-釉剥ぎ 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	1/6
48	陶器	瀬戸 折縁小皿	7.6	4.8	2.0	胎土:緻密 色調:胎土-灰褐色、釉-淡灰黄色 備考:古瀬戸中期様式	4/5
49	陶器	渥美 広口壺	-	-	現7.4	胎土:砂質 色調:灰色 備考:2b型式	口縁部 小破片
50	陶器	渥美 片口碗?	-	-	現5.3	胎土:密 色調:暗灰色 備考:2a型式?	口縁部 小破片
51	陶器	常滑 甕	-	-	現8.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:3~4型式	口縁部 小破片
52	陶器	常滑 壺	-	-	現5.5	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:4型式	口縁部 小破片
53	陶器	常滑 甕	-	-	現5.0	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
54	陶器	常滑 甕	-	-	現7.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
55	陶器	常滑 甕	-	-	現6.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗黄褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
56	陶器	常滑 甕	-	-	現7.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
57	陶器	常滑 甕	-	-	現8.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
58	陶器	常滑 甕	-	-	現8.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
59	陶器	常滑 甕	-	-	現8.5	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
60	陶器	常滑 甕	-	-	現8.0	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
61	陶器	常滑 甕	-	-	現7.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗灰褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
62	陶器	常滑 甕	-	-	現9.8	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
63	陶器	常滑 甕	-	-	現10.3	胎土:粗 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
64	陶器	東濃型 山茶碗	-	-	現4.5	胎土:粗 色調:灰褐色	口縁部 小破片
65	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現3.9	内面摩耗 胎土:密 色調:灰褐色	口縁部 小破片
66	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現9.4	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	底部 小破片
67	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現9.8	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	口縁部 小破片

68	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 10.6	内面摩耗 胎土：粗 色調：灰褐色	1/6
69	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(11.6)	現 7.3	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗灰色	底部 小破片
70	土器	片口鉢	-	-	現 6.9	内面-タタキ痕 胎土：粗 色調：茶褐色 備考：産地不明	口縁部 小破片
71	土器	片口鉢	-	-	現 7.9	内面-指頭痕 胎土：粗 色調：赤茶色 備考：産地不明	口縁部 小破片
72	瓦	軒丸瓦	現長辺 9.5	現短辺 6.4	厚 1.8~2.6	瓦当-連珠5個遺存、巴文？ 胎土：密 色調：暗褐色~橙色	小破片
73	瓦	丸瓦	現長 10.5	現幅 10.5	厚 2.8	凸面-ヘラケズリ、ヘラナデ 凹面-布目、糸切り 胎土：粗 色調：灰褐色	小破片
74	瓦	平瓦	現長 8.0	現幅 7.0	厚 2.3	凹・凸面-縄目 胎土：粗 色調：明灰色	小破片
75	瓦	平瓦	現長 15.5	現幅 15.1	厚 2.2	凹面-布目、糸切り 凸面-櫛目、縄目敲き 胎土：粗 色調：暗灰褐色	1/6？
76	瓦	平瓦	現長 17.8	現幅 11.7	厚 2.7	凹面-布目、糸切り 凸面-縄目敲き 胎土：粗 色調：暗灰褐色	1/6？
77	石製品	砥石	現長 6.0	現幅 3.0	厚 0.9	2面に使用痕跡 石材-凝灰岩	
78	石製品	砥石	長 8.8	短 5.7	厚 0.8	1面に使用痕跡 石材-凝灰岩	
79	石製品	砥石	長 8.7	短 3.8	厚 3.6	3面に使用痕跡 石材-砂岩	略完形
80	金銅 製品	水滴	口径 0.8	最大/底 径3.3/2.5	2.3	部分的に鍍金残る	完形
81	漆製品	烏帽子	現長辺 19.5	現短辺 9.5	厚 0.5	部分的に遺存	1/4

表6 第5面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

板組遺構1出土遺物(図66)

1	木製品	曲物	直径 (10.1)	-	厚 0.5	底板 木釘痕	1/2
2	木製品	用途不明	現長 6.5	幅 11.8	厚 3.1	端材 一部焼痕	
3	木製品	用途不明	現長 30.0	幅 2.7	厚 1.3	端材	
4	木製品	箸状	現長 17.4	幅 0.5	厚 0.4		
5	木製品	箸状	現長 16.8	幅 0.6	厚 0.35		
6	木製品	箸状	現長 18.0	幅 0.5	厚 0.4		
7	木製品	箸状	現長 17.6	幅 0.7	厚 0.3		
8	木製品	箸状	長 18.3	幅 0.6	厚 0.5		略完形
9	木製品	箸状	長 19.0	幅 0.6	厚 0.4		略完形
10	木製品	箸状	長 19.3	幅 0.5	厚 0.4		略完形
11	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.6	厚 0.4		略完形
12	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.7	厚 0.4		略完形
13	木製品	箸状	長 20.3	幅 0.6	厚 0.3		略完形
14	木製品	箸状	長 20.0	幅 0.7	厚 0.4		略完形
15	木製品	箸状	長 20.0	幅 0.6	厚 0.4		略完形
16	木製品	箸状	長 20.3	幅 0.6	厚 0.3		略完形
17	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.6	厚 0.4		略完形
18	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.6	厚 0.4		略完形
19	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.6	厚 0.5		略完形
20	木製品	箸状	長 19.6	幅 0.6	厚 0.4		略完形
21	木製品	箸状	長 19.6	幅 0.5	厚 0.3		略完形
22	木製品	箸状	長 19.4	幅 0.7	厚 0.4		略完形
23	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.5	厚 0.5		略完形

土坑28出土遺物(図69)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.0)	1.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.2	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	2.0	口唇部~体部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	1/4
5	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.6	胎土:粗 色調:灰褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
6	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.0	胎土:密 色調:灰褐色	口縁部 小破片

第5面 遺構外出土遺物(図70)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.0)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	4.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕、内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/6
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.2)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/6
6	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	5.8	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.6)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 内面-墨書 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.5	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
9	土器	手づくね かわらけ・小	(7.6)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/4
10	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	-	2.3	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	完形
11	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色・褐色 焼成:良好	1/3
12	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.1	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/3
13	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	2.9	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:褐色 焼成:良好	1/4
14	土器	手づくね かわらけ・大	13.2	-	3.3	内外面1/3に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
15	磁器	青磁 碗	-	-	現 6.4	内面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗I類	1/6
16	磁器	青磁 皿	-	-	現 2.7	内面-劃花文 底面-釉掻き取り 色調:胎土-灰色、釉-淡青緑色 備考:同安窯系青磁皿I類	1/6
17	陶器	渥美 壺	-	-	現 5.5	胎土:密 色調:暗灰色 備考:2b型式?	口縁部 小破片
18	陶器	渥美 鉢?	-	-	現 10.5	胎土:密 色調:暗灰色 備考:3a型式?	口縁~ 底部破片
19	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.8	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
20	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
21	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	肩部 小破片
22	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
24	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.6	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:灰褐色	口縁部 小破片
25	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 7.1	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:灰褐色	底部 小破片
26	陶器	山茶碗	-	6.4	現 2.4	胎土:黒色微粒 色調:灰褐色	底部 小破片
27	丸瓦	丸瓦	現長 11.3	現幅 7.6	厚 2.2	凸面-縄目敲き 凹面-布目、糸切り 胎土:粗 色調:灰褐色	小破片
28	鉄製品	釘	現長 6.9	幅 0.3~0.4	厚 0.4	鍛造	略完形
29	鉄製品	用途不明	現長 12.1	幅 1.2	刃部厚 0.4	鍛造	3/4
30	鉄製品	刀子	現長 19.8	幅 2.1	刃部厚 0.2~0.4	鍛造 目孔(径0.4cm)	5/6
31	木製品	素地 椀	-	7.6	現 3.2	内面炭化	底部破片

表7 第6面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構4出土遺物(図72)							
1	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	-	2.2	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明灰褐色 焼成:良好	2/3
2	木製品	下駄	現長 22.8	幅/孔径 11.7/1.1	厚 0.6~1.6	連歯下駄 孔3カ所遺存	3/4
土坑31出土遺物(図75)							
1	木製品	杭	現長 30.4	幅 3.2	厚 1.2		
2	木製品	杭	長 45.3	幅 2.7	厚 1.4	粗く端部削り出し	略完形
3	木製品	用途不明	長 30.5	幅 5.2	厚 3.2	杭として使用?	
土坑32出土遺物(図76)							
1	土器	手づくね かわらけ・大	14.6	-	厚 4.1	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:黄褐色 焼 成:良好	1/2
2	木製品	串状	現長 13.6	幅 1.1	厚 0.7	端部焼痕	
3	木製品	串状	現長 16.3	幅 1.2	厚 0.8		
4	木製品	草履芯	現長 8.5	現幅 3.1	厚 0.3		
土坑37出土遺物(図77)							
1	木製品	形代	現長 12.4	幅 1.6	厚 1.9	目・鼻・口は線刻 烏帽子部分が黒色に変色、墨で彩色?	完形
2	木製品	用途不明	現長 3.6	現幅 9.6	厚 3.4	端材	
3	木製品	用途不明	長 8.5	幅 3.0	厚 1.4	楔? 焼痕	完形
4	木製品	用途不明	現長 21.5	幅 2.6	厚 0.6	端材 焼痕	
5	木製品	棒状	長 16.2	幅 0.6	厚 0.35	端部焼痕	略完形
6	木製品	棒状	長 29.8	幅 0.6	厚 0.6	端部焼痕	略完形
7	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.5	厚 0.5		
8	木製品	箸状	現長 21.2	幅 0.5	厚 0.3		
土坑43出土遺物(図79)							
1	青銅製品	鏡	現長 5.2	現幅 2.0	厚 0.2	青銅鏡 裏面-草花文	小破片
2	骨製品	筭	長 15.8	幅 0.9	厚 0.4	穿孔(径0.3cm) シカ中足骨製	略完形
土坑46出土遺物(図80)							
1	木製品	草履芯	長 24.0	現幅 9.6	0.2	側縁部曲線的 薬痕	略完形
2	木製品	草履芯	現長 15.0	現幅 4.5	0.3	側縁部曲線的	1/6
3	木製品	火鑽棒	長 20.5	幅 1.0	0.5	両端に焼痕	完形
4	木皮製品	曲物部品?	現長 17.1	現幅 3.6	0.2	桜皮 曲物製作時に使用?	
5	木製品	用途不明	長 23.5	1.9	1.0	端材	
6	木製品	用途不明	現長 14.9	幅 1.5	0.3		
7	木製品	用途不明	現長 21.9	幅 2.2	厚 1.1	端材	
8	木製品	箸状	現長 18.8	幅 0.7	厚 0.5		
9	木製品	箸状	現長 20.9	幅 0.8	厚 0.5		略完形
10	木製品	箸状	現長 21.2	幅 0.6	厚 0.6		略完形
11	木製品	箸状	長 21.3	幅 0.5	厚 0.5		略完形
12	木製品	箸状	現長 23.7	幅 0.6	厚 0.6		略完形
13	木製品	箸状	長 25.3	幅 0.7	厚 0.7	焼痕	略完形
ピット出土遺物(図82・83)							
1	土器	手づくね かわらけ・中	-	-	現 3.4	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:暗褐色 焼 成:良好 出土遺構:ピット10	小破片
2	瓦	丸瓦	現長 14.5	現幅 12.0	厚 2.9	凸面-ヘラナデ 凹面-布目 胎土:粗 色調:灰褐色 出土遺構:ピット14・16	小破片

3	瓦	丸瓦	現長 24.7	現幅 13.3	厚 3.1	凸面-ヘラナデ 凹面-ヘラナデ 胎土:粗 色調:灰褐色 出土遺構:ピット14・16	1/3
4	木製品	草履芯	現長 14.7	現幅 3.8	厚 0.3	わずかに薬痕を認める 出土遺構:ピット14・16	1/3
5	木製品	草履芯	長 23.1	現幅 4.9	厚 0.3	切込み部台形 出土遺構:ピット14・16	1/2
6	木製品	漆器 椀	-	8.9	現 2.4	総高台 横木取り 遺存状態悪く内外面わずかに黒色漆髹漆を認める 出土遺構:ピット14・16	1/3
7	木製品	用途不明	長 26.6	幅 12.5	厚 2.5	片側縁を円形に削っている 片面不規則な線刻が残る 組板として使用? 出土遺構:ピット14・16	
8	漆製品	用途不明	現長 8.2	現幅 7.0	厚 2.5	端材 出土遺構:ピット14・16	
9	木製品	用途不明	現長 12.2	幅 3.6	厚 3.3	端材 端部焼痕 出土遺構:ピット14・16	
10	木製品	用途不明	現長 14.0	現幅 3.2	厚 0.5	草履芯製作途中? 出土遺構:ピット14・16	
11	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	-	2.0	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:暗茶褐色 焼成:良好 出土遺構:ピット27	2/3
12	木製品	用途不明	現長 29.0	幅 2.7	厚 1.8	雑な整形 出土遺構:ピット32	
13	土器	手づくね かわらけ・小	(7.8)	-	1.6	コースター形 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明褐色 焼成:良好 出土遺構:ピット36	1/4
14	瓦	平瓦	現長 5.9	現幅 10.3	厚 2.2	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:灰褐色 出土遺構:ピット39	小破片
15	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	2.3	口唇部~体部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:黄褐色 焼成:良好 出土遺構:ピット80	1/4
16	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:黄褐色 焼成:良好 出土遺構:ピット80	1/4
17	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.7	内面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類 出土遺構:ピット95	口縁部 小破片
18	磁器	青磁 碗	-	6.1	現 2.7	内面-劃花文 高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類 出土遺構:ピット95	1/8
19	木製品	漆器 椀	(15.6)	8.6	4.3	底部削り出しによる輪高台 高台底部-ロクロ目痕 内外面-黒色漆髹漆 見込・外面-赤色系漆による手描きの不鮮明な文様 出土遺構:ピット95	1/3
20	木製品	用途不明	現長 21.3	幅 7.3	厚 1.2	端材 出土遺構:ピット126	

第6面 遺構外出土遺物(図84~86)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:薄橙色 焼成:良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.4)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.4	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(9.4)	(2.7)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
8	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
9	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
10	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明褐色 焼成:良好	1/3
11	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:黄褐色 焼成:良好	5/6
12	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
13	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	-	2.7	口縁部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	略完形
14	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	-	2.5	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
15	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明黄褐色 焼成:良好	1/6
16	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	-	3.9	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:明褐色 焼成:良好	略完形
17	磁器	白磁 碗	-	-	現 5.0	色調:胎土-灰色、釉-淡黄白色	口縁部 小破片
18	磁器	青白磁 碗	-	-	現 2.5	外面-縦位の沈線文 内面-櫛描き文 高台内-無釉 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色	1/6
19	磁器	青白磁 合子蓋	(10.0)	-	1.7	上面-ヘラ彫りによる文様 口唇部-釉掻き取り 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色	1/6
20	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.5	内面-劃花文 高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ-6a類	口縁部 小破片
21	磁器	青磁 花瓶?	-	6.6	現 2.6	畳付-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-緑黄色 備考:龍泉窯系青磁	底部破片
22	磁器	青磁 皿	(10.6)	-	現 2.3	内面-ヘラによる文様と櫛点描文 底面-釉掻き取り 色調:胎土-灰色、釉-淡黄色 備考:同安窯系青磁Ⅲ類	1/6

23	陶器	渥美 甕	-	-	現 4.1	胎土：密 色調：灰色 備考：1 b 型式？	口縁部 小破片
24	陶器	渥美 甕	-	-	現 4.5	胎土：密 色調：灰色 備考：2 b 型式	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.4	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：3 型式	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.6	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：4 型式	口縁部 小破片
27	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.2	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5 型式	口縁部 小破片
28	陶器	常滑 広口壺小	-	-	現 6.7	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5～6 b 型式	肩部 小破片
29	陶器	北部系 山茶碗	-	-	現 5.3	胎土：黒色微粒 色調：灰褐色	口縁部 小破片
30	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.9	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	口縁部 小破片
31	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.9	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	口縁部 小破片
32	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.6	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	口縁部 小破片
33	瓦	丸瓦	現長 9.5	現幅 11.5	厚 2.8	凸面－ヘラケズリ、ヘラナデ 凹面－糸切り 胎土：粗 色調：灰褐色	小破片
34	瓦	丸瓦	現長 7.0	現幅 7.8	厚 2.1	凸面－縄目敲き 凹面－布目、糸切り 胎土：粗 色調：灰褐色	小破片
35	瓦	丸瓦	現長 20.7	現幅 12.9	厚 3.1	凸面－縄目敲き 凹面－布目、糸切り 胎土：粗 色調：灰褐色	1/6？
36	木製品	漆器 椀	-	-	3.4	内外面－黒色漆髹漆 内面－不鮮明な文様、手描き	1/4
37	木製品	曲物	現長 12.0	現幅 4.0	厚 0.4	底板	1/4
38	木製品	杓子	長 20.5	幅 4.0	厚 0.7	丁寧な成形	略完形
39	木製品	篋状	現長 17.7	幅 1.9	厚 0.7	端部丁寧な成形	
40	木製品	糸車	長 14.1	幅 2.9	厚 1.3	丁寧な成形	略完形
41	木製品	下駄	現長 18.7	幅 10.9	厚 2.6	連歯下駄 歯部分摩耗	3/4
42	木製品	草履芯	現長 10.7	現幅 3.2	厚 0.3		小破片
43	木製品	草履芯	現長 11.8	現幅 2.7	厚 0.4		小破片
44	木製品	草履芯	現長 13.7	現幅 2.8	厚 0.2		小破片
45	木製品	草履芯	現長 16.5	現幅 3.5	厚 0.3		小破片
46	木製品	草履芯	長 23.5	現幅 5.0	厚 0.3	薬痕	1/2
47	木製品	用途不明	現長 14.0	現幅 6.0	厚 3.1	端部に仕口 鉄釘痕 杭として使用？	
48	木製品	用途不明	現長 14.8	現幅 3.0	厚 0.6	端部焼痕	
49	木製品	用途不明	長 23.1	幅 2.5	厚 0.8		
50	木製品	用途不明	長 28.6	幅 4.4	厚 2.0	端部に仕口 杭として転用？	
51	木製品	用途不明	長 37.3	幅 3.4	厚 3.2	端部に細かく刃が入る 杭として使用？	

表8 遺構計測表

() = 推定値、〈 〉 = 現存値

遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構 1	第1面	407	77~101	50
土坑 1	第1面	〈152〉	〈54〉	21
土坑 2	第1面	〈77〉	〈23〉	23
地業 1	第2面	〈691〉	220	-
溝状遺構 2	第2面	〈692〉	87~130	70
土坑 3	第2面	〈156〉	〈48〉	35
土坑 4	第2面	〈367〉	75	(65)
土坑 5	第2面	146	100	24
土坑 6	第2面	150	37	14
土坑 7	第2面	149	135	33
土坑 8	第2面	100	〈55〉	8
土坑 9	第2面	93	〈66〉	14
礎石建物 1	第3面	〈410〉	〈400〉	9~27
地業 2	第3面	〈565〉	220	-
竪穴状遺構 1	第3面	〈281〉	〈125〉	9
土坑10	第3面	〈108〉	〈63〉	12
土坑11	第3面	85	61	8
土坑12	第3面	86	-	9
土坑13	第3面	120	63	11
土坑14	第3面	〈85〉	54	15
土坑15	第3面	〈136〉	77	13
ビット 1	第3面	48	35	9
ビット 2	第3面	43	〈27〉	22
ビット 3	第3面	54	41	9
ビット 4	第3面	56	45	19
溝状遺構 3	第4面	〈288〉	67~101	12
欄列 1	第4面	〈350〉	30~39	14
土坑16	第4面	109	-	14
土坑17	第4面	64	52	22
土坑18	第4面	72	〈55〉	14
土坑19	第4面	110	85	25
土坑20	第4面	〈213〉	〈93〉	17
土坑21	第4面	80	53	22
土坑22	第4面	160	145	55
土坑23	第4面	〈212〉	101	15
土坑24	第4面	103	〈86〉	12
土坑25	第4面	〈105〉	102	11
土坑26	第4面	68	〈56〉	12
ビット 5	第4面	22	19	11
ビット 6	第4面	35	27	11
ビット 7	第4面	31	29	18
板組遺構 1	第5面	〈350〉	20	-
杭列 1	第5面	〈278〉	33	-
土坑27	第5面	93	-	15
土坑28	第5面	〈82〉	79	10
土坑29	第5面	〈64〉	52	21
ビット 8	第5面	37	30	15
溝状遺構 4	第6面	〈623〉	92~100	37
土坑30	第6面	〈91〉	〈20〉	34
土坑31	第6面	〈96〉	89	22
土坑32	第6面	〈113〉	〈59〉	22
土坑33	第6面	112	-	42
土坑34	第6面	100	〈81〉	8
土坑35	第6面	70	56	16
土坑36	第6面	113	〈23〉	64
土坑37	第6面	〈156〉	〈55〉	102
土坑38	第6面	110	〈78〉	40
土坑39	第6面	〈103〉	〈41〉	14
土坑40	第6面	〈52〉	〈34〉	20
土坑41	第6面	88	-	19
土坑42	第6面	〈45〉	〈44〉	12
土坑43	第6面	78	-	119
土坑44	第6面	106	42	11
土坑45	第6面	108	〈105〉	8
土坑46	第6面	156	〈76〉	109
土坑47	第6面	〈65〉	〈32〉	20
ビット 9	第6面	46	36	27
ビット10	第6面	39	38	31
ビット11	第6面	39	32	14
ビット12	第6面	41	33	10
ビット13	第6面	36	35	11
ビット14	第6面	40	-	24
ビット15	第6面	40	〈16〉	22
ビット16	第6面	30	21	33
ビット17	第6面	(50)	〈18〉	14
ビット18	第6面	48	44	23
ビット19	第6面	31	28	25
ビット20	第6面	37	32	15
ビット21	第6面	48	44	29
ビット22	第6面	28	28	34
ビット23	第6面	19	17	22
ビット24	第6面	33	26	27
ビット25	第6面	26	24	21
ビット26	第6面	53	35	9
ビット27	第6面	37	32	38
ビット28	第6面	32	29	14
ビット29	第6面	34	-	10
ビット30	第6面	30	22	17
ビット31	第6面	40	39	47
ビット32	第6面	45	37	35
ビット33	第6面	26	-	6
ビット34	第6面	46	37	43
ビット35	第6面	35	-	32
ビット36	第6面	30	29	100
ビット37	第6面	28	24	24
ビット38	第6面	45	37	6
ビット39	第6面	33	28	13
ビット40	第6面	27	23	22
ビット41	第6面	41	33	12
ビット42	第6面	25	19	16
ビット43	第6面	32	28	17
ビット44	第6面	32	31	21
ビット45	第6面	27	〈17〉	22
ビット46	第6面	〈43〉	39	14
ビット47	第6面	44	41	15
ビット48	第6面	21	-	9
ビット49	第6面	30	25	10
ビット50	第6面	29	25	11
ビット51	第6面	43	34	45
ビット52	第6面	40	〈20〉	31
ビット53	第6面	〈39〉	38	42
ビット54	第6面	37	36	31
ビット55	第6面	30	27	33
ビット56	第6面	23	19	8
ビット57	第6面	43	-	33
ビット58	第6面	22	17	13
ビット59	第6面	32	24	18
ビット60	第6面	〈27〉	27	30
ビット61	第6面	19	17	35
ビット62	第6面	29	〈26〉	19
ビット63	第6面	43	33	20
ビット64	第6面	30	〈21〉	22
ビット65	第6面	〈37〉	27	16
ビット66	第6面	21	11	12
ビット67	第6面	39	29	57
ビット68	第6面	26	25	15
ビット69	第6面	34	32	8
ビット70	第6面	35	30	31
ビット71	第6面	34	23	24
ビット72	第6面	26	25	22
ビット73	第6面	24	19	27
ビット74	第6面	29	26	15
ビット75	第6面	23	19	5
ビット76	第6面	35	28	18
ビット77	第6面	30	28	4
ビット78	第6面	39	33	25
ビット79	第6面	29	22	20
ビット80	第6面	33	30	33
ビット81	第6面	35	30	16
ビット82	第6面	〈49〉	35	7
ビット83	第6面	35	30	34
ビット84	第6面	27	27	30
ビット85	第6面	41	30	21
ビット86	第6面	44	〈35〉	19
ビット87	第6面	29	28	14
ビット88	第6面	28	-	32
ビット89	第6面	35	34	24
ビット90	第6面	44	34	19
ビット91	第6面	36	21	18
ビット92	第6面	43	35	15
ビット93	第6面	25	22	25
ビット94	第6面	33	30	37
ビット95	第6面	33	33	19
ビット96	第6面	35	〈30〉	16
ビット97	第6面	56	〈50〉	13
ビット98	第6面	25	21	9
ビット99	第6面	30	23	34
ビット100	第6面	33	29	14
ビット101	第6面	37	36	21
ビット102	第6面	39	34	46
ビット103	第6面	33	27	16
ビット104	第6面	29	26	46
ビット105	第6面	35	34	32
ビット106	第6面	39	29	31
ビット107	第6面	41	〈26〉	11
ビット108	第6面	37	31	37
ビット109	第6面	27	19	15
ビット110	第6面	16	14	20
ビット111	第6面	25	22	22
ビット112	第6面	〈33〉	29	7
ビット113	第6面	37	26	20
ビット114	第6面	31	30	44
ビット115	第6面	33	27	19
ビット116	第6面	41	39	11
ビット117	第6面	13	〈12〉	11
ビット118	第6面	36	33	39
ビット119	第6面	〈38〉	36	11
ビット120	第6面	40	30	38
ビット121	第6面	34	〈29〉	16
ビット122	第6面	37	34	29
ビット123	第6面	54	50	11
ビット124	第6面	22	20	19
ビット125	第6面	49	39	16
ビット126	第6面	31	-	19
ビット127	第6面	33	〈20〉	30
ビット128	第6面	33	32	37
ビット129	第6面	36	29	36
ビット130	第6面	30	26	51
ビット131	第6面	23	〈22〉	14
ビット132	第6面	26	22	28
ビット133	第6面	8	8	4
ビット134	第6面	8	7	4
ビット135	第6面	36	31	26
ビット136	第6面	10	8	5
ビット137	第6面	42	38	47
ビット138	第6面	41	30	15
ビット139	第6面	18	17	33
ビット140	第6面	8	8	5
ビット141	第6面	9	9	12
ビット142	第6面	57	46	20

※礎石建物の長軸・短軸は心々の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表9 出土遺物一覧表

第1面

溝状遺構1			【青磁】			【瓦質土器】			
産地	器種	破片数							
【かわらけ】			龍泉窯系	椀Ⅰ類	1	火鉢			2
かわらけ ロク口成形				椀Ⅱ類	24	【瓦】			
【陶器】				小椀Ⅱ類	2	丸瓦			1
瀬戸	瓶類	1		皿	2	平瓦			6
常滑	甕	17		折縁皿	3	【石製品】			
【土器】				鉢	1	基石			1
鍋			瓶類	1	赤間石			1	
【金属製品】			【青白磁】			【骨製品】			
釘			梅瓶	9	鞘			1	
合計			合子蓋	3	【金属製品】				
			香炉	1	刀子			1	
			【陶器】			釘			1
						合計			243
土坑2			瀬戸	瓶類	5	攪乱2			
【かわらけ】				鉢	3	産地 器種 破片数			
かわらけ ロク口成形				深鉢	1	【かわらけ】			
【陶器】				洗	1	かわらけ ロク口成形			23
常滑	甕	1		花瓶	1	【陶器】			
【石製品】				入子	1	瀬戸 直縁大皿			1
砥石				片口鉢	2	常滑 甕			2
合計				鉢?	1	片口鉢Ⅰ類			1
				平碗	1	【土器】			
				卸皿	4	火鉢			1
			灰釉皿	2	【金属製品】				
表土			常滑			釘			1
産地 器種 破片数			甕	271	合計			29	
【かわらけ】			壺	1	攪乱3				
かわらけ ロク口成形			片口鉢Ⅰ類	9	産地 器種 破片数				
【白磁】			片口鉢Ⅱ類	3	【かわらけ】				
口元皿			山茶碗窯 片口鉢	22	かわらけ ロク口成形			36	
【青磁】			山茶碗(南部) 搦鉢	1	【青磁】				
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1	東濃 片口鉢	1	同安窯系 皿			1	
【青白磁】			【土器】			龍泉窯系 小椀Ⅱ類			1
梅瓶			火鉢	7	【陶器】				
小皿			鍋	1	瀬戸 洗			1	
合子			輪	1	常滑 甕			5	
【陶器】			【瓦質土器】			山茶碗窯 片口鉢			1
中国	天目茶碗	1	手埴り	3	【土器】				
瀬戸			火鉢	9	植木鉢			7	
洗			【瓦】			【瓦】			
片口鉢			平瓦	1	平瓦			1	
盤			【石製品】			合計			53
入子			砥石	4					
山茶碗			滑石	2					
灰釉皿			【金属製品】						
渥美	甕	1	銭貨	1					
常滑			刀子	1					
甕			火箸	1					
片口鉢Ⅰ類			釘	16					
山茶碗窯	片口鉢	2	鉄滓	1					
【土器】			合計			1,679			
火鉢			攪乱1			攪乱4			
【瓦質土器】			産地 器種 破片数		産地 器種 破片数				
火鉢			【かわらけ】			産地 器種 破片数			
【瓦】			かわらけロク口成形			【かわらけ】			
平瓦			【白磁】			かわらけ ロク口成形			6
【石製品】			瓶類	1	合計			6	
硯			口元皿	8					
【金属製品】			【青磁】			攪乱7			
釘			龍泉窯系 椀Ⅱ類	2	産地 器種 破片数				
合計			折縁皿	1	【かわらけ】				
373			大皿	2	かわらけ ロク口成形			5	
			【青白磁】			【陶器】			
			合子蓋	2	常滑 甕			1	
			【陶器】			合計			6
第1面 遺構外			瀬戸			攪乱8			
産地 器種 破片数			片口鉢	3	産地 器種 破片数				
【かわらけ】			卸皿	1	【かわらけ】				
白かわらけ			常滑			産地 器種 破片数			
かわらけ ロク口成形			甕	79	【かわらけ】				
【白磁】			片口鉢Ⅰ類	3	かわらけ ロク口成形			39	
瓶類			山茶碗窯 片口鉢	1	【青磁】				
皿			【土器】			龍泉窯系 小椀Ⅱ類			1
合子身			火鉢	3	【陶器】				
口元皿			古代以前高坏	1					

瀬戸	洗	1
常滑	甕	2
	玉縁壺	1
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	4
【土器】		
火鉢	1	
【石製品】		
碁石	1	
【骨角製品】		
装飾具	2	
用途不明	1	
【金属製品】		
釘	2	
合計		58

攪乱 9		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	19
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	1
常滑	甕	12
【土器】		
火鉢		1
合計		33

第2面

地業 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	96
【白磁】		
口元皿		2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	4
	大皿	1
	折縁菊花鉢	1
【陶器】		
瀬戸	袴香炉	1
	卸目皿	1
龜山	甕	1
常滑	甕	12
山茶碗(北部)	片口鉢	4
東濃	山茶碗	1
【瓦質土器】		
火鉢		2
【石製品】		
滑石製石鍋		1
砥石		1
【金属製品】		
用途不明		1
合計		129

溝状遺構 2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		7
かわらけ	ロクロ成形	151
かわらけ	手づくね成形	1
【白磁】		
瓶類		1
皿		1
口元皿		2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	4
	皿Ⅱ類	1
	小椀Ⅱ類	1
【青白磁】		
梅瓶		1
合子蓋		1
合子身		1
【陶器】		

瀬戸	瓶子	1
	盤	1
	片口鉢	1
	鉢	1
	入子	1
折縁深皿	1	
魚住	片口鉢	1
常滑	甕	98
	壺	5
	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	1
山茶碗窯	片口鉢	9
【土器】		
火鉢	3	
鍋	1	
釜型土製品	1	
碗?	1	
【瓦質土器】		
手焙り	3	
【石製品】		
滑石製石鍋	1	
砥石	2	
用途不明	1	
【金属製品】		
銭貨	1	
釘	7	
合計		318

土坑 3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	169
【青磁】		
龍泉窯系	瓶類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
山茶碗窯	片口鉢	1
【瓦】		
平瓦		1
【石製品】		
赤間石		1
合計		175

土坑 4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	416
かわらけ	手づくね成形	2
【白磁】		
口元皿		3
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	10
【青白磁】		
梅瓶		1
【陶器】		
瀬戸	褐釉壺	1
	洗	1
	片口鉢	1
	山茶碗	1
常滑	甕	11
	壺	1
山茶碗窯	片口鉢	2
【石製品】		
硯		1
【金属製品】		
釘		6
合計		457

土坑 5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	24
【陶器】		
常滑	甕	2
【金属製品】		

釘	1
合計	27

土坑 6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
【金属製品】		
釘		1
合計		10

土坑 7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		1
かわらけ	ロクロ成形	1,211
【白磁】		
瓶類		1
合子蓋		2
口元皿		3
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	5
	折縁皿	1
【青白磁】		
梅瓶		4
合子蓋		1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	褐釉壺	1
	入子	3
	山茶碗	1
渥美	甕	1
常滑	甕	51
	片口鉢Ⅰ類	1
	山茶碗	1
山茶碗窯	片口鉢	5
東遠	山茶碗	2
【土器】		
火鉢		1
【瓦】		
平瓦		1
【石製品】		
滑石		1
温石		1
砥石		2
【金属製品】		
銭貨		1
刀子		1
火打ち金		1
釘		9
鉄滓		4
合計		1,319

土坑 8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	28
【白磁】		
口元皿		1
【陶器】		
常滑	甕	1
	壺	1
山茶碗窯	片口鉢	1
合計		32

土坑 9		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	51
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2

【陶器】		
常滑	甕	3
合計		56

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ ロクロ成形	421
	かわらけ 手づくね成形	1
【白磁】		
	瓶類	1
	小皿	2
	合子蓋	1
	口元皿	7

【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	11
	袋物	1
	合子蓋	1
【青白磁】		
	梅瓶	5
	梅瓶蓋	1
	合子身	1
	香炉	2

【陶器】			
瀬戸	片口鉢	2	
	花瓶	2	
	大鉢	1	
	小壺	1	
	入子	1	
	平碗	1	
	山茶碗	1	
	卸皿	1	
	瀬戸	皿	1
	常滑	甕	2
合計		27	

【土器】		
常滑	甕	98
	三筋壺	3
	広口壺小	2
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	2
山茶碗窯	片口鉢	11
山茶碗(北部)	山茶碗	3
東濃	片口鉢	1
合計		619

【土器】		
	火鉢	3
【瓦質土器】		
	手焙り	2
	火鉢	1
【瓦】		
	軒平瓦	2
	平瓦	2

【石製品】		
	滑石製石鍋	3
	砥石	3
	硯	1
	五輪塔(空風輪)	1
	用途不明	1

【金属製品】		
	銭貨	3
	刀子	2
	釘	2
合計		619

第3面		
地業2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		8

堅穴状遺構1		
産地	器種	破片数
	碗	1

【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	135
	かわらけ 手づくね成形	57

【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【青白磁】		
	合子蓋	1
	小壺	1
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	3
	卸皿	1
尾張型・常滑	甕	10
	片口鉢Ⅰ類	1
山茶碗窯	片口鉢	1

【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	2
合計		215

土坑10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計		1

土坑11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	23
【白磁】		
	口元皿	1
【陶器】		
瀬戸	皿	1
常滑	甕	2
合計		27

土坑12		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	23
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【青白磁】		
	水注	1
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		28

土坑15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
【青白磁】		
	小壺	1
【陶器】		
瀬戸	山茶碗	1
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		14

ピット1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計		1
ピット3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	9
【白磁】		
	碗	1

【陶器】		
常滑	甕	4
【石製品】		
	砥石	1
合計		16

ピット4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【白磁】		
	口元皿	1
合計		3

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	7
	かわらけ ロクロ成形	1,222
	かわらけ 手づくね成形	12
【白磁】		
	椀Ⅰ類	1
	皿	7
	口元皿	14
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	7
	椀Ⅱ類	64
	椀Ⅲ類	2
	折縁皿	1
	折縁鉢	2
	香炉	2
	合子蓋	1
【青白磁】		
	梅瓶	19
	水注	3
	小皿	2
	合子蓋	1
	合子身	1
	香炉	2

【陶器】		
緑釉陶器	碗	1
瀬戸	仏花瓶	1
	入子	5
	片口鉢	20
	卸皿	1
	山茶碗	10
	瀬戸	甕
瀬戸	壺	2
	魚住	片口鉢
常滑	甕	376
	三筋壺	1
	壺	3
	とび口壺	1
	無頸壺	1
	広口壺小	1
	片口鉢Ⅰ類	8
	片口鉢Ⅱ類	2
	播鉢	1
	山茶碗	2
	山茶碗窯	片口鉢
東濃	山茶碗	1

【土器】		
	火鉢	7
	小壺	1
【瓦質土器】		
	罌釜	1
	碗	2
	火鉢	8
	燭台	1
【瓦】		
	平瓦	3

【石製品】		
滑石製石鍋		9
温石		2
砥石		5
赤間石		1
硯		1
碁石		2
用途不明		1

【骨製品】		
筭?		1

【金属製品】		
銭貨		2
鉄鍋		1
刀子		4
釘		34
鉄滓		1
合計		1,917

第4面		
溝状遺構 3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	10
【木製品】		
用途不明		3
合計		16

柵列 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		8
かわらけ	ロクロ成形	63
かわらけ	手づくね成形	10
【白磁】		
合子身		1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【青白磁】		
梅瓶		1
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	2
	山茶碗	2
常滑	甕	26
	広口壺	1
山茶碗窯	片口鉢	1
東濃	山茶碗	1
【石製品】		
砥石		2
【金属製品】		
釘		1
合計		120

土坑16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		2
かわらけ	ロクロ成形	151
【陶器】		
常滑	壺	3
【金属製品】		
釘		1
合計		157

土坑17		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
【青白磁】		
梅瓶蓋		1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		6

土坑18		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	52
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		53

土坑19		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		1
かわらけ	ロクロ成形	31
かわらけ	手づくね成形	46
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2

土坑20		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	87
かわらけ	手づくね成形	10
【陶器】		
瀬戸	山茶碗	1
常滑	甕	28
山茶碗窯	片口鉢	1
合計		93

土坑21		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		1
かわらけ	ロクロ成形	20
かわらけ	手づくね成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	10
【金属製品】		
釘		1
合計		128

土坑22		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		2
かわらけ	ロクロ成形	326
かわらけ	手づくね成形	5
【白磁】		
皿		1
	口兀皿	3
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	2
	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	3
	入子	1
	山茶碗	1
常滑	甕	11
合計		357

土坑23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	151
かわらけ	手づくね成形	3

【陶器】		
常滑	甕	2
山茶碗窯	片口鉢	2
【瓦質土器】		
	香炉	1
【金属製品】		
	馬具?	1
	釘	1
合計		161

土坑24		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	19
かわらけ	手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	4
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
合計		25

土坑25		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	58
かわらけ	手づくね成形	5
【青白磁】		
	水注	1
【陶器】		
常滑	甕	5
合計		69

土坑26		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	18
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【陶器】		
瀬戸	山茶碗	1
渥美	甕	1
常滑	甕	5
【金属製品】		
	釘	1
合計		27

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		9
かわらけ	ロクロ成形	772
かわらけ	手づくね成形	57
【白磁】		
	壺	2
	合子身	1
	口兀皿	6
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	5
	椀Ⅱ類	17
	皿Ⅱ類	1
	折縁鉢	2
	合子蓋	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	梅瓶蓋	1
	水注	3
	香炉	2

【陶器】		
中国	緑釉盤	1
瀬戸	入子	4
	片口鉢	14
	折縁小皿	1
	山茶碗	4
渥美	広口壺	2
	片口碗	1

常滑	堯壺	225
	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	3
山茶碗窯	片口鉢	9
東濃	山茶碗	1
【土器】		
	火鉢	3
	片口鉢	2
【瓦質土器】		
	碗	1
【瓦】		
	軒丸瓦	1
	丸瓦	1
	平瓦	4
【石製品】		
	磨石	1
	砥石	4
	硯	2
【木製品】		
	烏帽子(漆)	1
【金属製品】		
	水滴	1
	刀子	3
	釘	15
合計		1,188

第5面		
板組遺構1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	かわらけ 手づくね成形	34
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【陶器】		
瀬戸	山茶碗	1
常滑	堯	25
【土器】		
	火鉢	1
【木製品】		
	曲物	1
	箸状	29
	用途不明	2
【金属製品】		
	釘	1
合計		96

土坑28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	堯	2
山茶碗窯	片口鉢	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		25

土坑29		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	17
合計		17

第5面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	9
	かわらけ ロクロ成形	977
	かわらけ 手づくね成形	8
【白磁】		
	瓶類	2
	蓋	1
	合子蓋	1
	皿	1
	口元皿	5

【青磁】		
同安窯系	皿Ⅰ類	4
龍泉窯系	椀Ⅰ類	16
	椀Ⅱ類	15
	小椀Ⅱ類	1
	折縁鉢	1
	合子蓋	1
	合子身	1
	瓶類	3
【青白磁】		
瀬戸	梅瓶	2
	水注	1
	香炉	1
	袋物	1
	碗	2
	皿	3
【陶器】		
瀬戸	壺	2
	花瓶	2
	盤	2
	片口鉢	23
	山茶碗	5
	入子	1
	山皿	1
魚住	片口鉢	1
渥美	堯	11
	壺	1
	鉢?	1
龜山	堯	3
常滑	堯	471
	壺	3
	片口鉢Ⅰ類	6
山茶碗		2
山茶碗窯	片口鉢	8
【土器】		
	火鉢	2
【瓦質土器】		
	手焙り	3
【土師器・須恵器】		
	須恵器坏蓋	1
	須恵器広口壺	1
	須恵器堯	1
【瓦】		
	軒丸瓦	2
	丸瓦	4
	平瓦	4
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
	砥石	7
【骨製品】		
	筭	1
【木製品】		
	素地椀	1
【金属製品】		
	刀子	2
	釘	10
	用途不明	1
合計		1,641

第6面		
溝状遺構4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	3
【陶器】		
常滑	堯	10
【木製品】		
	下駄	1
	用途不明	2
合計		16

土坑31		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	2
【青磁】		

龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【木製品】		
	杭	2
	用途不明	3
合計		8

土坑32		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	5
【木製品】		
	串状	2
	草履芯	1
合計		8

土坑33		
産地	器種	破片数
【青磁】		
同安窯系	皿Ⅰ類	1
【陶器】		
東濃	山茶碗	1
合計		2

土坑37		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	堯	5
【木製品】		
	形代	1
	棒状	4
	箸状	4
	用途不明	3
合計		18

土坑38		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	堯	4
合計		4

土坑40		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
合計		10

土坑43		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	堯	5
【骨製品】		
	筭	1
【木製品】		
	用途不明	16
【金属製品】		
	鏡	1
	釘	1
合計		29

土坑45		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

土坑46		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	4

【青磁】		
龍泉窯系	椀I類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	草履芯	2
	火鑽棒	1
	曲物部品	1
	箸	8
	用途不明	3
合計		21

ピット9		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	2
合計		2

ピット10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		2

ピット11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット14・16		
産地	器種	破片数
【瓦】		
	丸瓦	2
【木製品】		
	草履芯	2
	椀	1
	漆製品	1
	用途不明	4
合計		10

ピット17		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット18		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット21		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット24		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット25		
産地	器種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット26		
産地	器種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1

ピット27		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		2

ピット28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット29		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット31		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット32		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	2
【木製品】		
	形代	2
合計		4

ピット36		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット38		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット39		
産地	器種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1

ピット40		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット42		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット46		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
山茶碗窯	片口鉢	1
合計		2

ピット53		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット58		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット62		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット68		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット70		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
【金属製品】		
	釘	1
合計		2

ピット74		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット76		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		2

ピット80		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		2

ピット82		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1

ピット86		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		3

ピット92		
産地	器種	破片数

【白磁】			【かわらけ】			【青磁】		
	口元皿	1		かわらけ 手づくね成形	1	同安窯系	碗 皿Ⅰ類	4 3
【陶器】			合計 1					
常滑	甕	1	ピット116			龍泉窯系	碗Ⅰ類 皿 折縁皿 鉢 花瓶	27 2 1 1 1
合計 2			産地	器種	破片数	【青白磁】		
ピット95			【かわらけ】					
	器種	破片数		かわらけ 手づくね成形	1	【陶器】		
【青磁】			【白磁】					
龍泉窯系	碗Ⅰ類	2		口元皿	1		碗 合子蓋	3 1
【木製品】			合計 2			【陶器】		
	漆器碗	1	ピット119					
合計 3			産地	器種	破片数	瀬戸	瓶類 鉢 片口鉢 天目茶碗 山茶碗	4 1 2 1 2
ピット98			【かわらけ】			魚住	片口鉢	2
産地	器種	破片数		かわらけ 手づくね成形	1	渥美	甕 壺	9 5
【かわらけ】			合計 1			常滑	甕 壺 広口壺小 片口鉢Ⅰ類	212 4 2 2
	かわらけ ロクロ成形	1	ピット122			山茶碗窯	片口鉢	8
	かわらけ 手づくね成形	1	産地	器種	破片数	山茶碗(北部)	山茶碗	1
合計 2			【かわらけ】			【土器】		
ピット100				かわらけ 手づくね成形	1		火鉢 円盤状土製品	3 1
産地	器種	破片数	合計 1			【瓦質土器】		
【かわらけ】			ピット126					
	かわらけ 手づくね成形	1	産地	器種	破片数		壺 香炉 火鉢	1 1 4
合計 1			【木製品】			【瓦】		
ピット101				用途不明	1		軒丸瓦 丸瓦 平瓦	2 5 10
産地	器種	破片数	合計 1			【石製品】		
【青磁】			ピット127				砥石	1
同安窯系	皿Ⅰ類	1	産地	器種	破片数	【木製品】		
【陶器】			【かわらけ】					
常滑	甕	1		かわらけ 手づくね成形	1		漆器碗 漆器皿 曲物 杓子 籠状 糸車 下駄 草履芯 用途不明	1 1 1 1 1 1 5 5
合計 2			【陶器】			【金属製品】		
ピット105			常滑	甕	1		銭貨 刀子 釘	2 1 7
産地	器種	破片数	合計 2			合計 784		
【かわらけ】			ピット137					
	かわらけ 手づくね成形	1	産地	器種	破片数			
合計 1			【かわらけ】					
ピット108				白かわらけ	6			
産地	器種	破片数		かわらけ ロクロ成形	72			
【かわらけ】				かわらけ 手づくね成形	347			
	かわらけ 手づくね成形	1	【白磁】					
合計 1				瓶類	1			
ピット113				碗	1			
産地	器種	破片数		皿	3			
【かわらけ】				口元皿	1			
	かわらけ 手づくね成形	1	合計 1					
合計 1			第6面 遺構外					
ピット114			産地	器種	破片数			
産地	器種	破片数						



1. 北区西壁土層断面(南東から)



2. 南区西壁土層断面(南東から)

図版 2



1. 北区第1面全景(北西から)



2. 南区第1面全景(北西から)



1. 北区第2面全景(北西から)



2. 南区第2面全景(北西から)

図版 4



1. 第1面 溝状遺構1、第2面 地業1 (南西から)



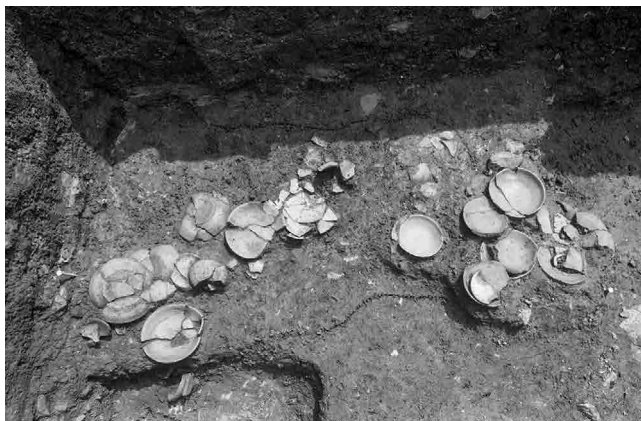
2. 第2面 溝状遺構2 (北東から)



3. 第2面 土坑3 (南西から)



4. 第2面 土坑4北側 (南東から)



5. 第2面 土坑4南側 (北西から)



6. 第2面 土坑7 (南西から)



7. 第2面 土坑7下層遺物出土状態 (北東から)



8. 第2面 土坑9 (南から)

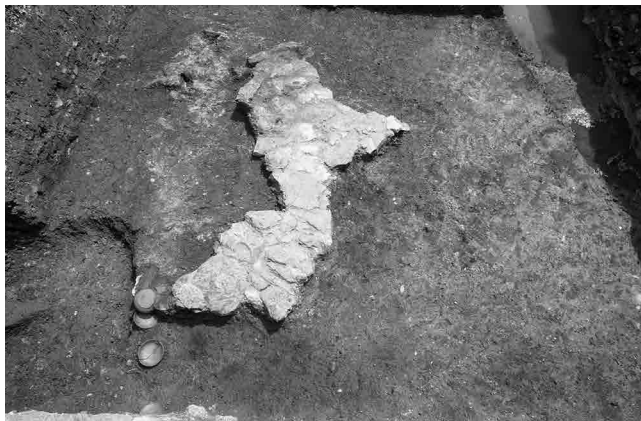


1. 北区第3面全景(北西から)



2. 南区第3面全景(北西から)

図版 6



1. 第3面 地業2西側(北西から)



2. 第3面 地業2ピット(北東から)



3. 第3面 土坑10(南東から)



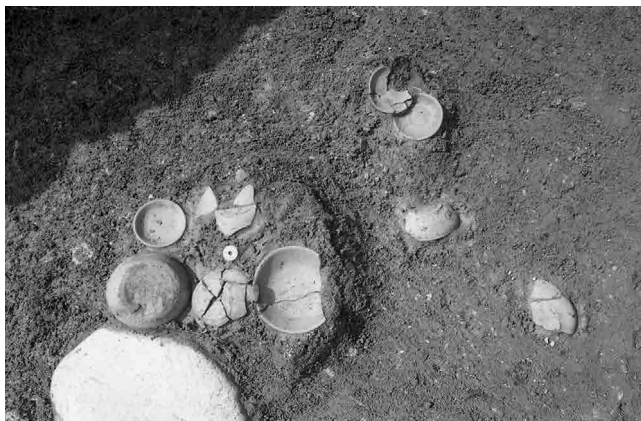
4. 第3面 土坑11(南西から)



5. 第3面 土坑13(北西から)



6. 第3面 土坑15(西から)



7. 第3面 北区南西部遺構外遺物出土状態(東から)



8. 第3面 北区南東部遺構外遺物出土状態(南西から)



1. 北区第4面全景(北西から)



2. 南区第4面全景(北西から)



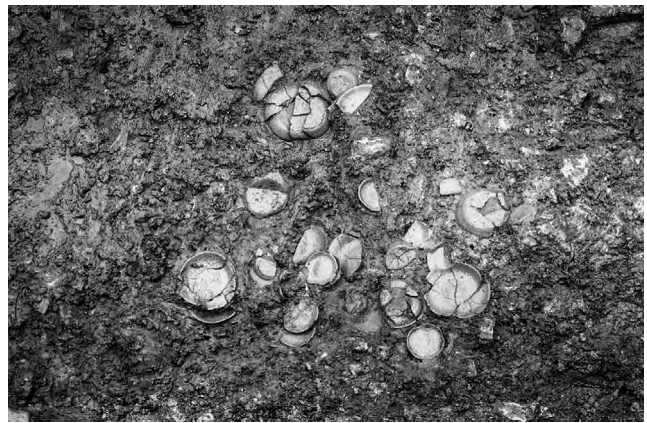
1. 第4面 溝状遺構3 (北東から)



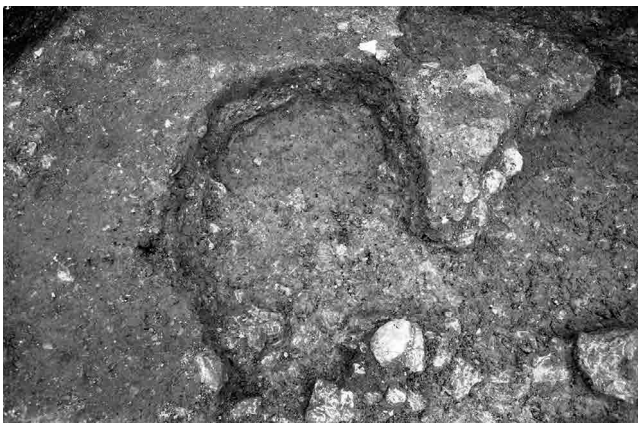
2. 第4面 柵列1 (南から)



3. 第4面 柵列1 杭出土状態 (南から)



4. 第4面 土坑16遺物出土状態 (北東から)



5. 第4面 土坑19 (北西から)



6. 第4面 土坑23 (北東から)



7. 第4面 土坑23・25上層遺物出土状態 (南から)



8. 第4面 土坑25下層遺物出土状態 (北西から)



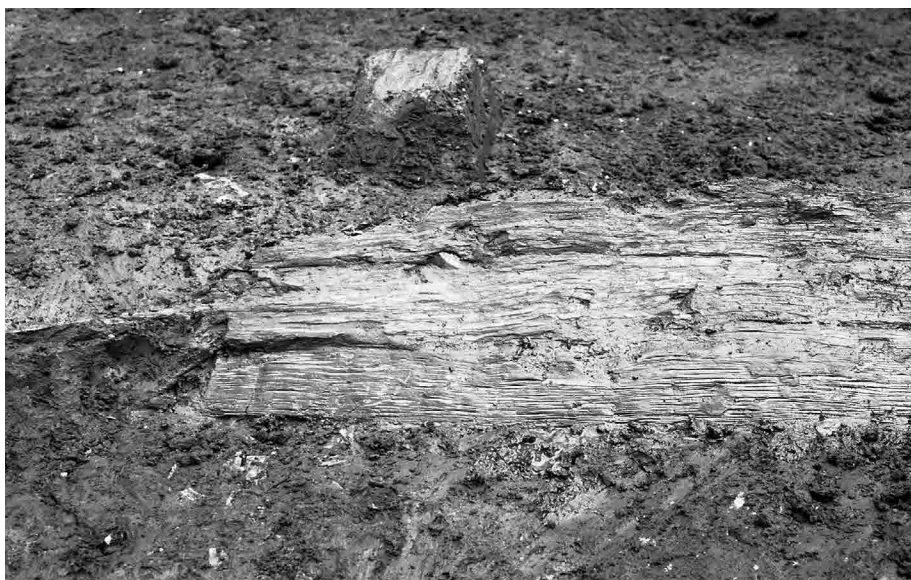
1. 北区第5面全景(北西から)



2. 南区第5面全景(北西から)



1. 第5面 板組遺構 1 (北東から)



2. 第5面 板組遺構 1 中央部 (北西から)



3. 第5面 杭列 1 (西から)



1. 北区第6面全景(北西から)



2. 南区第6面全景(北西から)

図版 12



1. 第6面 溝状遺構4北側(南から)



2. 第6面 土坑31(南西から)



3. 第6面 土坑33(北西から)



4. 第6面 土坑36~38(東から)



5. 第6面 土坑43(南西から)



6. 第6面 土坑46(北東から)



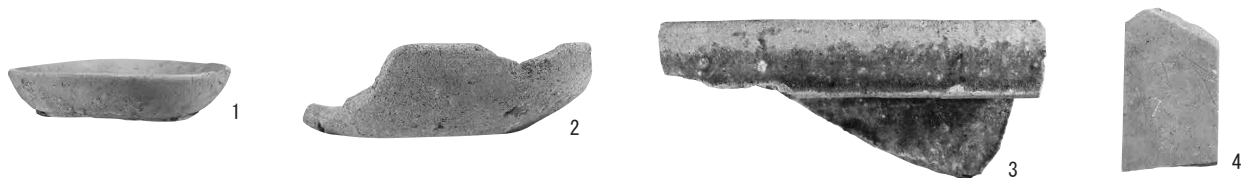
7. 第6面 ピット95漆器碗出土状態(北東から)



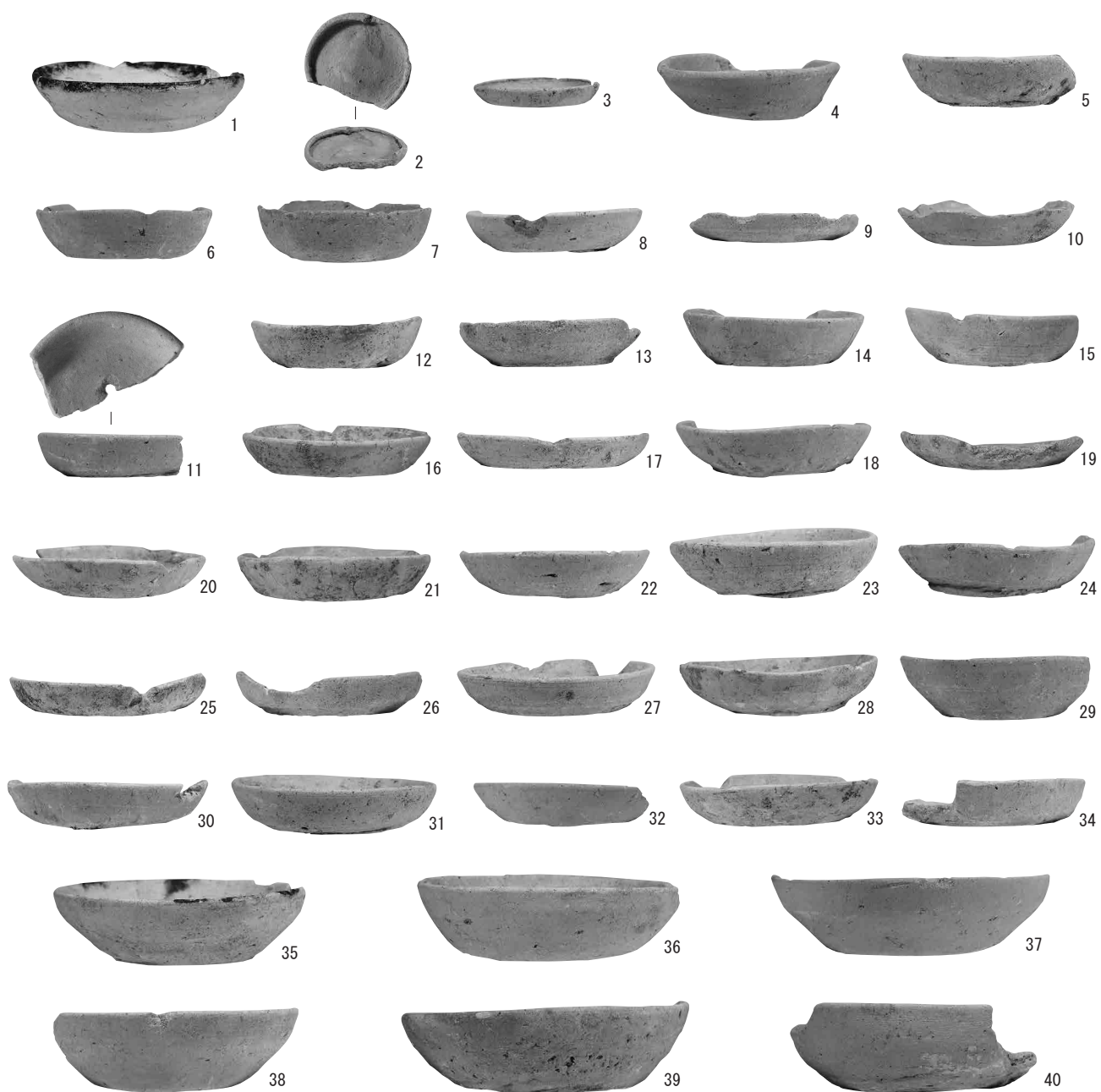
8. 第6面 遺構外下駄出土状態(北西から)



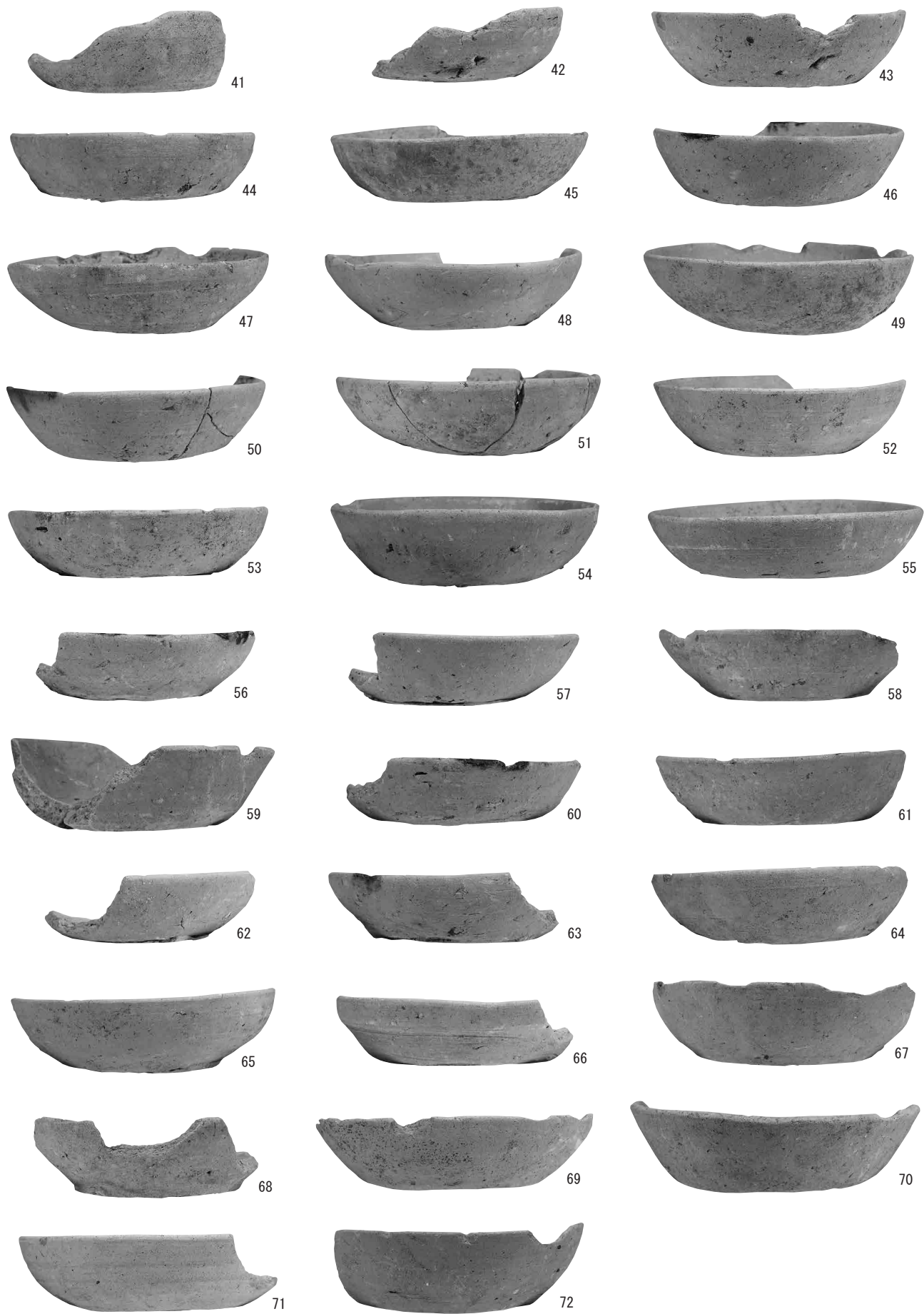
1. 第1面 溝状遺構1 出土遺物



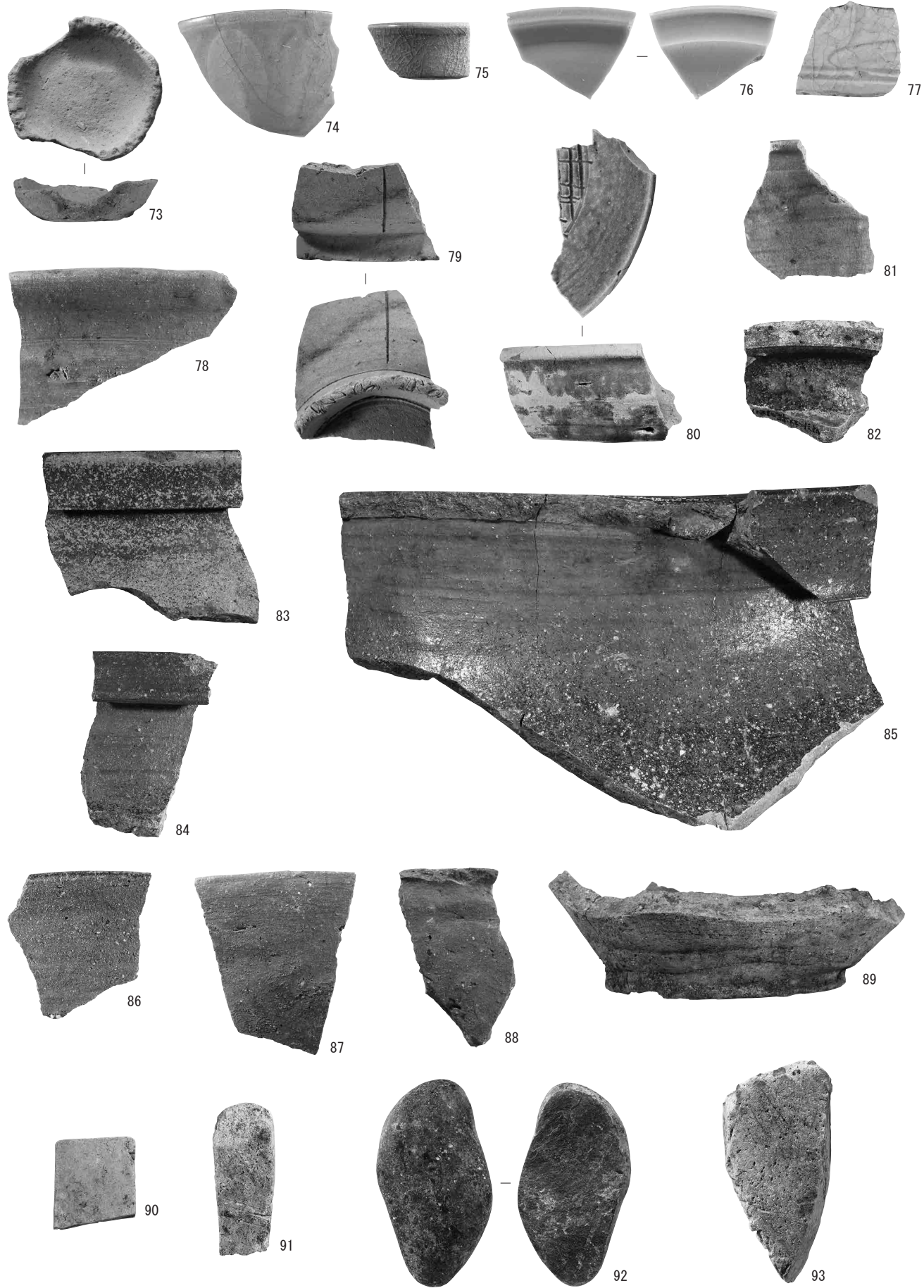
2. 第1面 土坑2 出土遺物



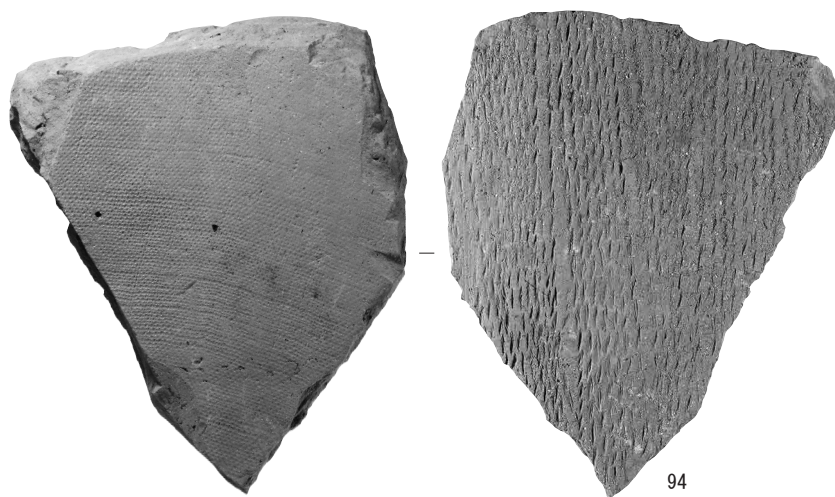
3. 第1面 遺構外出土遺物(1)



1. 第1面 遺構外出土遺物(2)



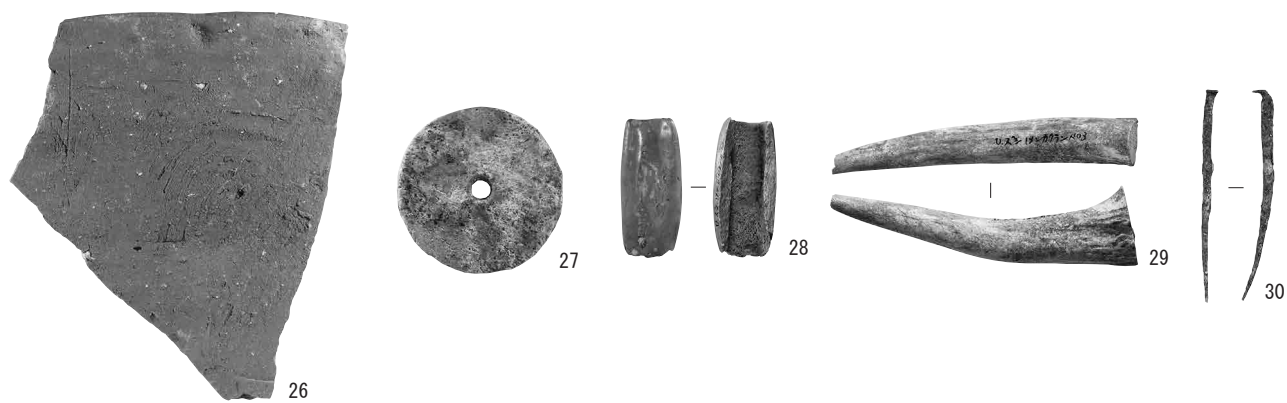
1. 第1面 遺構外出土遺物(3)



1. 第1面 遺構外出土遺物(4)



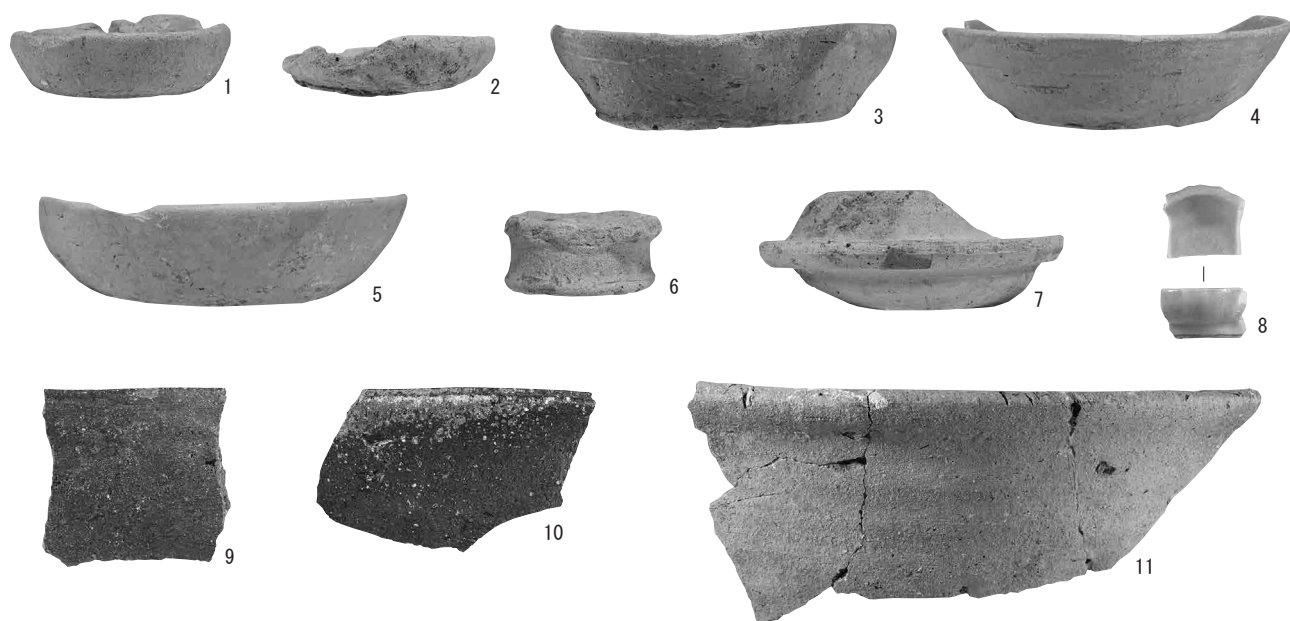
2. 攪乱出土遺物(1)



1. 搅乱出土遺物(2)

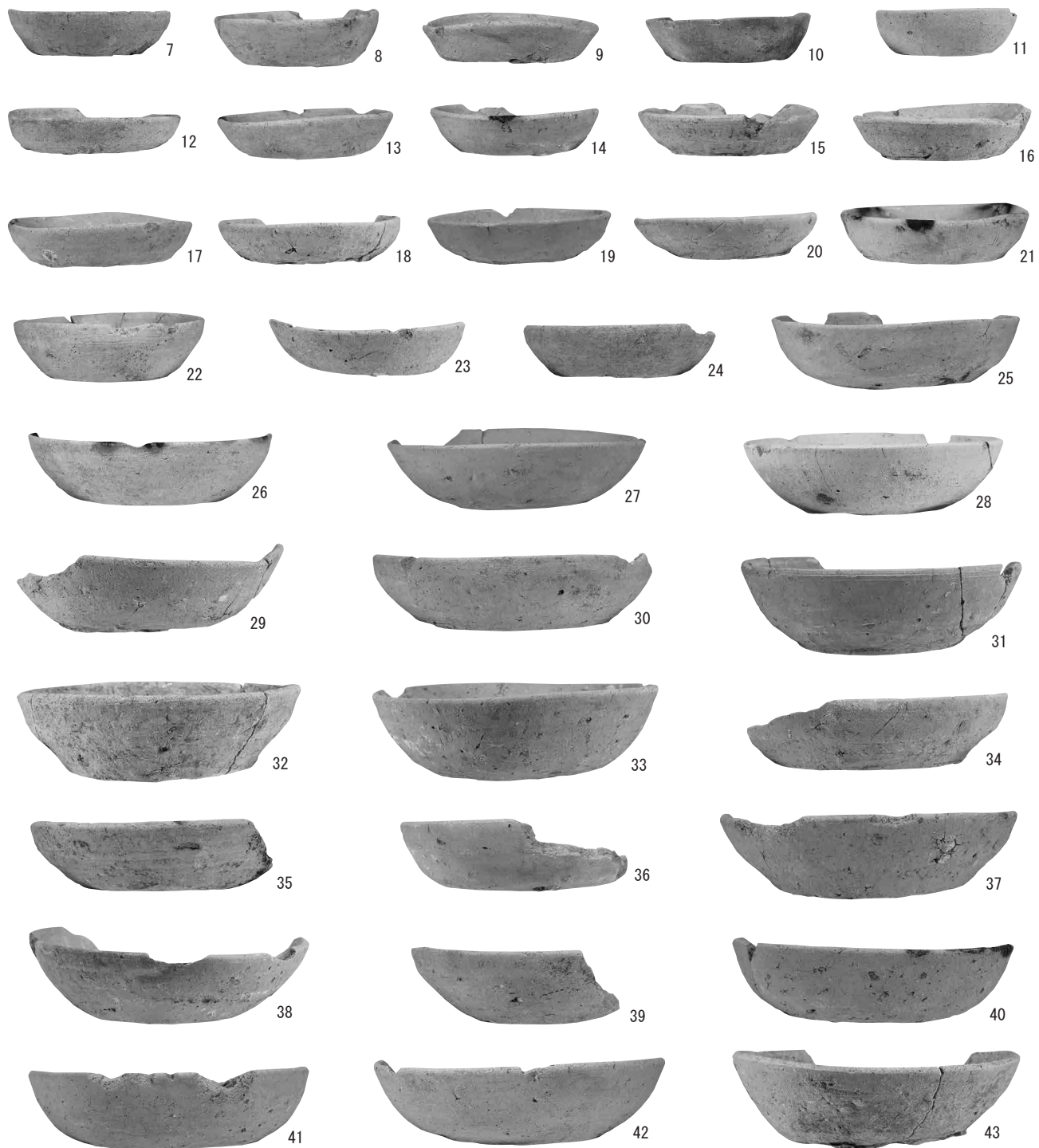
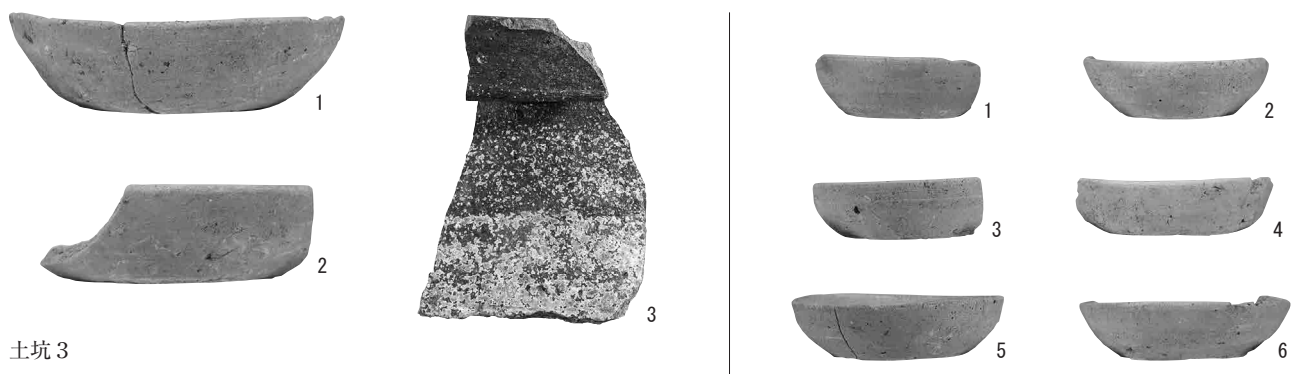


2. 第2面 地業1 出土遺物



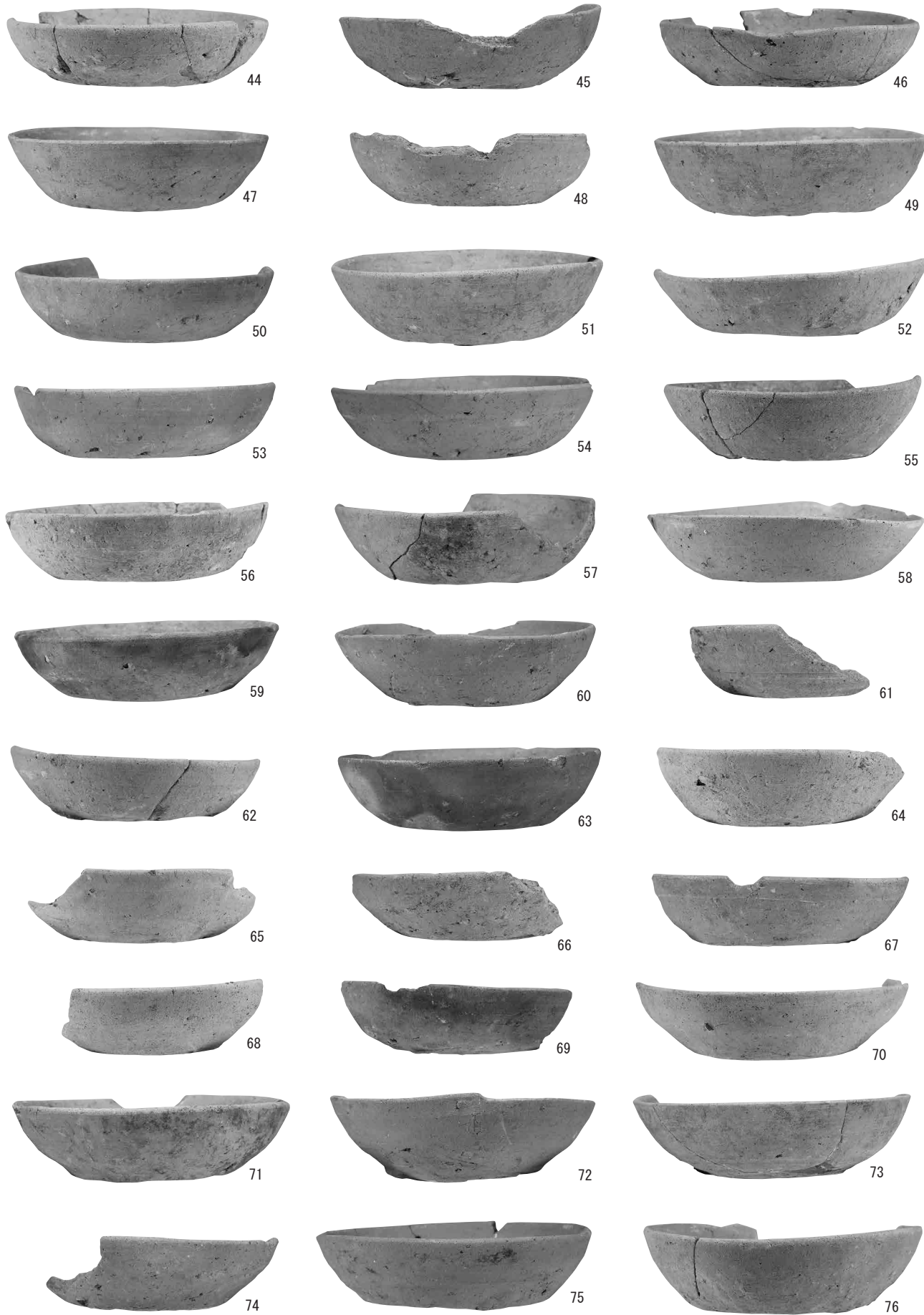
3. 第2面 溝状遺構2 出土遺物

图版 18



土坑 4-1

1. 第 2 面 土坑出土遗物 (1)



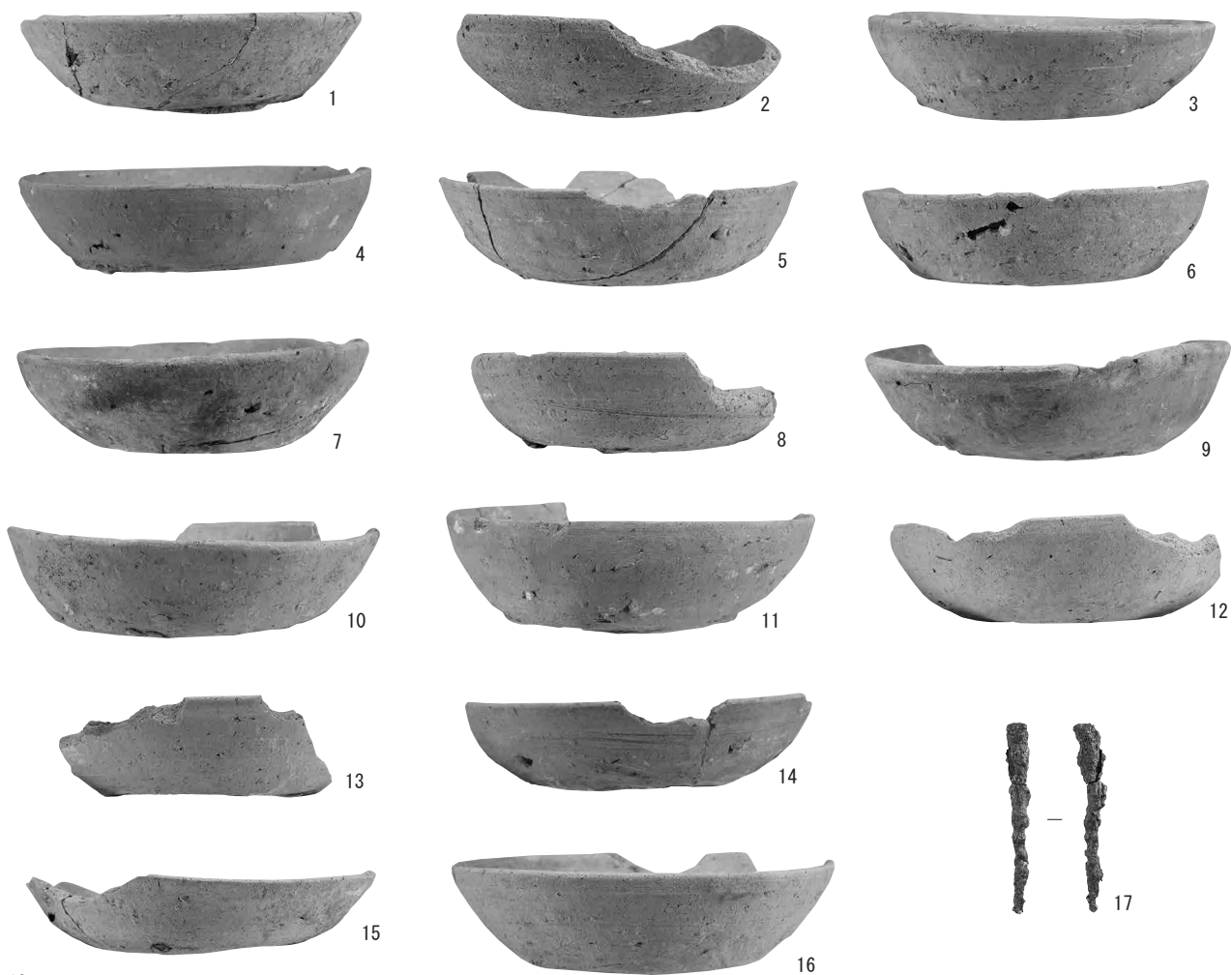
土坑 4-2

1. 第 2 面 土坑出土遗物 (2)

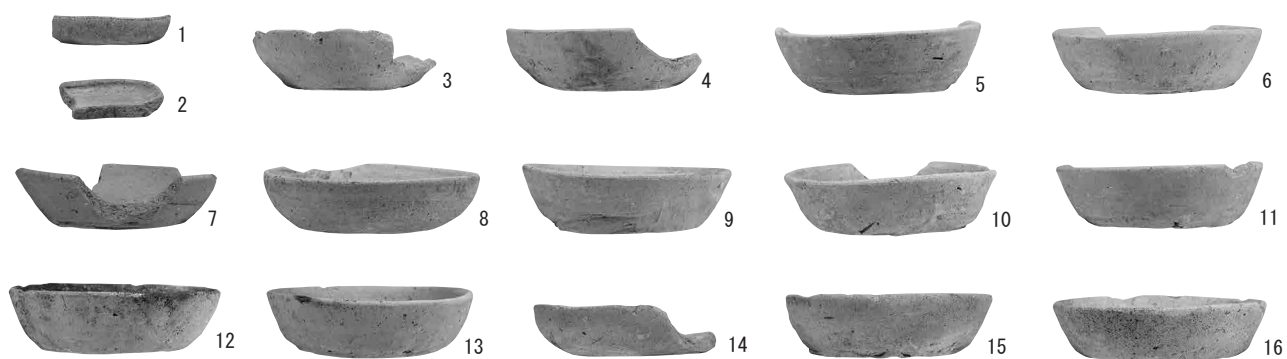
图版 20



土坑 4-3

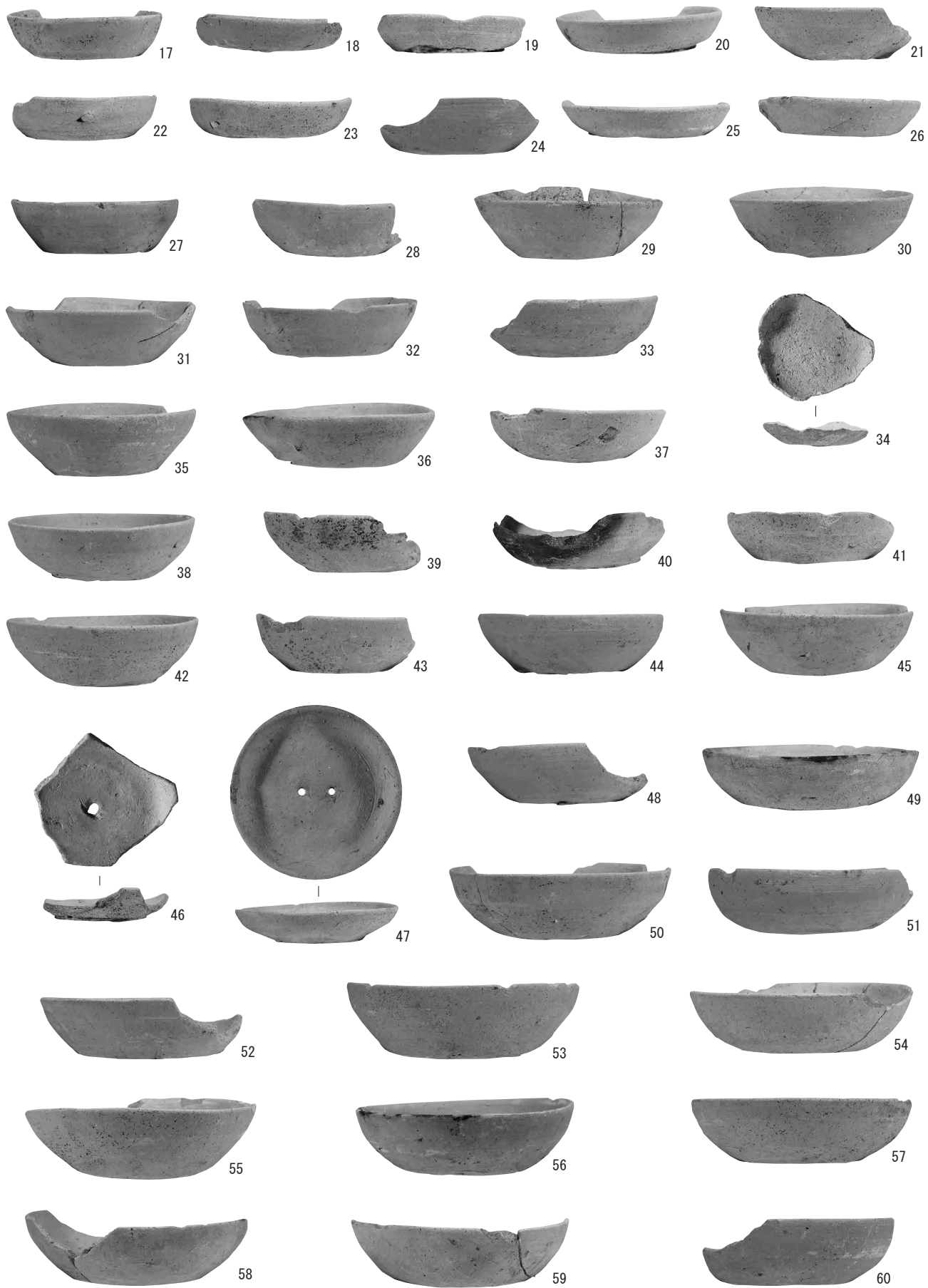


土坑 5



土坑 7-1

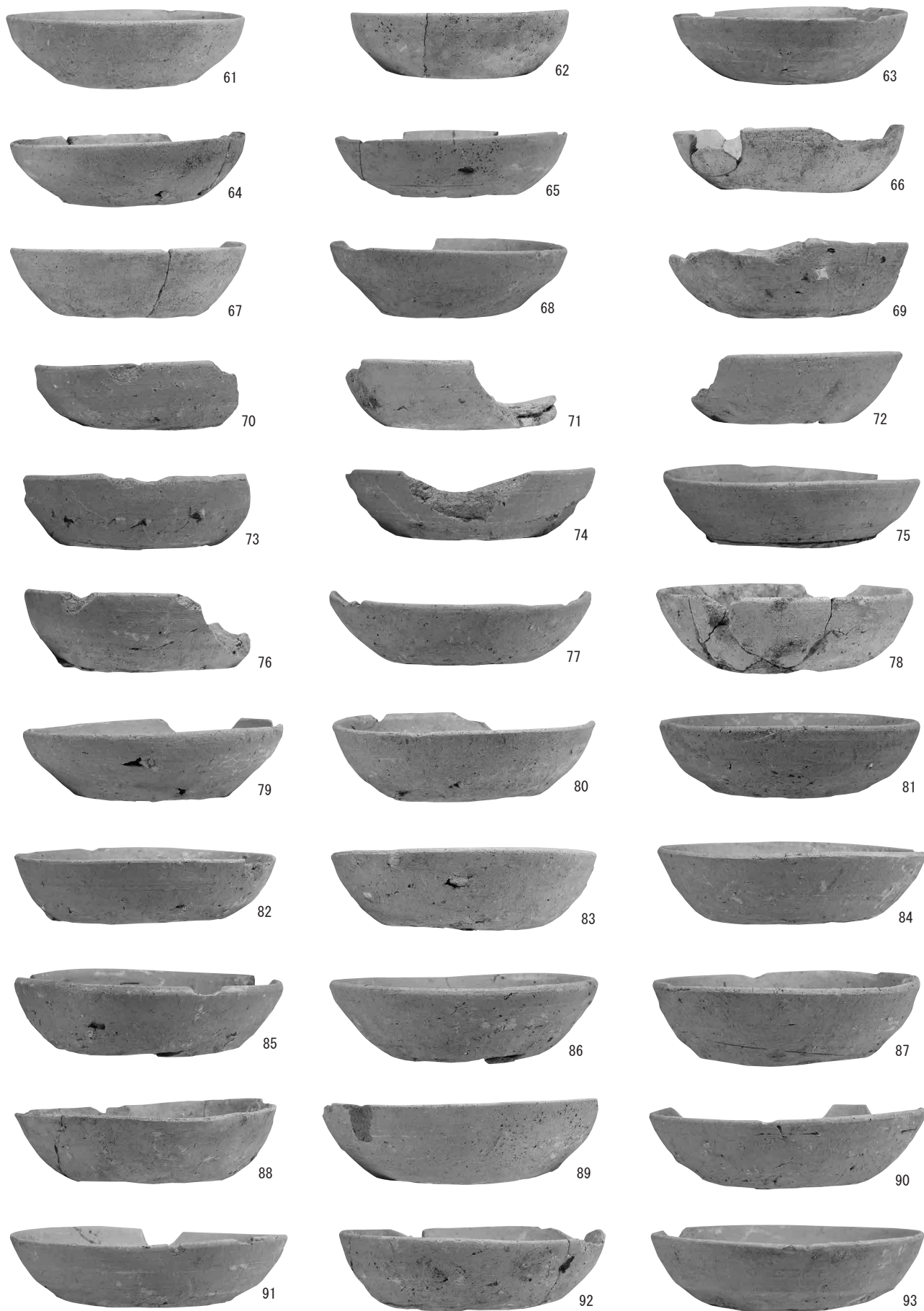
1. 第 2 面 土坑出土遗物 (3)



土坑 7-2

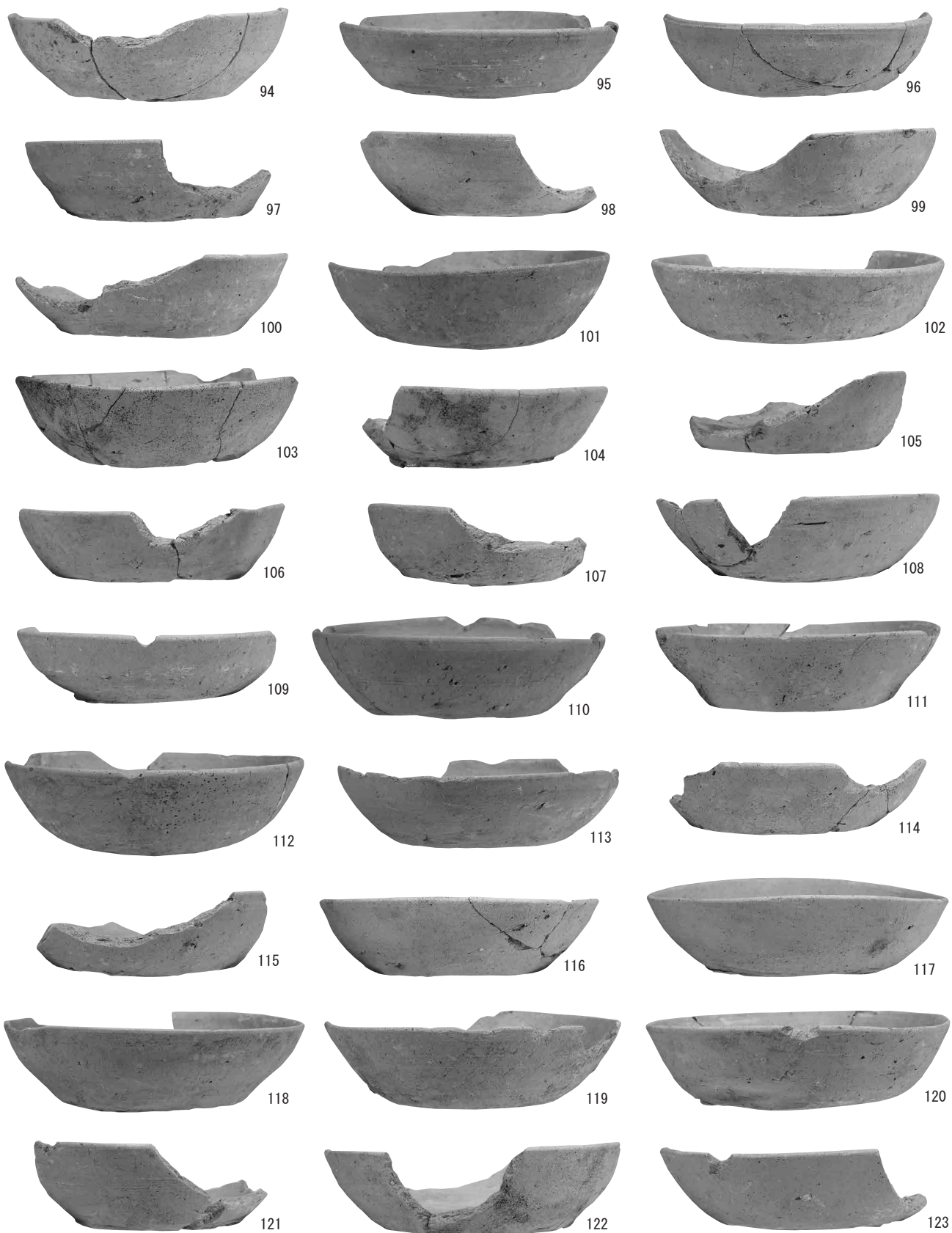
1. 第 2 面 土坑出土遺物 (4)

图版 22



土坑 7-3

1. 第 2 面 土坑出土遺物 (5)



土坑 7 - 4



1. 第 2 面 土坑出土遺物 (6)

图版 24

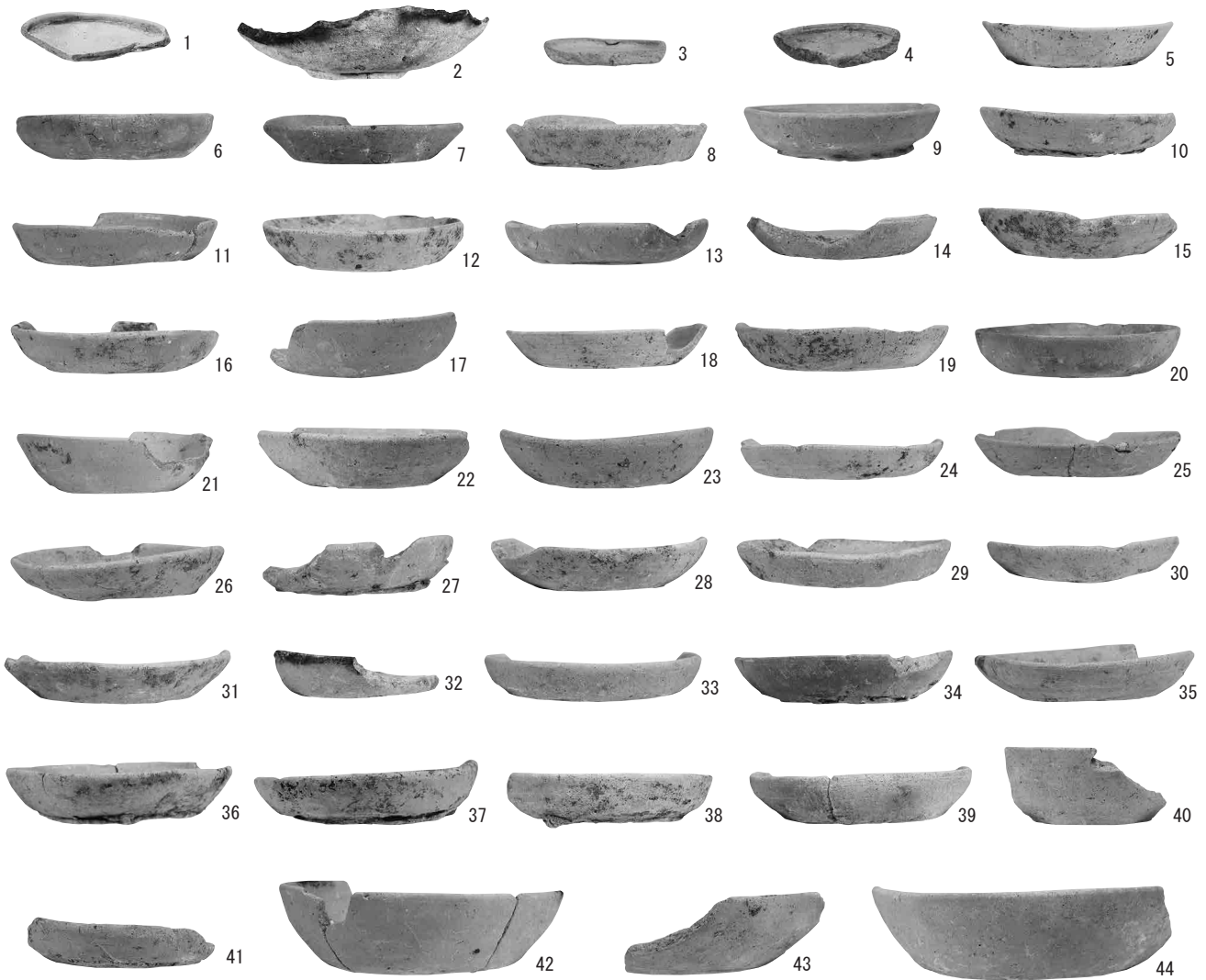


土坑 8

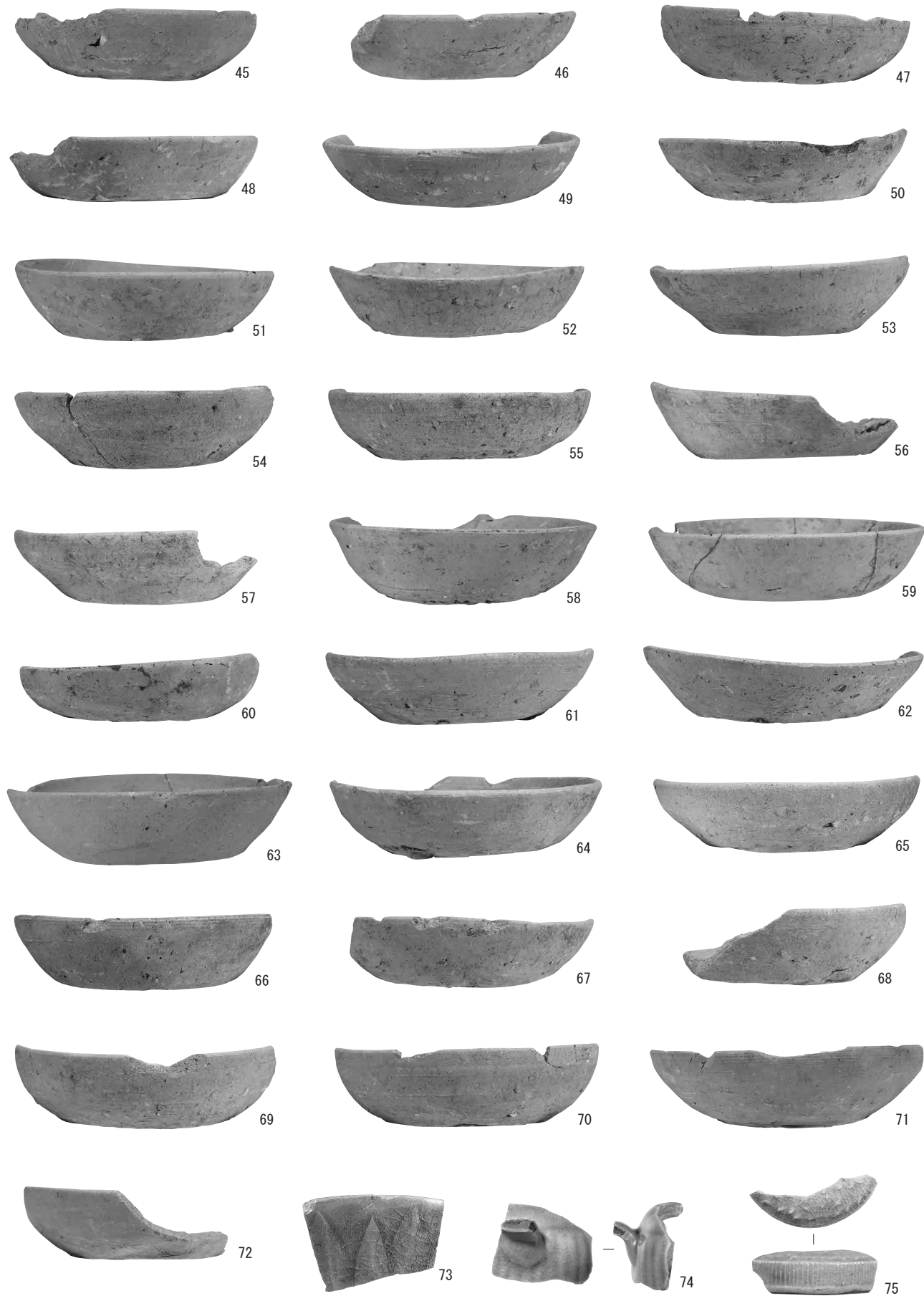


土坑 9

1. 第 2 面 土坑出土遺物 (7)



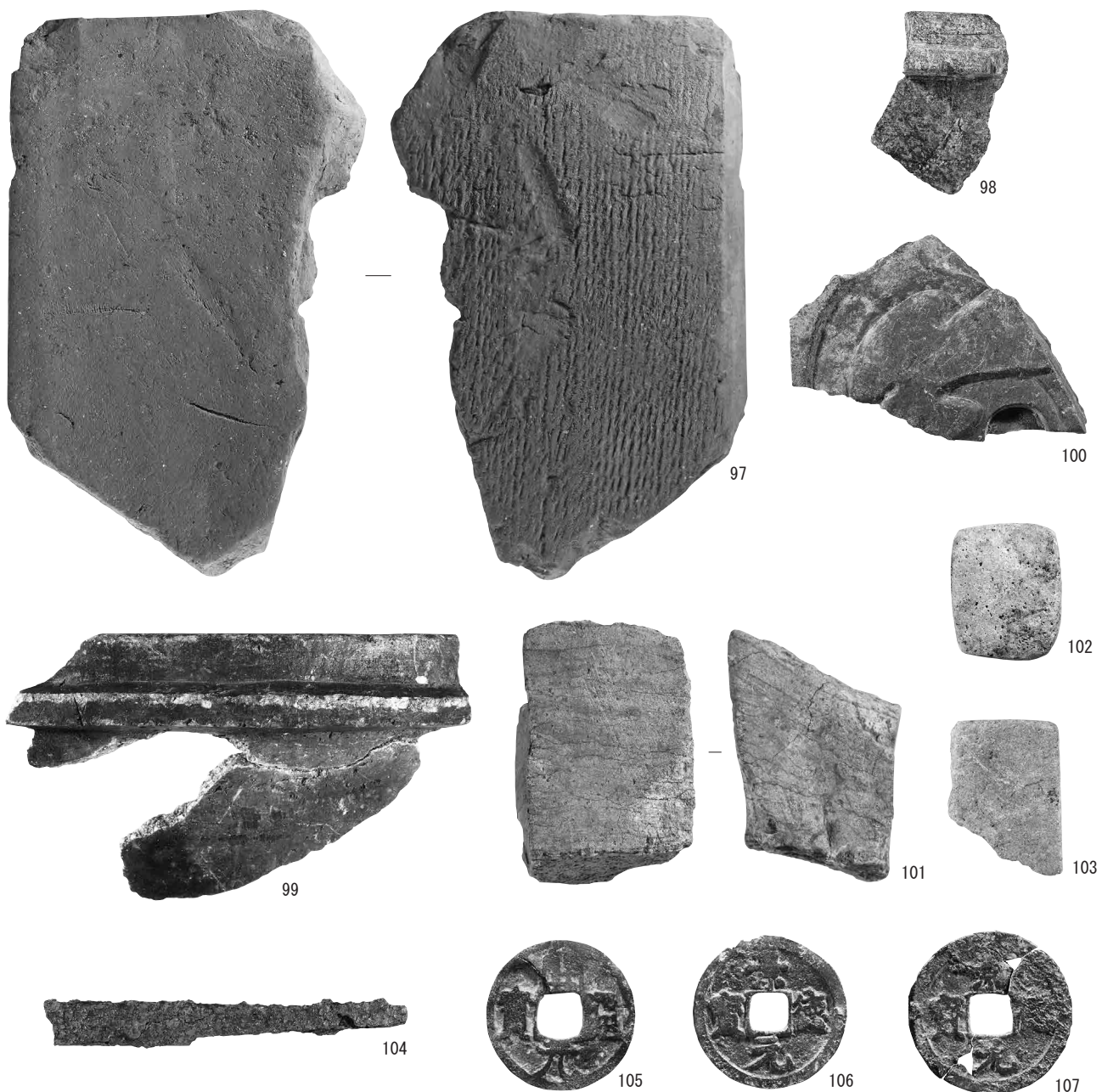
2. 第 2 面 遺構外出土遺物 (1)



1. 第2面 遺構外出土遺物(2)



1. 第2面 遺構外出土遺物(3)

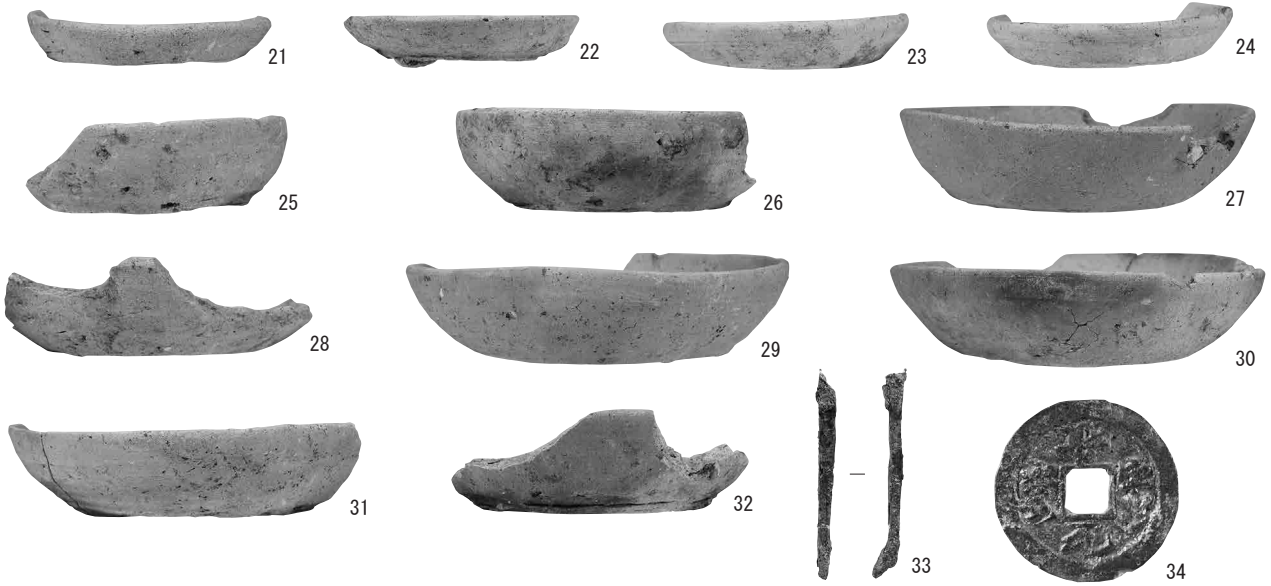


1. 第2面 遺構外出土遺物(4)

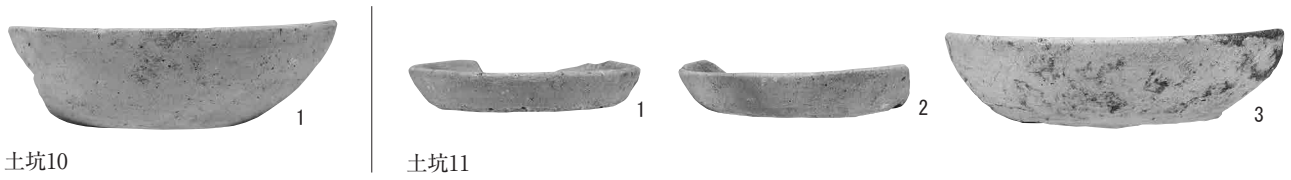


2. 第3面 竖穴状遺構1出土遺物(1)

図版 28



1. 第3面 竪穴状遺構1出土遺物(2)



土坑10

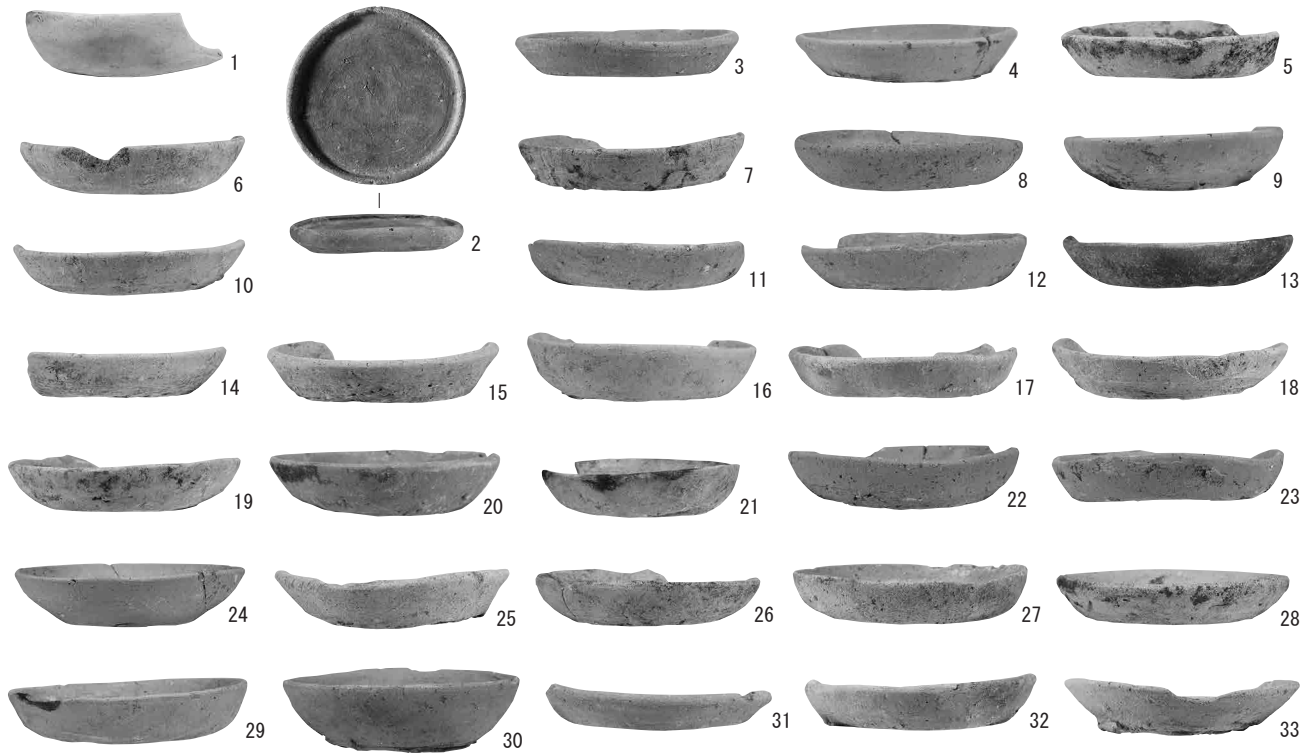
土坑11



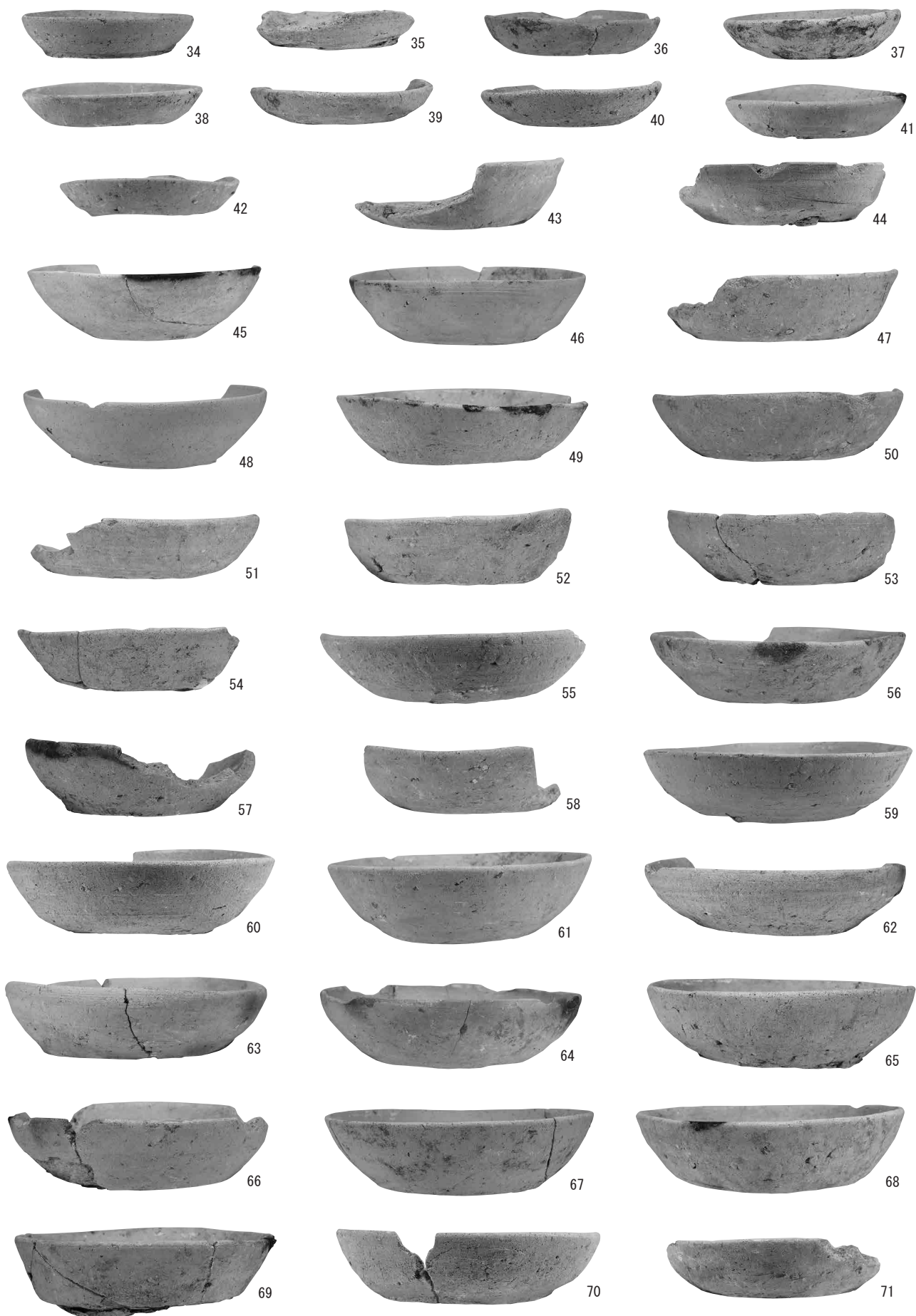
土坑15

2. 第3面 土坑・ピット出土遺物

ピット1



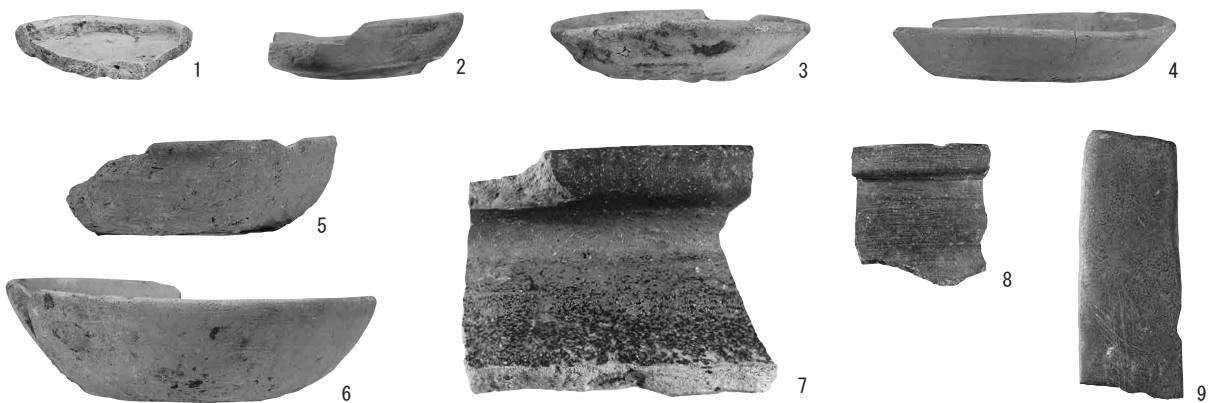
3. 第3面 遺構外出土遺物(1)



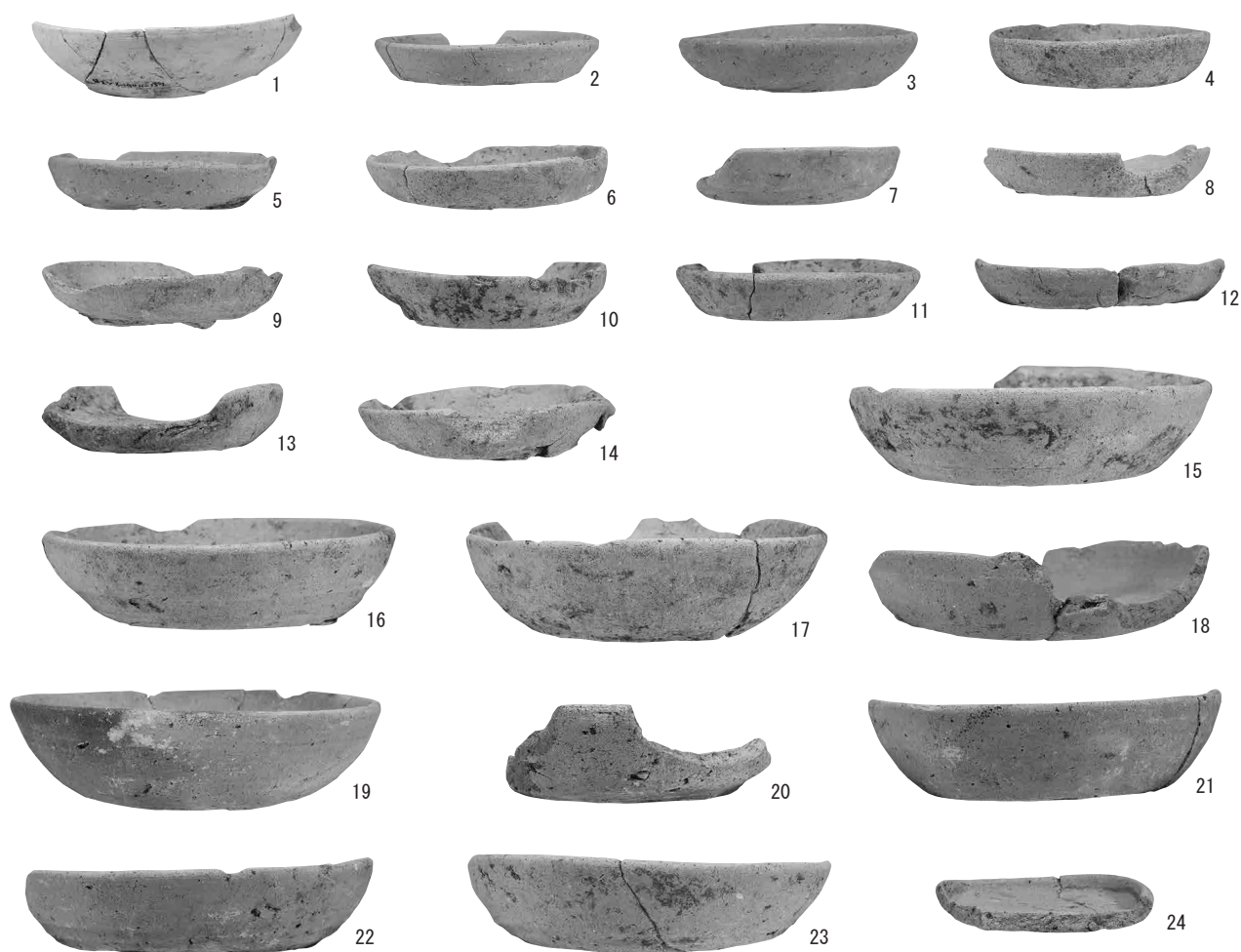
1. 第3面 遺構外出土遺物(2)



1. 第3面 遺構外出土遺物(3)



1. 第4面 柵列1 出土遺物



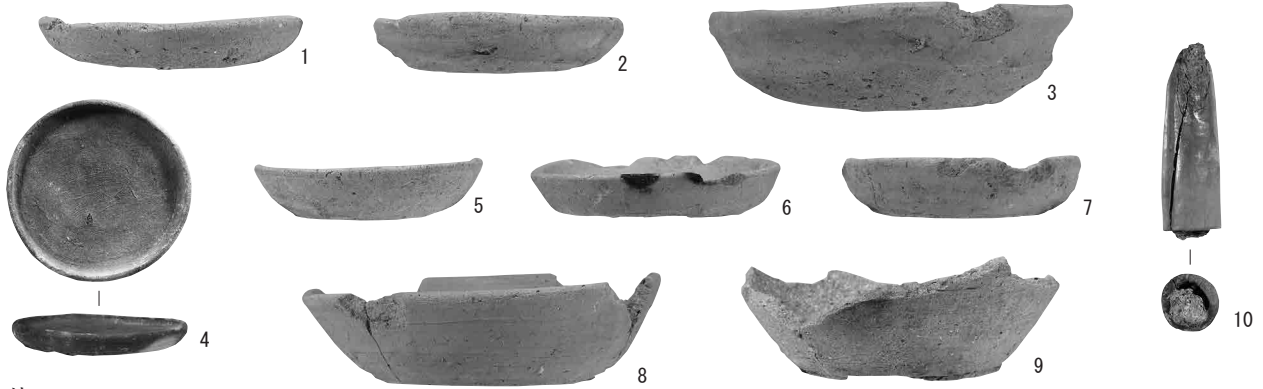
土坑16



土坑19

2. 第4面 土坑出土遺物(1)

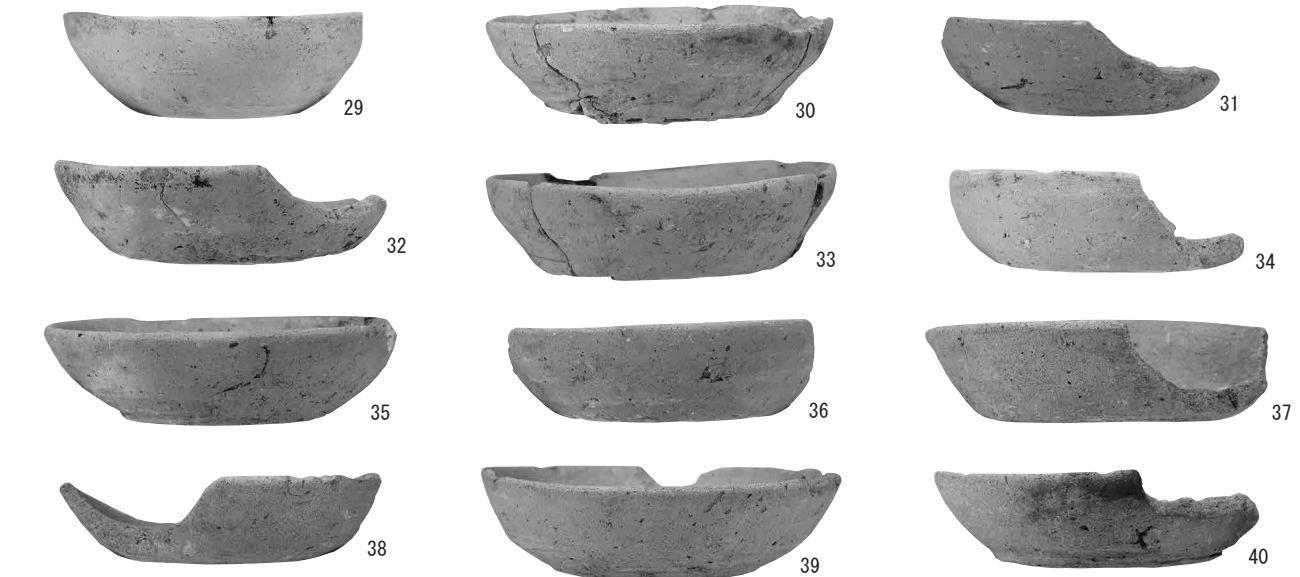
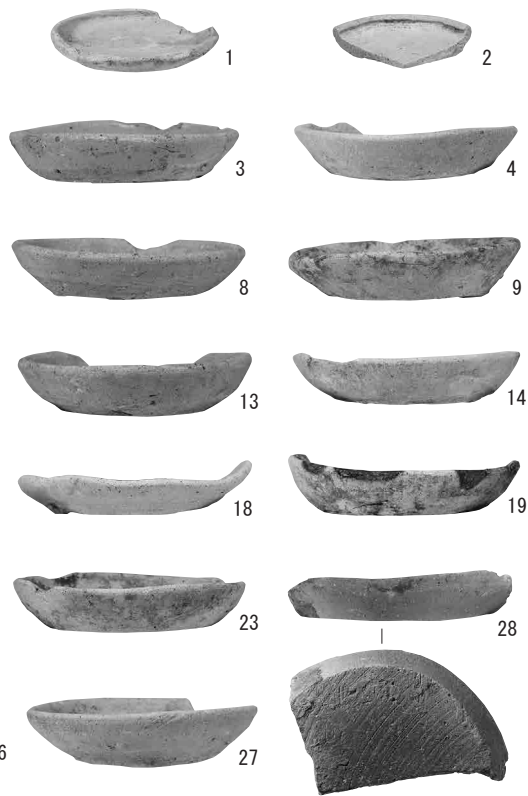
图版 32



土坑20

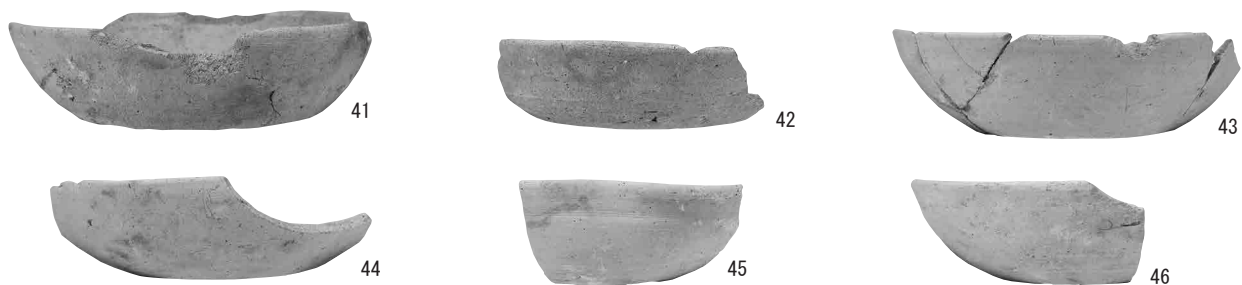


土坑21

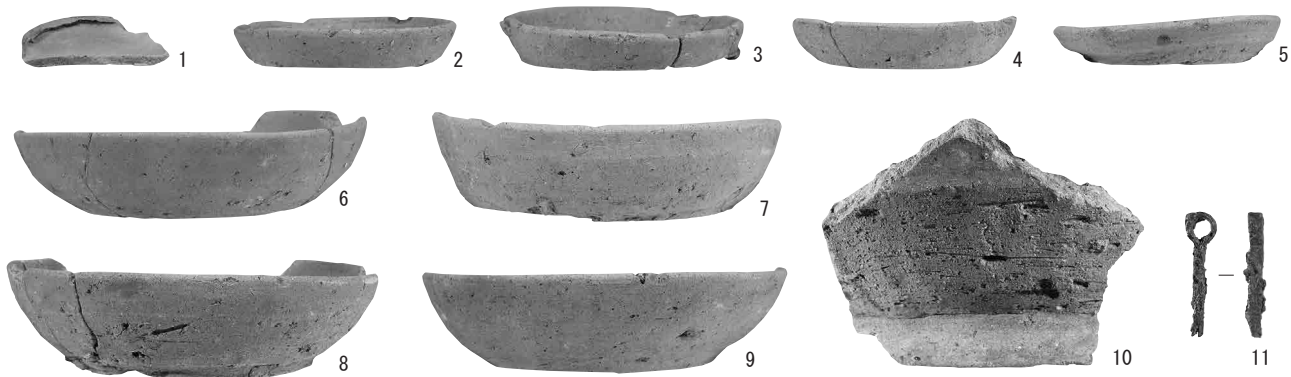


土坑22-1

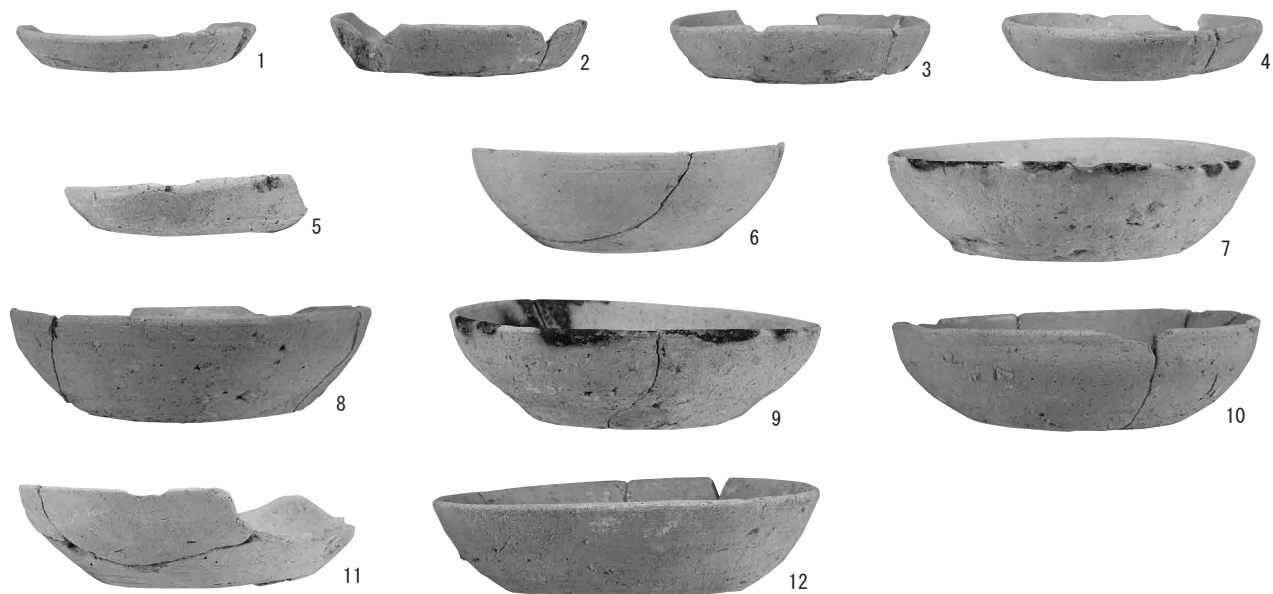
1. 第4面 土坑出土遺物(2)



土坑22-2



土坑23



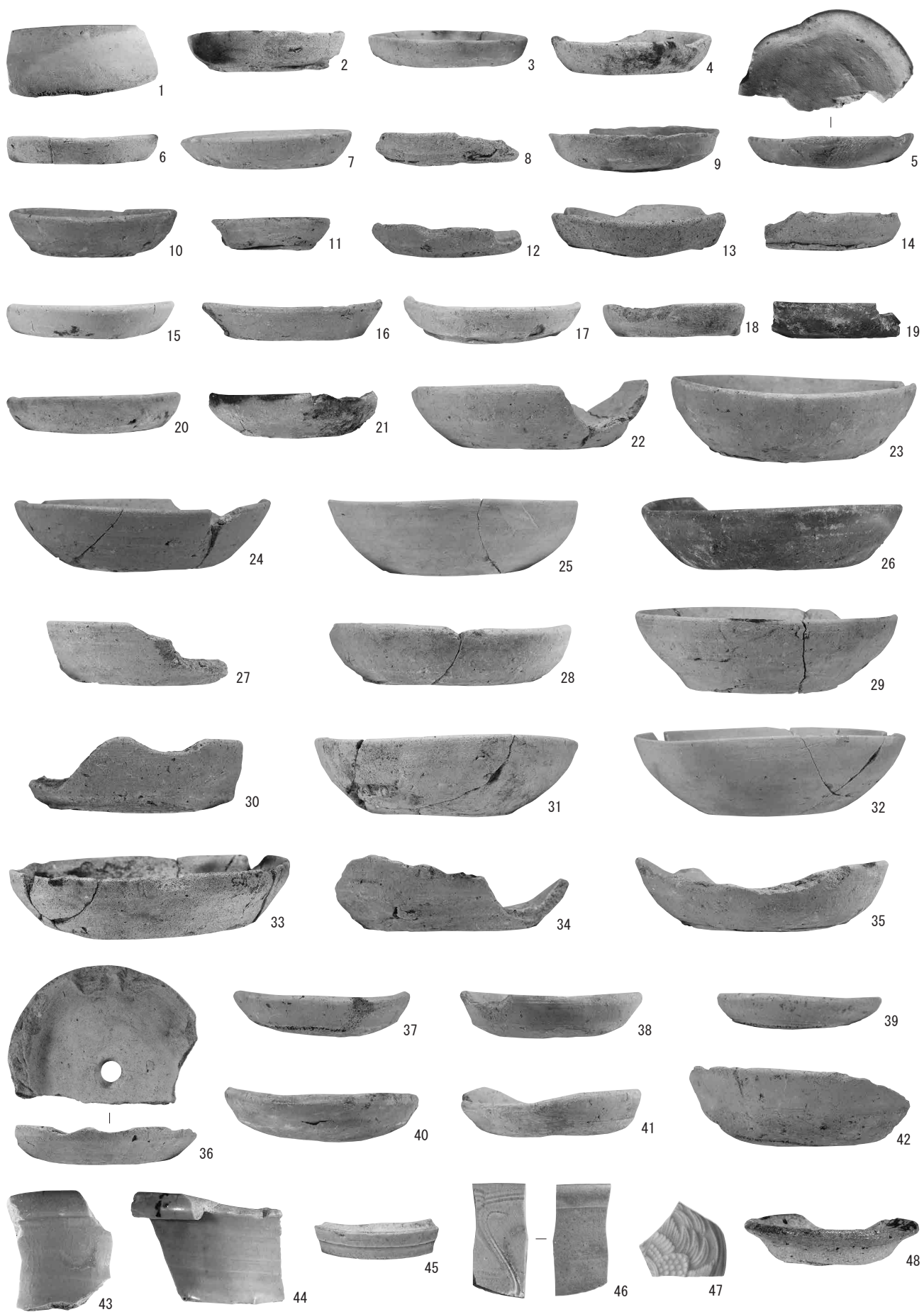
土坑25



土坑26

1. 第4面 土坑出土遺物(3)

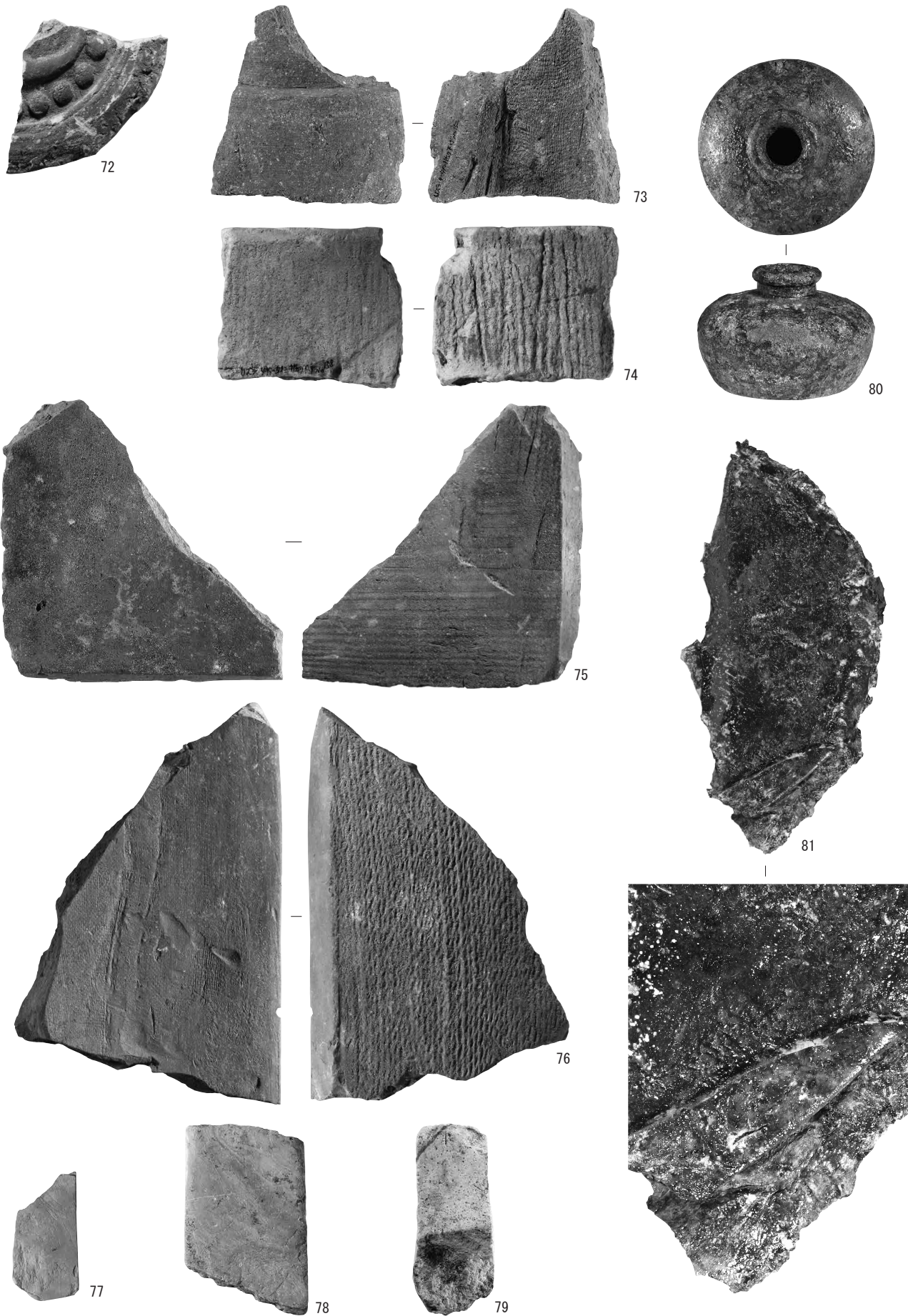
图版 34



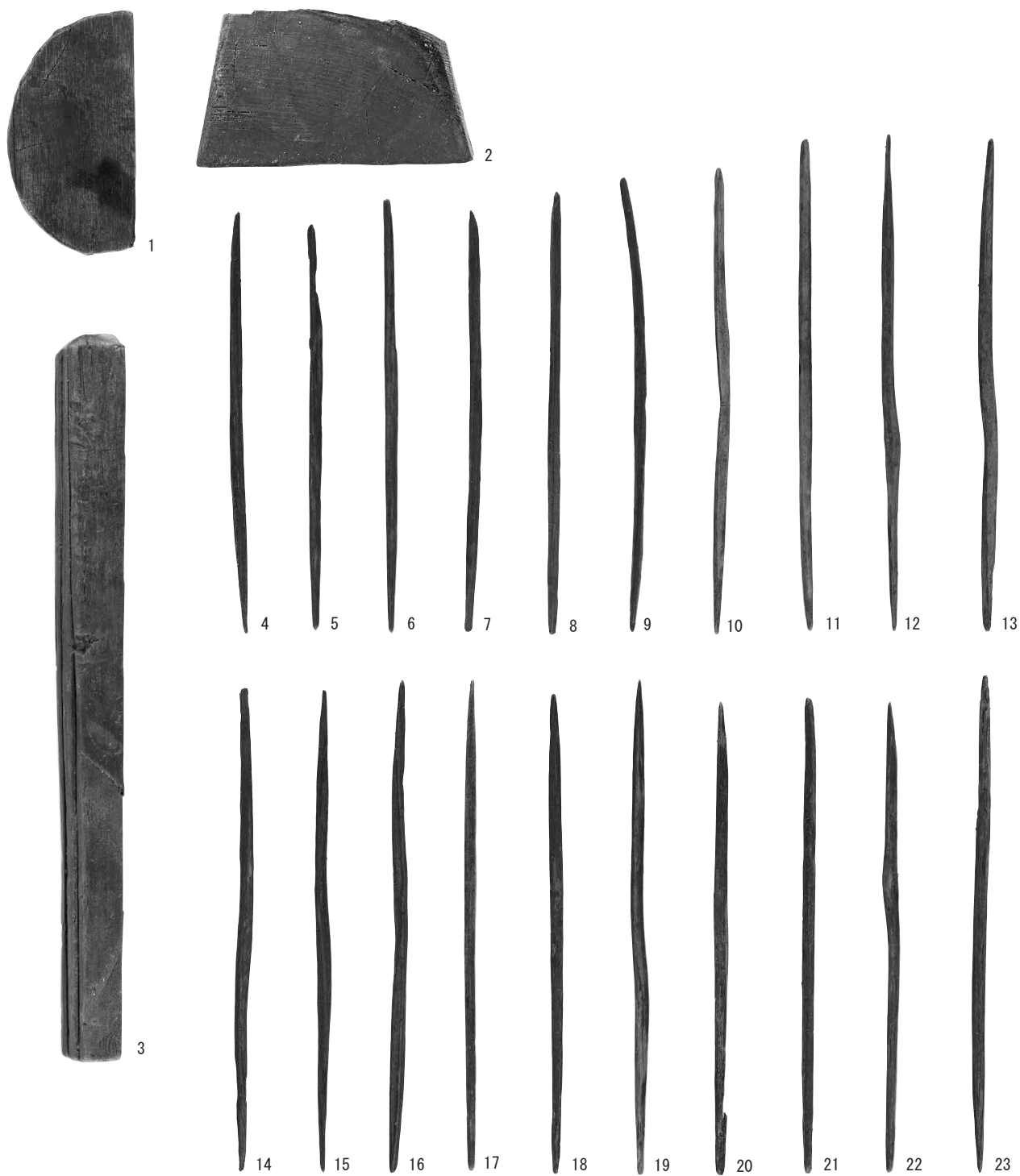
1. 第4面 遺構外出土遺物(1)



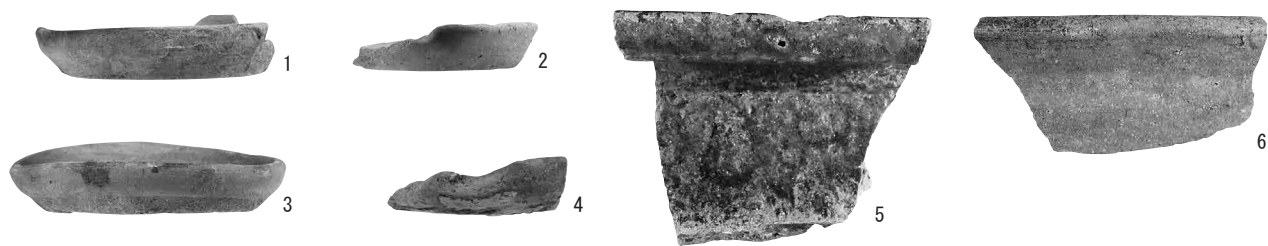
1. 第4面 遺構外出土遺物(2)



1. 第4面 遺構外出土遺物(3)



1. 第5面 板組遺構1出土遺物



2. 第5面 土坑28出土遺物

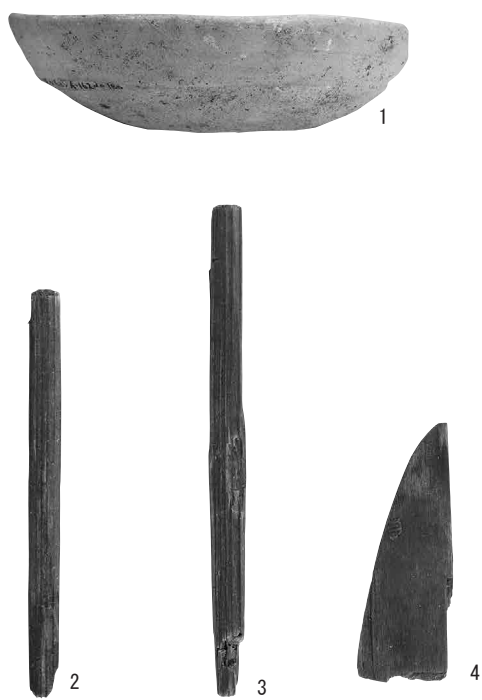
图版 38



1. 第5面 遺構外出土遺物

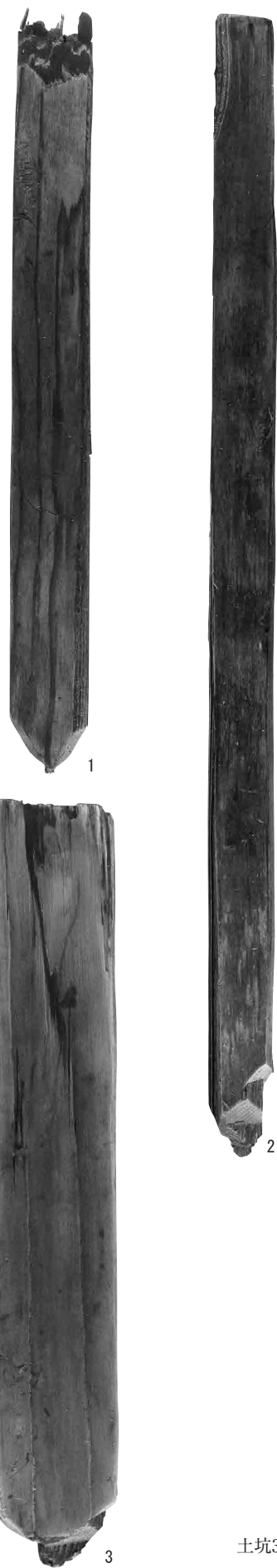


1. 第6面 溝状遺構 4 出土遺物



土坑32

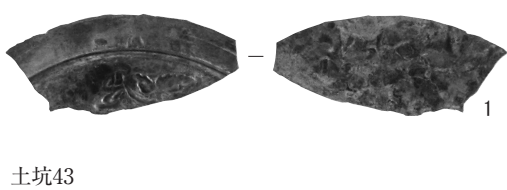
2. 第6面 土坑出土遺物(1)



土坑31



土坑37

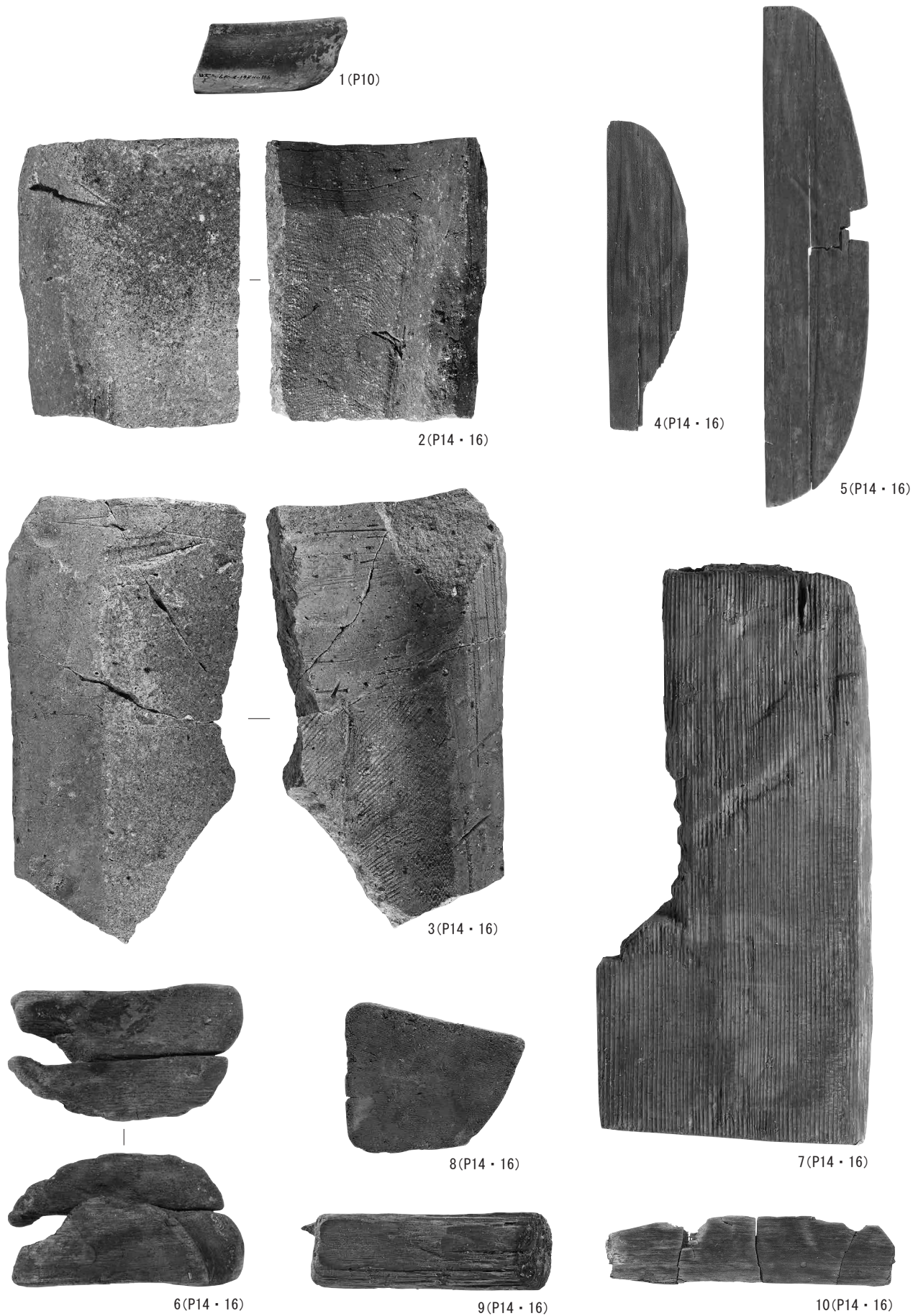


土坑43

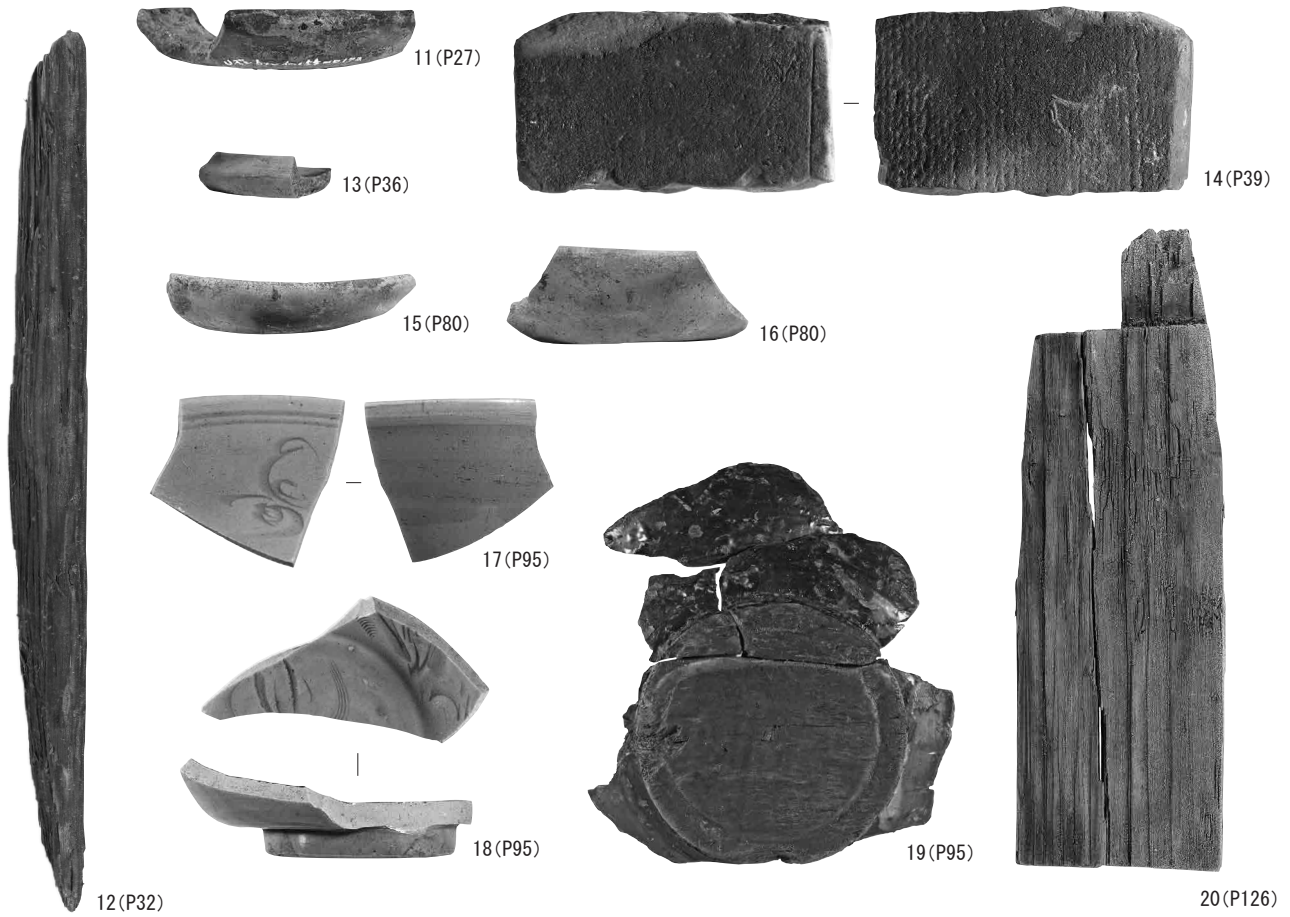


1. 第6面 土坑出土遺物(2)

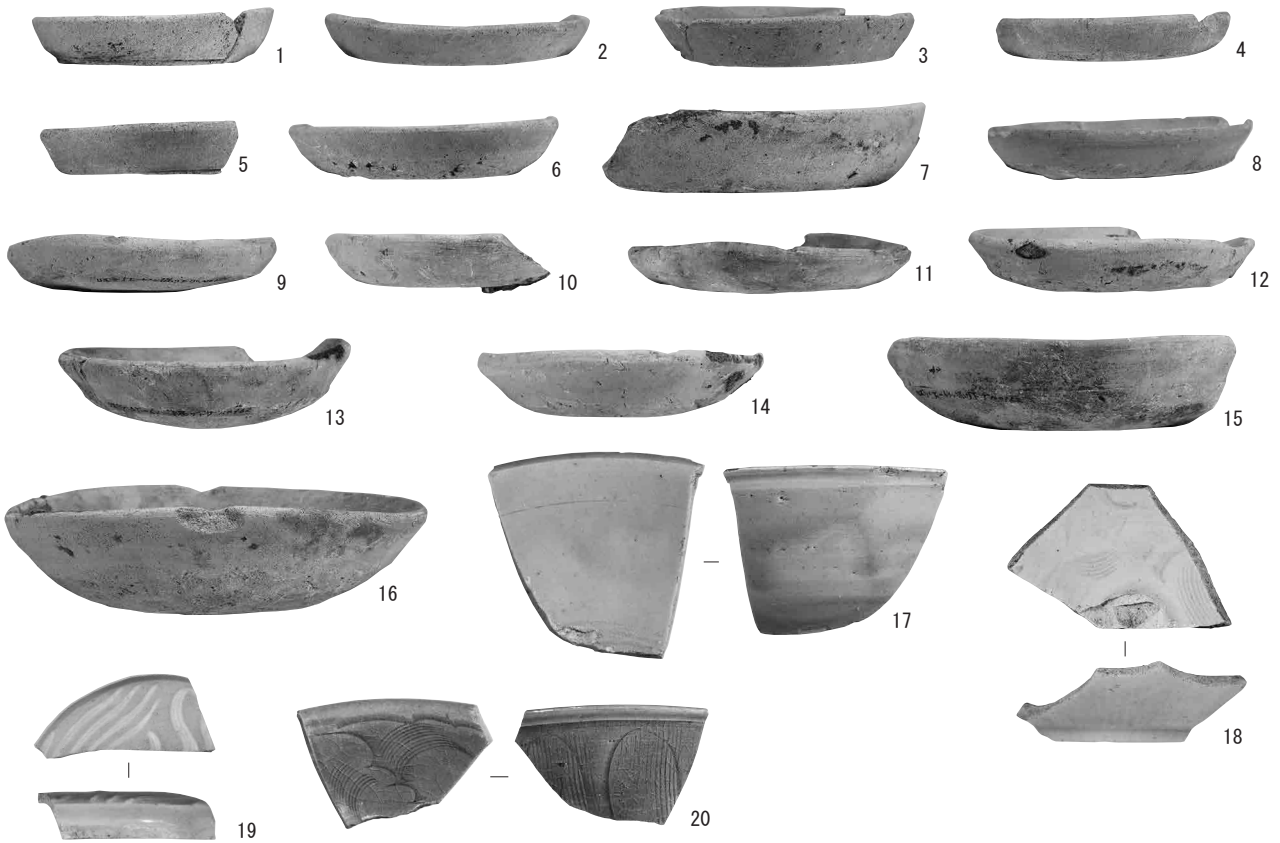
土坑46



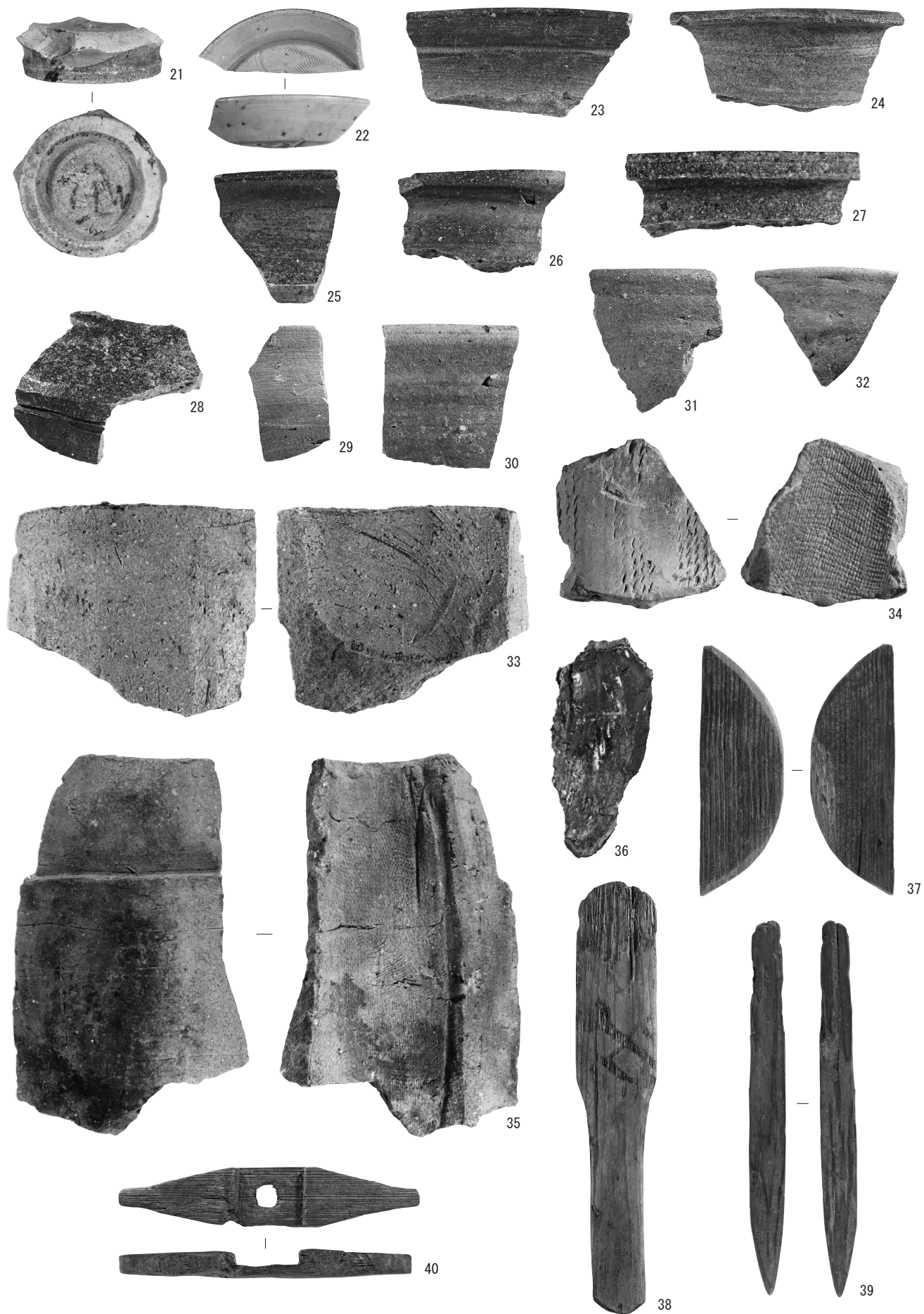
1. 第6面 ピット出土遺物(1)



1. 第6面 ピット出土遺物(2)



2. 第6面 遺構外出土遺物(1)



1. 第6面 遺構外出土遺物(2)



1. 第6面 遺構外出土遺物(3)







覺園寺旧境内遺跡 (No.435)

二階堂字会下330番9地点

例 言

1. 本報は「覚園寺旧境内遺跡」(神奈川県遺跡台帳No435)内、鎌倉市二階堂字会下330番9地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年11月29日～平成20年2月1日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約64㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 鯉淵義紀
調査員・調査補助員 伊藤博邦・岡田慶子
作業員 河原龍雄・牛嶋道夫・石井清司・堀住 稔・赤坂 進・永井隆三郎
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 出土動物遺体の鑑定は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を鯉淵義紀、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系(座標系AREA9)を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「KAKU」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺構・遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

遺構： 整地・地業範囲
 炭分布範囲
遺物： 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
 赤色付着物範囲
 黒色漆髹漆遺存範囲
 土器に漆が付着している範囲

 - ・手描き施文が施される漆器は、文様を濃色、地を白で示した。
 - ・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである(順不同)。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・浅野真里・花本晶子・御代祐子・深澤繁美・山田浩介(玉川文化財研究所)
14. 報告書作成にあたっては、伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目 次

第一章 遺跡と調査地点の概観	183
第1節 調査に至る経緯と経過	183
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	183
第3節 周辺の考古学的調査	184
第二章 堆積土層	188
第三章 発見された遺構と遺物	189
第1節 第1面の遺構と遺物	189
第2節 第2面の遺構と遺物	192
第3節 第3面の遺構と遺物	199
第4節 第4面の遺構と遺物	205
第5節 第5面の遺構と遺物	215
第6節 第6面の遺構と遺物	226
第7節 第7面の遺構と遺物	232
第四章 まとめ	234

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図…………… 185	図33 第4面 ピット30…………… 211
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡…………… 186	図34 第4面 遺構外出土遺物(1)…………… 212
図3 調査区位置図…………… 187	図35 第4面 遺構外出土遺物(2)…………… 213
図4 調査区配置図…………… 187	図36 第4面 遺構外出土遺物(3)…………… 214
図5 調査区土層断面図…………… 188	図37 第5面 遺構分布図…………… 216
図6 第1面 遺構分布図…………… 190	図38 第5面 礎板建物5…………… 217
図7 第1面 礎石建物1…………… 191	図39 第5面 礎板建物5 囲炉裏…………… 217
図8 第1面 礎石建物1 出土遺物…………… 191	図40 第5面 礎板建物5 出土遺物…………… 218
図9 第1面 土坑1…………… 192	図41 第5面 枡状遺構1…………… 218
図10 第1面 遺構外出土遺物…………… 192	図42 第5面 枡状遺構1 出土遺物…………… 219
図11 第2面 遺構分布図…………… 193	図43 第5面 板組遺構1～3…………… 220
図12 第2面 礎石建物2…………… 194	図44 第5面 板組遺構1 出土遺物…………… 221
図13 第2面 溝状遺構1・2…………… 195	図45 第5面 板組遺構2 出土遺物…………… 221
図14 第2面 土坑2・3…………… 196	図46 第5面 板組遺構3 出土遺物…………… 221
図15 第2面 ピット2…………… 196	図47 第5面 ピット44…………… 222
図16 第2面 遺構外出土遺物(1)…………… 197	図48 第5面 遺構外出土遺物(1)…………… 223
図17 第2面 遺構外出土遺物(2)…………… 198	図49 第5面 遺構外出土遺物(2)…………… 224
図18 第2面 遺構外出土遺物(3)…………… 199	図50 第5面 遺構外出土遺物(3)…………… 225
図19 第3面 礎石建物3 出土遺物…………… 199	図51 第5面 遺構外出土遺物(4)…………… 226
図20 第3面 遺構分布図…………… 200	図52 第6面 遺構分布図…………… 227
図21 第3面 礎石建物3…………… 201	図53 第6面 礎石・礎板建物6…………… 228
図22 第3面 土坑4 出土遺物…………… 202	図54 第6面 礎石・礎板建物6 出土柱材 模式図…………… 229
図23 第3面 土坑5 出土遺物…………… 202	図55 第6面 礎石・礎板建物6 出土遺物…………… 229
図24 第3面 土坑4～8…………… 203	図56 第6面 土坑15～18…………… 230
図25 第3面 遺構外出土遺物(1)…………… 204	図57 第6面 土坑15出土遺物…………… 230
図26 第3面 遺構外出土遺物(2)…………… 205	図58 第6面 土坑18出土遺物…………… 231
図27 第4面 遺構分布図…………… 206	図59 第6面 遺構外出土遺物(1)…………… 231
図28 第4面 礎石・礎板建物4(1)…………… 207	図60 第6面 遺構外出土遺物(2)…………… 232
図29 第4面 礎石・礎板建物4(2)…………… 208	図61 第7面 遺構分布図および深掘りトレンチ 位置図…………… 233
図30 第4面 石列1…………… 208	
図31 第4面 土坑9～14…………… 210	
図32 第4面 土坑10・13・14出土遺物…………… 210	

表 目 次

表1 覚園寺旧境内遺跡 調査地点一覧…………… 188	表6 第5面 出土遺物観察表…………… 243
表2 第1面 出土遺物観察表…………… 237	表7 第6面 出土遺物観察表…………… 246
表3 第2面 出土遺物観察表…………… 237	表8 遺構計測表…………… 247
表4 第3面 出土遺物観察表…………… 239	表9 出土遺物一覧表…………… 248
表5 第4面 出土遺物観察表…………… 241	

図 版 目 次

図版1 1. 調査区近景(南東から)…………… 251 2. I区東壁土層断面(西から)…………… 251	図版8 1. I区第5面全景(西から)…………… 258 2. II区第5面全景(西から)…………… 258
図版2 1. II区東壁土層断面(南西から)…………… 252 2. I区第1面全景および礎石建物1 (西から)…………… 252	図版9 1. 第5面 礎板建物5(南から)…………… 259 2. 第5面 礎板建物5 囲炉裏 (南から)…………… 259
図版3 1. I区第2面全景(西から)…………… 253 2. II区第2面全景(東から)…………… 253	図版10 1. 第5面 板組遺構1(東から)…………… 260 2. 第5面 板組遺構1 壁板 (北から)…………… 260
図版4 1. 第2面 礎石建物2 P1・2 (東から)…………… 254 2. 第2面 礎石建物2 P1 (東から)…………… 254 3. 第2面 礎石建物2 P2 (北から)…………… 254	図版11 1. I区第6面全景(西から)…………… 261 2. 第6面 礎石・礎板建物6 (南から)…………… 261
図版5 1. I区第3面全景(西から)…………… 255 2. II区第3面全景(東から)…………… 255	図版12 1. 第6面 礎石・礎板建物6 壁板 およびP1(南から)…………… 262 2. 第6面 礎石・礎板建物6 P1の柱 および礎板(南から)…………… 262 3. 第6面 礎石・礎板建物6 壁板 およびP2の柱(南から)…………… 262
図版6 1. I区第4面全景および礎石・礎板 建物4南側(東から)…………… 256 2. II区第4面全景および礎石・礎板 建物4北側(西から)…………… 256	図版13 1. 第6面 礎石・礎板建物6 P2の柱 (北から)…………… 263 2. 第6面 礎石・礎板建物6 壁板 (南から)…………… 263 3. 第7面 深掘り全景と礎板 (南から)…………… 263
図版7 1. 第4面 礎石・礎板建物4 P2 (西から)…………… 257 2. 第4面 礎石・礎板建物4 P3 (南から)…………… 257 3. 第4面 礎石・礎板建物4 P5 (北から)…………… 257 4. 第4面 礎石・礎板建物4 P6 (北から)…………… 257 5. 第4面 石列1(西から)…………… 257	図版14 1. 第1面 礎石建物1 出土遺物…………… 264 2. 第1面 遺構外出土遺物…………… 264

	3. 第2面 遺構外出土遺物(1)…… 264		2. 第5面 柵狀遺構1出土遺物…… 272
図版15	1. 第2面 遺構外出土遺物(2)…… 265		3. 第5面 板組遺構出土遺物(1)…… 272
図版16	1. 第2面 遺構外出土遺物(3)…… 266	図版23	1. 第5面 板組遺構出土遺物(2)…… 273
	2. 第3面 礎石建物3出土遺物…… 266		2. 第5面 遺構外出土遺物(1)…… 273
	3. 第3面 土坑出土遺物…… 266	図版24	1. 第5面 遺構外出土遺物(2)…… 274
図版17	1. 第3面 遺構外出土遺物(1)…… 267	図版25	1. 第5面 遺構外出土遺物(3)…… 275
図版18	1. 第3面 遺構外出土遺物(2)…… 268	図版26	1. 第5面 遺構外出土遺物(4)…… 276
	2. 第4面 土坑出土遺物…… 268	図版27	1. 第5面 遺構外出土遺物(5)…… 277
	3. 第4面 遺構外出土遺物(1)…… 268		2. 第6面 礎石・礎板建物6出土 遺物…… 277
図版19	1. 第4面 遺構外出土遺物(2)…… 269		3. 第6面 土坑出土遺物…… 277
図版20	1. 第4面 遺構外出土遺物(3)…… 270	図版28	1. 第6面 遺構外出土遺物…… 278
図版21	1. 第4面 遺構外出土遺物(4)…… 271		
図版22	1. 第5面 礎板建物5出土遺物…… 272		

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市二階堂字会下330番9地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である覚園寺旧境内遺跡（神奈川県遺跡台帳No435）の範囲内にあたり、近隣地における過去の発掘調査成果から、地下に埋蔵文化財が存在することが確実であった。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置について建築主と協議した。その結果、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約64㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、鯉淵義紀が現地調査を担当した。調査期間は平成19年11月29日～平成20年2月1日である。

発掘調査は掘削に伴う残土を場内処理する都合から調査区を南北に区分し、便宜上南側をⅠ区、北側をⅡ区と呼称した。調査はⅠ区から実施することとし、まず重機により50cmほどの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、中世に属する第1～5面の合計5面にわたる遺構確認面が検出され、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。第5面の遺構調査を終えた段階で、南西隅で深掘り調査を実施したところ、標高20m付近から板材1点が出土した。Ⅰ区の調査終了後に重機による埋め戻しを行い、その後同様の手順でⅡ区の調査を実施した。この際にⅠ区の残土が崩壊してⅡ区へ流入することを防ぐため、Ⅰ区とⅡ区の間を80～90cmほど掘り残して山留めとした。

Ⅱ区ではⅠ区の第1面にあたる遺構確認面まで近現代の攪乱が及んでおり、第2～7面の合計6面にわたる遺構確認面が検出された。先行して調査を行ったⅠ区と同様の手順で調査を進め、第7面の遺構調査を終えた段階で北東部で深掘り調査を行い、板材2点と瓦1点を検出した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系AREA 9）に準じた、鎌倉市三級基準点No53204（ $X = -75157.643$ 、 $Y = -24026.302$ ）、No53209（ $X = -75377.449$ 、 $Y = -24439.834$ ）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No53204（標高16.169m）を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

覚園寺旧境内遺跡（No435）は、鎌倉市内中心部の北東側に位置し、覚園寺を含む南南東に開口する谷戸一帯が周知の遺跡範囲である。覚園寺のある谷戸は、通称「薬師堂ヶ谷」（覚園寺ヶ谷）と呼ばれ、ほぼ南北方向に細長く刻まれた谷戸である。覚園寺までは谷あい^{やっ}を700mほど登るが、本地点の調査区は谷戸の開口部付近から200mほどのところにある。標高は22m内外であるが、覚園寺の伽藍のあるところでは40m前後となる。また、谷戸の東西両側の山肌は現在でも樹木が茂り、険しく立ち上がっている。

遺跡地を含む薬師堂ヶ谷は約1kmに及ぶが、谷戸幅は現在でも20～80mと狭く、全体的に細長い谷戸を形成している。この薬師堂ヶ谷の中央付近には、平子川が北北西から南南東に向かって直線的に流下し、谷戸を出たところで北東から南西方向に流路をとる本流の二階堂川に合流している。

本調査地点は、谷戸の中では開口部寄りに近い平子川の左岸域に位置しており、遺跡地は比較的平坦であるが、調査地点東岸の丘陵は急激に立ち上がっている。なお、本遺跡地点名は、鎌倉市二階堂字会

下330番9地点である。

谷戸開口部の東西両端には鎌倉宮と荏柄天神社が鎮座している。遺跡名の由来ともなった覚園寺は、真言宗泉涌寺派の寺院で、鎌倉幕府執権北条家歴代の尊崇を集めた寺院である。現在の覚園寺は谷戸の最奥部に位置し、境内および周辺は自然環境が良好に保全され、古都鎌倉の面影をよく残す寺院の一つとして知られている。国史跡となっている境内には、江戸時代に再建された薬師堂をはじめ、地藏堂、愛染堂、祖師堂、庫裏などが立ち並び、鎌倉十井の一つである「棟立ノ井」や、薬師如来の眷属として特に著名な十二神将もある。また、近世に成立したとされる「覚園寺境内絵図」には、本調査地点を含む薬師堂ヶ谷全体が寺の境内として描かれている。

第3節 周辺の考古学的調査

本調査地点を含む覚園寺境内での発掘調査事例としては図中には落とせなかったが、昭和54年から55年にかけて行われた覚園寺境内における防災施設設置に係る発掘調査が初例であろう(大三輪・河野1982)。この調査では、県指定重要文化財旧内海家住宅移転予定地と薬師堂周辺を中心とした20数ヵ所に及ぶ小規模なトレンチ調査区が設定された。境内は国指定史跡であるため、点的な調査ではあったが、岩盤掘削や切石、薬師堂の基壇縁と推定される石列などが確認されたことは大きな成果といえよう。

覚園寺境内の調査以降、覚園寺旧境内遺跡(Na435)における調査は、本地点を含む平地部分5ヵ所と周辺の崖面に「やぐら」の調査例がいくつかあるのみで、表記遺跡内での発掘調査件数は意外に少ない。谷奥の調査事例から追ってみると、谷戸の入口から約450m入った平子川左岸域に位置する①二階堂字平子412番1外地点(汐見1996)が最初で、岩盤面を含めて計4面の遺構面が確認されている。土坑やピットなどがわずかに検出されたのみで、いずれも遺構密度は希薄で調査区西側の先には平子川が流下しており、付近の状況を解明するまでには至っていない。

一方、平子川を50mほど下った右岸側の②二階堂字会下351番3外地点(伊丹2010)では計7面の遺構面が確認され、板壁囲い建物や南北溝、礎板を伴う柱穴などの遺構が検出されている。報告では、覚園寺の景観や寺領の規模を推定できる資料として「覚園寺古図」や「覚園寺境内絵図」などをもとに本調査地点を「覚園寺門前」の位置にあたるとしている。また、南側隣接地の③二階堂字会下351番1地点(馬淵2012)でも計6面の遺構面が確認され、大きく6期に区分し、覚園寺との関わりや前者との関連性を含めて遺構の変遷(13世紀中葉～14世紀中葉)を考察している。これらの調査資料は文献史料から知られる覚園寺の盛期(13世紀末ないし14世紀初頭～14世紀中葉)と近いため、旧寺観を考える上では重要な資料となろう。

これまでの事例に対して谷口に近い調査事例としては、本調査地点の南西側に隣接する④二階堂字会下331番3外地点(齋木・降矢2005)がある。この地点では3面の遺構面が確認され、上部の1・2面では版築面や礎石・溝・土坑などが、3面からは町屋建物の可能性がある杭列や板列が発見されている。これらの遺構面の変化について報告者は、覚園寺の寺域内における土地利用の変化として捉えている。なお、今次調査の地点についても同様の遺構も確認されており、本地点を考察する上では前記地点との関連性を十分に検討する必要があるだろう。

近隣遺跡の調査としては、谷戸内の山裾において「やぐら」の調査例が数地点知られるのみである。いずれも開口しており、防空壕や民家の物置に利用されていたものである。調査例としては少ないが、谷戸の最奥部には150基以上と推定されている「百八やぐら群」をはじめ、薬師堂ヶ谷内部においても一



図1 遺跡位置図

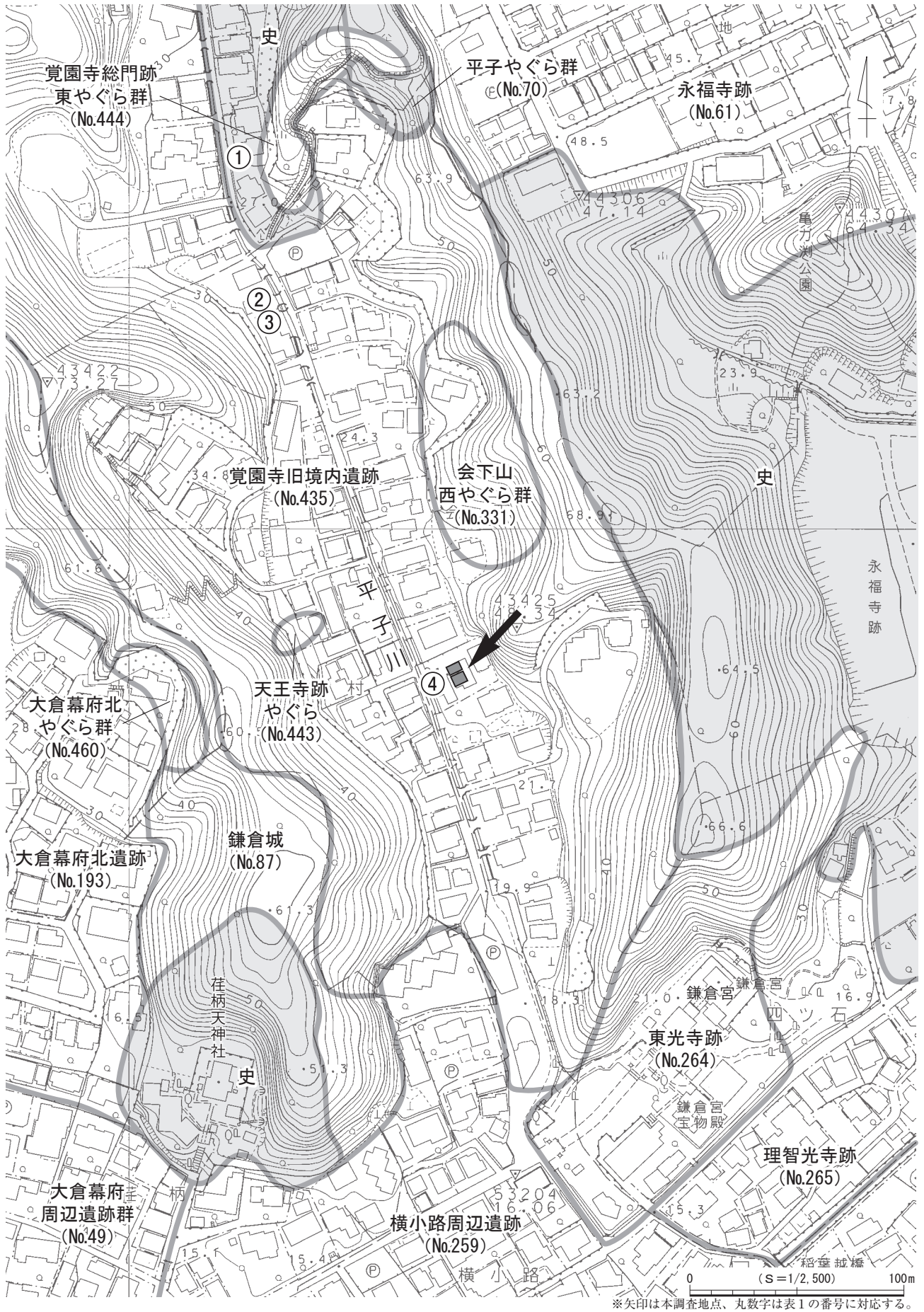


図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

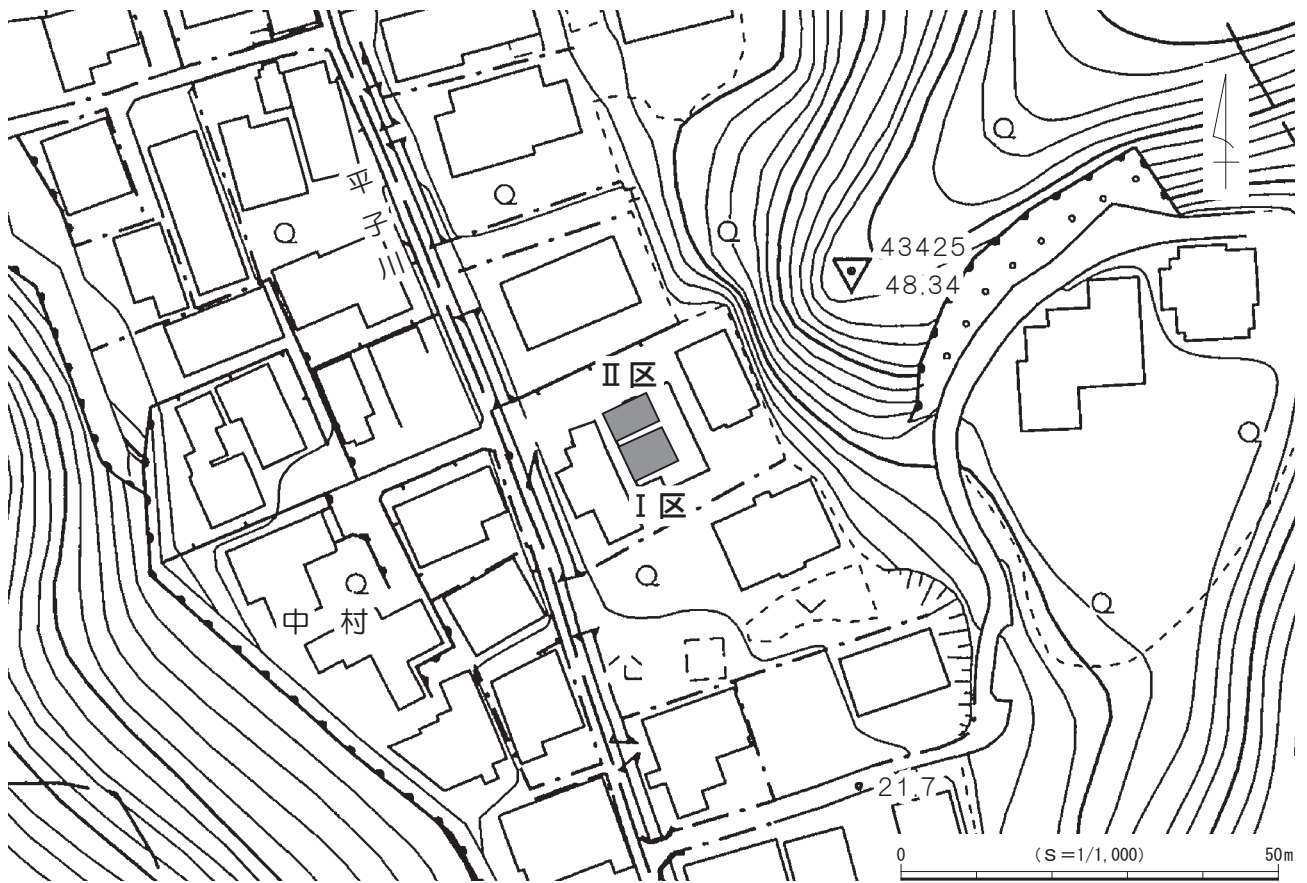


図3 調査区位置図

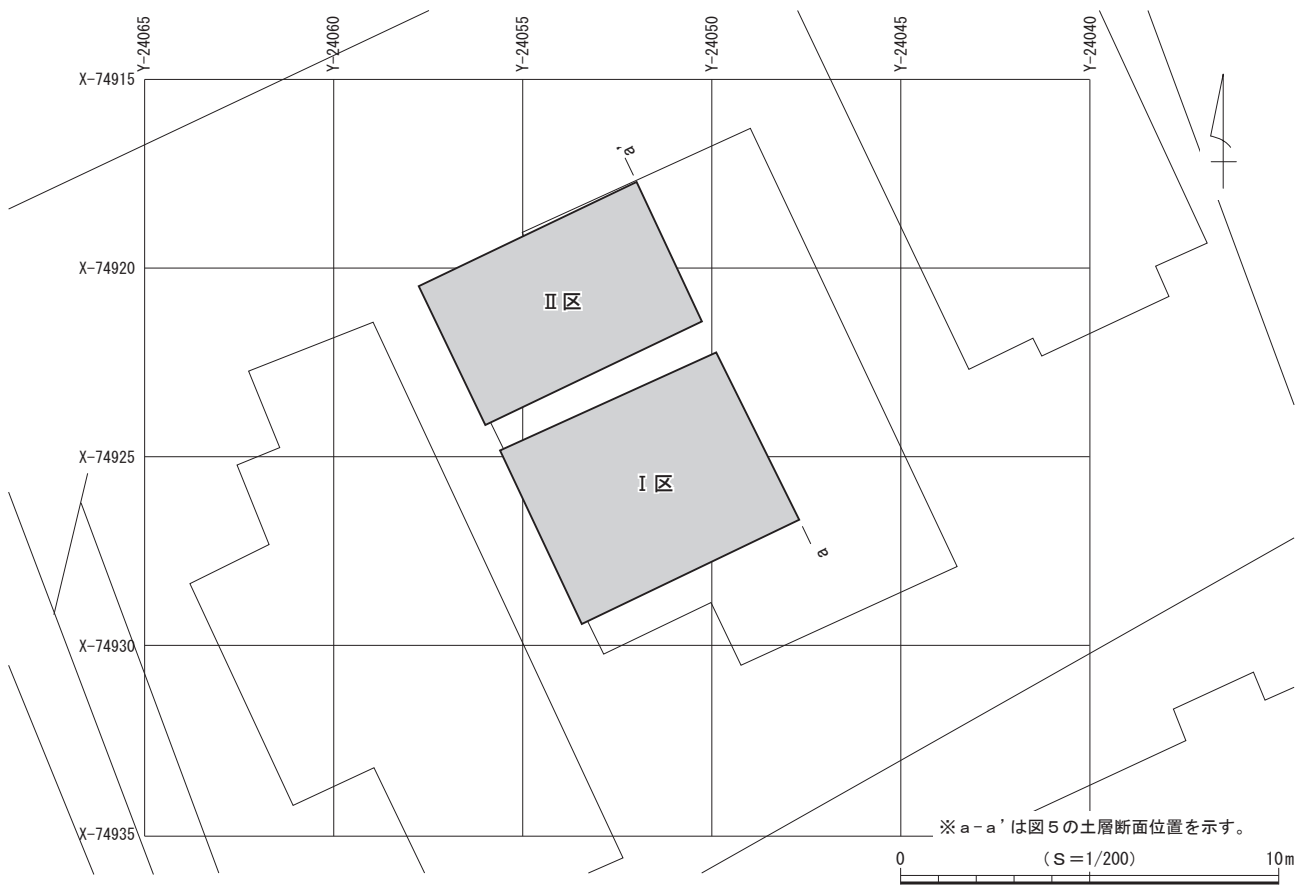


図4 調査区配置図

表1 覚園寺旧境内遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下330番9地点	
①	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下330番1外地点	汐見 1996
②	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下351番3外地点	伊丹 2010
③	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下351番1地点	馬淵 2012
④	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字会下331番3外地点	齋木・降矢 2005

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。

つの枝谷ごとに数基のやぐらが群集している。これら以外にも、薬師堂ヶ谷の東側には源頼朝が創建した永福寺跡や、谷戸開口部の西端には荏柄天神社が大倉幕府の鬼門を守る鎮守社として鎮座している。

第二章 堆積土層

今回の調査では、部分的な堆積土も含めると26層に及ぶ堆積土を確認することができ、現地表面からの深さは最大で1.9mを測る。また、遺構確認面は第1～7面までの計7面が認められ、いずれの面も泥岩ブロックを混入して整地した土層の上面で確認されている。ここでは調査区東壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構がいくつか認められる。

現在の地表面は標高22.3mほどで、層厚20～80cmの表土および現代造成土が堆積している。この表土下に3層とした小泥岩ブロックを含む茶褐色粘質土が堆積しており、I区では標高21.5mほどを測る3層上面より第1面の遺構群を検出した。一方、II区は現代造成土が地表下約60～80cmまで及ぶため2層が削平されており、第1面の遺構はすでに破壊されたものと考えられる。第2面は10層とした泥岩ブロックと砂岩片を混ぜて突き固めた黄褐色泥岩ブロック層上面で遺構を確認した。第2面から10～25cm下位の14層上面が第3面の遺構確認面に相当し、この層は拳大の泥岩ブロックを突き固めた整地層で層厚は10～15cmを測る。第4面の遺構は16・17層の上面で検出し、標高は21.2mほどである。16層は黄褐色泥岩ブ

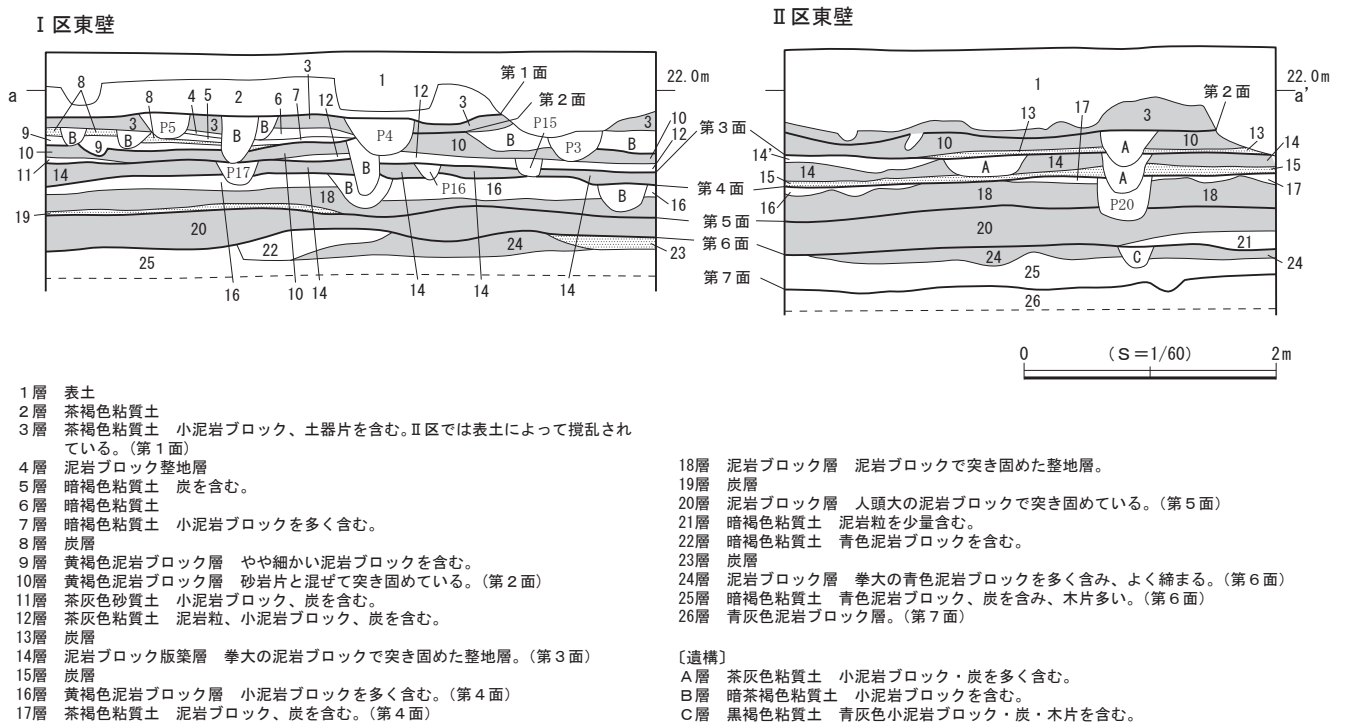


図5 調査区土層断面図

ロック層、17層は茶褐色粘質土で、ともに泥岩ブロックを多く含む土層である。第5面は20層とした人頭大の泥岩ブロックを突き固めた整地層上面で遺構が確認され、確認面の標高は21.0～21.1mほどである。次の第6面はⅡ区のみで遺構を検出し、確認面は24・25層とした泥岩ブロック層上面である。拳大の青色泥岩ブロックを多く含み、よく締まった整地層で、上面の標高は20.7m前後を測る。本地点での最終調査面となる第7面はⅡ区のみで遺構を検出し、26層の上面で確認した。青灰色の泥岩ブロック層で、上面の標高は20.4m前後を測る。

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、調査区を南北に分けて南側をⅠ区、北側をⅡ区と呼称して調査を行い、両調査区間には崩落防止のため幅80～90cmの未調査部分を設けた。遺構確認面は合計7面であり、第1面の遺構はⅠ区でのみ、第6面と第7面の遺構はⅡ区でのみ確認した。また、Ⅰ区の第5面とⅡ区の第7面の遺構調査を終えた段階でⅠ区南西隅とⅡ区北東部において深掘り調査を行い、標高20m付近からⅠ区では板材1点、Ⅱ区では板材2点と瓦1点を検出した。

第1～7面にかけて検出した遺構は、礎石・礎板建物6棟、石列1列、榊状遺構1基、板組遺構3基、溝状遺構2条、土坑18基、ピット55基である。また、第1～7面および深掘り調査からの出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して26箱を数える。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～7面)に説明する。なお、今回検出した建物は、礎石建物と礎板建物、礎石と礎板を併用した礎石・礎板建物が認められたが、これらすべてに通し番号を付して記述を行った。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の3層上面で検出され、確認面の標高は約21.8mを測る。3層は拳大の泥岩ブロックを多く含む整地層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石建物1棟、土坑1基、ピット1基で、すべての遺構は重複することなくⅠ区から発見された(図6)。Ⅱ区は近現代の攪乱が広い範囲に及んでおり、第1面の遺構は確認することができなかった。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀後葉に属すると考えられる。

(1) 礎石建物

第1面では、Ⅰ区の北側から1棟を検出した。この建物はピットと礎石を伴うピットで構成された建物配置で、北および東列のピットは調査区外の北と東側に延びており、全容を捉えることはできなかった。

礎石建物1(図7)

Ⅰ区の中央から東側にかけて位置する。本址の北側2/3の範囲が整地層の上に構築されており、関連がうかがわれる。調査区内ではピットを9基(P1～P9)確認し、このうちの2基(P2・P6)には礎石が据えられていた。東列のP3～P5は全体の約半分が調査区外北東側へと延びており、全容を把握することはできなかった。

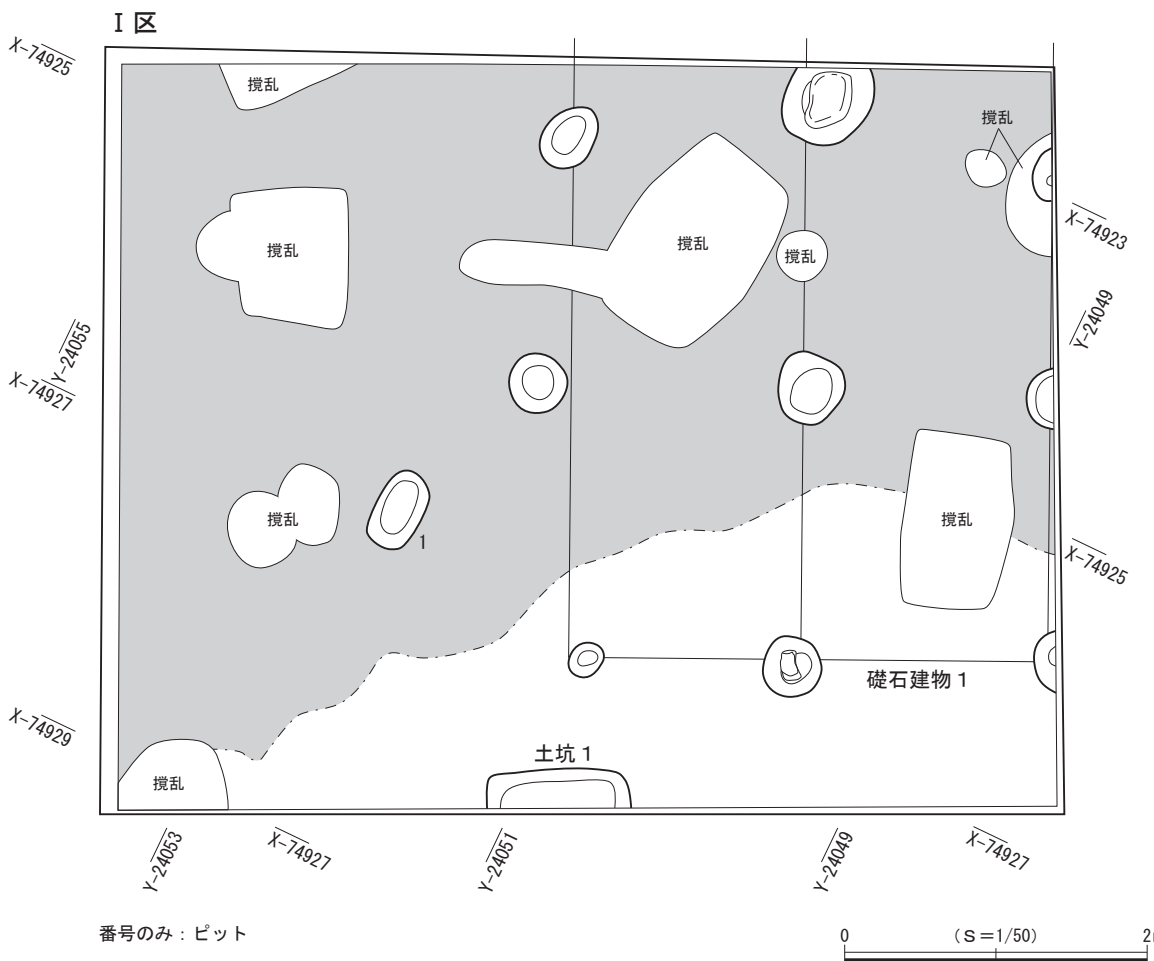
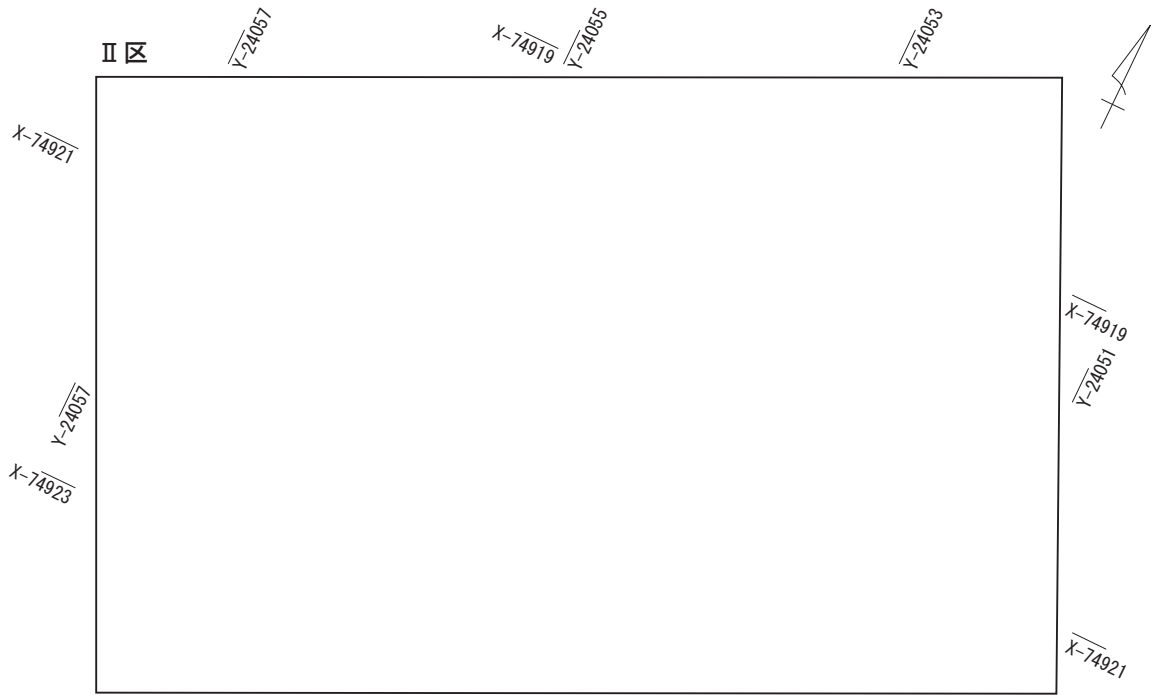


図6 第1面 遺構分布図

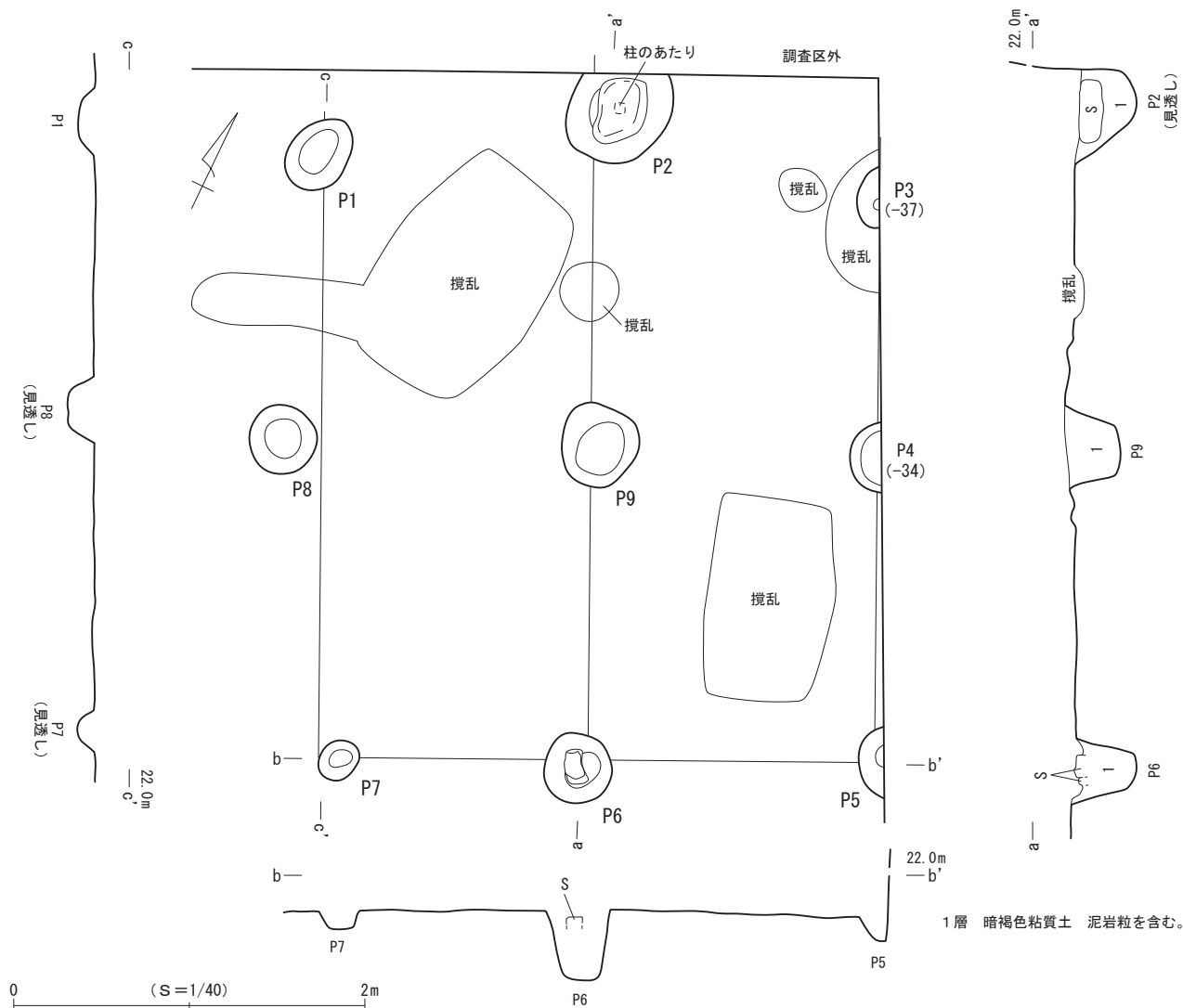


図7 第1面 礎石建物1

本址は東西2間以上、南北2間以上の規模をもつ建物と考えられ、柱間の距離は北列と中列が西から1.8m、1.6m、南列が1.4m、1.8mで、南北方向は西列が北から1.6m、1.8m、中列が2.0m、1.8m、東列が1.5m、1.6mとややばらつきがある。検出範囲から推定される主軸方位は、N-25°-Wである。

ピットの平面形は略円形ないし楕円形を呈する。規模は長軸25~64cm、短軸19~57cm、深さ10~40cmを測り、一定していない。P2の中央には安山岩の円礫が礎石として据えられており、大きさは長さ42cm、幅27cm、厚さ14cm前後を測る。この礎石上面に一辺6cmの方形を呈する柱のあたりが明瞭に認められ、標高は21.74mである。また、P6の中央西寄りに礎石が認められ、長さ20cm、幅10cmを測る。P2・P9の覆土は、泥岩粒を多く含む暗褐色粘質土である。

出土遺物(図8)

遺物はかわらけ28点、陶器9点、土器3点、瓦質土器2点、石製品1点、金属製品2点が出土し、このうち4点を図示した。

1は瀬戸窯産の折縁深皿、2は瓦質土器の火鉢、3・4は鉄製の釘である。

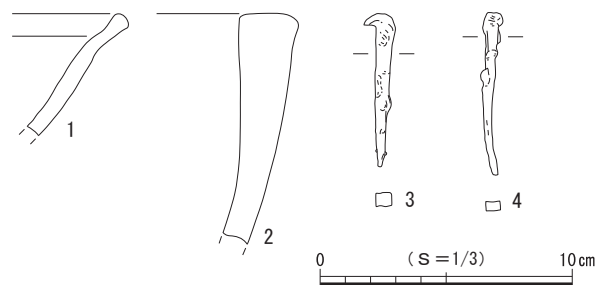


図8 第1面 礎石建物1 出土遺物

(2) 土 坑

第1面では、I区南壁際中央付近で1基を検出した。遺構の大半が調査区外の南側へと延びており、全容を把握することができなかった。

土坑1 (図9)

I区南壁中央付近で検出し、半分以上が調査区外の南側へ延びる。検出された範囲では、平面形は方形を基調とするものと推定される。壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は東西96cm、南北現存長26cm、深さ7cmを測り、坑底面の標高は21.70mである。主軸方位はおおよそN-62°-Eを指すと考えられる。

遺物は出土しなかった。

(3) ピット (図6)

第1面では、I区の調査区中央南西寄りでも1基を検出した。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸54cm、短軸32cm、深さ11cmを測る。覆土は泥岩ブロック粒を多く含む暗褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

(4) 遺構外出土遺物 (図10)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち5点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3～5は常滑窯産の製品で、3が甕、4・5が片口鉢Ⅱ類である。

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の10層上面で検出され、確認面の標高は約21.6～21.7mを測る。10層は泥岩ブロックと砂岩ブロックを多く含む整地層であり、第2面の遺構群はこの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は礎石建物1棟、溝状遺構2条、土坑2基、ピット13基で、ピットは調査区の西半に偏って分布していた(図11)。

これらの遺構のうち、I区の北部で東西方向に検出した溝状遺構1・2は、礎石建物2の主軸方位と直交して作られており、両遺構は有機的な関連をもって機能していた可能性が考えられる。また、調査区南端には東西約3m、南北約80cmの範囲に炭の集中分布が認められたが、掘り込みや遺構との重複関係は認められなかった。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

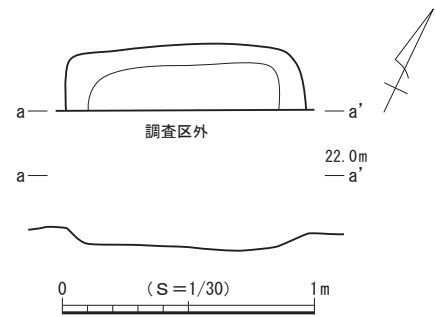


図9 第1面 土坑1

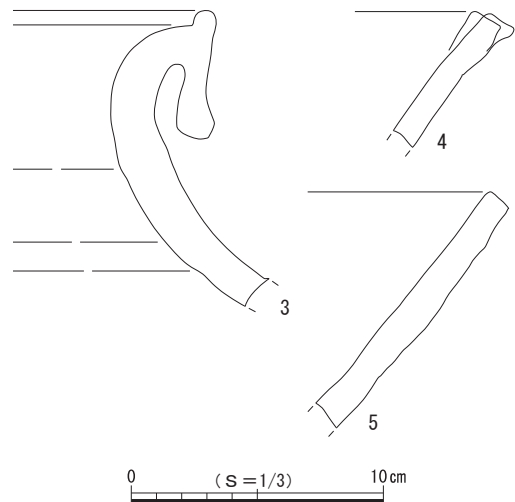
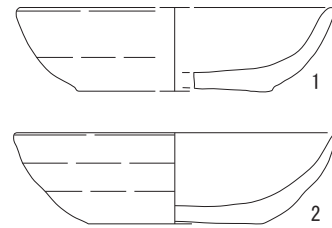


図10 第1面 遺構外出土遺物

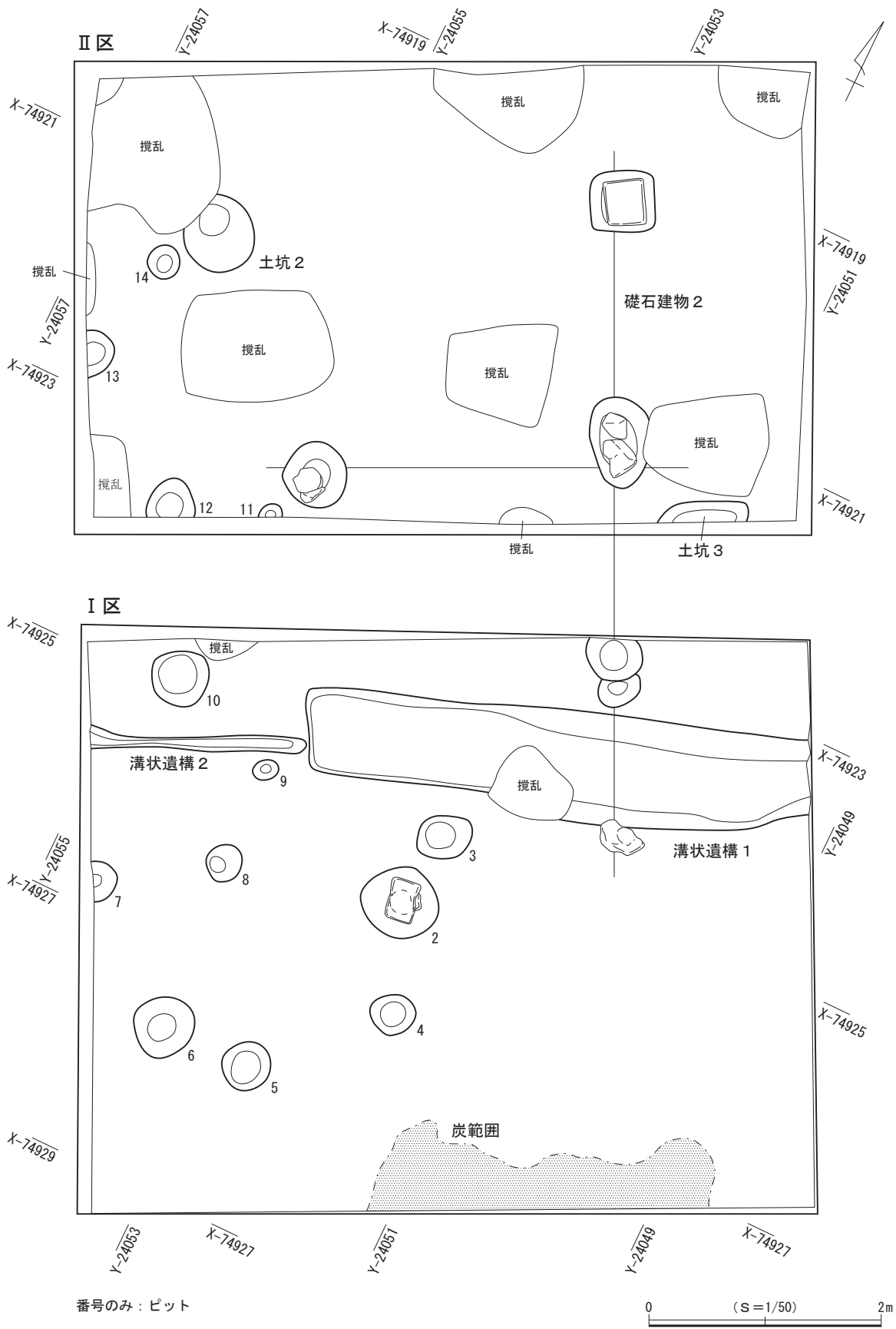


図11 第2面 遺構分布図

(1) 礎石建物

第2面では、I区の北東側からII区の中央東側にかけて1棟を検出した。この建物はピットと礎石を伴うピット、礎石のみを加えた構成による建物配置で、さらに調査区外の東側と北側に延びる可能性が考えられる。ここでは掘り方が確認されなかった礎石についても便宜的にP番号を付し、説明を行った。

礎石建物2 (図12)

I区の北東側からII区の中央東側にかけて検出し、調査区内ではピットが2基(P3・P6)と礎石を伴うピット3基(P1・P2・P5)、礎石のみのもの1基(P4)の計6基が確認された。

南北3間以上の規模をもつ建物と推定され、ピット間の距離は北側から2.1m、1.8m、1.6m、北から2

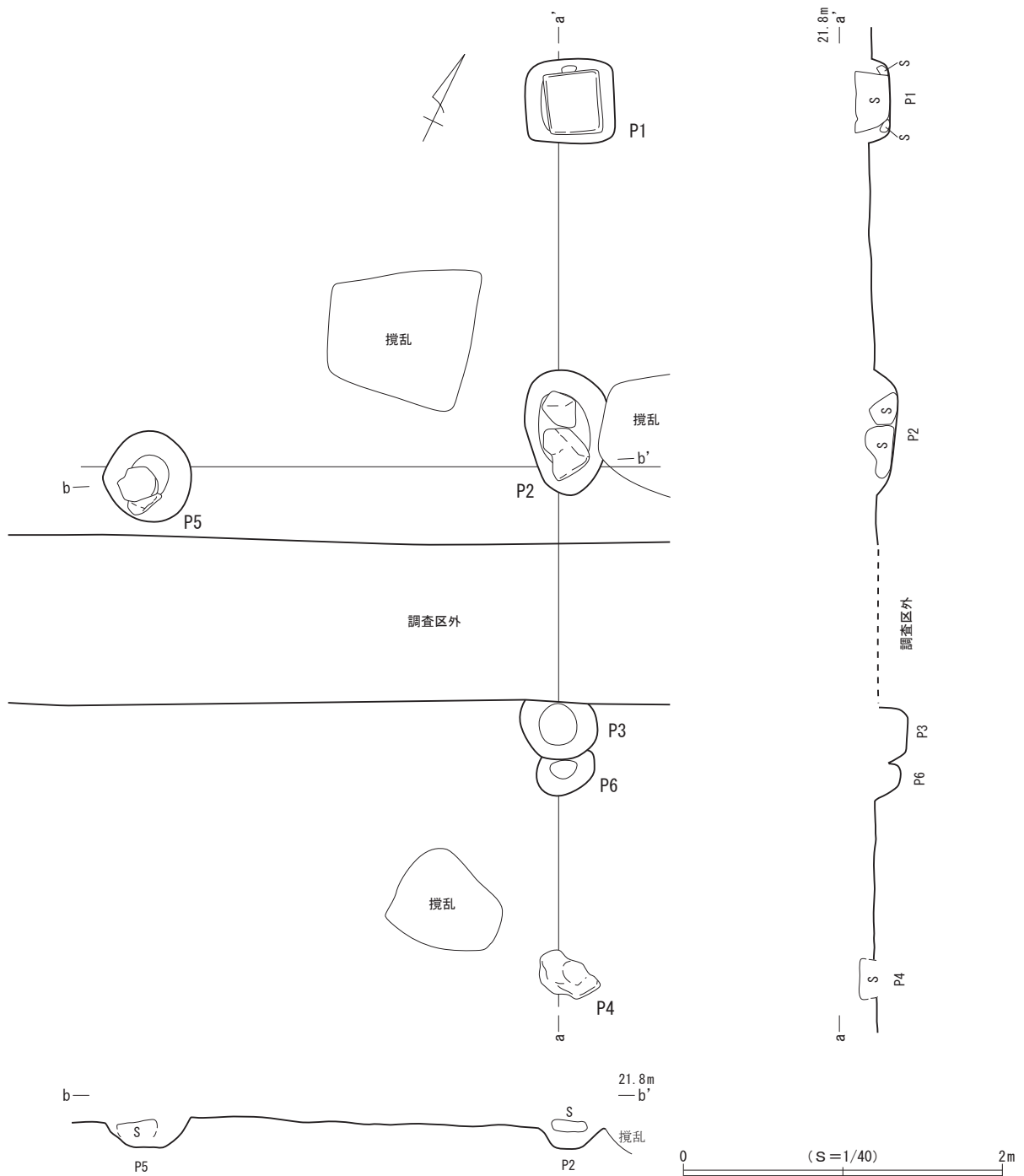


図12 第2面 礎石建物2

本目にあたるP2とその西側に位置するP5の距離は2.7mを測る。検出範囲から推定される主軸方位は、N-25°-Wと考えられる。

ピットの平面形は略円形ないし楕円形、方形を呈し、規模は長軸38~77cm、短軸26~50cm、深さ13~16cmを測る。礎石には砂質凝灰岩の亜角礫や切り石を用い、掘り方が確認されたものは底面直上に据えられている。礎石の大きさは長さ23~37cm、幅18~24cm、厚さ8~18cmを測る。このうちP1は方形の掘り方をもち、長さ40cm、幅34cm、高さ20cmの方形を呈する礎石がほぼ中央に据えられる。また、P2の礎石は火を受けて焼けていた。礎石上面の標高は21.64~21.72mで、ほぼ一定している。

遺物は出土しなかった。

(2) 溝状遺構

第2面では、I区の北側で東西方向に延びる溝状遺構2条を検出した。この2条の溝状遺構は主軸方位がほぼ同じであり、ともに調査区外に続いていることから全容を把握することはできなかった。

溝状遺構1 (図13)

I区北側に位置し、ほぼ真っすぐに東西方向に延びる。本址の西側の端部は調査区内で確認し得たが、東側は調査区外へと延びる。西側端部は主軸方位が同じ溝状遺構2の東側端部と接しており、北側に礎石建物2のP6、南側にP4とした礎石が接している。西側端部の形状は直線的で、丸みを帯びていない。規模は現存長4.37m、幅75~95cm、深さは10cmほどを測り、主軸方位はN-70°-Eを指す。壁は南側ではやや開いて立ち上がり、北側では大きく開いて緩やかな立ち上がりとなる。断面形は逆台形と皿状を呈する部分とが認められる。覆土は小泥岩ブロックと炭を含む茶灰色粘質土である。

遺物はかわらけ10点、陶器1点が出土した。

溝状遺構2 (図13)

I区北側の溝状遺構1の西側に位置し、ほぼ真っすぐに東西方向に延びる。本址の東側の端部は調査区内で確認し得たが、西側は調査区外へと延びている。東側の端部は溝状遺構1の西側端部と接しており、北側にピット10、南側にピット9が近接する。東側端部の形状は丸みを帯び、溝状遺構1の端部形状と異なる。規模は現存長1.88m、幅12~18cmで、深さが6~12cmと西から東に向かって浅くなる。主軸

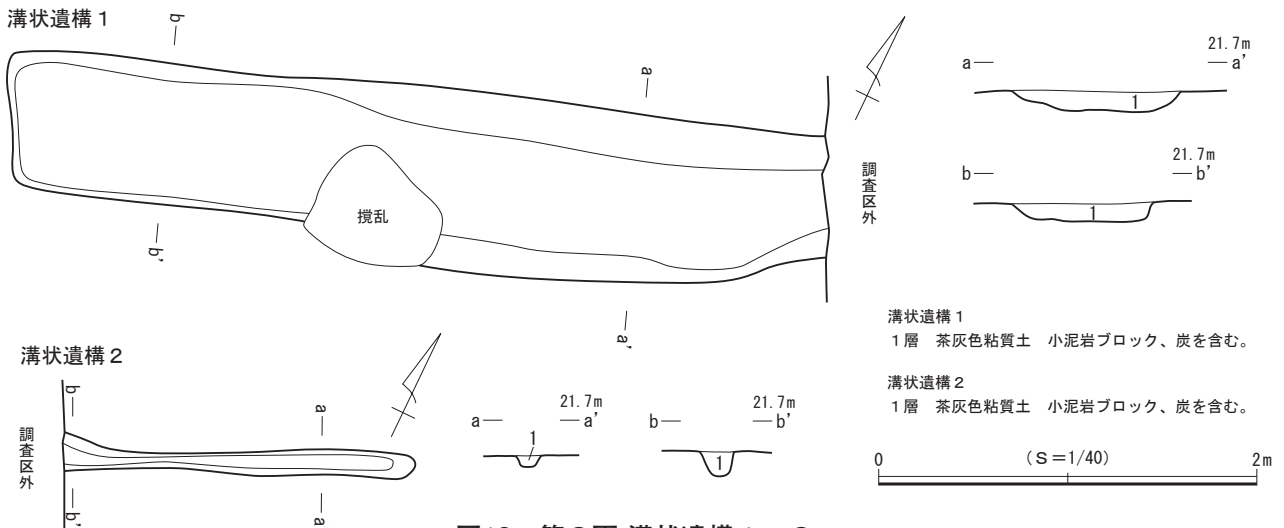


図13 第2面 溝状遺構1・2

方位はN-66°-Eを指す。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。覆土は溝状遺構1に類するもので、小泥岩ブロックと炭を含む茶灰色粘質土である。

遺物はかわらけ3点が出土した。

(3) 土 坑

第2面では、II区の西側と南東壁際から合計2基の土坑を検出した。攪乱による影響や大部分が調査区外にあるため、全容を把握することができなかった。

土坑2 (図14)

II区西側で他の遺構とは重複せず単独で検出した。北西部を攪乱によって壊され、西側にはピット14が隣接する。平面形は略円形を呈し、底面はわずかに丸みを帯びる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径60cm、深さ23cmを測り、坑底面の標高は21.31mである。

遺物は陶器1点が出土した。

土坑3 (図14)

II区の南東壁際で検出した。本址の大部分が調査区外の南側に延びているため、平面形や主軸方位は判然としない。底面はほぼ平坦で壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長76cm、南北現存長17cm、深さ25cmを測り、坑底面の標高は21.40mである。

遺物は出土しなかった。

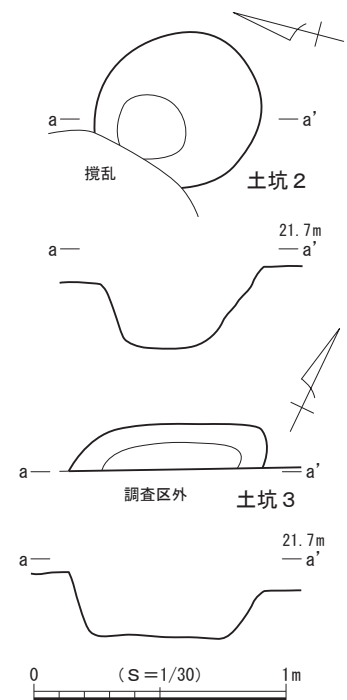


図14 第2面 土坑2・3

(4) ピット(図11)

第2面では、I区から9基、II区から4基の合計13基のピットを検出した。I・II区とも西半部にまとまって分布するが、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。ピットの平面形は略円形のものが主体で、規模は径22~68cm、深さ7~26cmを測る。礎石を伴うピットはI区の中央西寄りに位置するピット2のみである。ピット2・3・5・8・10の覆土は共通しており、小泥岩ブロックと炭を多く含む茶灰色粘質土が堆積していた。また、ピット12の覆土は、小泥岩ブロックと炭を含む暗灰褐色粘質土である。

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

以下、礎石が据えられたピット2を図示し、説明する。

ピット2 (図15)

I区の中央西寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。

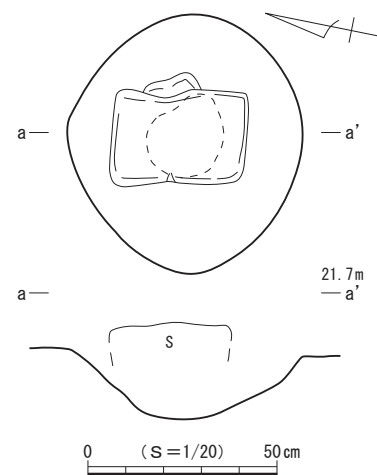


図15 第2面 ピット2

平面形は略円形、断面形はU字形を呈し、規模は径68cm、深さ14cmである。礎石はピットのほぼ中央に据えられ、全体に被熱した砂質凝灰岩の垂角礫を用いている。大きさは長さ36cm、幅25cmを測り、礎石上面の標高は21.62mである。

遺物はかわらけ1点が出土した。

(5) 遺構外出土遺物 (図16~18)

第2面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち98点を図示した。

1~68はロクロ成形によるかわらけである。1~3・8・12・17・19・28・29・36・41・43には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。69~78は陶器類である。69~72は瀬戸窯産の製品で、69・70が折縁深皿、71・72が入子である。73~78は常滑窯産の製品で、73が甕、74が片口鉢Ⅰ類、75~78が片口鉢Ⅱ類である。79~83は瓦質土器の火鉢である。84・85は砥石である。86~98は金属製品である。86は掛金具、87~98は鉄製の釘である。

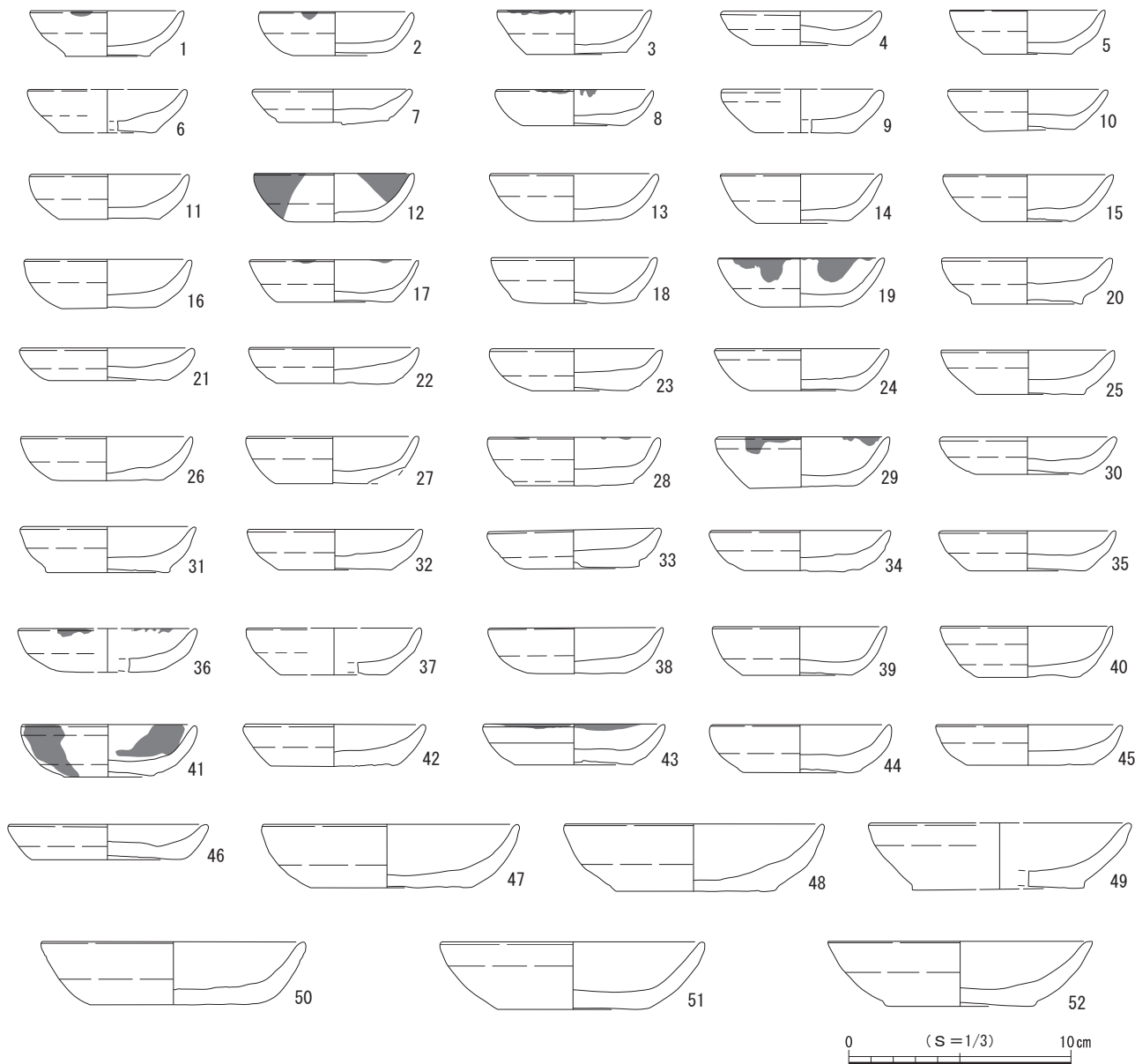


図16 第2面 遺構外出土遺物 (1)

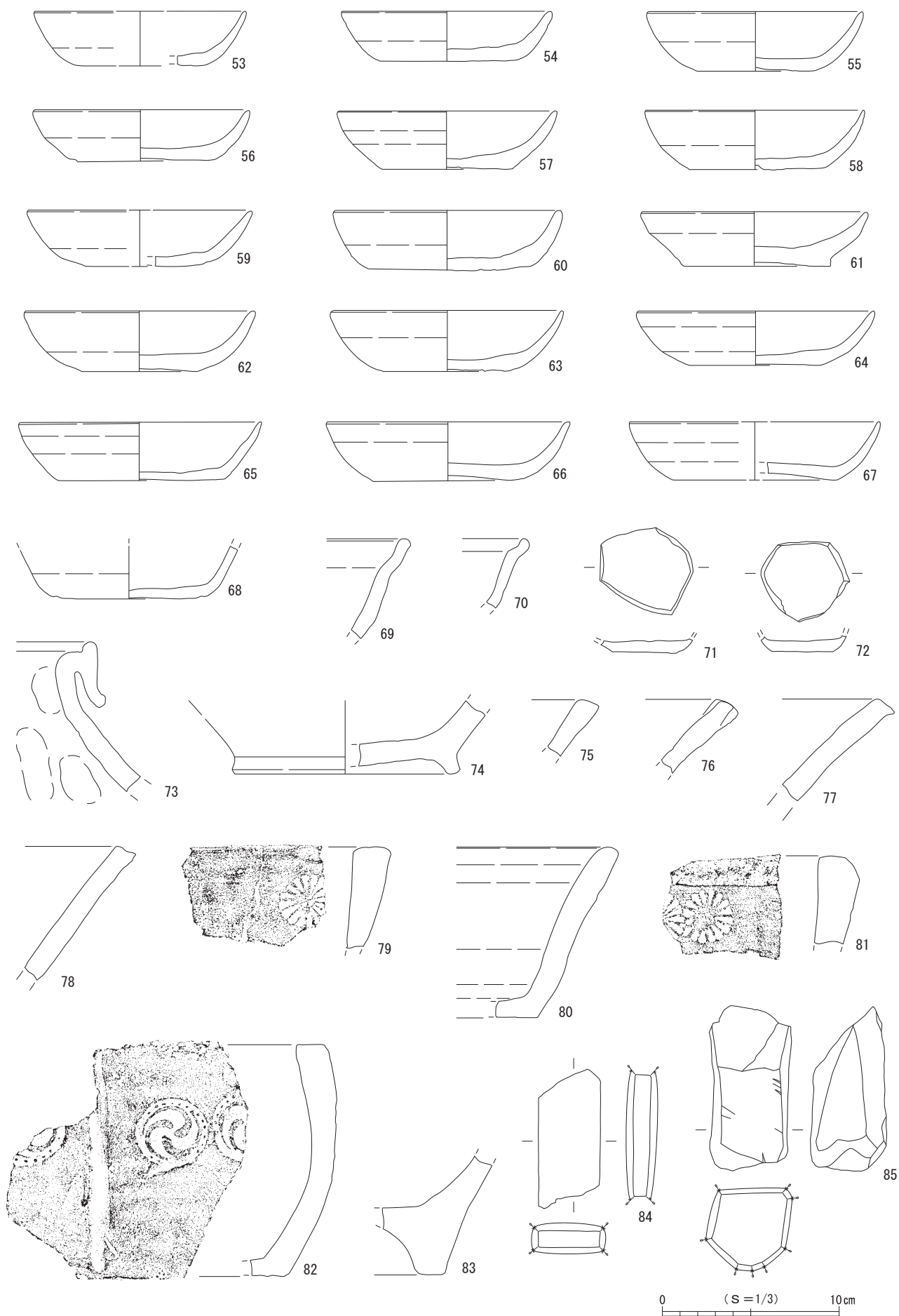


图17 第2面 遺構外出土遺物 (2)

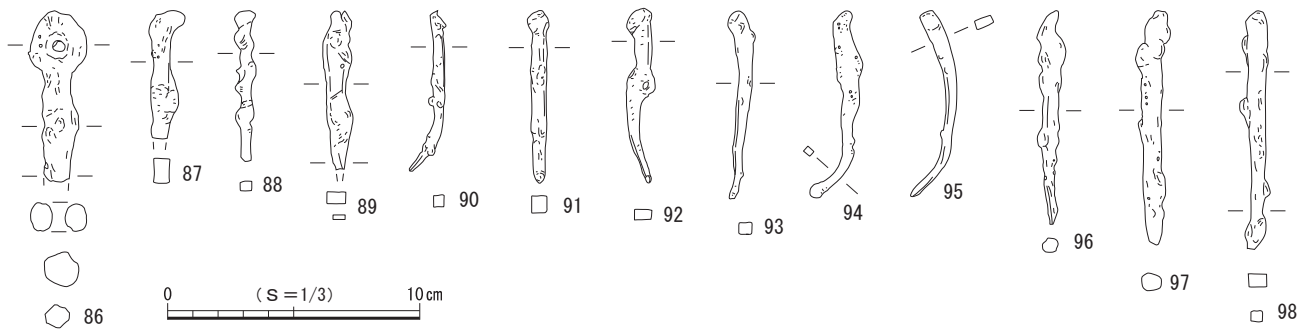


図18 第2面 遺構外出土遺物 (3)

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の14層上面で検出され、確認面の標高は約21.5mを測る。14層は拳大の泥岩ブロックを多く混入した土を突き固めた整地層であり、第3面の遺構の多くはこの層を掘り込んで構築されていた。Ⅱ区では14層直上に層厚5cm前後の炭層が広がっており、火災の痕跡と考えられる。検出した遺構は礎石建物1棟、土坑5基、ピット13基で、ピットはⅡ区に偏って分布していた(図20)。また、礎石建物は整地層の範囲に重なって検出されており、両者の関連がうかがわれる。なお、Ⅱ区の東壁際に南北2.8m、東西70cmにわたる被熱範囲が認められたが、検出遺構との関連は判然としない。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

(1) 礎石建物

第3面では、Ⅰ区の中央付近からⅡ区の北端にかけて1棟を検出した。この建物はピットと礎石を伴うピット、礎石のみを加えた構成による建物配置で、さらに調査区外の東側と北側に延びるものと考えられる。ここでは掘り方が確認されなかった礎石のみのものも便宜的にP番号を付し、説明を行った。

礎石建物3 (図21)

Ⅰ区の中央付近からⅡ区の北端にかけて検出し、調査区内ではピットが2基(P8・P9)と礎石を伴うピット6基(P1～P4・P6・P7)、礎石のみのもの1基(P5)の計9基が確認された。調査範囲の制約から建物全体の構造および規模は判然としないが、おおよそ南北方向に主軸をもつ礎石建物と考えられる。

ピット間の距離は東列が北側から1.2m、1.9m、北から2本目にあたるP2から西へ1.8m、1.9m、西列が北から2.1m、2.0m、南列が2.1mを測る。

ピットの平面形は略円形ないし略楕円形を呈し、規模は長軸21～72cm、短軸15～56cm、深さ8～22cmを測る。礎石には垂円礫を用い、掘り方が確認されたものは底面直上に据えられている。礎石の大きさは長さ22～46cm、幅19～30cm、高さ10～18cmを測り、礎石上面の標高は21.24～21.38mである。

出土遺物 (図19)

遺物がかわらけ8点、陶器2点、土器2点、瓦質土器1点、金属製品1点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

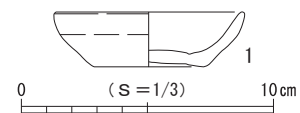


図19 第3面 礎石建物3出土遺物

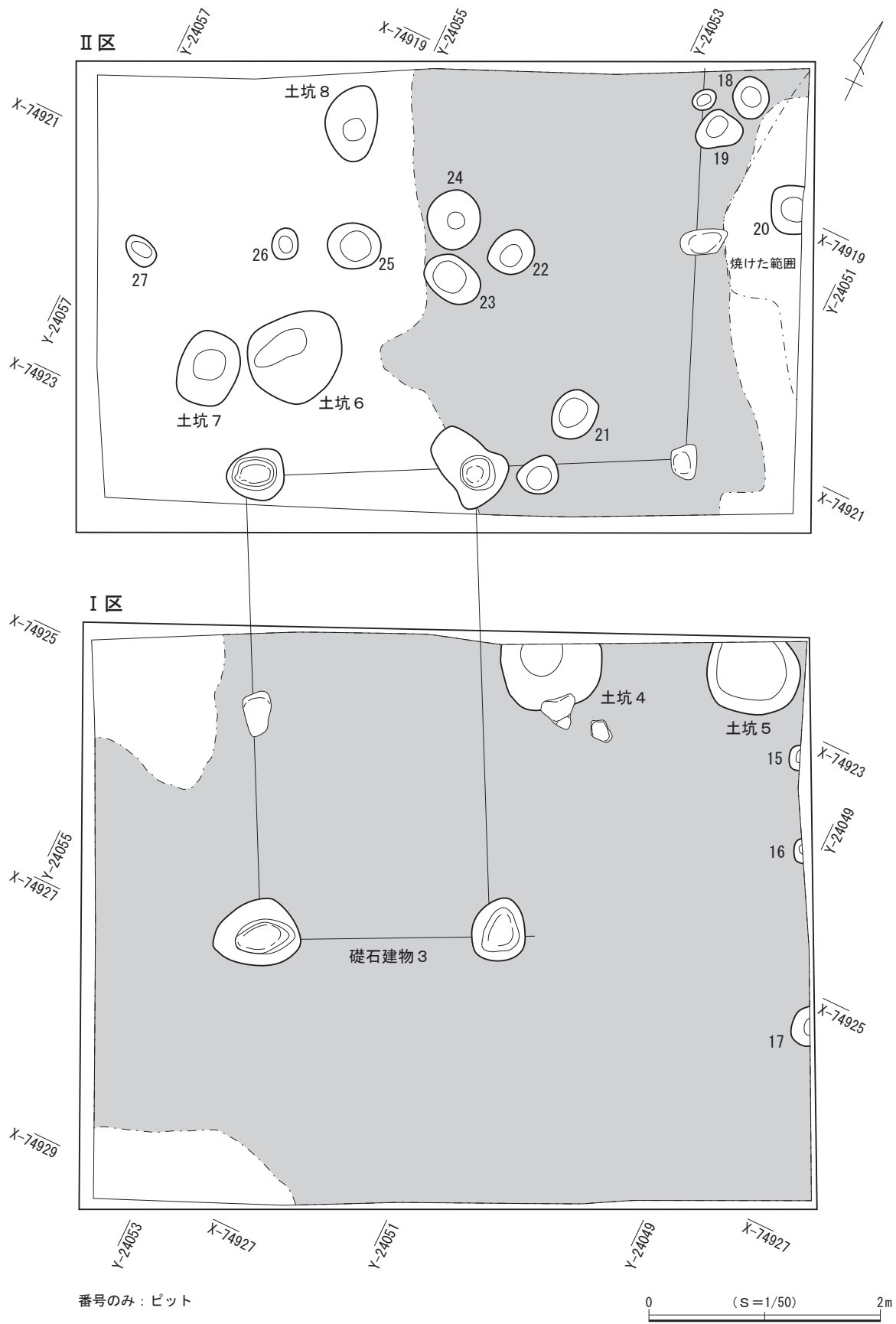


図20 第3面 遺構分布図

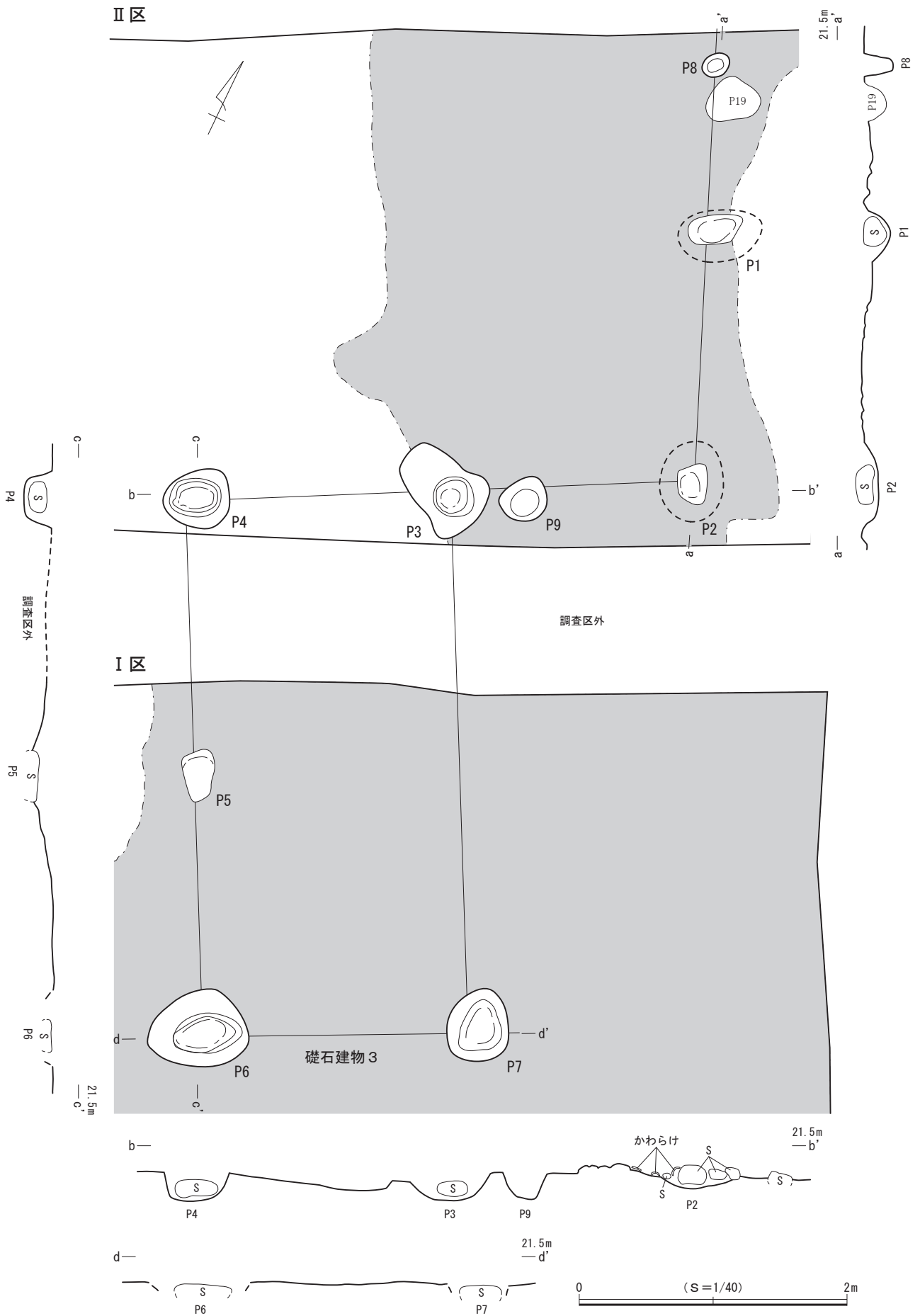


図21 第3面 礎石建物3

(2) 土 坑

第3面では、I区の北壁際から2基、II区の西半部から3基の合計5基の土坑を検出した。I区北壁際の2基は一部が調査区外にあるため、全容を把握することができたのは3基であった。平面形は略円形ないし不整円形、略楕円形を呈し、規模は長軸が62～86cmで、深さは10cmに満たないものから30cm前後のものまでばらつきがある。

土坑4 (図24)

I区北壁際の東寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。本址の北側2/3ほどは調査区外へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は略円形を呈すると推定され、底面は平坦で壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径86cm、深さ29cmを測り、坑底面の標高は20.98mである。覆土は泥岩粒と炭を含む褐色粘質土である。

出土遺物 (図22)

遺物はかわらけ15点が出土し、このうち5点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。1・3・5には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑5 (図24)

I区北隅に位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。本址の北側の一部が調査区外へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は略円形を呈すると推定され、底面はほぼ平坦である。壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は径80cm、深さは6cmと浅い。坑底面の標高は21.20mである。覆土は泥岩粒と炭を含む暗茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図23)

遺物はかわらけ4点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。1には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑6 (図24)

II区中央西寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は不整円形を呈し、底面は傾斜して北側がわずかに高くなる。壁は東側半分は大きく開いて立ち上がり、西側半分はごくわずかに開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は径86cm、深さ26～32cmを測り、坑底面の標高は最も低い南側で20.96mである。

遺物は出土しなかった。

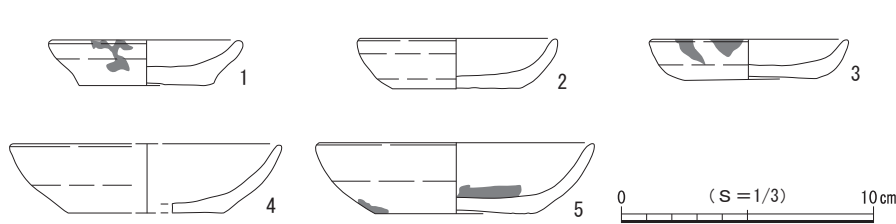


図22 第3面 土坑4 出土遺物

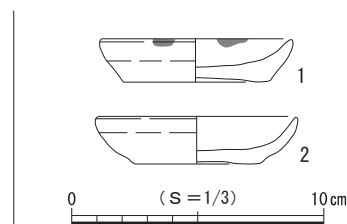


図23 第3面 土坑5 出土遺物

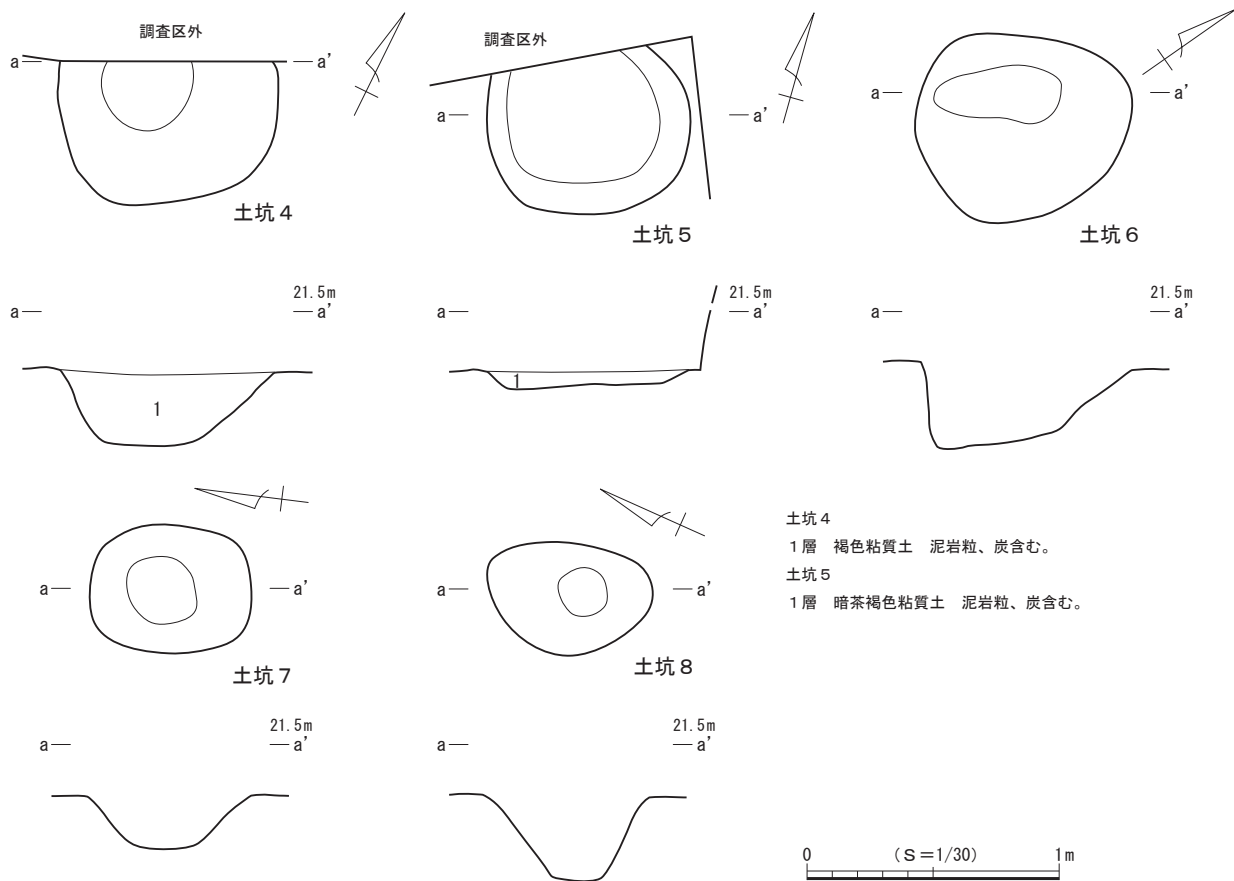


図24 第3面 土坑4～8

土坑7 (図24)

Ⅱ区の西壁近くに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は略楕円形を呈し、底面は平坦で壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ21cmを測り、坑底面の標高は21.10mである。主軸方位はN-9°-Wを指す。

遺物はかわらけ4点が出土した。

土坑8 (図24)

Ⅱ区北壁際の西寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らで壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65cm、短軸43cm、深さ31cmを測り、坑底面の標高は20.97mである。主軸方位はN-24°-Wを指す。

遺物はかわらけ4点、陶器1点が出土した。

(3) ピット (図20)

第3面では、Ⅰ区から3基、Ⅱ区から10基の合計13基のピットを検出した。Ⅰ区の東壁際とⅡ区の全面に分布が認められるが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形と楕円形のもので、規模は径20～51cm、深さ6～30cmを測る。礎石や礎板を伴うピットは検出されていない。

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

(4) 遺構外出土遺物 (図25・26)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち56点を図示した。

1～43はロクロ成形によるかわらけである。3には漆が付着しており、パレットとしての使用が考えられ、また7・9・14・15・23・24・30・37・40には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。44は瀬戸窯産の入子である。45～49は常滑窯産の製品で、片口鉢I類である。50は瓦質土器の火鉢、51は滑石製品、52・53は砥石、54～56は鉄製の釘である。

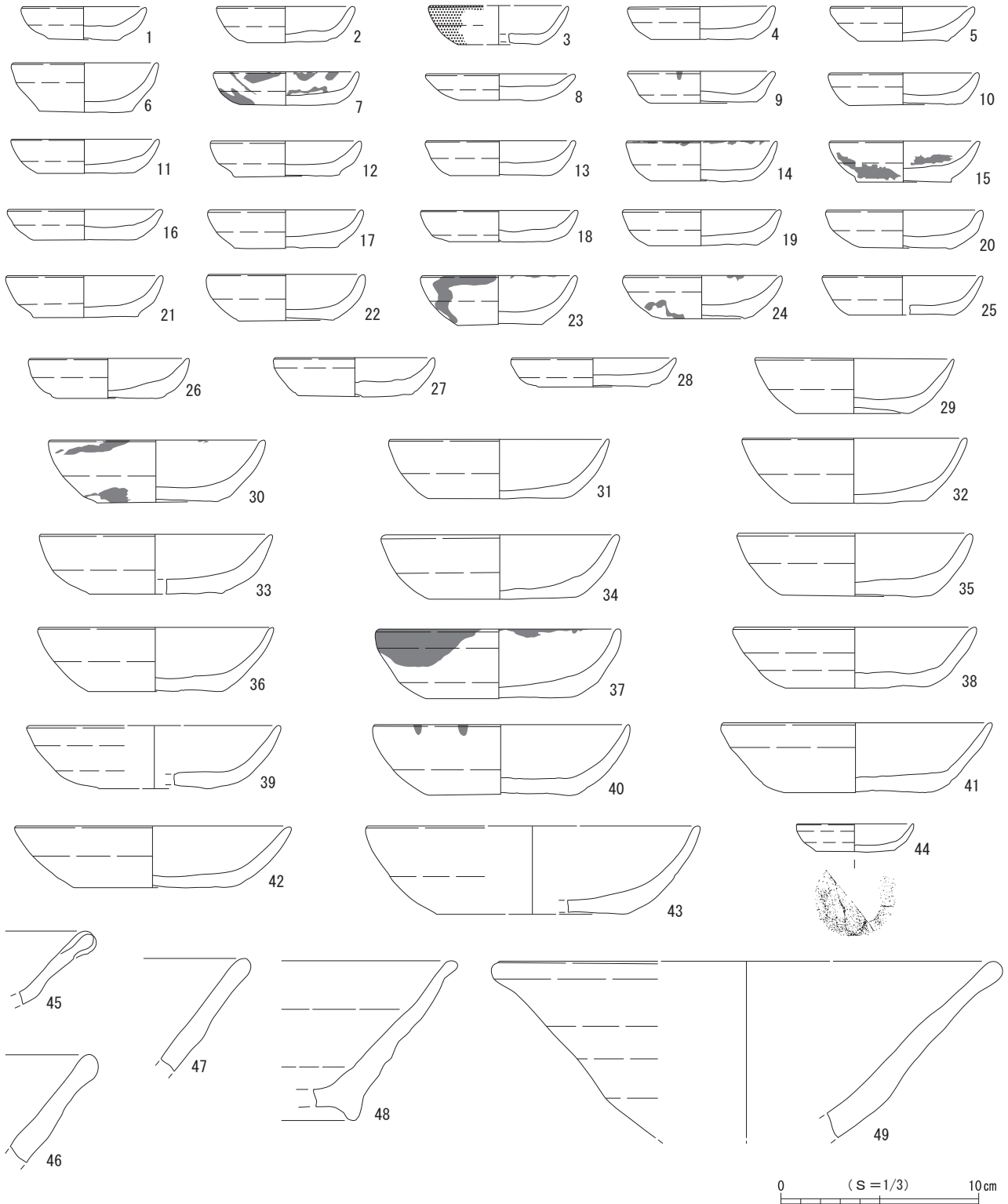


図25 第3面 遺構外出土遺物 (1)

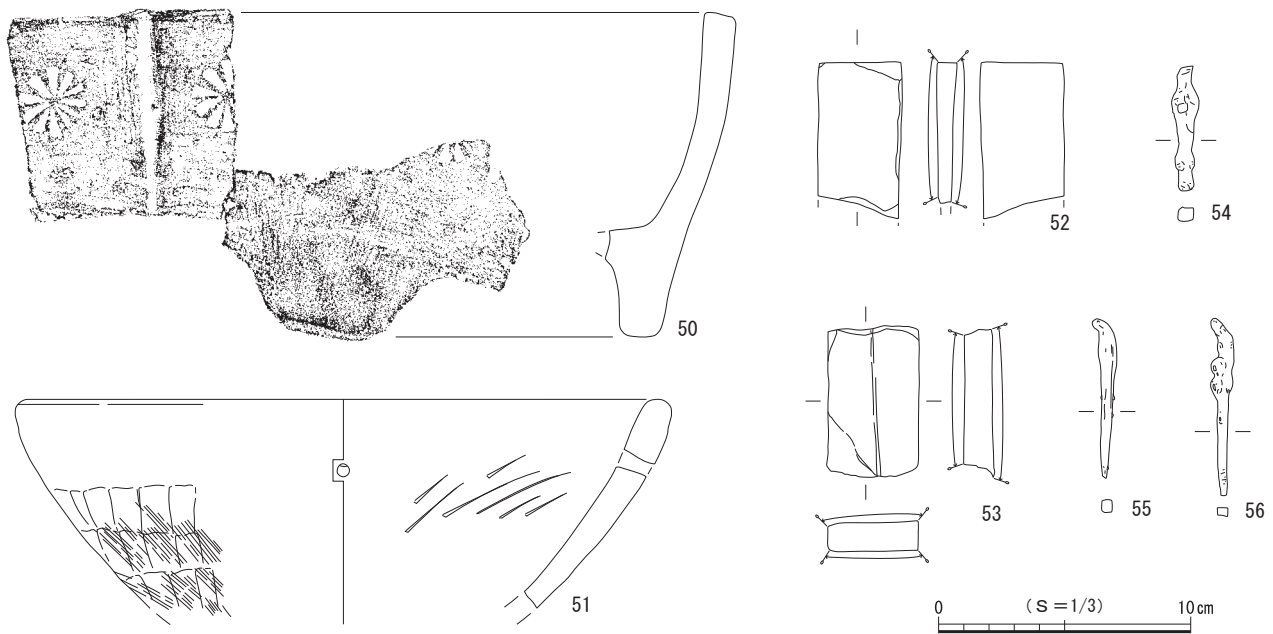


図26 第3面 遺構外出土遺物（2）

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面の遺構は堆積土層の16・17層上面で検出され、確認面の標高は約21.2mを測る。16・17層は泥岩ブロックを多く含む土層で、I区の東半部とII区西側に人頭大の泥岩ブロックを突き固めた整地層が広い範囲に形成されていた。II区ではこの16・17層の直上に炭層が広がっていた。検出した遺構は礎石・礎板建物1棟、石列1列、土坑6基、ピット9基で、調査区全体に満遍なく分布していた(図27)。II区に位置する石列の主軸は礎石・礎板建物の主軸とほぼ同じ方向を指し、両遺構は関連をもつ可能性がある。また、石列に重複して3.1×1.8mの範囲に炭化物の分布が認められた。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

(1) 礎石・礎板建物

第4面では、I区の南側からII区の北端にかけて1棟を検出した。この建物はピットと礎石ないし礎板を伴うピット、礎石のみを加えた構成による建物配置で、さらに調査区外に延びるものと考えられる。ここでは掘り方が確認されなかった礎石のみのもも便宜的にP番号を付し、説明を行った。

礎石・礎板建物4 (図28・29)

I区の南側からII区の北端にかけて位置し、調査区外へ続くと考えられる。調査区内ではピットが9基(P4・P7・P8・P10～P14・P15)と礎石を伴うピット1基(P1)、礎板を伴うピット4基(P2・P3・P5・P6)、礎石のみのも1基(P9)の計15基が確認された。調査範囲の制約から建物全体の構造は判然としないが、おおよそ南北方向に主軸をもつ礎石・礎板建物と考えられる。

ピット間の距離はP1-P5列が北側から1.0m、1.0m、4.0m、P5から西へ2.0m、P6から南へ2.1m、P2-P4列が西側から2.1m、2.1mを測る。これらのピットの間に見られるP8・P10～P15は規模が

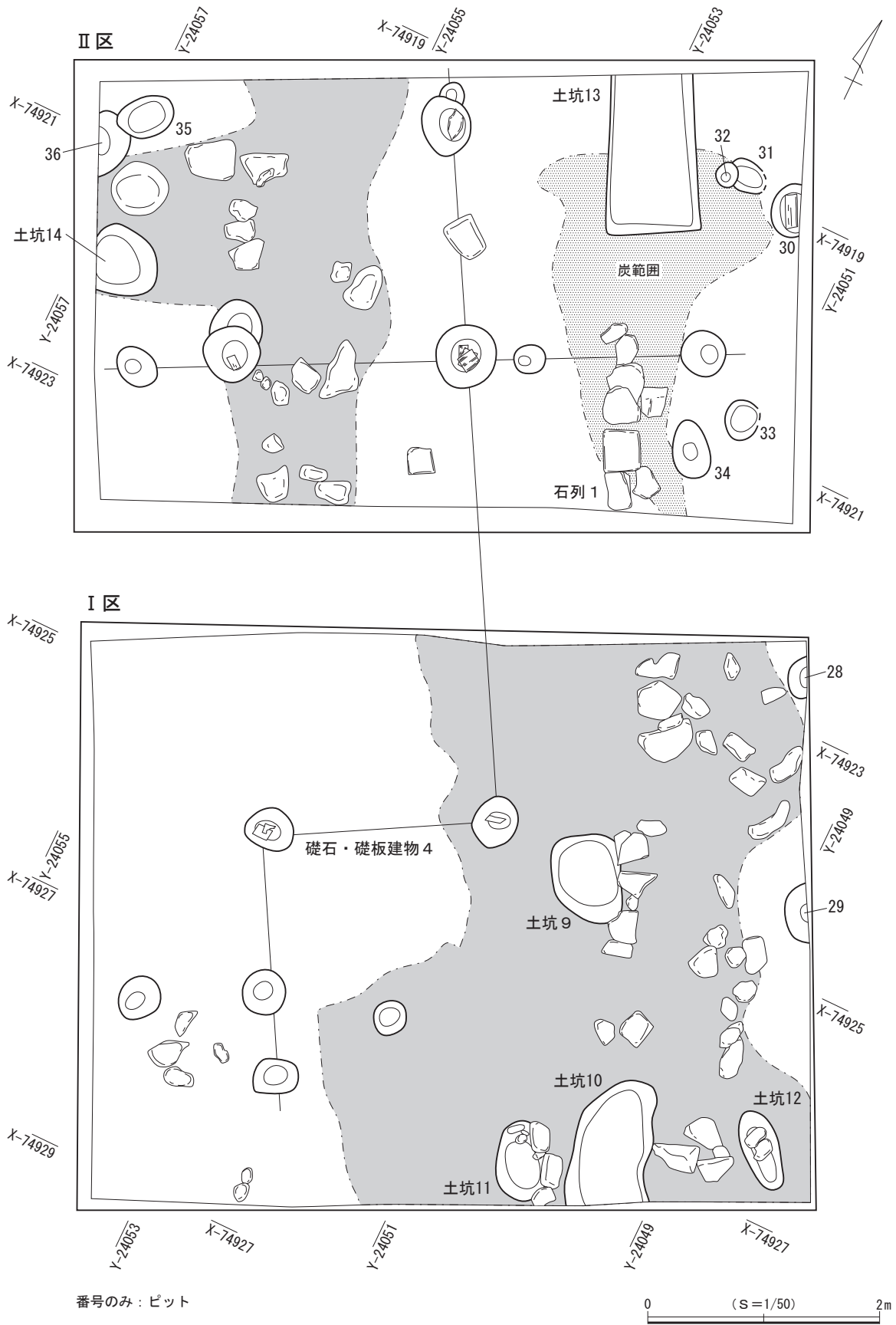


図27 第4面 遺構分布図

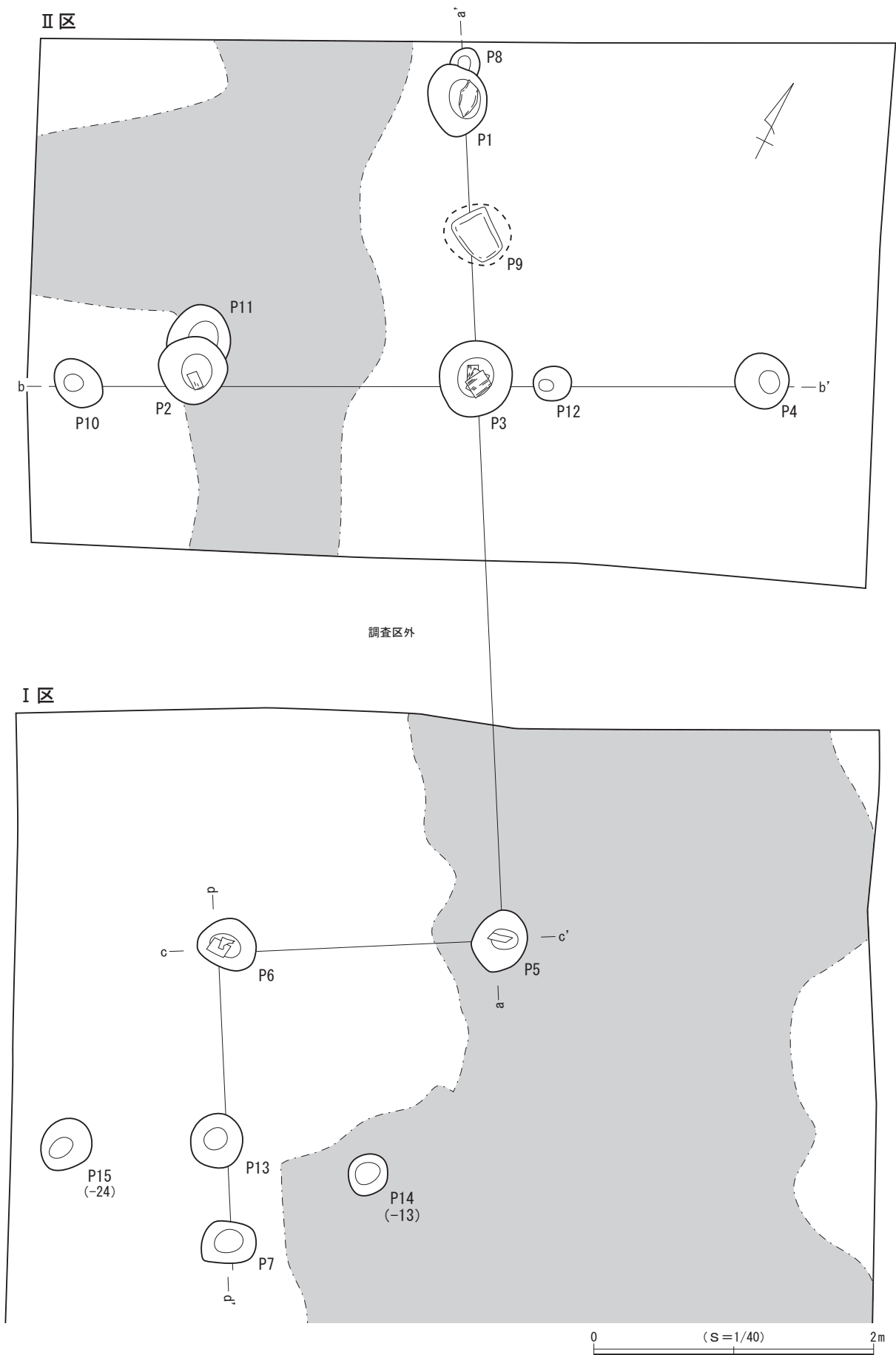


图28 第4面 礎石・礎板建物4 (1)

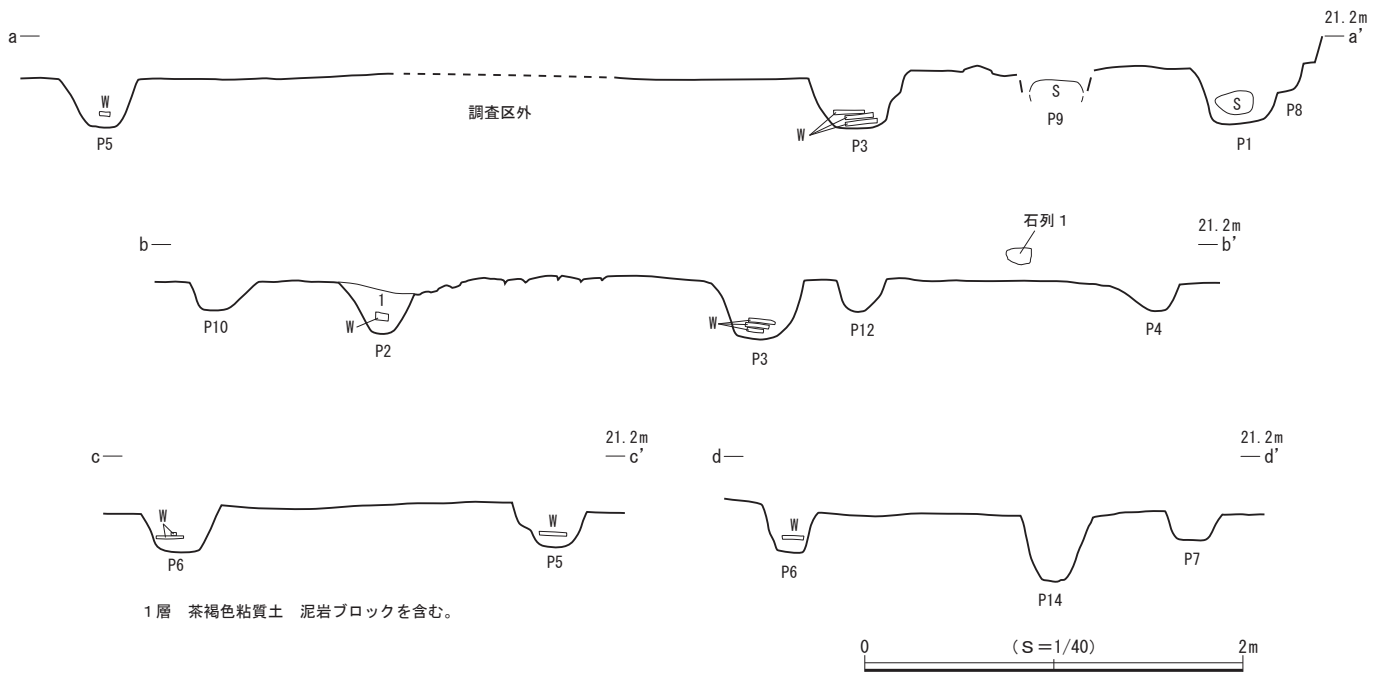


図29 第4面 礎石・礎板建物4 (2)

小さく、補助的な柱の可能性がある。

ピットの平面形は略円形ないし略楕円形を呈し、規模は長軸26~52cm、短軸20~41cm、深さ13~34cmを測る。P1とP9の礎石には安山岩の垂角礫を用い、P1の礎石は底面よりわずかに浮いて据えられている。礎石の大きさはP1が長さ26cm、幅11cm、高さ11cm、P9が長さ35cm、幅26cmを測り、礎石上面の標高は20.92mと20.99mである。また、礎板はピットの中央にほぼ水平に据えられており、P3の礎板は3枚が重なった状態で検出された。大きさは長さ10~14cm、幅5~12cm、厚さは2cm内外で、礎板上面の標高は20.80~20.85mとほぼ一定している。

P2の覆土は泥岩ブロックを含む茶褐色粘質土である。

遺物はかわらけ6点、陶器5点が出土した。

(2) 石列

第4面では、II区の南東部から1列を検出した。泥岩を列状に配置した遺構で、I区からは延長部分を検出し得なかったが、I区とII区間の未調査区に延びている可能性も考えられる。

石列1 (図30)

II区の南東部に位置し、調査区外の南側へと延びる可能性がある。泥岩の垂角礫を西面が直線的になるよう列状に配置し、礫の上面はほぼ水平になる。規模は長軸1.61m、短軸52cmで、主軸方位はN-26°-Wを指す。泥岩の大きさは長さ24~38cm、幅12~32cm、厚さ10~15cm、礫上面の標高は21.16~21.23mを測る。

遺物は出土しなかった。

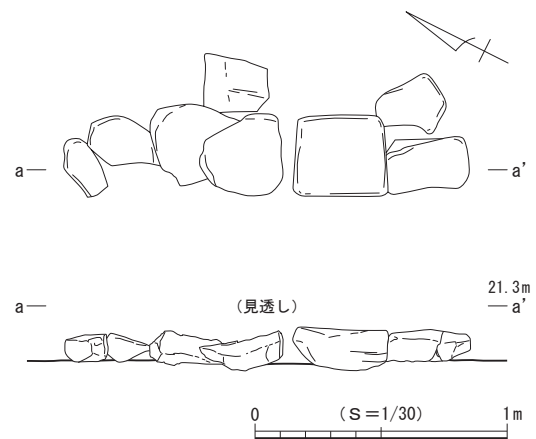


図30 第4面 石列1

(3) 土 坑

第4面では、I区の東側から4基、II区の北東端と西壁際から各1基の合計6基を検出した。I区南壁際の1基とII区の2基は一部が調査区外にあるため、全容を把握することができたのは3基であった。平面形は略円形、楕円形、長楕円形、長方形を呈し、規模は長軸が66～136cm以上で、深さは8～20cmと浅いものが多くみられる。

土坑9 (図31)

I区中央の東寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、底面はわずかな凹凸をもつ。壁は南側が大きく外傾し、北側と東側はわずかに開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸74cm、短軸60cm、深さ17cmを測り、坑底面の標高は20.78mである。主軸方位はN-40°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑10 (図31)

I区の南壁際に位置し、調査区外の南側へと延びている。調査区内では他の遺構と重複せず、西側に土坑11が隣接する。調査範囲から推定される平面形は不整長楕円形で、底面はほぼ平坦に整えられる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.05m、短軸70cm、深さ20cmを測り、坑底面の標高は20.78mである。主軸方位はN-21°-Wを指す。覆土は小泥岩ブロックと炭化物を含む茶灰色粘質土である。

出土遺物 (図32)

遺物はかわらけ14点、陶器10点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

土坑11 (図31)

I区南壁際の中央に位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。東側に土坑10が隣接する。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦である。壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸66cm、短軸45cm、深さ10cmを測り、坑底面の標高は20.85mである。主軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑12 (図31)

I区南東隅に位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は長楕円形を呈し、底面は傾斜して南東側が低くなる。壁はやや開いて立ち上がり、北側のみ大きく開いて緩やかに立ち上がる。断面形は不整な逆台形を呈する。規模は長軸72cm、短軸30cm、深さ10～16cmを測り、坑底面の標高は最も低い南側で20.84mである。主軸方位はN-46°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑13 (図31)

II区北壁際の東寄りに位置し、調査区外の北側へと延びている。調査範囲から推定される平面形は長

方形を呈し、底面は平坦である。壁は開いて緩やかに立ち上がり、西壁のみわずかに開く急な立ち上がりをもつ。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.36m、短軸81cm、深さ11cmを測り、坑底面の標高は21.00mである。主軸方位はN-25°-Wを指す。

出土遺物 (図32)

遺物はかわらけ1点、土器1点が出土し、このうち1点を図示した。

3はロクロ成形によるかわらけである。

土坑14 (図31)

Ⅱ区西壁際の中央に位置し、一部が調査区外の西側へ延びている。平面形は略円形と推定され、底面は平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長64cm、深さ8cmを測り、坑底面の標高は20.91mである。

出土遺物 (図32)

遺物はかわらけ8点、金属製品1点が出土し、このうち1点を図示した。

4はロクロ成形によるかわらけである。口唇部~体部に煤が付着し、灯明具としての使用が認められる。

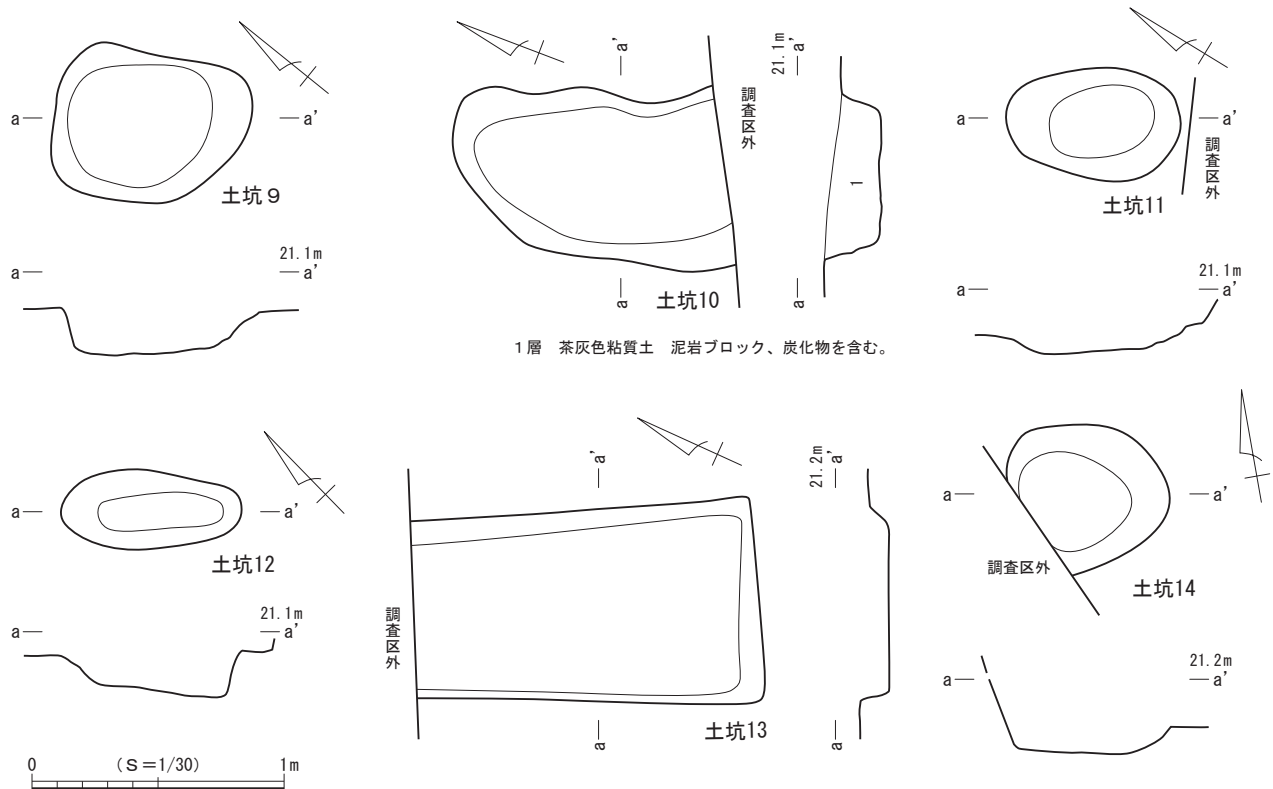


図31 第4面 土坑9～14

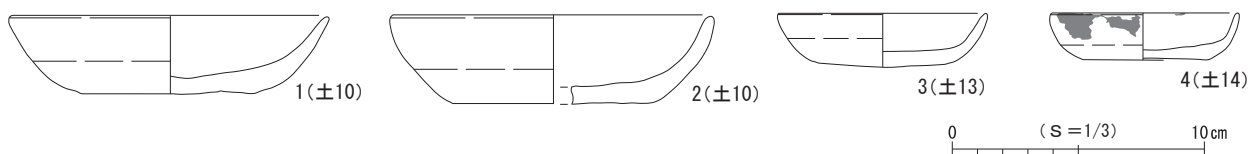


図32 第4面 土坑10・13・14出土遺物

(4) ピット

第4面では、I区から2基、II区から7基の合計9基を検出した。I区の東壁際とII区の東壁および西壁近くに分布が認められるが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形と楕円形のもの为主体で、規模は径21~50cm、深さ7~24cmを測る。礎板を伴うピットはII区の東壁際に位置するピット30のみであった。また、ピット33の覆土は小泥岩ブロックを含む暗灰褐色粘質土である。

遺物はピット34から、かわらけが1点出土したのみである。

以下、礎板が据えられたピット30を図示し、説明する。

ピット30 (図33)

II区の東壁際北寄りに位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。全体のおおよそ1/3が調査区外の東側へ延びており全容は明らかでないが、平面形は略楕円形を呈すると考えられる。断面形は逆台形を呈し、規模は長軸45cm、短軸現存長25cm、深さ24cmである。礎板が底面から4cm浮いて出土し、礎板上面の標高は20.90mを測る。礎板の大きさは長さ28cm、幅10cm、厚さ4cmを測る。

遺物は出土していない。

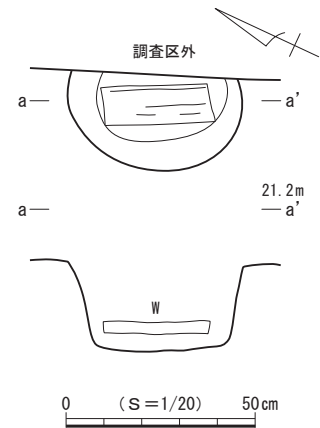


図33 第4面 ピット30

(5) 遺構外出土遺物 (図34~36)

第4面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち69点を図示した。

1~22はロクロ成形によるかわらけである。14・18には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。23~26は常滑窯産の片口鉢I類である。27・28は鉄製の釘、29は火打金、30は骨製の筭である。31~69は木製品である。31は漆器の蓋、32~34は漆器椀、35~39は漆器皿である。40は曲物蓋、41・42は曲物、43・44は脚、45は形代、46・47は下駄、48~51は栓、52は留具、53・54は棒状、55~58は用途不明、59~69は箸状である。

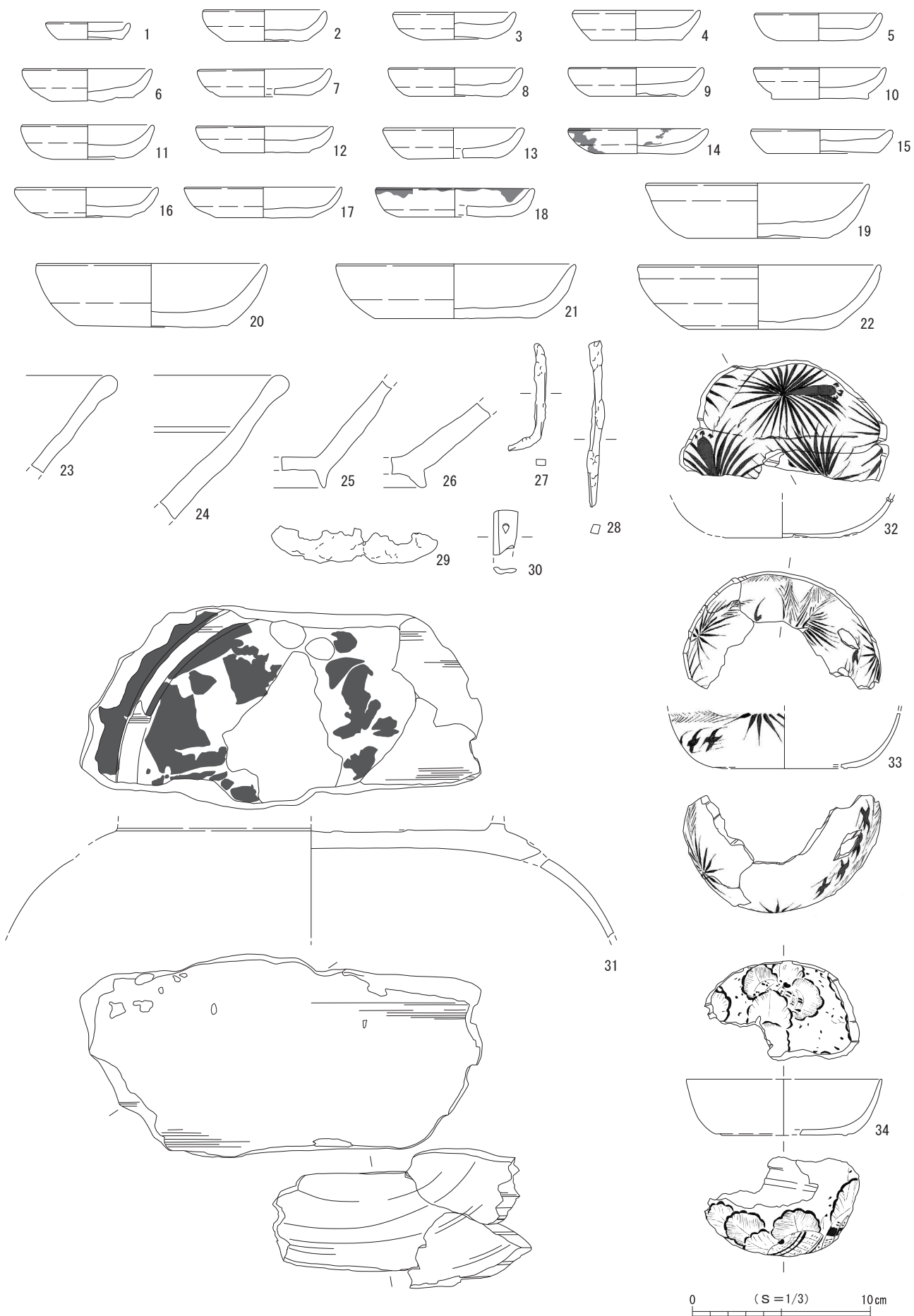


图34 第4面 遺構外出土遺物 (1)

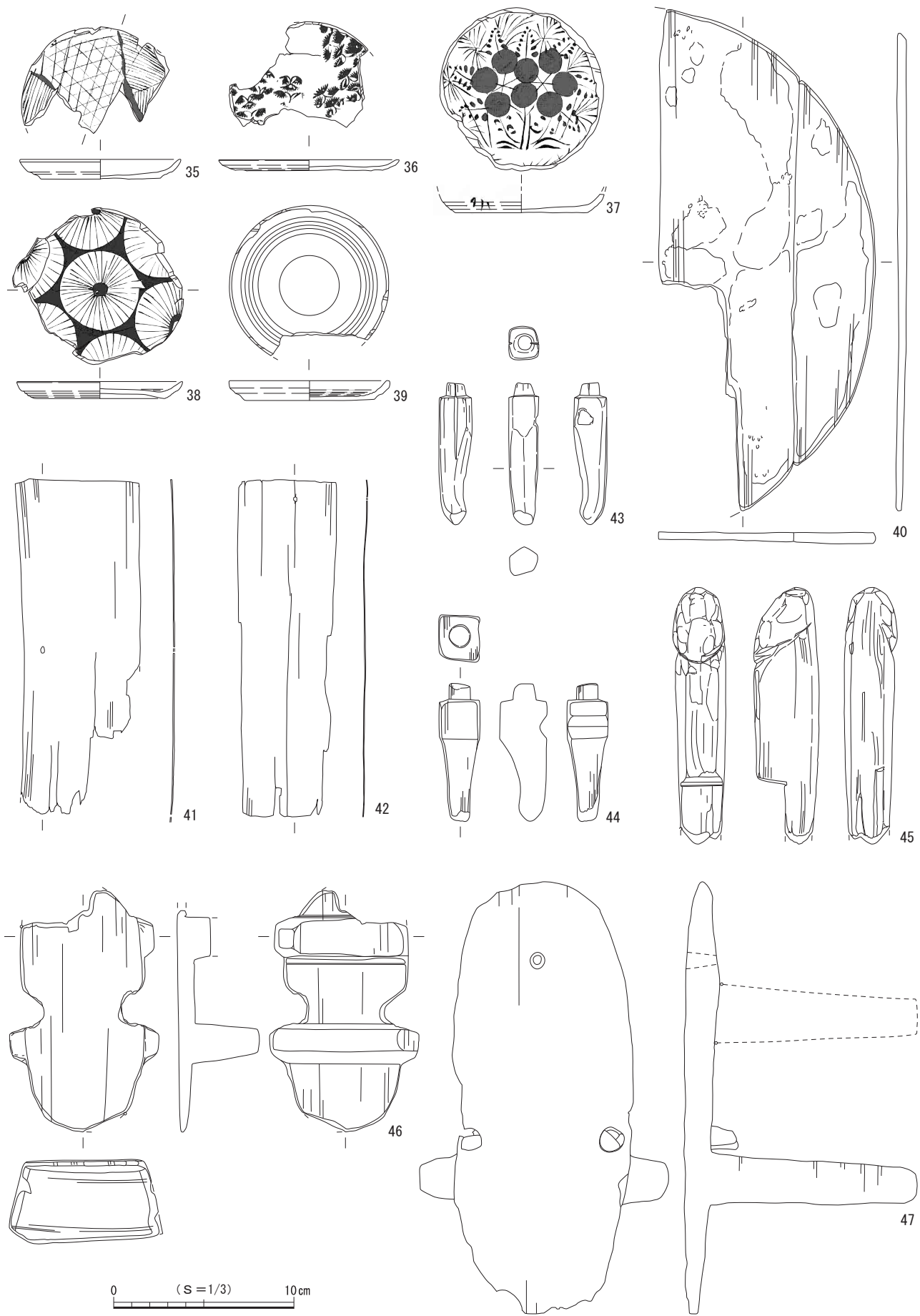


图35 第4面 遺構外出土遺物 (2)

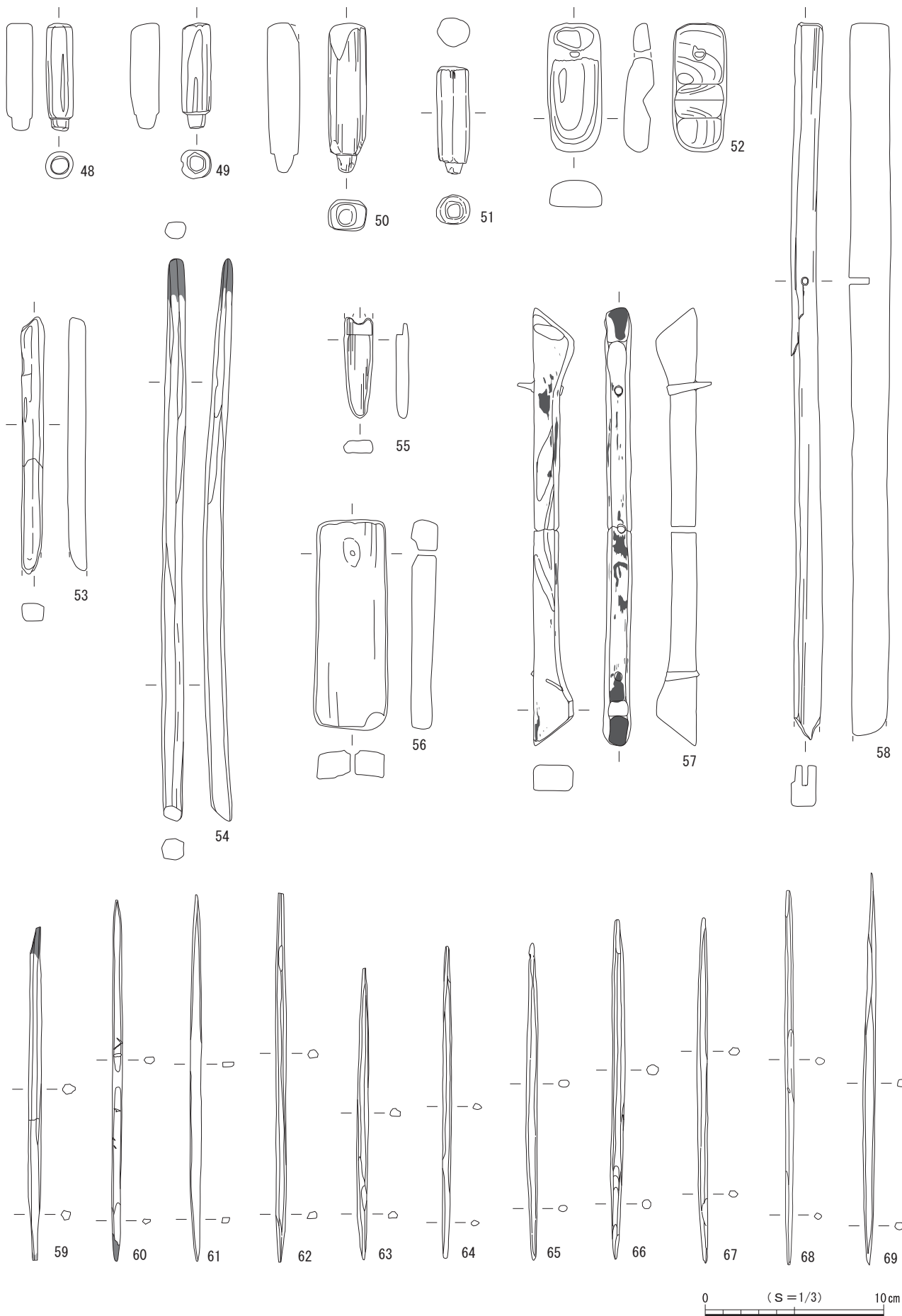


图36 第4面 遺構外出土遺物 (3)

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面の遺構は堆積土層の20層上面で検出され、確認面の標高は約21.0mを測る。20層は泥岩ブロックを多く含む土層で、人頭大の泥岩ブロックを多く混入した土を突き固めた泥岩ブロック層が広い範囲にわたって形成されていた。I区ではこの20層直上に炭層が広がっていた。検出した遺構は礎板建物1棟、柵状遺構1基、板組遺構3基、ピット11基で、礎板建物はII区に、柵状遺構と板組遺構はI区に、ピットは両区に分布している(図37)。II区からは礎板が多く出土しているが、建物などの施設となる規則的な配置が認められたのは礎板建物1棟のみである。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

(1) 礎板建物

第5面では、II区中央の南西寄りから1棟を検出した。この建物は礎板を伴うピットと礎板のみを加えた構成による建物配置で、西側に囲炉裏を伴っている。ここでは掘り方が確認されなかった礎板のみのもも便宜的にP番号を付し、説明を行った。

礎板建物5(図38・39)

II区中央の南西寄りに位置し、調査区内では礎板を伴うピット3基(P3～P5)、礎板のみのももの3基(P1・P2・P6)の計6基で構成されている。調査面積が狭小であることから全容を捉え切れているか判然としないが、現状では桁行2間、梁行1間の礎板建物と考えられる。

ピット間の距離は梁行が2.0m、北側の桁行が西から2.0m、2.1m、南側の桁行が西から2.1m、2.0mを測る。建物内部から検出されたP7～P9や多くの礎板は、床束柱あるいは間仕切りに関連するものの可能性がある。主軸方位はN-65°-Eを指す。

ピットの平面形は略円形ないし略楕円形を呈し、規模は長軸36～40cm、短軸29～36cm、深さ5～12cmを測る。礎板は掘り方底面の直上あるいはやや浮いてほぼ水平に据えられ、大きさは長さ16～19cm、幅6～11cm、厚さ2～4cmを測る。礎板上面の標高は、P2～P5は20.40m前後とほぼ一定し、西側に位置するP1とP2は20.30mほどとやや低い。P4の覆土は、泥岩ブロックを含む茶褐色粘質土である。

本址の西寄りからは囲炉裏を1ヵ所検出し、建物の主軸線上に長軸方向を合わせて設置されている。南西部分をピット47によって一部破壊され遺存状態は良好ではないが、平面形は長方形を呈し、底面は平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は長軸73cm、短軸48cm、深さ11cmで、掘り方底面の標高は20.74mを測る。壁面に幅4cm前後の板材を縦に疎らに並べた構造である。囲炉裏の覆土は貝片を含む暗褐色粘質土である。

出土遺物(図40)

遺物はかわらけ22点、磁器1点、陶器4点、瓦1点、木製品7点、金属製品1点が出土し、このうち6点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。4は常滑窯産の壺である。5・6は木製品で、5が漆器の蓋、6が椀である。

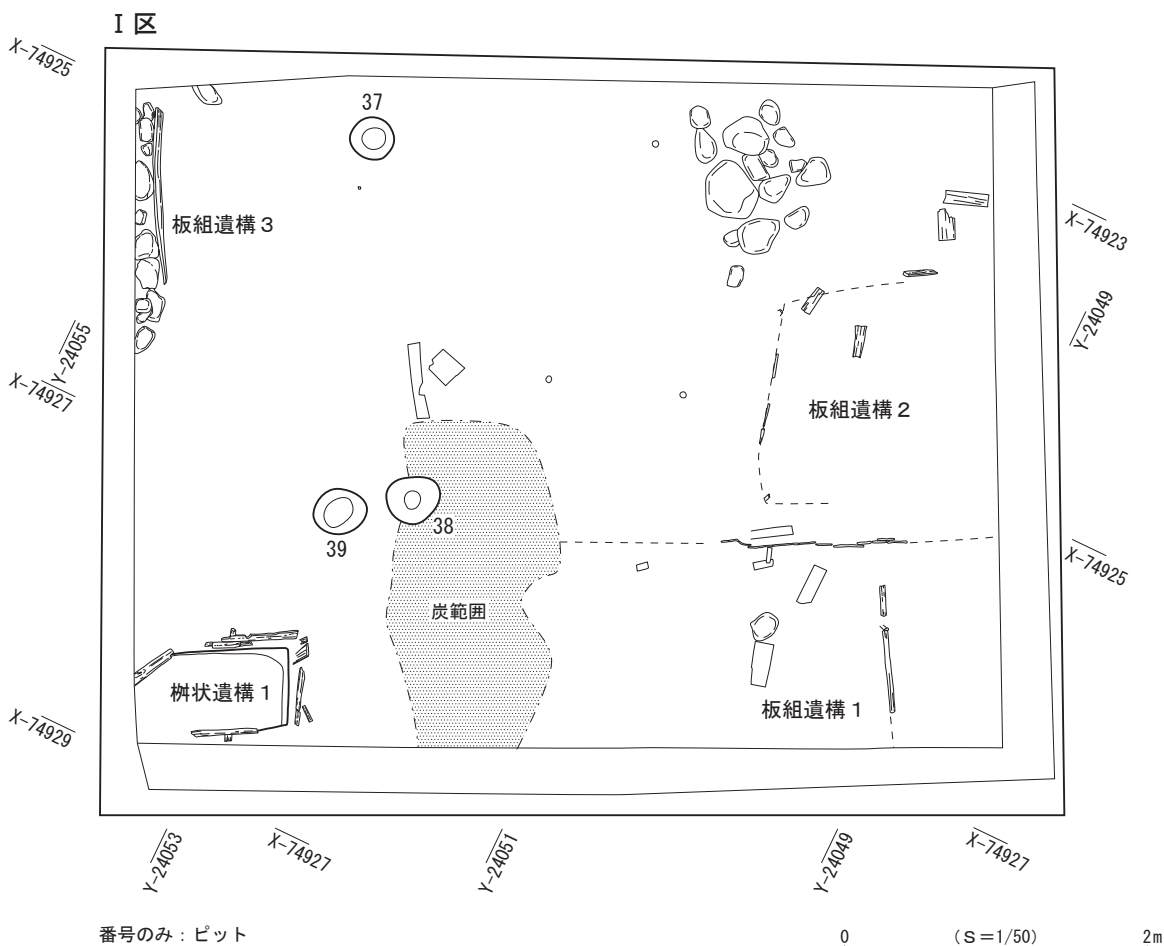
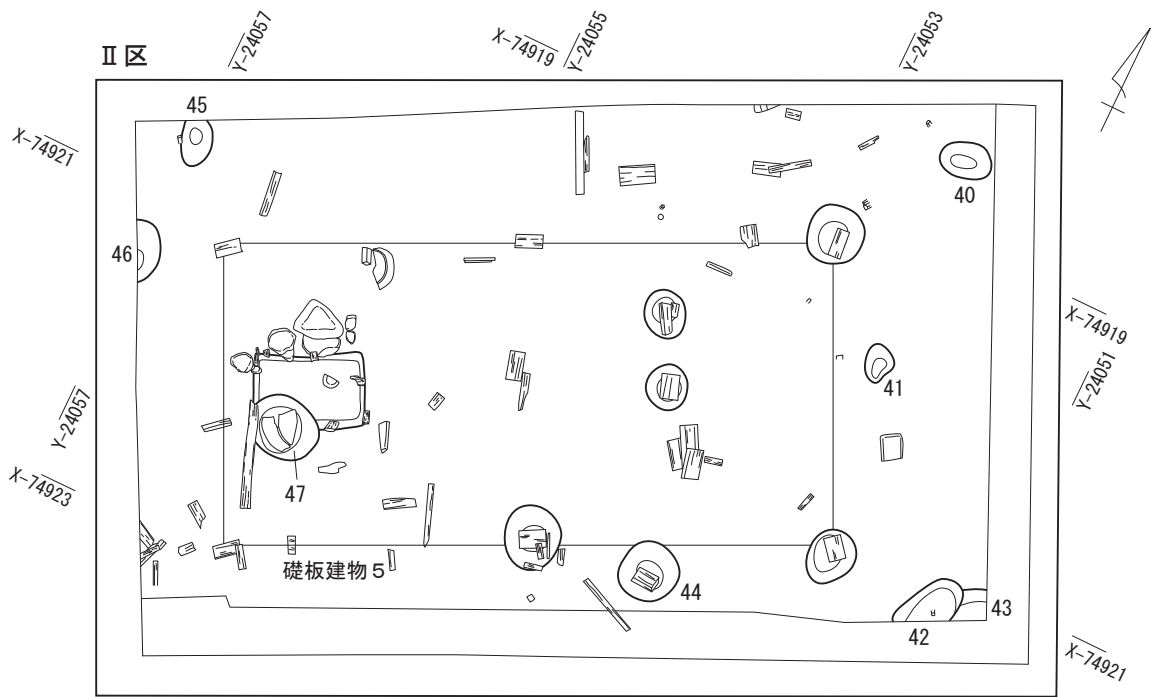


図37 第5面 遺構分布図

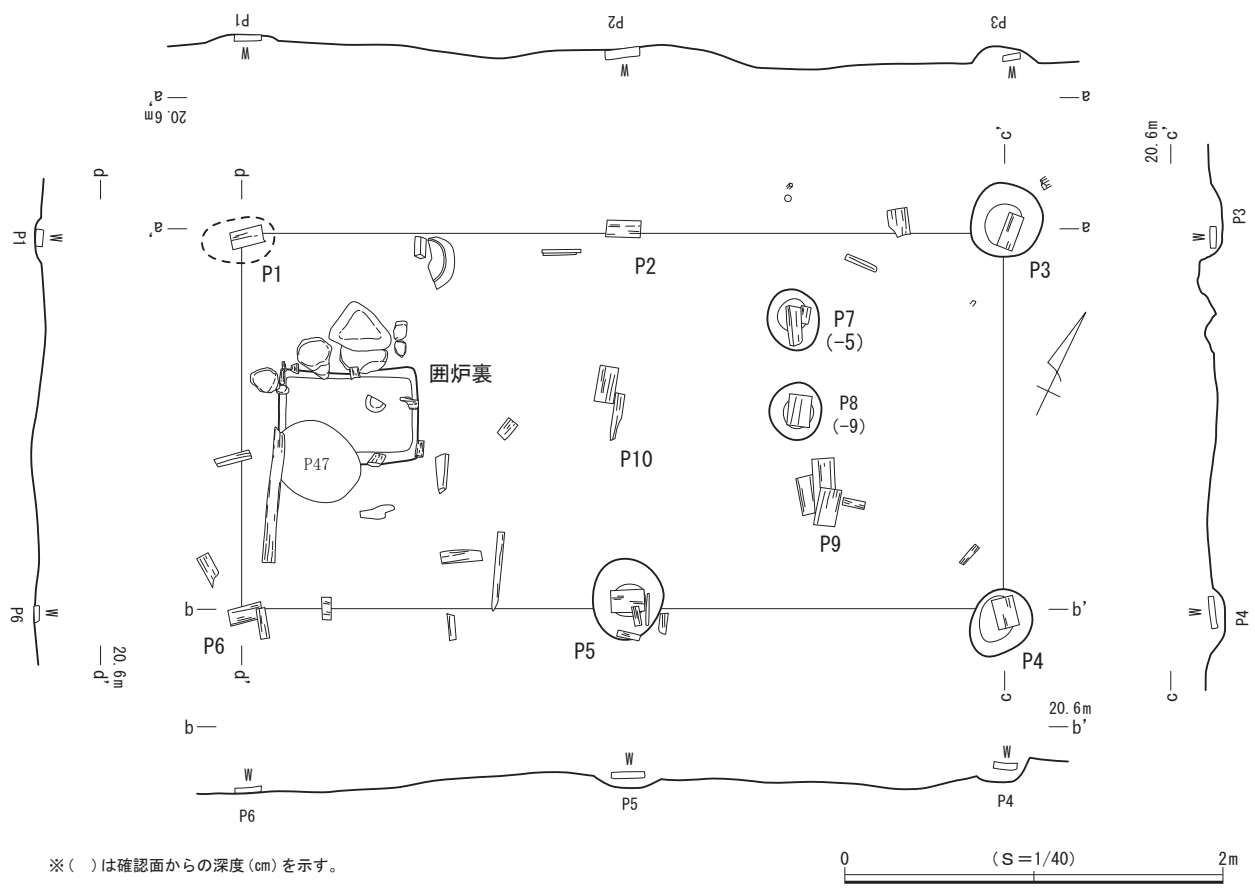


図38 第5面 礎板建物5

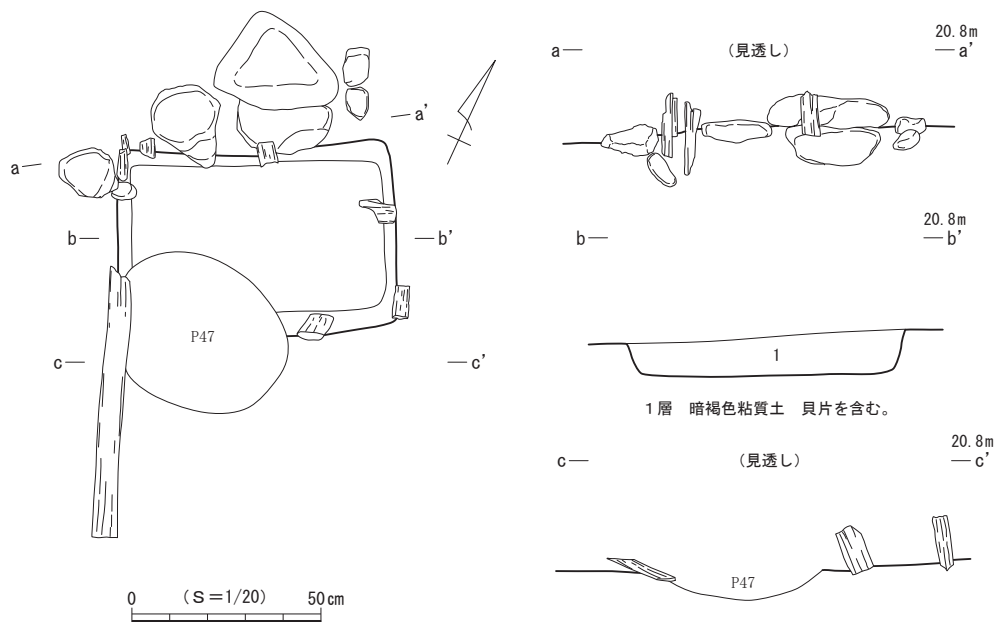


図39 第5面 礎板建物5 圕炉裏

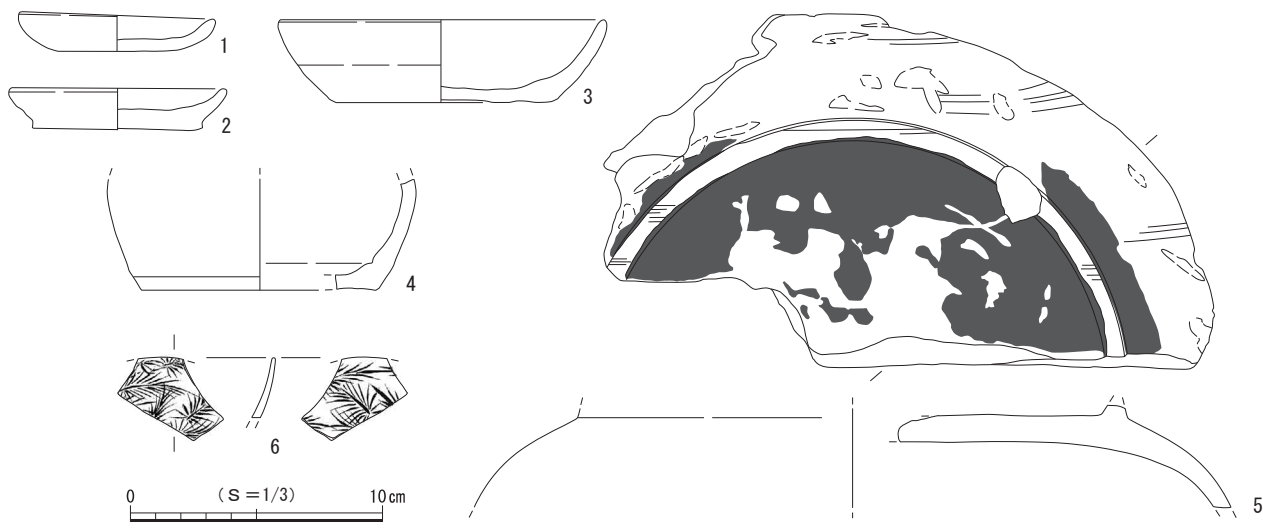


図40 第5面 礎板建物5出土遺物

(2) 柵状遺構

第5面では、I区の南隅から1基を検出した。方形の掘り方をもち、周囲に板材を組んだ遺構である。I区からは板組遺構が3基検出されており、本址の主軸方位はそれらとおおよそ同じかもしくは直交して作られていることから、板組遺構と一体となって建物の一部を構成していた可能性が考えられる。

柵状遺構 1 (図41)

I区の南隅に位置し、他の遺構と重複せずに単独で検出した。南側を排水のための溝によって破壊されており、遺構の一部は調査区外の西側へ延びる可能性がある。

遺存部から推定される平面形は方形で、底面はほぼ平らである。掘り方の壁は垂直に近く立ち上がり、断面形は箱形と推定される。坑底面の標高は20.34mで、掘り方の規模は長軸現存長80cm、短軸現存長54cm、深さ23cmを測る。主軸方位はN-60°-Eを指す。

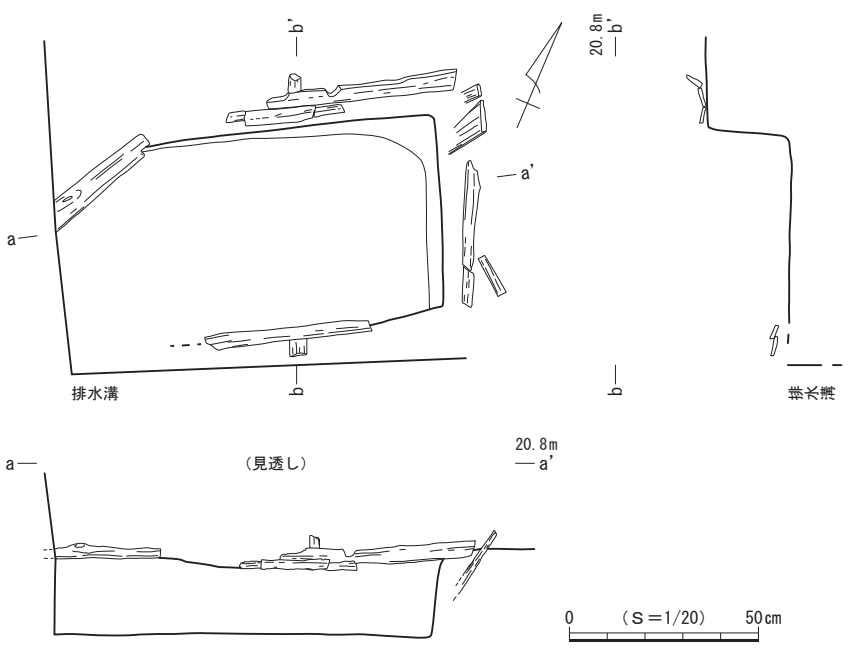


図41 第5面 柵状遺構 1

北西壁際には幅5 cmほどの横長の板材2枚と、これを支えるように縦に配した板材が出土し、南側の底面上にも類似する配置の板材が認められる。また、掘り方の北隅には2枚の板材が縦に打ち込まれていた。

出土遺物 (図42)

遺物はかわらけ8点、陶器2点、木製品2点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は木製品で、下駄である。

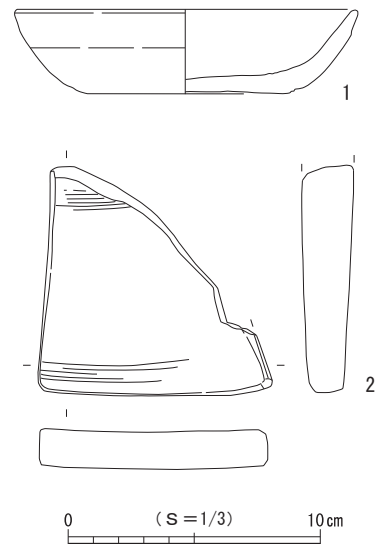


図42 第5面 桁状遺構1出土遺物

(3) 板組遺構

第5面では、I区の南東部から2基、西隅から1基の合計3基を検出した。板材を用いて構築した掘り方を伴わない施設であり、南東部に位置する板組遺構1・2は板材を連続して縦に打ち込んでいる部分を確認できた。また、板組遺構3は礫と板材を組み合わせた遺構で、板組遺構1・2と構造が異なっている。この3基と桁状遺構の主軸方位はおおよそ同じかもしくは直交しており、一体となって建物の一部を構成していた可能性が考えられる。

板組遺構1 (図43)

I区の南東隅に位置し、北側に板組遺構2が隣接する。東側と南側に排水のための溝があり、一部を破壊されている可能性がある。

本址は掘り方をもたず、南側に開く「く」字形に板材が配された遺構で、規模は東西1.24m、南北1.15mを測る。遺存部から主軸方位を推定すると、おおよそN-65°-Eを指すと考えられる。北西側の面は幅5~20cmの板材13枚を縦方向に密に打ち込み、北西側は幅4cm、厚さ1cm前後の細長い板材を軸を描いて横に並べている。板材上面の標高は北西面が20.63~20.72m、北東面が20.69mを測る。

出土遺物 (図44)

遺物はかわらけ6点、磁器1点、陶器2点、木製品11点、金属製品1点が出土し、このうち10点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。2~10は木製品である。2は経木折敷、3~10は箸状である。

板組遺構2 (図43)

I区の中央東側に位置し、南側に板組遺構1が隣接する。東側に排水のための溝があり、一部を破壊されている可能性がある。

本址は掘り方をもたず、東側に開く「く」字形に板材が配された遺構で、規模は東西1.15m、南北1.25mを測る。遺存部から主軸方位を推定すると、おおよそ南北方向を指すと考えられる。西側の面は幅10~16cmの板材3枚を縦方向に疎らに打ち込み、隅には径3cm前後の杭を1本ずつ打ち込んでいる。北側は幅5cmと7cmの板材2枚が55cmほどの間隔を空け、幅広の面を上方へ向けて配置されている。西隅の杭頭部の標高は20.74mである。

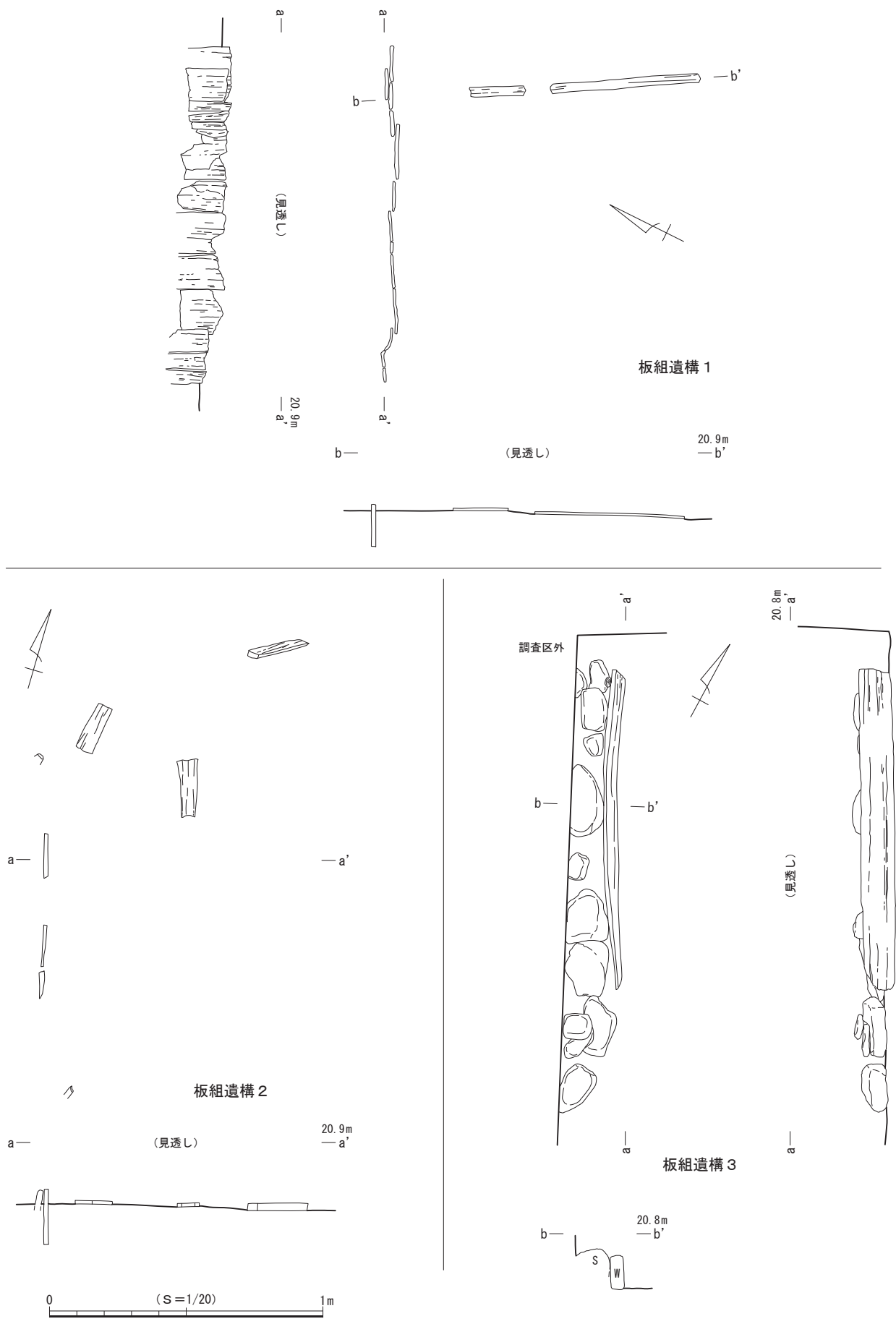


図43 第5面 板組遺構 1～3

出土遺物 (図45)

遺物はかわらけ13点、磁器1点、陶器5点、木製品8点が出土し、このうち6点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。1には煤が付着し、灯明具としての使用が認められる。3～6は木製品である。3・4は漆器椀、5は用途不明の製品、6は箸状である。

板組遺構3 (図43)

I区西壁際の北端部に位置する。調査区外の西側に主体があると考えられ、平面形や掘り込みの有無などは明らかでない。規模は南北1.65m、東西21cmを測り、調査範囲から主軸方位を推定すると、おおよそ南北を指すと考えられる。

径7～25cmの垂円礫を列状に平置きし、その東端部に合わせて長さ1.16m、幅14cm、厚さ3cm前後の壁

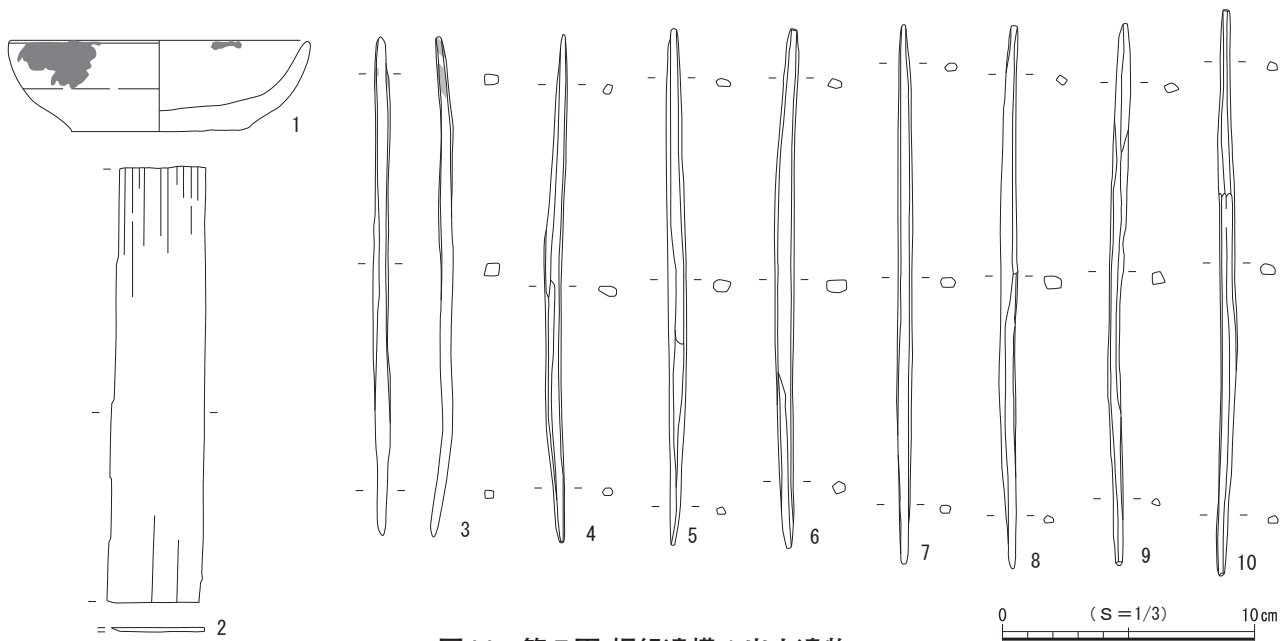


図44 第5面 板組遺構1出土遺物

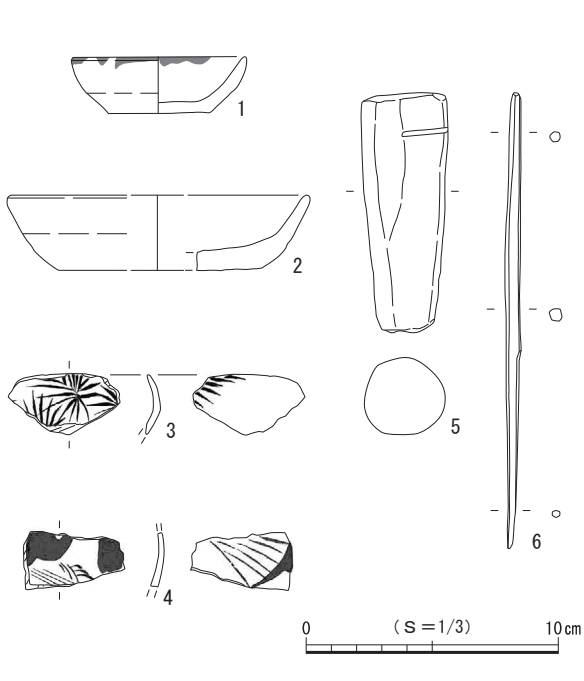


図45 第5面 板組遺構2出土遺物

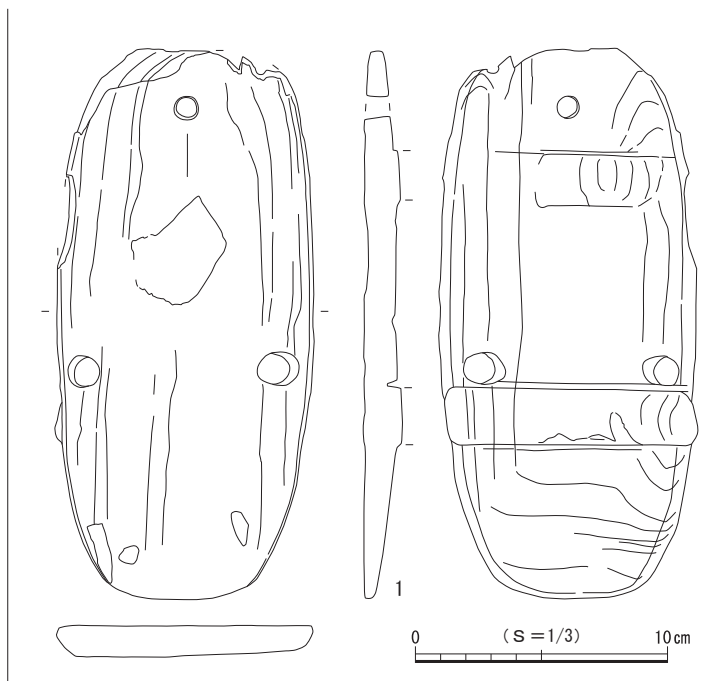


図46 第5面 板組遺構3出土遺物

板あるいは石留めが遺存する。礫上面の標高は20.54～20.58mとほぼ一定である。

出土遺物 (図46)

遺物はかわらけ8点、陶器17点、木製品1点、金属製品1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は木製品で下駄である。

(4) ピット (図37)

第5面では、I区から3基、II区から8基の合計11基のピットを検出した。I区の西半部とII区の中央部を除くエリアに分布が認められるが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形と楕円形のもが主体で、規模は径25～48cm、深さ12～37cmを測る。礎板を伴うピットは、II区の中央南壁近くに位置するピット44のみであった。ピット36～38の覆土は青色泥岩ブロック粒を含む暗褐色粘質土で、ピット42の底面とピット45の壁際から杭が検出されている。ピット40～43の覆土は青色泥岩ブロックを含む暗褐色粘質土である。

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

以下、礎板が据えられたピット44を図示し、説明する。

ピット44 (図47)

II区南壁近くの中央に位置する。平面形は略円形を呈し、断面形は鍋底形を呈する。規模は径39cm、深さ9cmである。礎板はピットの中央南寄りに据えられ、上面の標高は20.60mを測る。礎板の大きさは長さ15cm、幅8cm、厚さ4cmを測る。

遺物は出土しなかった。

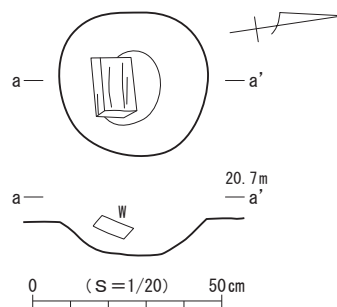


図47 第5面 ピット44

(5) 遺構外出土遺物 (図48～51)

第5面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち95点を図示した。

1～26はロクロ成形によるかわらけである。25は口縁部を打ち欠いて使用している。3・11・12・14～16・20には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、26の内面には漆が付着しており、パレットとしての使用が考えられる。27～31は船載磁器類である。27は白磁口元皿、28～31は龍泉窯系青磁で、28・29が折縁皿、30が坏、31が碗である。32・33は中国製と思われる天目茶碗である。34～37は常滑窯産の製品で、34が甕、35・36が片口鉢Ⅰ類、37が片口鉢Ⅱ類である。38は甕を転用した摩耗陶片である。39～41は瓦質土器で、39が碗、40・41が火鉢である。42・43は砥石である。44～54は金属製品である。44は刀子、45～54は鉄製の釘である。55～95は木製品である。55～58は漆器の椀、59・60は漆器の皿、61～64は経木折敷、65は膳、66は漆製品の櫛、67は織機、68～71は草履芯、72は籠状、73～84は用途不明の製品、85～95は箸状である。

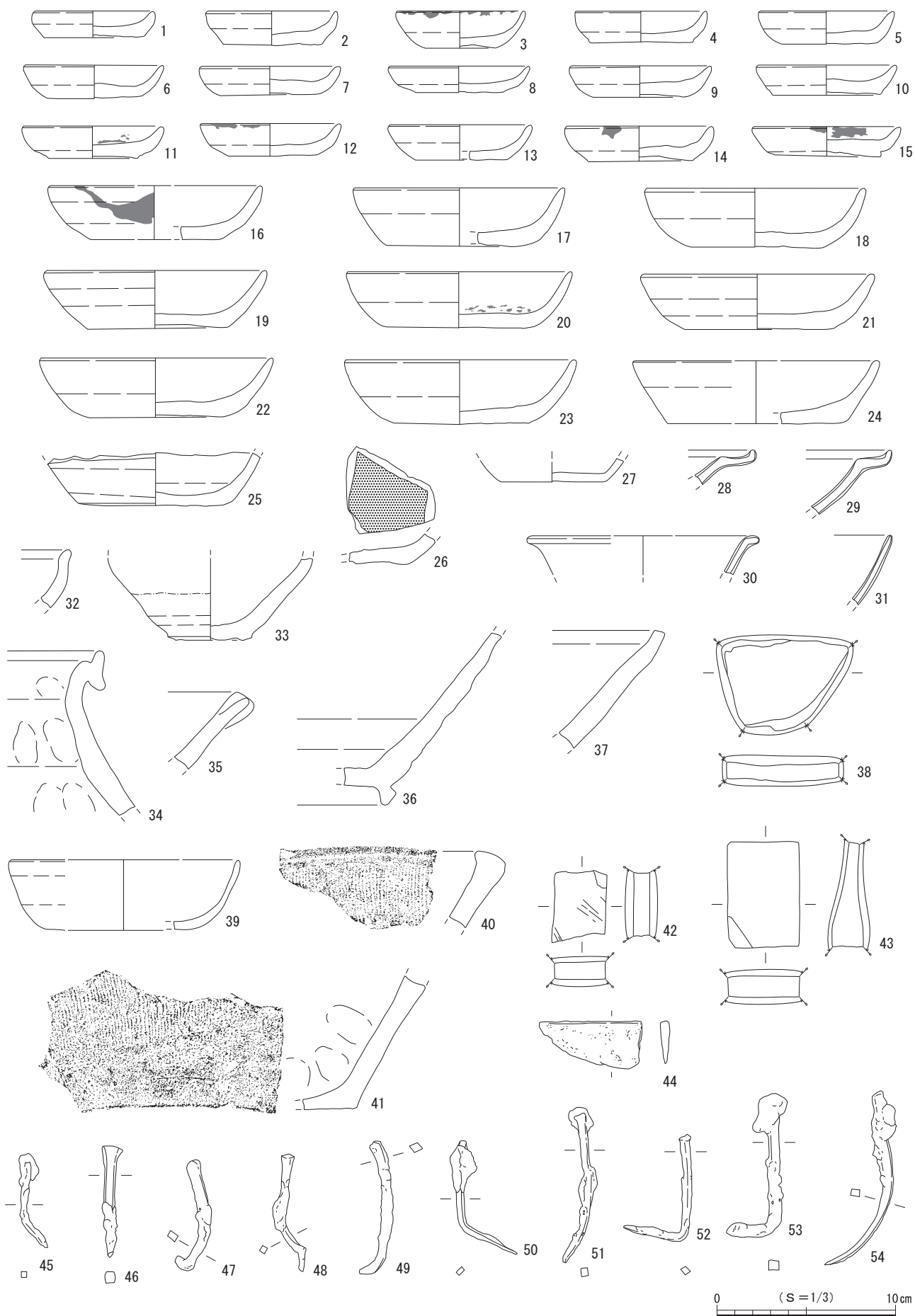


图48 第5面 遺構外出土遺物 (1)

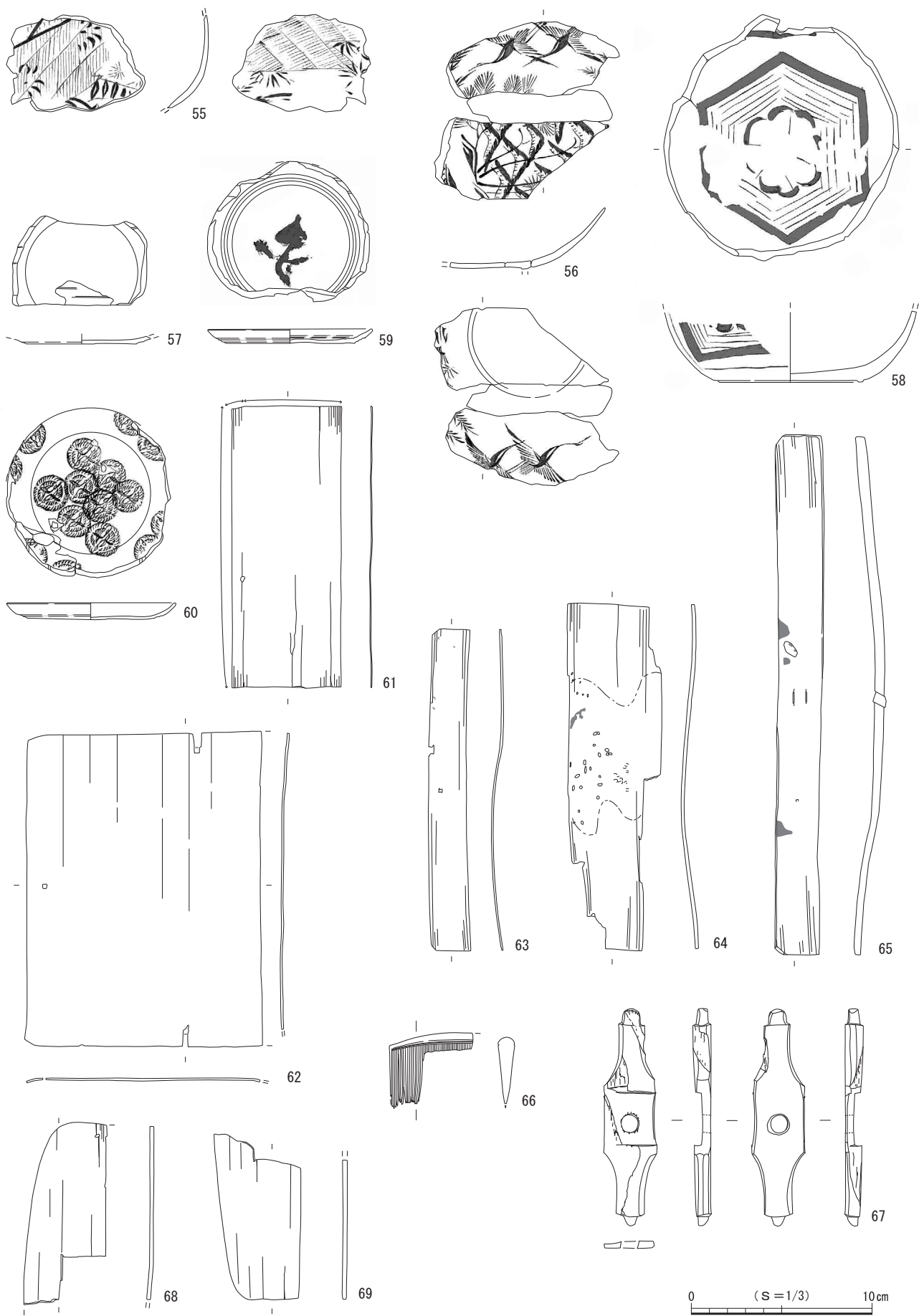


图49 第5面 遺構外出土遺物 (2)

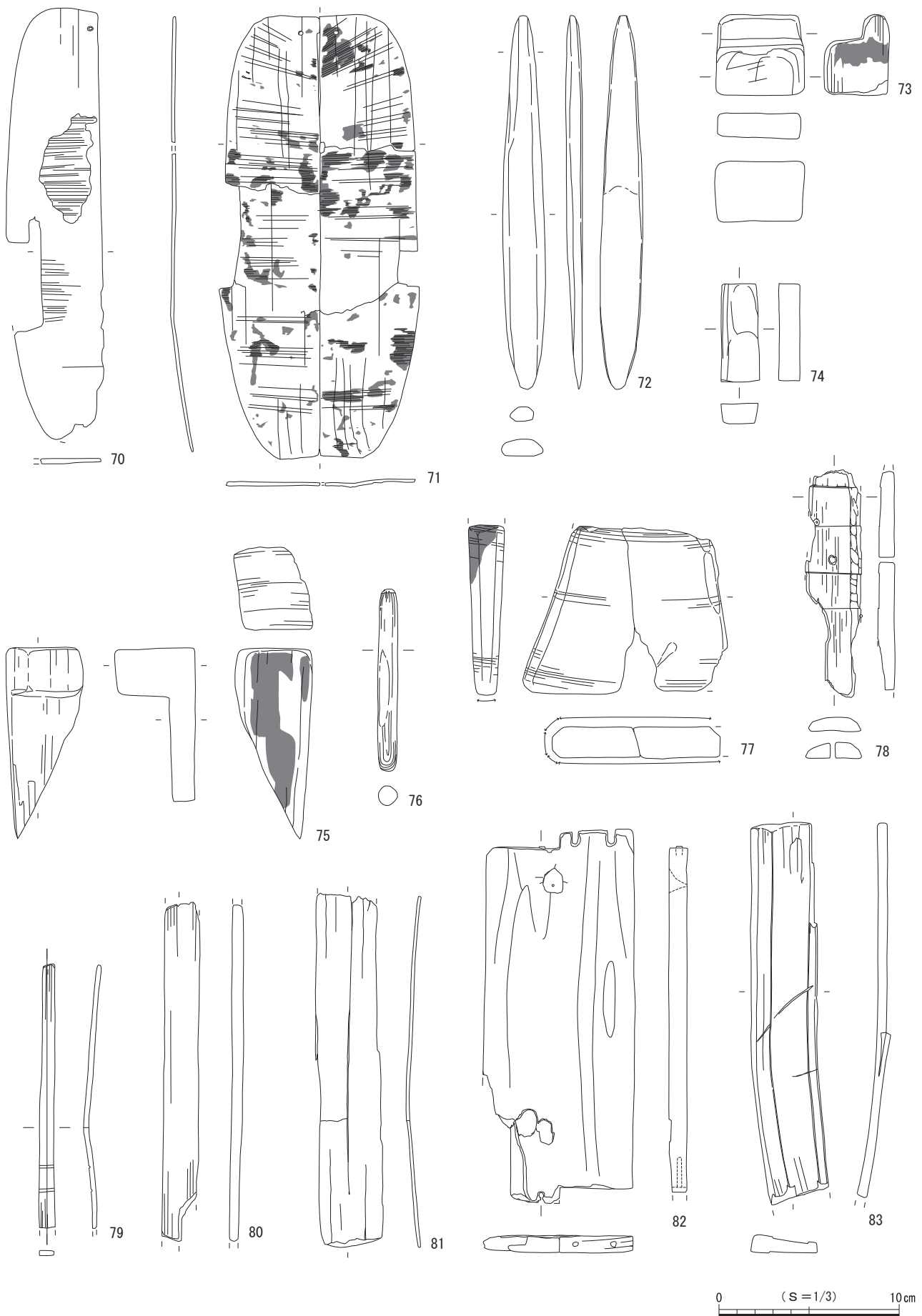


图50 第5面 遺構外出土遺物 (3)

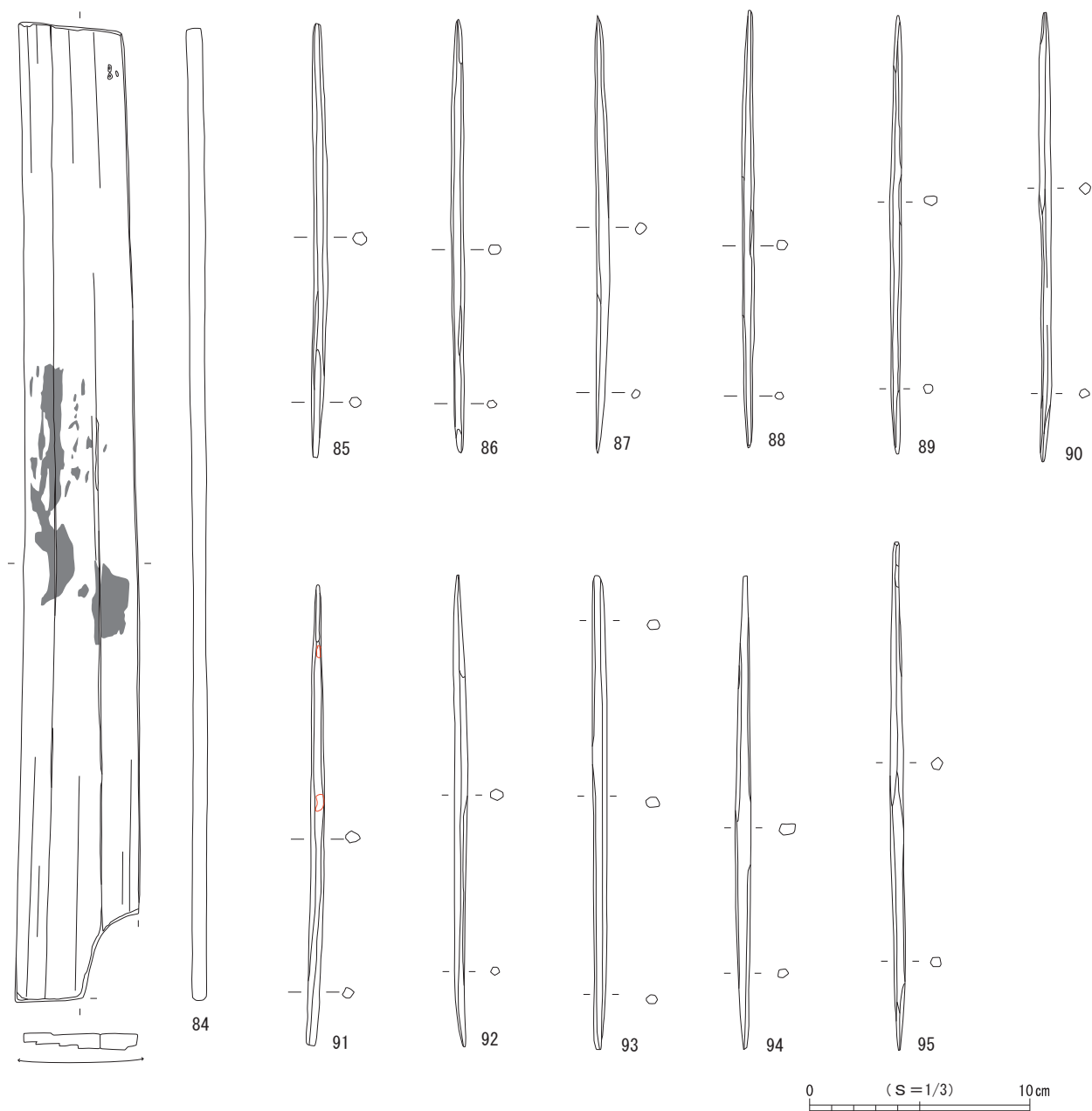


図51 第5面 遺構外出土遺物（4）

第6節 第6面の遺構と遺物

第6面の遺構は堆積土層の24・25層上面で検出され、確認面の標高は約20.7～21.0mを測る。24・25層は拳大の青色泥岩ブロックを多く含むよく締まった層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石・礎板建物1棟、土坑4基、ピット8基で、すべての遺構はⅡ区から発見された(図52)。また、Ⅱ区南西隅に泥岩ブロックを混入し突き固めた土層が南北1.36m、東西1.30mの範囲に広がり、礎石・礎板建物との関連がうかがわれる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

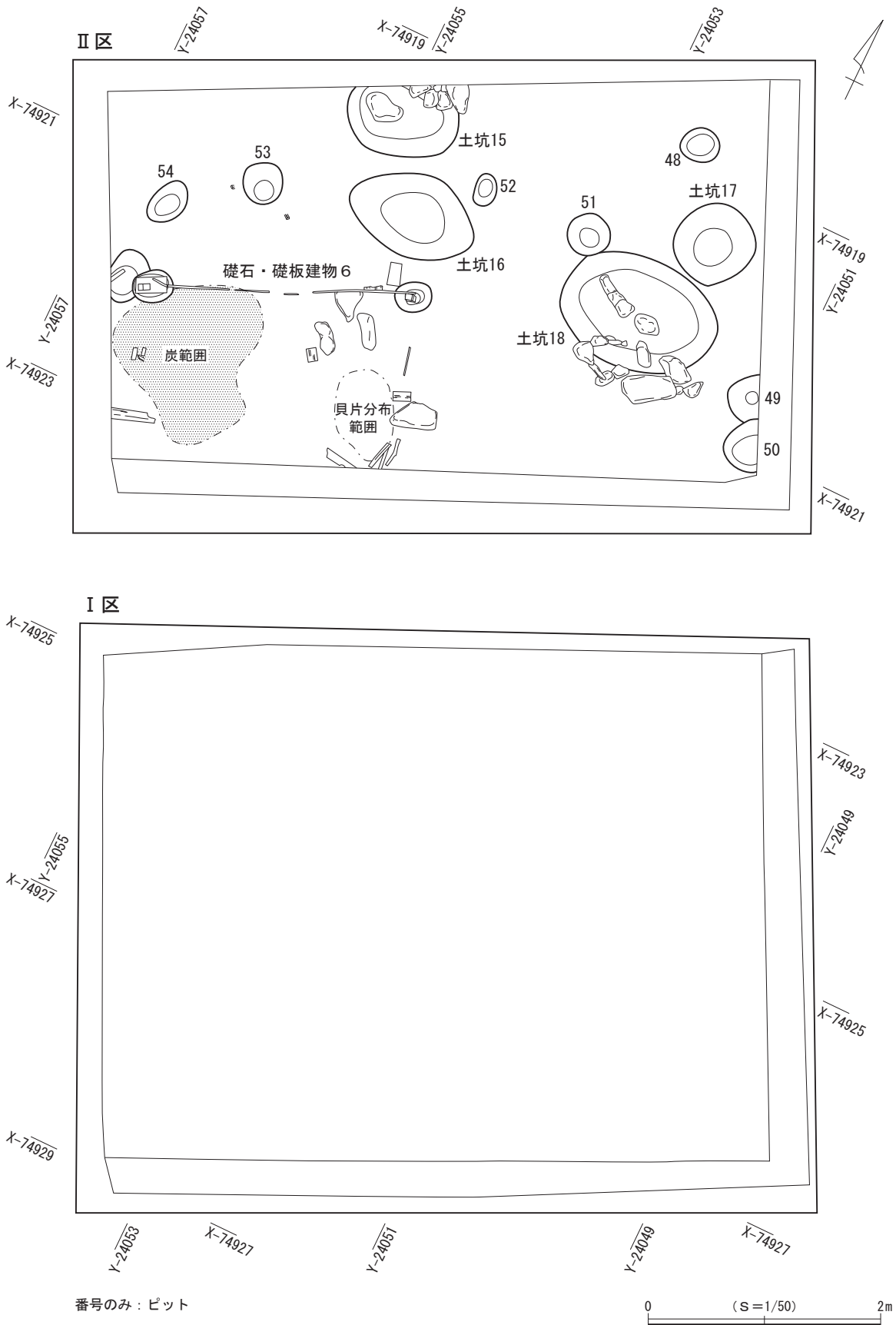


図52 第6面 遺構分布図

(1) 礎石・礎板建物

第6面では、Ⅱ区の南西部から1棟を検出した。この建物はピットと礎石・礎板を伴うピット、礎石・礎板のみを加えた構成による建物配置で、一部が調査区外の南側へと延びており全容を把握することはできなかった。ここでは掘り方が確認されなかった礎石・礎板のみのものも便宜的にP番号を付し、説明を行った。

礎石・礎板建物6 (図53・54)

Ⅱ区の南西部に位置し、一部が調査区外の南側および西側へ延びると考えられる。調査区内ではピット1基(P5)、礎板を伴うピット1基(P1)、礎石を伴うピット1基(P2)、礎板のみのもの1基(P4)、礎石のみのもの1基(P3)の計5基で構成されている。調査範囲の制約から全容を捉え切れなかったが、梁行、桁行とも1間以上の礎石・礎板建物と考えられる。ピット間の距離は北列が2.3m、東列が1.0m、西列が1.1mを測り、主軸方位はN-67°-Eを指す。

ピットの平面形は楕円形を呈し、規模は長軸31~45cm、短軸24~29cm、深さ48~70cmを測る。P3の礎石は長さ40cm、幅22cmの垂角礫で、上面の標高は20.27mを測る。P4は礎板のみが検出され、一部が調査区外の西側へ延びる。大きさは現存長38cm、幅10cm、厚さ2cmを測り、上面の標高は20.11mである。

本址の北面は遺存状態が良好であり、柱と壁板の一部を確認することができた。P1は底面上に長さ28cm、幅13cm、厚さ6cmの礎板を据えて、長さ11cm、幅7cmの角材を用いた柱を立てている。礎板上面の標高は19.8mを測る。また、P2は上面を平坦に整えた泥岩をピットの底面に据え、方9cmの角材による柱を設置する。礎石上面の標高は19.56mを測る。なお、P2の柱上端部は被熱して焦げていた。壁板は最大幅10cm、厚さ2cmほどの横板を、幅16cm、厚さ2cmの縦板で支える構造と考えられる。

本址には炭と茶褐色有機質土が広い範囲に堆積し、南東部には貝片が長軸78cm、短軸51cmの範囲にわたって分布していた。

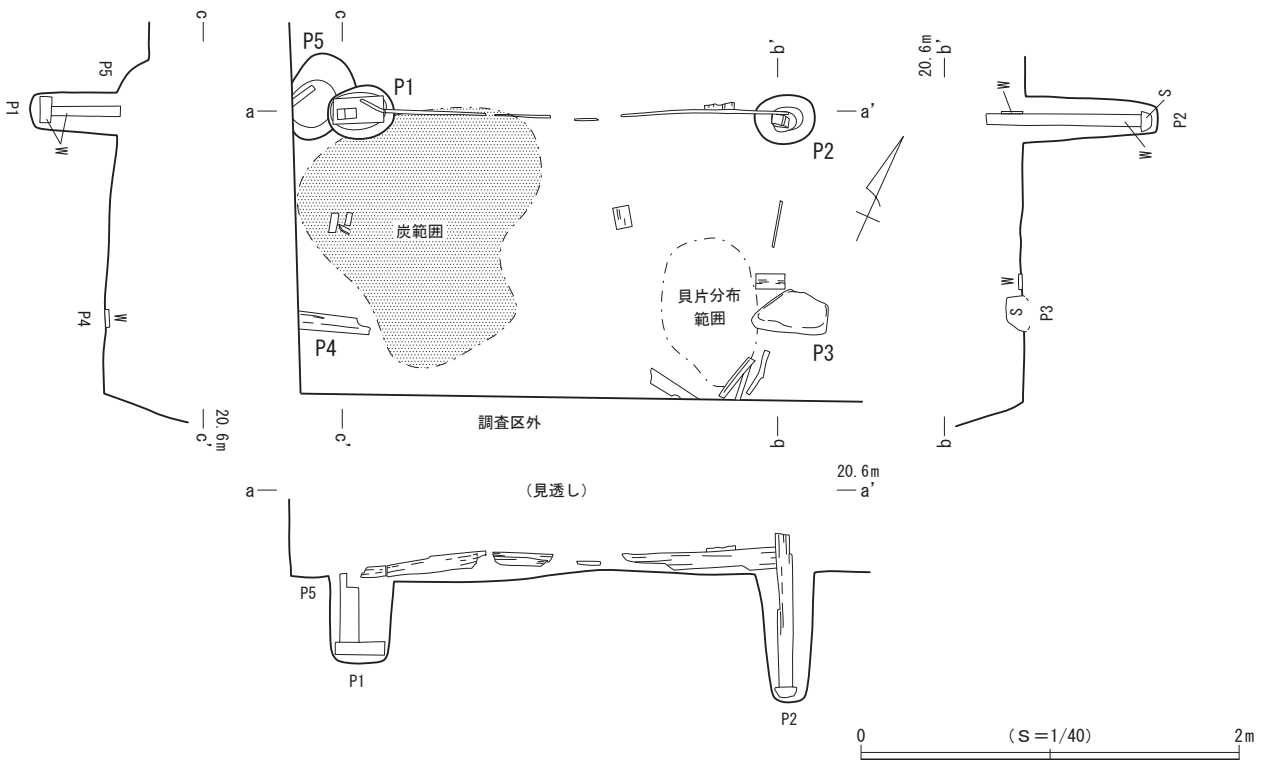


図53 第6面 礎石・礎板建物6

出土遺物 (図55)

遺物はかわらけ33点、陶器9点、木製品1点、瓦2点が出土し、このうち12点を図示した。

1～9はロクロ成形によるかわらけである。5の口縁部には打ち欠き痕が認められる。2・5・6には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。10は常滑窯産の片口鉢I類である。11は平瓦である。12は漆器で、器種不明の製品である。

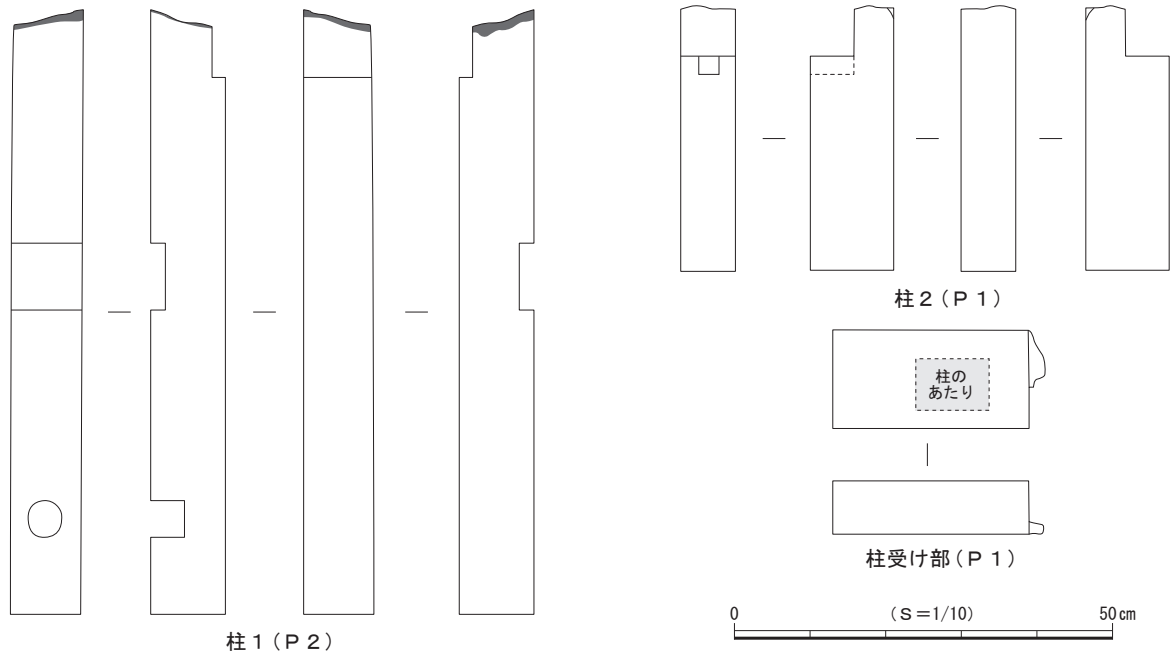


図54 第6面 礎石・礎板建物6出土柱材模式図

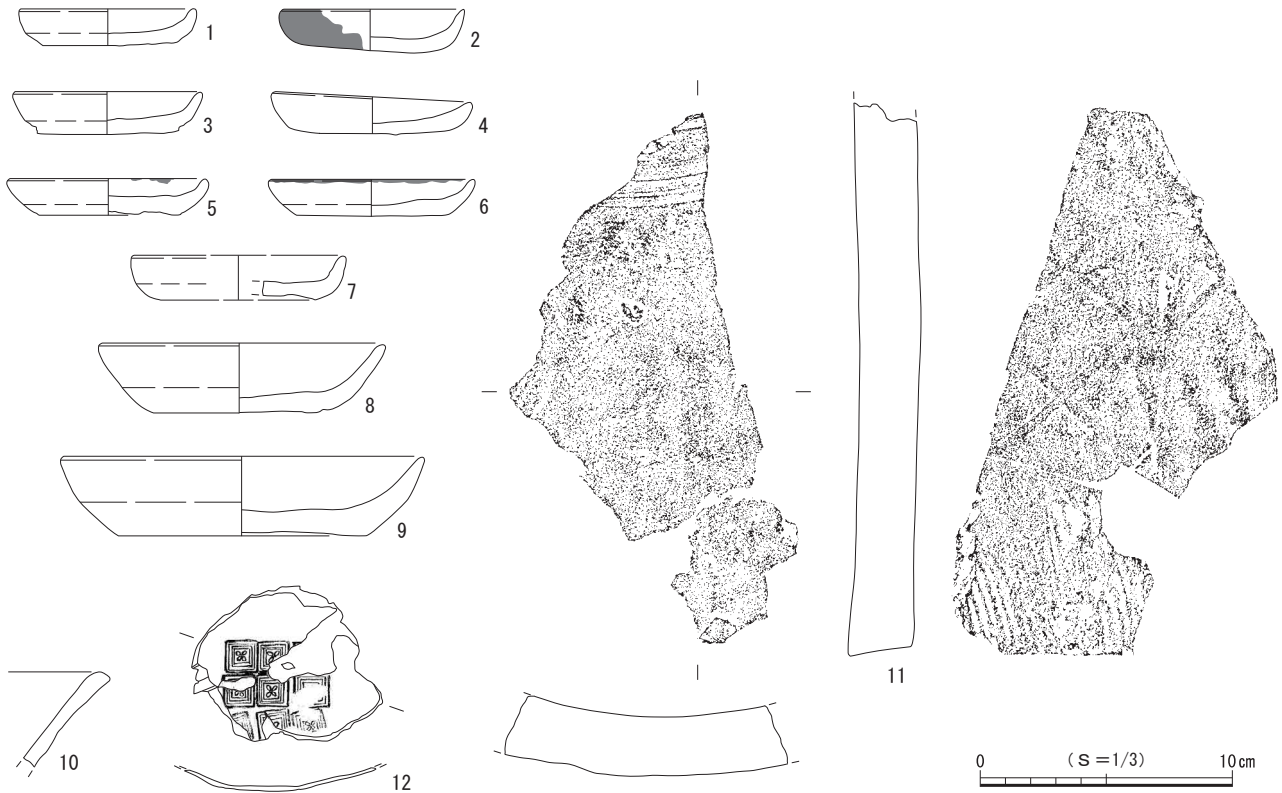


図55 第6面 礎石・礎板建物6出土遺物

(2) 土 坑

第6面では、Ⅱ区の東半部から4基の土坑を検出した。北壁際中央の1基は一部が調査区外にあるため、全容を把握することができたのは3基であった。平面形は略円形、楕円形、略楕円形を呈し、規模は長軸が0.68~1.36mと幅があり、深さは18~26cmを測る。

土坑15 (図56)

Ⅱ区北壁際の中央に位置し、調査区外の北側へと延びている。調査範囲から推定される平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸97cm、短軸現存長61cm、深さ35cmを測り、坑底面の標高は20.16mである。主軸方位はN-77°-Eを指す。覆土中から長さ34cm、幅20cmの垂円礫が1点出土している。

出土遺物 (図57)

遺物はかわらけ4点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

土坑16 (図56)

Ⅱ区中央北寄りに位置し、北側に土坑15が隣接する。平面形は東西がやや突出する略楕円形を呈し、底面は東側が低く傾斜する。壁は大きく開いて緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形に近い形状を呈する。規模は長軸1.13m、短軸72cm、深さ22cmを測り、坑底面の標高は最も低い東側で20.16mである。主軸方位はN-85°-Eを指す。

遺物はかわらけ7点が出土した。

土坑17 (図56)

Ⅱ区の東壁中央近くに位置し、南側に土坑18が隣接する。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径69cm、深さ20cmを測り、坑底面の標高は20.24mである。覆土は青色泥岩ブロックを含む暗褐色粘質土である。

遺物は出土しなかったが、覆土中からアカニシ1点が出土した。殻高は119mm±を測る。

土坑18 (図56)

Ⅱ区中央東寄りに位置し、北側に土坑17が隣接する。西壁

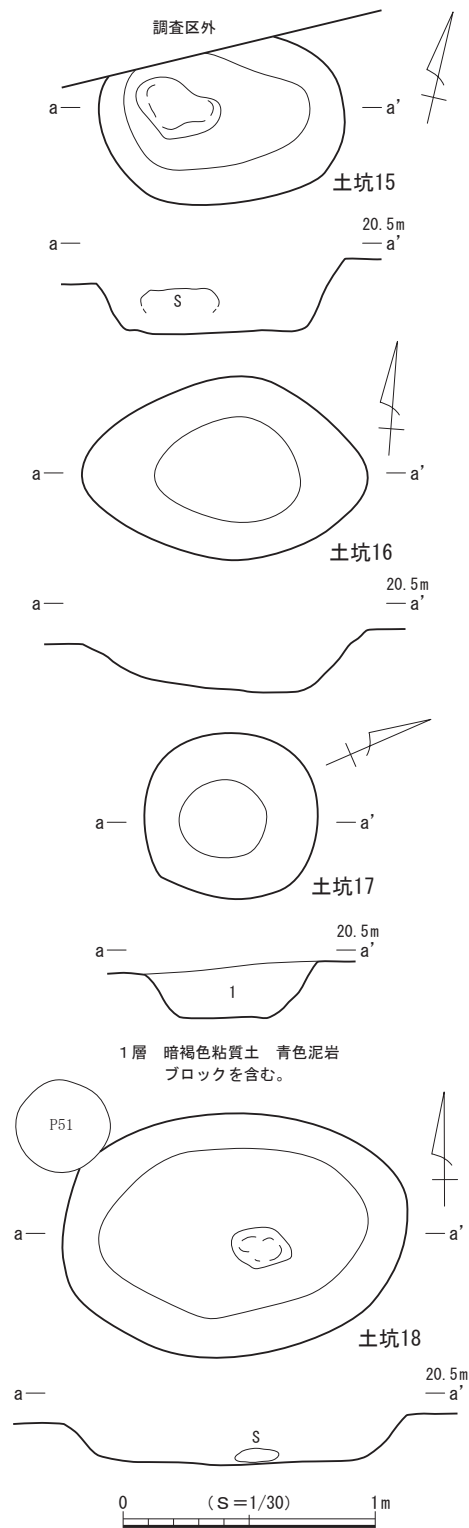


図56 第6面 土坑15~18

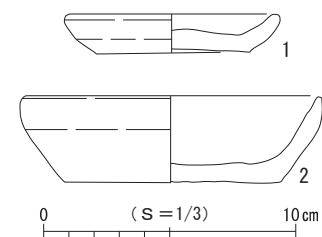


図57 第6面 土坑15出土遺物

の一部がピット51と重複している。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.36m、短軸96cm、深さ26cmを測り、坑底面の標高は20.24mである。主軸方位は東西正方位を指す。底面直上から長さ24cm、幅16cm、厚さ5cmの亜円盤が1点出土している。また、覆土中からアカニシ1点が出土した。殻が割られており、殻高は123mm±を測る。

出土遺物 (図58)

遺物はかわらけ6点と木製品1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は木製品で、漆器の鉢である。

(3) ピット (図52)

第6面では、Ⅱ区から7基のピットを検出した。調査区中央から南西にかけてを除く範囲に疎らに分布し、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は円形と楕円形のものが主体で、規模は径26~40cm、深さ9~38cmを測る。礎石や礎板を伴うピットは確認されなかった。土坑18と重複して検出されたピット51の覆土は、貝片を多く含む暗褐色粘質土である。

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

(4) 遺構外出土遺物 (図59・60)

第6面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち17点を図示した。

1~4はロクロ成形によるかわらけである。5・6は常滑窯産の甕である。7~17は木製品である。7・8は漆器の皿、9・10は経木折敷、11は曲物、12は草履芯、13~17は箸状である。

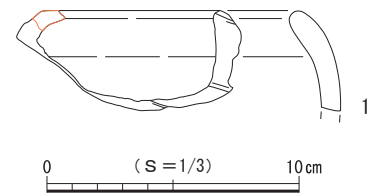


図58 第6面 土坑18出土遺物

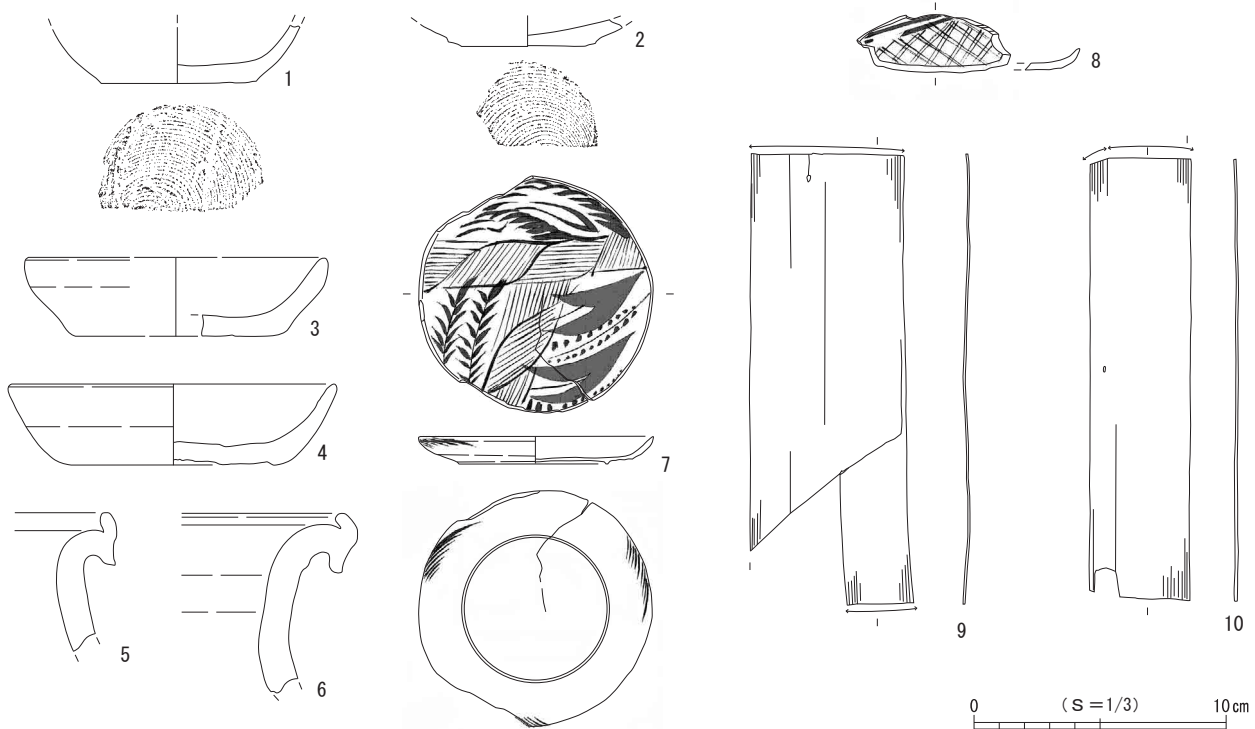


図59 第6面 遺構外出土遺物 (1)

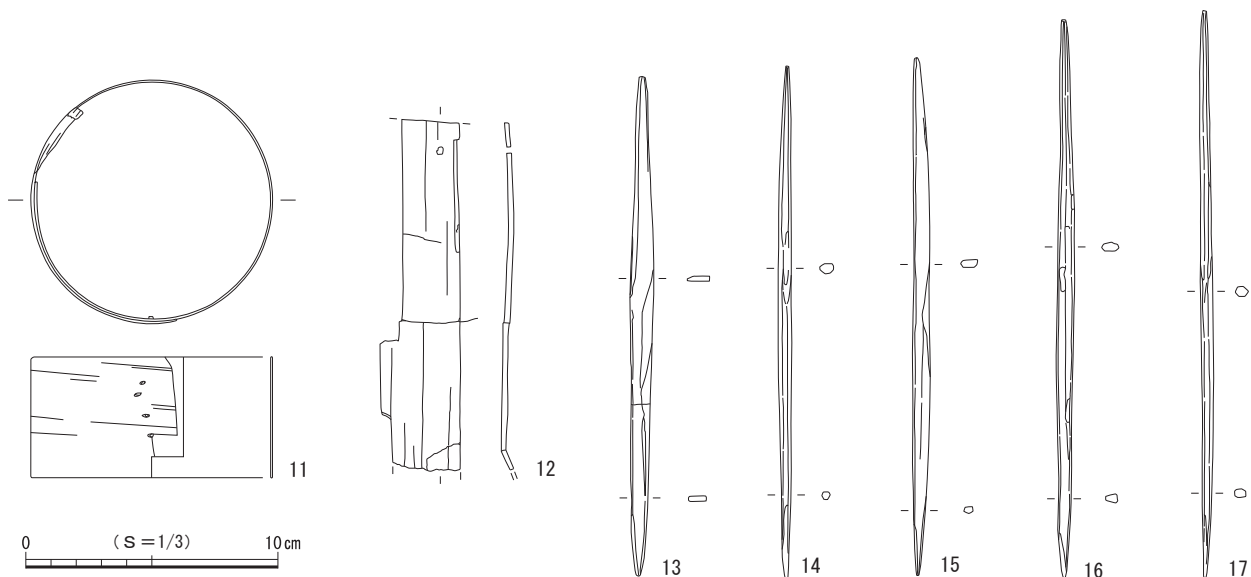


図60 第6面 遺構外出土遺物（2）

第7節 第7面の遺構と遺物

第7面の遺構は堆積土層の26層上面で検出され、確認面の標高は約20.4～20.5mを測る。26層は青色泥岩ブロックを多く含む土層であり、この層を掘り込んでピット1基が構築されていた(図61)。I区では遺構は検出されなかった。出土遺物は瓦1点のみであり、時期を特定するには困難であるため第6面(13世紀前葉～中葉)以前としておく。

なお、第7面を調査した後にI区の南隅とII区の北東側に深掘りトレンチを設定し、さらに下層の遺構確認を行った。I区の深掘りトレンチは1.0×0.9mで、標高20.03mのところから板材1点が出土した。礎板の大きさは長さ29cm、幅12cm、厚さ5cmを測る。一方、II区の深掘りトレンチは1.3×1.0mで、標高19.90mから板材2点が出土したため東側を拡張したところ、瓦1点が出土した。礎板の大きさは長さ45cmと36cm、幅20cmと6cmを測る。

(1) ピット(図61)

第7面では、II区の南西部から1基のみを検出した。平面形は略円形を呈し、径46cm、深さ23cmを測る。遺物は出土しなかった。

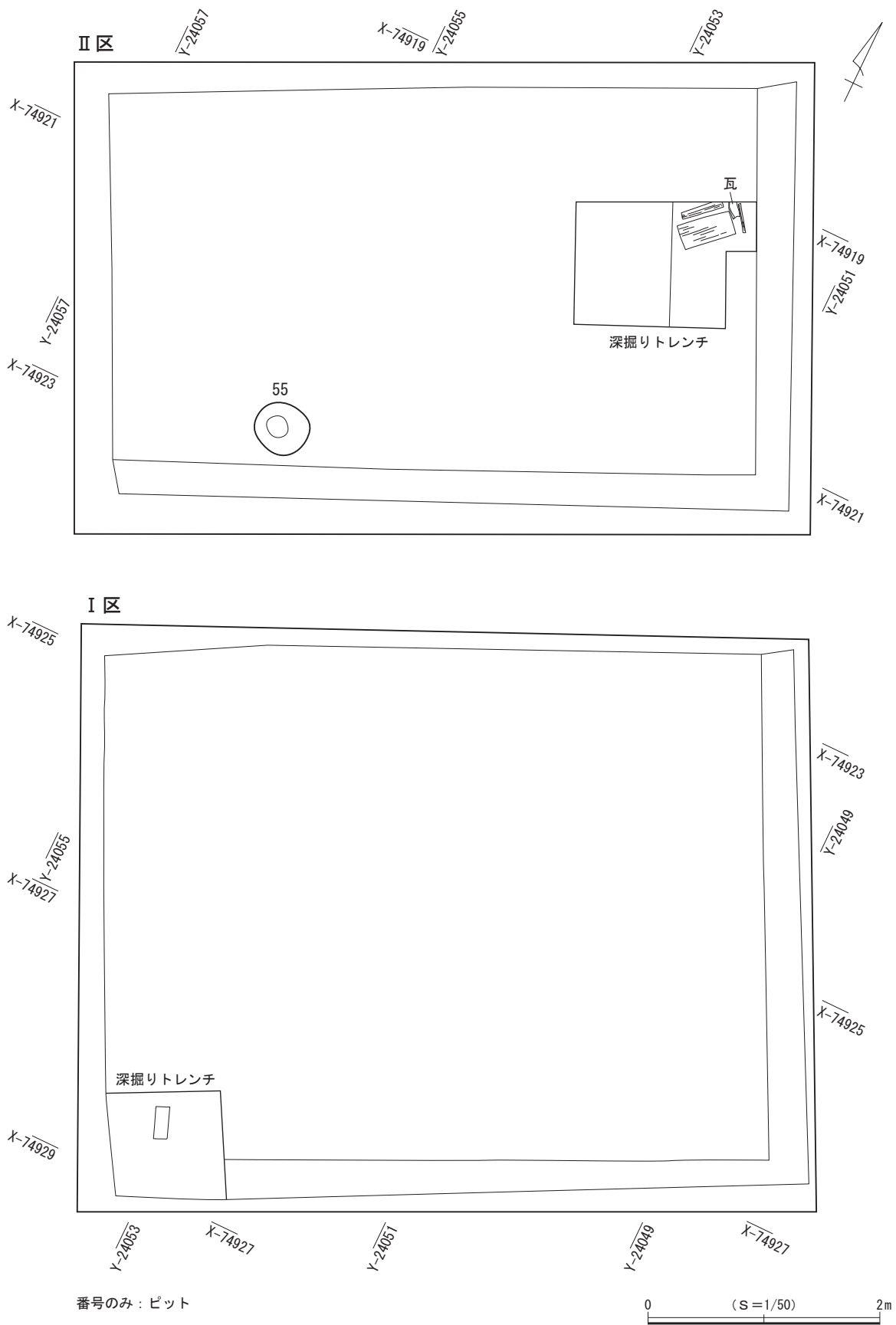


図61 第7面 遺構分布図および深掘りトレンチ位置図

第四章 まとめ

本調査地点は平子川によって開析された薬師堂ヶ谷に立地し、谷戸の入り口からおおよそ200m入った平子川の左岸に位置する。覚園寺旧境内遺跡の平地部分の調査は本地点を含めて5ヵ所で行われており、4ヵ所の地点についてはすでに正式な報告がなされている(伊丹 2010、齋木・降矢 2005、汐見 1996、馬淵 2012)。

今回の調査では、調査区を南北に分けて南側をⅠ区、北側をⅡ区と呼称して調査を行い、両調査区間には崩落防止のため幅80～90cmの未調査部分を設けた。遺構確認面は合計7面であり、Ⅰ区では第1～5面の5面、Ⅱ区では第2～7面の6面で遺構を確認した。また、Ⅰ区の第5面とⅡ区の第7面の遺構調査を終えた段階でⅠ区南西隅とⅡ区北東部で深掘り調査を行い、標高20m付近からⅠ区では板材1点、Ⅱ区では板材2点と瓦1点を検出した。

第1～7面にかけて検出した遺構は、礎石・礎板建物6棟、石列1列、柵状遺構1基、板組遺構3基、溝状遺構2条、土坑18基、ピット55基である。遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して26箱が出土した。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は標高約21.8mを測る堆積土層3層上面で確認された。3層は拳大の泥岩ブロックを多く含む整地層であり、以下第6面に至る各面において整地層が形成され遺構が掘り込まれていた。検出遺構は礎石建物1棟、土坑1基、ピット1基で、Ⅱ区では近現代の攪乱が広い範囲に及んでいたため、遺構はⅠ区からのみ発見された。礎石建物の主軸方位はおおよそ北西-南東方向を指し、これについては第4面の段階から継承されている。遺物は主にかわらけ、陶器類などが出土しており、これらの年代観から第1面の時期は14世紀後葉と考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は標高約21.6～21.7mを測る10層上面で確認された。検出遺構は礎石建物1棟、溝状遺構2条、土坑2基、ピット13基で、ピットはⅠ・Ⅱ区とも調査区の西半に偏って分布していた。これらの遺構のうち、Ⅰ区北部を横断する溝状遺構1・2は、礎石建物2の主軸方位と直交して作られており、建物と有機的な関連をもって機能していた可能性が考えられる。また、調査区南端に炭の分布範囲が認められたが、掘り込みや遺構との重複などは確認されなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から第2面の時期は14世紀前葉～中葉頃と考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は標高約21.5mを測る14層上面で確認された。検出遺構は礎石建物1棟、土坑5基、ピット13基で、ピットは調査区北側のⅡ区に偏って分布していた。また、礎石建物は整地層の広がる範囲から検出されており、両者の有機的な関連がうかがわれる。なお、Ⅱ区の本確認面直上に層厚5cm前後の炭層が広がり、加えてⅡ区の東壁際に2.8×0.7mにわたる被熱範囲が認められた。炭層はⅡ区の第4面直上やⅠ区の第5面直上、Ⅰ区の第6面直下にも認められ、火災の痕跡と考えられる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面の遺構は標高約21.3mを測る16・17層上面で検出され、Ⅱ区では直上に炭層が広がっていた。16・17層は前述したとおり整地層で、泥岩ブロックを多く混入した土を突き固めた様相が認められた。検出遺構は礎石・礎板建物1棟、石列1列、土坑6基、ピット9基で、調査区全体に満遍なく分布していた。また、石列の主軸は礎石・礎板建物の主軸とほぼ同じ方向を指しており、両遺構は関連をもつ可能性がある。この石列に重複して3.1×1.8mの範囲に炭化物の分布が認められた。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第5面〉

第5面の遺構は標高約21.0～21.1mを測る20層上面で検出され、Ⅰ区では直上に炭層が広がっていた。20層は第4面が確認された16・17層と同じく、人頭大の泥岩ブロックを多く混入した土を突き固めた整地層である。検出遺構は礎板建物1棟、柵状遺構1基、板組遺構3基、ピット11基で、このうち、礎板建物と柵状遺構、板組遺構は軸方位がほぼ揃っていることから、これらが一体となり一つの構築物を構成していた可能性が考えられる。礎板建物の主軸方位は北東－南西方向を指し、第6面の建物の方位を踏襲するが、第4面ではこれにほぼ直交する方位へと変化する様相が認められる。

ここで過去の調査地点についてしてみると、本調査地点の南西側には二階堂字会下331番3外地点が隣接している(図2)。この地点では3面から町屋の建物の可能性がある杭列や板列が発見され(齋木・降矢 2005)、出土遺物から13世紀中葉～後葉に属すると考えられる。先にも触れたように、本地点の第5面でも同一時期と推定される礎板建物と柵状遺構、板組遺構が検出されており、両者が関連する可能性を指摘することができる。

また、礎板建物の主軸線上からは囲炉裏が検出された。鎌倉市内で調査された囲炉裏は2012年に集成が行われ、39例が確認されている(山口 2012)。本遺跡の二階堂字会下351番3外地点(図2-②)でも14世紀代に属する板材で囲われた囲炉裏が検出されており(伊丹 2010)、今回が2例目となる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、本面から第6面にかけては木製品の出土量の多さが特筆される。出土遺物の年代観から、本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

〈第6面〉

第6面の遺構は標高約20.7～21.0mを測る24・25層上面で検出され、24・25層は拳大の青色泥岩ブロックを多く含むよく締まった層である。検出遺構は礎石・礎板建物1棟、土坑4基、ピット8基で、すべての遺構はⅡ区から発見された。礎石・礎板建物は遺存状態が良好で、礎板の上に柄をもつ柱が据えられ、一部に壁板がめぐる様相を確認できた。また、南西隅に泥岩ブロックを混入して突き固めた土層が南北1.36m、東西1.30mの範囲に広がり、建物との有機的な関連がうかがわれる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

〈第7面〉

第7面の遺構は標高約20.4～20.5mを測る26層上面で検出された。26層は青色泥岩ブロックを多く含む

土層であり、この層を切り込んでピット1基がⅡ区の南壁際より検出された。遺物は出土しなかった。

なお、第7面を調査した後に、Ⅰ区の南隅とⅡ区の北東側に深掘りトレンチを設定しさらに下層の遺構確認を行い、Ⅰ区では標高20.03mのところから板材1点を検出した。Ⅱ区では標高19.90mから板材2点が出土したため東側を拡張したところ、中世瓦1点が出土した。深掘りトレンチから中世瓦が出土したことを考慮して第7面の時期を推定すると、古代までは下らない第6面(13世紀前葉～中葉)以前と考えられる。

引用・参考文献（著者50音順）

石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都鎌倉』よみがえる中世3 平凡社

伊丹まどか 2010「覚園寺旧境内遺跡(No.435)二階堂字会下351番3外」『平成21年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26 鎌倉市教育委員会

大三輪龍彦・河野真知郎 1982『鎌倉市二階堂覚園寺旧境内発掘調査報告書』覚園寺境内発掘調査団編

齋木秀雄・降矢順子 2005『覚園寺旧境内遺跡発掘調査報告書』覚園寺旧境内遺跡発掘調査団

汐見一夫 1996「覚園寺旧境内遺跡(No.435)鎌倉市二階堂4121番外地点」『平成7年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 鎌倉市教育委員会

馬淵和雄 2012「覚園寺旧境内遺跡(No.435)二階堂字会下351番1」『平成23年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会

山口正紀 2012「都市鎌倉の囲炉裏と建物－その機能と性格－」『第一期大三輪龍彦研究基金研究報告』特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所

『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

『鎌倉廃寺事典』貫 達人・川副武胤 有隣堂 1980

表2 第1面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

図面 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎石建物 1 出土遺物 (図8)							
1	陶器	瀬戸 折縁深皿			現 4.8	二次焼成 胎土：緻密 色調：胎土-灰白色、釉-淡黄緑色	口縁部- 体部小破片
2	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 9.2	胎土：緻密 色調：明灰色 焼成：良好	口縁部 小破片
3	鉄製品	釘	現長 6.0	幅 0.6	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
4	鉄製品	釘	現長 6.5	幅 0.5	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形

第1面 遺構外出土遺物 (図10)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	7.7	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	7.0	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
3	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：暗褐色 焼成：良好、硬質 備考：8型式	口縁部 小破片
4	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.3	胎土：微砂、白色粒 色調：明褐色 焼成：良好、硬質 備考：8型式	口縁部 小破片
5	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 9.4	胎土：白色粒、小石粒 色調：暗赤褐色 備考：8型式	口縁部 小破片

表3 第2面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

図面 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第2面 遺構外出土遺物 (図16~18)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.2	2.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.5	2.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	3.8	2.0	底面-不明瞭な回転糸切+板状圧痕 胎土：海綿骨針、雲母、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.4)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.0	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.2)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.9	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	4.5	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.3)	1.9	底面-回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.2	1.9	底面-回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.5	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.4)	2.2	口唇部~体部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	4/5
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.2	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	4/5
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	2.1	器壁摩耗 底面-不明瞭な回転糸切 内底-ナデ 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.9	口唇部に煤附着 薄手の器形 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	3.6	2.2	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	1.9	底面-回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強い横ナデ 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	1.9	底面-回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	完形

27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.1	2.1	底面一回転糸切+不明瞭な板状圧痕、一部製作時に欠けた痕跡 胎土：雲母、赤色粒、 海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	2.2	口唇部に煤付着、打ち欠き痕 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥 岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	2.3	口唇部に煤付着 底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.8	1.7	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	2.0	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼 成：良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 内底強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
33	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.8	底面不明瞭な回転糸切 内底強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	完形
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調： 灰黄色 焼成：良好	完形
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.9	底面一回転糸切 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼 成：良好	2/3
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.0)	2.0	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底強いナデ 胎土：雲母、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.8)	2.1	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼 成：良好	1/2
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	7.6	2.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調： 黄褐色 焼成：良好	完形
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.2	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄 灰色 焼成：良好	3/4
40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.5	2.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
41	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.0	2.4	口唇部一部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕、一部製作時に欠けた痕跡 胎 土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
42	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 灰黄色 焼成：良好	完形
43	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.3	1.9	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨 針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	完形
44	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	2.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 灰黄色 焼成：良好	略完形
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.5	1.9	器壁摩耗 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗 土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
46	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.8	1.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底ナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
47	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.3	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底面摩耗 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
48	土器	ロクロ かわらけ・中	11.5	7.2	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
49	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.7)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
50	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.7	2.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 橙色 焼成：良好	1/3
51	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.0	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 灰黄色 焼成：良好	完形
52	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.6	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 黄灰色 焼成：良好	2/3
53	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.3	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 橙色 焼成：良好	1/3
54	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.2	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底ナデ 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、 粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
55	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	6.8	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	4/5
56	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.5	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 黄褐色 焼成：良好	略完形
57	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.4	3.3	底面一回転糸切 内底ナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 黄灰色 焼成：良好	略完形
58	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底ナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
59	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(6.5)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内外面わずかに黒色 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、 海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/2
60	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	9.3	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
61	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	8.3	3.1	底面一回転糸切 内底強いナデ 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	略完形
62	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	6.5	3.3	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼 成：良好	3/4
63	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.0	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調： 橙色 焼成：良好	完形
64	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.4	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	略完形
65	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	9.3	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底ナデ 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小 石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
66	土器	ロクロ かわらけ・大	13.7	8.5	1.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底やや強い横ナデ 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、 海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/2
67	土器	ロクロ かわらけ・大	14.0	9.4	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調： 黄褐色 焼成：良好	略完形

68	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.5	現 3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成:良好	1/3
69	陶器	瀬戸 折縁深皿	-	-	現 5.6	軟質 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色	口縁部 小破片
70	陶器	瀬戸 折縁深皿	-	-	現 4.0	器壁剝離 軟質 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色	口縁部 小破片
71	陶器	瀬戸 入子	-	3.6	現 0.8	内面黒色に変色 胎土:黒色粒、精良 色調:灰白色	底部 破片
72	陶器	瀬戸 入子	-	3.4	現 0.9	底部-回転糸切 胎土:緻密 色調:灰白色	底部 破片
73	陶器	常滑 甕	-	-	現 8.2	胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:灰褐色 備考:7型式	口縁部 小破片
74	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	12.3	現 4.1	胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:灰色 備考:6a型式	底部 破片
75	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 3.3	胎土:小石粒、白色粒 色調:明褐色	口縁部 小破片
76	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.3	胎土:石英、小石粒、白色粒 色調:暗赤褐色 備考:7型式	口縁部 小破片
77	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.0	胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:暗褐色 備考:7型式	口縁部 小破片
78	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 7.5	胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:明茶褐色 備考:7型式	口縁部 小破片
79	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 5.6	輪花形、印花による16弁菊花文 内外面-器壁剝離 内面-横位のへら成形痕 胎 土:微砂、小石粒 色調:淡赤褐色 焼成:良好	口縁部 小破片
80	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 7.8	外面-上部横位のナデ調整、下部縦位の成形痕 胎土:微砂、小石粒 色調:暗灰色 焼成:良好	口縁部 小破片
81	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 4.8	輪花形、印花による16弁菊花文 内外面-横位のミガキ痕 胎土:微砂 色調:灰 色 焼成:良好	口縁部 小破片
82	瓦質 土器	火鉢	-	-	13.0	外面上部に印花による巴文 外面-横位のミガキ痕 胎土:雲母 色調:灰黒色 焼 成:良好	胴部 破片
83	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 6.8	外面-横位のミガキ痕 胎土:微砂 色調:灰黒色 焼成:良好	脚部 破片
84	石製品	砥石	現長 7.7	幅 3.5	厚 0.9	4面に使用痕跡 仕上砥 色調:灰白色 石材-粘板岩 備考:鳴滝産	
85	石製品	砥石	現長 9.4	幅 4.5	厚 3.8	5面に使用痕跡 中砥 石材-粘板岩	
86	鉄製品	掛金具	現長 6.7	幅 2.2~1.1	厚 0.9~1.5	小孔(径0.5cm)	
87	鉄製品	釘	現長 5.0	幅 1.0	厚 0.6	鍛造 断面方形	
88	鉄製品	釘	現長 6.0	幅 0.5	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形
89	鉄製品	釘	現長 6.3	幅 0.4~0.7	厚 0.2~0.5	鍛造 断面方形	略完形
90	鉄製品	釘	現長 6.5	幅 0.5	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
91	鉄製品	釘	現長 6.9	幅 0.6	厚 0.6	鍛造 断面方形	略完形
92	鉄製品	釘	現長 7.0	幅 0.7	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形
93	鉄製品	釘	現長 7.5	幅 0.7	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
94	鉄製品	釘	現長 7.8	幅 0.3	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形
95	鉄製品	釘	現長 8.0	幅 0.8	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形
96	鉄製品	釘	現長 8.5	幅 0.6	厚 0.6	鍛造	略完形
97	鉄製品	釘	現長 9.2	幅 0.7	厚 0.7	鍛造	略完形
98	鉄製品	釘	現長 9.4	幅 0.6	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形

表4 第3面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

図面 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎石建物3出土遺物(図19)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.4	2.2	器壁摩耗 底面-回転糸切不明瞭 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
土坑4出土遺物(図22)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.8	口唇部に煤附着 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、 粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.0	2.0	底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、白色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼 成:良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.2	1.5	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	6.2	2.7	底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼 成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.5	3.2	内外面に煤附着 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	2/3

土坑5出土遺物(図23)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.7	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	2/3

第3面 遺構外出土遺物(図25・26)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.2	3.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.0)	2.0	外面・断面に漆附着 底面-回転糸切 胎土:精良、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.6)	2.5	底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	1.7	口唇部~体部下半に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.1	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.6	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.7	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強い横ナデ 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	2.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切不明瞭 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	4/5
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	2.1	口唇部~体部下半に煤附着 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.3	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.8	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.7)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/4
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.3)	2.1	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
22	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	完形
23	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.3	2.5	口唇部~体部下半に煤附着 底面-回転糸切 胎土:雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.2	2.1	口唇部~体部下半に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
25	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
26	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
27	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
28	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.5	1.5	底面-回転糸切 胎土:雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
29	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.0)	(5.8)	2.8	薄手の器壁 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良	1/3
30	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.2	3.1	口唇部~体部下半に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	7.0	3.0	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
32	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.9	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
33	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.8)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
34	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.8	3.2	内外面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
35	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.5)	(3.1)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
36	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.8	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
37	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.5	3.5	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形

38	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.3	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
39	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(5.7)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
40	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.4	3.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
41	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	7.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	4/5
42	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.3)	(3.1)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
43	土器	ロクロ かわらけ・大	(16.8)	(9.6)	4.5	底面-回転糸切、糸切痕ナテ消し 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
44	陶器	瀬戸 入子	5.8	4.0	1.4	内面に自然袖付着 底部-ヘラによる成形痕 胎土：精緻 色調：灰白色	2/3
45	陶器	常滑 片口鉢I類	-	-	現 3.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
46	陶器	常滑 片口鉢I類	-	-	現 5.5	内面摩耗 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
47	陶器	常滑 片口鉢I類	-	-	現 5.7	内面摩耗 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
48	陶器	常滑 片口鉢I類	-	-	現 8.1	内面摩耗 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰黒色 備考：5型式	1/6
49	陶器	常滑 片口鉢I類	(25.0)	-	現 9.0	内面摩耗 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：6a型式	口縁部 小破片
50	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 12.8	輪花形 外面上部に11弁の印花による菊花文 外面-ミガキ 胎土：微砂、赤色粒、白色粒 焼成：良好	口縁部 小破片
51	石製品	滑石製品	-	-	現 8.2	滑石製石鍋転用品 温石に加工途中？ 穿孔(径0.6cm)	口縁部~体 部小破片
52	石製品	砥石	現長 6.3	幅 3.3	厚 0.8	2面に使用痕跡 側面切出し痕 仕上砥 色調：黄灰色 石材-粘板岩 備考：鳴滝産	
53	石製品	砥石	現長 6.0	幅 3.6	厚 1.2	2面に使用痕跡 側面切出し痕 仕上砥 色調：黄灰色 石材-粘板岩 備考：鳴滝産	
54	鉄製品	釘	現長 5.0	幅 0.7	厚 0.5	鍛造 断面方形	
55	鉄製品	釘	現長 6.3	幅 0.5	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
56	鉄製品	釘	現長 7.0	幅 0.4~0.7	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形

表5 第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

図面 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑10出土遺物 (図32)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	6.8	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(6.9)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
土坑13出土遺物 (図32)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.1	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	4/5
土坑14出土遺物 (図32)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.9	口唇部~体部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
第4面 遺構外出土遺物 (図34~36)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	4.6	3.5	1.0	底面-回転糸切 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	4.8	4.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	3.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.8	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.1)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.3	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰色 焼成：良好	2/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰色 焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/2

14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.9)	1.4	口唇部～体部に煤付着 底面一回転糸切り 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	1.6	底面一回転糸切 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰色 焼成：良好	2/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.0	1.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.6	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	8.4	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
22	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	8.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.5	胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 8.0	内面摩耗 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.0	内面摩耗、黒色に変色 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 4 型式	底部破片
26	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 4.8	内面摩耗、煤付着 胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：灰色 備考：6 a 型式	底部破片
27	鉄製品	釘	現長 6.0	幅 0.5	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形
28	鉄製品	釘	現長 9.5	幅 0.5	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形
29	鉄製品	火打金	現長 9.3	幅 1.6	厚 0.6	舟形 厚く錆が付着	2/3
30	骨製品	筭	現長 2.5	幅 1.5	厚 0.6	端部蓮形に穿孔あり シカ中足骨製	端部 小破片
31	漆器	蓋	-	つまみ径 (21.6)	現 6.2	内外面-漆髹漆、無文	1/4
32	漆器	椀	-	6.7	現 2.1	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-植物文(文様名不明) 外面-無文 無高台	1/3
33	漆器	椀	-	6.5	現 3.1	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内外面-情景文(千鳥・笹) 輪高台	1/4
34	漆器	椀	(11.0)	(7.0)	3.2	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内外面-植物文(瓜) 高台-黒色漆髹漆	1/2
35	漆器	皿	(9.0)	(6.6)	1.1	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-構成文(籠目・波) 外面-無文 無高台	1/2
36	漆器	皿	(10.0)	(7.0)	0.6	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による型押し施文 内面-松文 外面-無文 無高台	1/3
37	漆器	皿	現径 9.1	7.2	1.1	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-情景文(梅・笹・土坡) 外面-笹文 無高台	口唇部 欠く
38	漆器	皿	(9.2)	(7.0)	1.0	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-構成文(円文) 外面-無文 無高台	略完形
39	漆器	皿	9.0	7.2	1.0	内外面-黒色漆髹漆、粗い整形 無高台	4/5
40	木製品	曲物蓋	長 27.8	幅 12.0	厚 0.6	底板 復元径31.0cm 木釘痕	
41	木製品	曲物	長 18.5	幅 6.9	厚 0.1	端部小孔あり	
42	木製品	曲物	長 18.6	幅 5.5	厚 0.03	端部小孔あり	
43	木製品	脚	長 7.9	幅 1.9	厚 1.8	漆膜剥離?	完形
44	木製品	脚	長 7.7	幅 2.7	厚 2.3	漆膜剥離?	略完形
45	木製品	形代	長 14.2	幅 3.6	厚 2.9	陽物 組物	
46	木製品	下駄	現長 13.3	幅 8.3	厚 4.5	連菌 子供用	3/4
47	木製品	下駄	現長 24.0	幅 10.0	厚 12.9	連菌 高下駄 緒部分に木釘痕	3/4
48	木製品	栓	6.0	径 1.5	-		完形
49	木製品	栓	5.9	径 1.7	-		完形
50	木製品	栓	8.4	2.1	1.5		完形
51	木製品	栓	9.0	1.8	1.3	断面八角形	完形
52	木製品	留具	長 7.2	幅 3.0	厚 1.7	端部に孔(径0.4cm)	完形
53	木製品	棒状	現長 14.4	幅 1.2	厚 1.0		
54	木製品	棒状	長 31.3	1.2	1.2	端部焼痕 火鑽棒?	
55	木製品	用途不明	現長 5.7	幅 1.6	厚 0.7	先端尖り 組物?	

56	木製品	用途不明	長 11.8	幅 4.2	厚 1.7	端部釘痕	
57	漆器	用途不明	長 24.3	幅 2.3	厚 1.5	黒色漆髹漆 3カ所に木釘痕 蓋の把手?	
58	木製品	用途不明	長 40.3	幅 2.3	厚 1.5	小孔(径0.4cm、貫通せず)	
59	木製品	箸状	長 18.5	幅 0.7	厚 0.5	両端部焼痕	略完形
60	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.6	厚 0.4	端部焼痕 火鑽棒?	略完形
61	木製品	箸状	長 20.6	幅 0.6	厚 0.3		略完形
62	木製品	箸状	長 20.7	幅 0.6	厚 0.4		略完形
63	木製品	箸状	長 16.2	幅 0.6	厚 0.5		略完形
64	木製品	箸状	長 17.5	幅 0.5	厚 0.4		略完形
65	木製品	箸状	長 17.7	幅 0.6	厚 0.4		略完形
66	木製品	箸状	長 19.0	幅 0.7	厚 0.6		略完形
67	木製品	箸状	長 19.3	幅 0.6	厚 0.4		略完形
68	木製品	箸状	長 21.0	幅 0.5	厚 0.3		略完形
69	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.7	厚 0.4		略完形

表6 第5面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

図面 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

礎板建物 5 出土遺物 (図40)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.2	1.6	底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰色 焼成: 良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.6	3.3	見込み器壁剥離 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、 海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
4	陶器	常滑 壺	-	(9.4)	現 4.4	胎土:微砂、白色粒 色調:暗褐色 無頸壺?	底部破片
5	漆器	蓋	-	つまみ径 (21.4)	現 4.1	内外面-黒色漆髹漆、無文	1/2
6	漆器	椀	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文(笹文)	胴部片

杵状遺構 1 出土遺物 (図42)

1	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.0	3.3	内底が黒色化 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、 泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
2	木製品	下駄	現長 9.3	幅 9.2	厚 2.1	下駄の歯部分	歯部分 2/3

板組遺構 1 出土遺物 (図44)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.0	3.5	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
2	木製品	経木折敷	長 17.2	現幅 3.7	厚 0.1		
3	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.6	厚 0.4	端部に赤色の付着物あり	完形
4	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.7	厚 0.4		完形
5	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.7	厚 0.5		完形
6	木製品	箸状	長 20.7	幅 0.7	厚 0.5		完形
7	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.6	厚 0.4		完形
8	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.5		完形
9	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.6	厚 0.5		完形
10	木製品	箸状	長 22.4	幅 0.6	厚 0.5		完形

板組遺構 2 出土遺物 (図45)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.0	1.7	口唇部に煤附着 底面-糸切痕不明瞭+板状圧痕 胎土:雲母、赤色粒、泥岩粒、海 綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.0)	3.0	二次焼成? 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、 粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
3	漆器	椀	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文(笹文)	胴部破片
4	漆器	椀	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文(文様不明)	胴部破片
5	木製品	用途不明	長 9.5	幅 3.4	厚 3.1	一部焼痕 上部に切り込み 農具?	

6	木製品	箸状	長 18.1	幅 0.5	厚 0.5		
板組遺構 3 出土遺物 (図46)							
1	木製品	下駄	現長 22.0	幅 12.0	厚 1.4	連歯	2/3
第5面 遺構外出土遺物 (図48~51)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	5.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.5	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.0	2.1	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.3	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	1.90	歪み大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	3/4
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.7	口唇部に打ち欠き痕 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	内底に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	口唇部に煤付着 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	2.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.0	1.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	4/5
16	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.4	3.0	体部に煤付着 底面-回転糸切 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
17	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	8.0	3.2	底面-緩い回転糸切+板状圧痕 胎土:黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	2/3
18	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.3	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕、内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.8	3.3	底面-緩い回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	3/4
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.1	内底に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.5	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
23	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.5	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
24	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	10.0	3.5	底面-緩い回転糸切+板状圧痕 胎土:黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・中	-	7.4	現 2.6	口唇部を打ち欠き使用 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	略完形
26	土器	ロクロ かわらけ・中	-	-	-	内面に漆付着、パレットとして使用 底面-回転糸切 胎土:雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色	底部破片
27	磁器	白磁 口元皿	-	-	現 2.0	胎土:精緻 色調:胎土-灰白色、釉-透明	底部破片
28	磁器	青磁 折縁皿	-	-	現 2.0	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	口縁部 小破片
29	磁器	青磁 折縁皿	-	-	現 4.7	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁	口縁部 小破片
30	磁器	青磁 坏	(12.0)	-	現 2.6	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁坏Ⅲ類	口縁部 小破片
31	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.0	内外面-無文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類?	口縁部 小破片
32	陶器	天目茶碗	-	-	現 3.2	胎土:精緻 色調:胎土-暗褐色、釉-黒褐色 備考:中国産	口縁部 小破片
33	陶器	天目茶碗	-	3.2	現 4.5	外面下部~高台部-露胎 色調:胎土-暗灰色、釉-黒褐色 備考:中国産	底部 小破片
34	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.2	胎土:微砂、白色粒 色調:茶褐色 備考:6b型式	口縁部 小破片
35	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 4.3	口唇部・外面に煤付着 胎土:微砂、白色粒 色調:灰色 備考:備考:5型式	口縁部 小破片
36	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 9.7	内面摩耗 胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:灰色 備考:6a型式	底部 小破片
37	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.5	外面-ヘラ状工具による成形痕 胎土:微砂、白色粒 色調:暗茶褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片

38	陶器	摩耗陶片	現長 5.1	現幅 6.5	厚 0.7	常滑窯産の甕胴部破片 断面1カ所摩耗	略完形
39	瓦質土器	碗	12.8	8.1	4.0	内外面黒色に変色 底面-回転糸切痕をナデ成形 胎土:微砂 色調:灰色 焼成:良好	略完形
40	瓦質土器	火鉢	-	-	現4.3	外面上部-櫛状工具による縦位の成形痕 内面-ナデ 胎土:微砂、小石粒 色調:暗灰色 焼成:良好	口縁部小破片
41	瓦質土器	火鉢	-	-	現7.5	外面-縦位櫛目状の成形痕 胎土:微砂、小石粒 色調:灰黒色、灰白色	底部小破片
42	石製品	砥石	現長 4.0	幅 2.9	厚 1.0	2面に使用痕跡 仕上砥 色調:灰白色 備考:鳴滝産	
43	石製品	砥石	現長 6.0	幅 3.9	厚 1.1	2面に使用痕跡 仕上砥 色調:灰白色 備考:鳴滝産	1/2
44	鉄製品	刀子	現長 5.7	幅 2.7	厚 0.5	鍛造	
45	鉄製品	釘	現長 5.6	幅 0.4	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形
46	鉄製品	釘	現長 6.2	幅 0.6	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
47	鉄製品	釘	現長 6.8	幅 0.6	厚 0.4	鍛造 断面方形	
48	鉄製品	釘	現長 7.0	幅 0.3	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形
49	鉄製品	釘	現長 8.1	幅 0.5	厚 0.4	鍛造 断面方形	略完形
50	鉄製品	釘	現長 8.2	幅 0.4	厚 0.3	鍛造 断面方形	略完形
51	鉄製品	釘	現長 9.1	幅 0.5	厚 0.5	鍛造 断面方形	略完形
52	鉄製品	釘	現長 9.3	幅 0.5	厚 0.3	鍛造 断面方形	
53	鉄製品	釘	現長 10.2	幅 0.6	厚 0.5	鍛造 断面方形 掛金具?	
54	鉄製品	釘	現長 11.3	幅 0.5	厚 0.4	鍛造 断面方形	
55	漆器	椀	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内外面-情景文(水・笹) 高台形不明	胴部破片
56	漆器	椀	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-情景文(土坡・松・笹・鶴) 外面-情景文(笹・鶴) 輪高台	1/3
57	漆器	椀?	-	6.0	現0.3	内外面-黒色漆髹漆、無文 無高台	底部破片
58	漆器	椀	-	8.0	現4.0	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面見込み・側面-亀甲花文 外面-亀甲花文、文様不鮮明、稚拙な施文 輪高台	5/6
59	漆器	皿	(9.2)	7.2	0.8	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面-文様不明 外面-無文 無高台	3/4
60	漆器	皿	(9.4)	7.0	0.95	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による型押し施文 内面-対い鶴文 外面-無文 無高台	4/5
61	木製品	経木折敷	長 15.5	現幅 6.0	厚 0.1	小孔あり	
62	木製品	経木折敷	長 17.2	現幅 13.0	厚 0.1	小孔あり	
63	木製品	経木折敷	長 17.8	幅 2.1	厚 0.1		
64	木製品	経木折敷	長 19.2	幅 5.3	厚 0.2		
65	木製品	膳	長 28.6	幅 2.7	厚 0.6	2カ所釘痕	
66	漆器	櫛	現長 4.2	幅 4.2	厚 0.9	黒色漆髹漆 梳櫛	1/3
67	木製品	織機	長 12.0	幅 3.0	厚 0.4~1.0	糸巻き部品	
68	木製品	草履芯	現長 10.0	幅 4.5	厚 0.2	合わせ部が最先端となる 端部曲線的 端部小孔 薬痕	側縁前方部
69	木製品	草履芯	現長 9.2	幅 4.8	厚 0.3		側縁後方部
70	木製品	草履芯	現長 23.9	幅 5.3	厚 0.2	端部小孔 薬痕	1/2
71	木製品	草履芯	長 24.6	幅 11.0	厚 0.2	合わせ部が最先端となる 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔 薬痕	略完形
72	木製品	篋状	長 20.7	幅 2.3	厚 1.0	断面扁平	完形
73	木製品	用途不明	長 4.9	幅 4.5	厚 3.5	端材 黒色の付着物	
74	木製品	用途不明	長 5.5	幅 2.1	厚 1.1	端材?	
75	木製品	用途不明	現長 10.6	現幅 4.5	厚 4.4	焼痕 端材?	
76	木製品	用途不明	長 11.2	幅 1.1	厚 1.1		
77	木製品	用途不明	長 11.4	幅 9.4	厚 2.0	端部焼痕 下駄の歯?	
78	木製品	用途不明	現長 12.6	幅 3.1	厚 0.9	断面半円形 小孔あり(径0.3cm)	

79	木製品	用途不明	長 14.6	幅 0.9	厚 0.3	扇?	
80	木製品	用途不明	現長 18.6	現幅 2.0	厚 0.5	端材	
81	木製品	用途不明	現長 19.6	現幅 3.5	厚 0.2	板折敷?	
82	木製品	用途不明	長 20.7	幅 8.4	厚 1.0	部材 木釘痕	
83	木製品	用途不明	現長 21.0	現幅 3.7	厚 1.0	端材	
84	木製品	用途不明	長 44.5	幅 5.5	厚 0.7	焼痕 建具?	
85	木製品	箸状	長 19.7	幅 0.6	厚 0.6		略完形
86	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.5	厚 0.4		略完形
87	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.6	厚 0.6		略完形
88	木製品	箸状	長 20.0	幅 0.5	厚 0.6		略完形
89	木製品	箸状	長 20.0	幅 0.6	厚 0.6		略完形
90	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.6	厚 0.5		略完形
91	木製品	箸状	長 21.0	幅 0.6	厚 0.6		略完形
92	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.6	厚 0.4		略完形
93	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.5		略完形
94	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.7	厚 0.4		略完形
95	木製品	箸状	長 23.0	幅 0.6	厚 0.5		略完形

表7 第6面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

図面 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎石・礎板建物6出土遺物(図55)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	5.4	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 橙色 焼成:良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	6.2	1.6	口唇部~体部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 灰色 焼成:良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.2	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰色 焼成:良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.7	1.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 灰色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.0	1.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰褐色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.0	1.8	底面-回転糸切 胎土:雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	6.6	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・大	14.2	9.8	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
10	陶器	常滑 片口鉢I類	-	-	現 3.8	胎土:微砂、白色粒、小石粒 色調:灰白色 備考:5型式	口縁部 小破片
11	瓦	平瓦	長 17.3	短 11.6	厚 2.4	凸面-剥がれ砂付着、縦位のナデ痕、格子文 凹面-剥がれ砂付着、縦位のナデ痕 胎土:小石粒 色調:灰白色	
12	漆器	器種不明	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆、赤色系漆による型押し施文 内面-四重の正方形の中に花文 外面-無文 高台形不明	胴部破片

土坑15出土遺物(図57)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	8.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形

土坑18出土遺物(図58)

1	漆器	鉢	-	-	現 4.0	内外面-黒色漆髹漆、無文 一部に焼痕	口縁部 小破片
---	----	---	---	---	----------	--------------------	------------

第6面 遺構外出土遺物(図59・60)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	-	6.0	現 2.3	底面-回転糸切 胎土:山茶碗に似る、海綿骨針、粗土 色調:灰色 焼成:良好	底部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・中	-	5.0	現 1.0	底面-回転糸切 胎土:山茶碗に似る、白色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:灰色 焼成:良好	底部 小破片
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(8.2)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2

5	陶器	常滑 甍	-	-	現 4.0	胎土：微砂、白色粒 色調：暗褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甍	-	-	現 5.7	胎土：微砂、白色粒 色調：灰褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
7	漆器	皿	径 9.4	6.0	1.1	内外面 - 黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面 - 情景文(水・笹・鳥・不明 文様) 外面 - 3ヵ所に笹文 輪高台	略完形
8	漆器	皿	-	-	現 0.8	内外面 - 黒色漆髹漆、赤色系漆による手描き施文 内面 - 情景文か(垣) 無高台	胴部破片
9	木製品	経木折敷	長 17.8	現幅 6.0	厚 0.1	小孔あり	
10	木製品	経木折敷	長 17.5	現幅 4.0	厚 0.1	小孔あり	
11	木製品	曲物	径 9.6	現幅 4.8	厚 0.1	側板 桜皮による綴じ痕	
12	木製品	草履芯	現長 14.0	現幅 3.2	厚 0.2	端部小孔(径 0.2cm)	
13	木製品	箸状	長 19.7	幅 0.9	厚 0.2	断面扁平	略完形
14	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.5	厚 0.4		略完形
15	木製品	箸状	長 20.6	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平	略完形
16	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.7	厚 0.3		略完形
17	木製品	箸状	長 22.5	幅 0.5	厚 0.4		略完形

表8 遺構計測表

〈 〉 = 現存値

遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ
礎石建物 1	第 1 面	〈380〉	〈310〉	10~40
土坑 1	第 1 面	96	〈26〉	7
ピット 1	第 1 面	54	32	11
礎石建物 2	第 2 面	〈550〉	〈270〉	13~16
溝状遺構 1	第 2 面	〈437〉	75~95	10
溝状遺構 2	第 2 面	〈188〉	12~18	6~12
土坑 2	第 2 面	60	-	23
土坑 3	第 2 面	〈76〉	〈17〉	25
ピット 2	第 2 面	68	60	14
ピット 3	第 2 面	46	36	9
ピット 4	第 2 面	38	35	7
ピット 5	第 2 面	43	41	11
ピット 6	第 2 面	52	49	26
ピット 7	第 2 面	44	〈20〉	9
ピット 8	第 2 面	33	30	14
ピット 9	第 2 面	22	16	7
ピット 10	第 2 面	49	-	18
ピット 11	第 2 面	18	〈10〉	9
ピット 12	第 2 面	42	〈33〉	26
ピット 13	第 2 面	40	〈22〉	19
ピット 14	第 2 面	28	-	21
礎石建物 3	第 3 面	〈580〉	〈300〉	8~22
土坑 4	第 3 面	86	〈56〉	29
土坑 5	第 3 面	80	〈62〉	6
土坑 6	第 3 面	86	〈75〉	26~32
土坑 7	第 3 面	62	50	21
土坑 8	第 3 面	65	43	31
ピット 15	第 3 面	21	〈8〉	6
ピット 16	第 3 面	20	〈6〉	10
ピット 17	第 3 面	34	〈16〉	30

遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット 18	第 3 面	35	30	22
ピット 19	第 3 面	40	30	19
ピット 20	第 3 面	41	〈25〉	24
ピット 21	第 3 面	44	30	18
ピット 22	第 3 面	39	36	12
ピット 23	第 3 面	51	36	21
ピット 24	第 3 面	51	46	21
ピット 25	第 3 面	46	39	11
ピット 26	第 3 面	26	23	14
ピット 27	第 3 面	30	21	12
礎石・礎板 建物 4	第 4 面	〈810〉	〈500〉	13~34
石列	第 4 面	161	52	-
土坑 9	第 4 面	74	60	17
土坑 10	第 4 面	〈105〉	70	20
土坑 11	第 4 面	66	45	10
土坑 12	第 4 面	72	30	10~16
土坑 13	第 4 面	〈136〉	81	11
土坑 14	第 4 面	〈64〉	59	8
ピット 28	第 4 面	35	〈17〉	21
ピット 29	第 4 面	50	〈19〉	23
ピット 30	第 4 面	45	〈25〉	24
ピット 31	第 4 面	〈28〉	25	9
ピット 32	第 4 面	21	18	18
ピット 33	第 4 面	34	29	15
ピット 34	第 4 面	50	32	19
ピット 35	第 4 面	49	33	14
ピット 36	第 4 面	〈45〉	〈40〉	7
礎板建物 5	第 5 面	410	200	5~12
樹状遺構 1	第 5 面	〈80〉	〈54〉	23

遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ
板組遺構 1	第 5 面	〈124〉	〈115〉	-
板組遺構 2	第 5 面	〈125〉	〈115〉	-
板組遺構 3	第 5 面	〈165〉	〈21〉	-
ピット 37	第 5 面	39	27	34
ピット 38	第 5 面	36	31	34
ピット 39	第 5 面	35	30	28
ピット 40	第 5 面	35	23	16
ピット 41	第 5 面	25	19	17
ピット 42	第 5 面	〈49〉	〈37〉	16
ピット 43	第 5 面	〈32〉	〈25〉	17
ピット 44	第 5 面	39	36	9
ピット 45	第 5 面	〈30〉	20	12
ピット 46	第 5 面	40	〈15〉	37
ピット 47	第 5 面	48	40	-
礎石・礎板 建物 6	第 6 面	〈230〉	〈100〉	48~70
土坑 15	第 6 面	97	〈61〉	35
土坑 16	第 6 面	113	72	22
土坑 17	第 6 面	69	65	20
土坑 18	第 6 面	136	96	26
ピット 48	第 6 面	34	28	13
ピット 49	第 6 面	〈41〉	〈27〉	19
ピット 50	第 6 面	〈40〉	〈38〉	14
ピット 51	第 6 面	35	33	14
ピット 52	第 6 面	28	18	38
ピット 53	第 6 面	35	32	34
ピット 54	第 6 面	41	27	9
ピット 55	第 7 面	46	41	23

※礎石建物の長軸・短軸は心々の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表9 出土遺物一覧表

第1面

礎石建物 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ ロクロ成形	25
【陶器】		
瀬戸	柄付片口鉢	1
	折縁深皿	3
	卸皿	5
【土器】		
	火鉢	3
【瓦質土器】		
	火鉢	2
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	2
	合計	45

表採		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	39
【白磁】		
	蓋	1
【陶器】		
常滑	甕	72
	片口鉢類	1
【土器】		
	火鉢	1
	合計	114

第1面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	26
【青白磁】		
	花瓶	1
【陶器】		
瀬戸	花瓶	1
	瓶子	1
	壺	1
	片口鉢	2
	入子	1
	折縁深皿	2
	卸皿	7
	小皿	2
渥美	甕	3
常滑	甕	5
	片口鉢Ⅱ類	2
【土器】		
	火鉢	4
【瓦質土器】		
	火鉢	3
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	6
	合計	70

第2面		
溝状遺構 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

溝状遺構 2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		

かわらけ	ロクロ成形	3
	合計	3

土坑 2		
産地	器種	破片数
【陶器】		
瀬戸	花瓶	1
	合計	1

ビット 2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	合計	1

ビット 3		
産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

ビット 7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
	合計	6

ビット 8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	合計	1

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ ロクロ成形	345
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	4
	小椀Ⅱ類	1

【陶器】		
瀬戸	花瓶	1
	片口鉢	1
	入子	3
	折縁深皿	2
	卸皿	3
	小皿	1
	常滑	甕
	片口鉢Ⅰ類	15
	片口鉢Ⅱ類	4
山茶碗窯	片口鉢	1

【土器】		
	火鉢	46
【瓦質土器】		
	火鉢	14
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
	砥石	6
	硯	2
	硯石材	2

【金属製品】		
	銭貨	9
	掛金具	1
	釘	23
	合計	564

第3面		
礎石建物 3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		

常滑	甕	2
【土器】		
	火鉢	2
【瓦質土器】		
	火鉢	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	14

土坑 4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	15
	合計	15

土坑 5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
	合計	4

土坑 7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
	合計	4

土坑 8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【陶器】		
亀山	甕	1
	合計	5

ビット18		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
	合計	2

ビット21		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
	合計	2

ビット22		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
	合計	1

ビット25		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
	合計	2

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	318
【白磁】		
	碗	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	2
	椀Ⅱ類	2
	折縁皿	1

【青白磁】		
	花瓶	1
【陶器】		

瀬戸	片口鉢	7
	入子	1
	片口鉢	1
常滑	甕	69
	片口鉢Ⅰ類	7
	片口鉢Ⅱ類	8
山茶碗窯	片口鉢	4
【土器】		
	火鉢	9
	羽釜	1
	円盤状土製品	1
【瓦質土器】		
	火鉢	1
【石製品】		
	滑石製品	2
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	3
	釘	9
合計 449		

第4面

礎石・礎板建物4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	1
常滑	甕	3
山茶碗窯	片口鉢	1
合計 11		

土坑10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	14
【陶器】		
常滑	甕	10
合計 24		

土坑13		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【土器】		
	火鉢	1
合計 2		

土坑14		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【金属製品】		
	銭貨	1
合計 9		

ピット34		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計 1		

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	10
	かわらけ ロクロ成形	297
	かわらけ 手づくね成形	3
【白磁】		
	碗	1
	口元皿	4
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	4
	折縁皿	2
【青白磁】		
	水注	1
	小皿	2

【陶器】		
瀬戸	片口鉢	5
	山茶碗	1
渥美	甕	2
	甕	61
	壺	1
常滑	無頸壺	1
	片口鉢Ⅰ類	9
	片口鉢Ⅱ類	1
山茶碗窯	片口鉢	3
【瓦質土器】		
	小壺	1
	火鉢	2
【瓦】		
	平瓦	4
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	漆器	15
	曲物	4
	脚	2
	栓	7
	形代	1
	下駄	2
	留具	1
	棒状	4
	箸状	18
	用途不明	14
【骨製品】		
	筭	1
【金属製品】		
	銭貨	3
	火打金	1
	釘	7
合計 496		

【陶器】		
瀬戸	片口鉢	1
常滑	甕	3
山茶碗窯	片口鉢	1
合計 11		

第5面

礎板建物5(囲炉裏)		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	14
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	無頸壺	1
【木製品】		
	漆器蓋	1
	漆器椀	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計 20		

礎板建物5(P3~P5)		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		
瀬戸	花瓶	1
常滑	甕	1
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	箸	1
	用途不明	4
合計 16		

柵状遺構1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		
瀬戸	山茶碗	1
渥美	甕	1
【木製品】		
	下駄	1
	箸	1

合計 12		
板組遺構1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	1
【木製品】		
	経木折敷	1
	箸	10
【金属製品】		
	銭貨	1
合計 21		

板組遺構2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	13
【白磁】		
	口元皿	1
【陶器】		
常滑	甕	5
【木製品】		
	漆器椀	2
	箸	5
	用途不明	1
合計 27		

板組遺構3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	15
山茶碗窯	片口鉢	1
【木製品】		
	下駄	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計 27		

ピット38		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
合計 5		

ピット39		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	摩耗陶片	1
山茶碗窯	片口鉢	1
合計 3		

第5面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	214
	かわらけ 手づくね成形	12
【白磁】		
	碗	1
	口元皿	1

第6面

【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	5
	椀Ⅱ類	10
	坏	1
	皿Ⅱ類	1
	折縁皿	2
	瓶類	1
【陶器】		
中国	天目茶碗	2
瀬戸	瓶子	1
	片口鉢	2
	入子	1
	折縁皿	2
東播系	片口鉢	1
常滑	甕	101
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	8
	片口鉢Ⅱ類	2
	摩耗陶片	1
山茶碗窯	片口鉢	7
【土器】		
	火鉢	3
【瓦質土器】		
	碗	4
	火鉢	7
【瓦】		
	平瓦	5
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
	砥石	7
	碁石	1
【木製品】		
	漆坏	1
	漆椀	4
	漆皿	2
	経木折敷	4
	膳	1
	櫛	1
	織機	1
	草履芯	4
	籠状	1
	箸状	15
	用途不明	15
【骨製品】		
	筭	1
【金属製品】		
	銭貨	8
	刀子	1
	おとし金	1
	釘	20
合計		487

礎石・礎板建物6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	28
	かわらけ 手づくね成形	5
【陶器】		
常滑	甕	7
山茶碗窯	片口鉢Ⅰ類	2
【木製品】		
	漆器片	1
【瓦】		
	平瓦	2
合計		45
土坑15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
合計		4
土坑16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
	かわらけ 手づくね成形	4
合計		7
土坑18		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
	かわらけ 手づくね成形	1
【木製品】		
	漆器鉢	1
合計		7
ピット49		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		1
ピット50		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット53		
産地	器種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1
ピット54		
産地	器種	破片数
【瓦質土器】		
	火鉢	1
合計		1
第6面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	34
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	坏	1
	折縁鉢	1
【陶器】		
瀬戸	片口鉢	3
常滑	甕	9
山茶碗窯	片口鉢	1
【木製品】		
	漆器皿	2
	経木折敷	2
	曲物	1
	草履芯	4
	箸状	11
	用途不明	2
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	釘	2
合計		75

第7面		
第7面 遺構外		
産地	器種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1



1. 調査区近景(南東から)



2. I区東壁土層断面(西から)



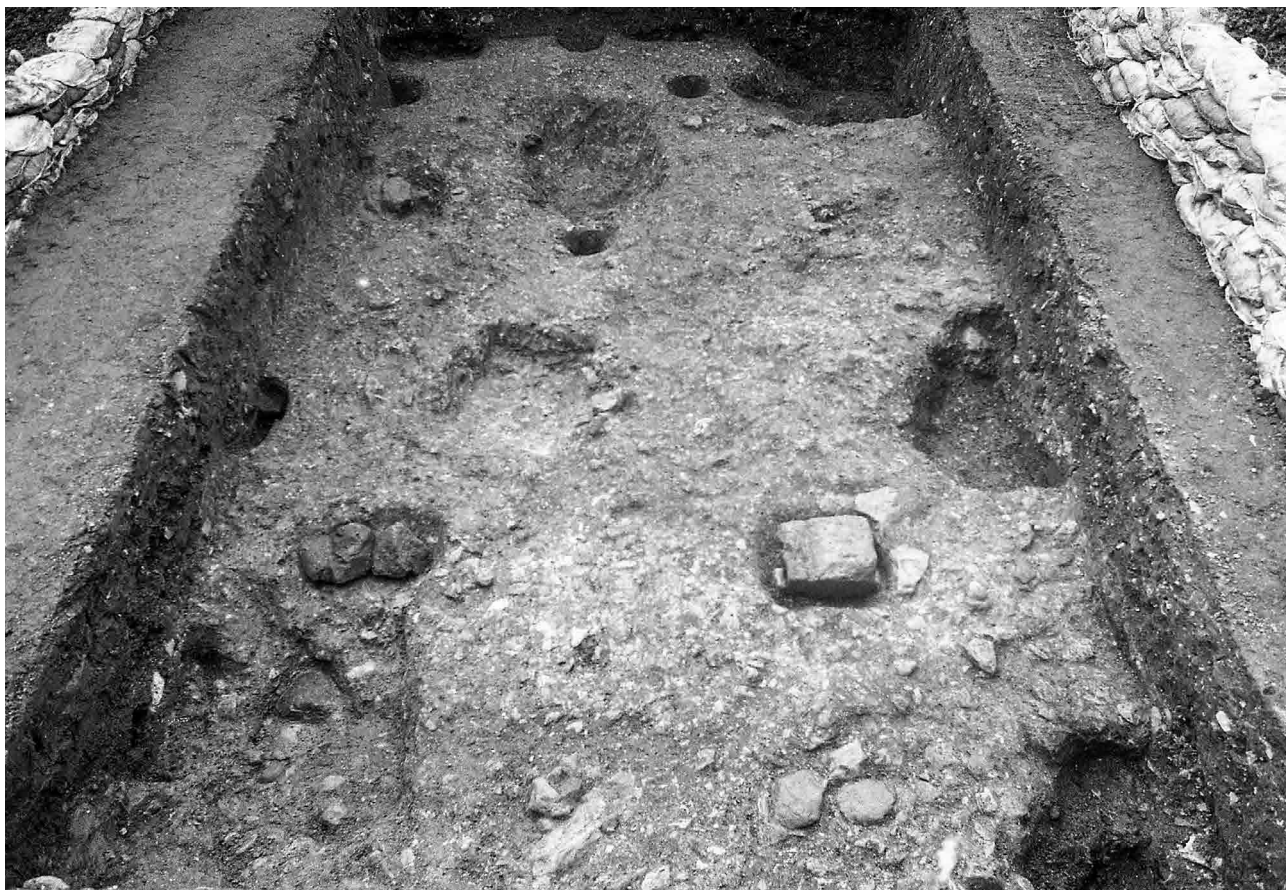
1. II区東壁土層断面(南西から)



2. I区第1面全景および礎石建物1(西から)

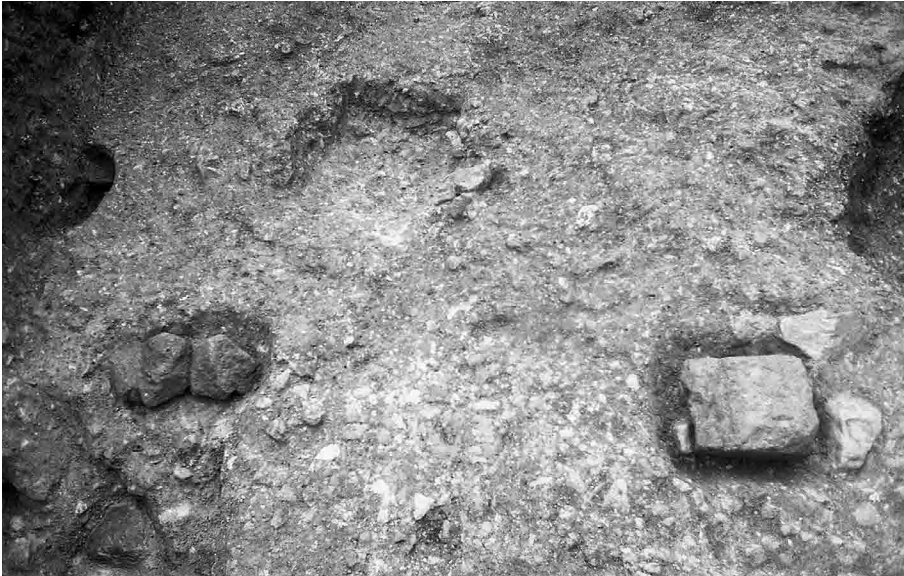


1. I区第2面全景(西から)



2. II区第2面全景(東から)

図版 4



1. 第2面 礎石建物2P1・2 (東から)



2. 第2面 礎石建物2P1 (東から)



3. 第2面 礎石建物2P2 (北から)



1. I区第3面全景(西から)



2. II区第3面全景(東から)



1. I区第4面全景および礎石・礎板建物4南側(東から)



2. II区第4面全景および礎石・礎板建物4北側(西から)



1. 第4面 礎石・礎板建物4P2 (西から)



2. 第4面 礎石・礎板建物4P3 (南から)



3. 第4面 礎石・礎板建物4P5 (北から)



4. 第4面 礎石・礎板建物4P6 (北から)



5. 第4面 石列1 (西から)



1. I区第5面全景(西から)



2. II区第5面全景(西から)



1. 第5面 礎板建物5 (南から)



2. 第5面 礎板建物5 囲炉裏 (南から)



1. 第5面 板組遺構 1
(東から)



2. 第5面 板組遺構 1 壁板
(北から)



3. 第5面 板組遺構 3
(北から)



4. 第5面 板組遺構 3 壁板
(東から)



1. I区第6面全景(西から)



2. 第6面 礎石・礎板建物6(南から)



1. 第6面 礎石・礎板建物6 壁板およびP 1 (南から)



2. 第6面 礎石・礎板建物6 P 1の柱および礎板(南から)



3. 第6面 礎石・礎板建物6 壁板およびP 2の柱(南から)



1. 第6面 礎石・礎板建物6P2の柱(北から)

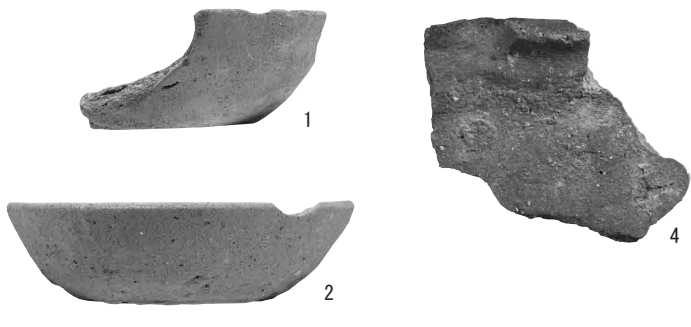
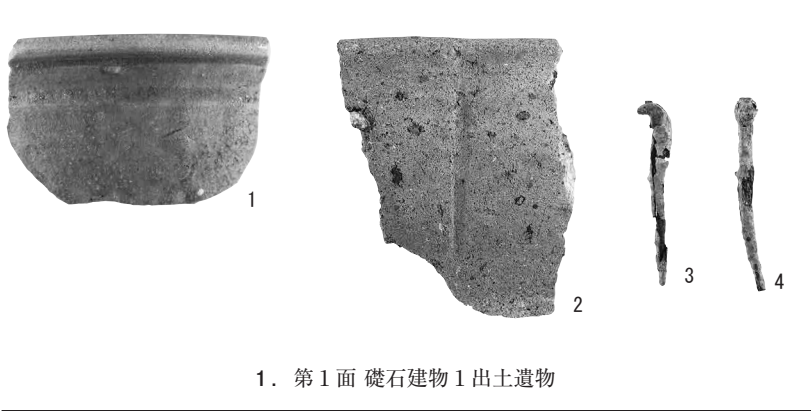


2. 第6面 礎石・礎板建物6壁板(南から)

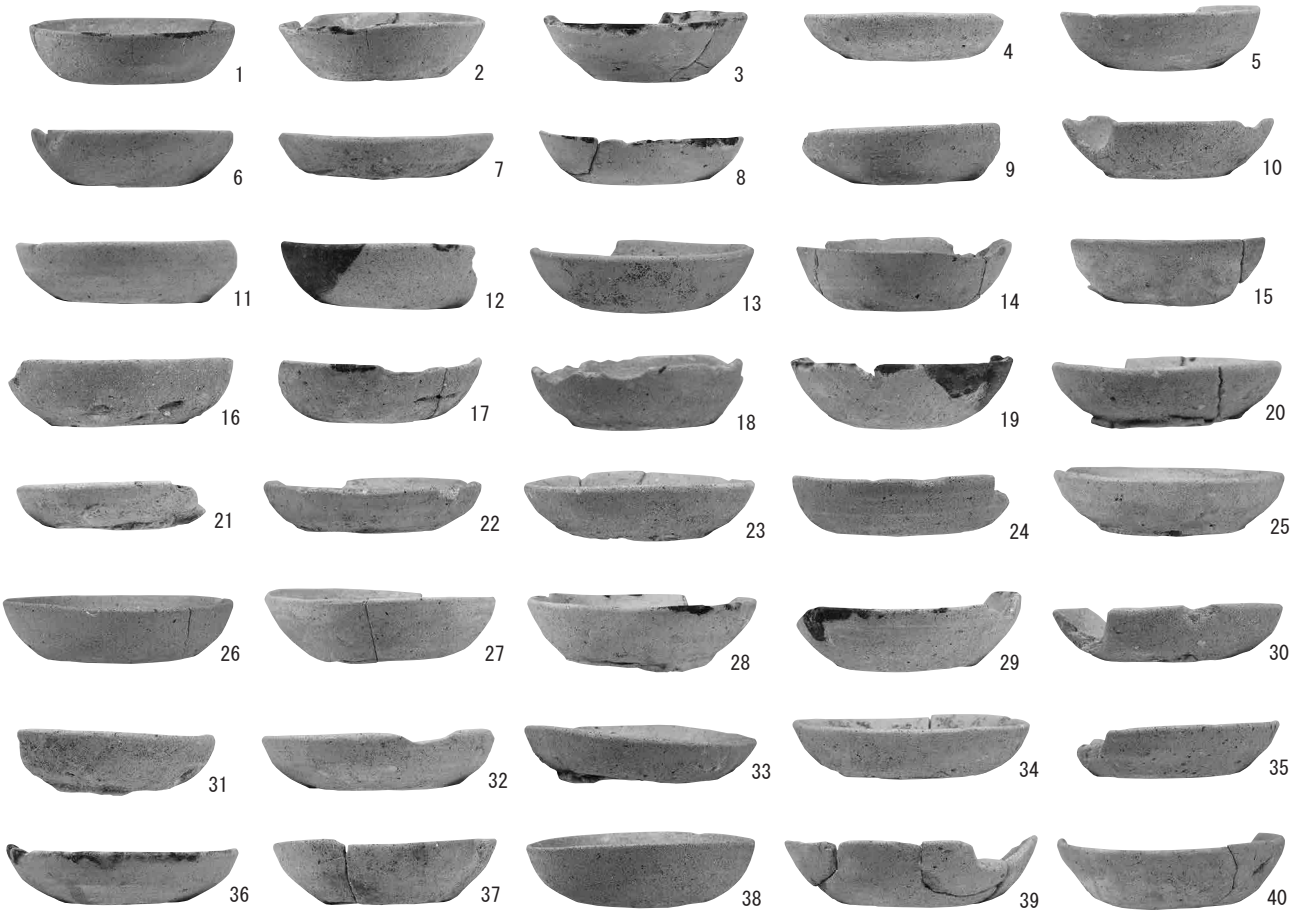


3. 第7面 深掘り全景と礎板(南から)

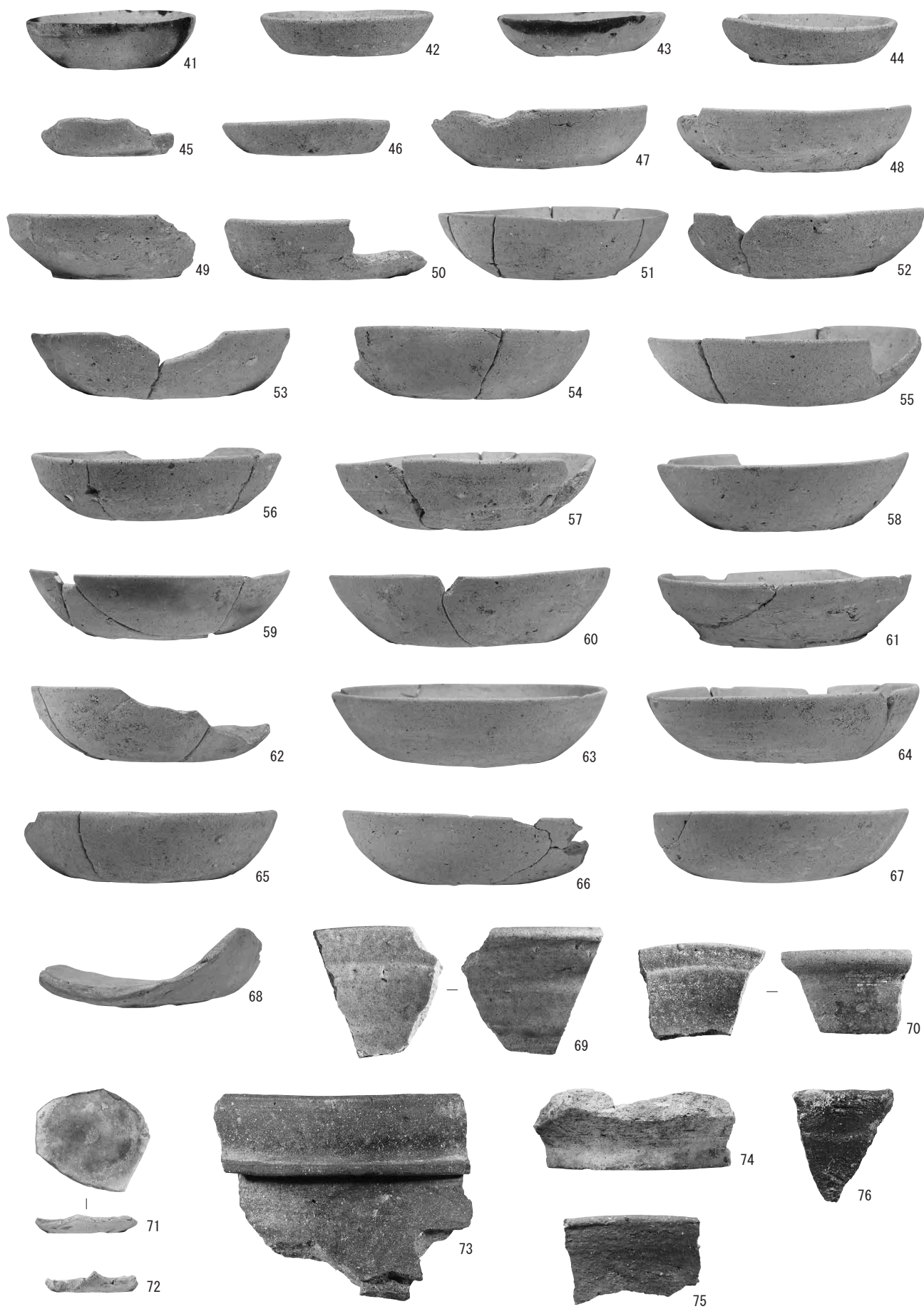
图版 14



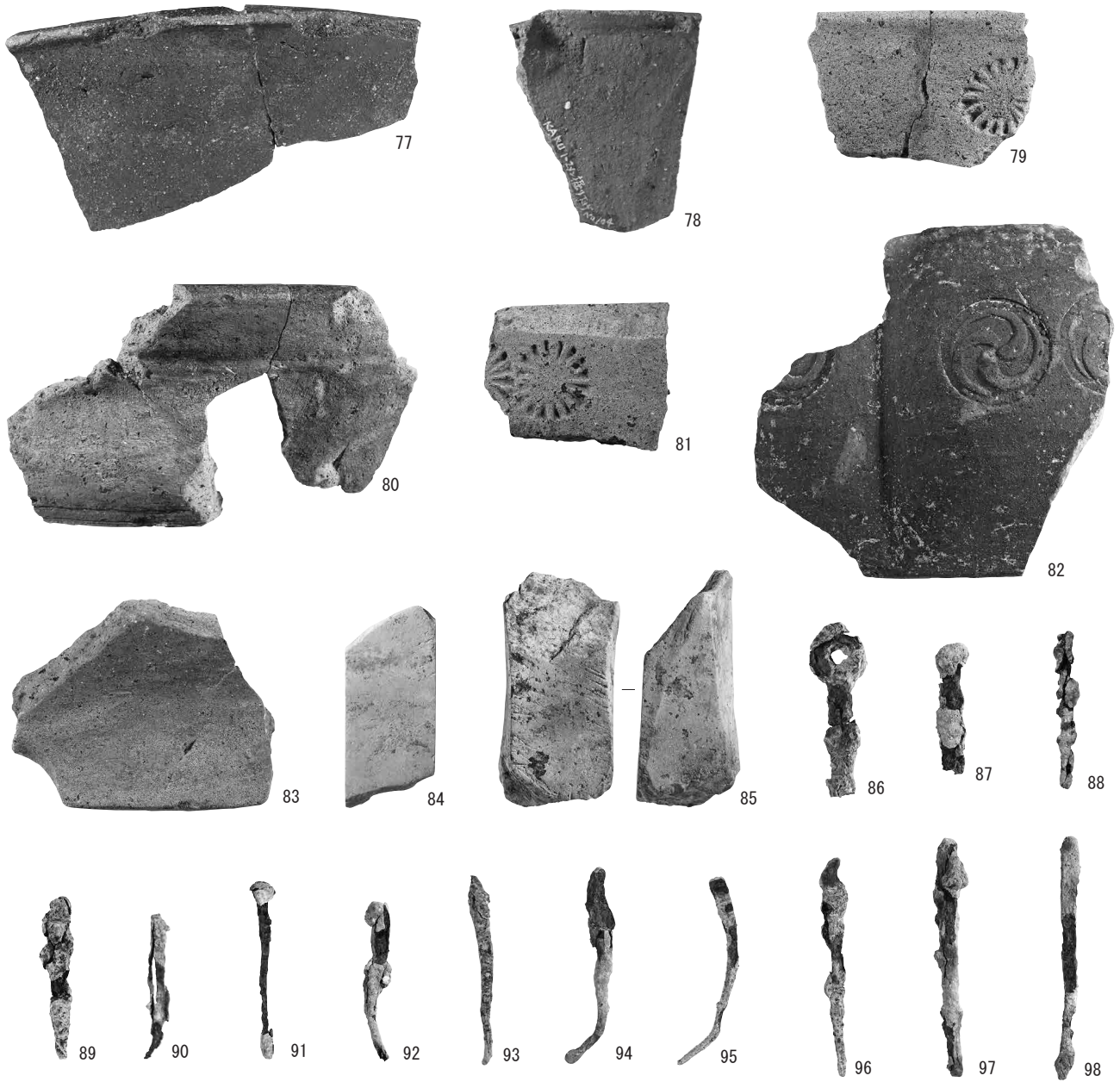
2. 第1面 遺構外出土遺物



3. 第2面 遺構外出土遺物(1)



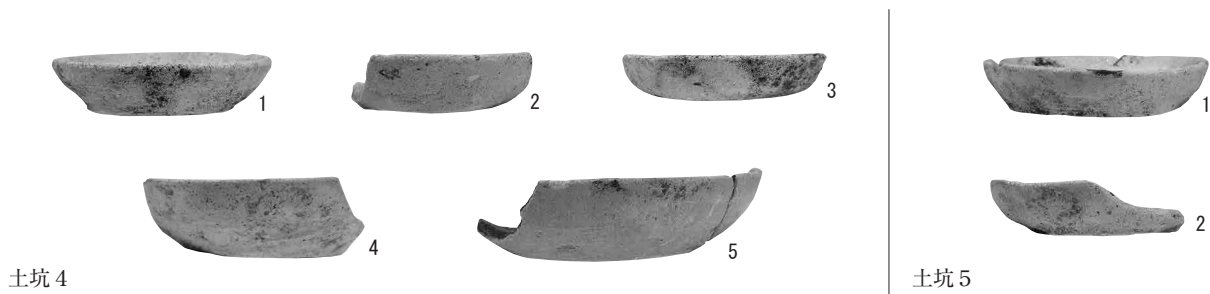
1. 第2面 遺構外出土遺物(2)



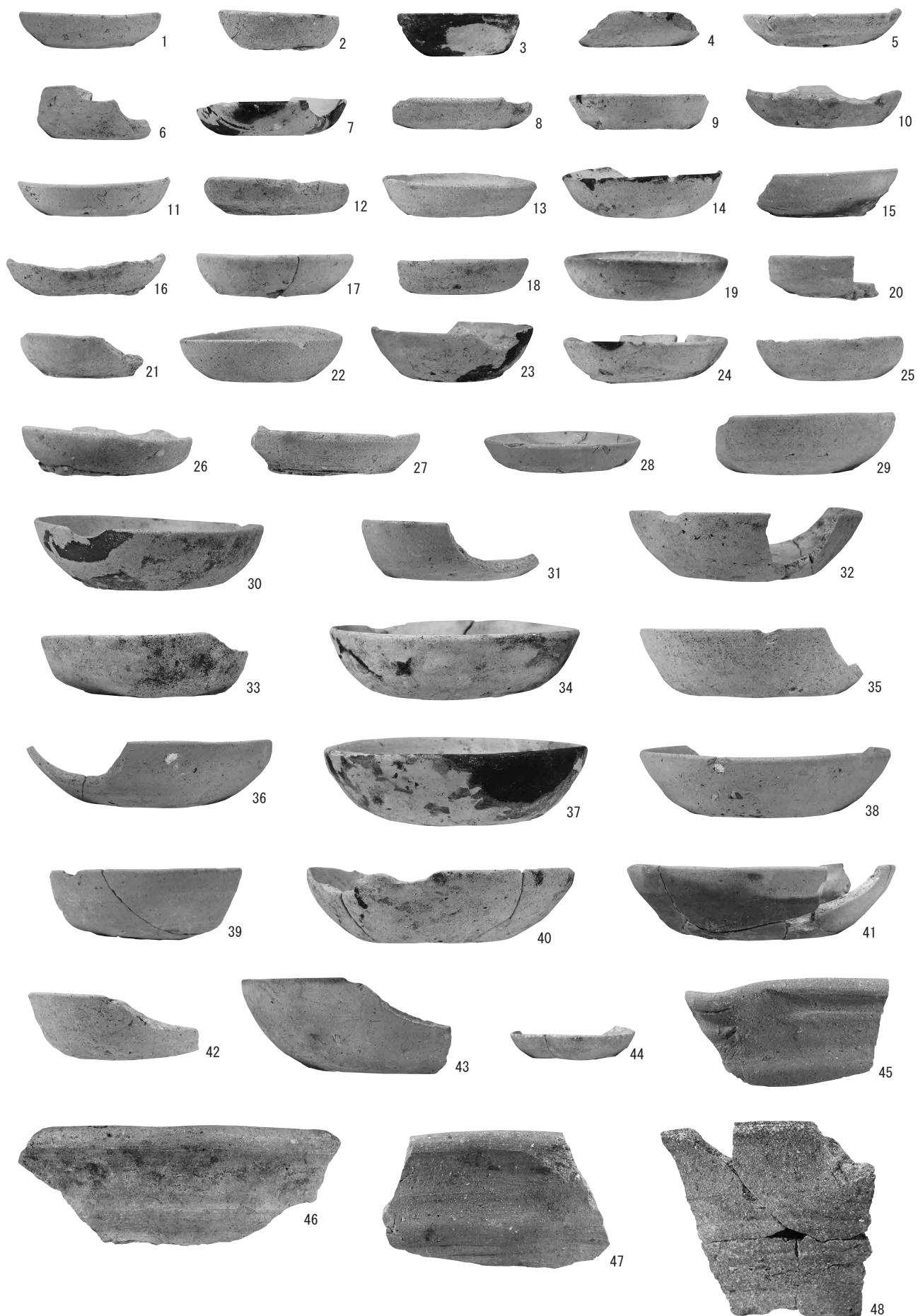
1. 第2面 遺構外出土遺物(3)



2. 第3面 礎石建物3出土遺物



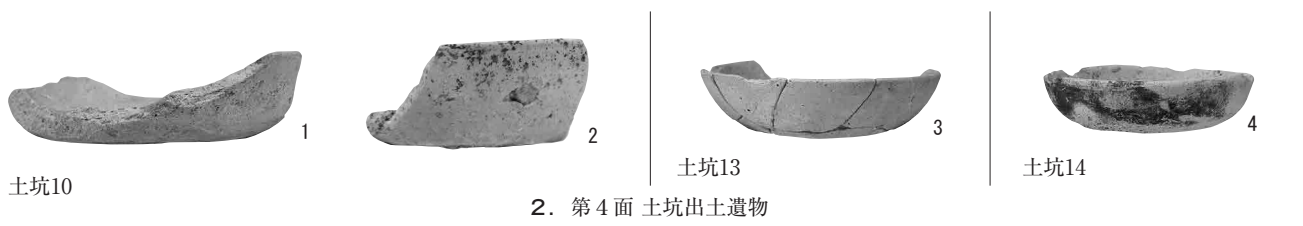
3. 第3面 土坑出土遺物



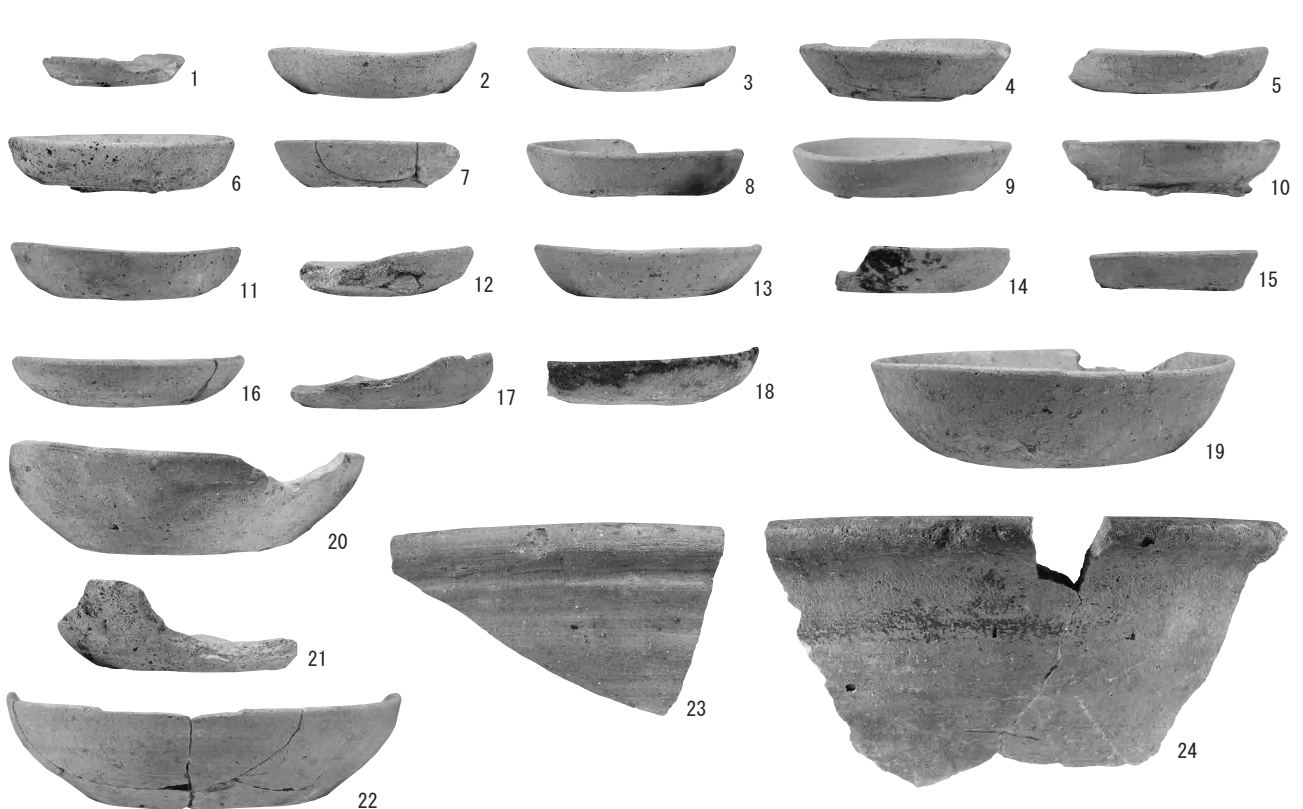
1. 第3面 遺構外出土遺物(1)



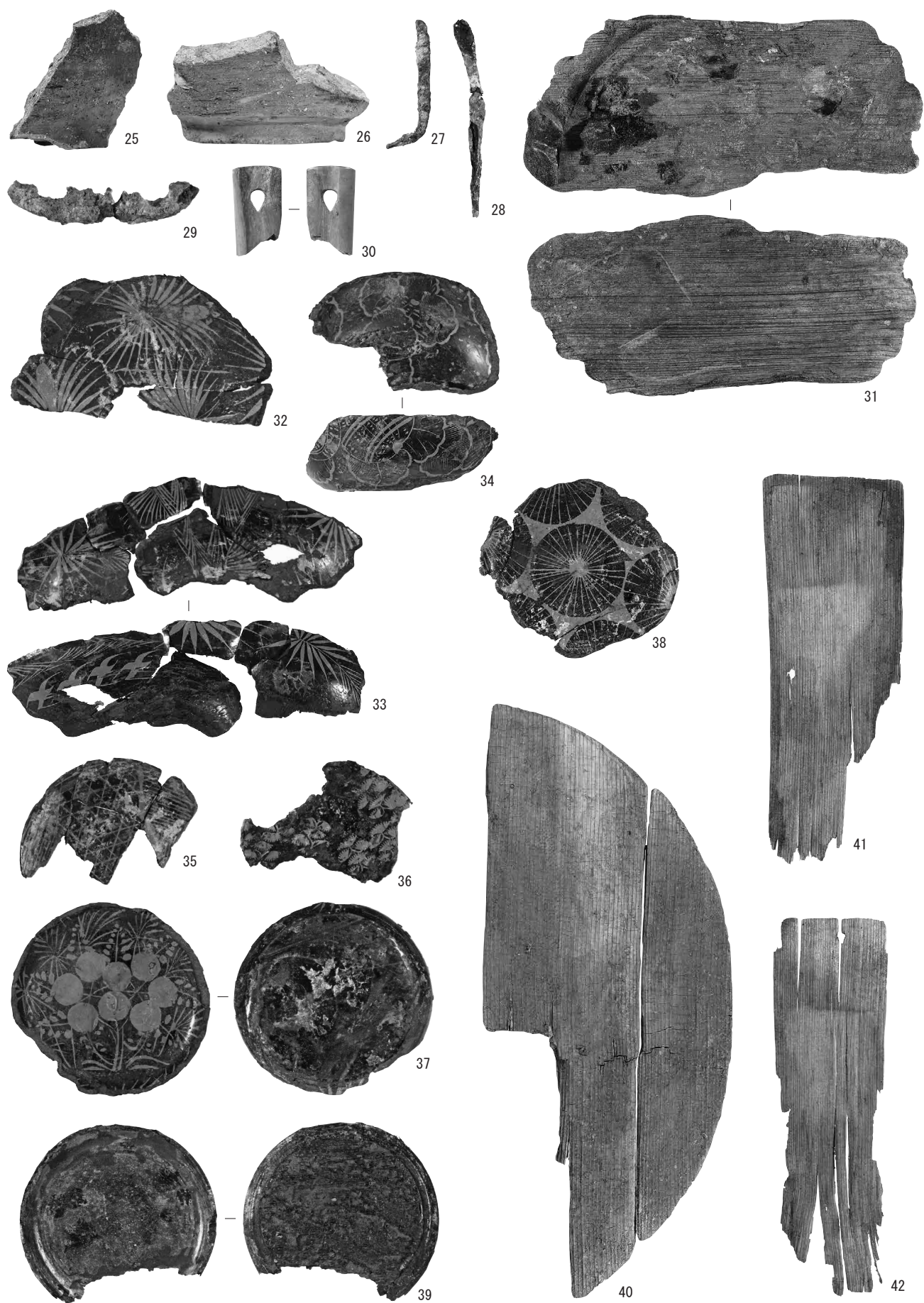
1. 第3面 遺構外出土遺物(2)



2. 第4面 土坑出土遺物

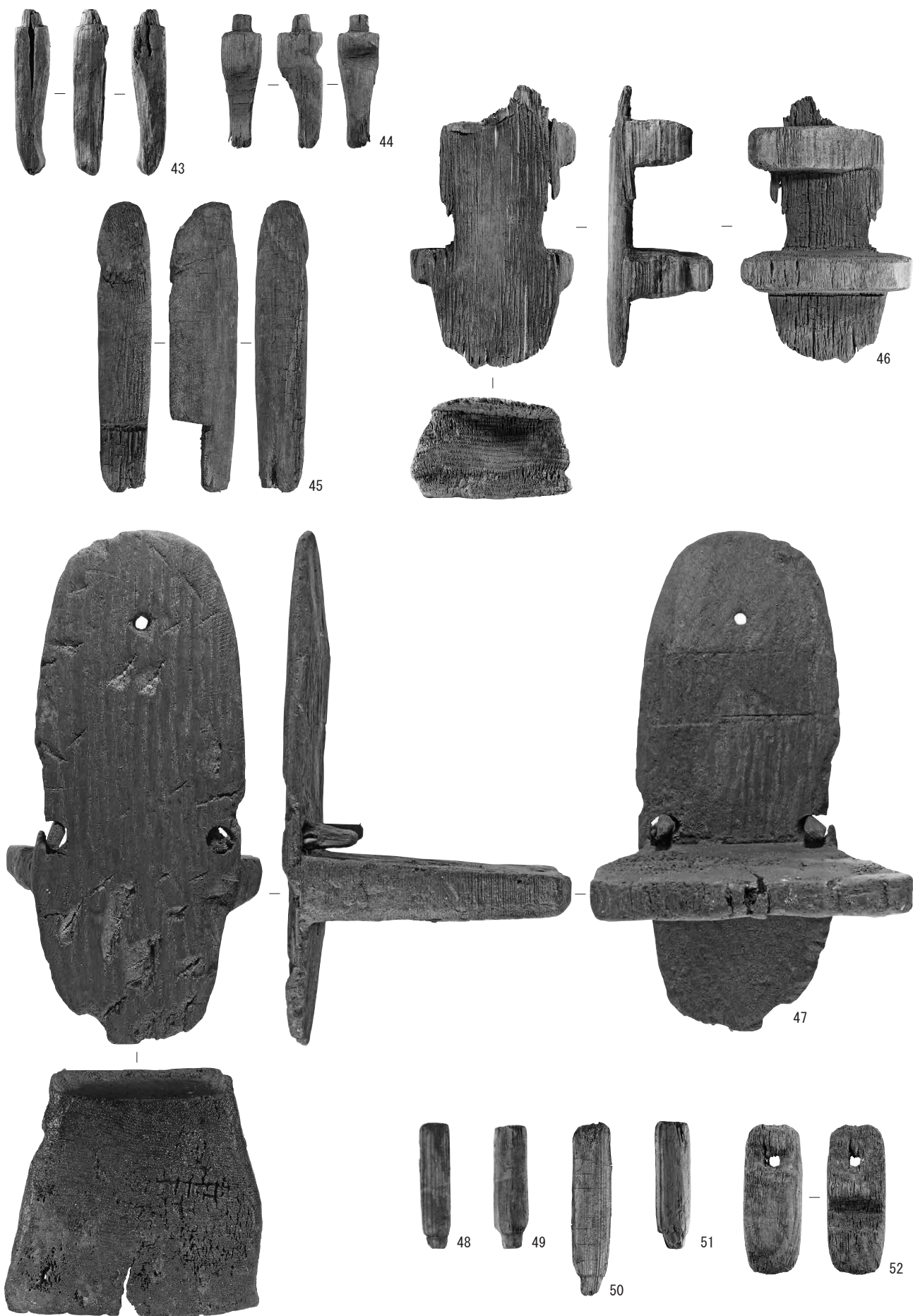


3. 第4面 遺構外出土遺物(1)

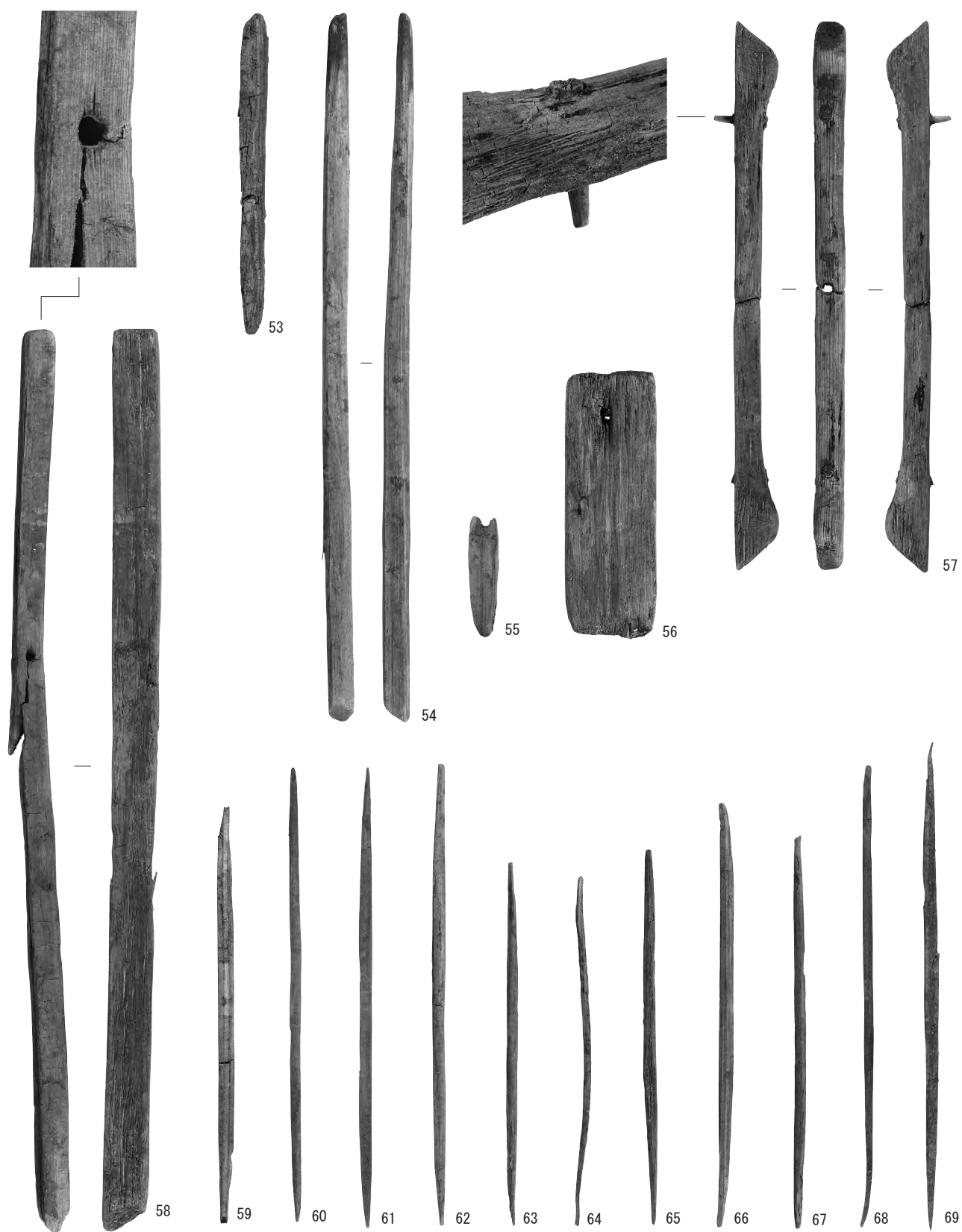


1. 第4面 遺構外出土遺物(2)

图版 20

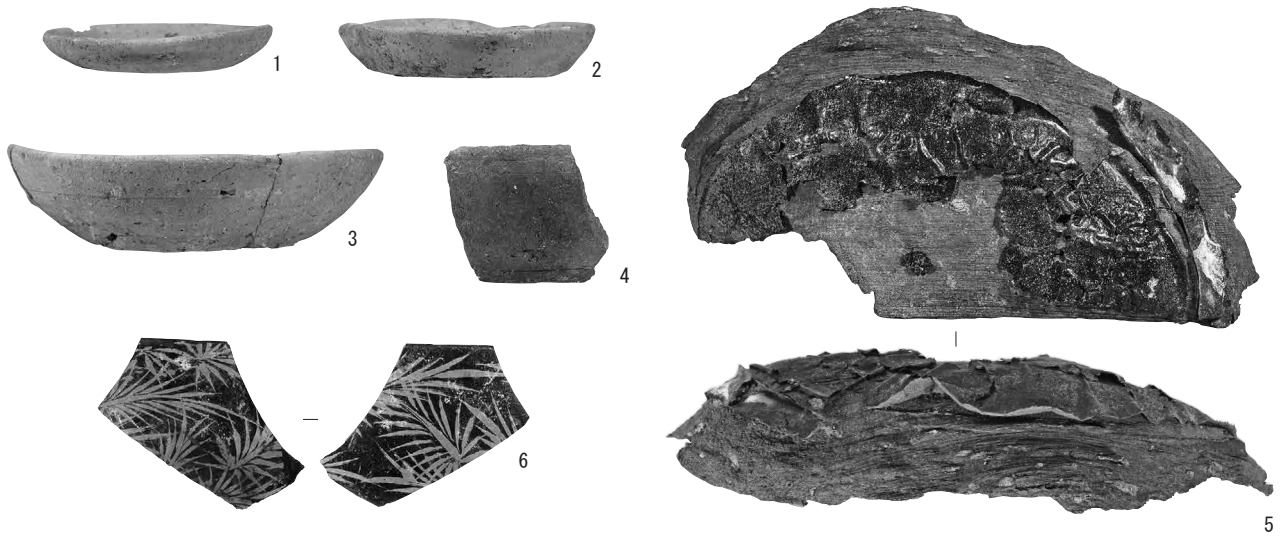


1. 第4面 遺構外出土遺物(3)



1. 第4面 遺構外出土遺物(4)

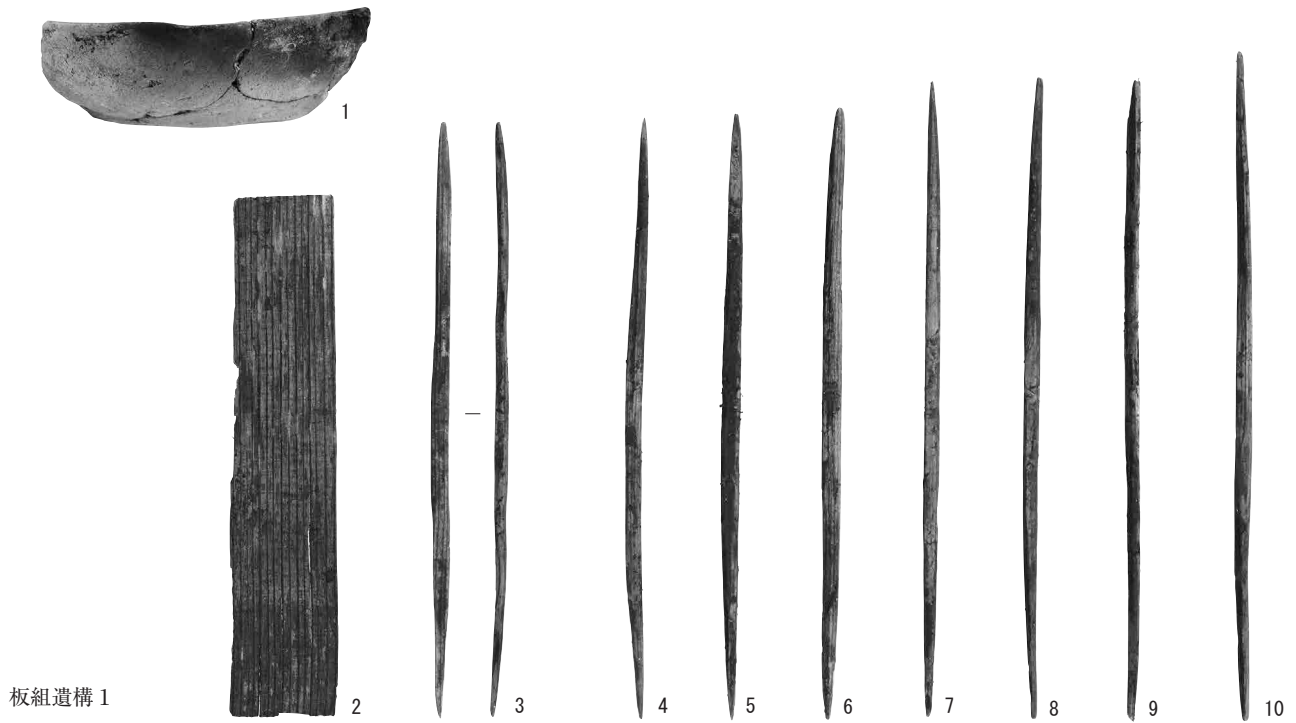
图版 22



1. 第5面 礎板建物5出土遺物

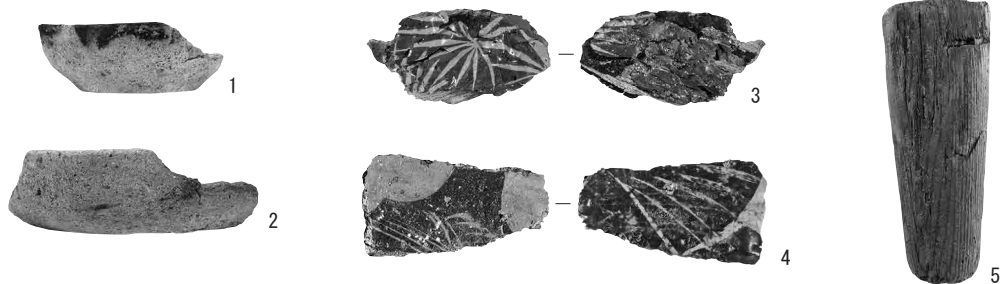


2. 第5面 枅状遺構1出土遺物

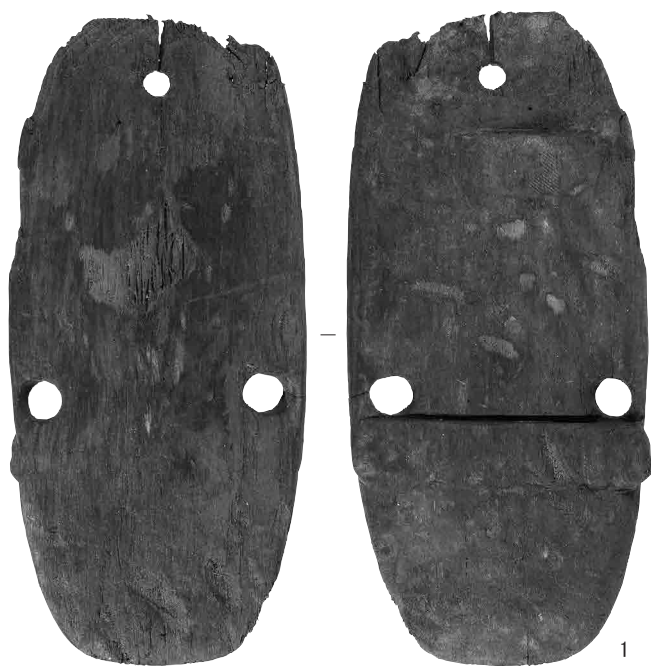


板組遺構 1

3. 第5面 板組遺構出土遺物(1)

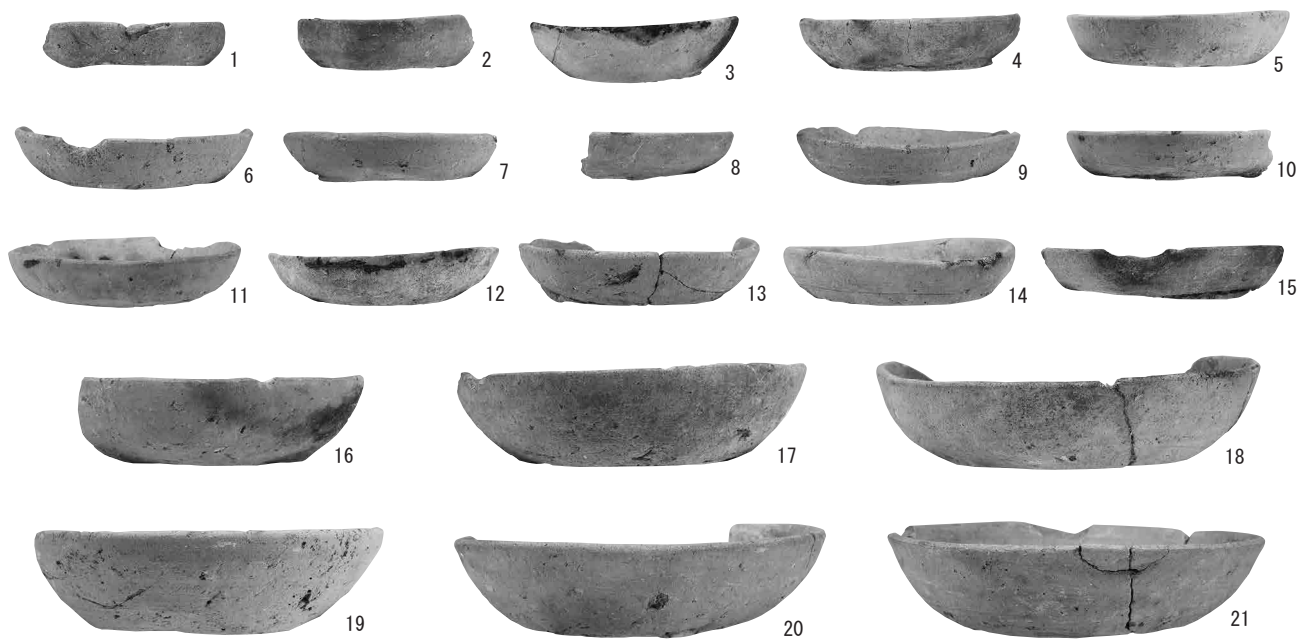


板組遺構 2

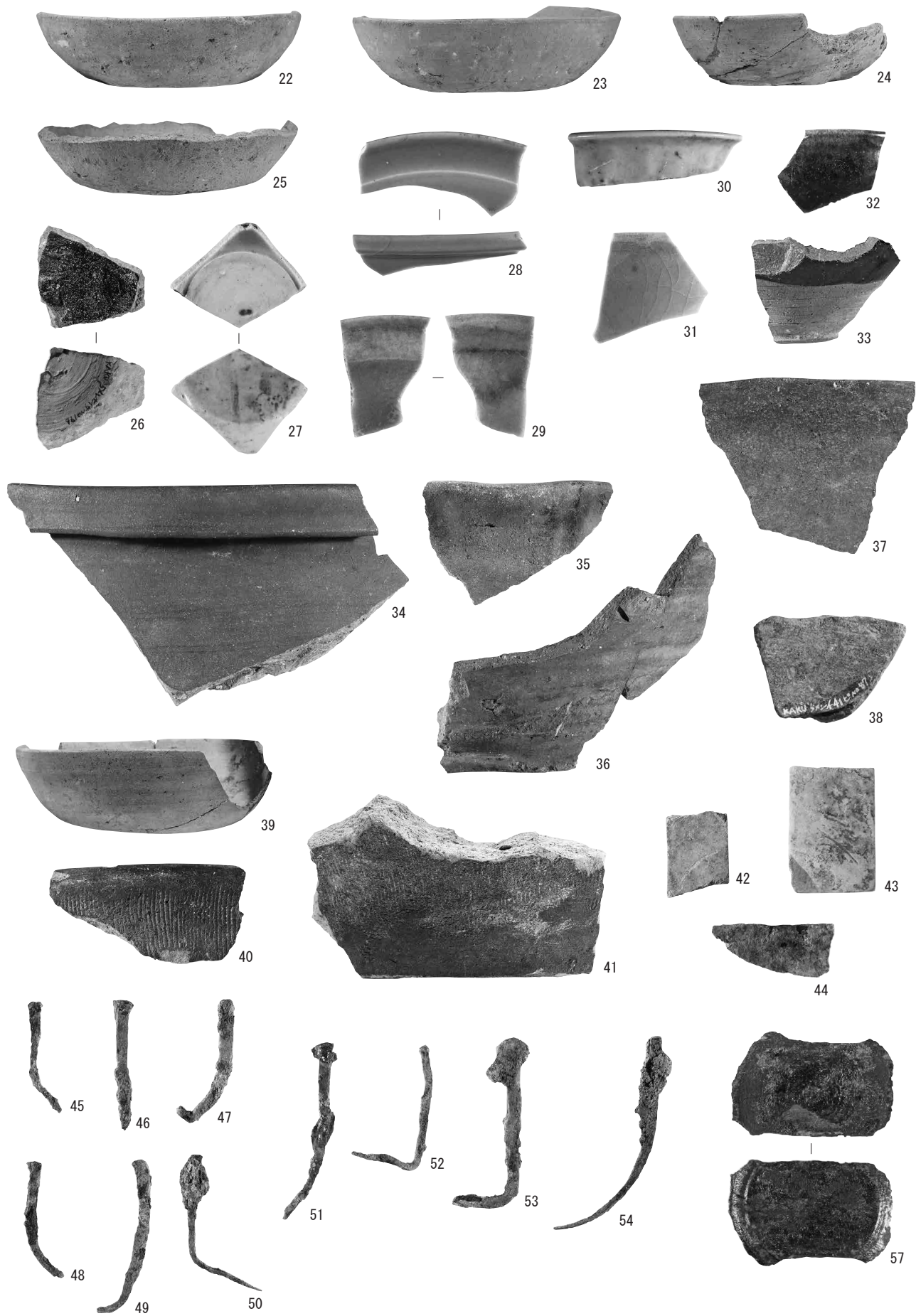


板組遺構 3

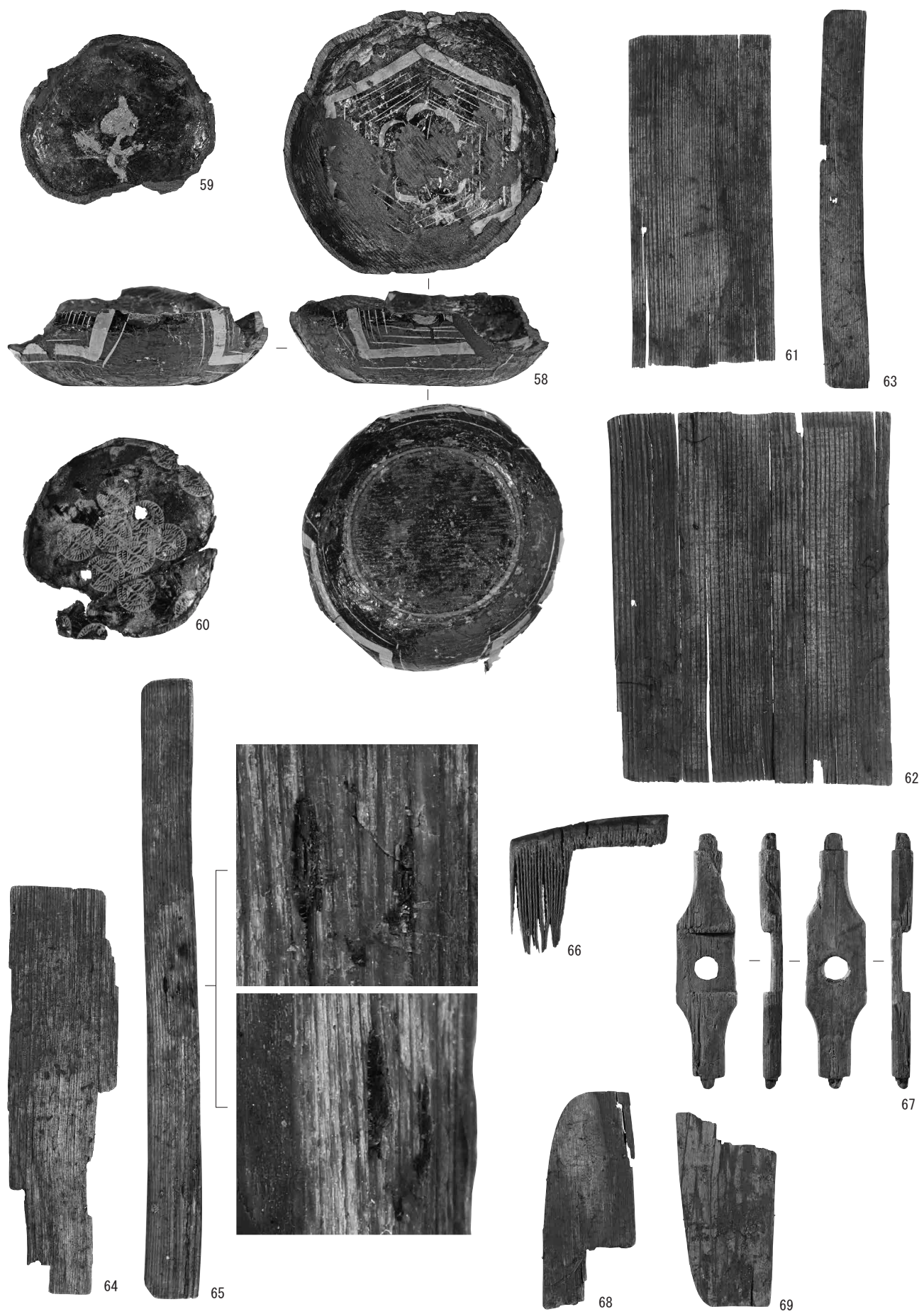
1. 第 5 面 板組遺構出土遺物 (2)



2. 第 5 面 遺構外出土遺物 (1)



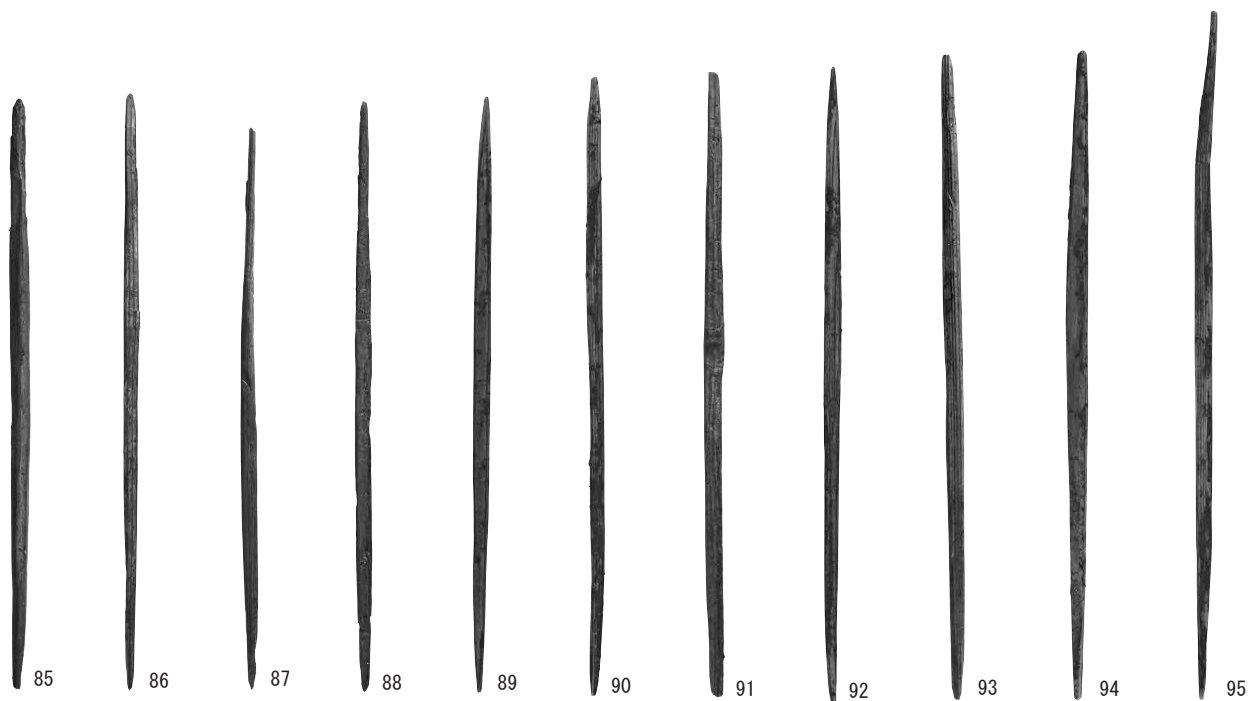
1. 第5面 遺構外出土遺物(2)



1. 第5面 遺構外出土遺物(3)



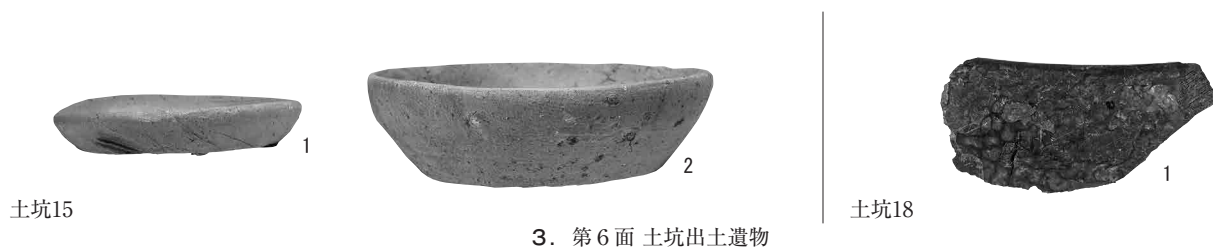
1. 第5面 遺構外出土遺物(4)



1. 第5面 遺構外出土遺物(5)



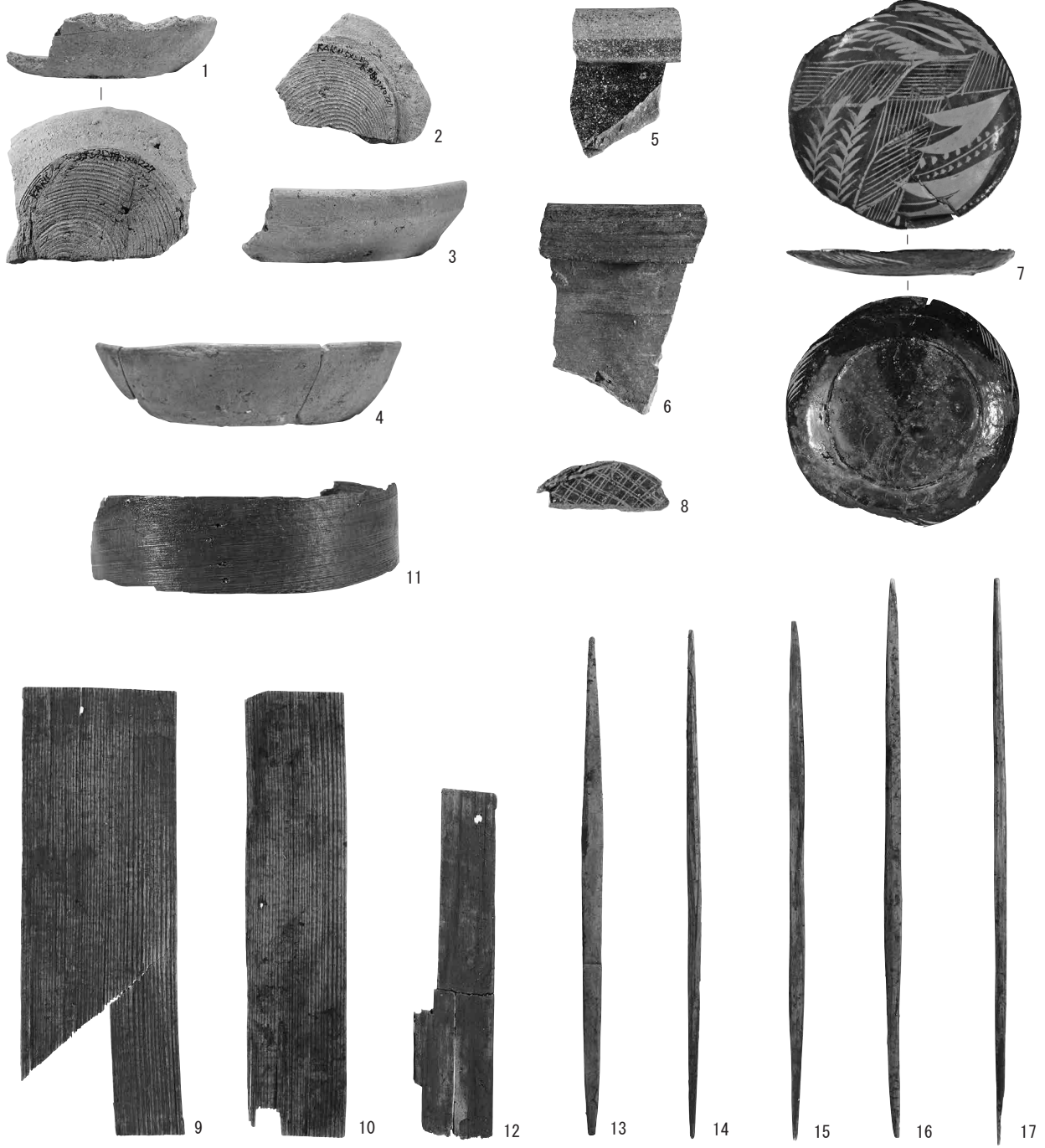
2. 第6面 礎石・礎板建物6出土遺物



土坑15

3. 第6面 土坑出土遺物

土坑18



1. 第6面 遺構外出土遺物




勝長寿院遺跡 (No.133)



雪ノ下四丁目520番6外地点

例 言

1. 本報は「勝長寿院遺跡」(神奈川県遺跡台帳No.133)内、鎌倉市雪ノ下四丁目520番6外地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年11月9日～同年12月7日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約20㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 原 廣志
調査員・調査補助員 須佐仁和・楯岡ケイト・山口正紀
作業員 倉澤六郎・片山直文・宝珠山秀雄・鈴木啓之
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 出土動物遺体の鑑定は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を原 廣志、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系(座標系AREA 9)を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「SYT0714」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺構・遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

遺構： 整地範囲
 炭分布範囲
 砂利敷面

遺物： 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
 溶解金属が付着している部分

・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』

瀬 戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』

渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』

貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである(順不同)。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・浅野真里・花本晶子・御代祐子・深澤繁美・山田浩介(玉川文化財研究所)
14. 報告書作成にあたっては、齋木秀雄氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	283
第1節 調査に至る経緯と経過	283
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	283
第3節 周辺の考古学的調査	284
第二章 堆積土層	289
第三章 発見された遺構と遺物	290
第1節 第1面の遺構と遺物	291
第2節 第2面の遺構と遺物	291
第3節 第3面の遺構と遺物	295
第4節 第4面の遺構と遺物	300
第5節 第5面の遺構と遺物	303
第6節 第6面の遺構と遺物	304
第7節 第7面の遺構と遺物	306
第四章 まとめ	309

挿図目次

図1 遺跡位置図	285	図17 第3面 土坑7～9	298
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	286	図18 第3面 ピット46・58	299
図3 調査区位置図	288	図19 第3面 ピット58出土遺物	299
図4 調査区配置図	288	図20 第3面 遺構外出土遺物(1)	299
図5 調査区土層断面図	289	図21 第3面 遺構外出土遺物(2)	300
図6 第1面 遺構分布図	290	図22 第4面 遺構分布図	301
図7 第1面 ピット1・11出土遺物	291	図23 第4面 土坑10・11	301
図8 第1面 遺構外出土遺物	291	図24 第4面 ピット66・77・81・89出土 遺物	302
図9 第2面 遺構分布図	292	図25 第4面 遺構外出土遺物	302
図10 第2面 溝状遺構1	292	図26 第5面 遺構分布図	303
図11 第2面 溝状遺構1出土遺物	293	図27 第5面 遺構外出土遺物	304
図12 第2面 土坑1～6	294	図28 第6面 遺構分布図	305
図13 第2面 ピット9・26出土遺物	295	図29 第6面 溝状遺構2	305
図14 第3面 遺構分布図	296	図30 第6面 ピット94出土遺物	306
図15 第3面 礎石建物1	297	図31 第6面 遺構外出土遺物	306
図16 第3面 礎石建物1出土遺物	297		

図32 第7面 遺構分布図	307	図34 第7面 遺構外出土遺物	308
図33 第7面 土坑12・13	308	図35 19層出土遺物	308

表 目 次

表1 第1面 出土遺物観察表	311	表6 第6面 出土遺物観察表	313
表2 第2面 出土遺物観察表	311	表7 第7面 出土遺物観察表	313
表3 第3面 出土遺物観察表	311	表8 遺構計測表	313
表4 第4面 出土遺物観察表	312	表9 出土遺物一覧表	314
表5 第5面 出土遺物観察表	312		

図 版 目 次

図版1 1. 調査区近景(西から)	317	図版7 1. 第1面 ピット1・11出土遺物	323
2. 調査区北壁土層断面(南から)	317	2. 第1面 遺構外出土遺物	323
図版2 1. 第1面全景(東から)	318	3. 第2面 溝状遺構1出土遺物	323
2. 第2面全景(西から)	318	4. 第2面 ピット9・26出土遺物	323
図版3 1. 第3面全景(西から)	319	5. 第3面 礎石建物1出土遺物	323
2. 第3面 礎石建物1(南から)	319	6. 第3面 ピット58出土遺物	323
図版4 1. 第3面 礎石建物1 P 1(南から)	320	7. 第3面 遺構外出土遺物(1)	323
2. 第3面 礎石建物1 P 5・11		図版8 1. 第3面 遺構外出土遺物(2)	324
(西から)	320	2. 第4面 ピット66・77・81・89	
3. 第3面 礎石建物1 P 9・12		出土遺物	324
(東から)	320	3. 第4面 遺構外出土遺物	324
図版5 1. 第4面全景(西から)	321	図版9 1. 第5面 遺構外出土遺物	325
2. 第5面全景(西から)	321	2. 第6面 ピット94出土遺物	325
3. 第6面全景(西から)	321	3. 第6面 遺構外出土遺物	325
図版6 1. 第6面 溝状遺構2(北から)	322	4. 第7面 遺構外出土遺物	325
2. 第7面全景(西から)	322	5. 19層出土遺物	325
3. 第7面 土坑12・13(東から)	322		

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市雪ノ下四丁目520番6外地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である勝長寿院遺跡(神奈川県遺跡台帳No.133)の範囲内にあたる。建築主から地盤改良工事を伴う建築計画についての相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成19年7月3日～同年7月4日に6㎡の調査区を設定して調査を行った。その結果、中世の遺構が開発予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約20㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、原 廣志が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成19年11月9日～同年12月7日までの1ヵ月ほどで、調査面積は約20㎡である。現地表の標高は約26.7mを測る。調査はまず重機により約70cmの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、中世に属する第1～7面の合計7面にわたる遺構確認面が検出され、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。その後、第7面の遺構調査を終えた段階で、調査区北西部の3×1.2mの範囲を約10cm掘り下げて地山を確認し、12月7日に現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA 9)に準じた、鎌倉市四級基準点2点(X = -75802.877、Y = -24505.442)、(X = -75795.004、Y = -24514.851)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

勝長寿院遺跡(No.133)は、鎌倉市内中心部の南東側丘陵地内に位置し、本遺跡の北側には鎌倉の市街地を貫いて相模湾に注ぐ滑川本流が蛇行しつつ西流している。この本流に注ぐのが本遺跡内の谷戸部を南西から北東方向に貫流する大御堂川である。この支流域に沿って形成されたのが通称「大御堂ヶ谷」と呼ばれる谷戸部で、北東方向に細長く刻まれた大御堂ヶ谷を含む両側の丘陵稜線までが「勝長寿院遺跡」の包蔵地範囲である。

本遺跡範囲は南北方向に広がる形状をしており、最北端は滑川に架かる大御堂橋付近、最南端の丘陵頂部は祇園山ハイキングコースとなっている。また、この谷戸の西側には三代執権北条泰時が創建した寺院で、鎌倉幕府滅亡の地として政治的に重要な遺跡である東勝寺跡(No.246)の包蔵地範囲が広がっている。

遺跡地を含む大御堂ヶ谷は最奥部までは550mにも及び、谷戸部の幅は開口部付近で約50mと狭いが、谷あいを150mほど進むと谷戸幅はやや広くなり、本遺跡名称でもある勝長寿院址の碑が残されている。谷戸はその先で二股に分かれ、その一方のやや北側に折れた短い谷戸のほぼ真ん中に本調査地点が位置している。最奥部稜線の幅は300mほどで、北側の大御堂橋付近を頂点とし最奥部の稜線を底辺とする二等辺三角形の遺跡範囲といえよう。調査地点は比較的平坦であるが、調査地点西岸の丘陵は急激に立ち上がっている。調査地点の現標高は約26.7m、西岸丘陵稜線との標高差は25～30mを有する。なお、J

R鎌倉駅からは東方約1.0kmに位置している。

遺跡範囲内の谷戸は大御堂ヶ谷と呼ばれ、遺跡名は勝長寿院遺跡であるが、この勝長寿院は源頼朝が父義朝の菩提を弔うために建立した寺院ともいわれ、別名大御堂、南御堂とも呼ばれていた。後世いつしかこの谷戸は大御堂ヶ谷と呼ばれるようになった。頼朝が創建した鶴岡八幡宮、永福寺とともに当時鎌倉の三大社寺の一つであったという。『鎌倉廃寺事典』（貫・川副 1980）や『鎌倉事典』（白井編 1976）などでは、廊の御堂、南山小御堂、小御堂、南御堂、新造の東御所、弥勒堂、五仏堂、三重塔などの建物名が記されており、極めて壮大な伽藍であったことがうかがえる。大御堂ヶ谷の地名はその名残でもあろう。谷戸の入口である滑川にかかる橋を「大御堂橋」と称し、その近くには源頼朝に平氏追悼の院宣をもたらしたという伝説の人物である文覚上人の屋敷があったという（上記文献）。

勝長寿院跡を示す碑は、昭和59年に源義朝公主従供養塔再建委員会によって建てられたものであるが、その傍らには源義朝の墓と鎌田政長の墓（ともに五輪塔）が並んでいる。幕府滅亡後も足利氏によって護られてきたが、その後の動静は定かではない。本調査地点の第3面からはおおむね13世紀後葉から14世紀前葉頃と推定される礎石建物が確認されている。調査区の制約から遺構の全容は不明であるが、仏堂内の内陣、外陣を示すような構造の建物であることが指摘できる。現状では勝長寿院跡との関係を示す唯一の遺跡と考えられる。

第3節 周辺の考古学的調査

当該谷戸での発掘調査は、本調査地点（雪ノ下四丁目520番6外）が初めてである。本遺跡名となった「勝長寿院」との関係が知りたいところであるが、『新編相模国風土記稿』が編纂された、天保年中（1830～43）は草深い所であったらしい。現大御堂ヶ谷は人家が建て込んでおり、伽藍配置を示すような礎石は認められていないが、昭和13年には室町期の釣殿跡の礎石らしいものが大御堂ヶ谷で発見されている（白井編 1976）。

本遺跡の周辺を取りまく滑川左岸域の丘陵部には、大小の谷戸が樹枝状に開析されている。遺跡地の東側には釈迦堂ヶ谷、犬懸ヶ谷、宅間ヶ谷などの谷戸が続き、釈迦堂ヶ谷は三代執権北条泰時が父義時の菩提を弔うために釈迦堂を建てたことに由来し、犬懸ヶ谷は犬懸上杉管領屋敷（上杉朝宗・氏憲邸）、居館跡があった谷戸とされ、宅間ヶ谷は谷戸全域が現報国寺の寺域とされた時代もあり、鎌倉・室町期を通じて歴史上の舞台に関わった地域でもあった。また、大御堂川以東のこれら谷戸の開口部付近から滑川に挟まれた地域も田楽辻子周辺遺跡（No.33）の包蔵地範囲となっており、これらの谷戸の北側を滑川に沿って通る道には『吾妻鏡』にいう「田楽辻子」の碑がある。

一方、西側には葛西ヶ谷と呼ばれる北西に開口した扇形の谷戸がある。旧鎌倉市街地を望み、谷戸は大きく3つに分かれ、それぞれ階段状に平場が形成されている。葛西ヶ谷という地名の由来は源頼朝の御家人であった葛西清重の居館があったことに起因するが、三代執権北条泰時が創建した東勝寺の方が広く知られ、北条得宗家の氏寺、鎌倉幕府滅亡の地としても著名である。尾根をひとつ隔てて隣接する本遺跡との関連も注意されよう。



図1 遺跡位置図

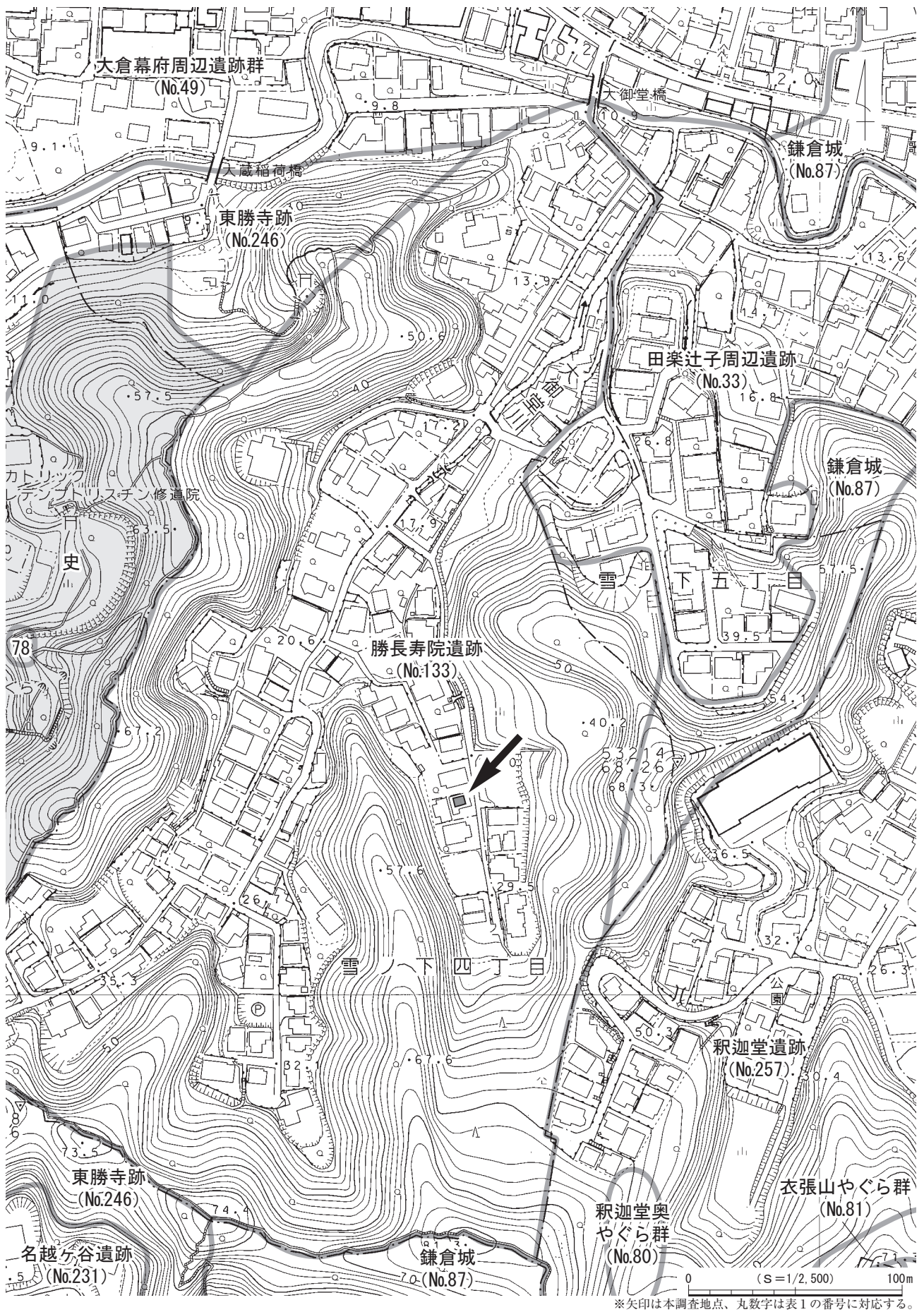


図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

本遺跡に隣接する谷戸および近隣の主な調査事例報告を以下に示す。

釈迦堂ヶ谷 (釈迦堂遺跡No.257)

松尾宣方 1983「6 釈迦堂跡」「10 釈迦堂跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ 昭和46年度～52年度』鎌倉市教育委員会

浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団 1989『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』

犬懸ヶ谷 (上杉氏憲邸跡No.258)

馬淵和雄 1995「9. 上杉氏憲邸跡 (No.25) 浄明寺一丁目699番外地点」『平成6年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 鎌倉市教育委員会

宅間ヶ谷 (報国寺遺跡No.306)

原 廣志・山口正紀 2007「報国寺遺跡 (No.306) 浄明寺二丁目474番11外地点」『平成18年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 鎌倉市教育委員会

原 廣志・小野夏菜 2007「報国寺遺跡 (No.306) 浄明寺二丁目474番12地点」『平成18年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 鎌倉市教育委員会

田楽辻子周辺遺跡 (No.33)

大上周三 1992「5. 田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 浄明寺字宅間562番33」『平成3年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8 鎌倉市教育委員会

森 孝子 2000「田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 鎌倉市浄明寺一丁目661番外」『平成11年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 鎌倉市教育委員会

福田 誠 2006「田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 雪ノ下五丁目555番1地点」『平成17年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 鎌倉市教育委員会

押木弘己 2012「田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 浄明寺一丁目556番6外」『平成23年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会

葛西ヶ谷 (東勝寺跡No.246)

東勝寺遺跡発掘調査団編 1977『東勝寺遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

大三輪龍彦・河野眞知郎ほか 1978『東勝寺遺跡-中世鎌倉の民衆生活を探る-』東勝寺遺跡発掘調査団

宮田 眞・滝澤晶子 2000『神奈川県鎌倉市 東勝寺跡発掘調査報告書』東勝寺跡発掘調査団

汐見一夫・田畑衣理ほか 2001「東勝寺跡 (No.246) 小町三丁目523番14地点」『平成12年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 鎌倉市教育委員会

宮田 眞 2002「東勝寺跡 (No.246) 小町三丁目468番10」『平成13年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会

原 廣志 2011「東勝寺跡 (No.246) 小町三丁目538番8地点 (Ⅰ地点) 小町三丁目538番3地点 (Ⅱ地点)」『平成22年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27 鎌倉市教育委員会

齋木秀雄 2015『神奈川県・鎌倉市 東勝寺跡発掘調査報告書-小町三丁目529-6地点-』鎌倉遺跡調査会調査報告書第99集 有限会社鎌倉遺跡調査会

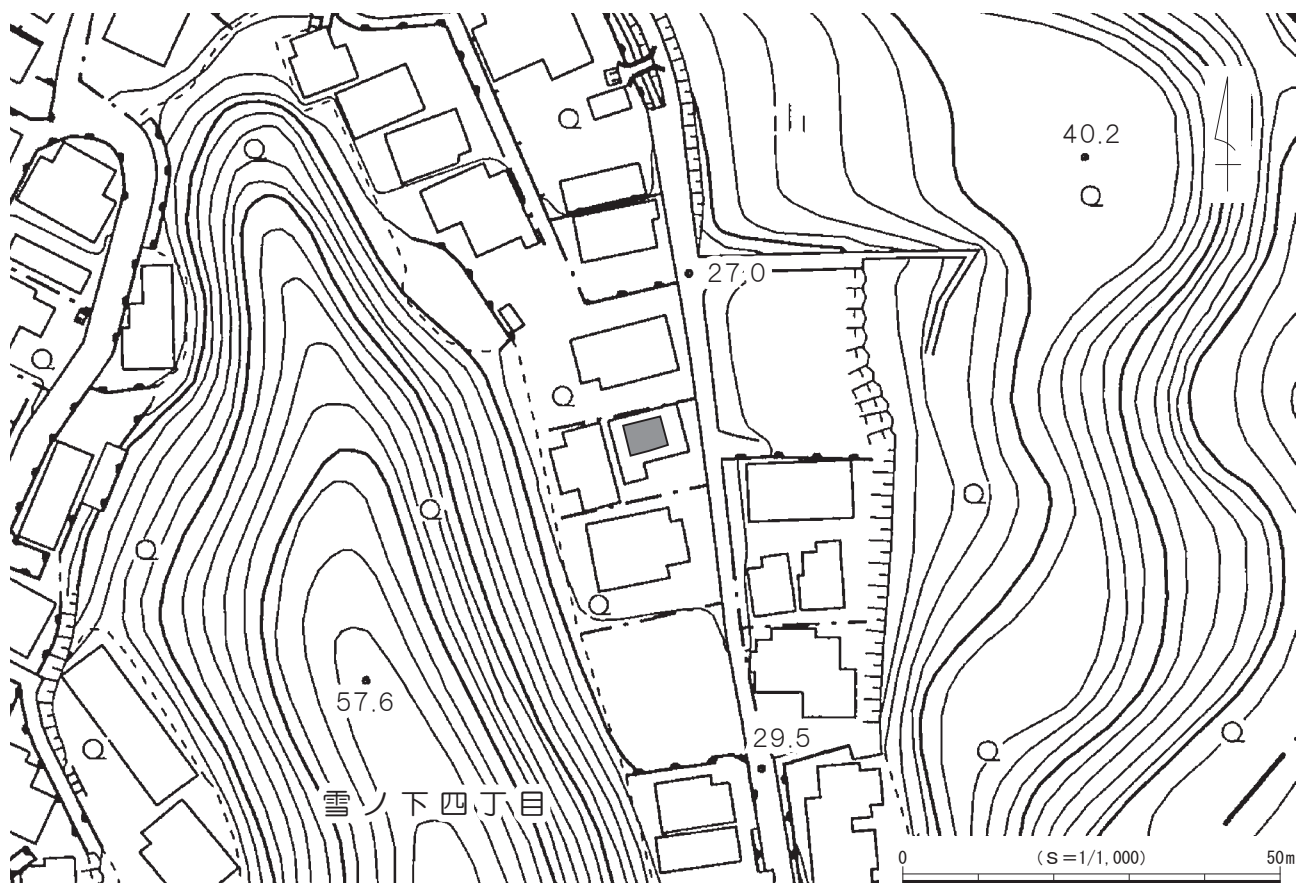


図3 調査区位置図



図4 調査区配置図

第二章 堆積土層

今回の調査では、部分的な堆積土も含めると22層に及ぶ堆積土を確認することができ、現地表面からの層厚は最大で2.4mを測る。また、遺構確認面は第1～7面までの合計7面が認められた。ここでは調査区北壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構が認められた。

現在の地表面は標高約26.7mで、最上部に層厚40～65cmの表土(1層)および近世の耕作土(2層)が堆積している。第1面の遺構群は4層上面で検出し、確認面の標高は26.0m前後を測る。4層は泥岩粒を多量、炭化物・かわらけ片を少量含む締まりのややある茶褐色弱粘質土で、層厚は10cm前後である。4層の下位には、炭化物をやや多く含む締まりのない5層とした茶褐色弱粘質土が堆積し、この5層下の6層上面で第2面の遺構群を確認した。確認面の標高はおおよそ25.7～25.8mを測る。6層は泥岩ブロックを多量に含む締まりのある整地層で、層厚は4～16cmである。6層の下位には7～9層が厚く堆積し、

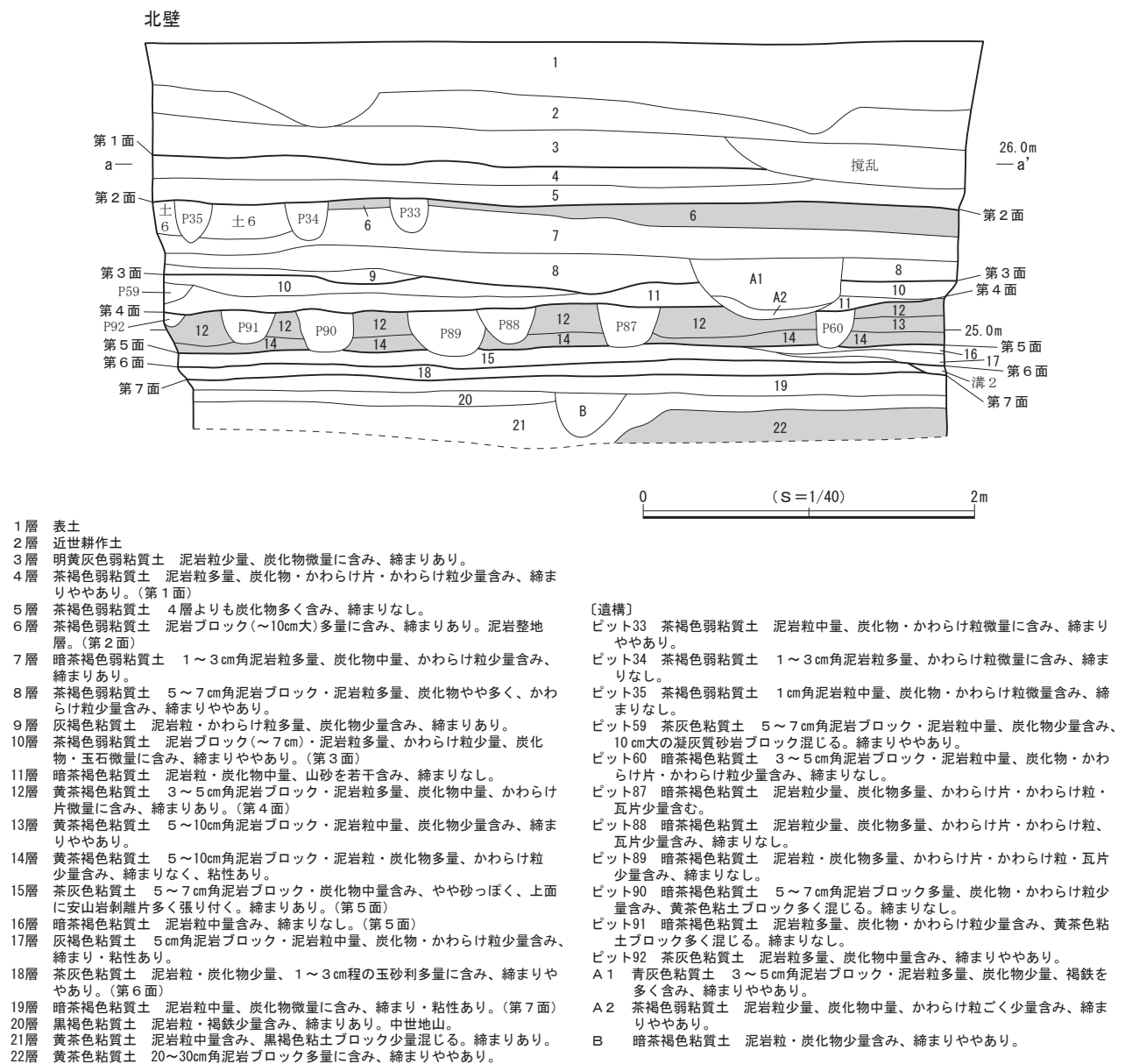


図5 調査区土層断面図

第3面の確認面は6層から40~50cm下位の10層上面が相当する。10層は泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含んだ茶褐色弱粘質土で、かわらけ粒少量と炭化物・玉石が微量に混入する。10層上面の標高は25.3m前後を測る。第4面の確認面は標高25.1~25.2mを測る12層上面で、泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み、炭化物とかわらけ片を含む締めりのある黄茶褐色粘質土である。第5面は15層とした茶灰色粘質土の上面で確認し、第6面は泥岩粒と炭化物を少量含む茶灰色粘質土である18層上面で確認した。15層は安山岩の剥離片が層の上面に多量に張り付いており、18層は玉砂利を多量に含んでいた。確認面の標高は第5面が約24.9m、第6面が約24.8mを測る。最終調査面の第7面は泥岩粒を中量、炭化物を微量に含む暗茶褐色粘質土の19層上面で確認し、標高は約24.7mを測る。なお、19層を10cm前後掘り下げて検出した黒褐色粘質土を20層とし、この土層が中世の地山に相当する。

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第1~7面までの合計7面である。このうち第2~4面にかけては遺構密度の高い状況が認められた。調査面積は狭小であり、検出した遺構は礎石建物1棟、溝状遺構2条、土坑13基、ピット95基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して4箱と少量であった。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1~7面)に説明する。

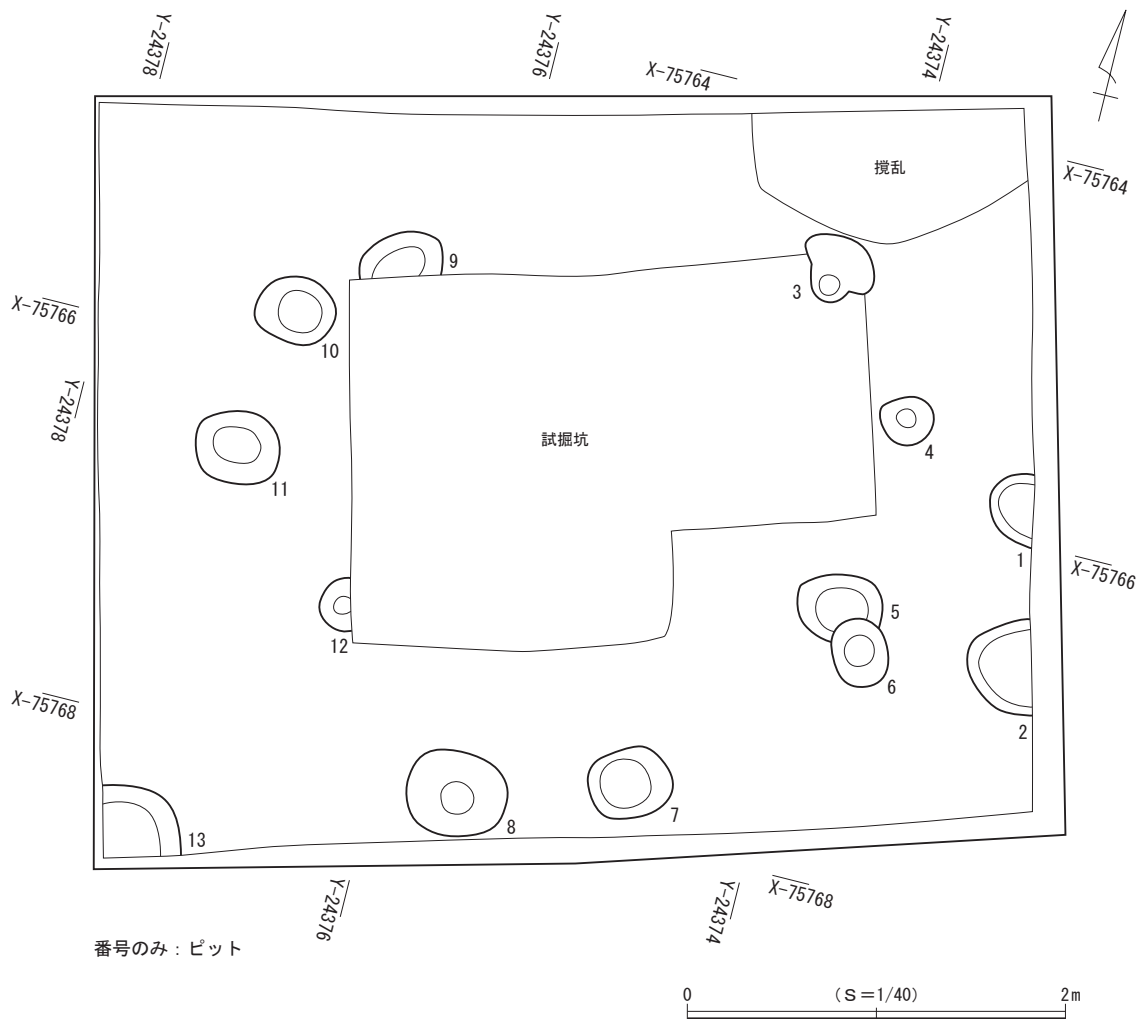


図6 第1面 遺構分布図

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の4層上面で検出され、確認面の標高は約26.0mを測る。4層は泥岩粒を多量に含んだ締まりのややある土層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構はピット13基で、調査区中央は試掘坑が位置するため様相は判然としないが、調査区全体に疎らに分布していた(図6)。

遺物は主にかわらけ、船載磁器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代に属すると考えられる。

(1)ピット(図6)

第1面では、13基を検出した。調査区中央を除く全体に散漫に分布するが、礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。平面形は楕円形のもので、規模は長軸27~52cm、深さは10~57cmを測る。覆土はピット1・2・4~6・9・11・12は泥岩粒と炭化物を含む茶褐色弱粘質土で、ピット3・7・8・10・13が泥岩粒と炭化物、かわらけ片を少量含む明黄褐色粘質土である。

出土遺物(図7)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたいが、このうち2点を図示した。

1はピット1から出土した埴塙、2はピット11から出土したロクロ成形によるかわらけである。

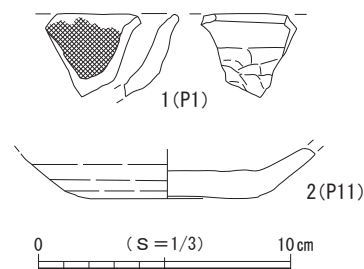


図7 第1面ピット1・11出土遺物

(2)遺構外出土遺物(図8)

第1面では、遺構以外からも遺物が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は船載磁器の碗で、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。

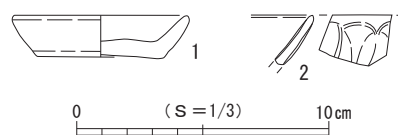


図8 第1面遺構外出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で検出され、確認面の標高は25.7~25.8mを測る。6層は泥岩ブロックを多く含み締まった整地層であり、第2面の遺構群はこの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は溝状遺構1条、土坑6基、ピット32基で、遺構密度は高く一部の遺構は重複していた(図9)。

遺物は主にかわらけ、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉~14世紀代に属すると考えられる。

(1)溝状遺構

第2面では、1条を検出した。調査区中央付近に位置し、調査区外の東西へ延びていると推定され、全容を把握することはできなかった。

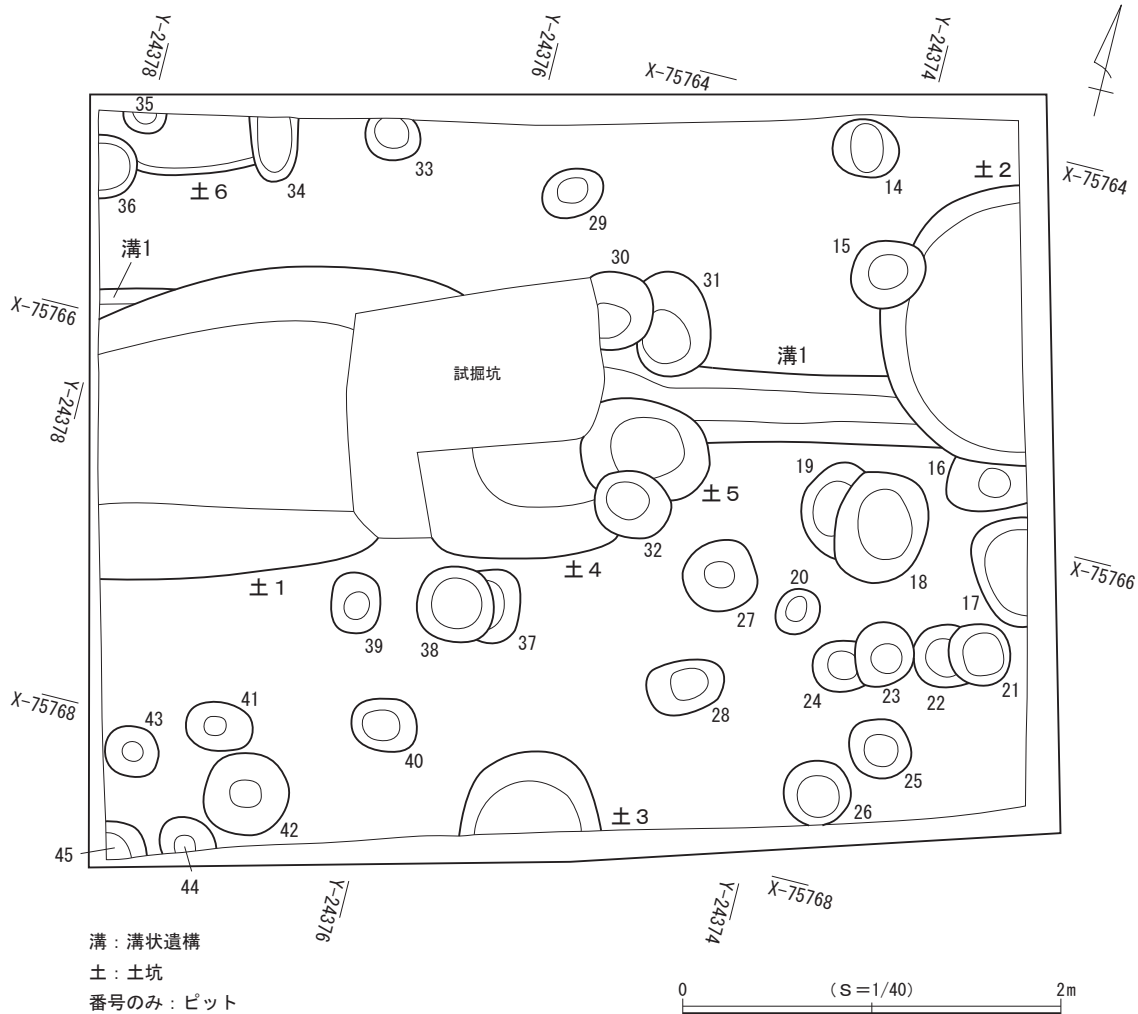


図9 第2面 遺構分布図

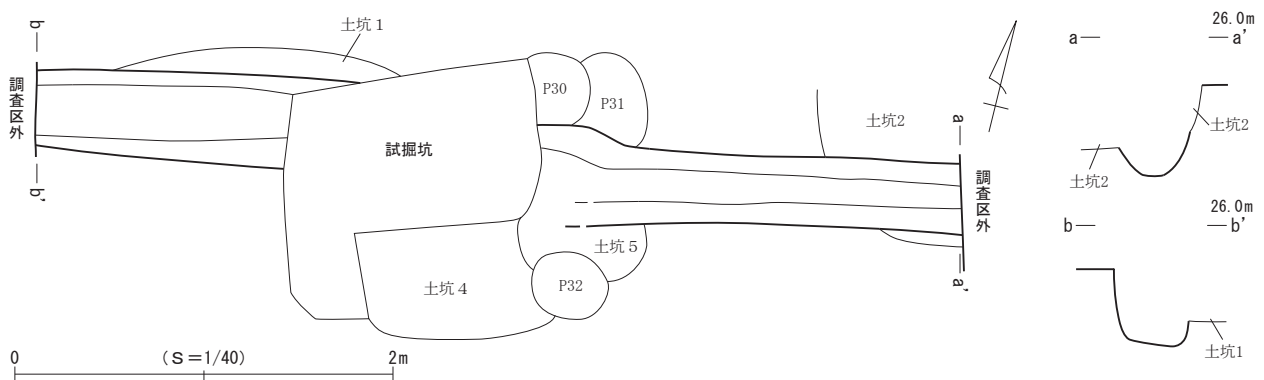


図10 第2面 溝状遺構1

溝状遺構1 (図10)

調査区中央に位置する。ほぼ真っすぐに東西方向に延び、中央部分に試掘坑が位置して東西に分断されているが、一連の遺構として捉えた。本址の西側端部は調査区外の西側へ延び、東側は土坑2によって壁の上部が壊されている。また、西半部は土坑1・4・5に破壊されており、遺存状態は悪い。規模は現存長4.89m、幅34~47cm、深さは22~38cmを測り、主軸方位はN-79°-Eを指す。壁と断面形は東側と西側で異なっており、東半部では壁はやや開いて立ち上がり断面形はU字状を呈する。西半部の壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形を呈する。底面の標高は東端で25.28m、西端で25.37mで、

西から東へ向かってわずかに傾斜している。

出土遺物 (図11)

遺物は瓦質土器 1 点が出土し、それを図示した。

1 は瓦質土器の火鉢である。

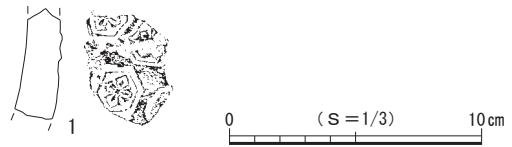


図11 第2面 溝状遺構 1 出土遺物

(2) 土 坑

第2面では、6基を検出した。攪乱による影響や調査区の制約から、いずれも全容を把握することができなかった。検出範囲から平面形を推定すると、楕円形ないし円形と考えられ、規模は小さいもので長軸67cm、大きいものは1.95m以上とばらつきがある。深さはほとんどの土坑が10～20cmの範囲に収まる。

土坑 1 (図12)

調査区西壁際中央に位置する。西側の一部が調査区外へと延びており、東側は試掘坑によって失われている。北側で溝状遺構 1 と重複し、壁上部を壊している。平面形は楕円形と推定され、底面は緩やかな凹凸が認められる。壁は開いて緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸現存長1.95m、短軸1.56m、深さ19cmを測り、坑底面の標高は25.50mである。主軸方位はN-71°-Eを指す。覆土は泥岩粒を中量、炭化物を少量含む茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ 3 点が出土した。

土坑 2 (図12)

調査区東壁際に位置する。全体のおおよそ半分が調査区外の東側へと延びている。ピット15と重複して西壁の一部が壊され、南側で溝状遺構 1 の壁上部とピット16の北側を壊している。平面形は円形あるいは楕円形と推定されるが、調査範囲の制約から詳細は判然としない。底面は中央がわずかに窪む形状で、壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸現存長147cm、短軸現存長73cm、深さ21cmを測り、坑底面の標高は25.41mである。覆土は1cm角の泥岩ブロックを少量、炭化物とかわらけ粒を微量に含む茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ22点が出土した。

土坑 3 (図12)

調査区南壁際中央に位置する。他の遺構と重複せず単独で検出し、南側の一部が調査区外へと延びている。平面形は円形あるいは楕円形と推定されるが、調査範囲の制約から詳細は判然としない。底面は平坦で、壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長74cm、短軸現存長42cm、深さ17cmを測り、坑底面の標高は25.48mである。覆土は1cm角の泥岩ブロックを中量、炭化物とかわらけ粒を微量に含む茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ15点が出土した。

土坑 4 (図12)

調査区中央に位置する。西側と北側は試掘坑によって失われ、東側では土坑 5 とピット32によって一部が壊されている。遺存状態が悪く平面形などの詳細は判然としない。残存部の底面は平坦で、壁は湾曲して開いて立ち上がり、断面形は鍋底状を呈する。規模は長軸現存長97cm、短軸現存長60cm、深さ41

cmを測り、坑底面の標高は25.08mである。覆土は泥岩粒を中量、炭化物とかわらけ粒を微量に含む茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ4点が出土した。

土坑5 (図12)

調査区中央に位置する。ピット32と重複して南壁の一部が壊され、北側で溝状遺構1の壁上部を壊している。平面形は楕円形と推定され、底面は平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸67cm、短軸現存長45cm、深さ10cmを測り、坑底面の標高は25.58mである。覆土は泥岩粒を中量、炭化物を微量に含む茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

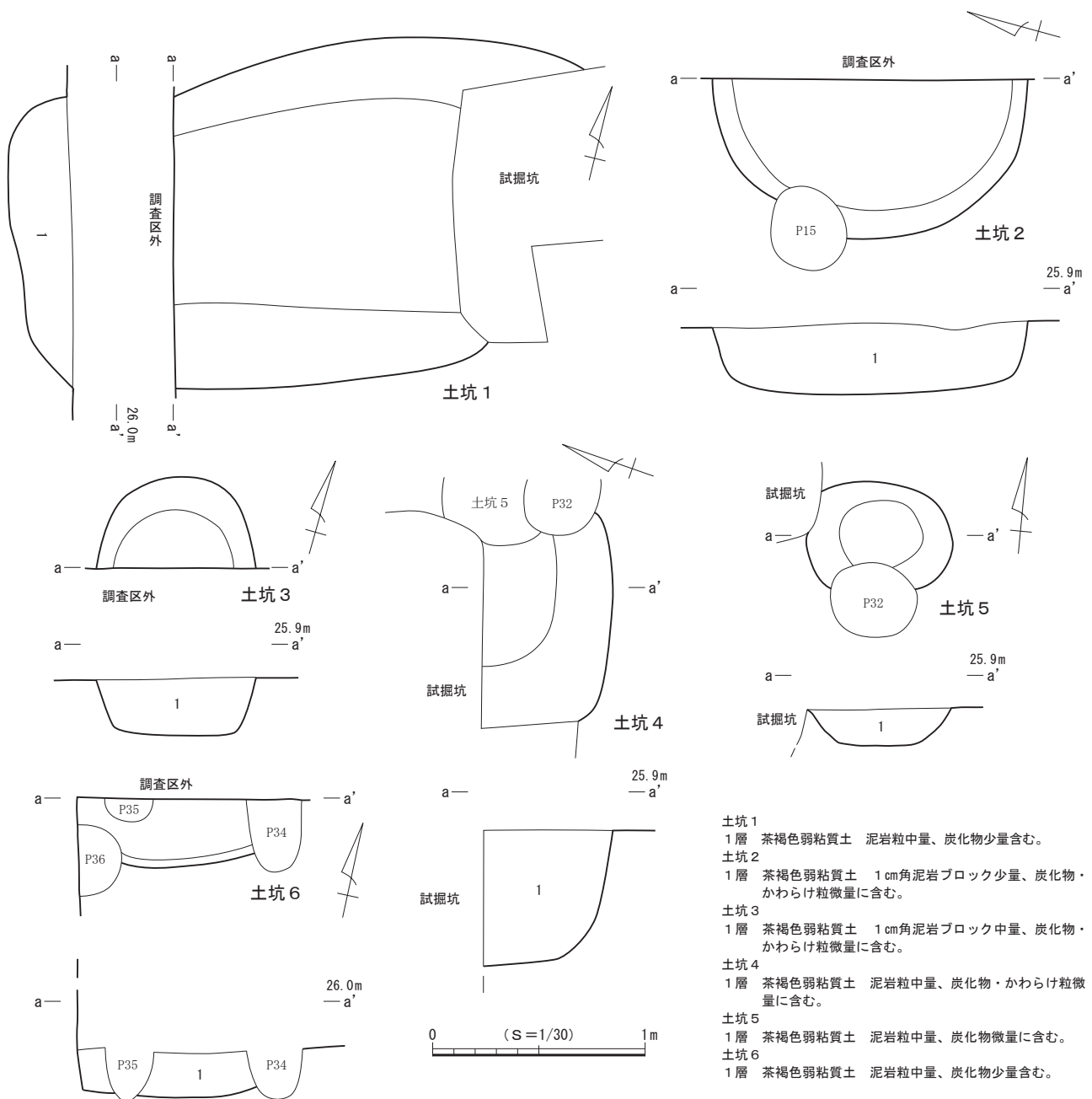


図12 第2面 土坑1～6

土坑6 (図12)

調査区北西隅に位置する。本址の大半が調査区外の北側へと延びており、平面形や断面形などの詳細は判然としなない。ピット34～36と重複し、南壁と底面の一部を壊されている。底面はほぼ平坦で、壁はわずかに開いて立ち上がる。規模は長軸現存長80cm、短軸現存長31cm、深さ13cmを測り、坑底面の標高は25.54mである。覆土は泥岩粒を中量、炭化物を少量含む茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

(3) ピット (図9)

第2面では、32基を検出した。調査区全体に分布し、特に溝状遺構1の南側に高い密度で分布するが、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は径22～57cm、深さ6～43cmを測る。覆土は小泥岩ブロックや泥岩粒、炭化物、かわらけ粒を含む茶褐色弱粘質土あるいは暗茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図13)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたいが、このうち2点を図示した。

1はピット9から出土したロクロ成形によるかわらけである。煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。2はピット26から出土した瀬戸窯産の折縁深皿である。

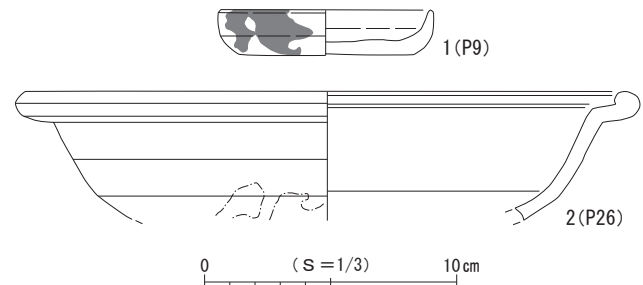


図13 第2面 ピット9・26出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の10層上面で検出され、確認面の標高は約25.3mを測る。10層は泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み締まりのややある土層であり、第3面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は内陣、外陣を示すような構造をもつ礎石建物1棟、土坑3基、ピット14基である(図14)。

遺物は主にかわらけ、陶器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

(1) 礎石建物

第3面では、1棟を検出した。調査区と軸を揃えて調査区中央に位置する。この建物はピットと礎石を伴うピットによって構成された内陣と外陣からなる建物配置をもっており、さらに調査区外の北側へ展開する可能性がある。

礎石建物1 (図15)

調査区と軸を揃えるように調査区中央に位置する。調査区外の北側へ続くと考えられる。調査区内では、ピット2基(P3・6)と礎石を伴うピット10基(P1・2・4・5・7～12)の計12基を確認した。二重にめぐる柱穴配置をもつことから、内陣と外陣からなる構造の礎石建物と考えられる。桁行の柱穴が並

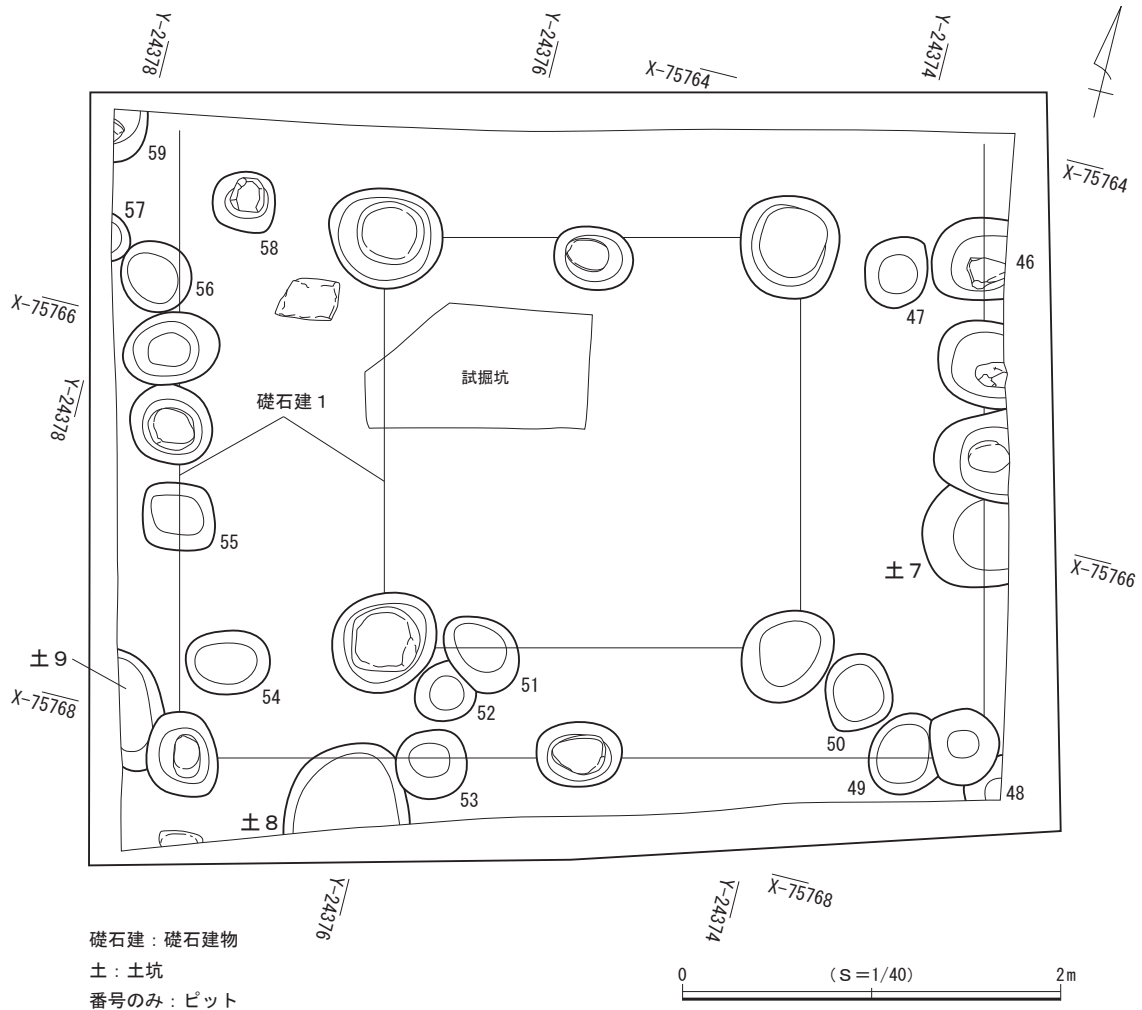


図14 第3面 遺構分布図

ぶ方位はN - 76° - Eを指す。

内陣は1間四方で、柱間は2.10m等間である。柱穴の平面形は円形ないし楕円形で、規模は長軸52~58cm、短軸44~52cm、深さ12~15cmである。南東のP 3は礎石が検出されなかったが、P 1・2・4は長さ35~40cm、幅32cmと33cm、高さ10~15cmを測る安山岩の円礫を用いた礎石が底面直上に据えられている。礎石上面の標高は25.11~25.23mとほぼ一定している。北側の柱列の中央にはやや小ぶりの礎石を伴うP 10が配され、廂の南側桁行中央にあるP 7と同一軸線上に位置している。

外陣は北面を除く3方向で確認されたが、調査区外の北側にも付けられた四面庇付建物とも考えられる。東側と西側柱列の北側には2基一对の柱穴が配され、柱間は東列が2.00m、西列が2.10m、南列が2.10m等間である。柱穴の平面形は円形ないし楕円形で、規模は長軸38~51cm、短軸34~40cm、深さ10~15cmと身舎の柱穴よりもやや小ぶりである。南東に位置するP 6を除くすべての柱穴で礎石が確認され、P 5とP 11は底面よりやや浮いてその他は底面直上に据えられていた。礎石の大きさは長さ22~28cm、幅13~20cm、高さ6~11cmを測り、礎石上面の標高は25.19~25.28mである。P 7~9・12の礎石は安山岩の円礫を用いている。

柱間がほぼ2.10m等間であり、柱穴規模や礎石が大きくその規模が一定していることから、格式の高い寺社などの建物であった可能性が考えられる。

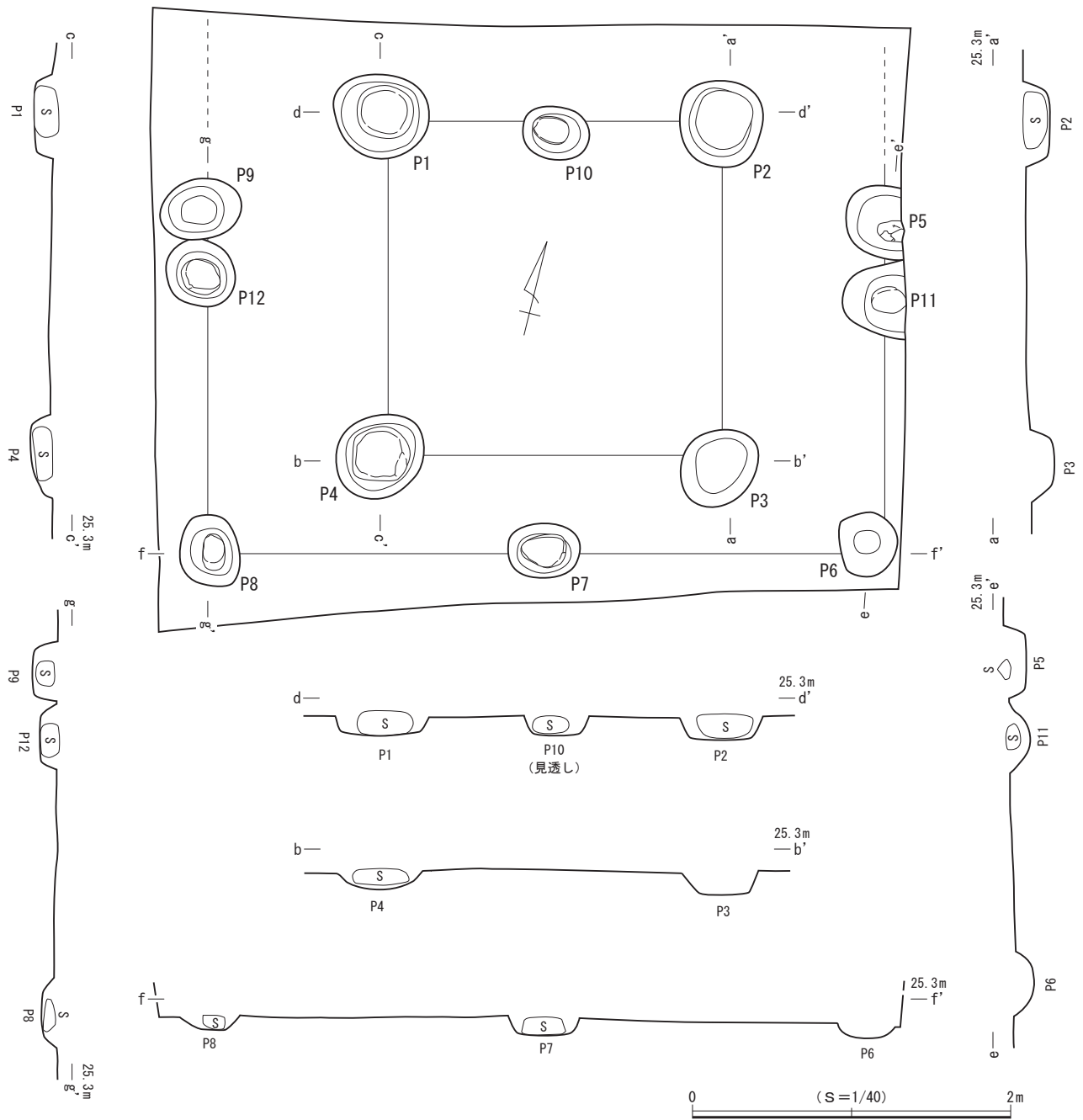


図15 第3面 礎石建物1

出土遺物 (図16)

遺物はかわらけ73点、陶器1点が出土し、このうち5点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。2には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

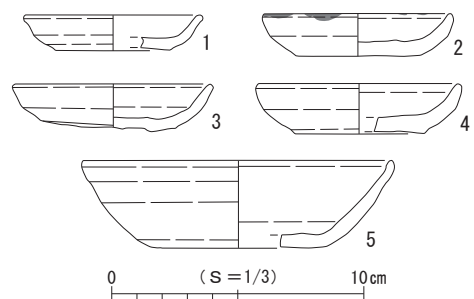


図16 第3面 礎石建物1 出土遺物

(2) 土 坑

第3面では、3基を検出した。いずれも調査区の壁際に位置し一部が調査区外にあるため、全容を把握することができなかった。

土坑7 (図17)

調査区東壁際に位置する。礎石建物1のピットによって北側の一部が壊されている。本址は調査区外の東側へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は円形もしくは楕円形を呈すると推定され、底面は緩やかに湾曲して壁はなだらかに開いて立ち上がる。断面形は鍋底状を呈する。規模は長軸現存長46cm、短軸現存長55cm、深さ18cmを測り、坑底面の標高は25.20mである。覆土は3～5cm角の泥岩ブロックと炭化物を中量含む暗茶褐色粘質土である。

遺物はかわらけ17点が出土した。

土坑8 (図17)

調査区南壁際に位置する。ピット53によって東壁の一部が壊されている。本址のおおよそ半分が調査区外の南側へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は楕円形を呈すると推定され、底面は平坦で壁はやや開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長43cm、短軸65cm、深さ16cmを測り、坑底面の標高は25.02mである。覆土は泥岩粒とかわらけ粒を微量に含む暗茶褐色粘質土である。

遺物はかわらけ1点が出土した。

土坑9 (図17)

調査区西壁際に位置する。礎石建物1のピットによって南側の一部が壊されている。本址は調査区外の西側へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は楕円形を呈すると推定され、底面は南側が緩やかに湾曲し北側は平坦である。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸現存長64cm、短軸現存長23cm、深さ12cmを測り、坑底面の標高は25.12mである。覆土は3～5cm角の泥岩ブロックを中量、炭化物とかわらけ粒を多量に含む茶褐色粘質土である。

遺物はかわらけ10点が出土した。

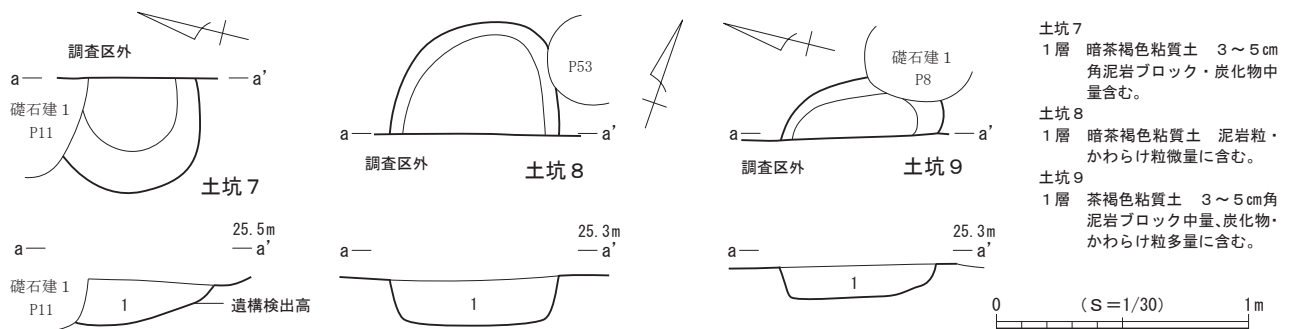


図17 第3面 土坑7～9

(3) ピット (図14)

第3面では、14基を検出した。調査区東壁と西壁、南壁付近に分布し、礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形と楕円形のものが主体で、規模は径31～45cm、深さ9～20cmを測る。礎石を伴うピットは、東壁際に位置するピット46と調査区北西隅のピット58の2基であった。各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

以下、礎石が据えられたピット46と58を図示し、説明する。

ピット46 (図18)

調査区東壁際北寄りに位置する。他の遺構と重複せず単独で検出した。本址の一部は調査区外の東側へ延びており全容は明らかでないが、平面形は略楕円形を呈すると考えられる。断面形はU字状を呈し、規模は長軸現存長38cm、短軸43cm、深さ25cmである。ピットの中央やや南寄りに、角礫を用いた礎石が底面から3cmほど浮いて出土した。礎石の大きさは長さ20cm、幅17cm、高さ10cmを測り、礎石上面の標高は25.23mである。覆土は泥岩粒を多量、炭化物を少量含む茶褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

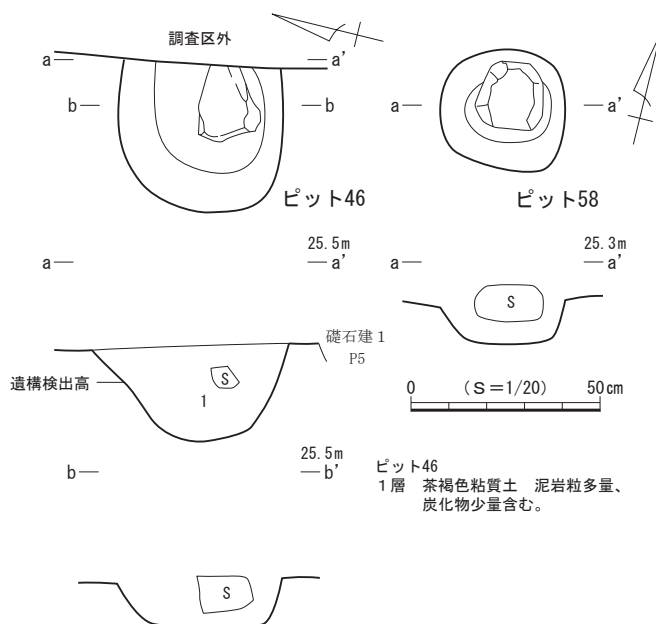


図18 第3面 ピット46・58

ピット58 (図18)

調査区北西隅に位置する。他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は略円形で、断面形は逆台形状を呈する。規模は径31cm、深さ11cmである。ピットの中央やや北寄りから、垂円礫を用いた礎石が底面より5cmほど浮いて出土した。礎石の大きさは径18cm、厚さ9cmを測り、礎石上面の標高は25.25mである。

出土遺物 (図19)

遺物はかわらけ1点が出土し、それを図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

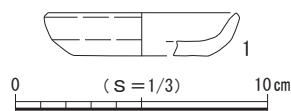


図19 第3面 ピット58出土遺物

(4) 遺構外出土遺物 (図20・21)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち32点を図示した。また、図示しなかったがウマの右上腕骨遠位端が破片で出土しており、骨の表面に切断痕が認められた。

1～12・14～22はロクロ成形によるかわらけである。13は手づくね成形のかわらけである。4・7・8には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。23・24は陶器類で、23が瀬戸窯産の折縁深皿、24が常滑窯産の片口鉢Ⅱ類である。25は瓦質土器の火鉢、26・27は平瓦、28は丸瓦、29は砥石である。30～32は銭貨で、30が開元通寶(南唐・960)、31が熙寧元寶(北宋・1068)、32が元豊通寶(北宋・1078)である。

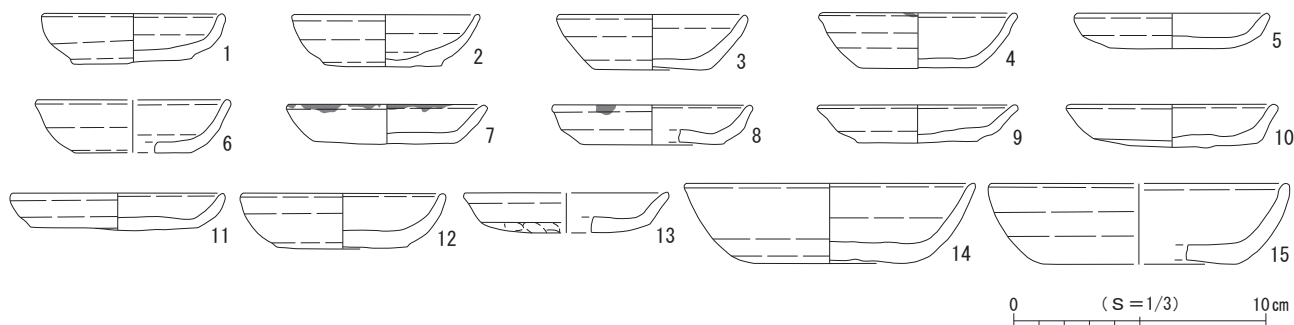


図20 第3面 遺構外出土遺物 (1)

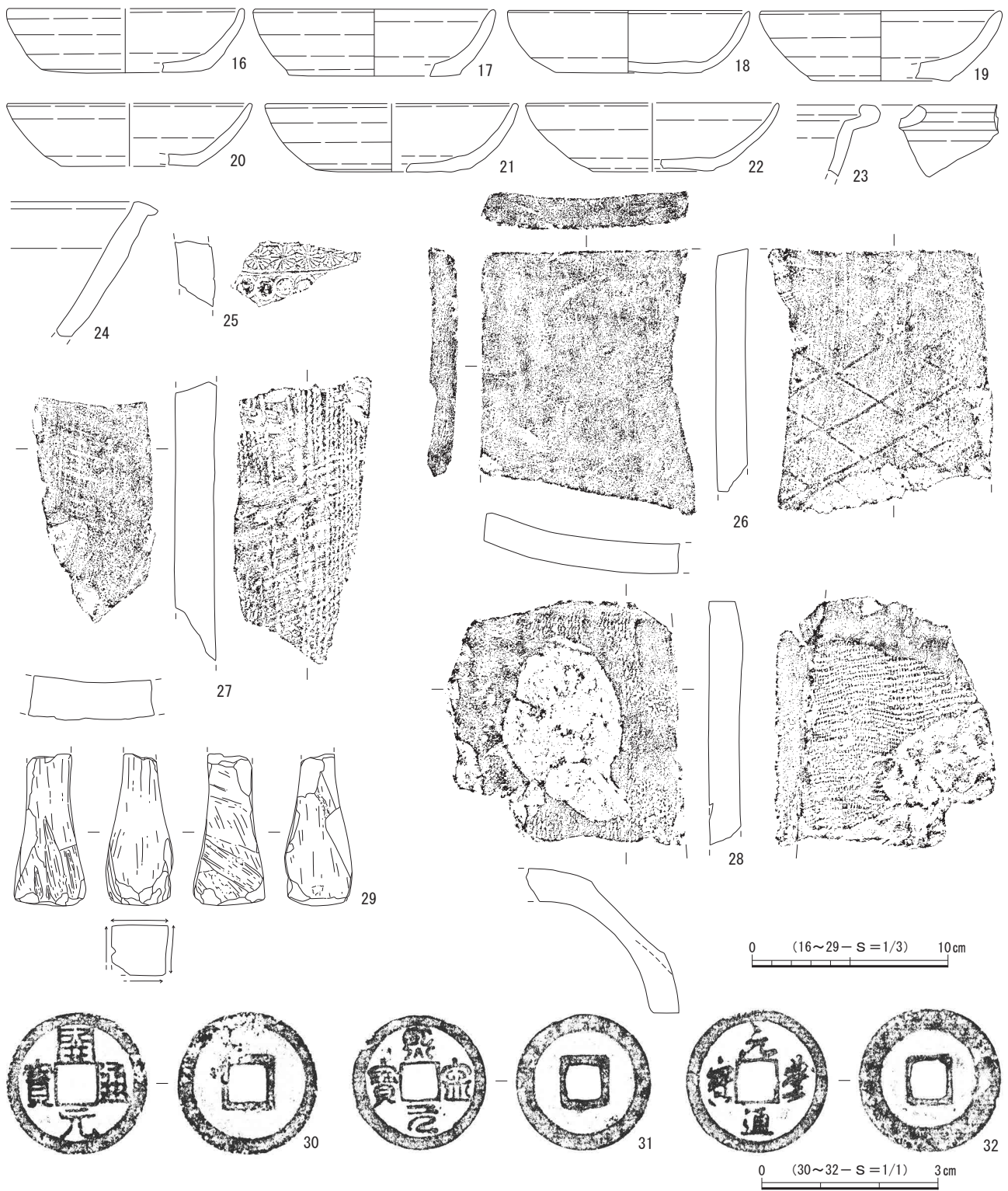


図21 第3面 遺構外出土遺物 (2)

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面の遺構は堆積土層の12層上面で検出され、確認面の標高は約25.1~25.2mである。12層は泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み、締まりのある土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑2基、ピット33基で、ピットは調査区全体に満遍なく分布していた(図22)。

遺物は主にかわらけ、瓦類が出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

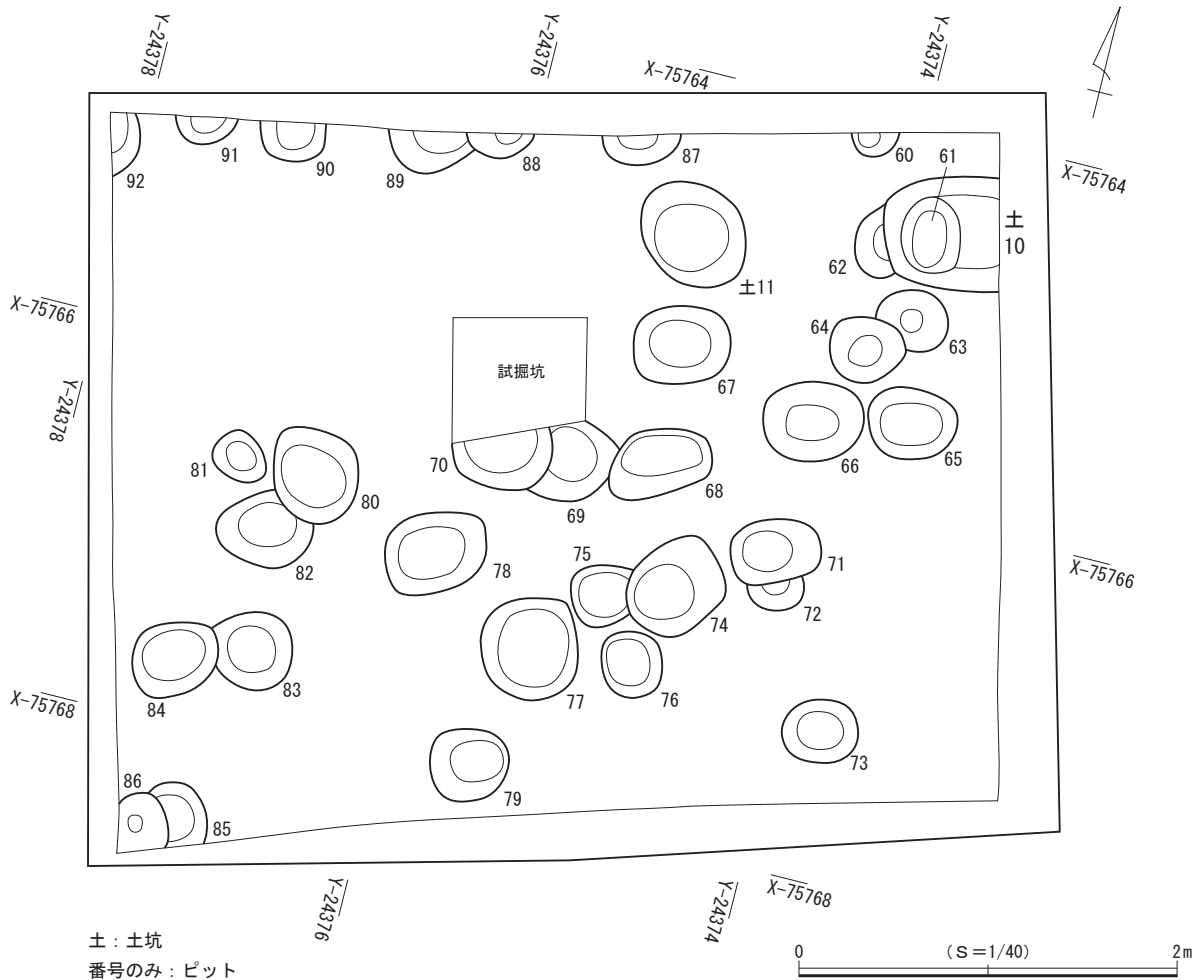


図22 第4面 遺構分布図

(1) 土坑

第4面では、2基を検出した。調査区北壁近くの東寄りに位置し、1基は調査区外の東側へ延びており全容を把握することができなかった。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸が60cm以上で、深さは16cm、17cmと浅い。

土坑10 (図23)

調査区北東隅に位置する。調査区外の東側に延び、ピット62を壊し、ピット61によって西側の一部が壊されている。平面形は楕円形を呈すると推定され、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形状を呈し、底面は平坦である。規模は長軸現存長60cm、短軸59cm、深さ16cmを測り、坑底面の標高は25.00mである。主軸方位はN-76°-Eを指す。

遺物は出土していない。

土坑11 (図23)

調査区北壁近くの中央東寄りに位置する。他の遺構と重複せず単独で検出した。平面形は略楕円形を

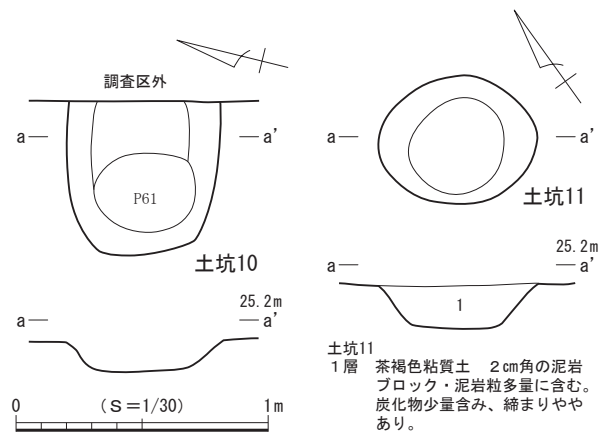


図23 第4面 土坑10・11

呈し、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。規模は長軸61cm、短軸50cm、深さ17cmを測り、坑底面の標高は24.96mである。主軸方位はN-55°-Wを指す。覆土は2cm角の泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み、炭化物を少量含む締まりのややある茶褐色粘質土である。

遺物は出土していない。

(2) ピット (図22)

第4面では、33基を検出した。調査区北西部を除くほぼ全面に分布するが、礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形と楕円形のもの为主体で、規模は径28~55cm、深さ9~29cmを測る。覆土は5cm前後の泥岩ブロックや炭化物、かわらけ粒を含む暗茶褐色土ないし茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図24)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたいが、このうち5点を図示した。

1はピット66から出土した手づくね成形によるかわらけ、2・3はピット77・81から出土したロクロ成形によるかわらけである。3には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。4はピット81から出土した青白磁梅瓶、5はピット89から出土した平瓦である。

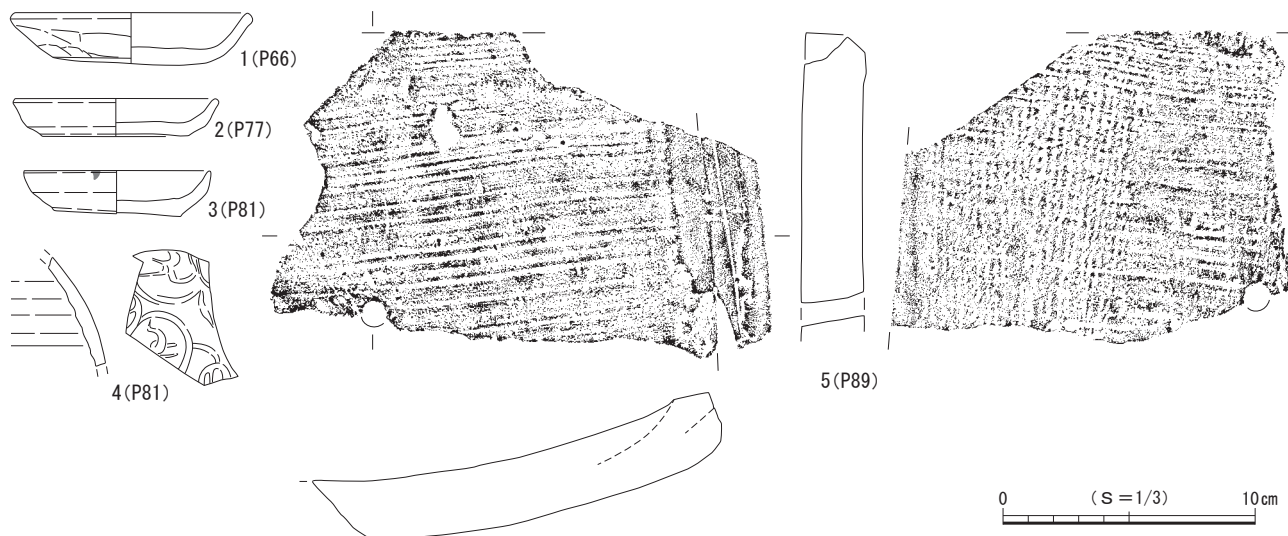


図24 第4面 ピット66・77・81・89出土遺物

(3) 遺構外出土出土遺物 (図25)

第4面からは、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち5点を図示した。1~5はロクロ成形によるかわらけである。

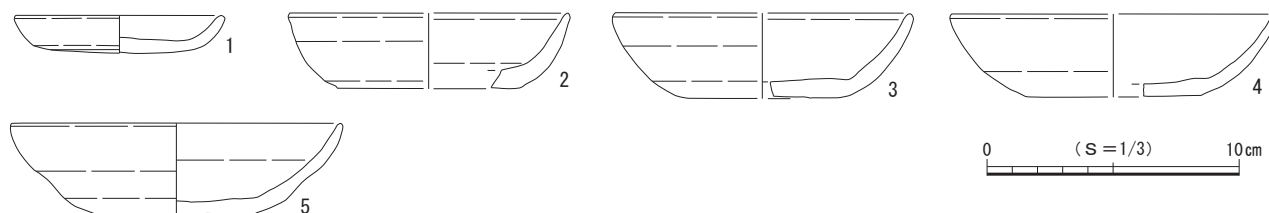


図25 第4面 遺構外出土遺物

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面は、第4面の遺構調査の後に調査区北側の約半分のみを掘り下げて調査を行った。遺構は堆積土層の15・16層上面で検出され、確認面の標高は約24.9mである。15層は泥岩ブロックと炭化物を中量含む締まりのある砂質の土層で、上面には安山岩の剥片が多く張り付いていた。検出した遺構はピット1基のみで、遺構密度は非常に希薄であった(図26)。また、調査区北西部に炭の分布範囲が1ヵ所認められ、1.6×1.3mの範囲に分布し調査区外の北側へと延びていた。遺構との関連は判然としない。

本面は遺構も少なくそれに伴う遺物もわずかであり、詳細な時期は不明である。遺構外出土遺物には2～3型式の常滑窯の甕が含まれており、大卒12世紀中葉～後葉頃の時期幅に収まるものと考えられる。

(1) ピット (図26)

第5面では、1基を検出した。調査区中央北東寄りに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長辺43cm、深さ11cmを測る。覆土は3～5cm角の泥岩ブロックを中量含み、炭化物を多量に含む締まりのややある明灰褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

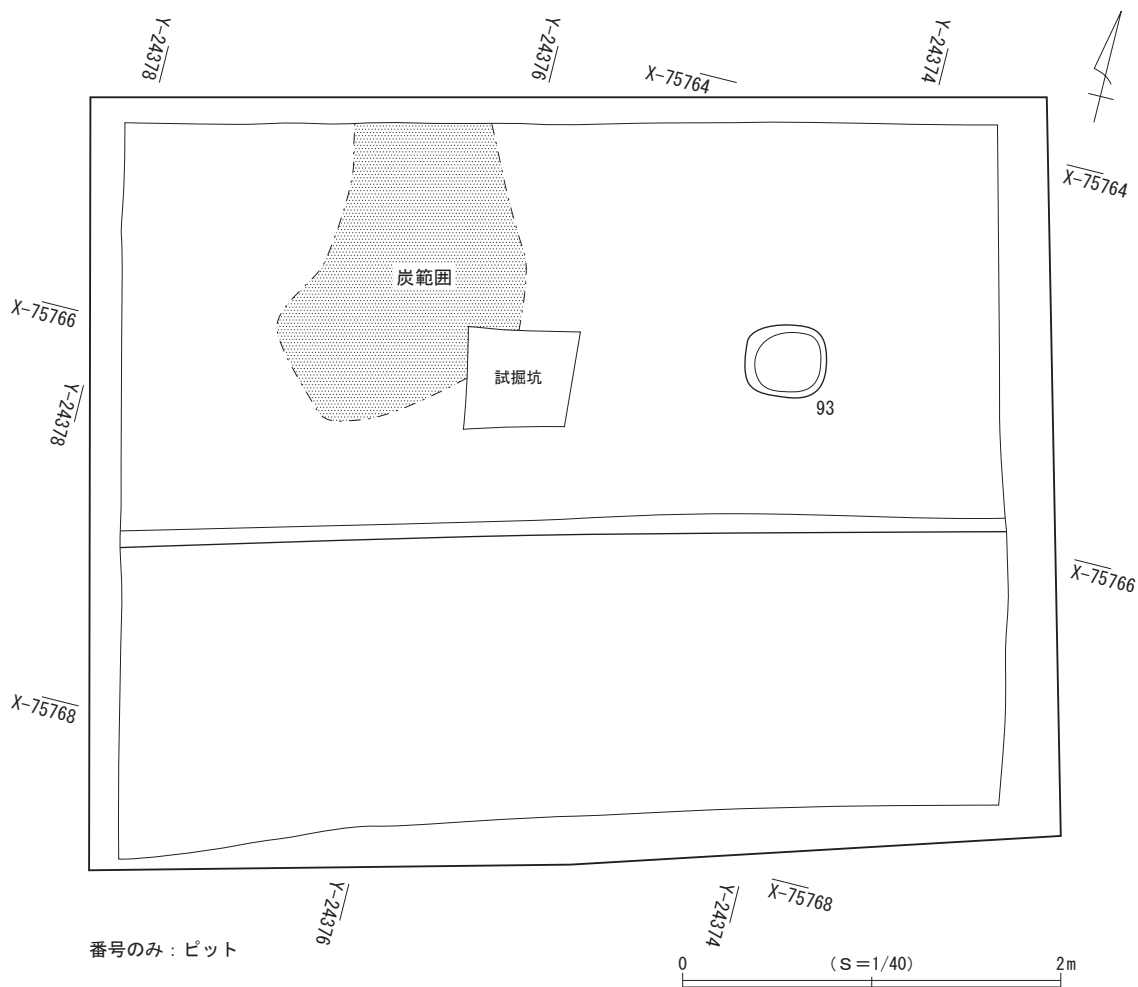


図26 第5面 遺構分布図

(2) 遺構外出土遺物 (図27)

第5面で検出された遺構は極めて少なかったが、遺構外からは遺物が出土し、このうち6点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は舶載磁器で白磁碗である。3は常滑窯産の甕である。4～6は瓦類で、4が平瓦、5・6が丸瓦である。

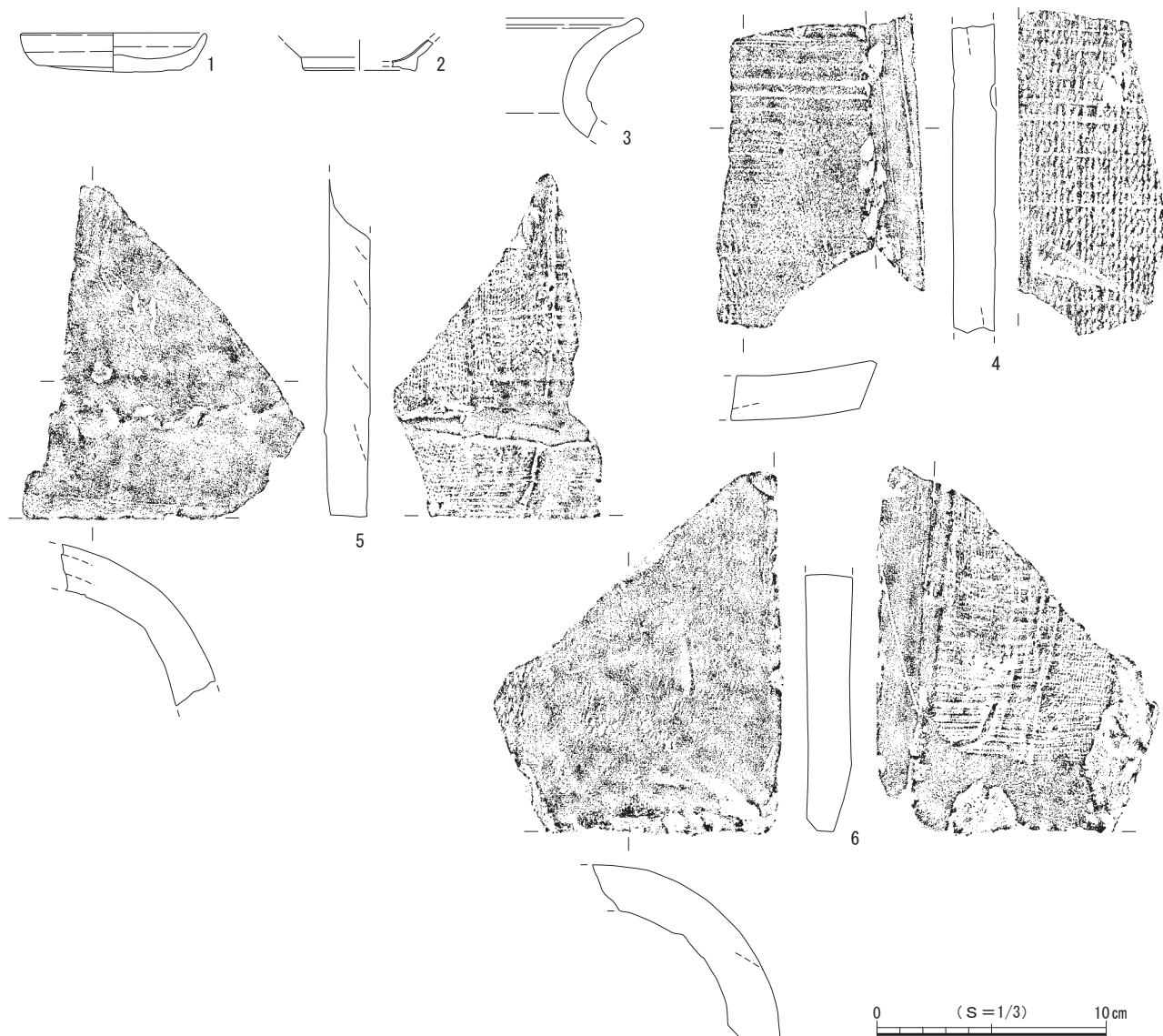


図27 第5面 遺構外出土遺物

第6節 第6面の遺構と遺物

第6面の調査は、第5面の調査範囲をさらに掘り下げて行った。遺構は堆積土層の18層上面で検出され、確認面の標高は約24.8mである。18層は泥岩粒と炭化物を少量含み、玉砂利を多量に含む締まりのややある茶灰色粘質土であった。検出した遺構は溝状遺構1条とピット2基のみで、遺構密度は非常に希薄であった(図28)。また、幅2.50~2.65mの砂利敷面が調査区北側から南側に縦断し、調査区外の北と南側へと延びていた。溝状遺構はこの砂利敷面と同じ軸方向で並行して検出されており、道路の側溝と路面であった可能性も考えられる。

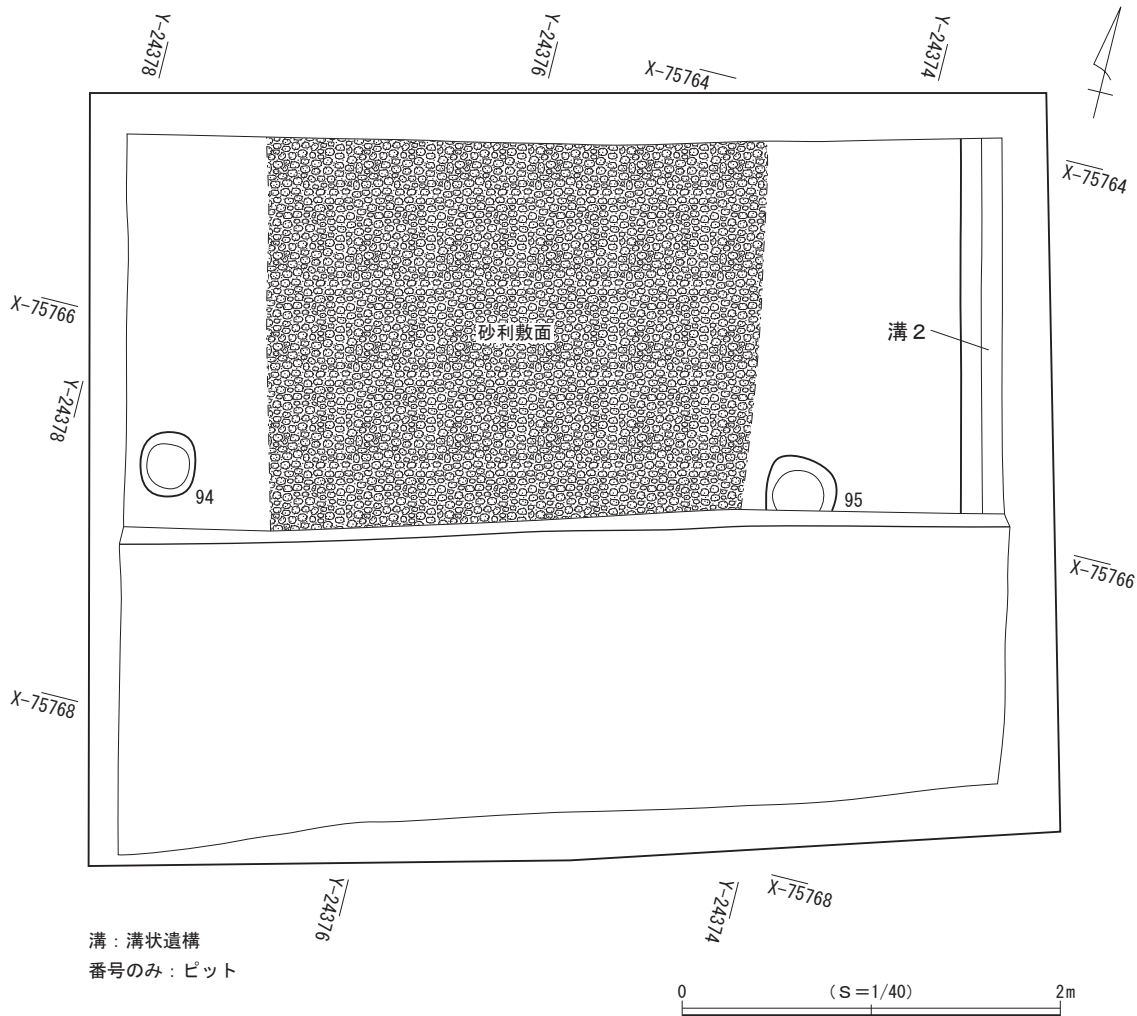


図28 第6面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しているが、いずれも小破片であり、詳細な年代を特定することは困難である。上面の第5面の年代が12世紀中葉～後葉頃と考えられる点や、後述する第7面も12世紀中葉～後葉頃の年代観が与えられる点を考慮に入れると、第6面も同様な時期と捉えられよう。

(1) 溝状遺構

第6面では、1条を検出した。調査区東壁際に位置し、調査区外の南北および東側に延びているため全容を把握することはできなかった。

溝状遺構 2 (図29)

調査区東壁際に位置する。直線的に南北方向に延びて調査区外の南北側へと続いている。検出した規模は現存長1.97m、現存幅22cm、深さ5cmを測り、主軸方位はN-14°-Wを指す。西壁は開いて緩やかに立ち上がり、東壁は調査区外の東側にあるため断面形は判然としない。底面の標高は北端部で24.74mを測る。覆土は

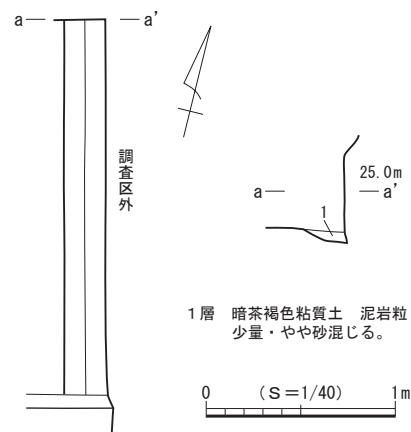


図29 第6面 溝状遺構 2

泥岩粒を少量と砂を含む暗茶褐色粘質土である。本址の西側に並行して、幅2.6m前後の規模をもつ砂利敷面が南北方向へ帯状に広がっていた。この砂利敷面の主軸方位は本址と同じであり、関連をもつ可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

(2) ピット (図28)

第6面では、2基を検出した。ともに調査範囲の南端に位置し、ピット95は調査範囲外へと延びている。ピットの平面形は略円形で、規模は径35cmと38cmで、深さは9cmと4cmと非常に浅い。2基のピットは砂利敷面を挟むように位置するが、両者の関連は判然としない。覆土はピット94が泥岩粒とかわらけ粒を中量、炭化物を多量に含む締まりのない茶褐色粘質土で、ピット95は5～7cm角の泥岩ブロックを混入し、炭化物を多量に含む締まりのない茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図30)

遺物はピット94からかわらけ3点が出土し、それを図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけ、3は手づくね成形によるかわらけである。

(3) 遺構外出土遺物 (図31)

第6面では、遺構以外からも遺物が出土し、このうち2点を図示した。

1は龍泉窯系青磁小椀Ⅰ類である。2は常滑窯産の壺である。

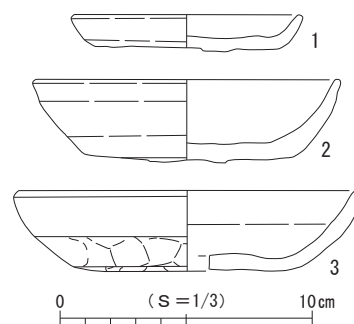


図30 第6面 ピット94出土遺物

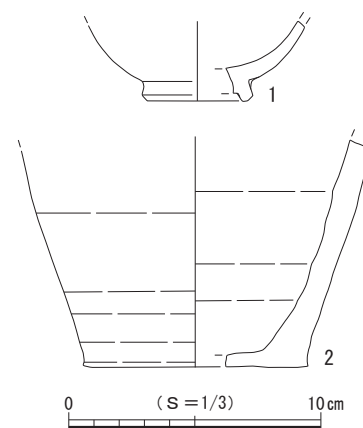


図31 第6面 遺構外出土遺物

第7節 第7面の遺構と遺物

第7面の調査は、第6面の調査範囲を掘り下げて行った。遺構は堆積土層の19層上面で検出され、確認面の標高は約24.7mを測る。19層は泥岩粒を中量、炭化物を微量に含み締まりのある土層である。検出した遺構は土坑2基のみで、遺構密度は非常に希薄であった(図32)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類が出土しているが、第6面と同様にいずれも小破片であり、詳細な年代を特定することは困難である。上面の第5・6面の年代が12世紀中葉～後葉、また、第7面下の19層から同安窯系青磁椀Ⅱ類が出土している点を考慮に入れると、第7面も同様な時期と考えられる。

(1) 土 坑

第7面では、調査範囲の中央で2基の土坑を検出した。両土坑は重複していたため、全容を把握できたのは時期的に新しい土坑12のみである。平面形は楕円形と略円形と考えられ、規模は長軸が1.22mと1.29m、深さは15cmと20cmを測る。

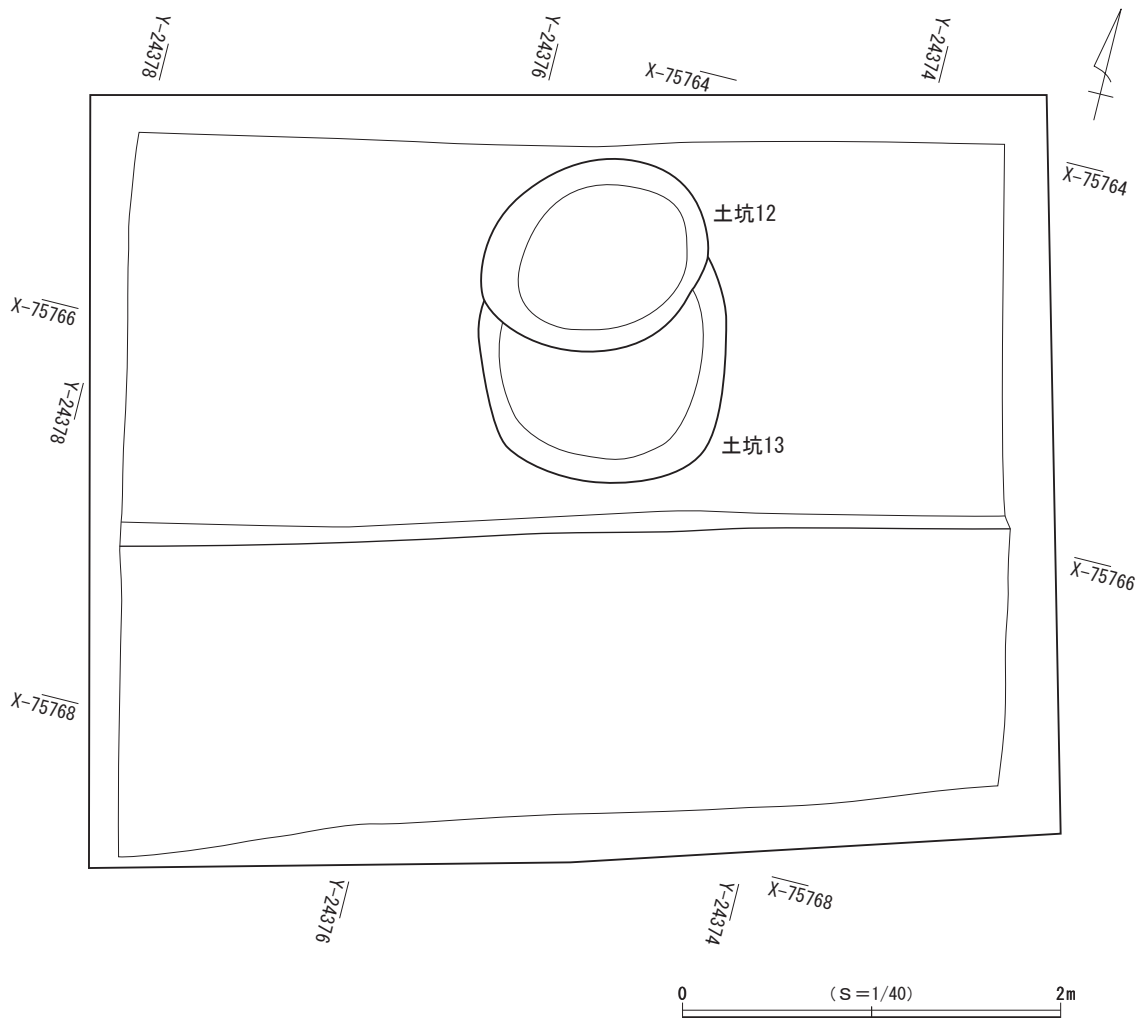


図32 第7面 遺構分布図

土坑12 (図33)

調査範囲の中央に位置する。南側で土坑13と重複し、切り合い関係から判断すると本址の方が新しい。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.22m、短軸99cm、深さ15cmを測り、坑底面の標高は24.56mである。主軸方位はN-53°-Eを指す。覆土は5~7cm角の泥岩ブロックを少量、炭化物を微量に含み、締まりのややある明茶灰色粘質土である。

遺物はかわらけ11点が出土した。

土坑13 (図33)

調査範囲の中央に位置する。北側で土坑12と重複して壊されており、全容を捉えることはできなかった。平面形は略円形を呈すると推定され、底面は湾曲して北側が高くなる。壁は開いて立ち上がり、断面形は鍋底状を呈する。規模は径1.29m、深さ20cmを測り、坑底面の標高は24.48mである。覆土は2層に分かれ、1層は黒褐色粘質土のブロックが混じり泥岩粒を中量含む締まりのない明茶灰色粘質土で、2層は泥岩粒が1層よりも少なく締まりのややある黄茶色粘質土である。

遺物はかわらけが6点出土した。

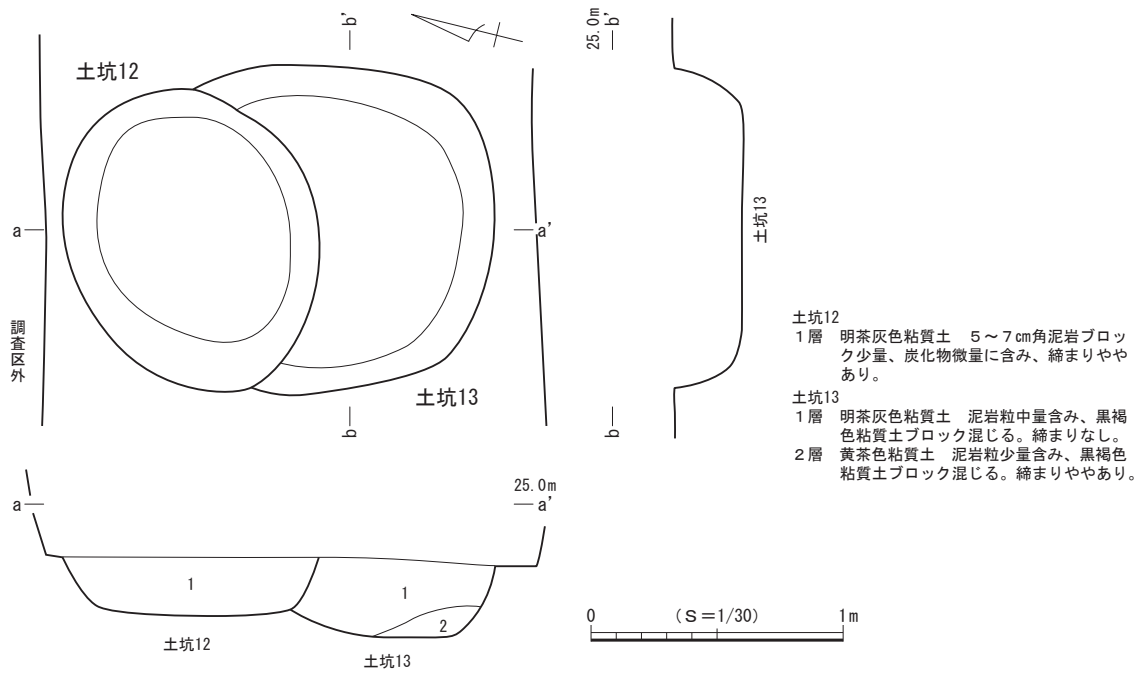


図33 第7面 土坑12・13

(2) 遺構外出土遺物 (図34)

第7面では、遺構以外からも遺物が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

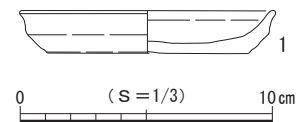


図34 第7面 遺構外出土遺物

(3) 19層出土遺物 (図35)

第7面以下では、地山層を確認するために第7面の遺構を検出した19層の掘り下げを行った。その結果、遺構は確認されなかったが遺物が出土したため、このうち4点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3・4は舶載磁器で、3が白磁小皿、4が同安窯系青磁碗Ⅱ類である。

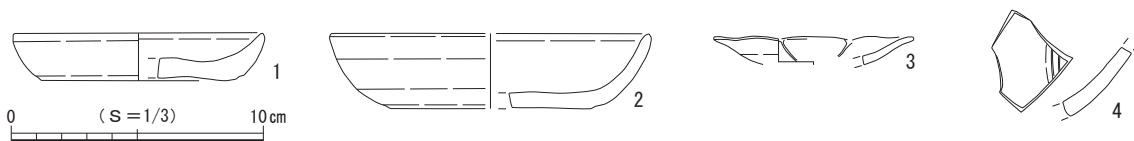


図35 19層出土遺物

第四章 まとめ

本調査地点は、滑川の支流である大御堂川によって開析された「大御堂ヶ谷」と呼ばれる谷戸に位置する。調査地点の遺跡名にみられる「勝長寿院」は、鎌倉幕府を開いた源頼朝が父である義朝を供養するために建立した寺院といわれ、別名を「大御堂」あるいは「南御堂」とも呼ばれていた。勝長寿院遺跡は南北方向に細長い「大御堂ヶ谷」の谷戸部とその両側の丘陵稜線までが周知の範囲で、発掘調査は本地点が初めてと考えられる。今回の調査では、標高約25.3mを測る第3面から「勝長寿院」との関わりをうかがわせる内陣と外陣からなる礎石建物が検出され、大きな成果としてあげることができる。

今回の調査では、遺構確認面は第1～7面までの合計7面で、このうち第2～4面にかけては遺構密度の高い状況が認められた。調査面積は狭小であり、検出した遺構は礎石建物1棟、溝状遺構2条、土坑13基、ピット95基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して4箱と少量であった。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。なお、第5～7面は検出遺構が極めて少ないことから、一括して記述した。

〈第1面〉

第1面の遺構は、標高約26.0mを測る堆積土層4層の上面で検出された。4層は泥岩粒を多量に含んだ締まりのややある土層であり、第1面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出遺構はピット13基で、調査区中央を除く全体に疎らに分布していた。遺物は主にかわらけや舶載磁器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代に属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は、標高約25.8mを測る堆積土層6層の上面で検出された。6層は泥岩ブロックを多く含み硬く締まった整地層であり、第2面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出遺構は溝状遺構1条、土坑6基、ピット32基で、一部の遺構は重複しており遺構密度は比較的高かった。土坑は1mを超える大型のもの3基が、東西に横断する溝状遺構1と重複して検出されており、両者が一体となって区画施設としての役割をもっていた可能性が考えられる。遺物は主にかわらけや陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉～14世紀代に属すると考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は、標高約25.3mを測る堆積土層10層の上面で検出された。10層は泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み締まりのややある土層で、第3面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出遺構は礎石建物1棟、土坑3基、ピット14基である。礎石建物は調査区と軸を揃えるように中央で検出したが、調査区外の北側へと延びており、全容の把握には至らなかった。この建物はピットと礎石を伴うピットによって構成された内陣と外陣からなる建物配置と推定され、加えて礎石建物であることや、柱間がほぼ2.1m等間であることから、格式が高い堅牢な寺社などの建物であった可能性が考えられる。遺物は主にかわらけ、陶器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面の遺構は、標高約25.1～25.2mを測る堆積土層12層の上面で検出された。12層は泥岩ブロックと泥岩粒を多量に含み締まりのある土層で、第4面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出遺構は土坑2基、ピット33基で、ピットは調査区全体に満遍なく分布していたが、建物などを構成する規則的な配置は見いだせなかった。遺物は主にかわらけや瓦類が出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

〈第5～7面〉

第5～7面は、第4面までの調査範囲の北側約半分のみを調査した。検出遺構は第5面がピット1基、第6面が溝状遺構1条とピット2基、第7面が土坑2基のみであり、いずれの面も遺構密度は極めて希薄であった。このうち、第6面で検出された溝状遺構1の西側に、幅2.5～2.65mの砂利敷面が調査区北側から南側に縦断し、調査区外へと延びていた。溝状遺構1と砂利敷面は軸方向が並行しており、道路の路面と側溝であった可能性も考えられる。

第5～7面出土の遺物は少なく各面の年代を特定することは困難であるが、第5面からは2～3型式の常滑窯産の甕が出土し、また、第7面下層の19層出土の同安窯系青磁椀Ⅱ類を基準とするならば、第5～7面は大枠として12世紀中葉～後半頃に属すると考えられる。

引用・参考文献

『鎌倉事典』 白井永二編 東京堂出版 1976

『鎌倉廃寺事典』 貫 達人・川副武胤 有隣堂 1980

『新編相模国風土記稿』（上之巻）完全復刻版 千秋社 1983

表1 第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

ピット1・11出土遺物(図7)

1	土器	埴塙	-	-	現 3.3	かわらけを埴塙に転用 内面に金属滓付着 胎土:赤色粒、黒色粒、粗土 色調:黄 橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット1	口縁部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・中	-	(6.8)	現 2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗 土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット11	1/4

第1面 遺構外出土遺物(図8)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	4.9	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗 土 色調:橙色 焼成:良好	5/6
2	磁器	青磁 碗	-	-	現 2.0	外面-蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片

表2 第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

溝状遺構1出土遺物(図11)

1	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 4.4	外面-印花による十字花文 胎土:緻密 色調:白灰色 焼成:良好	体部 小破片
---	----------	----	---	---	----------	---------------------------------	-----------

ピット9・26出土遺物(図13)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	7.0	1.8	口唇部~体部下半に煤付着 外面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、黒色粒、泥岩 粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット9	1/2
2	陶器	瀬戸 折縁深皿	(23.4)	-	5.1	胎土:緻密 色調:胎土-灰色、釉-淡黄灰色 備考:古瀬戸中期様式Ⅱ期 出土遺 構:ピット26	1/6

表3 第3面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

礎石建物1出土遺物(図16)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.6)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.0	1.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8~8.1	5.2~5.5	1.8	歪み大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.2)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(7.0)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、粗土 色調:浅橙色 焼成:良好	1/8

ピット58出土遺物(図19)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
---	----	---------------	-------	-------	-----	---	-----

第3面 遺構外出土遺物(図20・21)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.6	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.6)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、 海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(4.7)	2.2	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色 粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.9)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石 粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.6)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.6	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色 粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.7)	1.6	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色 粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(4.8)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石 粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石 粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.2)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石 粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
13	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	(6.7)	1.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色 調:橙色 焼成:良好	1/6
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.0)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、や や粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.6)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿 骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/6

16	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.5)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/5
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.7)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(7.5)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(7.1)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(7.0)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:浅黄橙色 焼成:良好	1/7
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(7.9)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/5
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(6.3)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:浅黄橙色 焼成:良好	1/6
23	陶器	瀬戸 折縁深皿	-	-	現 3.6	胎土:緻密 色調:胎土-灰色、釉-淡緑灰色	口縁部 小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
25	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 4.4	外面-印花による菊花文・円形浮文 胎土:緻密 色調:内面-黒色、外面-にぶい赤褐色 焼成:良好	体部 小破片
26	瓦	平瓦	現長 12.5	現幅 10.0	厚 1.6	凹面-ナデ 凸面-格子文 胎土:粗 色調:黄灰色	1/4
27	瓦	平瓦	現長 14.3	現幅 6.6	厚 2.0	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:灰褐色	1/6
28	瓦	丸瓦	現長 12.7	現幅 10.2	厚 1.5	凸面-縄目敲き 凹面-布目 胎土:粗 色調:灰黒色	1/6
29	石製品	砥石	現長 7.8	短 2.2~3.7	厚 3.7	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩	3/4?
30	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-開元通寶(南唐・960)	完形
31	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名-熙寧元寶(北宋・1068)	完形
32	銅製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-元豊通寶(北宋・1078)	完形

表4 第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

ピット66・77・81・89出土遺物(図24)

1	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	6.6	2.1	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット66	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.8)	1.5	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット77	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.8	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット81	1/2
4	磁器	青白磁 梅瓶	-	-	現 4.3	上面-ヘラ彫りによる唐草文 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色 出土遺構:ピット81	肩部 小破片
5	瓦	平瓦	現長 12.9	現幅 17.9	厚 2.0	凹面-ヘラナデ 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:明橙色~黒灰色~黒色 出土遺構:ピット89	1/6?

第4面 遺構外出土遺物(図25)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.8)	1.5	二次焼成 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色~黒色 焼成:良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(7.3)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/8
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(7.0)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/7
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(7.0)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(6.0)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/3

表5 第5面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第5面 遺構外出土遺物(図27)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.3	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
2	磁器	白磁 碗	-	(4.8)	現 1.3	高台-無釉 色調:胎土-白色、釉-白色	高台部 小破片
3	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.2	胎土:砂質 色調:灰色 備考:2~3型式	口縁部 小破片
4	瓦	平瓦	現長 14.3	現幅 7.2	厚 1.9	凹面-ヘラナデ 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:灰色	1/6
5	瓦	丸瓦	現長 15.3	現幅 10.8	厚 1.9	凸面-縄目敲き、側面並行のヘラケズリ 凹面-布目、糸切り、板状圧痕 胎土:粗 色調:灰褐色	1/6
6	瓦	丸瓦	現長 16.0	現幅 11.1	厚 2.0	凸面-縄目敲き、側面並行のヘラケズリ 凹面-布目、糸切り、板状圧痕 胎土:粗 色調:灰褐色	1/6

表6 第6面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
ピット94出土遺物 (図30)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
3	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	(9.0)	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3

第6面 遺構外出土遺物 (図31)

1	磁器	青磁 小碗	-	(4.0)	3.2	高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁小碗I類	1/5
2	陶器	常滑 壺	-	(9.0)	現 9.0	胎土:粗 色調:暗褐色	胴部下半 以下

表7 第7面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第7面 遺構外出土遺物 (図34)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.0)	(8.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3

19層出土遺物 (図35)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.8)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:明橙褐色 焼成:良好	1/5
3	磁器	白磁 小皿	(8.0)	-	現 1.1	輪花形 底面-ヘラ切り 色調:胎土-白色、釉-白色	1/8
4	磁器	青磁 碗	-	-	現 2.8	内面-櫛目文 色調:胎土-灰色、釉-淡黄色 備考:同安窯系青磁碗II類	体部 小破片

表8 遺構計測表

〈 〉=現存値

遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
ピット1	第1面	37	(23)	13	ピット31	第2面	54	38	28	ピット62	第4面	(33)	(16)	19
ピット2	第1面	49	(33)	10	ピット32	第2面	39	34	21	ピット63	第4面	37	30	23
ピット3	第1面	41	(36)	35	ピット33	第2面	29	(26)	20	ピット64	第4面	38	35	23
ピット4	第1面	27	26	17	ピット34	第2面	(33)	25	23	ピット65	第4面	45	36	21
ピット5	第1面	44	34	11	ピット35	第2面	22	(9)	25	ピット66	第4面	52	41	16
ピット6	第1面	35	27	25	ピット36	第2面	33	(19)	18	ピット67	第4面	50	40	27
ピット7	第1面	43	35	22	ピット37	第2面	37	(13)	10	ピット68	第4面	55	34	11
ピット8	第1面	52	43	22	ピット38	第2面	40	-	10	ピット69	第4面	(51)	(40)	15
ピット9	第1面	(44)	(29)	16	ピット39	第2面	30	25	6	ピット70	第4面	(52)	(36)	14
ピット10	第1面	40	33	28	ピット40	第2面	34	26	9	ピット71	第4面	47	32	14
ピット11	第1面	44	36	57	ピット41	第2面	34	24	26	ピット72	第4面	29	(13)	9
ピット12	第1面	(24)	(16)	16	ピット42	第2面	43	-	?	ピット73	第4面	39	32	9
ピット13	第1面	(54)	(44)	26	ピット43	第2面	27	25	11	ピット74	第4面	53	43	15
溝状遺構1	第2面	489	34~47	22~38	ピット44	第2面	(28)	(22)	17	ピット75	第4面	(32)	30	11
土坑1	第2面	(195)	156	19	ピット45	第2面	(25)	(22)	12	ピット76	第4面	34	31	15
土坑2	第2面	(147)	(73)	21	礎石建物1	第3面	420	(270)	10~15	ピット77	第4面	52	50	12
土坑3	第2面	(74)	(42)	17	土坑7	第3面	(46)	(55)	18	ピット78	第4面	52	41	21
土坑4	第2面	(97)	(60)	41	土坑8	第3面	(43)	65	16	ピット79	第4面	40	35	10
土坑5	第2面	67	(45)	10	土坑9	第3面	(64)	(23)	12	ピット80	第4面	53	45	17
土坑6	第2面	(80)	(31)	13	ピット46	第3面	(38)	43	25	ピット81	第4面	28	23	17
ピット14	第2面	34	29	26	ピット47	第3面	35	32	12	ピット82	第4面	50	40	13
ピット15	第2面	40	35	17	ピット48	第3面	(30)	(14)	12	ピット83	第4面	(42)	40	29
ピット16	第2面	(41)	(24)	21	ピット49	第3面	43	38	10	ピット84	第4面	45	37	24
ピット17	第2面	56	(30)	21	ピット50	第3面	38	35	9	ピット85	第4面	(34)	(26)	21
ピット18	第2面	57	46	31	ピット51	第3面	45	33	13	ピット86	第4面	(35)	(32)	18
ピット19	第2面	(49)	(18)	27	ピット52	第3面	30	(28)	14	ピット87	第4面	(40)	(14)	21
ピット20	第2面	24	21	8	ピット53	第3面	36	-	17	ピット88	第4面	(34)	(11)	18
ピット21	第2面	31	-	20	ピット54	第3面	42	32	9	ピット89	第4面	(45)	(21)	26
ピット22	第2面	32	(18)	16	ピット55	第3面	36	34	10	ピット90	第4面	(34)	(20)	26
ピット23	第2面	32	31	43	ピット56	第3面	37	-	16	ピット91	第4面	(32)	(14)	19
ピット24	第2面	26	(22)	30	ピット57	第3面	(24)	(9)	20	ピット92	第4面	(33)	(16)	13
ピット25	第2面	33	30	29	ピット58	第3面	31	30	11	ピット93	第5面	43	36	11
ピット26	第2面	34	-	28	ピット59	第3面	(28)	(17)	20	溝状遺構2	第6面	(197)	(22)	5
ピット27	第2面	37	35	15	土坑10	第4面	(60)	59	16	ピット94	第6面	35	29	9
ピット28	第2面	40	26	11	土坑11	第4面	61	50	17	ピット95	第6面	38	(29)	4
ピット29	第2面	33	24	29	ピット60	第4面	(24)	(10)	22	土坑12	第7面	122	99	15
ピット30	第2面	40	(28)	35	ピット61	第4面	39	30	13	土坑13	第7面	129	(109)	20

※礎石建物の長軸・短軸は心々の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表9 出土遺物一覧表

第1面

ピット1			土坑2			ピット32		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【土器】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	埴塙	1		かわらけ ロクロ成形	7		かわらけ ロクロ成形	1
	合計	1		かわらけ 手づくね成形	15		合計	1
				合計	22			
ピット2			土坑3			ピット37		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2		かわらけ ロクロ成形	7		かわらけ ロクロ成形	1
	合計	2		かわらけ 手づくね成形	8		合計	1
				合計	15			
ピット3			土坑4			ピット38		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2		かわらけ ロクロ成形	4		かわらけ ロクロ成形	3
	合計	2		合計	4		合計	3
ピット4			ピット9			第2面 遺構外		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【瓦】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	平瓦	1		かわらけ ロクロ成形	2		白かわらけ	1
	合計	1		合計	2		かわらけ ロクロ成形	36
							【瓦】	
							平瓦	1
							合計	38
ピット5			ピット16			第3面		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	礎石建物1		
【かわらけ】			【かわらけ】			産地	器種	破片数
	かわらけ ロクロ成形	1		かわらけ ロクロ成形	4		かわらけ ロクロ成形	70
	【瓦】			合計	4		かわらけ 手づくね成形	3
	平瓦	1					【陶器】	
	合計	2				常滑	甕	1
							合計	74
ピット6			ピット18			土坑7		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4		かわらけ ロクロ成形	8		かわらけ ロクロ成形	16
	合計	4		かわらけ 手づくね成形	10		かわらけ 手づくね成形	1
				合計	18		合計	17
ピット7			ピット21			土坑8		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4		かわらけ ロクロ成形	2		かわらけ 手づくね成形	1
	合計	4		かわらけ 手づくね成形	7		合計	1
				合計	9			
ピット11			ピット23			土坑9		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1		かわらけ ロクロ成形	1		かわらけ ロクロ成形	7
	合計	1		合計	1		かわらけ 手づくね成形	3
							合計	10
第1面 遺構外			ピット24			ピット43		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	76		かわらけ ロクロ成形	3		かわらけ ロクロ成形	6
	【青磁】			合計	3		かわらけ 手づくね成形	3
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1					合計	9
	【瓦】							
	平瓦	1						
	合計	78						
第2面			ピット25			ピット44		
溝状遺構1			産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
産地	器種	破片数	【かわらけ】			【かわらけ】		
【瓦質土器】				かわらけ ロクロ成形	4		かわらけ ロクロ成形	3
	火鉢	1		合計	4		かわらけ 手づくね成形	1
	合計	1					合計	4
土坑1			ピット26			【陶器】		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	瀬戸		
【かわらけ】			【かわらけ】			折縁深皿		
	かわらけ ロクロ成形	3		かわらけ ロクロ成形	4			1
	合計	3		合計	5			

ビット47		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
		合計 4

ビット50		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	8
かわらけ	手づくね成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 15

ビット52		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	1
		合計 5

ビット53		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 2

ビット54		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	5
		合計 9

ビット55		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	6
		合計 8

ビット56		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1
		合計 1

ビット58		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1
		合計 1

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	309
かわらけ	手づくね成形	55
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	4
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦質土器】		
	火鉢	4
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	8
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	3

第4面		
産地	器種	破片数
合計 387		
ビット60		
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	7
		合計 7

ビット63		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
【瓦】		
	平瓦	1
		合計 4

ビット64		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	2
		合計 6

ビット65		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	5
		合計 5

ビット66		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
かわらけ	手づくね成形	1
		合計 4

ビット67		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	8
【青磁】		
龍泉窯系	壺	1
		合計 9

ビット69		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
		合計 2

ビット71		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	5
		合計 5

ビット72		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1
		合計 1

ビット73		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	1
		合計 5

ビット77		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	3
		合計 7

ビット78		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	3
		合計 5

ビット79		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
かわらけ	手づくね成形	1
		合計 4

ビット80		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
【瓦】		
	丸瓦	1
		合計 4

ビット81		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
【青磁】		
青白磁	梅瓶	1
		合計 5

ビット82		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
かわらけ	手づくね成形	3
		合計 7

ビット83		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	8
かわらけ	手づくね成形	2
		合計 10

ビット84		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	3
		合計 5

ビット85		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	4
		合計 6

ビット89		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
かわらけ	手づくね成形	4
【瓦】		
	平瓦	1
		合計 7

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	146
かわらけ	手づくね成形	83
		合計 229

第5面

第5面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	66
	かわらけ 手づくね成形	47
【白磁】		
	碗	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【瓦】		
	丸瓦	5
	平瓦	4
【石製品】		
	硯	1
合計		125

第6面

ビット94		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
	かわらけ 手づくね成形	1
合計		3

第6面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	31
	かわらけ 手づくね成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	小椀Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	壺	1
合計		36

第7面

土坑12		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
	かわらけ 手づくね成形	3
合計		11

土坑13		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
合計		6

第7面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
	かわらけ 手づくね成形	3
合計		6

19層		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	37
	かわらけ 手づくね成形	24
【白磁】		
	小皿	1
【青磁】		
同安窯系	椀Ⅱ類	1
合計		63



1. 調査区近景(西から)



2. 調査区北壁土層断面(南から)



1. 第1面全景(東から)



2. 第2面全景(西から)

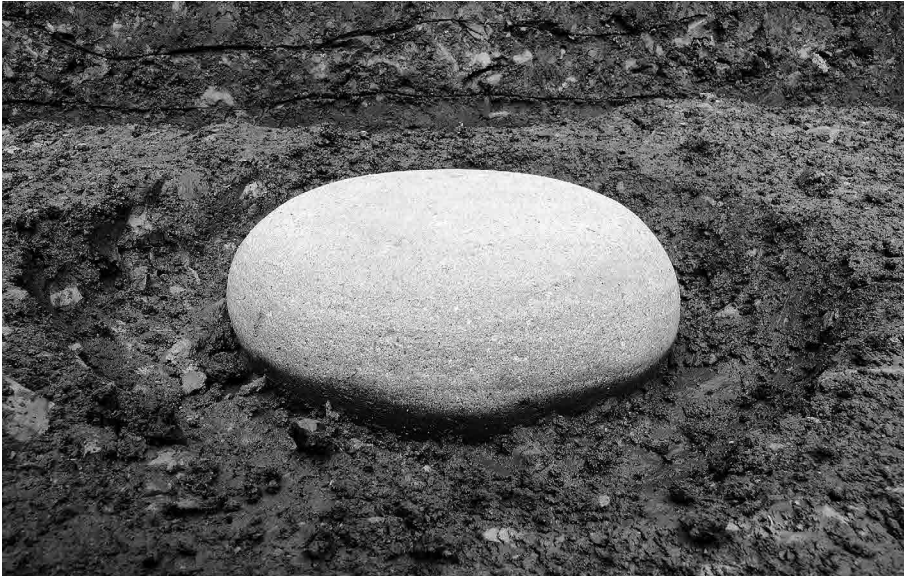


1. 第3面全景(西から)



2. 第3面 礎石建物1(南から)

図版 4



1. 第3面 礎石建物1 P 1 (南から)



2. 第3面 礎石建物1 P 5・11 (西から)



3. 第3面 礎石建物1 P 9・12 (東から)



1. 第4面全景(西から)



2. 第5面全景(西から)



3. 第6面全景(西から)



1. 第6面 溝状遺構 2 (北から)



2. 第7面全景 (西から)



3. 第7面 土坑 12・13 (東から)



1. 第1面 ピット1・11出土遺物



2. 第1面 遺構外出土遺物



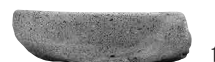
3. 第2面 溝状遺構1出土遺物



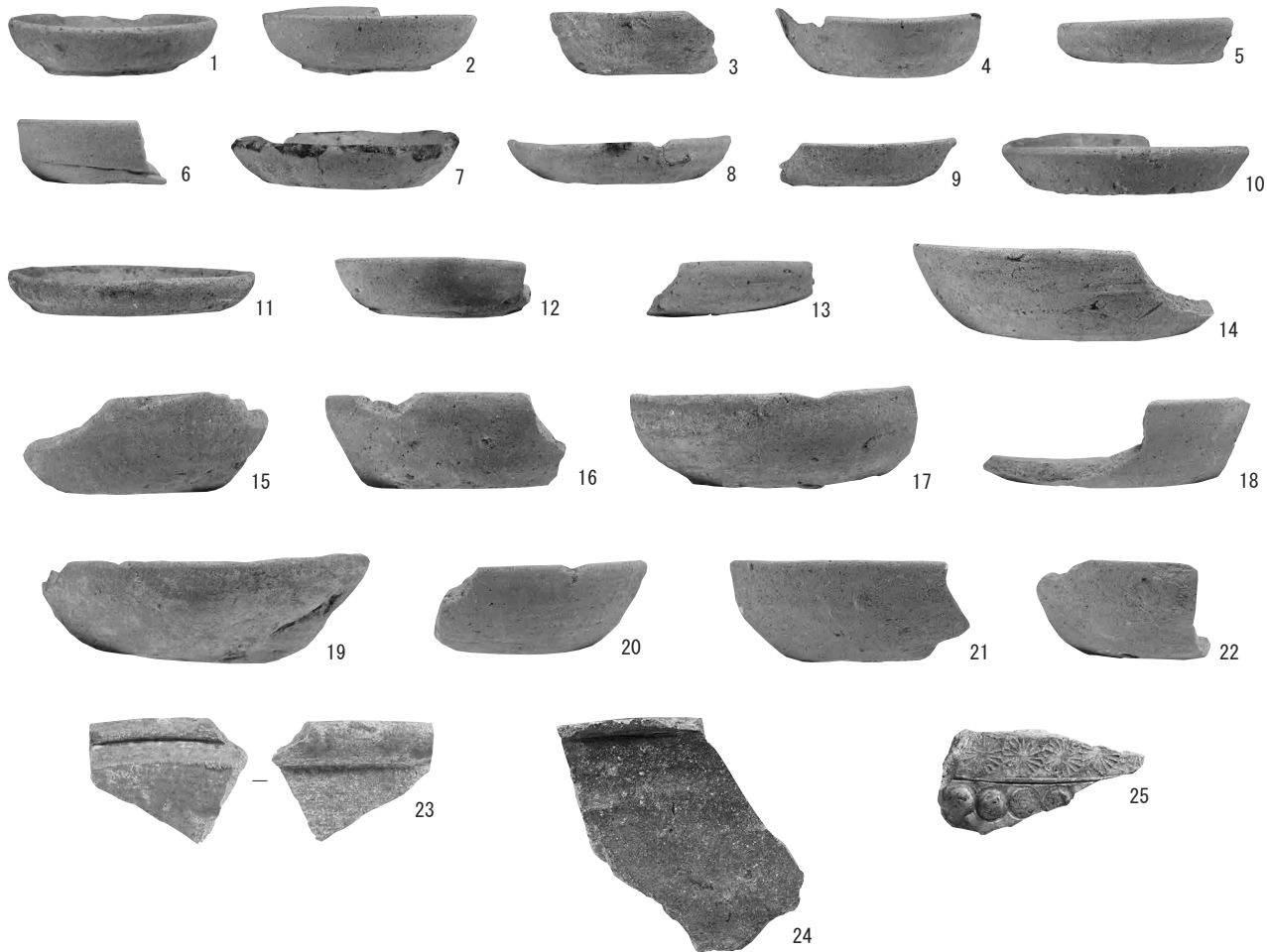
4. 第2面 ピット9・26出土遺物



5. 第3面 礎石建物1出土遺物

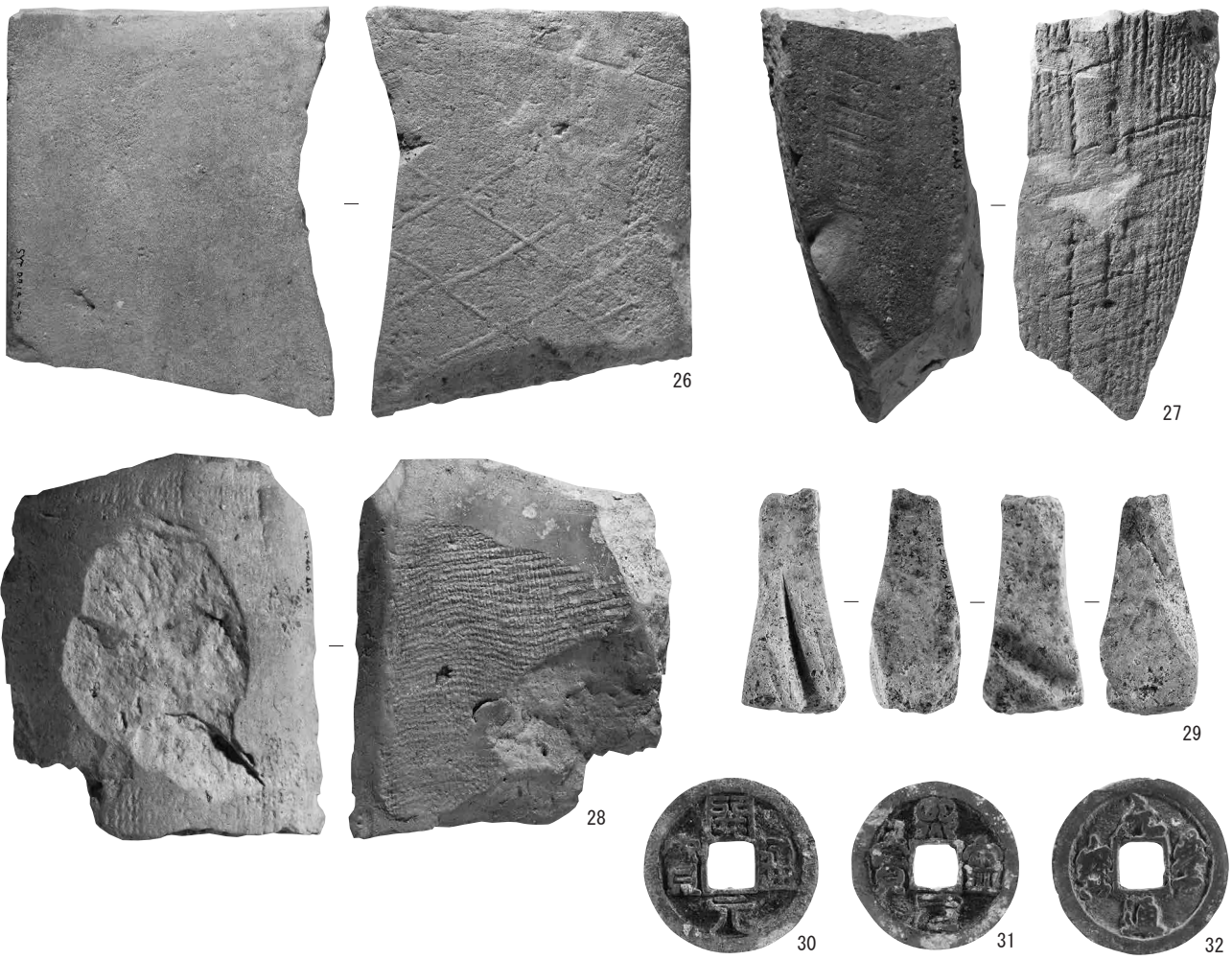


6. 第3面 ピット58出土遺物

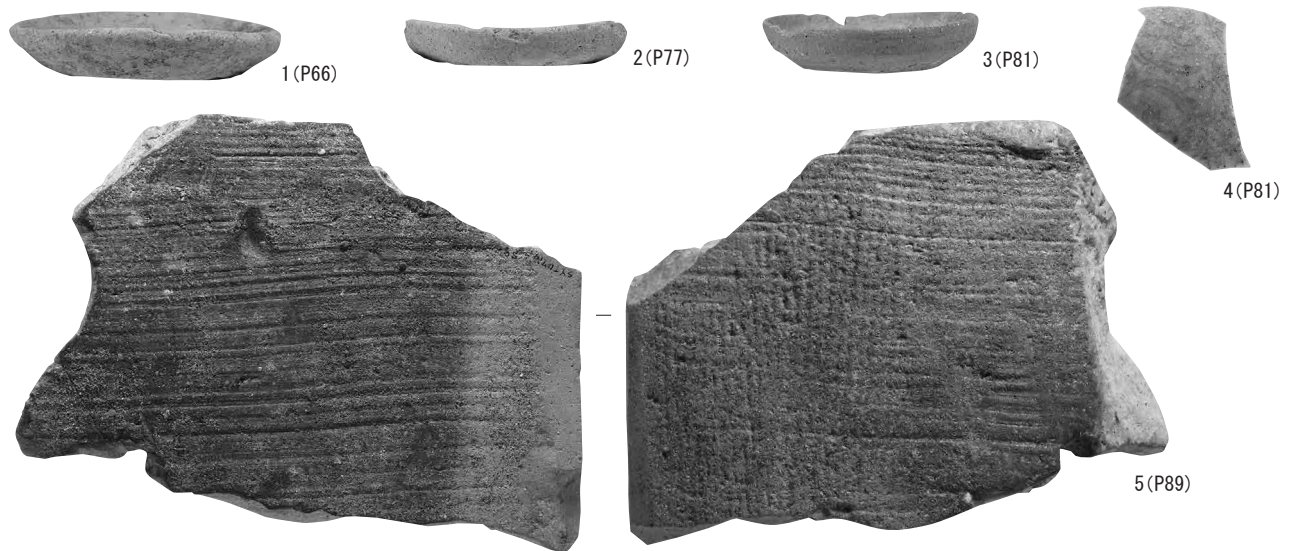


7. 第3面 遺構外出土遺物 (1)

図版 8



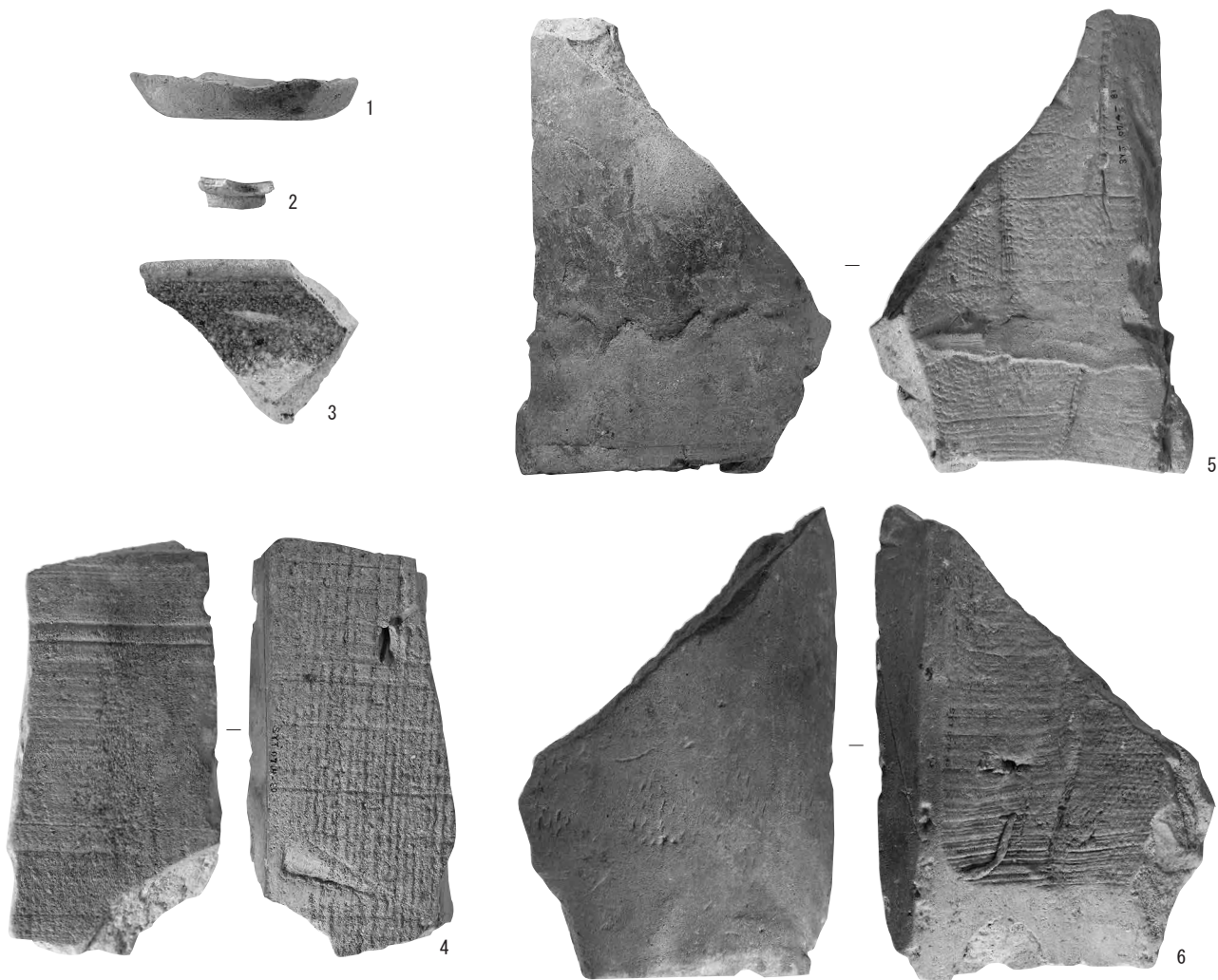
1. 第3面 遺構外出土遺物 (2)



2. 第4面 ピット66・77・81・89出土遺物



3. 第4面 遺構外出土遺物



1. 第5面 遺構外出土遺物



2. 第6面 ピット94出土遺物

3. 第6面 遺構外出土遺物



4. 第7面 遺構外出土遺物

5. 19層出土遺物



横小路周边遗迹 (No.259)

二階堂字向荏柄875番4地点

例 言

1. 本報は「横小路周辺遺跡」（神奈川県遺跡台帳No.259）内、鎌倉市二階堂字向荏柄875番4地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成20年5月29日～同年8月1日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約42㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 三ツ橋正夫
調査員・調査補助員 伊藤博邦・岡田慶子
作業員 田口康雄・安達越郎・田島道夫・鯉沼 稔・舟田峰夫
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 本報に掲載した写真は、遺構を三ツ橋正夫、遺物を赤間和重が撮影した。
6. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系AREA9）を用い、図4に座標値を示した。
7. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ME」とした。
9. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
10. 遺構・遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

遺構：  整地・地業範囲
遺物：  煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
11. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬 戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
12. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・浅野真里・花本晶子・御代祐子・深澤繁美・山田浩介（玉川文化財研究所）
13. 報告書作成にあたっては、三ツ橋正夫氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	331
第1節 調査に至る経緯と経過	331
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	331
第3節 周辺の考古学的調査	332
第二章 堆積土層	337
第三章 発見された遺構と遺物	338
第1節 第1面の遺構と遺物	338
第2節 第2面の遺構と遺物	341
第3節 第3面の遺構と遺物	342
第4節 第4面の遺構と遺物	348
第5節 第5面の遺構と遺物	352
第6節 第6面の遺構と遺物	358
第7節 第7面の遺構と遺物	359
第四章 まとめ	362

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図	333	図17 第3面 土坑3	346
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	334	図18 第3面 土坑3出土遺物	346
図3 調査区位置図	336	図19 第3面 ピット5	347
図4 調査区配置図	336	図20 第3面 ピット7出土遺物	347
図5 調査区土層断面図	337	図21 第3面 遺構外出土遺物	347
図6 第1面 遺構分布図	339	図22 第4面 遺構分布図	348
図7 第1面 礎石建物1	339	図23 第4面 掘立柱建物1	349
図8 第1面 土坑1	340	図24 第4面 土坑4	350
図9 第1面 遺構外出土遺物	340	図25 第4面 遺構外出土遺物(1)	350
図10 第2面 遺構分布図	341	図26 第4面 遺構外出土遺物(2)	351
図11 第2面 土坑2	342	図27 第4面 遺構外出土遺物(3)	352
図12 第2面 遺構外出土遺物	342	図28 第5面 溝状遺構1	352
図13 第3面 遺構分布図	343	図29 第5面 遺構分布図	353
図14 第3面 礎石建物2(1)	344	図30 第5面 柱穴列1	354
図15 第3面 礎石建物2(2)	345	図31 第5面 土坑5・6	355
図16 第3面 礎石建物2出土遺物	345	図32 第5面 遺構外出土遺物(1)	355

図33	第5面 遺構外出土遺物(2) ……	356	図37	第6面 遺構外出土遺物 ……	359
図34	第5面 遺構外出土遺物(3) ……	357	図38	第7面 遺構分布図 ……	360
図35	第6面 遺構分布図 ……	358	図39	第7面 溝状遺構2・3 ……	361
図36	第6面 柱穴列2 ……	358			

表 目 次

表1	横小路周辺遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧 ……	335	表5	第4面 出土遺物観察表 ……	367
表2	第1面 出土遺物観察表 ……	366	表6	第5面 出土遺物観察表 ……	368
表3	第2面 出土遺物観察表 ……	366	表7	第6面 出土遺物観察表 ……	369
表4	第3面 出土遺物観察表 ……	366	表8	遺構計測表 ……	369
			表9	出土遺物一覧表 ……	370

図 版 目 次

図版1	1. 調査区近景(西から) ……	373	4. 第7面 溝状遺構2土層断面(南から) ……	377	
	2. 調査前調査区全景(南から) ……	373	図版6	1. 第1面 遺構外出土遺物 ……	378
図版2	1. 調査区南壁土層断面(北から) ……	374		2. 第2面 遺構外出土遺物 ……	378
	2. 第1・2面全景(北から) ……	374		3. 第3面 礎石建物2出土遺物 ……	378
図版3	1. 第3面全景(北から) ……	375		4. 第3面 土坑3出土遺物 ……	378
	2. 第3面 礎石建物2(南から) ……	375	図版7	1. 第3面 ピット7出土遺物 ……	379
図版4	1. 第4面全景(北から) ……	376		2. 第3面 遺構外出土遺物 ……	379
	2. 第5面全景および柱穴列1(南から) ……	376		3. 第4面 遺構外出土遺物(1) ……	379
	3. 第5面 調査区南西部(東から) ……	376	図版8	1. 第4面 遺構外出土遺物(2) ……	380
	4. 第5面 溝状遺構1(北から) ……	376	図版9	1. 第4面 遺構外出土遺物(3) ……	381
	5. 第5面 柱穴列1(北から) ……	376		2. 第5面 遺構外出土遺物(1) ……	381
	6. 第5面 遺構外鬼瓦出土状態 ……	376	図版10	1. 第5面 遺構外出土遺物(2) ……	382
図版5	1. 第6面全景(北から) ……	377	図版11	1. 第5面 遺構外出土遺物(3) ……	383
	2. 第7面全景(北から) ……	377	図版12	1. 第5面 遺構外出土遺物(4) ……	384
	3. 第7面 溝状遺構2(北から) ……	377		2. 第6面 遺構外出土遺物 ……	384

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市二階堂字向荏柄875番4地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である横小路周辺遺跡(神奈川県遺跡台帳No.259)の範囲内にあたる。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成19年12月4日～同年12月5日に6㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が開発予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を事業者と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約42㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、三ツ橋正夫が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成20年5月29日～同年8月1日までの2ヵ月ほどで、調査面積は約42㎡である。現地地表の標高は約13.7mを測る。調査はまず重機により約50cmの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、中世に属する6面の遺構を検出し、第7面では古代の遺構を確認したが、第1・2面は攪乱が広い範囲に及んでおり、遺構の遺存状態は悪かった。また、土置きとの関係と安全対策のため、第4面からは攪乱部が大きい調査区西側を土置き場とし、第1～3面の東半部にあたる約20㎡について調査を行った。そして8月1日をもって現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA 9)に準じた、鎌倉市四級基準点2点(X = -75377.183、Y = -24091.943)、(X = -75408.918、Y = -24081.923)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No.53204(標高16.169m)を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

横小路周辺遺跡(No.259)は、鎌倉市街地の北東側、二階堂地区に所在している。鎌倉駅からは、市内中心部の鶴岡八幡宮前から横浜市金沢区方面に通じる県道金沢鎌倉線(金沢街道／六浦道)を東に進み、岐れ路交差点、関取橋、大御堂橋交差点を過ぎて二階堂川を渡った北側地区一帯が周知の範囲となっている。西側は荏柄天神社参道を境に、また東側は鎌倉宮・杉本城跡、南側は先の県道金沢鎌倉線および滑川を境とする地域である。遺跡名の「横小路」は、鎌倉宮正面および西側一帯の小字名から付されている。遺跡地内には、北東から南西方向にほぼ直線的に流路をとる二階堂川が住宅地の中を流下したのち、途中で南に屈曲して本流の滑川に合流している。この直線的な川筋とほぼ並行するように、関取橋から永福寺方面へ通じた細い道筋が鎌倉時代の「二階堂大路」といわれており、六浦道から永福寺に至る路とされてきた。

本調査地点はこの道筋の南側に位置し、二階堂大路とは二階堂川を隔てた左岸側の平坦な微高地上に位置している。この一帯は、滑川に合流する二階堂川や東御門川などの小河川が滑川に合流する地域で、これらの河川開析によって平坦な地形が形成されている。一方、北側には南側に延びる樹枝状の丘陵が広がっており、その先端部の中腹には源頼朝入府以前の創建とされる荏柄天神社が鎮座している。また、

本地点の東側は、「大倉御所」、「大倉幕府」と呼ばれた源氏三代の将軍御所が所在したとされる地区内にあたり、東御門という地名も御所に由来しており、中世鎌倉市街地の中枢を占めていた地域と考えられる。遺跡地の大字である二階堂の地名もまた、頼朝が平泉中尊寺の二階大堂、大長寿院を模して二階堂永福寺を建立したことに由来するとされており、地中に残された痕跡とともに中世都市鎌倉の姿を今日に伝えている地域といえよう。

遺跡地一帯の現住所表記は鎌倉市二階堂に属し、調査地点の周辺はその多くが住宅地に変貌している。神奈川県遺跡台帳では、荏柄天神社参道を境に、樹枝状に発達した丘陵部を除いた二階堂のほぼ全域が横小路周辺遺跡として周知されている。本遺跡の周囲では、遺跡地北側の細長く刻まれた谷戸が「薬師堂ヶ谷」（覚園寺ヶ谷）と呼ばれ、谷戸一帯が覚園寺旧境内遺跡（No.435）の周知範囲である。谷戸の東西両側の山肌は現在でも樹木が茂り、険しく立ち上がっている。この谷戸の開口部付近には、東側に東光寺跡（No.264）、西側には荏柄天神社の史跡がある。北東側の二階堂川沿いに進むと永福寺跡（No.61）、南東側には杉本城跡（No.62）などがある。また、西側は荏柄天神社参道を境に大倉幕府周辺遺跡群（No.49）、南側は滑川および本遺跡地の境界を走る県道金沢鎌倉線を境に田楽辻子周辺遺跡（No.33）と杉本寺周辺遺跡群（No.158）が広がっている。

本調査地点は二階堂字向荏柄875番4に所在し、二階堂川の左岸付近に位置する。現河川護岸までの距離は約5m、調査地点の現標高は13.7mほどである。遺跡地内の標高は、滑川に合流する歌の橋付近では11.8mほどで、北東側の永福寺寄りでは18.0mほどである。

第3節 周辺の考古学的調査

本地点を含む横小路周辺遺跡の発掘調査事例は、これまでに13地点が知られている。図2に示した地点は、本遺跡の調査地点（←、①～⑫）と周辺遺跡の調査地点（⑬～⑳）である。本地点の調査では、整地や地業層を伴う13世紀前葉から13世紀後葉に至る7面の生活面が確認されている。発見された遺構には、礎石建物や地業を伴う掘立柱建物、柱穴列、井戸などもあり、庶民居住区とは異なった、武家の屋敷地を想定させるような様相もうかがえる。詳細は次章に譲るが、以下ではおおむね調査年度順に本遺跡の様相について、報告事例を中心に概観したい。

横小路周辺遺跡における本格的な調査は、市立第二小学校体育館新設と校舎増改築工事に伴う①二階堂字向荏柄880番地点、②二階堂字向荏柄874番地点の事例である。発見された遺構や遺物は主に前者の調査地点で、これらは向荏柄遺跡として報告されている（馬淵・原ほか 1985）。この付近は山裾の平坦な微高地上にあたり、大刀洗に端を発した滑川が狭隘な谷間を抜けて鎌倉市街地の平野部に向かう地域である。発見された遺構は中世面と古代面で、特に中世面では総数2,000に近い柱穴が確認され、19棟に及ぶ掘立柱建物が抽出されたほか、井戸や溝・土坑・石列などが検出されている。調査者は掘立柱建物の大きさや、濠のような溝の存在、また舶載磁器や国産陶器、金属製品、石製品、木製品などの多岐にわたる出土品から御家人級の武家屋敷の存在を想定している。これらの時期については13世紀初頭から14世紀代に至るまでの年代を想定し、5時期に区分をしている。県道金沢・鎌倉線沿いに面した③二階堂字向荏柄9番1地点の調査（菊川 1990・1991a）では、2面の中世面が検出されている。発見された遺構は、道路状遺構や溝、方形堅穴建物、井戸、土坑、柱穴などで、特に柱穴は重複関係が激しく、夥しい数が検出された。調査者はこれら遺構の時期について13世紀中葉から16世紀初頭に至る年代を想定し、遺構間の重複関係や検出面、出土品などをもとに4時期に区分をしている。また、特筆すべき点として、町

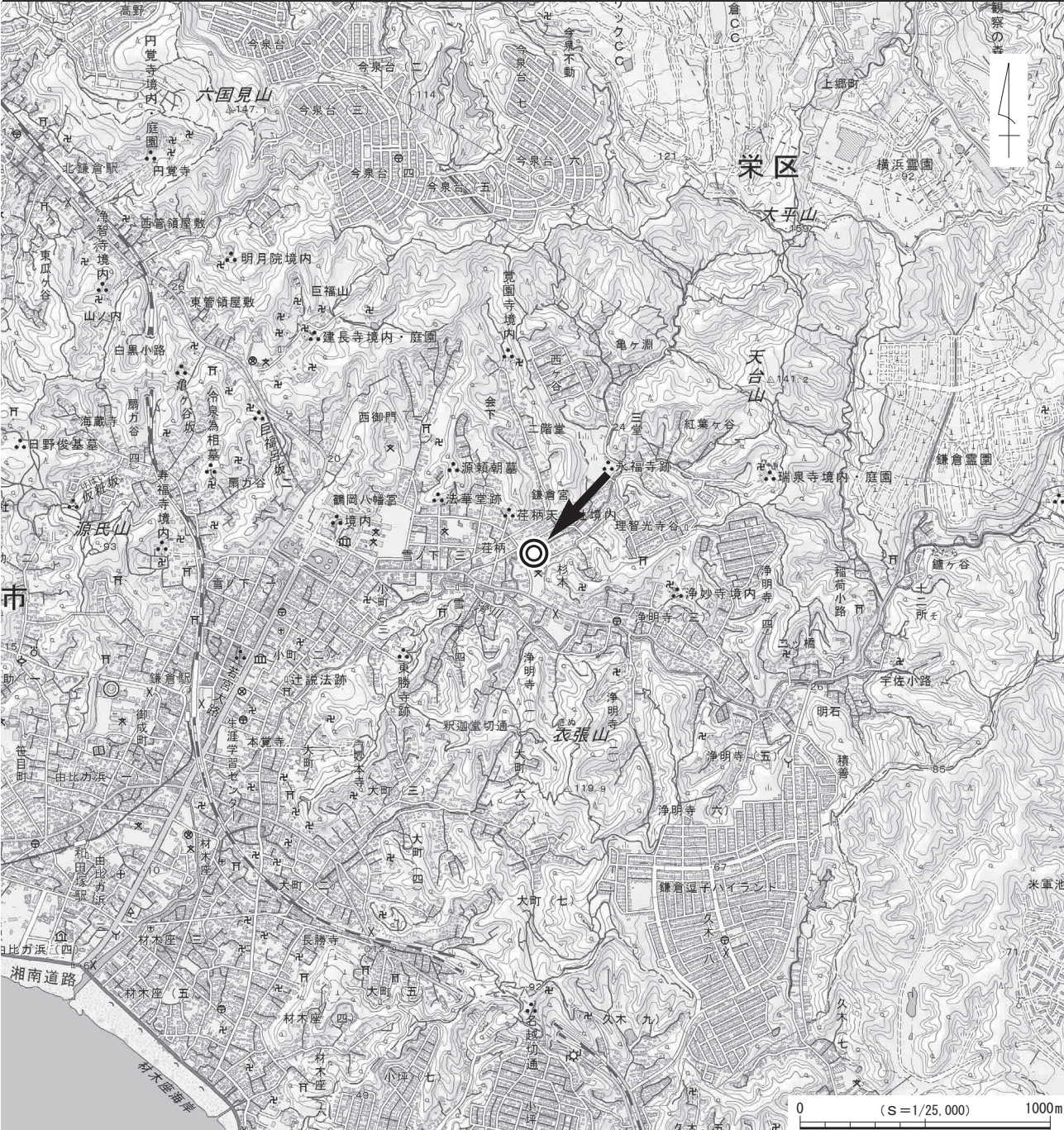
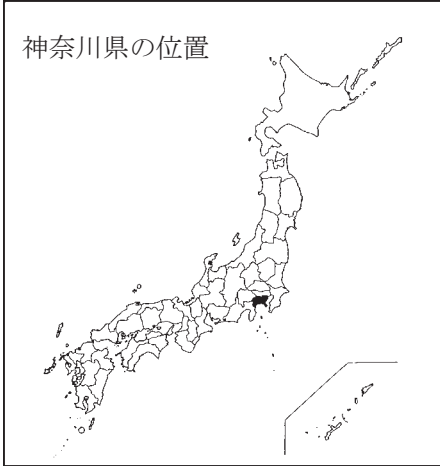


図1 遺跡位置図



図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

屋地域に顕著にみられる方形竪穴建物が6棟も検出されたことは調査地点の性格を考える上で注目されよう。この他、県道金沢鎌倉線に面した、⑤雪ノ下五丁目557番1地点(野本 1998)、⑦二階堂字荏柄10番6外地点(福田・菊川 2000)、⑧二階堂字荏柄10番1地点(原・須佐 2003)でも調査が行われ、⑦二階堂字荏柄10番6外地点や⑧二階堂字荏柄10番1地点の調査でも多数の柱穴や土坑、溝などが検出されており、鎌倉期から室町期に至る遺物が出土している。これらの地区で発見された遺構もまた、町屋的な性格を帯びており、県道金沢鎌倉線(六浦道)や荏柄天神社の参道などに面していたことと関連性があるものと考えられる。

本地点の南西70mほどに位置する⑫二階堂字荏柄939番10地点(熊谷 2015)の調査では、13世紀前葉から14世紀代に至る4面の調査が行われたが、二階堂川の左岸域に近い場合、生活痕跡(通路状遺構・土坑)や遺物なども少なく、生活にはあまり適さなかった地区であったと考えられる。右岸域に近い④二階堂字横小路110番3地点(宗墓ほか 1996)の調査でも二階堂川に関わる遺構の存在が推定されている。また、近隣には⑥二階堂字横小路93番11地点(野本・岡 1999)と⑩二階堂字四ツ石115-3地点(福田 2007)の調査事例がある。両地点は東光寺跡(No.264)の南隣に位置し、永福寺方面へ通じた細い道筋(推定二階堂大路)に面している。⑥二階堂字横小路93番11地点の調査では、中世に比定される4面4時期の遺構が確認されており、発見された掘立柱建物の主軸方位は二階堂大路を踏襲していると考えられる現行道路と直交もしくは並行関係にある。同様に、⑩二階堂字四ツ石115-3地点の調査でも、中世に比定される轍状の溝が確認されている。これも現行道路の道筋とおおむね一致することから永福寺に通じる二階堂大路もしくは永福寺参道の一部との想定もなされており、周囲の調査の進展に期待したい。

限られた範囲での調査事例であるが、覚園寺が所在する薬師堂ヶ谷の入り口にあたる⑨二階堂字会下323番外地点(福田 2004)の調査では、中世に比定される4面以上の生活面が本調査で確認されている。この地区は古くから御家人たちの屋敷が軒を連ねていた一角とされており、調査事例の少ない当該地区周辺のこうした情報の蓄積も横小路周辺遺跡を考える上での資料になるものと思われる。

近隣の遺跡としては、本遺跡の西側は荏柄天神社の参道を境に大倉幕府周辺遺跡群(No.49)の包蔵地範囲である。⑬~⑲の7地点(⑬雪ノ下大倉耕地565番4地点、⑭二階堂字荏柄58番4外地点、⑮二階堂字

表1 横小路周辺遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字向荏柄875番4地点	
①	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字向荏柄880番地点	馬淵・原ほか 1985
②	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字向荏柄874番地点	馬淵・原ほか 1985
③	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字荏柄9番1地点	菊川 1990・1991 a
④	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字横小路110番3地点	宗墓ほか 1996
⑤	横小路周辺遺跡(No.259)	雪ノ下五丁目557番1地点	野本 1998
⑥	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字横小路93番11地点	野本・岡 1999
⑦	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字荏柄10番6外地点	福田・菊川 2000
⑧	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字荏柄10番1地点	原・須佐 2003
⑨	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字会下323番外地点	福田 2004
⑩	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字四ツ石115-3地点	福田 2007
⑪	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字稲葉越856番5地点	
⑫	横小路周辺遺跡(No.259)	二階堂字荏柄939番10地点	熊谷 2015
⑬	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	雪ノ下大倉耕地565番4地点	菊川 1991b
⑭	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄58番4外地点	原・須佐ほか 2002
⑮	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄27番3の一部地点	原・須佐 2006
⑯	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄76番8地点	伊丹・松吉 2014
⑰	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄76番4地点	
⑱	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄3番6外地点	
⑲	大倉幕府周辺遺跡群(No.49)	二階堂字荏柄3番6外地点	
⑳	杉本寺周辺遺跡群(No.158)	二階堂字杉本932番1他8筆地点	宮田・滝澤 2007
㉑	田楽辻子周辺遺跡(No.33)	浄明寺字釈迦堂658番地点	手塚・田畑 1990
㉒	田楽辻子周辺遺跡(No.33)	浄明寺一丁目661番外地点	森 2000
㉓	田楽辻子周辺遺跡(No.33)	雪ノ下五丁目555番1地点	福田 2006
㉔	田楽辻子周辺遺跡(No.33)	浄明寺一丁目556番6外地点	押木 2012

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。

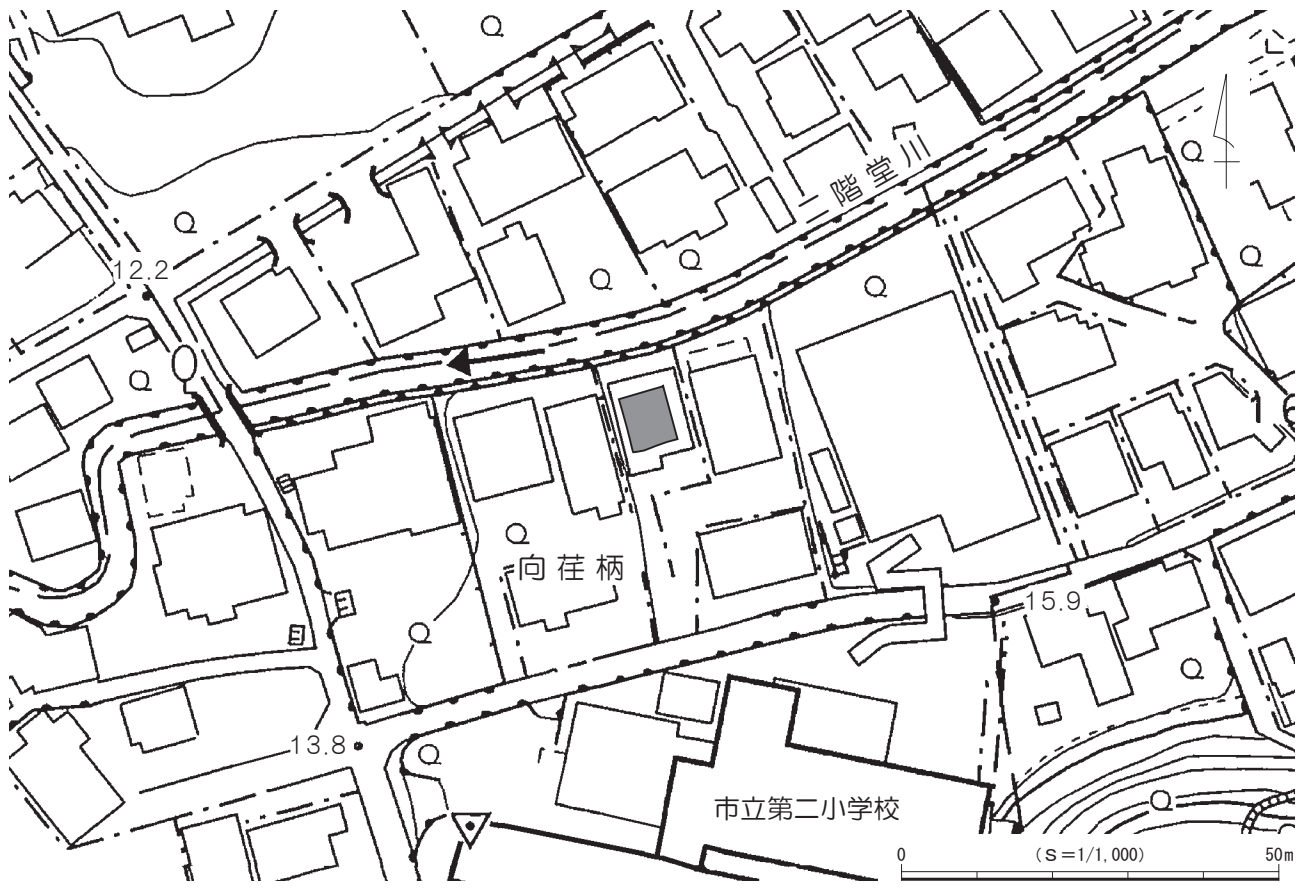


図3 調査区位置図

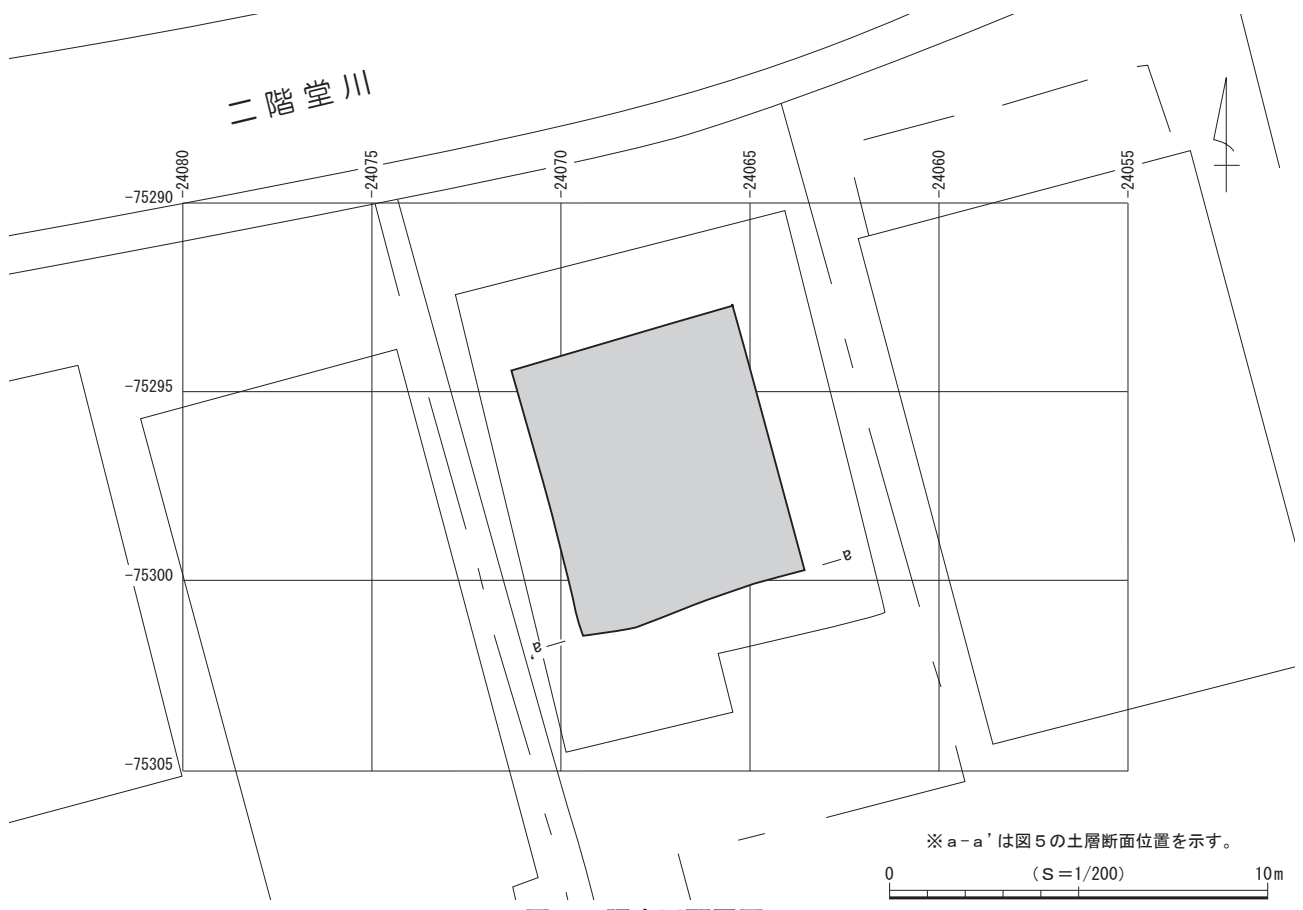


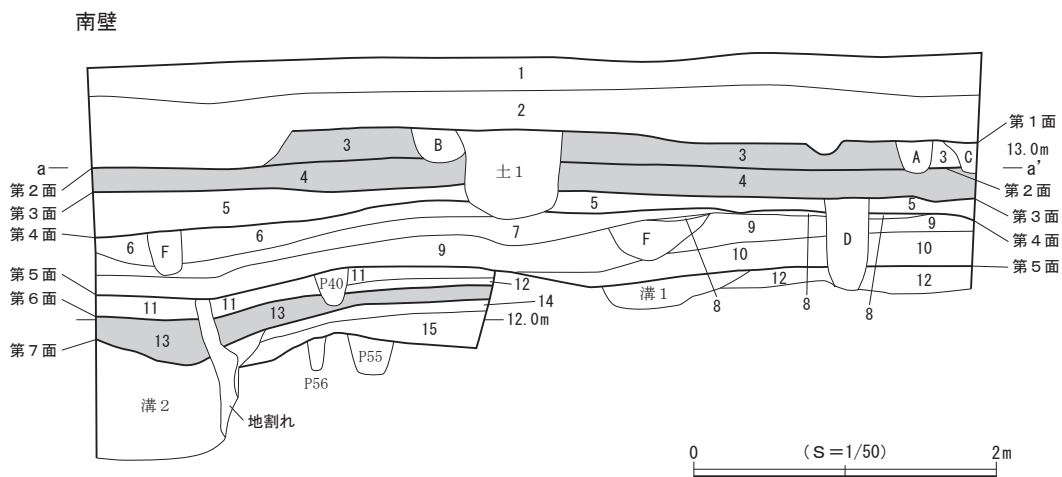
図4 調査区配置図

荏柄27番3の一部地点、⑯二階堂字荏柄76番8地点、⑰二階堂字荏柄76番4地点、⑱二階堂字荏柄3番6外地点、⑲二階堂字荏柄3番6外地点)を示したが、この地は頼朝が邸宅(大倉御所)を造営すると、有力御家人たちも居館を建てた地区である。また、南側では滑川および本遺跡地の境界を走る県道金沢鎌倉線を境に杉本寺周辺遺跡群(No.158)や田楽辻子周辺遺跡(No.33)の包蔵地範囲にあたる。前者は⑳二階堂字杉本932番1他8筆地点で、滑川の右岸域に位置している。後者は滑川の左岸域にあたり、㉑～㉔の4地点(㉑浄明寺字釈迦堂658番地点、㉒浄明寺一丁目661番外地点、㉓雪ノ下五丁目555番1地点、㉔浄明寺一丁目556番6外地点)などを示した。おおよそ範囲は現行の「田楽辻子」とほぼ一致しており、遺跡地の南側は大御堂ヶ谷や釈迦堂ヶ谷、犬懸ヶ谷、宅間ヶ谷といった谷戸が並び、鎌倉期・室町期を通して歴史上の舞台に関わった地域である。

このように横小路周辺遺跡を取り巻く環境は、開府以降、永福寺造営やそれに伴う二階堂大路の整備、また基幹道としての「六浦道」が遺跡地の南を通っていることも本遺跡を考える上で重要な点であろう。有力御家人や鎌倉武士たちの居宅の存在や、町屋地域にみられるような方形竪穴建物などの地区もあり、今後は各調査成果をまとめ、当該地の土地利用について明らかにしていく必要がある。

第二章 堆積土層

今回の調査では、部分的な堆積土も含めると15層の堆積土を確認することができ、現地表面からの層厚は最大で1.9mを測る。また、遺構確認面は第1～7面までの合計7面が認められた。ここでは遺存状態の良い調査区南壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構が認められた。



- | | |
|--|--|
| <p>1層 茶褐色弱砂質土 盛土。
2層 暗茶褐色弱砂質土 盛土および攪乱土。
3層 暗灰茶褐色弱粘質土 破碎泥岩2～40mmを多く含む。締まりあり。(第1面)
4層 暗灰茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、泥岩ブロック2～10cmを少量含む。かわらけ片多く含む。(第2面)
5層 茶褐色弱砂質土 3～12cmの泥岩ブロックを含む。締まりあり。(第3面)
6層 明茶褐色弱砂質土 3～12cmの泥岩ブロックを多量に含む。締まりあり。(第4面)
7層 暗褐色土 泥岩粒少量、炭化物粒多量に含む。(第4面)
8層 黒色炭化層 炭の土壌化した土層。
9層 灰茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック少量含む、炭多く含む。
10層 灰茶褐色土 泥岩粒少量含む、締まりあり。
11層 明黄褐色土 泥岩ブロック多量に含む。(第5面)
12層 明灰褐色弱砂質土 泥岩粒含む、締まりあり。(第5面)
13層 明黄褐色土 破碎泥岩を主体とする。(第6面)</p> | <p>14層 灰黒褐色弱粘質土 上面に褐鉄がみられ、炭化物粒少量含む。(第7面)
15層 灰黒褐色弱粘質土 パミス含む。</p> <p>〔遺構〕
ピット40 泥岩少量含む、かわらけを含む。
ピット55 暗灰褐色土 締まり弱い。
ピット56 暗灰褐色土 締まり弱い。
A層 暗茶褐色弱砂質土
B層 暗褐色土 かわらけ含む。
C層 茶褐色土
D層 暗褐色土
E層 暗褐色土 泥岩少量含む。
F層 暗褐色土</p> |
|--|--|

図5 調査区土層断面図

現在の地表面は標高約13.7mで、最上部に層厚45～70cmほどの盛土および攪乱土(1・2層)が堆積している。第1面の遺構は3層上面で検出し、確認面の標高は約13.2mを測る。3層は泥岩ブロックを多く含み締まりのある暗灰茶褐色弱粘質土で、層厚は20cm前後である。3層の下位には、泥岩粒を多量、泥岩ブロックを少量含む4層とした暗灰茶褐色弱粘質土が堆積し、この4層上面で第2面の遺構を確認した。確認面の標高は約13.0mを測る。5層は泥岩ブロックを含み締まりのある茶褐色弱砂質土で、層厚は6～30cmを測る。上面で第3面の遺構を確認し、確認面の標高は約12.9mを測る。6層以下は西から東へ向かって緩やかに傾斜して堆積する様相が認められ、第4面の遺構は6・7層上面の標高約12.6～12.7mで確認した。6層は泥岩ブロックを多量に含み締まりのある明茶褐色弱砂質土で、7層は泥岩粒を少量、炭化物を多量に含む暗褐色土である。次の第5面は9・10層を挟んだ11・12層上面で確認し、標高は約12.2～12.4mである。11層は泥岩ブロックを多量に含む明黄褐色土で、12層は泥岩粒を含み締まりのある明灰褐色弱砂質土である。第6面の遺構は泥岩ブロックを主体とする整地層である13層上面で検出し、確認面の標高は約12.0～12.2mを測る。最下面にあたる第7面の遺構は14層上面で確認し、標高は11.9～12.1mを測る。14層は上面に褐鉄がみられ、炭化物粒を少量含む灰黒褐色弱粘質土である。

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第1～7面までの合計7面である。第4面以下については土置き場の確保と安全対策のため、攪乱部が大きい調査区西側を土置き場とし、第1～3面の東半部にあたる範囲の調査を行った。検出した遺構は、礎石建物2棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構3条、土坑6基、柱穴列2列、ピット56基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して23箱を数える。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～7面)に説明する。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の3層上面で検出され、確認面の標高は約13.2mを測る。3層は泥岩ブロックを突き固めた整地層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石建物1棟と土坑1基である(図6)。第1面では調査区大半に攪乱が及んでおり、遺構が残存していたのは南西部のごくわずかであった。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

(1) 礎石建物

第1面では、1棟を検出した。調査区南西隅に位置しており、この建物はピットと礎石を伴うピットによって構成された建物配置をもつと考えられるが、大半が調査区外の南側へと延びていた。

礎石建物1(図7)

調査区南西隅に位置し、本址の大半はおそらく調査区外の南側へ展開していると推定される。調査し得たのはピット2基のみであるが、このうちの1基(P1)には凝灰質砂岩を用いた礎石が据えられていたため、礎石建物の可能性を考えた。

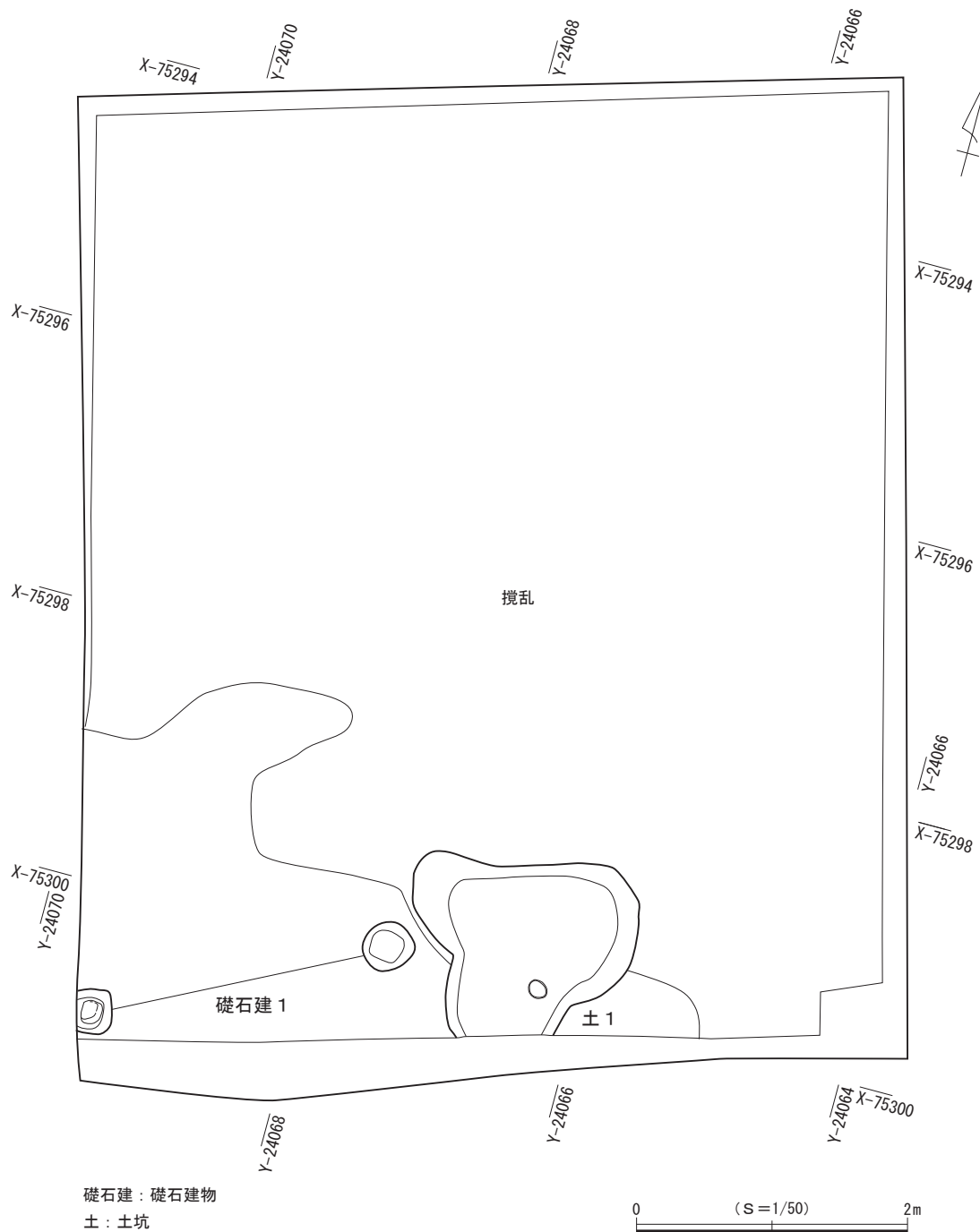


図6 第1面 遺構分布図

柱間の距離は2.2mで、N-63°-Eの方向を指して配置される。P1は隅丸方形、P2は略円形を呈し、規模は辺32cmと径35cm、深さ10cmと5cmを測る。P1の中央には垂円礫が礎石として据えられており、大きさは長さ21cm、幅14cm、高さ12cm前後を測る。

遺物はかわらけ5点、陶器1点が出土した。

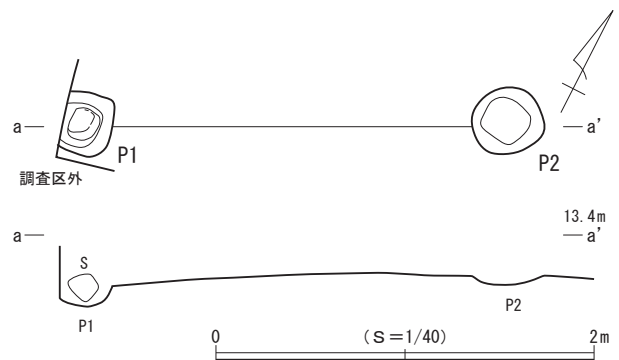


図7 第1面 礎石建物1

(2) 土 坑

第1面では、1基を検出した。調査区南壁際中央に位置しており、一部が調査区外にあるため全容を把握することができなかった。

土坑1 (図8)

調査区南壁際中央に位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。一部が調査区外の南側へと延びており、全容の把握には至らなかった。平面形は不整形で、底面には凹凸が認められる。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。坑底面の標高は12.90mを測る。規模は長軸1.71m、短軸現存長1.35m、深さ13cmで、主軸方位はN-85°-Eを指す。覆土は泥岩粒を少量、炭化物粒を多量に含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ12点、陶器3点、瓦質土器1点が出土した。

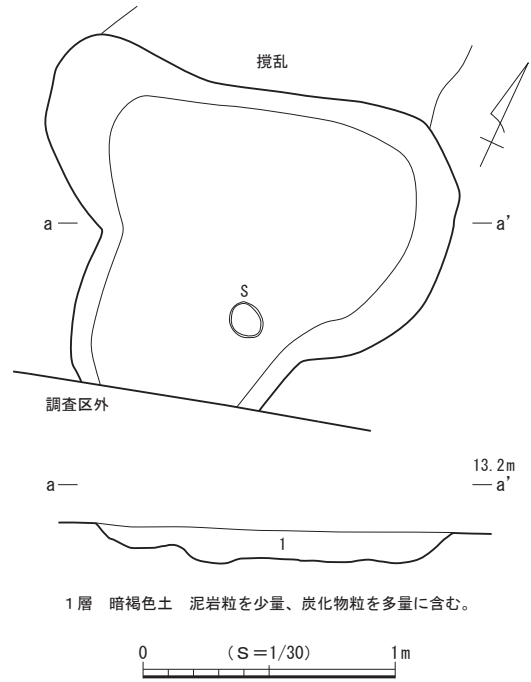


図8 第1面 土坑1

(3) 遺構外出土遺物 (図9)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土しており、このうち7点を図示した。

1～4はロクロ成形によるかわらけ、5は手づくね成形によるかわらけである。6は常滑窯産の甕である。7は丸瓦である。

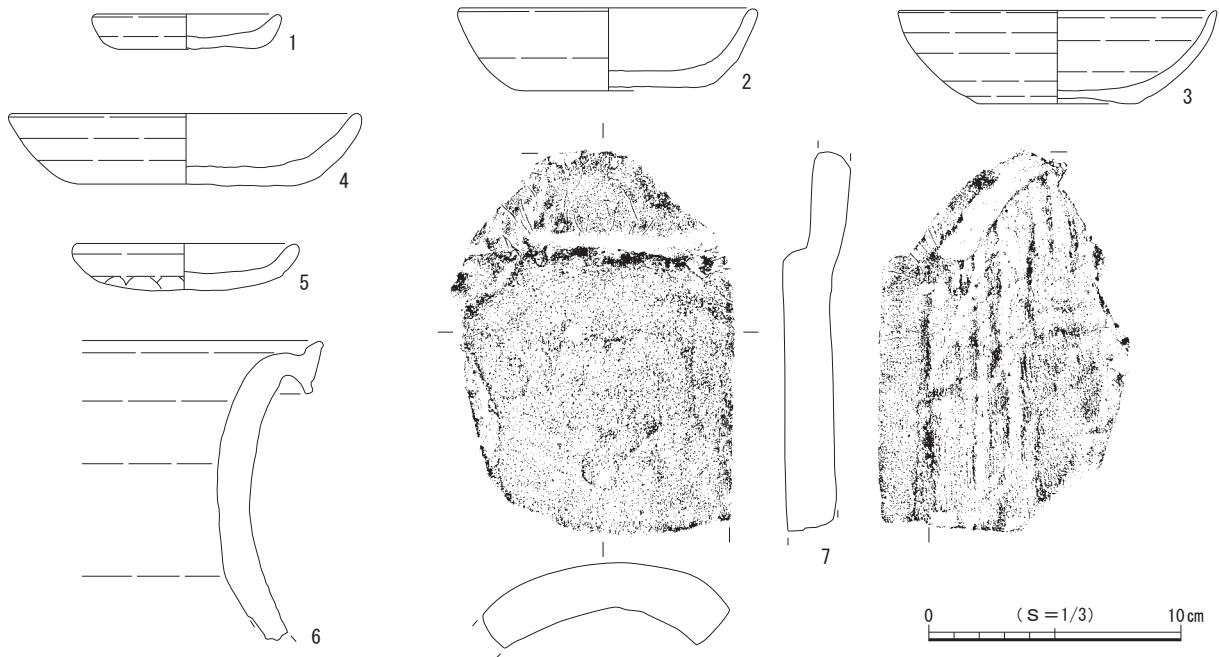


図9 第1面 遺構外出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の4層上面で検出され、確認面の標高は約13.0mを測る。4層は泥岩ブロックを突き固めた整地層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。調査区北側から西側にかけて大きな攪乱が及び、加えて調査区南東部にも攪乱が認められた。検出した遺構は土坑1基、ピット4基のみと遺構密度は希薄である(図10)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

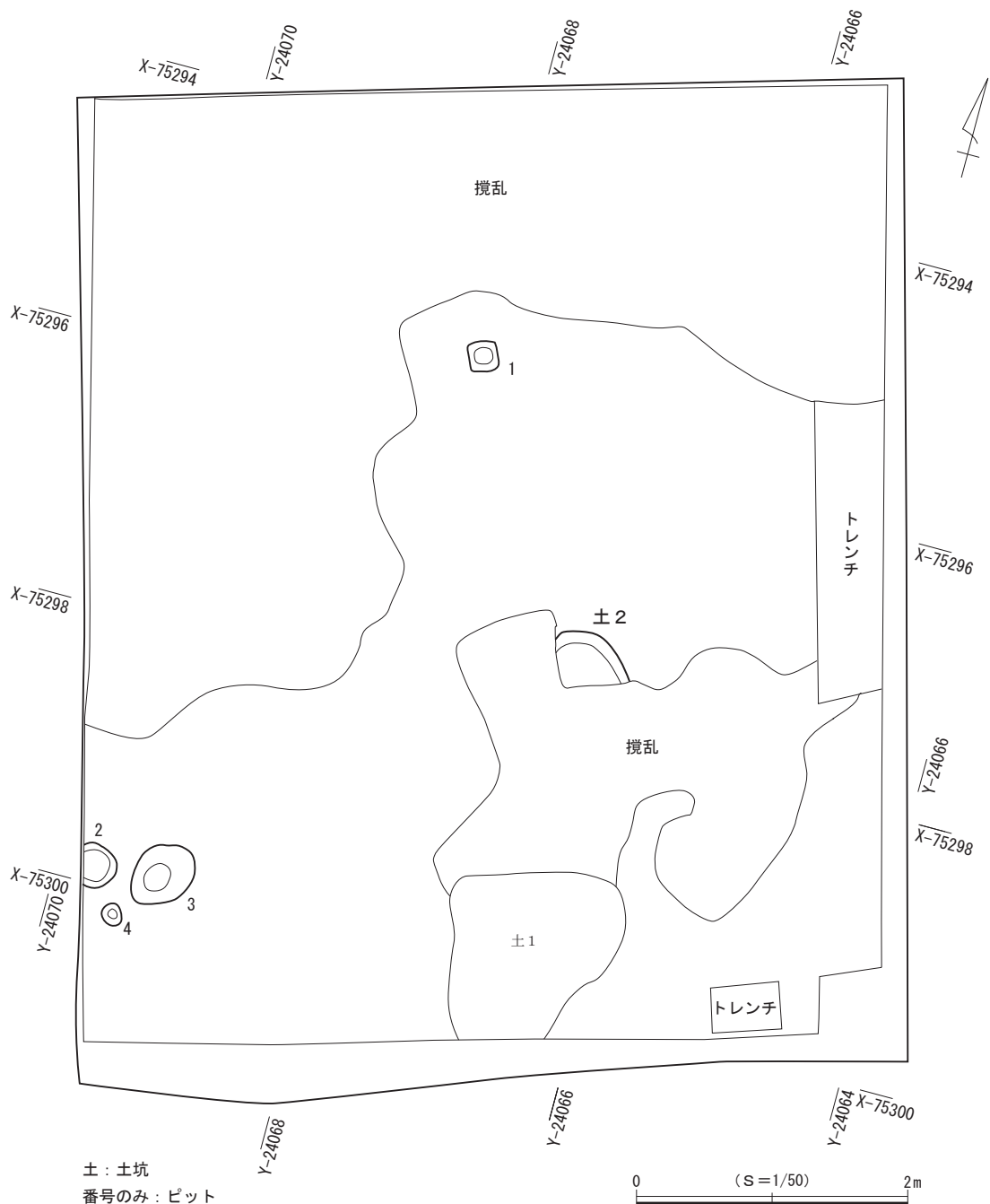


図10 第2面 遺構分布図

(1) 土 坑

第2面では、1基を検出した。調査区中央付近に位置しており、攪乱による影響で全容を把握することができなかった。

土坑2 (図11)

調査区中央付近に位置し、南側から西側にかけて攪乱によって失われている。検出範囲から平面形を推定すると、楕円形ないし円形を呈すると考えられ、底面はほぼ水平である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形状と考えられる。規模は東西現存長49cm、南北現存長46cm、深さ10cmで、坑底面の標高は12.97mを測る。主軸方位は判然としない。覆土は暗褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ8点、陶器1点が出土した。

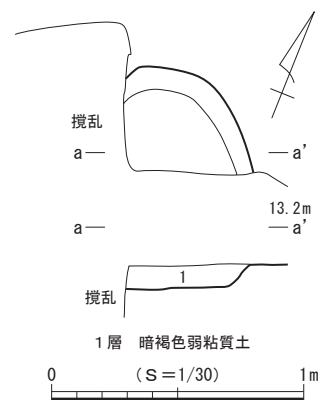


図11 第2面 土坑2

(2) ピット (図10)

第2面では、4基を検出した。調査区南西隅に3基、中央北寄りに1基を確認したが、礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。ピットの平面形は円形ないし略楕円形、方形を呈し、規模は径ないし辺16~55cm、深さ7~22cmを測る。覆土はピット2・4は茶褐色弱粘質土、ピット3は暗褐色粘質土である。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

(3) 遺構外出土遺物 (図12)

第2面では、遺構以外から多くの遺物が出土しており、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は常滑窯産の甕である。

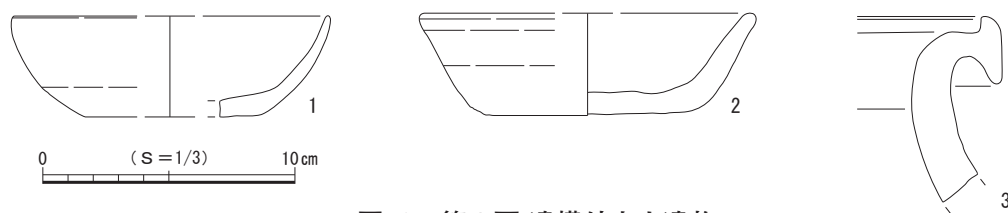


図12 第2面 遺構外出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の5層上面で検出され、確認面の標高は約12.9mを測る。5層は泥岩ブロックを含む締まりのある土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。調査区北西部には攪乱が広く及んでいたが、調査区南東部を中心に礎石建物1棟、土坑1基、ピット3基を検出し、礎石建物は泥岩による地業を伴っていた(図13)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉~後葉頃に属すると考えられる。

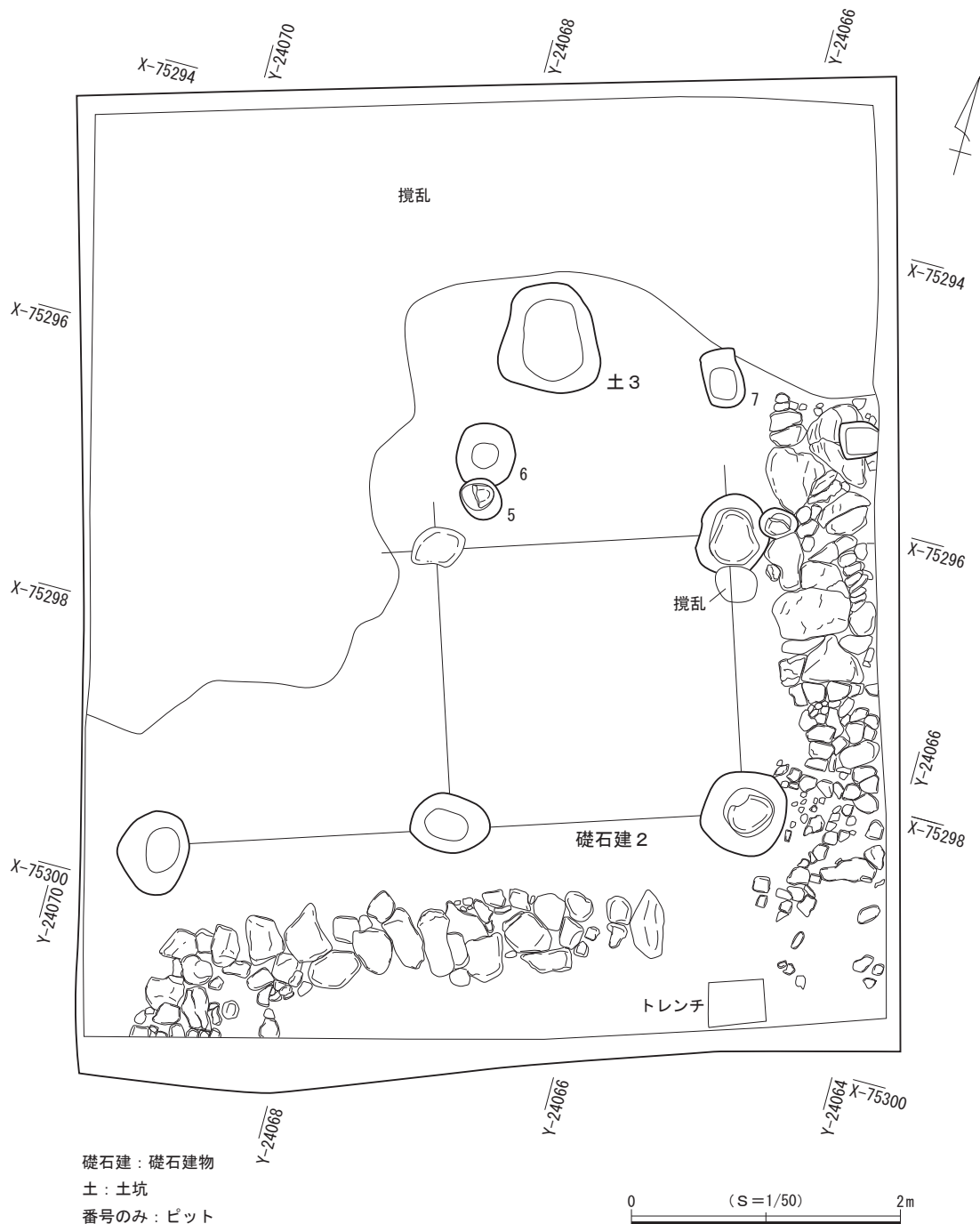


図13 第3面 遺構分布図

(1) 礎石建物

第3面では、1棟を検出した。調査区の中央から南側にかけて位置し、この建物はピットと礎石を伴うピット、礎石によって構成された建物配置をもっており、さらに調査区外に延びる可能性がある。また、礎石建物の東面と南面には、建物の軸方向に沿って泥岩を帯状に配列した地業が認められた。ここでは掘り方をもたずに単独で検出した礎石も便宜的にP番号を付して記述した。

礎石建物2 (図14・15)

調査区中央から南側にかけて位置する。ピット3基(P4～P6)と礎石を伴うピット3基(P2・P3・

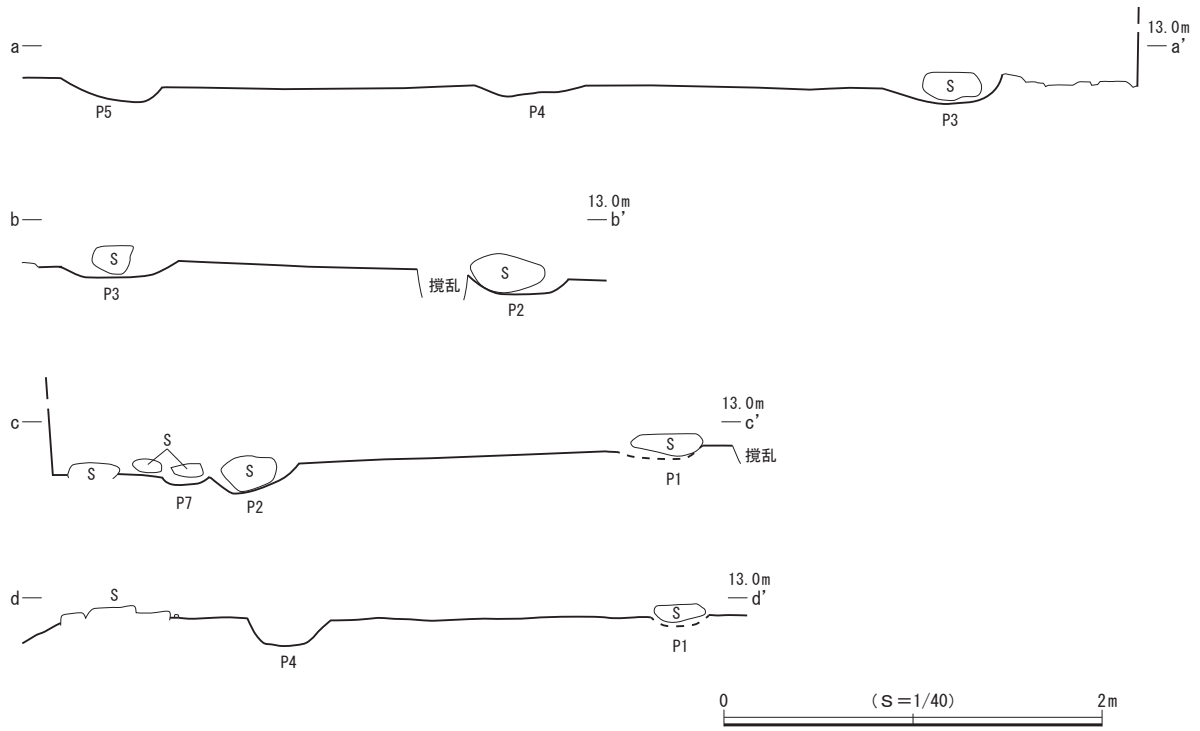
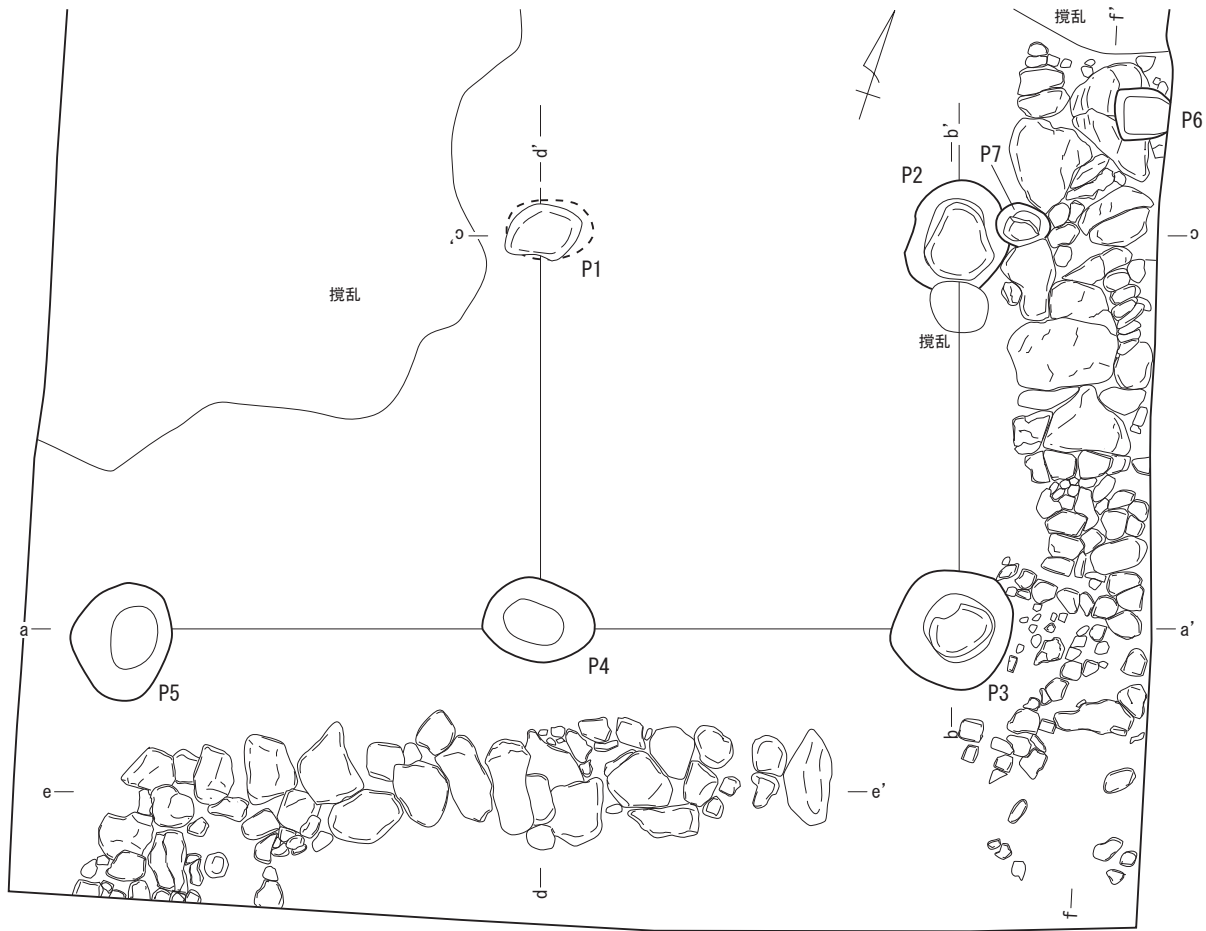


图14 第3面 礎石建物2 (1)

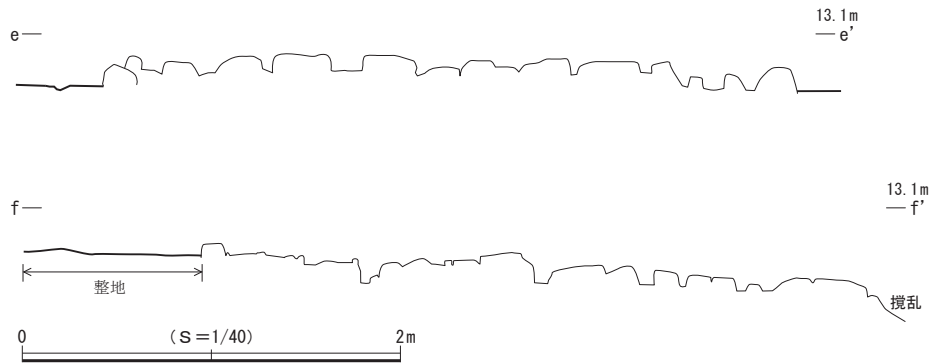


図15 第3面 礎石建物2 (2)

P 7)、礎石のみ1基(P 1)の計7基を確認し、東面と南面には泥岩による地業が伴う。

建物の規模は東西2間以上、南北1間以上と推定され、ピット間の距離は心々で南北方向が2.1m等間、東西方向が2.2m等間で、検出範囲から推定される主軸方位は、 $N-72^{\circ}-E$ と考えられる。

P 2～P 5の平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸56～60cm、短軸41～49cm、深さ6～13cmを測る。P 1は礎石が単独で検出され、P 2・P 3は掘り方ほぼ中央の底面直上に据えられている。礎石の大きさは長さ35～39cm、幅22～35cm、高さ10～20cmで、礎石上面の標高は12.84～12.94mを測る。東面に沿う地業の北端部に小ぶりのピットが確認され、これをP 6・P 7とした。P 6は平面方形で長軸現存長28cm、短軸26cm、深さ9cmを測り、地業に用いられた泥岩をくりぬいて構築されている。また、P 7は礎石を伴う小形のピットで、P 2の東に接して位置することから補助的な柱と推定される。平面形は楕円形で、長軸28cm、短軸22cm、深さ4cmを測る。

本址の東面と南面には、建物の軸方向に沿うように泥岩を帯状に配列した地業が認められた。東面と南面とに分けて説明すると、まず東面の地業は北部を攪乱によって壊されているが、南側は調査区南壁付近で泥岩が途切れることから南端を確認し得たと考えられる。規模は長軸現存長4.42m、短軸現存長0.82mを測り、主軸方位は $N-17^{\circ}-W$ を指す。中央やや南から北側にかけては長軸50～60cmの泥岩を配置し、その隙間に10～20cm大の泥岩を埋めて密に敷き詰めている。一方、南側は10～20cm大の泥岩を中心に地業を行っており、P 3の東側あたりから泥岩の密度が疎らになる。泥岩上面の標高は南端部が12.92m、北端部が12.72mを測り、長軸方向の断面をみると北側へ向かって緩やかに傾斜している。

南面の地業は東西方向に帯状に延び、P 5の南側で直角に折れて調査区外の南側に続くと考えられる。規模は長軸3.86m、短軸0.67m、南側に続く地業の短軸は1.11mを測る。主軸方位は $N-70^{\circ}-E$ を指し、東面の地業主軸方位にほぼ直交する。長さ40～50cmを測る大形の泥岩を主に用いており、泥岩上面の標高は西端部が12.94m、東端部が12.93mを測り、ほぼ水平に整えられている。

出土遺物 (図16)

遺物はかわらけ14点、陶器1点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は常滑窯産の甕である。

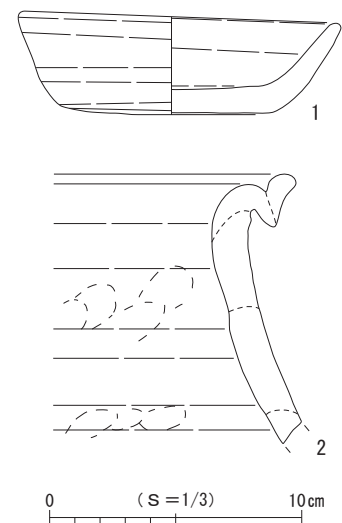


図16 第3面 礎石建物2 出土遺物

(2) 土 坑

第3面では、調査区中央北寄りから1基を検出した。

土坑3 (図17)

調査区中央北寄りに位置し、他の遺構と重複せずに単独で検出した。平面形は不整円形で、底面は北から南へ傾斜する。壁はなだらかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸82cm、短軸75cm、深さは最大で12cmで、坑底面の標高は12.75~12.84mを測る。覆土は泥岩ブロックと炭化物を多量に含み、締まりがやや弱い暗褐色粘質土である。

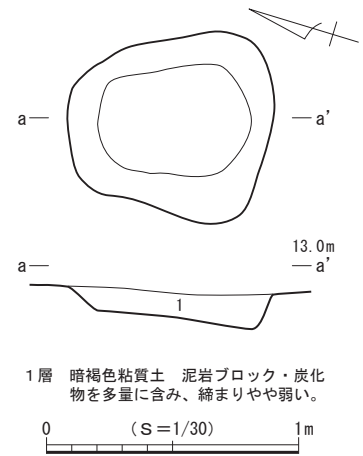


図17 第3面 土坑3

出土遺物 (図18)

遺物はかわらけ18点、磁器1点、陶器2点、瓦3点が出土し、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は平瓦である。

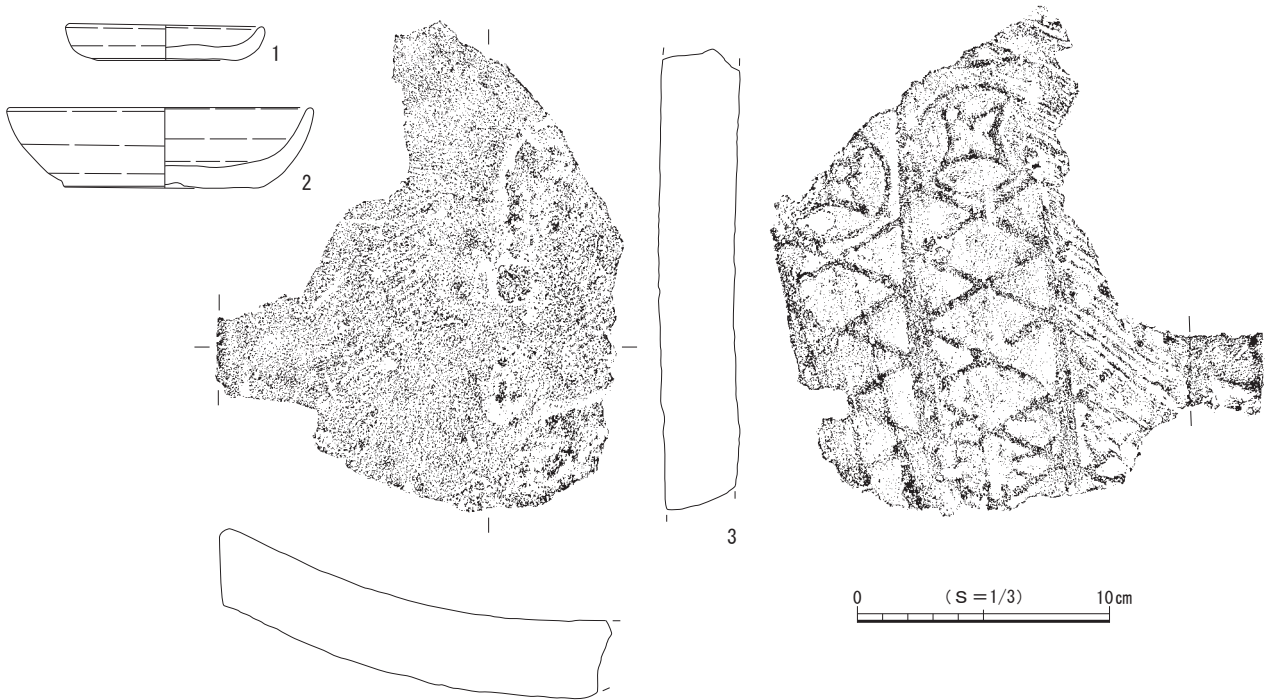


図18 第3面 土坑3出土遺物

(3) ピット (図13)

第3面では、3基を検出した。いずれも礎石建物2の北側に隣接しており、同遺構と関連をもつ可能性も考えられる。ピットの平面形は円形ないし隅丸長方形で、規模は径ないし辺32~43cm、深さ3~26cmを測る。ピット5は礎石を伴い、ピット6の覆土は泥岩ブロックと炭化物を含む締まりをやや欠く暗褐色粘質土である。

以下に礎石が据えられたピット5を図示し、説明する。

ピット5 (図19)

調査区中央北寄りに位置し、ピット6と重複していた。平面形は略円形で、断面形は皿状を呈する。

規模は長軸32cm、短軸28cm、深さ3cmを測り、ピットの中央やや北東寄りに、円礫を用いた礎石が底面直上に据えられていた。礎石の大きさは長さ18cm、幅15cm、高さ8cmを測り、上面の標高は12.90mである。

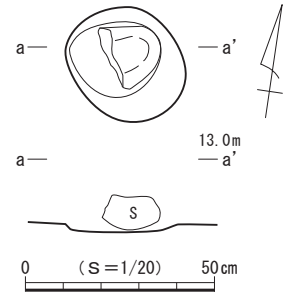


図19 第3面 ピット5

ピット出土遺物 (図20)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたいが、このうち1点を図示した。

1はピット7から出土した、ロクロ成形によるかわらけである。

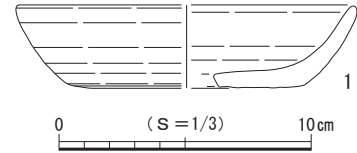


図20 第3面 ピット7出土遺物

(4) 遺構外出土遺物 (図21)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土しており、このうち17点を図示した。

1～9はロクロ成形によるかわらけである。7には煤が付着しており、灯明具としての使用が認めら

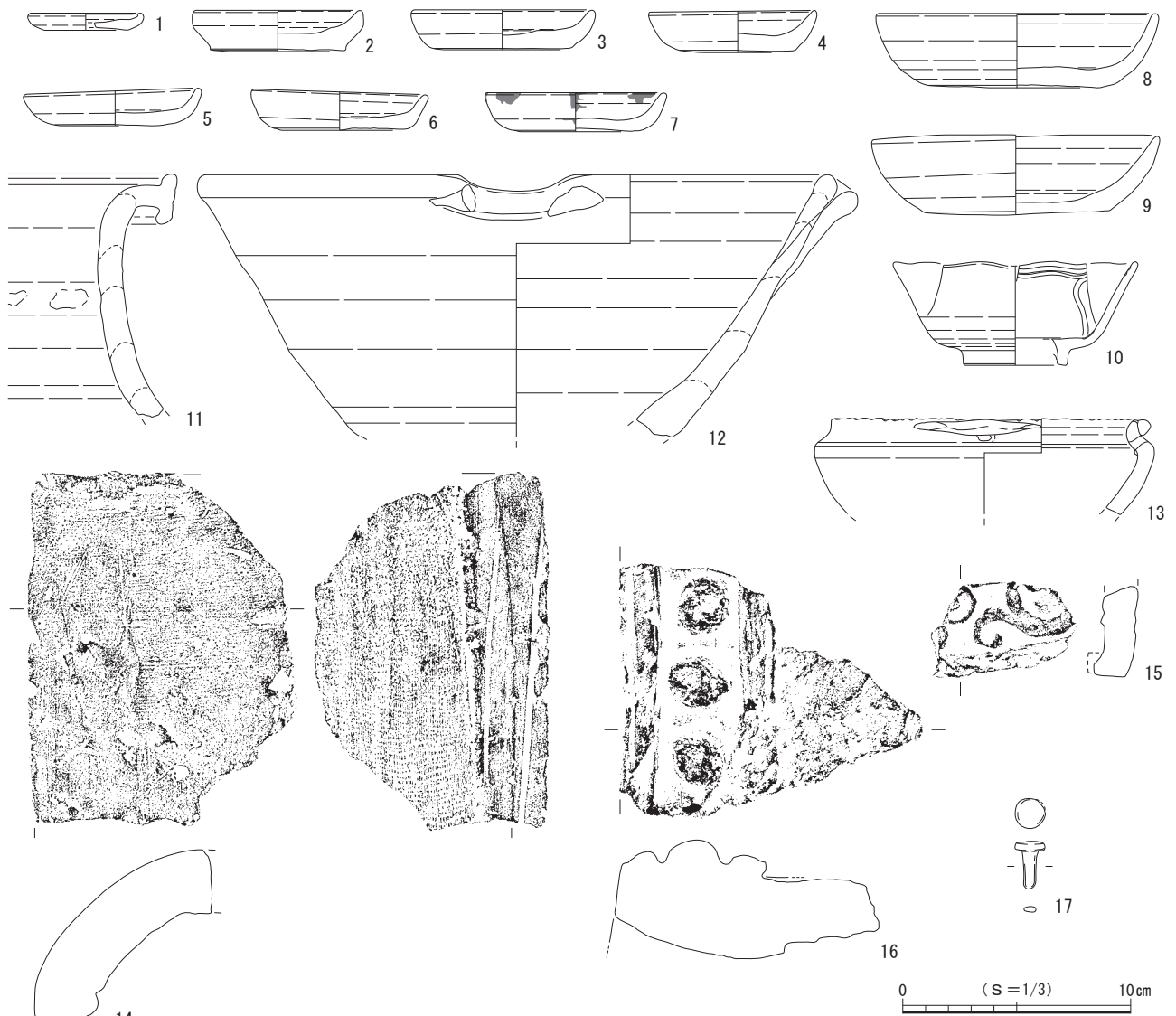


図21 第3面 遺構外出土遺物

れる。10は龍泉窯系青磁小椀Ⅰ-2類である。11・12は常滑窯産の製品で、11が甕、12が片口鉢Ⅰ類である。13は土器の鉢である。14は丸瓦、15は軒平瓦、16は鬼瓦である。17は銅製品の鉾である。

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面は土置きの関係と安全対策のため攪乱が広く及んでいる調査区西側を土置き場とし、第1～3面の東半部にあたる約20㎡について調査を行った。

第4面の遺構は堆積土層の6・7層上面で検出され、確認面の標高は約12.6～12.7mを測る。6層は3～12cmの泥岩ブロックを多量に含み締まりのある明茶褐色弱砂質土、7層は泥岩粒を少量、炭化物粒を多量に含む暗褐色土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、掘立柱建物1棟、土坑1基、ピット6基で、掘立柱建物は地業を伴っていた(図22)。調査区北側は攪乱が広く及んでおり、遺構は調査区南半を中心に検出した。なお、ピット6基は単独の遺構として扱ったが、掘立柱建物1の周辺に分布していることから同遺構と関連をもつピットである可能性も考えられる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

(1) 掘立柱建物

第4面では、1棟を検出した。調査区中央南寄りに位置し、規則的に配置されたピット3基を確認した。調査区外の西側に続いていると考えられ、全容を把握することはできなかった。本址の東面には建物の軸方向に沿って泥岩を帯状に配列した地業が認められ、おそらく礎石建物に付随するものと考えられることから、ここで合わせて説明を行った。

掘立柱建物1(図23)

調査区中央南寄りに位置し、規則的に配置されたピット3基を確認した。

本址は調査区外の西側に主体があると推定され、柱間構造や規模は判然としない。ピット間の距離はP1とP2が約2.0m、P2とP

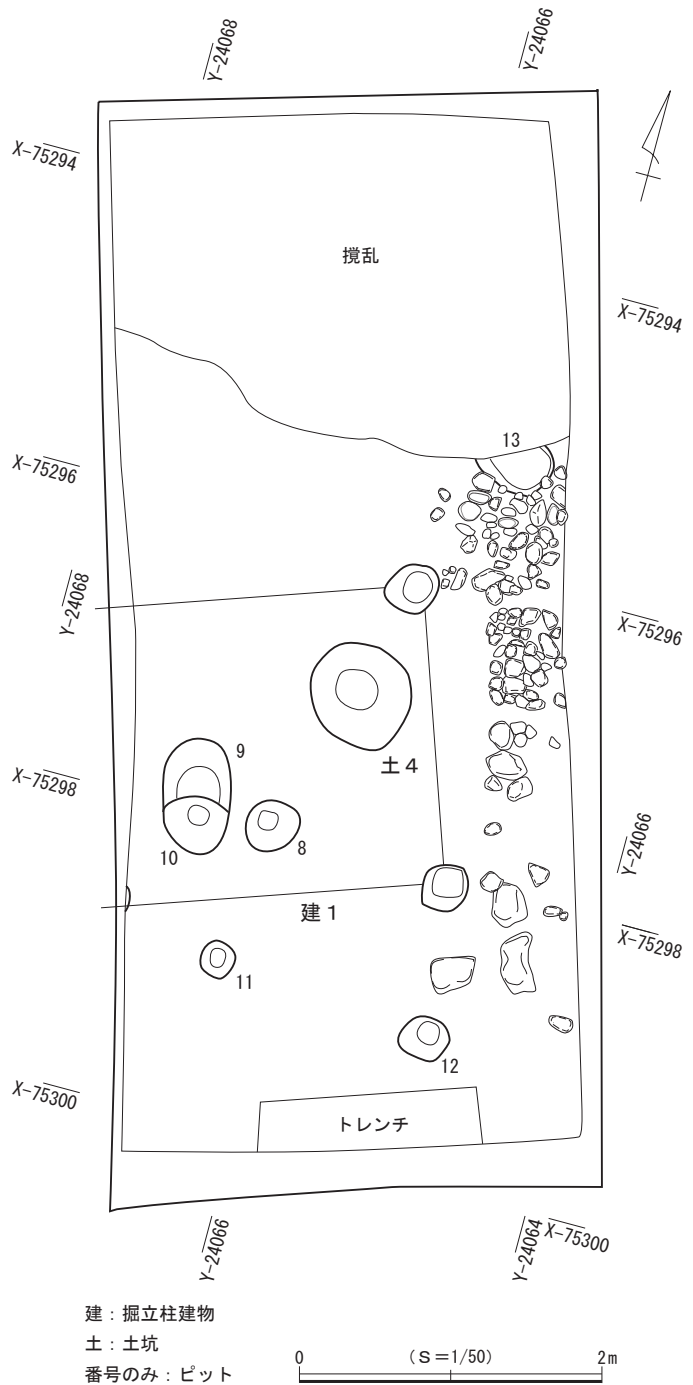


図22 第4面 遺構分布図



図23 第4面 掘立柱建物1

3が約2.1mで、検出範囲から推定される主軸方位は、 $N-71^{\circ}-E$ と考えられる。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を呈し、P1とP2の規模は長軸と短軸が同じ長さでそれぞれ36cmと29cm、深さは36cmと40cmを測る。

本址の東面には、建物の軸方向に沿うように泥岩を帯状に配列した地業が認められた。長軸側は北端部がピット7によって壊され、さらにその北側には攪乱が及んでおり全容は明らかでない。長軸現存長は3.74mを測り、短軸側は調査区外の東側に続いている可能性が考えられ、現存長は0.9mである。主軸方位は $N-10^{\circ}-W$ を指す。北半部は約10~20cm大の泥岩を密に配置し、南半部は約20~40cm大のより大形の泥岩を用いるが非常に疎らであり、北半部と様相が異なっている。泥岩上面の標高は南端部が12.68m、中央が12.74m、北端部が12.49mを測り、長軸方向の断面をみると中央がやや盛り上がり緩やかに湾曲するように面が揃えられている。

遺物はかわらけ7点が出土している。

(2) 土 坑

第4面では、調査区中央から1基を検出した。

土坑4 (図24)

調査区中央に位置し、他の遺構と重複せず単独で検出した。掘立柱建物1の内部に位置するが、関連は明らかでない。平面形は円形を呈し、底面は中央がわずかに窪む。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸69cm、短軸64cm、深さ34cmで、坑底面の標高は12.19mを測る。覆土は炭を斑紋状に含み、締まりのない暗灰茶褐色弱粘質土である。

遺物は金属製品1点が出土している。

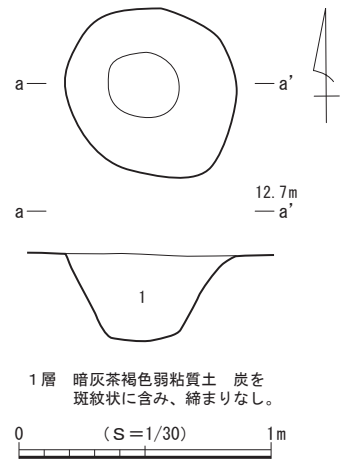


図24 第4面 土坑4

(3) ピット (図22)

第4面では、6基を検出した。このうちの5基は掘立柱建物1の周辺に分布しており、関連をもつピットであった可能性も考えられる。ピットの平面形は略円形と楕円形を呈し、規模は径21~41cm、深さ10~20cmを測る。ピット10の覆土は泥岩ブロックを含む暗茶褐色弱粘質土で、ピット12は締まりを欠く暗灰茶褐色弱粘質土である。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

(4) 遺構外出土遺物 (図25~27)

第4面では、遺構以外からも多くの遺物が出土しており、このうち35点を図示した。

1~13はロクロ成形によるかわらけ、14~16は手づくね成形によるかわらけである。17は白磁の口元皿である。18・19は渥美窯産の壺である。20~26は常滑窯産の製品で、20~24が甕、25・26が片口鉢I類である。27・28は山茶碗窯系の片口鉢である。29・30は丸瓦、31~33は平瓦である。34は滑石製石鍋、35は円盤状の土製品である。

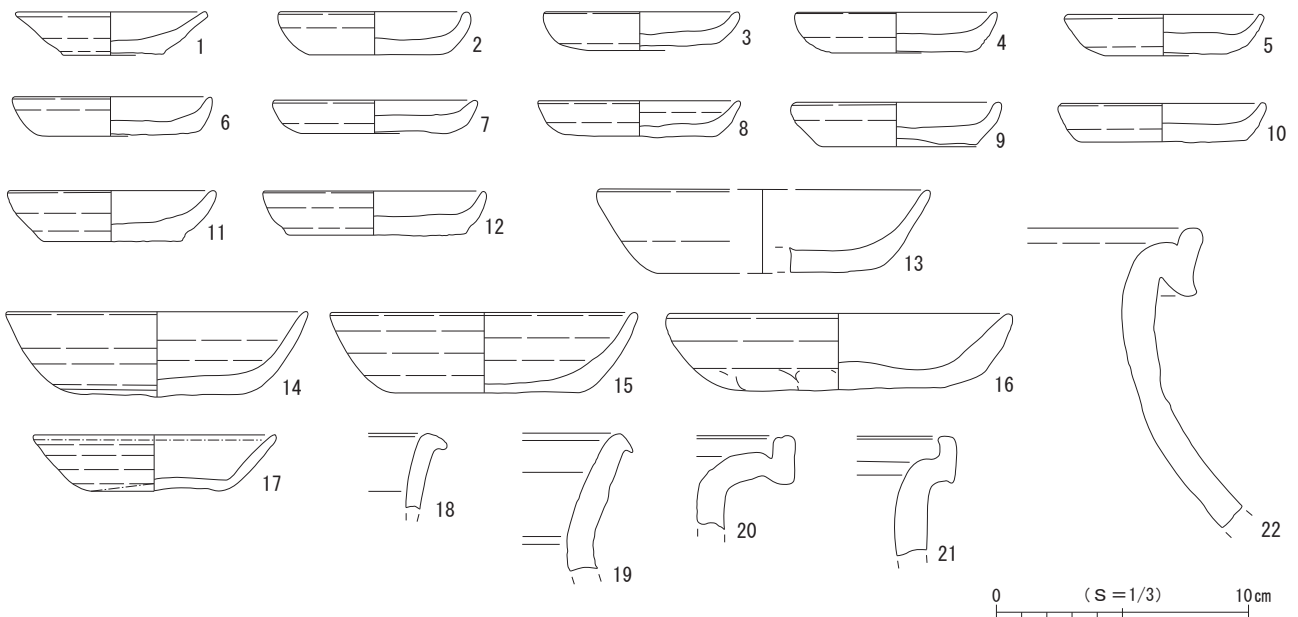


図25 第4面 遺構外出土遺物(1)

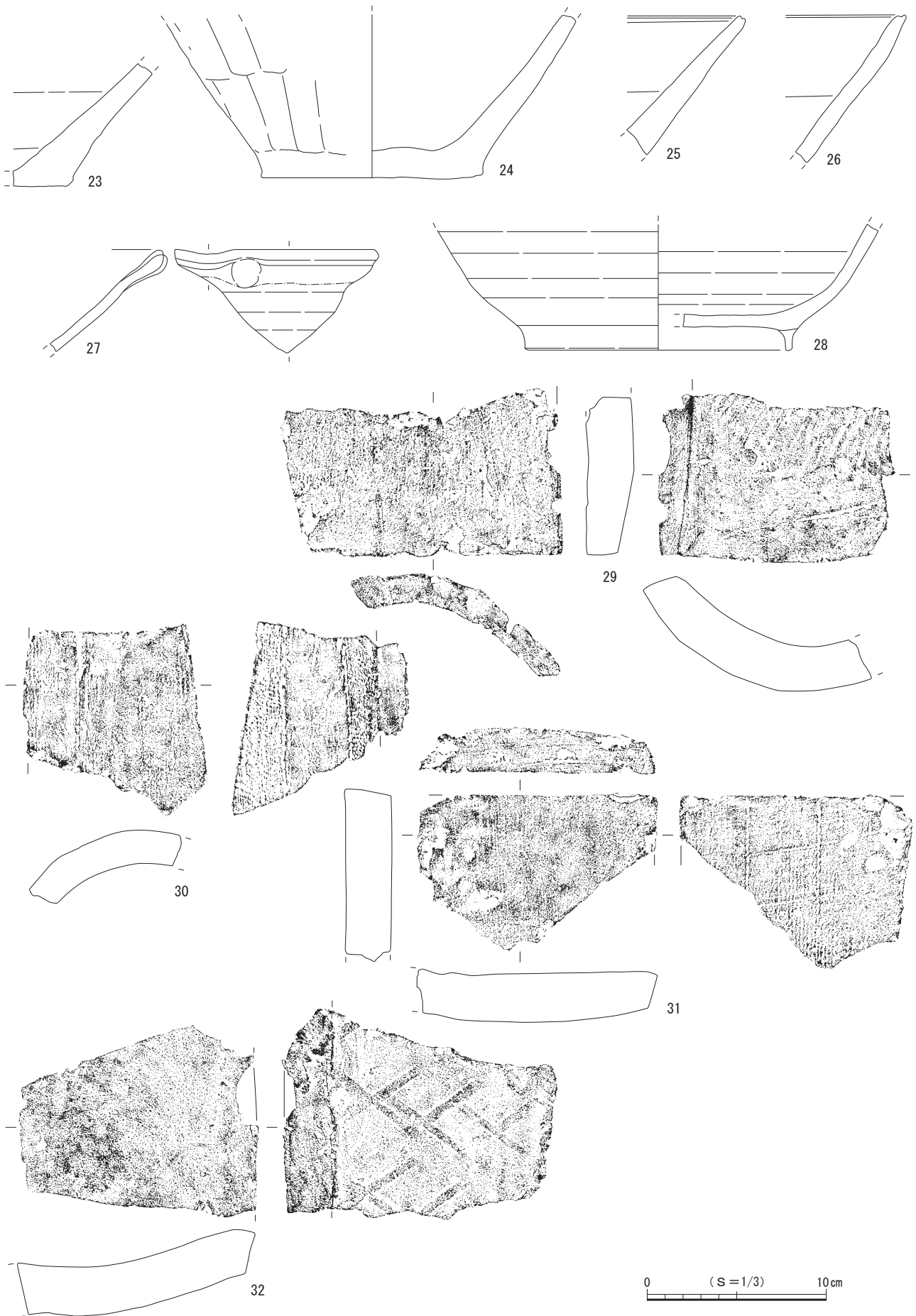


图26 第4面 遺構外出土遺物(2)

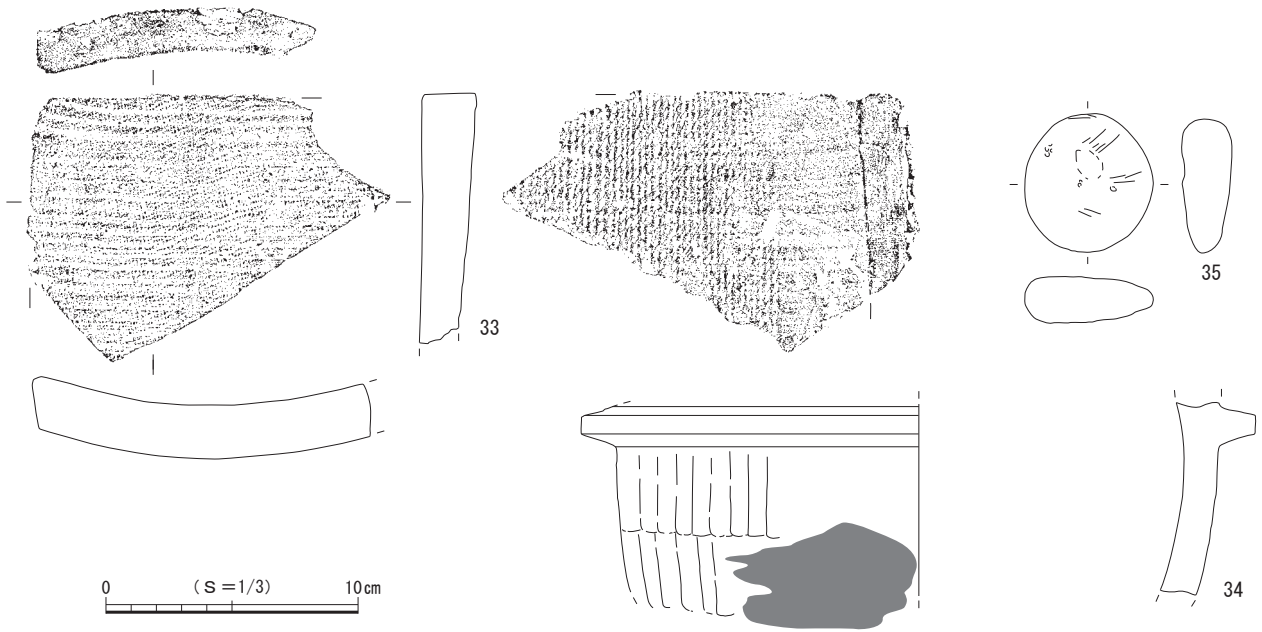


図27 第4面 遺構外出土遺物(3)

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面の遺構は調査区東側では堆積土層の11層上面、西側では12層上面で検出され、確認面の標高は約12.2~12.4mを測る。11層は泥岩ブロックを多量に含む明黄褐色土、12層は泥岩粒を含んだ締まりのある明灰褐色弱砂質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構1条、土坑2基、柱穴列1列、ピット31基である(図29)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉~中葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第5面では、1条を検出した。調査区南西部に位置し、調査区外の北側と南側に続いており、全容を把握するには至らなかった。

溝状遺構 1 (図28)

調査区の南西部に位置し、調査区外の北側と南側へと続いている。調査区の制約からごく一部の調査にとどまり、検出した範囲の規模は長さ92cm、幅は最大で1.08m、深さは24cmと浅い。主軸方位はN-35°-Wを指す。壁は開いて立ち上がり、西壁は段を有し極めて緩やかな立ち上がりをもつ。底面はほぼ平坦で、底面の標高は12.04mを測る。覆土は泥岩粒を含み、締まりのある明灰褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

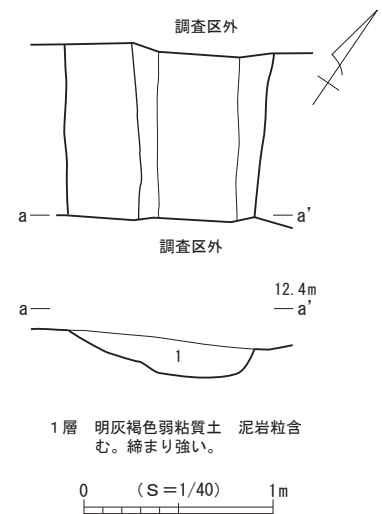


図28 第5面 溝状遺構 1

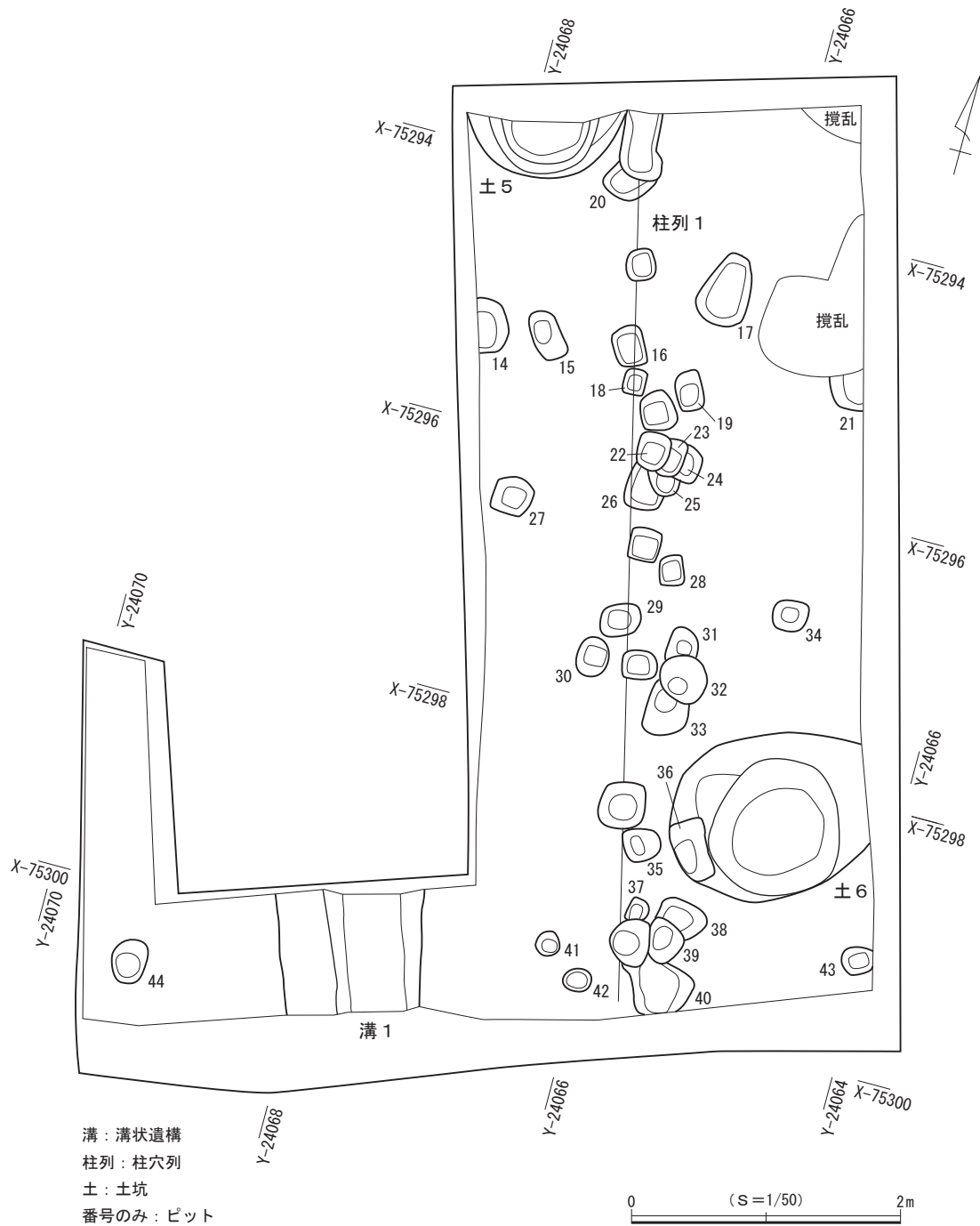


図29 第5面 遺構分布図

(2) 柱穴列

第5面では、1列を検出した。調査区中央を南北に縦断し、調査区内での規模は長軸現存長4.5mを測り、さらに調査区外の北側と南側へ続いていくと考えられる。

柱穴列 1 (図30)

調査区中央を南北方向に縦断して位置し、さらに調査区外の北側と南側に続いていくと考えられる。7基の柱穴がほぼ一直線に並んでおり、P3のみが主軸線から東側にわずかにずれている。本址の周辺からは多数のピットを検出しており、一部は重複している様相も認められることから、作り替えが行われた可能性も考えられる。柱間は北から順に心々で1.0m、1.1m、1.0m、0.9m、1.0m、1.0mを測り、長

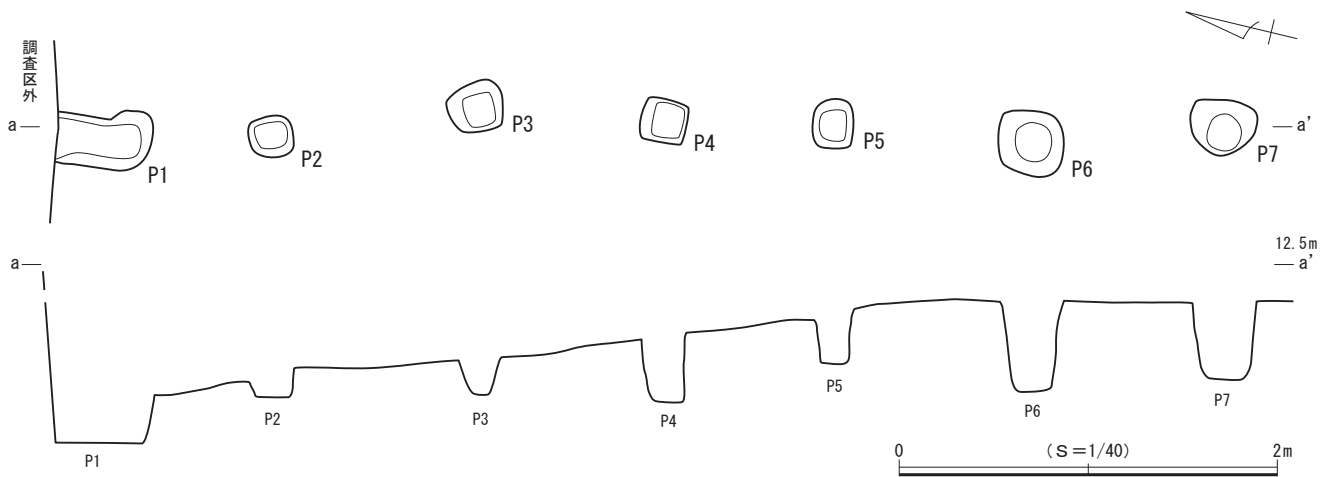


図30 第5面 柱穴列1

軸現存長4.5mである。主軸方位はN-14°-Wを指す。ピットの平面形は隅丸方形を基調とするものが多く、方形や略楕円形も認められる。ピットの規模は辺ないし径が22~35cmで、深さが12~48cmとばらつきがある。底面の標高は11.58~11.98mで、おおよそ南側から北側へ向かって低くなっていく。

遺物は出土しなかった。

(3) 土坑

第5面では、2基を検出した。調査区北壁際と調査区南側に1基ずつ位置している。一部が調査区外に延びており2基とも全容を把握することはできなかったが、平面形は円形を基調とし、長軸現存長1.18mと1.50m、深さが72cmと1.30mを測る。平・断面形および規模ともに類似し、掘り込みが非常に深いことから井戸の可能性が考えられる。

土坑5 (図31)

調査区北壁際に位置し、全体のおおよそ半分が調査区外の北側に延びている。東側で柱穴列1の北端部に位置するピットと接しており、柱穴列の西側に隣接する。検出範囲から平面形を推定すると円形と考えられ、底面はほぼ水平である。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近く、中位で外傾して開口部近くに段をもつ形態を呈する。規模は東西現存長1.18m、南北現存長48cm、深さ72cmで、坑底面の標高は11.20mを測る。覆土は泥岩ブロックを含む暗褐色土である。

遺物は出土しなかった。

土坑6 (図31)

調査区南側に位置し、東壁の一部が調査区外の東側に延びている。他の遺構と重複せずに単独で確認され、柱穴列1の東側に隣接している。検出範囲から平面形を推定すると、上端のプランは楕円形を呈し、深い掘り込み部分は円形である。底面は水平で、壁はわずかに膨らみながら垂直に立ち上がる。断面形は筒状を呈し、開口部近くに段をもつ形態を呈する。坑底面の標高は10.96mを測る。規模は長軸現存長1.50m、短軸1.20m、深さ1.30mで、主軸方位はN-63°-Eを指す。覆土は上層が泥岩ブロックを少量含む暗灰褐色土で、下層は暗褐色粘質土である。

遺物はかわらけ6点が出土した。

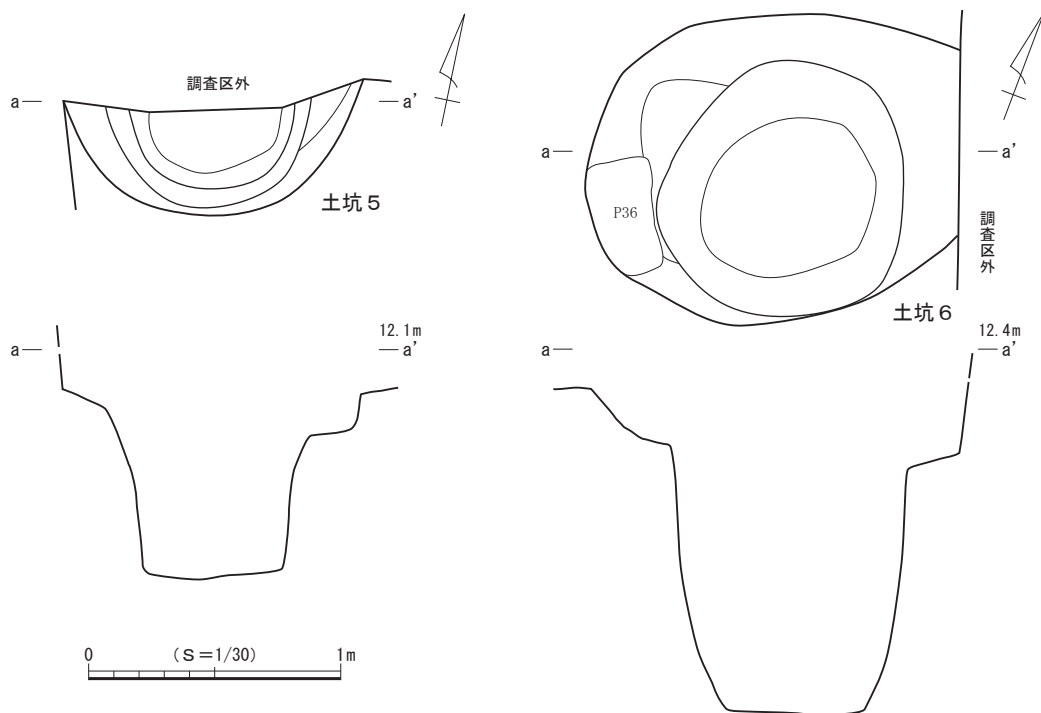


図31 第5面 土坑5・6

(4) ピット (図29)

第5面では、31基を検出した。調査区中央を縦断する柱穴列1の周辺を中心に分布するものが多く、それらのピットについては作り替えによって残された可能性が考えられる。礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は方形と隅丸方形、略円形、略楕円形が認められ、規模は辺ないし径が17~54cm、深さが4~38cmである。ピット40の覆土は、泥岩とかわらけ片を少量含む土層である。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

(5) 遺構外出土遺物 (図32~34)

第5面では、遺構以外からも多くの遺物が出土しており、このうち45点を図示した。

1は白かわらけである。2~21はロクロ成形によるかわらけ、22~29は手づくね成形によるかわらけである。11・14・22には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。30は同安窯系青磁皿、31は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。32・33は渥美窯産の甕である。34~37は常滑窯産の製品で、34~36が甕、37が片口鉢Ⅰ類である。38は瓦質土器の碗である。39~41は平瓦、42は鬼瓦である。43・44は砥石である。45は銭貨で、元豊通寶(北宋・1078)である。

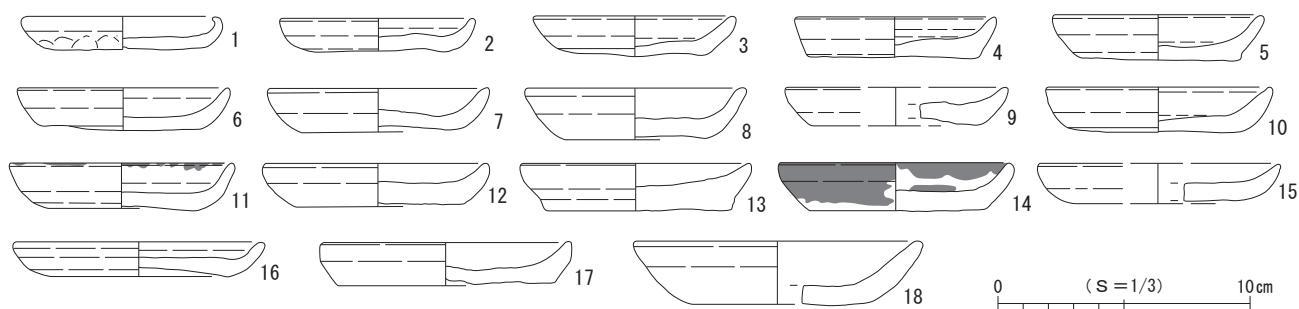


図32 第5面 遺構外出土遺物(1)

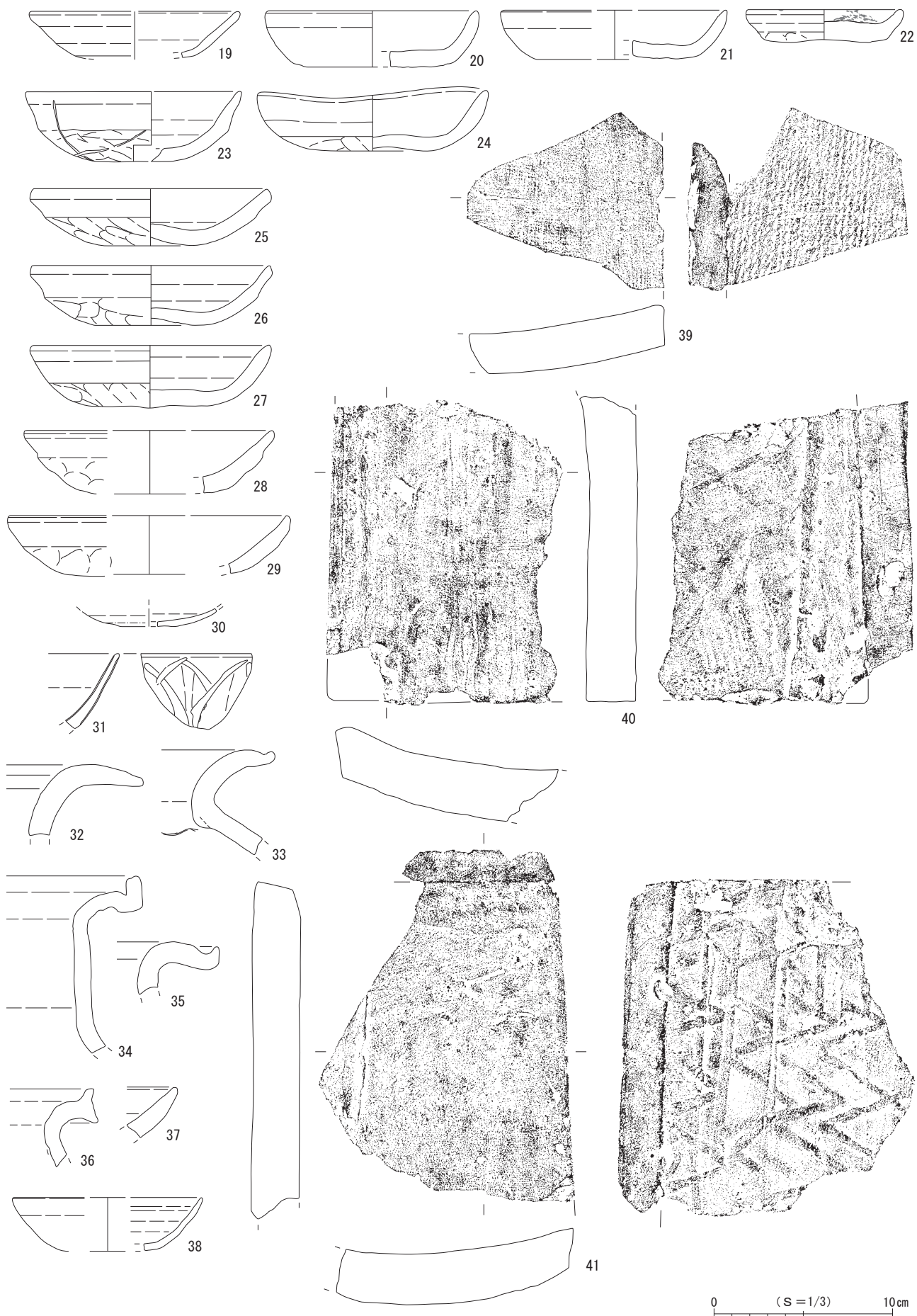


图33 第5面 遺構外出土遺物(2)

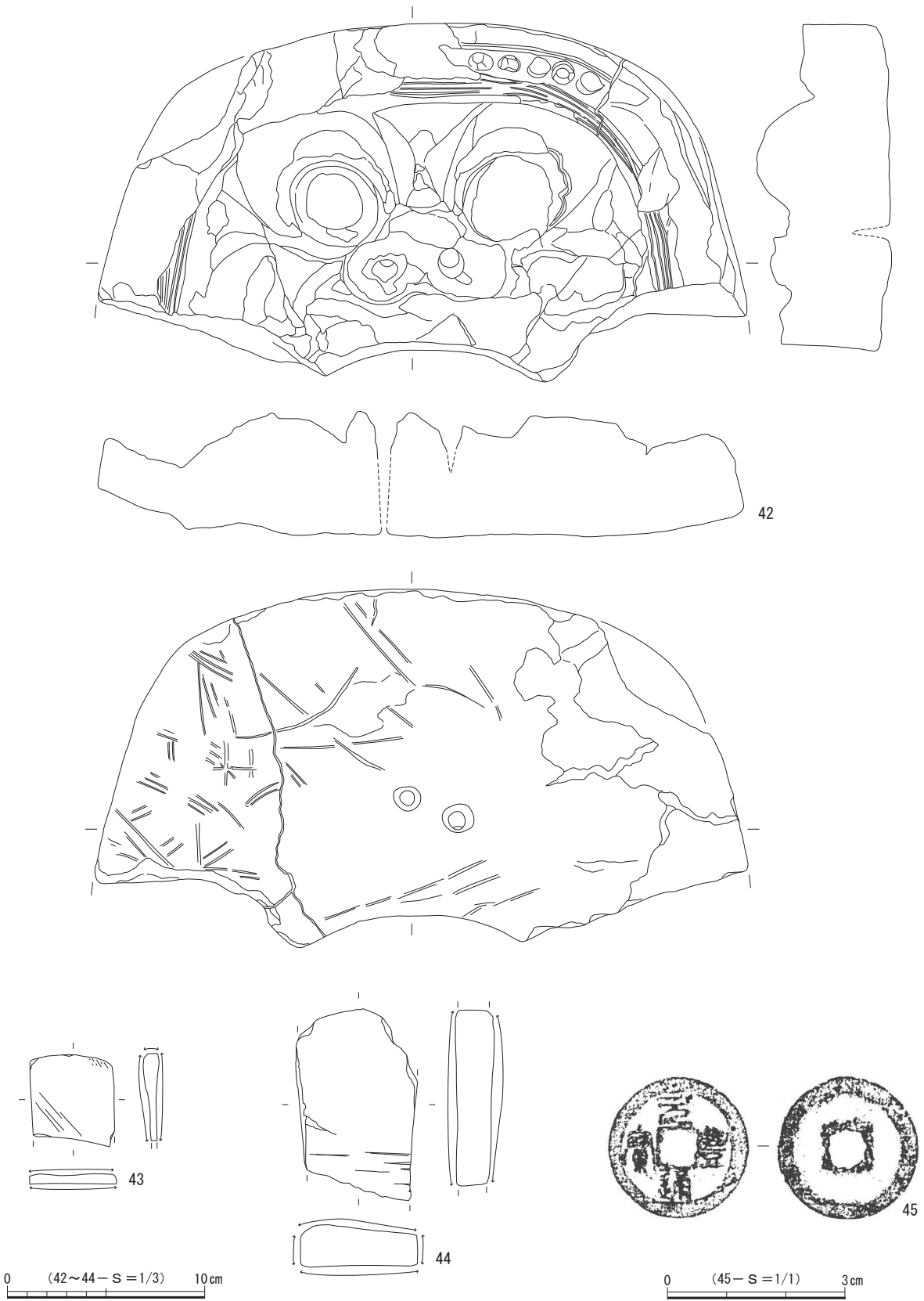


图34 第5面 遺構外出土遺物(3)

第6節 第6面の遺構と遺物

第6面の遺構は堆積土層の13層上面で検出され、確認面の標高は約12.0~12.2mを測る。13層は泥岩ブロックを主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は柱穴列1列、ピット6基のみと遺構密度は希薄である(図35)。

遺物は主にかわけや陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。

(1) 柱穴列

第6面では、1列を検出した。調査区北部に位置し、調査区外の西側へ延びている可能性がある。

柱穴列2 (図36)

調査区北部に位置する。3基のピットが西側から心々で65cm、75cmの間隔で並んでおり、さらに調査区外の西側へ続く可能性がある。主軸方位はN-66°-Eを指す。ピットは平面形が隅丸方形あるいは円形を呈し、規模はP1・P3が辺ないし径30cm、P2が径32cm、深さ28~40cmを測る。

遺物は出土しなかった。

(2) ピット (図35)

第6面では、6基を検出した。調査区北端部に4基、南端部に2基が位置している。礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は円形ないし楕円形を呈し、規模は径15~59cmで深さは11~19cmと浅い。覆土は泥岩粒と泥岩ブロックを多く含む暗黄褐色土である。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。

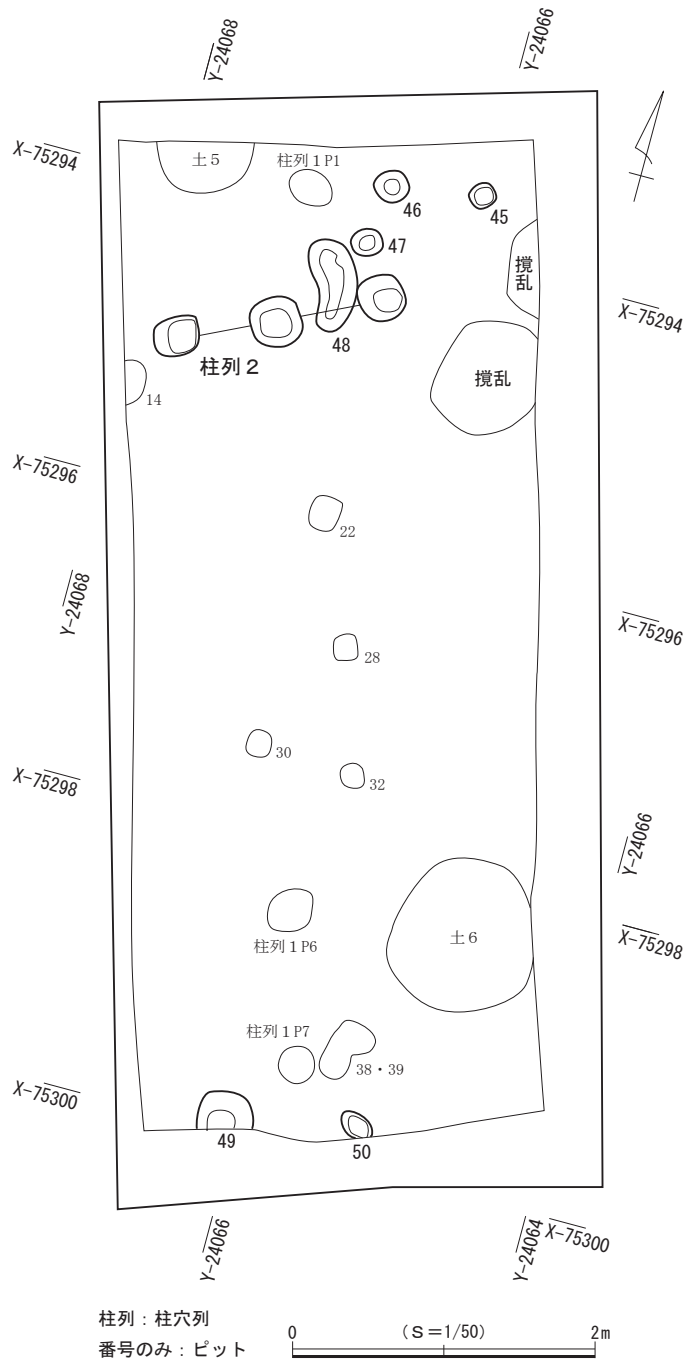


図35 第6面 遺構分布図

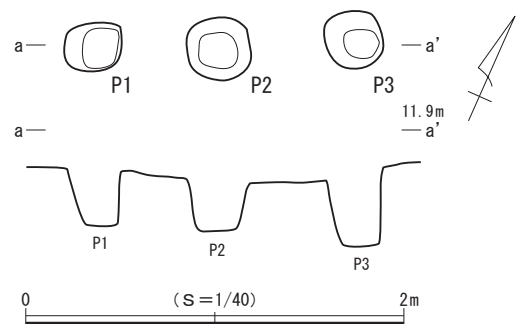


図36 第6面 柱穴列2

(3) 遺構外出土遺物 (図37)

第6面では、遺構以外からも多くの遺物が出土しており、このうち4点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけ、2は手づくね成形によるかわらけである。3・4は平瓦である。

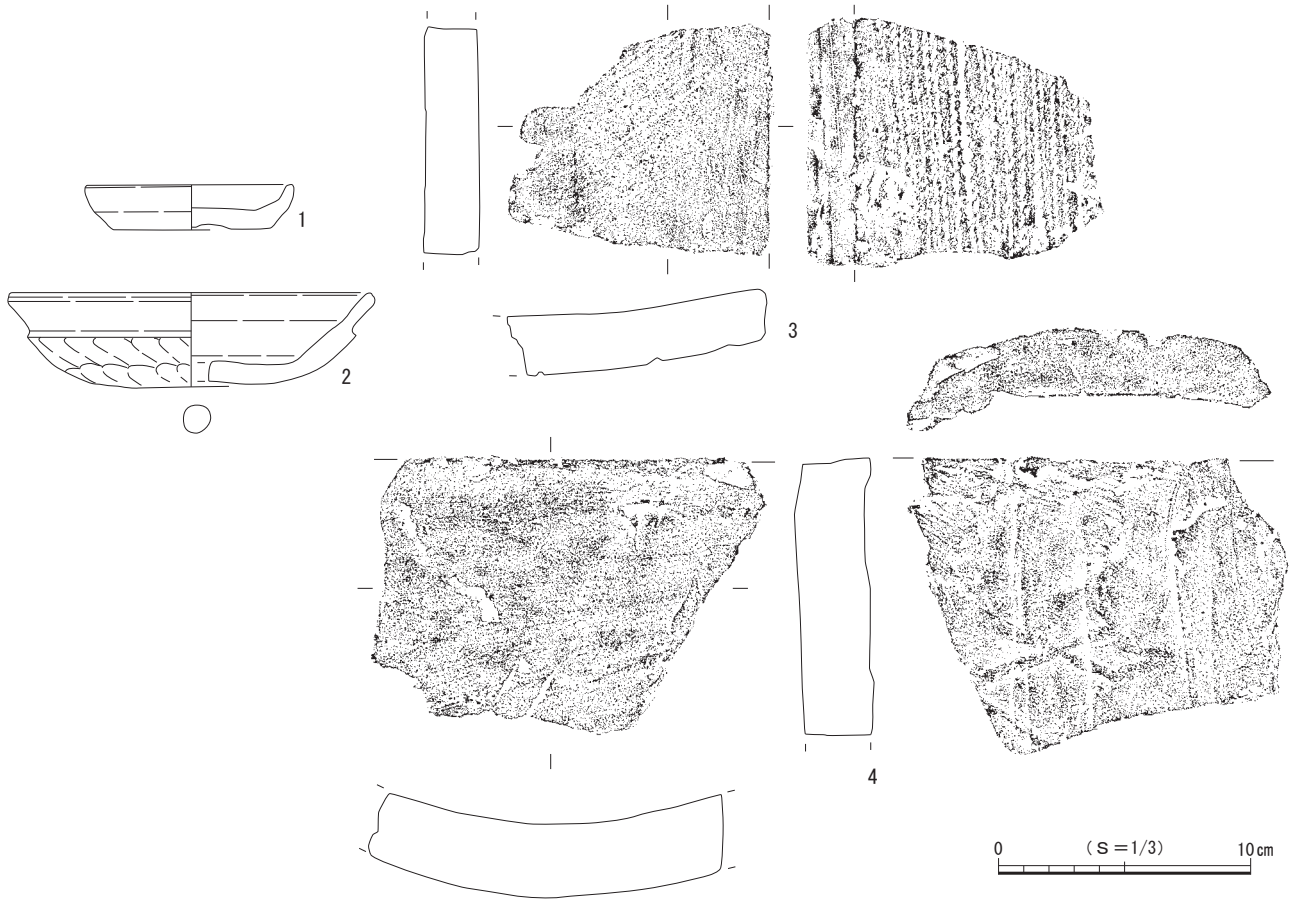


図37 第6面 遺構外出土遺物

第7節 第7面の遺構と遺物

第7面の遺構は堆積土層の14層上面で検出され、確認面の標高は約11.9~12.1mを測る。14層は上面に褐鉄がみられる灰黒褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構2条、ピット6基である(図38)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉~中葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第7面では、2条を検出した。調査区を南北に縦断するものとこれに直交するものが確認され、溝状遺構2の最大幅は1.89mを測る。

溝状遺構2 (図39)

調査区の北側から南東側へごく緩やかに湾曲しながら縦断して検出し、調査区外の北側と南東側へ

と続いている。検出した範囲の規模は長さ6.75m、幅は最大で1.89m、最小で1.50m、深さは最大で86cmを測り、溝幅は北側が狭く南東側へ向かうほど広がる。主軸方位はN-33°-Wを指す。壁は北側から中央やや南側辺りまでは大きく開いて立ち上がるが、南側はわずかに開く。底面は北半が湾曲し、南半はほぼ平坦で、両上端が検出された調査区中央北側部分の断面形はU字状を呈する。底面の標高は北端部が10.84m、中央が10.96m、南端部が11.10mで、北へ向かって緩やかに傾斜している。覆土は黒褐色粘質土あるいは暗褐色粘質土を基調とし、パミスや泥岩粒の含有量や締まりによって25層に細分された。

遺物はかわらけ28点、陶器8点が出土した。

溝状遺構3 (図39)

調査区の北端部に位置し、調査区外の北東側へ続いている。南西側で溝状遺構2に直交し、その延長上では本址の続きが検出されていない。こうしたことから溝状遺構2と関連をもつ遺構と推定され、検出部分は溝の分岐部にあたる可能性が考えられる。検出した範囲の規模は長さ1.10m、幅1.20m、深さ40cmを測り、主軸方位はN-36°-Eを指す。壁は開いて緩やかに立ち上がり、底面は平坦で断面形は逆台形状を呈する。底面の標高は南西端で10.89m、北東端で11.04mを測る。

遺物は出土しなかった。

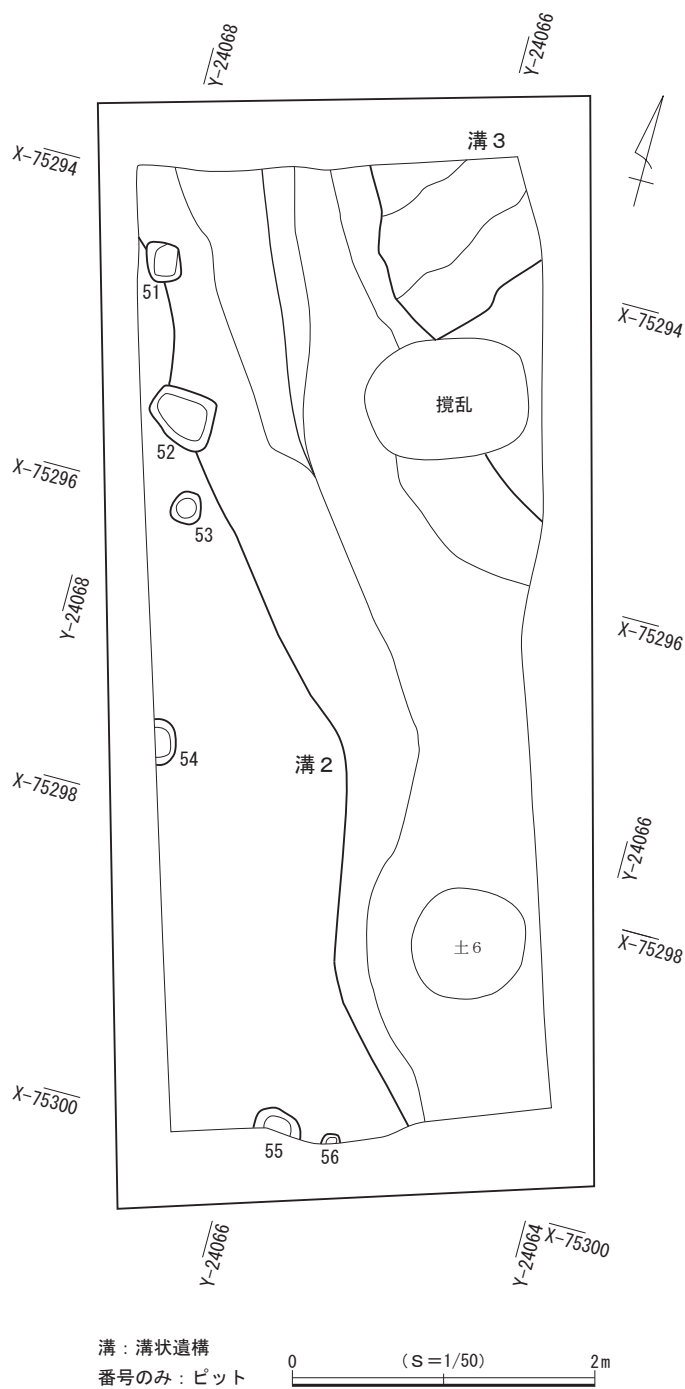
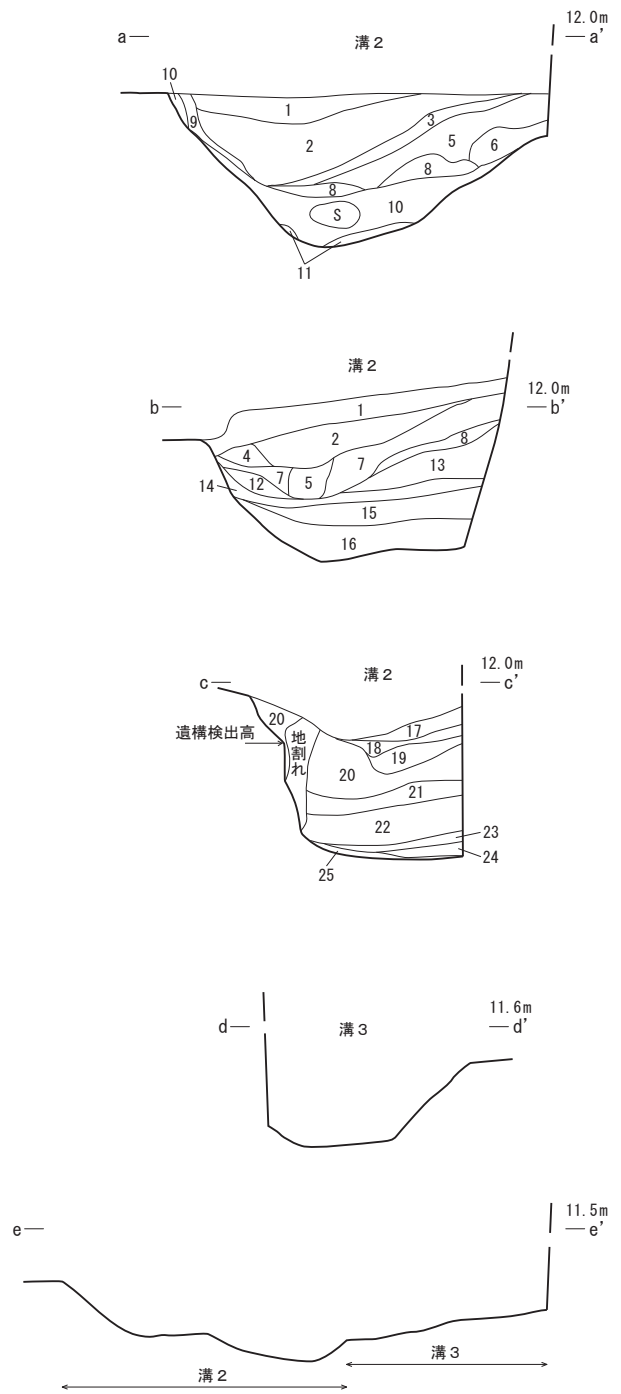
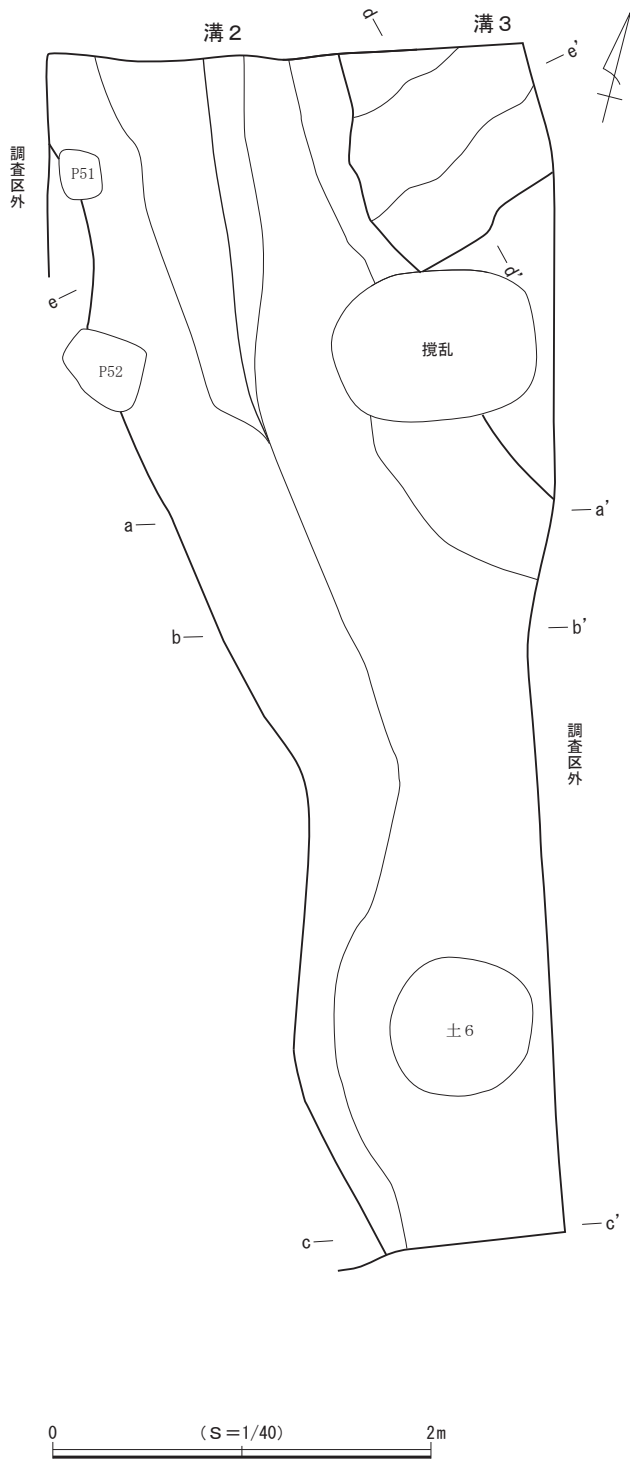


図38 第7面 遺構分布図

(2) ピット (図38)

第7面では、6基を検出した。調査区西壁と南壁付近に分布し、このうち3基は調査区壁際で検出され全容を把握できなかった。礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし隅丸長方形を呈し、規模は径ないし辺10~42cm、深さ11~24cmを測る。ピット55・56の覆土は、締まりの弱い暗灰褐色土である。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表9)を参照されたい。



溝状遺構2

- 1層 暗褐色粘質土 泥岩粒少量含む。締まり強い。
- 2層 暗褐色粘質土 泥岩粒少量含む。1層より締まり弱い。
- 3層 暗褐色砂質粘質土
- 4層 黒褐色粘質土 パミス少量含む。締まりあり。
- 5層 暗褐色粘質土 パミス少量含む。締まりあり。
- 6層 茶褐色弱砂質土
- 7層 暗褐色粘質土 泥岩粒少量含む。1層より大粒。締まりあり。
- 8層 暗黄褐色粘質土 砂質粘質土。締まり強い。やや砂質。
- 9層 暗赤褐色土 鉄分多く含む。
- 10層 黒褐色粘質土
- 11層 明灰色強粘質土
- 12層 黒褐色粘質土 締まりあり。

- 13層 暗褐色粘質土 パミス少量含む。締まりあり。
- 14層 茶褐色弱砂質土 褐鉄やや多い。締まりあり。
- 15層 黒褐色粘質土 パミス少量含む。締まり強い。
- 16層 黒褐色粘質土 締まり強い。
- 17層 灰黒褐色土 1~3mmの褐色粒含む。
- 18層 黒褐色土 炭化層
- 19層 暗褐色砂質土 締まりあり。
- 20層 灰黒褐色弱粘質土 パミス含む。
- 21層 暗褐色弱粘質土
- 22層 明灰色弱粘質土 粘土少量含む。
- 23層 黒褐色強粘質土
- 24層 暗灰黄褐色砂質土 締まりあり。
- 25層 暗褐色弱粘質土 締まりあり。

図39 第7面 溝状遺構2・3

第四章 まとめ

本調査地点は鎌倉市の東部を流れる二階堂川の左岸に位置する。二階堂川は滑川の支流で、本地点の南側へ直線距離で約200mのところは、東から西方向へと流れる滑川との合流地点にあたる。また、二階堂川の現流路までの距離は調査区の北壁から約5mと至近距離にあり、河川に隣接した場所に立地する地点といえる。本遺跡の発掘調査事例は、本地点を含めて13地点が知られている。

今回の調査では、遺構確認面は第1～7面までの合計7面で、第4面以下については土置き場の確保と安全対策のため攪乱部が大きい調査区西側を土置き場とし、第1～3面の東半部にあたる範囲の調査を行った。検出した遺構は、礎石建物2棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構3条、土坑6基、柱穴列2列、ピット56基で、礎石建物と掘立柱建物は泥岩を敷き詰めた地業を伴っていた。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して23箱を数える。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は堆積土層の3層上面で検出され、確認面の標高は約13.2mを測る。3層は泥岩ブロックを突き固めた整地層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石建物1棟と土坑1基で、攪乱の影響により遺構が残存していたのは調査区南西部のごくわずかな範囲であった。礎石建物は調査区の南西壁際で確認され、調査区外の南側へ展開するものと推定される。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は堆積土層の4層上面で検出され、確認面の標高は約13.0mを測る。4層は泥岩ブロックを突き固めた整地層であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。本確認面も攪乱が広範囲に及んでおり、検出した遺構は土坑1基、ピット4基のみと遺構密度は極めて希薄である。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は堆積土層の5層上面で検出され、確認面の標高は約12.9mを測る。5層は泥岩ブロックを含む締めりのある土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。調査区北東部には攪乱が広く及んでいたが、調査区南西部を中心に礎石建物1棟、土坑1基、ピット3基を検出した。礎石建物は調査区外へと展開しており全容の把握には至らなかったが、柱間が南北方向の心々で2.1m等間、東西方向が2.2m等間と規格性が高く、加えて東面と南面には泥岩を帯状に配置した地業が認められた。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面は土置きの関係と安全対策のため攪乱が広く及んでいる調査区西側を土置き場とし、第1～3

面の東半部にあたる約20㎡について調査を行った。遺構は堆積土層の6・7層上面で検出され、確認面の標高は約12.6～12.7mを測る。6層は3～12cmの泥岩ブロックを多量に含み締まりのある明茶褐色弱砂質土、7層は泥岩粒を少量、炭化物粒を多量に含む暗褐色土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、掘立柱建物1棟、土坑1基、ピット6基で、攪乱が及んでいる調査区北側を除く南半を中心に分布していた。このうち掘立柱建物は全体のごく一部を調査したにとどまり、主体は調査区外の西側へ展開している。東面には建物の軸方向に沿って泥岩を帯状に配した地業が認められ、建物の主軸方位や柱間は第3面で検出された礎石建物とほぼ同じである。第4面から第3面にかけて、地業を伴う建物が同じ場所に建て替えられながら、存続していた様相がうかがわれる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

〈第5面〉

第5面の遺構は調査区東側では堆積土層の11層上面、西側では12層上面で検出され、確認面の標高は約12.2～12.4mを測る。11層は泥岩ブロックを多量に含む明黄褐色土、12層は泥岩粒を含んだ締まりのある明灰褐色弱砂質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構1条、土坑2基、柱穴列1列、ピット31基である。溝状遺構は主軸方位がやや西に振れた南北方向で、本地点の東側に隣接する向荏柄遺跡(横小路周辺遺跡二階堂字向荏柄880番地点、馬淵・原ほか1985)にみられる区画溝と同一方向であることから、屋敷地の西側を区画する溝であった可能性がある。また、この溝状遺構の東側に隣接して検出された柱穴列は、主軸方位が溝状遺構と同方向を指している。両者は関連をもつ区画施設とも考えられるが、周辺に検出された多数のピットの存在から調査区外の東側へ展開する建物の一部であった可能性も想定されよう。また土坑2基について触れると、深さが約70cmと1.3mを測り、掘り込みが深いことが特徴としてあげられる。隣接する向荏柄遺跡では井戸が複数基検出されており、底面の標高は12.5m前後を測る。本面で確認された土坑2基は底面の標高が11m前後で、向荏柄遺跡の例と比較すると湧水深度に達していたと考えられることから、井戸の可能性が高いといえる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

〈第6面〉

第6面の遺構は堆積土層の13層上面で検出され、確認面の標高は約12.0～12.2mを測る。13層は泥岩ブロックを主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は柱穴列1列、ピット6基のみと遺構密度は希薄である。柱穴列は3基のピットが東西方向に並んだもので、調査区の制約によりその性格は明らかにし得なかった。遺物は主にかわらけや陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

〈第7面〉

第7面の遺構は堆積土層の14層上面で検出され、確認面の標高は約11.9～12.1mを測る。14層は上面に褐鉄がみられる灰黒褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構2条、ピット6基である。このうち、溝状遺構2は直線的ではなく蛇行する様相が認められることから、人為的な遺構とは考えにくく、自然流路であった可能性がある。遺物は主にかわらけ、舶

載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

本地点から約20m東側に隣接する向荏柄遺跡（現・横小路周辺遺跡）では、濠や溝で区画された敷地内から多数の礎石・礎板建物や溝、井戸、土坑、石列などが検出され、御家人級の武家屋敷地であったと考えられている（馬淵・原ほか 1985）。また、年代的には12世紀末から14世紀代に属し、遺構が継続的に構築されていたことが指摘されている。

本地点で検出された遺構は年代的には13世紀代に属し、向荏柄遺跡第Ⅱ面の遺構群が同一時期に相当する。狭小な調査区であるため断定はできないが、本地点の第3・4面にみられる地業を伴う建物や第5面の溝状遺構や柱穴列、井戸と推定される土坑のあり方などから推定すると、本地点はおそらく向荏柄遺跡第Ⅱ面で確認された屋敷地の内部であったと考えられる。なお、本地点で検出された地業を伴うような建物は向荏柄遺跡には認められなかったことを最後に指摘しておきたい。

引用・参考文献（著者50音順）

石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都鎌倉』よみがえる中世3 平凡社

伊丹まどか・松吉大樹 2014「大倉幕府周辺遺跡群（No.49）二階堂字荏柄76番8地点」『平成25年度発掘調査報告（第1分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30 鎌倉市教育委員会

押木弘己 2012「田楽辻子周辺遺跡（No.33）浄明寺一丁目556番6外」『平成23年度発掘調査報告（第2分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会

菊川英政 1990「1. 横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄9番1地点」『平成元年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6 鎌倉市教育委員会

菊川英政 1991 a『神奈川県鎌倉市 横小路周辺遺跡発掘調査報告書－二階堂字荏柄9番1地点－』横小路周辺遺跡発掘調査団

菊川英政 1991 b「4. 大倉幕府周辺遺跡（No.49）雪ノ下大倉耕地565番4地点」『平成2年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7 鎌倉市教育委員会

熊谷 満 2015「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄939番10地点」『平成26年度発掘調査報告（第2分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31 鎌倉市教育委員会

宗臺秀明ほか 1996『神奈川県鎌倉市 横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点－永福寺関連遺跡の調査－』横小路周辺遺跡発掘調査団

手塚直樹・田畑衣理 1990『釈迦堂田楽辻子周辺遺跡』釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査団

野本賢二 1998「横小路周辺遺跡（No.259）雪ノ下五丁目557番1地点」『平成9年度発掘調査報告（第2分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 鎌倉市教育委員会

野本賢二・岡 陽一郎 1999「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字横小路93番11地点」『平成10年度発掘調査報告（第2分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15 鎌倉市教育委員会

原 廣志・須佐直子ほか 2002「大倉幕府周辺遺跡群（No.49）二階堂字荏柄58番4外地点」『平成13年度発掘調査報告（第1分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会

原 廣志・須佐直子 2003「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字横小路10番1地点」『平成14年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 鎌倉市教育委員会

原 廣志・須佐直子 2006「大倉幕府周辺遺跡群（No.49）二階堂字荏柄27番3の一部地点」『平成17年度発掘調査報告（第1分冊）』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 鎌倉市教育委員会

- 福田 誠 2004「横小路周辺遺跡 (No.259) 二階堂字会下323番外地点」『平成15年度発掘調査報告 (第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 2006「田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 雪ノ下五丁目555番1地点」『平成17年度発掘調査報告 (第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 2007「横小路周辺遺跡 (No.259) 二階堂字四ツ石115-3地点」『平成18年度発掘調査報告 (第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠・菊川 泉 2000「横小路周辺遺跡 (No.259) 二階堂字横小路10番6外地点」『平成11年度発掘調査報告 (第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・原 廣志ほか 1985『鎌倉市二階堂 向荏柄遺跡発掘調査報告書』向荏柄遺跡発掘調査団
- 宮田 眞・滝澤晶子 2007『神奈川県・鎌倉市 杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書 (鎌倉市二階堂字杉本932番1他8筆地点)』株式会社 博通
- 森 孝子 2000「田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 鎌倉市浄明寺一丁目661番外」『平成11年度発掘調査報告 (第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 鎌倉市教育委員会
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976
- 『鎌倉廃寺事典』貫 達人・川副武胤 有隣堂 1980

表2 第1面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第1面 遺構外出土遺物 (図9)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.4)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 明橙色 焼成: 良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	(7.2)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 明橙色 焼成: 良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(6.4)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、海綿骨針、やや粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.6)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、海綿骨針、粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好	1/2
5	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、海綿骨針、良土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/2
6	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.9	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 b 型式	口縁部 小破片
7	瓦	丸瓦	現長 14.9	現幅 3.8	厚 1.5~1.8	凸面-ヘラケズリ、ヘラナデ 凹面-糸切り 胎土: 粗 色調: 灰色	1/3

表3 第2面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第2面 遺構外出土遺物 (図12)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	7.0	4.0	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	5/6
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.0)	4.0	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/4
3	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.3	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 b 型式	口縁部 小破片

表4 第3面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎石建物2 出土遺物 (図16)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.1	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	完形
2	陶器	常滑 甕	-	-	現 10.7	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 a 型式	口縁部 小破片

土坑3 出土遺物 (図18)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.5	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	7.9	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
3	瓦	平瓦	現長 21.2	現幅 16.3	厚 3.1	凹面-糸切り 凸面-格子・丸文 胎土: 粗 色調: 灰色	1/6

ピット7 出土遺物 (図20)

1	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.0)	3.3~3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/4
---	----	---------------	--------	-------	---------	--	-----

第3面 遺構外出土遺物 (図21)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.8)	(3.7)	0.8	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.9	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.1	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	4/5
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.9	1.8	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	1.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	7.8	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.2	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	略完形
10	磁器	青磁 小碗	(10.5)	4.4	4.6	輪花形 内面-片刃で区分 盪付-露胎 色調: 胎土-灰白色、釉-緑青色 備考: 龍泉窯系青磁小碗 I - 2 類	1/8
11	陶器	常滑 甕	-	-	現 10.6	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 a~6 b 型式	口縁部 小破片
12	陶器	常滑 片口鉢 I 類	(27.5)	-	現 11.5	胎土: 粗、白色粒、黒色粒、小石粒 色調: 灰色	1/4
13	土器	鉢	(13.3)	-	現 4.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/6

14	瓦	丸瓦	現長 16.3	現幅 6.8	厚 2.7	凸面-ヘラナデ 凹面-布目 胎土:粗 色調:黄灰色	小破片
15	瓦	軒平瓦	瓦当幅 3.5	-	厚 1.7	瓦当-剣先文 胎土:微砂、雲母、白色粒、良土 色調:灰色	瓦当 小破片
16	瓦	鬼瓦	現長 11.8	現幅 12.6	厚 5.2	瓦当-手づくねによる鬼面 胎土:微砂、雲母、白色粒、良土 色調:灰黄色	瓦当 小破片
17	銅製品	鉄	長 2.1	頭径 1.3	軸幅 0.3	丸頭の鉄	完形

表5 第4面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第4面 遺構外出土遺物 (図25~27)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.5	1.7	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.3	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.4	底面-回転糸切 内底-強くナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	3/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.6	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良好	1/3
13	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.9	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
14	土器	手づくね かわらけ・中	(12.0)	(7.8)	3.4	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
15	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	(7.8)	3.2	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
16	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	8.3	3.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	7/8
17	磁器	白磁 口元皿	(9.6)	(5.0)	2.2	底面-ヘラ切り 色調:胎土-白色、釉-白色 備考:白磁皿Ⅲ類	1/3
18	陶器	渥美 壺	-	-	現 2.9	胎土:砂質 色調:灰色 備考:2a~2b型式	口縁部 小破片
19	陶器	渥美 壺	-	-	現 5.6	胎土:砂質 色調:灰色 備考:2a~2b型式	口縁部 小破片
20	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.6	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
21	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗灰褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
22	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.9	胎土:粗、白色粒 色調:にぶい黄褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	底部 小破片
24	陶器	常滑 甕	-	12.2	現 9.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	底部 破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 7.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 8.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
27	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.7	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:胎土-灰色、自然釉-灰オリーブ色	口縁部 小破片
28	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(15.0)	現 7.0	内面摩耗 胎土:やや粗 色調:胎土-暗灰黄色	1/6
29	瓦	丸瓦	現長 9.4	現幅 13.7	厚 2.7	凸面-縄目敲き 凹面-布目 胎土:粗 色調:灰褐色	1/8
30	瓦	丸瓦	現長 11.7	現幅 9.8	厚 1.9	凸面-縄目敲き 凹面-布目 胎土:粗 色調:灰褐色	1/8
31	瓦	平瓦	現長 10.0	現幅 13.3	厚 2.7	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:灰褐色	1/8
32	瓦	平瓦	現長 12.2	現幅 13.3	厚 2.7	凹面-布目 凸面-格子文 胎土:粗 色調:灰褐色	1/8
33	瓦	平瓦	現長 15.6	現幅 11.1	厚 2.1	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土:粗 色調:灰褐色	1/8

34	石製品	滑石製石鍋	(21.0)	-	現 7.3	羽釜形 色調：灰褐色	鐫~体部 下半小破片
35	土製品	円盤状 土製品	長 5.5	幅 5.2	厚 1.8~0.8	中心部がやや凹む 胎土：微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、良土 色調：橙色 焼成：良好	完形

表6 第5面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第5面 遺構外出土遺物 (図32~34)

1	土器	白かわらけ・小	(7.5)	-	1.4	コースター形 底面-指頭痕跡 胎土：微砂、良土 色調：乳白色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	-	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄茶橙色 焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	-	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	-	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	-	1.8	底面-回転糸切 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：茶褐色 焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(5.6)	2.0	底面-回転糸切 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：灰橙色 焼成：良好	1/4
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.9)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	-	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄茶橙色 焼成：良好	3/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	5.9	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	7/8
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.0)	1.9	外面口唇部~下半・内底面まで煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(7.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.4)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.9)	(8.6)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.2)	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	-	現 3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/8
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(8.2)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄茶橙色 焼成：良好	2/3
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.4)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄茶橙色 焼成：良好	1/3
22	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	(6.9)	1.7	口唇部~内面に煤付着 底面一部指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針を含む 良土 色調：薄橙色 焼成：良好	1/3
23	土器	手づくね かわらけ・中	(12.5)	-	3.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、良土 色調：橙色 焼成：良好	1/6
24	土器	手づくね かわらけ・中	12.8	-	3.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
25	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	(5.2)	3.2	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	1/3
26	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	(6.8)	3.4	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/8
27	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、良土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
28	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
29	土器	手づくね かわらけ・大	(15.4)	(9.0)	3.3	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	1/6
30	磁器	青磁皿	-	(3.2)	現 1.0	底面-釉を掻き取る 色調：胎土-灰色、釉-明青灰色 備考：同安窯系青磁皿Ⅰ類	底部 小破片
31	磁器	青磁碗	-	-	現 4.2	外面-鎊蓮弁文 色調：胎土-灰白色、釉-灰オリーブ色 備考：龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
32	陶器	渥美甕	-	-	現 3.9	胎土：砂質 色調：灰色 備考：2 a 型式	口縁部 小破片
33	陶器	渥美甕	-	-	現 5.9	胎土：砂質 色調：灰色 備考：2 a 型式	口縁部 小破片
34	陶器	常滑甕	-	-	現 2.9	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5 型式	口縁部 小破片
35	陶器	常滑甕	-	-	現 10.0	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-黄灰色、自然釉-褐色 備考：5 型式	口縁部 小破片
36	陶器	常滑甕	-	-	現 4.4	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-黄灰色、自然釉-にぶい黄褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片

37	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	-	-	現2.9	胎土：粗、白色粒 色調：灰色	口縁部小破片
38	瓦質土器	碗	10.5	4.3	3.0	内底-ミガキ、黒色処理 胎土：微砂、良土 色調：黒色 焼成：良好 備考：吉備系	1/6
39	瓦	平瓦	現長10.2	現幅11.2	厚2.3	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土：粗 色調：灰褐色	1/8
40	瓦	平瓦	現長17.1	現幅11.6	厚3.0	凹面-ヘラナデ 凸面-格子文 胎土：粗 色調：灰白色	1/6 ?
41	瓦	平瓦	現長18.4	現幅14.0	厚2.3	凹面-ヘラナデ 凸面-格子文 胎土：粗 色調：灰褐色	1/6
42	瓦	鬼瓦	現長17.5	現幅33.0	厚2.6~6.6	瓦当-手づくねによる鬼面 裏面-ヘラナデ 胎土：やや粗 色調：黒灰色~灰白色	2/3
43	石製品	砥石	現長4.6	幅4.2	厚0.4~0.8	3面に使用痕跡 石材-凝灰岩	1/3
44	石製品	砥石	現長9.1	幅6.2~5.5	厚1.7	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩 備考：伊予産	1/2
45	銅製品	銭貨	直径2.4	孔径0.7	厚0.1	銭名-元豊通寶(北宋・1078)	完形

表7 第6面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第6面 遺構外出土遺物(図37)

1	土器	ロクロかわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.8	外面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明褐色 焼成：良好	2/3
2	土器	手づくねかわらけ・大	(14.4)	-	3.7	底面-指頭ナデ消し、穿孔(径1.1cm) 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
3	瓦	平瓦	現長10.0	現幅10.1	厚1.8	凹面-布目 凸面-縄目敲き 胎土：粗 色調：灰褐色	1/8
4	瓦	平瓦	現長12.0	現幅14.6	厚2.8	凹面-ヘラナデ 凸面-格子文 胎土：粗 色調：灰色	1/6

表8 遺構計測表

< > = 現存値

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
礎石建物1	第1面	<225>	-	5~10
土坑1	第1面	171	<135>	13
土坑2	第2面	<49>	<46>	10
ピット1	第2面	20	-	15
ピット2	第2面	33	-	7
ピット3	第2面	55	39	22
ピット4	第2面	16	-	9
礎石建物2	第3面	<450>	<210>	6~13
土坑3	第3面	82	75	12
ピット5	第3面	32	28	3
ピット6	第3面	42	<40>	26
ピット7	第3面	43	28	18
掘立柱建物1	第4面	<214>	196	36~40
土坑4	第4面	69	64	34
ピット8	第4面	38	32	20
ピット9	第4面	<48>	43	11
ピット10	第4面	41	36	18
ピット11	第4面	21	-	17
ピット12	第4面	28	26	13
ピット13	第4面	<41>	36	10
溝状遺構1	第5面	<92>	108	24
土坑5	第5面	<118>	<48>	72
土坑6	第5面	<150>	120	130
柱穴列1	第5面	<450>	-	12~48

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット14	第5面	40	<22>	23
ピット15	第5面	36	20	32
ピット16	第5面	29	22	11
ピット17	第5面	54	38	14
ピット18	第5面	18	15	9
ピット19	第5面	28	19	17
ピット20	第5面	<28>	28	21
ピット21	第5面	<30>	<23>	20
ピット22	第5面	26	22	31
ピット23	第5面	27	<15>	26
ピット24	第5面	26	<16>	-
ピット25	第5面	<20>	<23>	20
ピット26	第5面	<32>	28	10
ピット27	第5面	28	-	12
ピット28	第5面	21	18	16
ピット29	第5面	30	22	30
ピット30	第5面	22	19	35
ピット31	第5面	<20>	18	10
ピット32	第5面	35	32	35
ピット33	第5面	<40>	32	15
ピット34	第5面	26	21	38
ピット35	第5面	25	23	22
ピット36	第5面	46	27	32
ピット37	第5面	<17>	13	10

遺構名	帰属面	規模(cm)		
		長軸	短軸	深さ
ピット38	第5面	35	<23>	16
ピット39	第5面	30	27	18
ピット40	第5面	<53>	43	18
ピット41	第5面	17	-	6
ピット42	第5面	21	15	4
ピット43	第5面	<22>	20	4
ピット44	第5面	30	25	18
柱穴列2	第6面	140	-	28~40
ピット45	第6面	15	-	11
ピット46	第6面	23	20	11
ピット47	第6面	20	16	12
ピット48	第6面	59	27	11
ピット49	第6面	<35>	23	19
ピット50	第6面	22	14	17
溝状遺構2	第7面	<675>	189	86
溝状遺構3	第7面	<110>	<120>	40
ピット51	第7面	25	21	11
ピット52	第7面	42	37	19
ピット53	第7面	20	19	15
ピット54	第7面	30	<13>	21
ピット55	第7面	30	<19>	24
ピット56	第7面	10	<5>	24

※礎石建物と掘立柱建物の長軸・短軸、柱穴列の長軸は心々の長さの計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表9 出土遺物一覧表

第1面

礎石建物1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 6

土坑1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	2
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 16

第1面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	32
	かわらけ 手づくね成形	15
【白磁】		
	皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅲ類	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	入子	2
	卸皿	1
常滑	甕	32
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	4
山茶碗窯	片口鉢	2
【瓦質土器】		
	火鉢	4
【瓦】		
	丸瓦	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	2
		合計 103

第2面

土坑2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 9

ピット3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
		合計 5

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	98
	かわらけ 手づくね成形	12
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	入子	1
	片口鉢	1
渥美	甕	2
常滑	甕	34
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	8

【瓦質土器】		
産地	器種	破片数
	火鉢	8
【瓦】		
	平瓦	4
【石製品】		
	砥石	3
	硯	1
【金属製品】		
	釘	9
		合計 186

第3面

礎石建物2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	13
	かわらけ 手づくね成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 15

土坑3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	18
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
【瓦】		
	平瓦	3
		合計 24

ピット7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	98
	かわらけ 手づくね成形	13
【白磁】		
	壺	1
	皿	2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	3
	小椀Ⅰ-2類	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	片口鉢	1
	平碗	1
	折縁深皿	3
	卸皿	3
渥美	甕	3
常滑	甕	45
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	4
山茶碗		1

【土器】		
産地	器種	破片数
	鉢	1
【瓦質土器】		
	火鉢	6
【瓦】		
	鬼瓦	1
	丸瓦	1
	軒平瓦	1
	平瓦	2
【石製品】		
	砥石	3
【金属製品】		
	釘	8
	鋌	1

合計	207
----	-----

第4面

掘立柱建物1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	7
		合計 7

土坑4		
産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
		合計 1

ピット10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
		合計 12

ピット11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 6

第4面 遺構外

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	102
	かわらけ 手づくね成形	23
【白磁】		
	口元皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1

【陶器】		
産地	器種	破片数
瀬戸	瓶子	3
	平碗	1
	折縁深皿	2
	卸皿	1
渥美	甕	3
	壺	2
常滑	甕	25
	片口鉢Ⅰ類	2
山茶碗窯	片口鉢	3
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	3
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
【土製品】		
	円盤状	1
		合計 176

第5面

土坑6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
		合計 6

ピット15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
		合計 1

ピット16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ 手づくね成形	1
		合計 1

ビット17			皿		【瓦】	
産地	器種	破片数	皿		平瓦	2
【かわらけ】			口元皿			
かわらけ	ロクロ成形	2	【青磁】			
【瓦】			龍泉窯系	椀Ⅰ類	1	
丸瓦		1		椀Ⅱ類	4	
合計			同安窯系	皿	1	
			【陶器】			
			緑釉陶器	水注	1	
			瀬戸	瓶子	2	
				卸皿	2	
			渥美	甕	2	
			常滑	甕	35	
				片口鉢Ⅰ類	2	
			【瓦質土器】			
				火鉢	2	
				碗	1	
			【瓦】			
				鬼瓦	5	
				平瓦	24	
			【石製品】			
				滑石製石鍋	1	
				砥石	2	
				硯	1	
			【金属製品】			
				銭貨	1	
				釘	8	
				用途不明	4	
			合計			
			383			
			第6面			
			ビット48			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			かわらけ	ロクロ成形	2	
			かわらけ	手づくね成形	1	
			合計			
			7			
			第6面 遺構外			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			かわらけ	ロクロ成形	45	
			かわらけ	手づくね成形	10	
			【陶器】			
			瀬戸	瓶子	1	
			渥美	甕	3	
			常滑	甕	42	
				片口鉢Ⅰ類	5	
			山茶碗窯	片口鉢	4	
			山茶碗		1	
			【瓦質土器】			
				火鉢	3	
			第5面 遺構外			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			白かわらけ		1	
			かわらけ	ロクロ成形	256	
			かわらけ	手づくね成形	25	
			【白磁】			
			合計			
			120			
			第7面			
			溝状遺構2			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			かわらけ	ロクロ成形	23	
			かわらけ	手づくね成形	5	
			【陶器】			
			常滑	甕	8	
			合計			
			36			
			ビット55			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			かわらけ	ロクロ成形	8	
			かわらけ	手づくね成形	3	
			合計			
			11			
			第7面 遺構外			
			産地	器種	破片数	
			【かわらけ】			
			かわらけ	ロクロ成形	52	
			かわらけ	手づくね成形	13	
			【白磁】			
				皿	1	
			【青磁】			
			龍泉窯系	椀Ⅰ類	1	
			【陶器】			
			瀬戸	入子	1	
				片口鉢	1	
				平碗	1	
				折縁深皿	2	
			渥美	甕	4	
			常滑	甕	32	
				片口鉢Ⅰ類	2	
			山茶碗窯	片口鉢	5	
			【瓦質土器】			
				火鉢	1	
			【石製品】			
				砥石	4	
			合計			
			120			



1. 調査区近景 (西から)



2. 調査前調査区全景 (南から)



1. 調査区南壁土層断面(北から)



2. 第1・2面全景(北から)



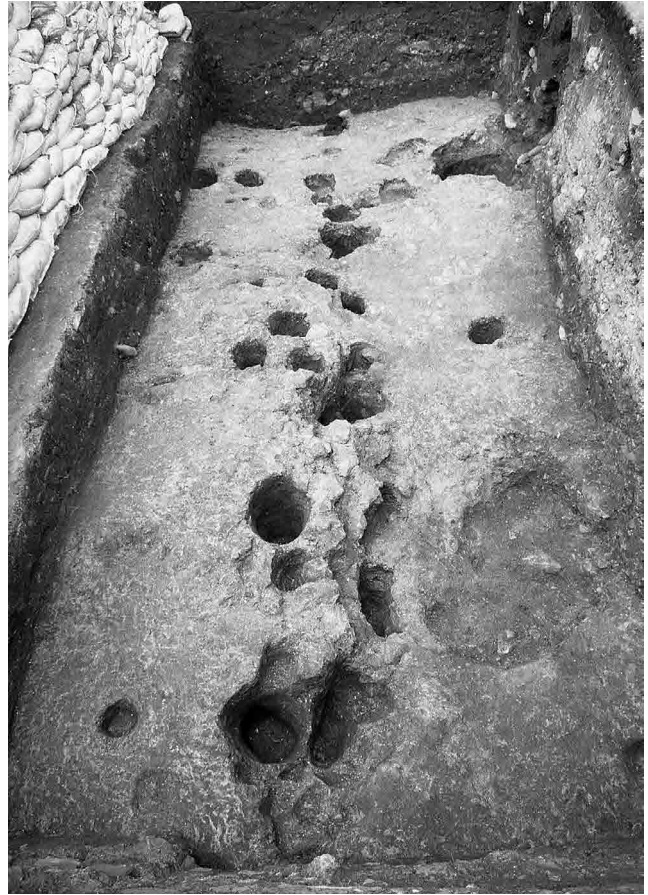
1. 第3面全景(北から)



2. 第3面 礎石建物2(南から)



1. 第4面全景(北から)



2. 第5面全景および柱穴列1(南から)



3. 第5面 調査区南西部(東から)



4. 第5面 溝状遺構1(北から)



5. 第5面 柱穴列1(北から)



6. 第5面 遺構外鬼瓦出土状態



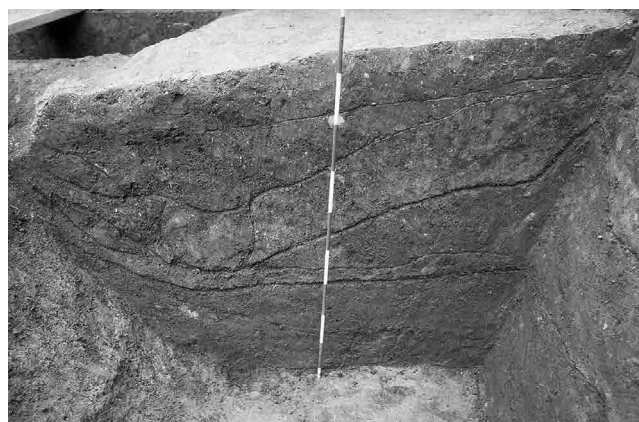
1. 第6面全景(北から)



2. 第7面全景(北から)



3. 第7面 溝状遺構 2 (北から)

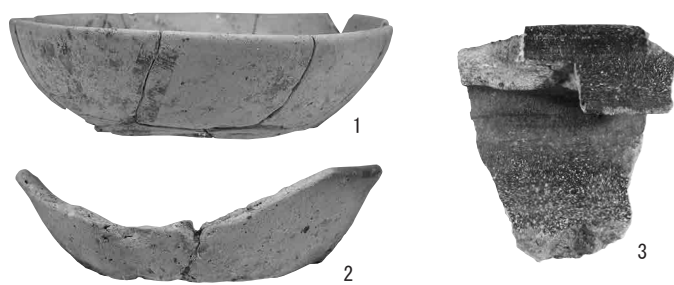


4. 第7面 溝状遺構 2 土層断面(南から)

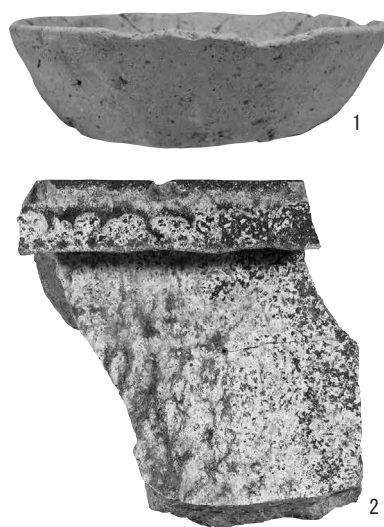
图版 6



1. 第1面 遺構外出土遺物



2. 第2面 遺構外出土遺物



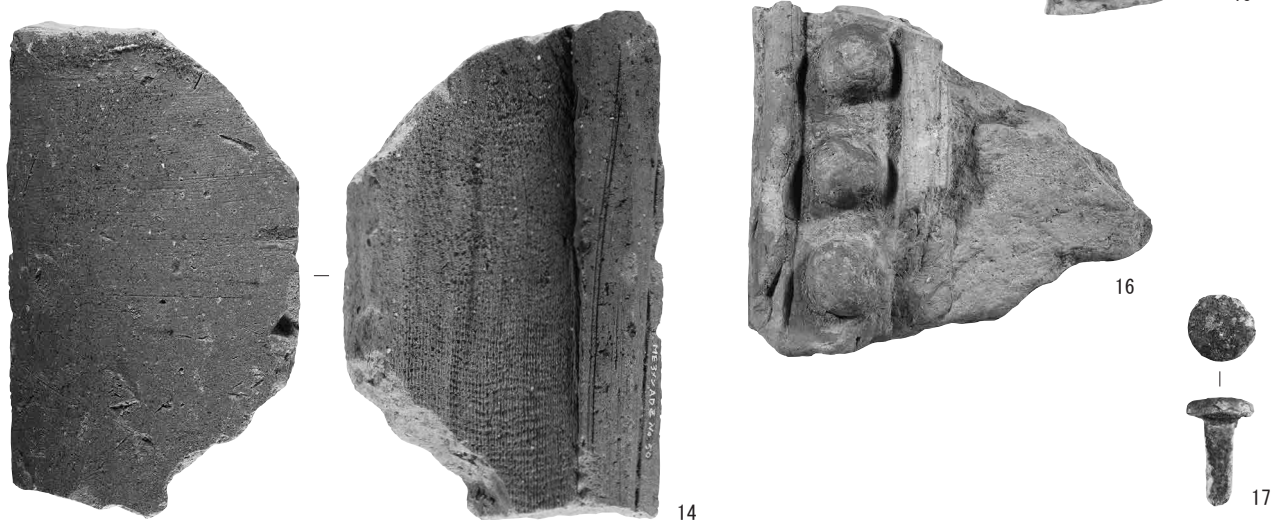
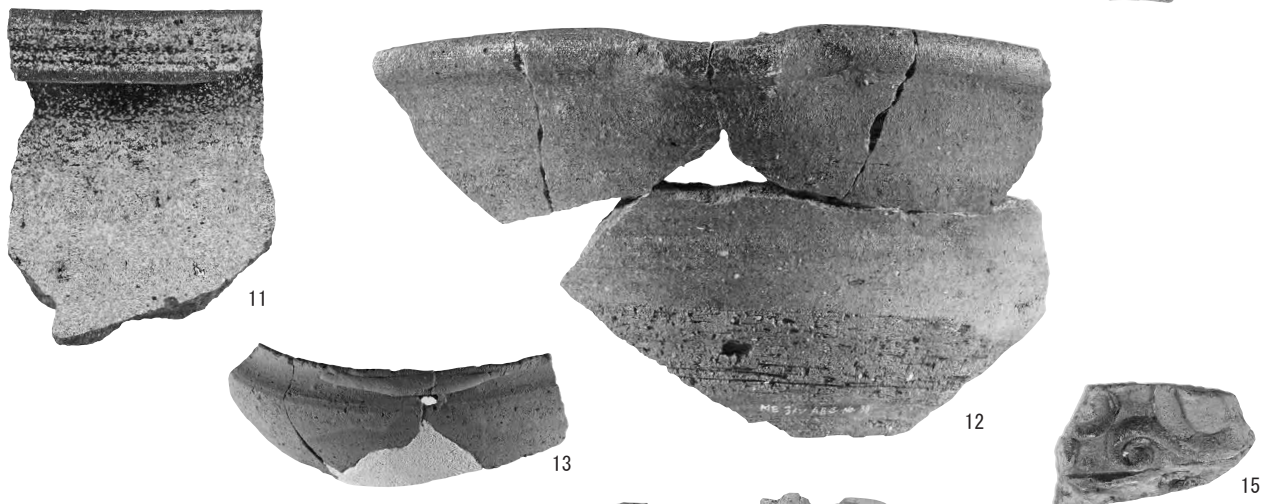
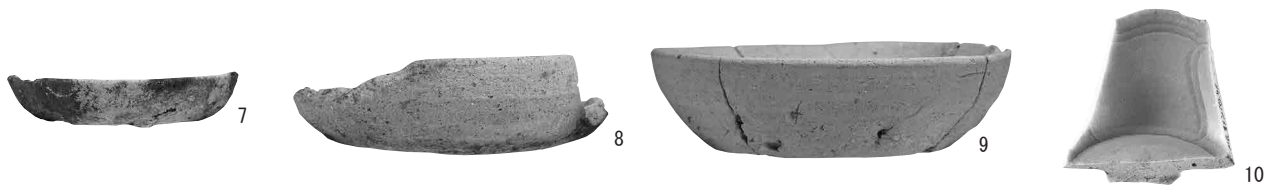
3. 第3面 礎石建物2出土遺物



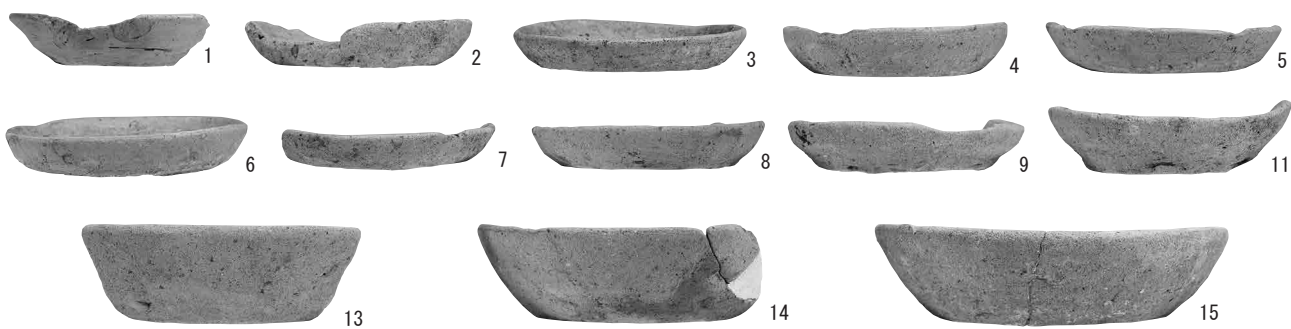
4. 第3面 土坑3出土遺物



1. 第3面 ピット7出土遺物

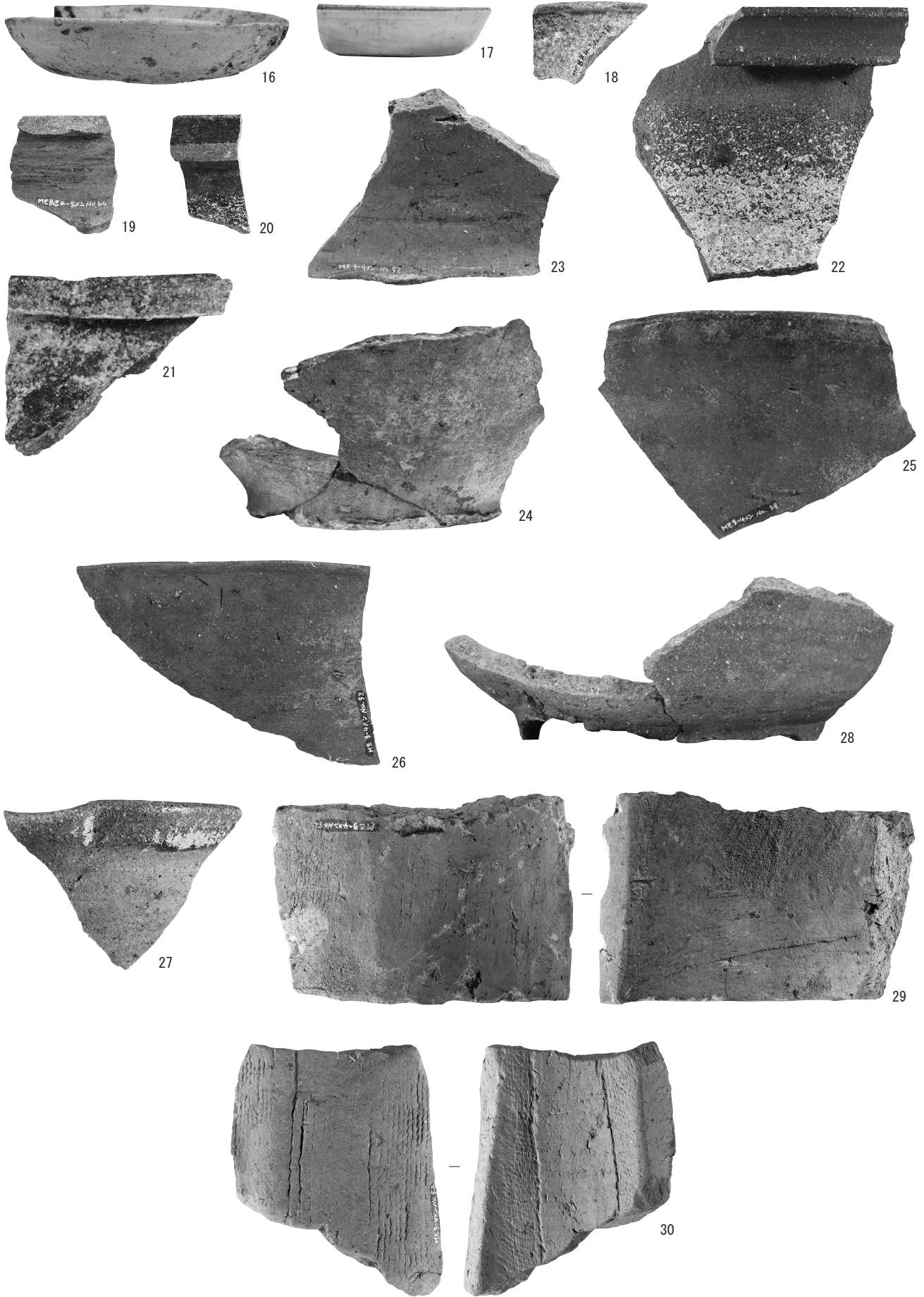


2. 第3面 遺構外出土遺物

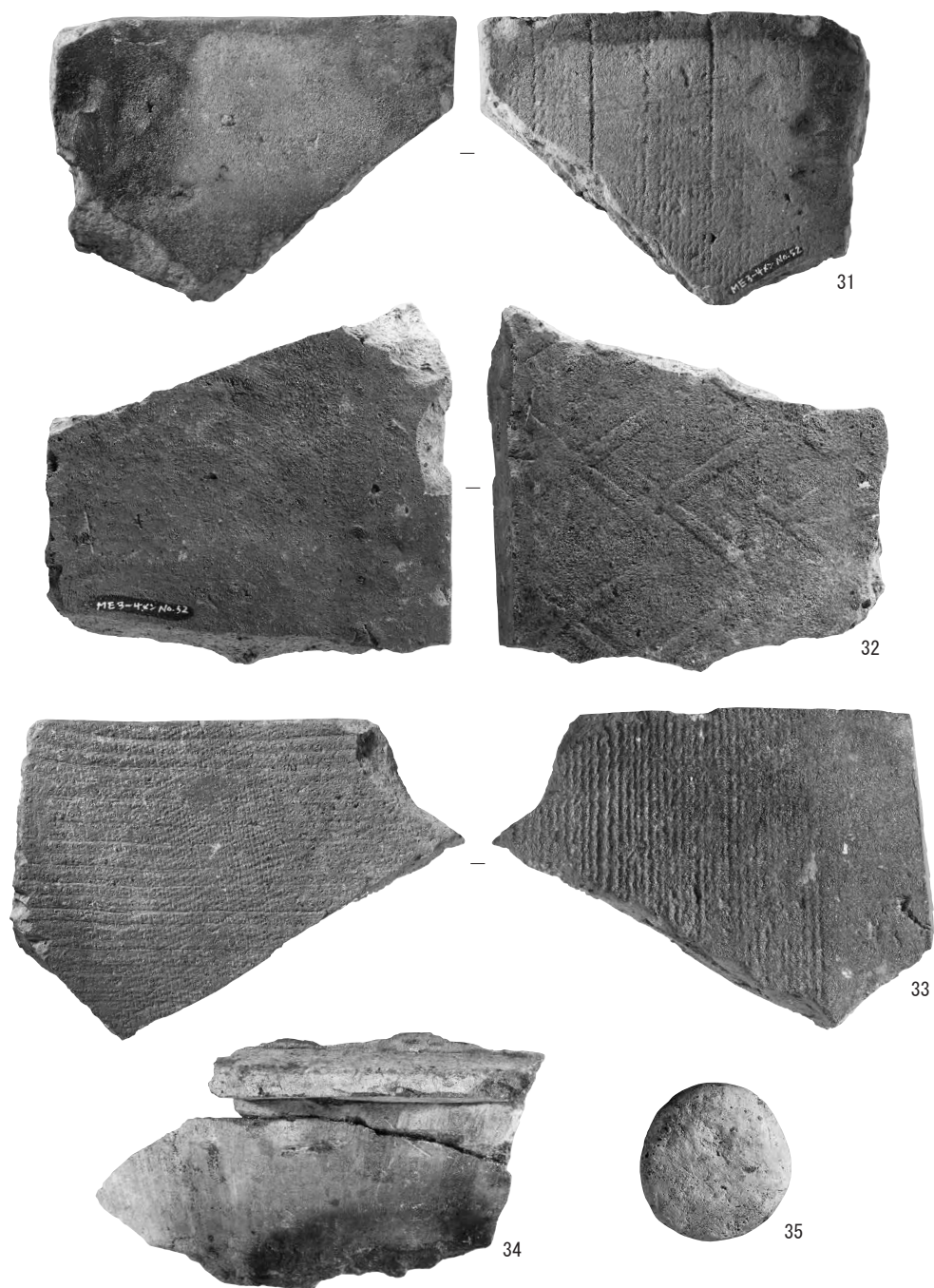


3. 第4面 遺構外出土遺物(1)

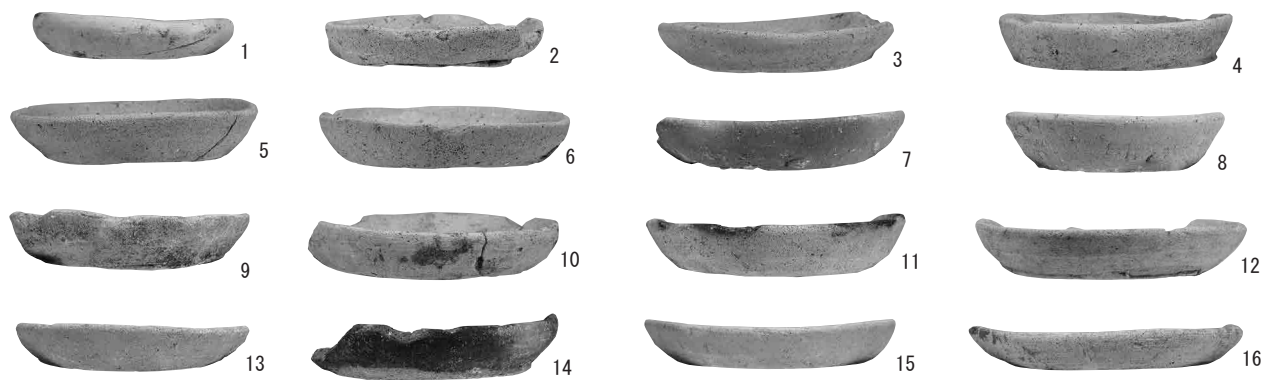
图版 8



1. 第4面 遺構外出土遺物(2)

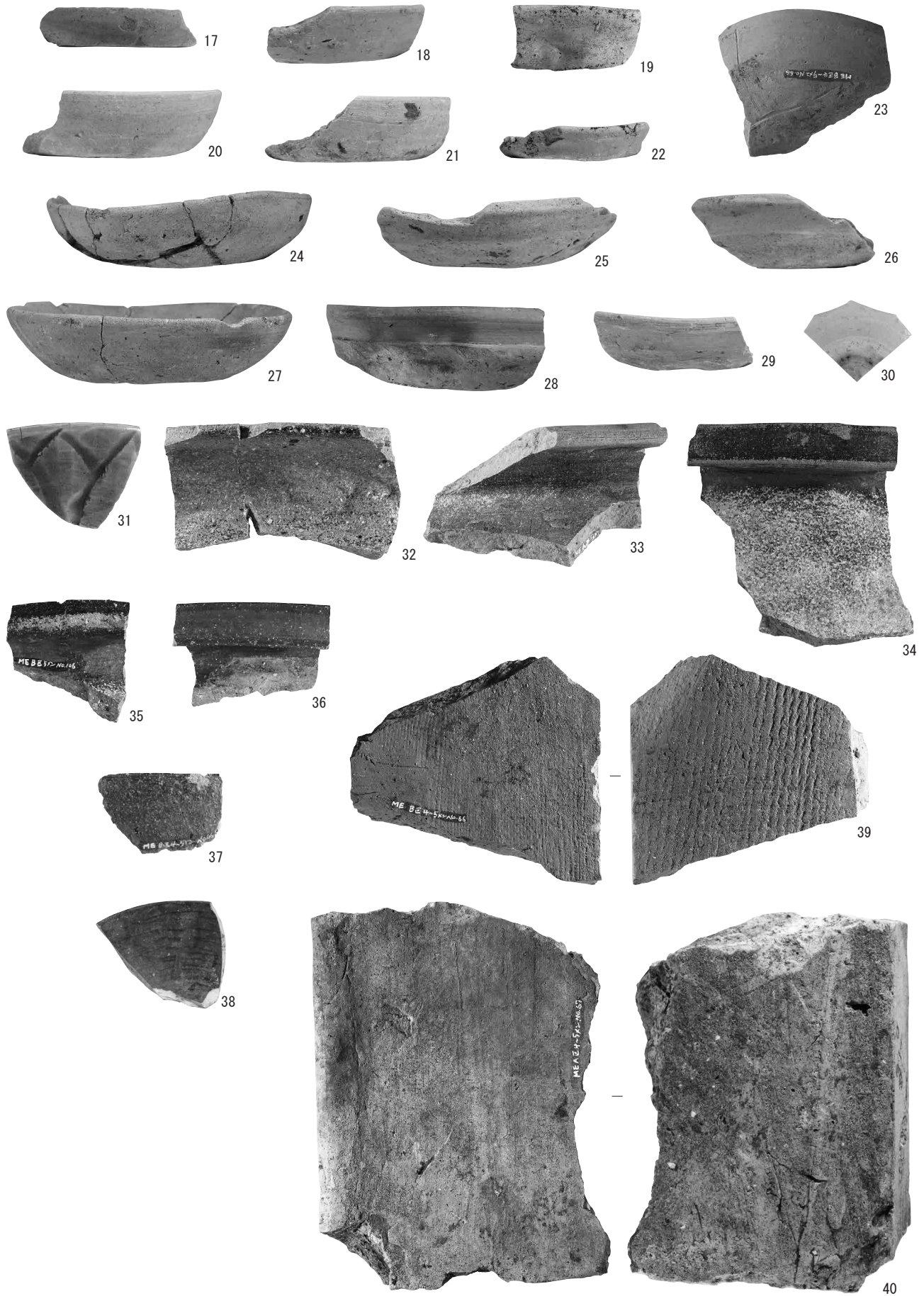


1. 第4面 遺構外出土遺物(3)

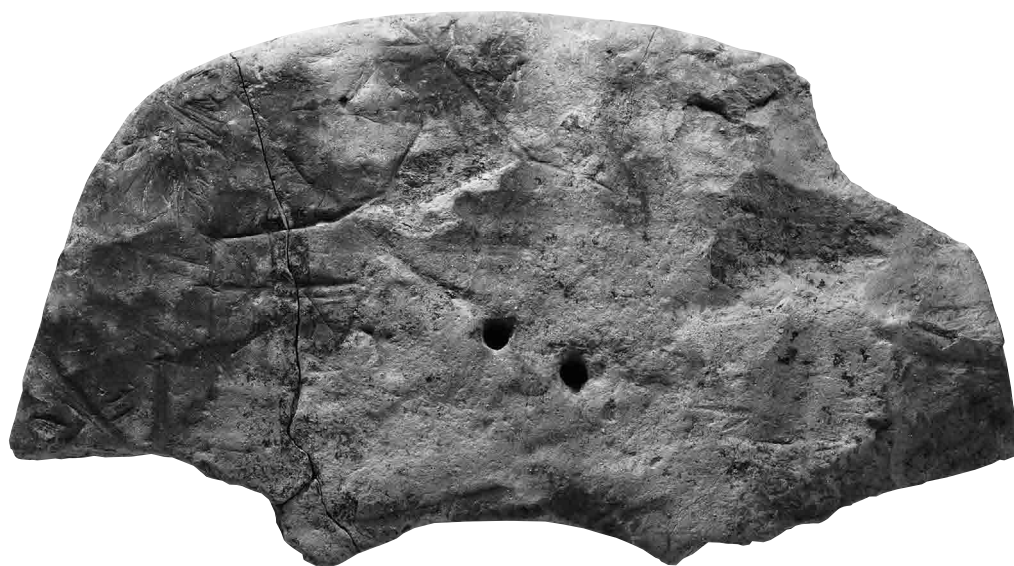
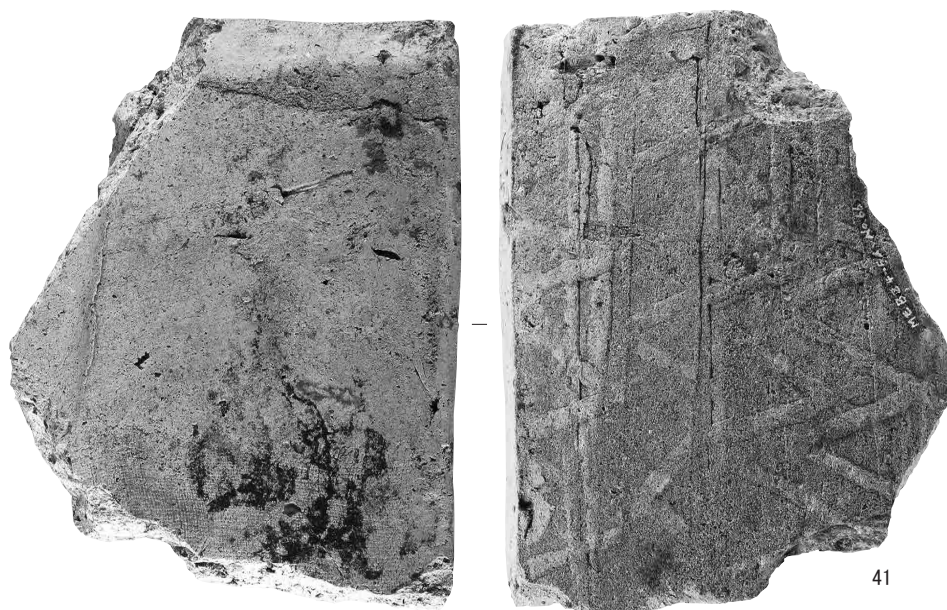


2. 第5面 遺構外出土遺物(1)

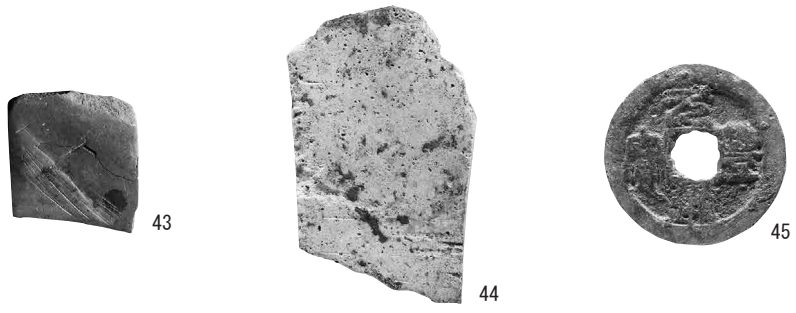
图版 10



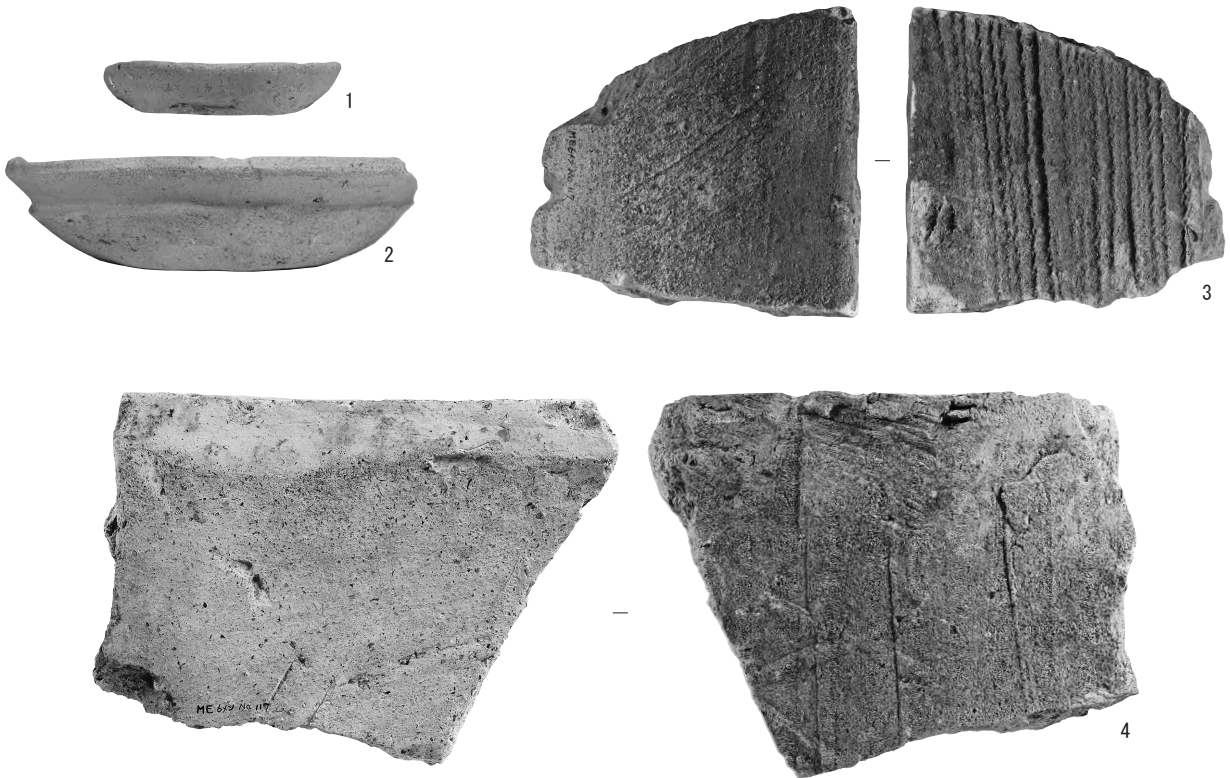
1. 第5面 遺構外出土遺物(2)



1. 第5面 遺構外出土遺物(3)



1. 第5面 遺構外出土遺物(4)



2. 第6面 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成29年度発掘調査報告							
巻次	34 (第3分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	永田史子・齋藤修佑							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2018年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
うつのみやずしぼくふあと 宇津宮辻子幕府跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 こまち2ちょうめ 小町二丁目 388番2の一部	14204	239	35° 19′ 12″	139° 33′ 14″	20060823 ～ 20061102	63	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
かくおんじきゅうけいだいせい 覚園寺旧境内遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 にかいどうあざむかい 二階堂字会下 330番9	14204	435	35° 19′ 39″	139° 33′ 56″	20071129 ～ 20080201	64	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
しょうちょうじゆいんせい 勝長寿院遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 ゆきのした4ちょうめ 雪ノ下四丁目 520番6外	14204	133	35° 19′ 12″	139° 33′ 43″	20071109 ～ 20071207	20	個人専用 住宅 (地盤改良工事)
よここうじしゅうへんせい 横小路周辺遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 にかいどうあざむかいえがら 二階堂字向桂柄 875番4	14204	259	35° 19′ 27″	139° 33′ 55″	20080529 ～ 20080801	42	個人専用 住宅 (柱状改良工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
うつのみやずしぼくふあと 宇津宮辻子幕府跡	官衙	中世	礎石建物、溝状遺構、 地業、竪穴状遺構、柵 列、板組遺構、杭列、 土坑、ピット	かわらけ、舶載陶磁器、 国産陶器、土器、瓦質土 器、瓦、石製品、木製品、 骨角製品、金属製品	13世紀前葉～14世紀代の遺 構群を検出。溝の軸方位の 変化を確認。金銅製水滴の 優品が出土。
かくおんじきゅうけいだいせい 覚園寺旧境内遺跡	寺院	中世	礎石・礎板建物、石列、 榊状遺構、板組遺構、 溝状遺構、土坑、ピッ ト	かわらけ、舶載陶磁器、 国産陶器、土器、瓦質土 器、瓦、石製品、木製品、 骨製品、金属製品	13世紀前葉～14世紀後葉の 遺構群を検出。第5面で囲 炉裏を伴う礎板建物を確 認。
しょうちょうじゆいんせい 勝長寿院遺跡	寺院	中世	礎石建物、溝状遺構、 土坑、ピット	かわらけ、舶載磁器、国 産陶器、土器、瓦質土器、 瓦、石製品、金属製品	12世紀中葉～14世紀代の遺 構群を検出。第3面で内陣 と外陣からなる礎石建物を 確認。
よここうじしゅうへんせい 横小路周辺遺跡	都市	中世	礎石建物、掘立柱建 物、溝状遺構、土坑、 柱穴列、ピット	かわらけ、舶載磁器、国 産陶器、土器、瓦質土器、 瓦、石製品、金属製品、 土製品	13世紀前葉～13世紀後葉の 遺構群を検出。第3面で地 業を伴う礎石建物、第4面 で地業を伴う掘立柱建物を 確認。鬼瓦が出土。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成 29 年度発掘調査報告

(第 3 分冊)

発行日 平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 光写真印刷株式会社